PRIDE GP、桜庭ショックを吹き飛ばす大爆発!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING

enterbrain MOOK
2006
99
880yen

ついに来た!!
100号
直前号!!

サク『HERO'S』電撃移籍!
この巨大なる問題提起の答えを出せ!

ファイナルアンサー?

野獣が語る命懸けの勝利 **藤田和之**

TK、おまえこそ男の中の男だ! **髙阪剛**

"世界のTK"の散り際を語る!! **糸井重里**

榊原信行｜田村潔司×所英男｜ダン・ヘンダーソン×長南亮

A・ホドリゴ・ノゲイラ｜マーク・ハント｜ジョシュ・バーネット

何かが起こる!! 6・17『ハッスル・エイド』大特集!! ★ニューリン様&カイヤ徹底解剖★武藤敬司がハッスルを語った!

kamipro 99 桜庭、衝撃の『HERO'S』移籍!!
2006年6月2日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

マット界に大衝撃! 大地殻変動勃発か!?

ビッグ"サグ"ライズの大波紋!!

2006 No.99 CONTENTS

kamipro

表紙イラスト/師岡とおる

桜庭の禁断の選択は
マット界に何をもたらすんだ!?

撮影／乾晋也　構成／ジャン斉藤
designed by hisa (TwoThree)

電撃、衝撃、これぞビッグ〝サク〟ライズ——!!

5月3日、『HERO'S』代々木第一体育館大会に、あの桜庭和志がタイガーマスクの覆面を被ってまさかの見参！　サク・タイガーが姿を現わしたのは休憩時間明け、後半戦の開始直前——。『HERO'S』スーパーバイザーの前田日明がリング上でマイクを握り、マット界100年に一度と呼ぶに値する大事件の幕は開いたのだった。

前田日明　……え〜、数々の戦歴を誇る、武士（もののふ）の中の武士、8月より『HERO'S』に参戦する強者（つわもの）を紹介します。どうぞ。

【桜庭和志の入場テーマ曲『SPEED TK REMIX』が鳴り響く。観客のざわめきの中、花道に登場した男は顔に「KS」のマークが入ったオレンジのタイガーマスク。『HERO'S』のリングに上がった桜庭和志らしき男は、リング上の前田日明と握手。そこにアナウンサーが歩み寄り、質問を行なった】

アナウンサー（以下、アナ）　マスクを被っていらっしゃいますが、お名前を教えてください。

タイガーマスク（以下、タイガー）　タイガーマスクです。

アナ　今日は、どちらからいらしたんでしょうか?

タイガー　（花道を指差して）あっちのほうから。

アナ　今日はどうしてこの『HERO'S』

ナルアンサー?

Ⓐ PRIDEウェルター級GP〈−83kg〉
Ⓑ PRIDEミドル級〈−93kg〉
Ⓒ 百田光雄〈NOAH〉
Ⓓ HERO'S〈好き、好き、好き♥〉

の舞台にいらっしゃったんでしょうか?

タイガー　いや……「行け」と言われたんで来ました。

アナ　では、うかがいます。この『HERO'S』のリングに上がったということは、今後『HERO'S』に参戦すると受け取ってよろしいんでしょうか?

タイガー　それは……想像におまかせします。

アナ　では、マイクをお渡ししますので、満員のファンにひと言お願いします。

タイガー　え〜、ボクも頑張りますので、皆さんもいろいろなことがあると思いますが、頑張ってください。ありがとうございました。

アナ　今後の『HERO'S』にご期待ください!!

【リング上で前田日明スーパーバイザーと並んで写真撮影。それが終わると花道を小走りに去っていった】

——翌日の5月4日、渦中の桜庭和志は都内ホテルで行なわれた記者会見で正式に『HERO'S』参戦を表明。『PRIDE』の顔が、そのオポジションの『HERO'S』へ電撃移籍——!!　桜庭は今回の自身の行動を、長州力の全日本プロレス転出に例えたが、ファンは「ウソだろ!?　あぁ?」と、長州力ふうに驚きと戸惑いを隠せない。

大波紋を呼んだ桜庭和志の決断!　もう後戻りできない禁断の選択は、希代のヒーローにどんな結果をもたらすのか——!?　サクのファイナルアンサーの答えはいかに!　あぁ!?

サク、ファイナ

桜庭和志『HERO'S』電撃移籍
その舞台裏で何があったのか？

"裏切り"発言の全真相

桜庭和志が衝撃の『HERO'S』電撃移籍！
これまで数々の激闘でファンを魅了し、『PRIDE』をここまでメジャーに押し上げた
最大の功労者であり、"ミスターPRIDE"とまで呼ばれたサクが、
突如として『PRIDE』離脱。これからは『HERO'S』で闘っていくことを宣言した。
この衝撃の移籍劇はどのようにして起こったのか？
このマット界超激震問題の当事者、DSE榊原代表が"事件"のすべてを語る！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

——代表には先月もインタビューさせていただきましたけど、前回「桜庭和志にウェルター級GPを獲りにきてほしい」という話をうかがったばかりなのに、突然こういう事態になって、非常にビビってたじろぎましたよ。

榊原　僕もビビッてたじろぎました（苦笑）。

——では、代表にとっても今回の桜庭選手の件は、寝耳に水でしたか？

榊原　そうですね。こんなことになるとは、まったく考えていなかった。桜庭選手が高田道場を辞めてフリーになってから、ずっと今後の話をしていたんで。僕としては、これまで『PRIDE』のリングで数々の金字塔を打ち立ててきた桜庭和志のプロとしての最終章に向けて、何をやっていくかっていう道を探す作業を二人でしていたつもりだったんですよ。そういう意識でずっといたんでね……。

——まさか移籍を考えていたとは。

榊原　そうですね。フリーになって、当然ほかに上がる可能性があったと。これは僕の甘い考えかもしれませんが、桜庭和志に関してはそういう選択肢を持ち合わせてないって勝手に思ってて……。その中で僕は桜庭和志に『PRIDE』のチャンピオンになってほしい、ベルトを巻いてほしいって思ったんです。それはファンの夢でもあるし、彼自身としてはベルトにこだわる選手ではありませんけど、やっぱり一度は「世界一の男になってほしい」とみんな思ってると思うんですよ。ウェルター級ならば、桜庭和志が肉体的なハンディキャップを持たずに闘える階級だし、充分チャンピオンを狙えると思ったんで、そういった姿が見たいということをサクにも話して、僕は彼自身、それも選択肢の一つとして考えてくれてると思ってたんですよ。

——前向きな話をしてるつもりでいたと。

榊原　ただ、いま考えると、現時点の『PRIDE武士道』っていうのは、まだまだイベント規模もナンバーシリーズや、ヘビー、ミドルのGPと比べると小さいじゃないですか。そういったことで、彼の中で、それこそメジャーリーグからマイナーリーグに行くようなイメージを若干持っていたこともありますよね。

——『武士道』への〝降格〟を告げられたと感じたわけですか。

榊原　だから僕は言ったんです。「サク、そんなことないよ。でき上がったところに乗っかるのが桜庭じゃなくて、新しいものを作り出すのが桜庭和志がやってきたことなんだから。まだまだ『PRIDE武士道』は発展途上だけど、ウェルター級GPに出て、サクの求心力でそれをメジャーに押し上げようよ」と。そして、「勝負論としてきっちり結果が出せる階級で勝負して、ファンの夢でもあるPRIDE王座に輝いてほしい」っていうことを話したんです。そして桜庭選手自身、そこに向けて気持ちを切り替えていく作業を僕はしてくれてるんだと思ってたんですよ。そして5月2日、僕はウェルター級GPへ向けての話し合いだと思って桜庭和志に会ったところで、急転直下、「『HERO'S』に行きます」ということを、僕もその日に初めて言われたんです。

何の前触れもなく5月2日「『HERO'S』に行きます」と、打ち明けられたんです

——『HERO'S』登場の前日に初めて言われたんですか！

榊原　はい。僕としてはまったく予期してなかった。だって、それまでの話の中でサクは、「谷川さんから電話があったんです、へへへ」って笑ったりはしてたんですよ。そのとき「まさか行かないよね」、「行くわけないじゃないですか」って言ってたんで、そこと天秤にかける意識はサクにはないだろうなって僕は思ってて……。結果だけ見ればプロの仕事としてはね、僕自身が甘かったんだなって。

——で、2日に「『HERO'S』行き」を告げられたあと、どんな話になったんですか？

榊原　とにかくそこから二時間ぐらい、『PRIDE』で闘い続けてほしい、どうして『HERO'S』なんだ、そこで何かやりたいことがあるのか。『HERO'S』にあって『PRIDE』にない魅力はなんなのか、とにかく一生懸命説得したのですが、タイムアップになったので僕はその日は結論が持ち越しになったと思ってたんです。そしたらその日の夜、最終の新幹線で大阪に向かう中で電話があって、「明日、『HERO'S』に覆面被って上がります」って。サクじゃなくて周りの人からなんだけど、「僕らが背中を押しました。榊原さんごめんなさい、許してください。こうするしかないんです」と。サクも悩んで苦しんで、『PRIDE』に対する愛もホントに強いんで、彼も苦渋の選択だったのもわかるけど、でもその日じゃないだろう、と。

“裏切り”発言の真相

——まあ普通に考えたら、無差別級グランプリの二日前ですからね。

榊原　っていうか、ホントに桜庭選手が会見で言っていたように「両方の架け橋に」っていう気持ちがあるのなら、飛び立つ前に『PRIDE』のファンや関係者、それから桜庭をここまで支えてくれたテレビ局の人たちとかにね、やっぱり筋を通して、その上で『HERO'S』に行って「僕はK-1と『PRIDE』の架け橋になります」って言う。それだったら素晴らしいことですよ。ところが、2日に『HERO'S』に行くって初めて明かして、翌日リングに覆面被って上がるって、そりゃないだろうって。

——話し合いすらほとんどしてないわけですからね。

榊原　だから2日の夜、大阪から桜庭選手のあいだに入ってる人に「とにかく『HERO'S』に行くのはわかりました。でも、やっぱり発つ鳥跡を濁さずで気持ちよく行くべきだから、その準備をするのに明日はないでしょう」と。「我々としてもGPの開幕戦が明後日に迫ってる

ドキュメント

桜庭和志電撃移籍

■4月29日 東スポが「桜庭、髙田道場退団」のニュースをスクープ!!

桜庭騒動の一端はここから始まった。一報を報じたのは30日付（29日発売）の東京スポーツ。同紙によると、「桜庭は3月31日付で契約期間満了により、髙田道場を円満退団した」とあり、退団理由としては「自分の道場を作りたいという情熱」と報じている。また、この段階では「今後の主戦場は『これまでと変わらない』『PRIDE』と考えている」と、『HERO'S』移籍の話は微塵も臭わせていなかった。

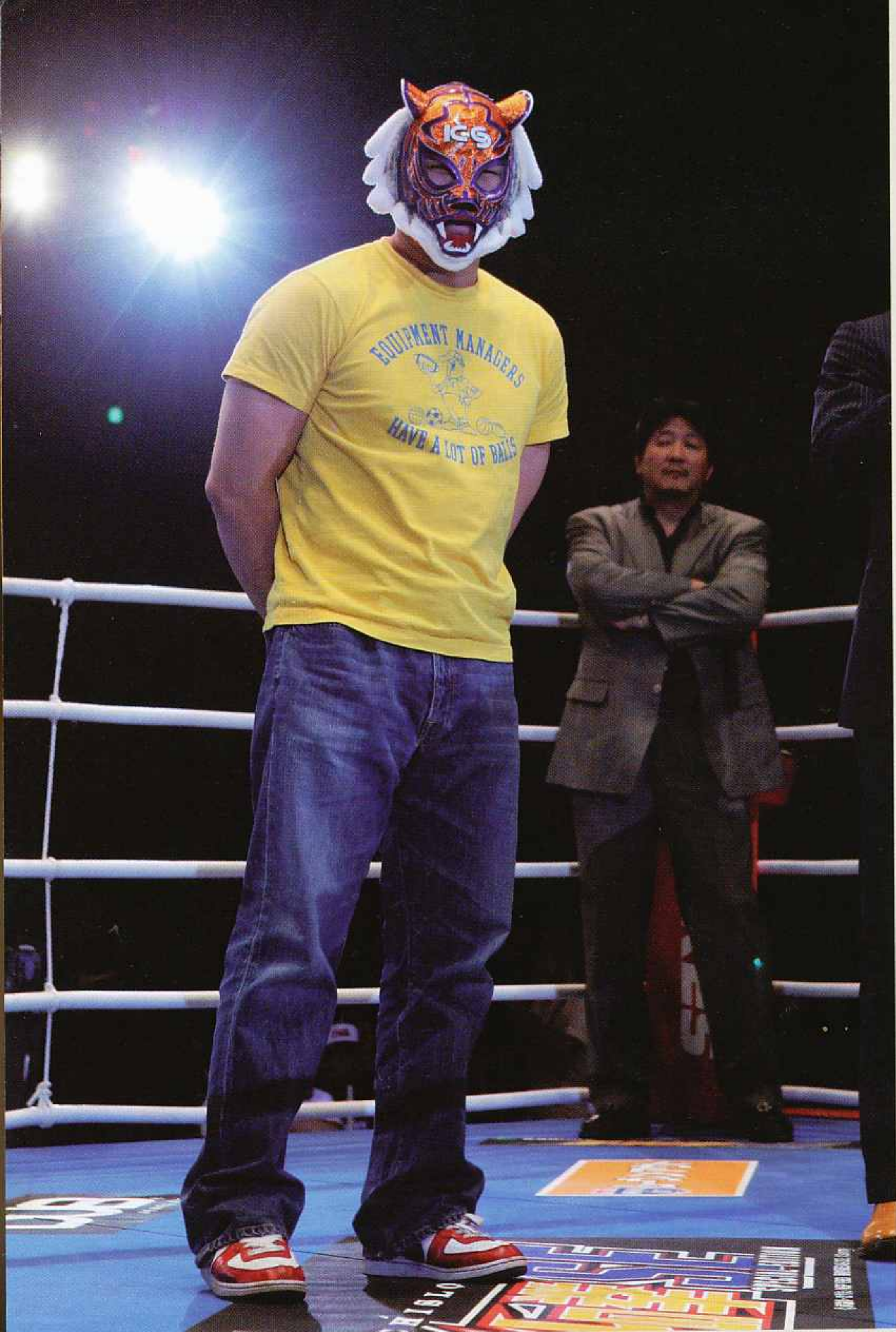
■5月1日 髙田が桜庭退団についてブログ上でコメント

桜庭退団の記事が出た二日後、髙田道場のボスでありPRIDE統括本部長である髙田延彦が、自らのブログで桜庭について初のコメントを出した。ブログによると、髙田は桜庭から「新道場設立に向けてアドバイスを求められている」と暗に円満退団を主張している。

■5月3日 桜庭、タイガーマスクに扮し『HERO'S』のリングに上がる

格闘技界を揺るがす超ビッグサプライズが起きたのは、この日の『HERO'S』リング上でのこと。第7試合前の休憩明け、場内に突然桜庭和志のテーマ『SPEED TK REMIX』が流れると、なんと！本人、桜庭和志がタイガーマスクを被って入場。ざわめきの中、『HERO'S』のリングに上がった桜庭は、スーパーバイザーである前田日明と軽く握手。

■5月4日 東スポに、シウバ『HERO'S』移籍を臭わせる記事が出る

桜庭『HERO'S』参戦の記事とともに、5日付（4日発売）の東京スポーツは『HERO'S』の会場でシウバを目撃したという情報をもとに、シウバ『HERO'S』移籍を臭わせる記事で再び格闘技界に激震を走らせた。

わけですから、発表を一週間延ばしてもらえないですか。それが最後のお願いです」という話をしたけど、その日の夜中には結局いい返事をもらえなくて。仕方がないんで、もういてもたってもいられないから、次の日朝一番の新幹線で東京に帰って桜庭選手の自宅に行ったんですよ。「とにかく待ってほしい、もう一回話を聞いてほしい、昨日の今日じゃないか、もっといっぱい話そうよ。俺たちだってやれることはあるし、サクがホントに苦しんでるんだったら、その苦しい思いを言ってくれ。その出口を一緒に見つけようよ。もがくんだったら一緒にもがいて苦しもうよ。だって、いままでそうやって走ってきたじゃないか」っていう話をしに行ったんだけど、出てきてくれなくてね。奥さんが「朝出かけました」って言ってたけど、車はあったし、僕はいたと思ってます。でも、一時間待っても出てきてくれなかった。だから、その思いは直接伝えられなくて……。

——じゃあ、ホントに桜庭選手本人と『HERO'S』へ行く行かないの話をしたのは、5月2日の二時間だけだったわけですね。

榊原 本当にそれだけですよ。それまでは「(移籍する)可能性はゼロではない」っていうふうに言われてるけど、サク本人の口からは聞いたこともないし、あいだに入ってる人からは「『PRIDE』以外にもオファーがあるんです」という話は遠回しにはされたけど、サクの気持ちの中に全然それはないと思ってたから。もし、どうしてもウェルター級GPに対してモチベーションが上がらないのなら、こんな案もありますよって、別の案も提示していたんですよ。でも、結局、サクが本当に一番何をやりたいのか、正真正銘の本心を打ち明ける距離感に僕がいられなかったことに対しては、申し訳ないというか。やるせないというか！　これまで約10年間も一緒に走ってきたのに、自分の不甲斐なさを恨みますね。

——高田道場を退団したあと、桜庭選手個人との契約の話はしていたんですか？

榊原 大まかな提示は退団直後からしてました。あとはどういうかたちで今後向き合うのか、どういう方向を示すのかって二回ぐらいかな、会って話をしたけれども、具体的に「他からも誘いがきています。このままだと『PRIDE』とは契約できないんですよ」とかいう話は一切なかったんだよね。

——じゃあ、よくある「向こうはこれだけ出すって言ってます」みたいな感じで両天秤に掛けるわけでもないんですね。

榊原 まったくない。僕がその人から聞いたのは、サクとしては『PRIDE』に留まる中でいまもがいてる、と。必死に悩み苦しんでいる姿は友人として見てられない、と。だから僕はサクにも電話で言いましたけど、「とにかく進むべき方向を決めて一歩踏み出せば、必ずまた道が見えてくる」という話を、猪木さんの詩じゃないですけどしたんですよ。そしたら、その踏み出した一歩が……。

——『HERO'S』だった、と(笑)。

榊原 まさか『HERO'S』だとは思わなかった。そういう意味では、よっぽど僕がダメなんだよね。これまでいろんな選手とか、いろんな人と交渉してきたけど、サクがそんなことを考えてるとは……見抜けなかった(無念そうに)。そういう思いがサクの心の中にくすぶって大きくなっていってる、周りの人たちの言葉尻からもそういう選択肢を彼が選ぶ可能性があるってことすら、5月2日まで気づかなかったからね。

——……。

榊原 だからバカだけど、その日に「今日はそろそろ具体的な数字を」と思って、年間契約の提案書を持っていったの、まさに5月2日のその日に(苦笑)。

——『HERO'S』に行くなんて言われるとは思わずに。

榊原 僕はそこで年間契約を結んで、「じゃあこれで行こうよ」っていう方向性を決めて、サクには5月5日にリング上で元気な姿を見せてもらって「ウェルター級GPに出ます！」と発表するサプライズを起こす。そういう話をしようと思って口説きに行ったら……僕がサプライズを起こされちゃった(苦笑)。

——とんでもないサプライズを。

「KS」のマークが入ったタイガーマスクを被り、5・3『HERO'S』のリングに突如登場した桜庭。事前にほとんど情報が漏れない大サプライズだったが、それもそのはず、当の榊原代表ですら前日に告げられたのだ。

■5月4日
桜庭、『HERO'S』参戦緊急記者会見

前日の桜庭『HERO'S』登場騒動の冷めやらぬ中、FEGはこの件について緊急記者会見を開いた。桜庭は「これで(DSEとFEGが)仲良くなってもらえればなって思ってます」など移籍理由をコメント。『HERO'S』初参戦については、8月の85キロ級GPに照準を合わせたいと谷川代表は語っている。

■5月4日
榊原代表、桜庭の件はノーコメント、シウバの件は完全否定

『PRIDE無差別級GP開幕戦』を翌日に控えた4日、大阪市内のホテルで榊原代表がコメント。だが、桜庭については「突然のことなので、状況を把握してない」と何も語らず。また、シウバについては「『HERO'S』の会場には行ってないと思う」と来場の可能性を否定した。

■5月5日
髙田、『PRIDE無差別級GP』当日にも、桜庭の件まったく触れず

桜庭『HERO'S』参戦会見後、初めて『PRIDE』のリングに上がった髙田だったが、桜庭の件については一切語らず。

■5月5日
榊原代表、『PRIDE無差別級GP』大会後にコメント

『PRIDE無差別級GP』の試合修了後、榊原代表が桜庭『HERO'S』参戦問題について正式に言及。「僕個人としては、裏切られたという気持ちです」と遺憾の意を示した。

■5月6日
榊原代表、シウバに『PRIDE無差別級GP』出場の可能性があると発表

5日付の東スポで『HERO'S』転戦の可能性が報じられていた、ヴァンダレイ・シウバらについて榊原代表は「『PRIDE無差別級GP』二回戦に出場の可能性がある」と語った。

■その後
髙田、桜庭『HERO'S』リング登場後、いまだノーコメント

今回のことでFEGや谷川さんに対してはキレてないですよ。長州小力じゃないけど（笑）

榊原　もうなんか、いままで手をつないでいたのに、手をつなぎながらもう片方の手に持ったナイフでブスッと刺された気分でしたね。「嘘でしょ？　これはなに？」って。松田優作じゃないけど「何じゃこりゃ！」って、そういう状態（笑）。そのぐらいのショックというか、人生の中でこれだけ大きな衝撃をもって別れを告げられたことはないですね。個人的な恋愛とか、友だちとの関係とか、ケンカをしたりとか、いろんな人生での出会いと別れがあったけど……信じられない。俺、ハメられてたのかなとか思って。

——どっきりじゃないか、みたいな（笑）。

榊原　そうであってほしかったですよ。「嘘でしょ、何言ってんの？」って。そのあとはもう二時間以上、ドワーッと一生懸命話したんですよ。僕も引く気なんてまったくないから、「サク、絶対嫌だからね」って言って。「そんなことは許されないし、自分の中で『これをやってくれ』っていうハードルを出してくれ。だったら全部越える。サクのために大会を新しく作ってくれっていうんだったら、作ったっていい。それぐらいの思いがあるんだよ」っていうことは言ったの。

——「DSEで『HERO'S』作ったっていいんだよ」ぐらいの（笑）。

榊原　それはべつにサクに対してだけ特別に愛情があるわけじゃなくて、「あなたがやってきた『PRIDE』の中の価値は、もっと自分のために使うべきだ。自分に対しても、応援してくれたファンに対しても、使いきれていないことがたくさんあるじゃないか」ってことが言いたくてね。で、「どういう結論になるかわかりませんけど、榊原さん恨まないでやってください」ってあいだに入っていた人に言われてその日は別れたの。そして、そのあとスタッフとか関係者を呼んで「大変なことになりそうだから、とにかく大会が終わったら毎日サクの家に行こう。もう俺だけではダメだし、みんなで『PRIDE』に桜庭がどれだけ必要かを伝えに行こう」って言ってた矢先の新幹線の中でケータイが鳴って、「明日、覆面を被って上がることにさせました」って言われたんで、もう新幹線から飛び降りて、東京に戻りたかった！

——ダハハハハ！　それぐらい、いてもたってもいられない、と。

榊原　それで、次の日の朝一番の新幹線に乗って、サクの自宅に行っても俺たちとは最後に会ってもらえないって悲しいじゃん。ケンカ別れになるにしても、お互い気持ちをぶつけ合って、「それだったらもういいよ！」ってなるんならいいよ。

——決裂すらしてない。

榊原　うん、してない。だって最後に顔すら合わせないんだよ。そんなのあり得ないよ。だから僕は「裏切った」と思わざるを得ないわけ。段取りがちゃんとあったんだったら、家族の仲でも別れはあるし、兄弟の仲でも別れはあるでしょう。でもそういう手順を踏まずに飛び越えていくのは、もう裏切りとしか僕には思えないわけですよ。ビジネスとして割り切れば、それは裏切りじゃなくて新たな〝契約〟なんでしょうけど、やっぱり根っこのところは愛情や信頼じゃないですか。とくにサクに対しては微塵も疑わずに信じてましたし、ビジネスを越えたところで結ばれていると思ってましたから。

——そうですか。

榊原　だからかたちだけ見れば「榊原はケツの穴がちっちゃい」とかね、「社長として情けない」とか、「そんな男だからサクがあっちへ行くのは当たり前だ」とか……そう言われるのは、もっともだと思います。僕が引き止められなかったんだから。でも、いままでお世話になった人はもちろん、ファンに対して筋を通さなくちゃダメでしょう。

——ましてや、今回については髙田さんとはひと言もしゃべってないんですよね？

榊原　だから、そういう問題が起きてから、いまはいろんな人たちにお詫び詣でをしているみたいですけど。でも、なんでもそうなんだけど、後先なんですよ。最初にやってれば……なんでもそうじゃないですか。言いにくいことこそキチッと先に言っとかないとダメじゃないですか。同じことやるんだったら先に言わないと。だから順番が違うんですよ。5月5日にPRIDEファンの前で「すいません、自分はもう『PRIDE』には上がらない決断をしました。この場を借りてファンの皆さんにその気持ちを伝えたくて今日来ました」っていう挨拶があって、その後『HERO'S』だったらいいよ……まあ、言い出すと感情的になってキリがないんで（苦笑）。

——5月3日の『HERO'S』はテレビでご覧になりました？

榊原　見れないよ、そんな姿。最後まで僕らとしては上がらないんじゃないかってかすかな期待を持ってたんですよ。「そうは言っても思い止まってくれるんじゃないか」って。みんなでメールを送り続けたんだから。限られた時間の中で、みんなが必死に「サク、待ってくれ」って思いを伝えたわけ。でもノーアンサーだよね。それでマスク被ってリングに上がって……だから『PRIDE』にとっても経済的とか、ビジネス面でのダメージが大きいし、ファンも関係者も突然心に大きな穴を空けられて、それはもう計り知れないよね。サクが「俺もこれぐらい傷ついてるんだからわかってくれよ」って思ってても、やっぱり桜庭和志はそれだけのポジションに立ってるわけでしょ。ホントに『PRIDE』の象徴的な男の一人じゃないですか、桜庭は。やっぱりその責任感をきちっと持った行動をプロとして取ってほしかったな。

——出ていかれたことより、それが悲しいというか。

榊原　だから5月5日の会見のあとでも僕としてはもっと言いたいこともいっぱいあったけど、言えることはあれだけ。人間なんて傷ついたまま生きていけない動物じゃない。だから当然しばらくしたら、どんなに落ち込んでもまた立ち上がる勇気になるし、その反動でそのエネルギーが前に向かうかもしれないし、裏切られたっていう思いが憎しみに変わるかもしれないし。それはこれからどうなるのかはわからない。でもこれだけはハッキリ言っておきたいけど、サクは『PRIDE』をホントに愛してるとは思う。『PRIDE』が自分にとって凄く大事な場所であるっていつも言ってたんで。でも、本当に愛しているんであれば、愛し続けるべきじゃないのかな。愛しているけど自分から離れていって、でも愛してます、というサクの愛し方が理解できないし。逆説的な愛なのかわからないですけど。

——その愛し方はわからない、と。

榊原　「愛してる」って言いながら『HERO'S』に行かれる身になってほしいっていうか。愛してるんだったらホントに愛し続けるべきでしょう。

——桜庭選手の件について谷川さんとはお話されたんですか？

榊原　3日に留守電が入ってました。で、折り返したんだけど、出なかったんですよ。「自分なりに桜庭選手のことは大事にします」っていう内容のことは谷川さん言われてたんで。まあ、今回のことで僕はK－1とかFEGに対しては何も怒ってないです。桜庭さんの心の隙間をうまく突いたんだろうなとは思うけど（笑）。

——では、K－1に対してはキレませんか？

榊原　うん。キレてないですよ。長州小力じゃないけど（笑）。もうそこはビジネスライクだから。「契約ないでしょ、だから交渉しましたよ。そしたら契約取れましたよ。そのために僕は一生懸命交渉しました」っていうのは、僕はビジネスとして間違ってないと思う。だからそこは谷川さんとかFEGがビジネスとしてキチッと桜庭の契約を取ったっていうことに関しては、それはしょうがないというか、僕がDSEとかファンの皆さんに謝らなくちゃいけないところで。そういうことだけで言えばね、もっと早く詰めて契約をキチッと交わすべきだったのかなって凄く反省してます。ただ、僕が一方的に桜庭さんとは契約のあるなしとは違う次元で結ばれてるっていうふうに思ってたっていうことですね。

——しかし現実はそうじゃなかったと。

榊原　でも僕は人と人とのつながりとか

愛とか信頼を信じたいし、それが甘いと言われても、サクとの関係はそうだと思ってましたし。だから他の選手たちが全員『PRIDE』を去っても最後まで『PRIDE』のリングの真ん中で立っててくれるって勝手に思い込んでたんですね。それはホントに甘いことだから、『PRIDE』で闘う桜庭和志を愛してくれていたファンの人たちには、本当に申し訳ないと思ってます。

――桜庭選手が移籍するぐらいだから、今後は、あらゆる選手が行ったり来たりというか、取ったり取られたりの可能性があるんじゃないかと思うんですけど。

榊原　こっちが取ることはほとんどないと思いますけどね。いまの『HERO'S』の中で僕らが『PRIDE』でほしいと思うような人はいません……まあ、数人いますけど（笑）。

――ガハハハハ！　いますか（笑）。

榊原　来たら輝くんじゃないかなっていう人は、現実的には○人います。でも、それ以外の○○○○さんとかね、まったく興味がないですから。まぁ、こっちから向こうに行く選手はいるかもしれないけど（笑）。でも行ってしまったら『PRIDE』に戻る道は悪いけどないですね。

――では、桜庭選手は4日の会見の中で『PRIDE』とK−1の架け橋に」みたいな話も出てましたけど、それはありませんか？

榊原　それは桜庭さんがホントに努力してやることでしょう。それは絶対にないとは言い切れませんよ。でも、いまの時点で僕は完全にノーです。だけどホントに桜庭選手がそれだけの不退転の決意を持って、ホントに架け橋に絶対なってやるんだって思う気持ちがあるんなら、そのためのアクションをこれから彼がどう起こしていくかでしょう。僕もそうだけど、スタッフとか、残していった関係者たちとか、同じような思いで『PRIDE』で頑張ろうと思ってた選手たちにも当然ひと言もなしではできないわけじゃないですか。

――もちろんPRIDE側の協力なしではありえないわけですからね。

榊原　『HERO'S』に行ってもサクを応援してくれる温かいファンはたくさんいると思う。でも少なからず、『PRIDE』で桜庭を応援してたファンにキチッとしたコメントも出さずに行ってしまったことに対してとか、そういうものを……だからホントに架け橋になるんだったら順序が逆だし、準備ができてないんじゃないの、と。だから行動で示してほしい。谷川さんと僕を会わせるためにどう努力するのか、どうやって架け橋になるのか。でもヘタすると桜庭さんがやったことはK−1と『PRIDE』の距離感をさらに遠のけたかもしれないよ。だからあんまり軽々しく言わないほうがいいと思う。ホントに彼がそれだけのことをやるっていうことを決めないと、ホントに言うだけ番長になっちゃいますよ。

――逆に細い吊り橋を渡ったあと、切り落としていったような感じですからね。

榊原　そう。だから何か秘策があるんでしょ。それを見せてほしいし、僕らが「サク、そういうことだったのか。だったらシェイクハンドできるし、架け橋としてっていうことを今後行動でサクは示してくれるはずだし、ファンにもマスコミにもああやって公にアナウンスしたんだから、何も起こさなかったらダメでしょう。それを期待してます。でも、いまの時点では完全にノーです。サクが今回のことをしたがために、いままで1キロしか離れてなかったものが10キロぐらい離れちゃったのは事実なんで。「10キロいったん離れるけど、すぐくっつきますよ。これ

桜庭選手にはPRIDEとK-1の架け橋になる“桜庭マジック”を見せてくれることを期待します

がその方法です」っていう桜庭マジックを見せてくれることを期待します。

——一部では、ヴァンダレイ・シウバ及びシュートボクセが、さらに追従なんて報道も出ていますが。

榊原　それはないでしょう。シュートボクセのフジマール会長からは、6日に電話をもらって「シュートボクセもヴァンダレイ・シウバも『PRIDE』を離れることはないし、心配しないでください」と言ってくれたんで。

——現時点でのヴァンダレイとの契約はどうなってるんですか？

榊原　いま現在で言うと、契約がない状態です。そういう意味ではサクと同じように誰からも狙われる状態ではあるし、ヴァンダレイのもとには世界中からオファーがいってると思うんですよ。だから……ヴァンダレイにも凄く不安を感じるのはたしかだし、契約のたびに、いろんな選手が『PRIDE』を離れちゃうんじゃないかという強迫観念にかられることもたしかです。ただ、5月5日の熱や、そこに集まる選手たちのことを考えると、やはり強い者が強い者を呼び寄せるでしょうし、この人が世界一だって名実ともにみんなが認める王者の争奪戦が繰り広げられる限りは、世界中からその称号を奪い取ろう、それを俺が手に入れようって思う猛者たちがずっと出てくるでしょう。その意味ではヴァンダレイが選ぶリングは『PRIDE』しかないと思いますし。ですからそういう環境は常にキープしていきたいと思いますけどね。

——5月5日はホントに選手一人一人のテンションが凄まじかったですよね。

榊原　やっぱり格闘技って、何を犠牲にしてにどれだけ準備をして、その日までそこまでストイックな生活を送りながら一瞬の闘いのために生きてきたかっていうことだと思うし。髙阪選手の試合とかを見るとね、「心・技・体」で、「心」が最初に来る理由っていうのが凄くわかったっていうか。心のエネルギーっていうか、強さが、あれだけの体重差とか、打撃の技術とか威力とかを跳ね返して、その髙阪の姿に観客もどんどん引き込まれて心を打たれて。美しかったですね。

——『PRIDE』ってそういう選手が集まってる場じゃないですか。だからこそ、僕らからお願いしたいのは、今回のようなカード発表の遅れとか、ファンが「なんでだよ？」と思うことを改善していってほしいんですよ。

榊原　それは私の不徳の致すところで、大変恐縮してます。セカンドラウンドのカードは、いまファンの皆さんに見たいカードを聞いていますし、そういうものを参考にして、あとはヒョードルのケガの状況を見て、なんとか5月中に発表したいと思います。

——ヒョードルが出られない場合は、主催者推薦みたいなかたちになるんですよね？

榊原　はい。桜庭選手を推薦したいと思います（笑）。

——ダハハハハ！

榊原　冗談ですけどね（笑）。

——たとえば先ほど名前が出たヴァンダレイ・シウバとか、そういう可能性もあったりするんですか？

榊原　ヴァンダレイの可能性も当然あるでしょうし、他にショーグンや、ヘビー級の中の選手たちもまだいるし。そこに出て然りと思われる選手を主催者推薦として入れさせてもらおうとは思ってますけどね。まあ、とにかく5月中に決めるように頑張ります。そんなこと言いながら6月末になるかもしれないけど（笑）。

——ガハハハハ！　最後の一枠が決まらないとか。

榊原　一枠と言わず、どっかのトーナメントみたいに2つも3つも主催者推薦になっちゃったりね（笑）。そうなっちゃうとトーナメントとしての魅力がどんどん半減していくんでね、それは避けたいなと思うんですけど。ただ選手たちってトレーニング中にケガもあるしね、7月までこのメンバーがケガをせずに最高の状態で1日を迎えてくれることを選手にお願いしてる次第です。

——“桜庭ショック”があったからこそ、いまこそ『PRIDE』に頑張ってほしいと思ってるファンも多いでしょうから、期待してますよ。

榊原　ありがとうございます。まぁ、この一週間いろいろありましたけど、僕らとしてはこの前の5月5日の開幕戦で桜庭ショックは吹き飛ばすことはできたと。桜庭は去れども『PRIDE』は変わらずというか、さらに成長してると思いましたし。そこで闘って生き様と覚悟を見せて、あの厳しいリングに上がってきてくれるだけの闘いに飢えた選手がまだまだいっぱいいるんで。そういう人たちを僕らはいま一番大切にして、その人たちとともにね、さらなる『PRIDE』の将来に向かって進んでいきたいと思います。5月5日は僕自身、ホントに選手たちに勇気づけられましたから。そして、無言で去っていってしまった桜庭さんに対しては、その選択が間違いじゃなかったって思うようにね、これからの人生で必死に頑張ってほしいし、何よりも、いままでリング上でいろいろな奇跡を起こしてきたわけですから、K-1と『PRIDE』の架け橋となるウルトラCを見せてほしいですね。人間、何かを失えば何かを獲得するように一生懸命動くんで、そういう中でそれぞれ別々の道で、今度は競争相手として頑張っていきましょう。

“裏切り”発言の全真相

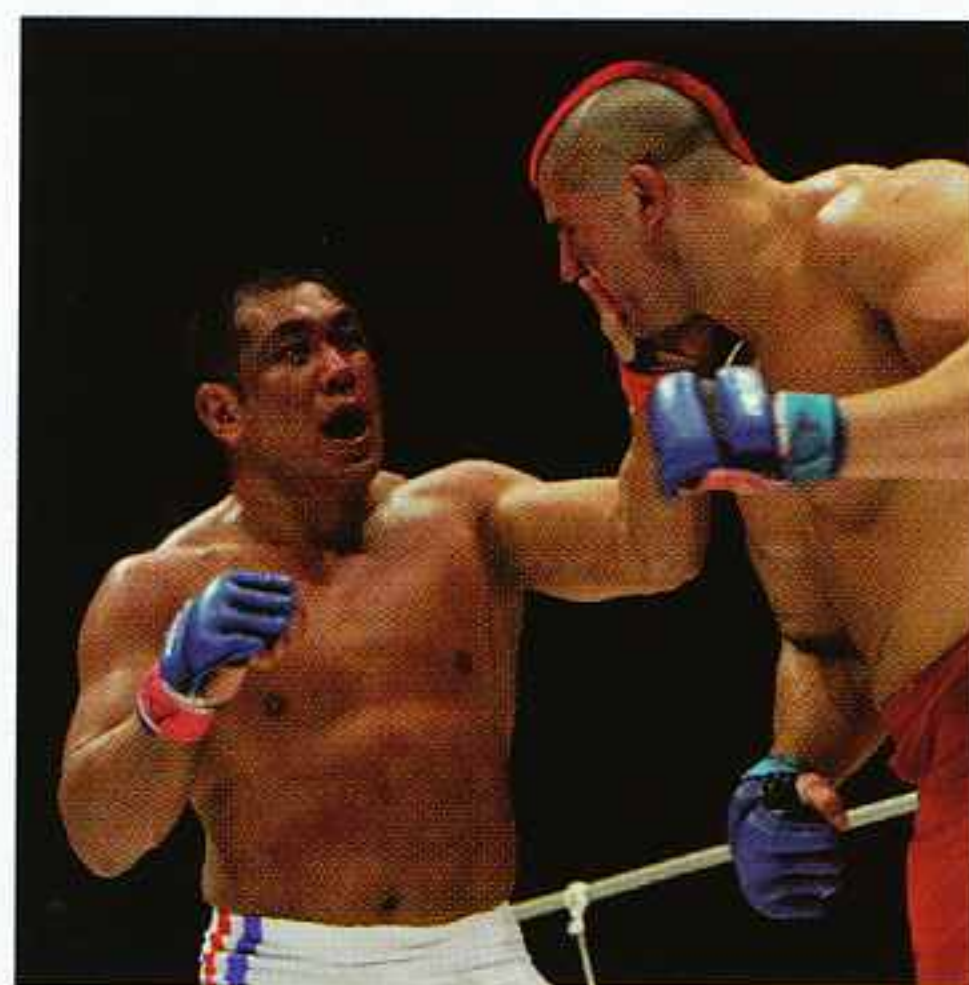
【06年5月8日／青山・DSE事務所にて収録】

英雄(サクラバ)去りて野獣来たる!!

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
壮絶に開幕!!

いまこそ刮目せよ！闘魂の鎖を引きちぎり露わになった野獣の本性!!

「命がいくつあっても足りないからやりがいがあるってことですよ」

日本人の限界をブチ破る“R指定”ファイト！トンプソンを下し、無差別級GP一回戦突破!!

3年ぶりに『PRIDE』に復帰した“野獣”藤田和之。そのタフネスさは健在で、日本人を超越したポテンシャルを見せつけたわけだが、多くの観客やマスコミが敏感に感じ取ったのは、“闘魂”の鎖を引きちぎった野獣の解放感ではないか——？　殻をブチ破って露になった藤田和之のプロ哲学に、いまこそ耳を傾けてほしい。

聞き手／金澤克彦　構成／ジャン斉藤
撮影／菊池茂夫
試合写真／乾晋也、山口比佐夫
designed by matsu（TwoThree）

藤田和之

Kazuyuki FUJITA

3年ぶりにPRIDEに帰還！

―観客は大興奮、マスコミ、関係者はヒヤヒヤものの激闘から一夜明けて、いろいろ聞かせてください。まず、相手のトンプソンは強かった？

藤田　力もあるし、よく動くし、思った以上ですね。タテばかりじゃなくて、ヨコにも動けるし。

―まさかここまで苦戦するとは、自分でも予想外だったのでは？

藤田　いやあ、このトーナメントに参加するメンバーはやっぱりそれだけの選手が集まっているということですよ。

―それだけの選手が集まっているのに、後半の3試合はアッサリでしたよね？

藤田　いや、ああいう試合もあるってことですよ。このリングの試合は何があるかわからない。

―もちろん、シミュレーションでいけば、試合時間も含めて一番効率のいい勝ち方をしたかったわけでしょ？

藤田　それは、どの選手も一緒だと思いますよ。

―ということは、やっぱり苦戦ですね？

藤田　やっている途中から、なんかムキになっちゃって。彼がガンガン来るから、こっちもその気持ちに応えてやりたくなっちゃって。必ずしもセオリー通りとはいかないということですかね。最後はハートの勝負。そっちのほうが、最高に気持ちよく闘えますから。

―それでも「ゴング&ラッシュ」を身上とするトンプソンが、「ゴング&ストップ」したのには面食らったんじゃないですか（笑）。

藤田　テレビとか新聞で「ゴング&ラッシュ」なんて何度も出てたから、こっちもその気になっちゃうじゃないですか。でも、それは食ってやろうと思えば作戦もあるだろうし。正直に受け取った俺がバカでした。もう、そうなったら作戦も何もないですね。すべて受け止めて、自分の気持ちをぶつけるだけです。

―実際、彼は懐が深いし、リーチもあって、ああいうかたちでじっくり構えられるとやりにくかったでしょう？

藤田　うん、あの距離はちょっとやりにくかったですよね。

―なんか試合中の藤田選手の表情は、「ガンガン来いよ」「突っ込んで来いよ」と言いたげに見えたんですけどねえ。

藤田　ああ、そうですか。まあ、向こうが来たらボクはいつでも行こうと思っていたんで。それがなかなか（笑）。でも最終的には来てくれたんで、ボクも思いっきり行けました。

―その「最終的に」の前が問題というかテーマなんだけども（笑）。正直言って焦れたんじゃないですか？

藤田　その焦れた気持ちが観ている人にもわかったということは、向こうの作戦がそうさせたということだろうし、でもやっぱり最終的には気持ちのぶつかり合いだったと思いますよ。初めて彼の試合を観たときに、「ああ、これは気持ちをぶつける選手だな」って。だからこっちも気持ちで返してあげなきゃと思ってました。とくに最後はその心構え通りの展開になったんで。やっぱ来てくれたんだなって。終わったあと、スッキリしました。

―それでも……しつこいようだけど、向こうはよく研究してきたなあと。

藤田　研究？　まあ、そうですね、頭を下げて組んできたり。情報戦みたいなところあるし、一発勝負だから。それでも闘いの原点は気持ちと感情のぶつかり合いですから。アマチュアじゃないんだから、たとえばタックル取ってそれで勝ちじゃないんだから。要は観ているお客さんに、どれだけ自分の気持ちを伝えられるかでしょ。

試練を越えていくことが、自分の見せ場になりますよね

たまりたまったマグマを放出するかのように『PRIDE GP』のシンボルオブジェ前で咆哮しての入場！　ニューテーマ曲はジミ・ヘンドリックスの「パープル・ヘイズ」リミックス・バージョン。

―でもトンプソンもレスリング・キャリアがあるから、よくわかっていましたね？

藤田　ああ、よくわかってますね。いろんな意味ではポテンシャルもモチベーションも高い選手ですね。

―密着したときに、ヒザをけっこうもらったじゃないですか？　高山（善廣）戦のときもそうだったけど、身長差を活かして上から圧力を掛けてきてヒザというパターンですよね。

藤田　そこで耐え切れるかというところも俺の一つの試練だと思うし、また彼にしてもあそこで上から圧力かけて必ず潰さなきゃいけないのも試練だし。あれはお互いの試練と見せ場だと思うんで。それを越えていくことが、自身にとってもお客さんにとっても見せ場になりますよね。彼はファイターですよ。

―得意の小内刈りも決まらなくて。

藤田　アハハッ、遠かった遠かった（笑）。

―そのあともテイクダウンのチャンスで、逆にガードポジションになったでしょ？　試合でガードポジションに回るのを初めて観たから「おいおい、マジかよ？」となってねえ。

藤田　そういえばあんまりないですねえ。だけど、一応ああいう体勢の練習はしてますから。

―ただし、トンプソンのほうのスタミナが切れてきていた。

藤田　そんな感じはありましたね、でも脱水症状まではいってませんでしたけどね。ボクは冷静に見てましたし、あのへんからですね、もうあとは気持ちをぶつけ合うしかないって。正直言って、あそこは充分に耐えることできたので、これを凌いだら勝負だ！って。

―で、壮絶に殴り合ったと。殴り応えは充分でしたか？

藤田　こっちも必死だったし。

―「おい、まだ倒れないのかよ！」みたいな感じはなかった？

藤田　というより、「ここで俺は倒れちゃいけない！」っていう気持ちのほうが強かったんで。

―だから、『PRIDE』参戦当初、初期の頃の藤田和之を思い出したわけですよ。来るなら来い、オレは倒れないよ。技術なんか関係ない、気持ちの勝負だよっていうね。

藤田　それを思い出してくれたなら、それはそれでいいんですけど。だから、最後はそうなるんですよ。

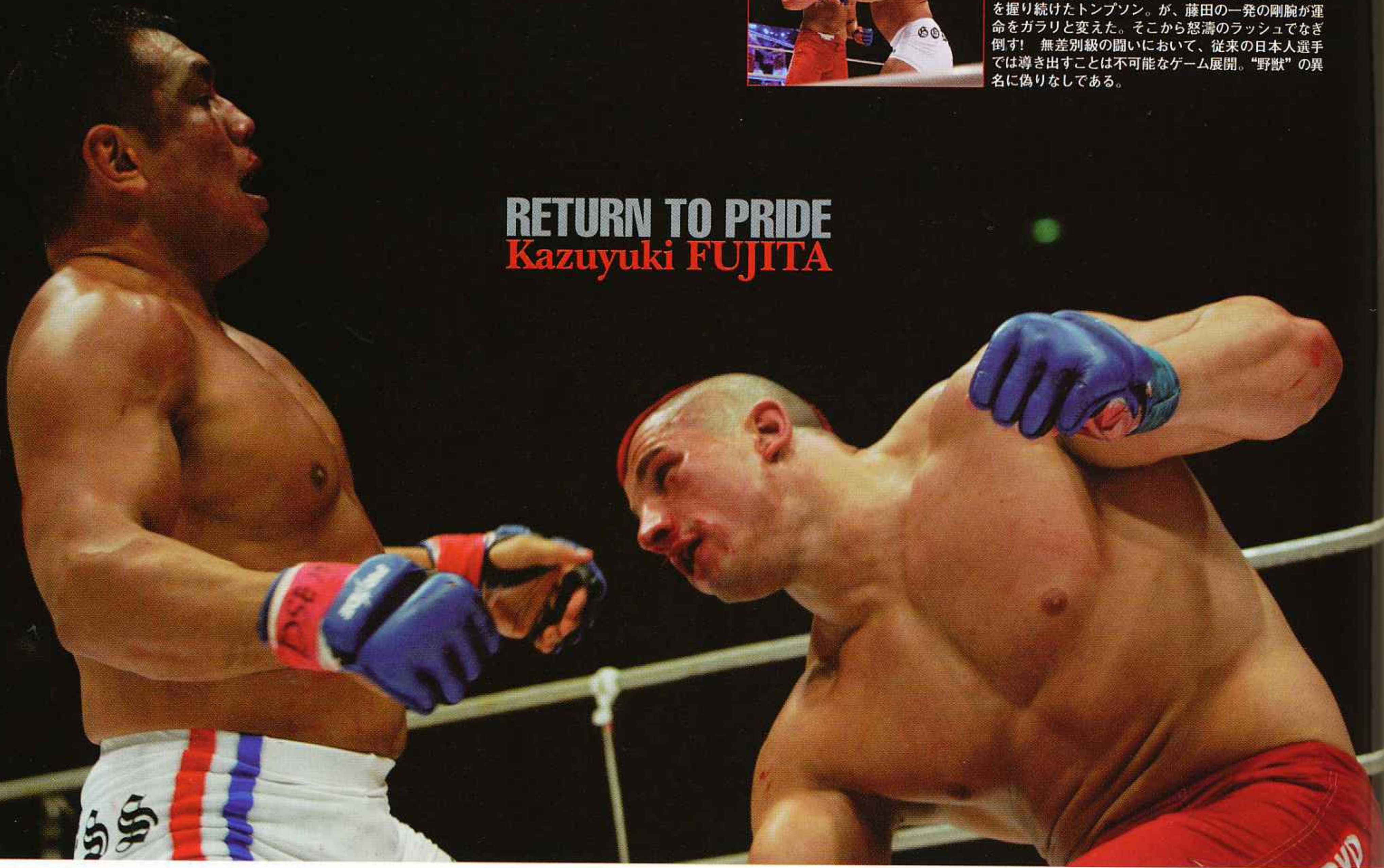
―いやあ、プロレスラーだなって。そう思われるのはイヤですか？

［PRIDE無差別級GP2006一回戦］

○藤田和之 vs ジェームス・トンプソン×

（1R 8分25秒 KO）

期待された「ゴング＆ダッシュ」は不発、決して自らは積極的に仕掛けないクレバーな作戦で試合の主導権を握り続けたトンプソン。が、藤田の一発の剛腕が運命をガラリと変えた。そこから怒濤のラッシュでなぎ倒す！　無差別級の闘いにおいて、従来の日本人選手では導き出すことは不可能なゲーム展開。"野獣"の異名に偽りなしである。

RETURN TO PRIDE
Kazuyuki FUJITA

藤田　俺は俺です。でもみんなが思ってるよりは、プロレスラーとしての誇りは持ってるつもりです。

——ボクなんかはね、こういう『PRIDE』の大会に出るにあたって、藤田和之のベースはアマチュアレスリングであると。そこだけが書かれているけど、本当はアマレスとプロレスの両方がちゃんと格闘技のベースになっていると思うんですよ。

藤田　ああ、そうですね。ただ、アマチュアもプロレスもレスリングじゃないですか。オレはファイターですから。レスリングだけじゃなく、打撃もあるし、関節もあるしね。やっぱりファイターでしょうね。

——そこで、打撃でトンプソンを倒した瞬間は何を考えました？　ホッとした顔にも見えたけど、「やっと倒れてくれたか！」みたいな。

藤田　いい闘いができたかなと思いました。それと同時に、お客さんが満足してくれれば、もっといいかなと。たぶんそうだと思いますが、会場の熱がもの凄く伝わってきました。

——それは自分でも感じた？

藤田　感じましたね、ハイ。これだけ歓声が凄いってことは、相当オレが攻められていたんだなっていうのも感じましたけどね（笑）。かなりヤバイって見られていたのかなって、ハッハッハッ。もう一発当たるたびに、「ウオッー!!」っていうのが聞こえてね。

——それを感じるっていうのは、余裕じゃないけど、どこか冷静でいられたってことなんですか？

藤田　余裕とかじゃなくて、これは経験だと思いますね。やっぱりプロレスのときでもそうだし。周りの反応っていうのはいつもね。これは技術的なことじゃなくて、その試合の評価として、お客さんの歓声が評価として一番ストレートなものですからね。それはプロレスでも同じじゃないですか？　ワァーなのか、ウォーなのか、エー!?　なのか、いろいろありますよね。だからその経験がプロレスをやって身についたわけで。だから技術的なことは、やればみんな身につくんですよ。ただ、経験というのはプロとしてリングに上がっていないとなかなか身につかないですね。だからアマレスにしても、それは誰も見てないところでもコツコツやっていれば身につくことで。だから、プロとしてどこでそれを出せば一番いいのかとか、そこがプロの経験じゃないかなって。で、最終的に結果に結びつけば一番いいんじゃないかなと思いますけどね。

——唇を6針も縫ったり肉体的なダメージという代償はあったろうけど、いろいろな意味で貴重な試合だったんじゃないですかねえ。

藤田　今回も含めてこれまでのすべての試合が貴重な試合だと思います。それもいままでの経験があってこそだし、やっぱり「おまえはプロレスと格闘技のどっちつかずでフラフラしやがって」っていう周りの印象や評価があるのは充分わかってるけど、自分からしたらそれぞれの大事な部分を知って経験積めたと思ってます。今回もその延長線上だと。もちろん、そのときそのときに結果出せれば、もっといいなと思いますね。

——ああ、会見で言ったように『LEGEND』も『ROMANEX』もすべて糧にしてきたと。

藤田　それと昔の新日本プロレスも。

——そういえばプロレス的というか、試合終盤の殴り合いでハンディカメラにバッと血が飛んだんですよ！

藤田　そうそう、観ましたよ。控室に戻ってきてから休憩時間にビデオが流れていた

んで、観ましたよ。テーピングほどきながら観ていたらパッと血が飛んだんで「ウオッ！」ってね。我ながら、これはすげーなーって（笑）。

――まるで映画の世界ですよ。

藤田　アレはちょっとビックリしましたね。あれこそ本来プロレスの世界で見たいものですよね。まあ、ボクなんかがプロレスを語れるアレはないんですけど。でも、どっちも難しいですよ。簡単じゃない。

――だからプロレスって本来ドラマチックなものであって、そういう要素がリアル・ファイトと言われる『ＰＲＩＤＥ』のリングで現出したから凄いんですよ。

藤田　いまはお客さんの目が肥えているんで、リアルな説得力があるんでしょうね。ボクも自分で観ていて、印象に残っちゃいましたもん。

――いやあ、不謹慎で大変申しわけないけど、なんかＡＶっぽくもあった（笑）。

藤田　あっ、そうか！　でも「殺しちゃマズイよな」ですよね。いろいろな意味でアダルトだったんですね（笑）。18禁の試合だったと。

――まあ、Ｒ指定ぐらいいってたかなと（笑）。フジテレビも「怪獣大戦争」と煽っていたし、それにふさわしい試合だったと思いますよ。

藤田　エ〜っ、そうなんですか！　それはどうかわからないけど、闘争心をぶつけ合えたから良かったなって。

――ところで出番前に、ほかの試合は観ていたんですか？　たとえばジョシュとアレキサンダーの試合とか。

藤田　観てましたよ。技術的な部分で見応えあったし、格闘技もどんどん幅が広がってるなと思ったし。単に競技性ということじゃなくて、見方も表現の仕方もどんどん幅が広がっていってるんじゃないかなって。合理的な闘い方してましたね。

――ジョシュ・バーネットのことはどの程度、知ってるんですか？

藤田　新日本に来たときですね。永田（裕志）さんとの試合を観て、この人は試合をしなくてもギャラを稼ぐ人だと思いました。練習は昔、一回だけやりましたね。やっぱりそれだけの戦績を残しているし、技術的なもの精神的なものも強いですから。研究熱心だし、交渉上手ですね。永田さんを尊敬してやってきたので、ここまでこれたんだと思いますよね。

――ヒョードル弟のアレキサンダーは来日するたびに強くなっていくような気がしてねえ。

藤田　ずいぶんとスリムになって、本気で勝負かけてきたように見えます。アレキサンダーの打撃っていうのは、うまいとかいうより、「殺る」っていうような、本当に倒しにいくような殺気を感じますね。彼自身の佇まいもそうなんですけど、本当に殺気を感じる。アレはやっぱりアニキ譲りなんでしょうね。

――ファン目線で言うと、アレキサンダーが一回戦で消えたのはもったいないような気もして。

藤田　もう、レベルの高い試合でね、本当に刺し違えるような殺気を感じる闘いでしたね。

――髙阪剛vsマーク・ハントは理屈抜きに素晴らしい、感動的な試合で。

藤田　凄い。もうたまらないほど、グッときました。髙阪さんの背中を見て、なんにも言えなくなりました。ああいう試合がやっぱり一番響いてくる。あのままでいくと、もう第三者が止めないとっていう段階ですから。いろんな選手がいますけど、やっぱりあそこまで生き様を見せられるのは髙阪さんだから。髙阪さんのことよく知ってることもあるけど、ファイトスタイルからライフスタイルまですべて背中に見えるっていうね。もう感服です。

――髙阪選手とは、アナタが２０００年早々に『ＰＲＩＤＥ』初参戦が決まってシアトルに飛んだとき、モーリス・スミスのジムで一緒に練習したんですよね。

藤田　その前にもどこかで会ってはいるんですけど、一緒に練習したのはそのときが初めてですね。それ以降も何度かね、人間的にも尊敬できる人ですから。

――率直なところ、自分の出番直前に、髙阪選手のファイトやジョシュの試合を観たら、どんな心境になるものなんですか？

藤田　やっぱり昂ぶりますよ。本当に今回の開幕戦は、一つ一つの試合が全部、色が違っていたので、どれ一つとしてかぶるような試合はなかったんでね。だから、「じゃあ自分の試合はどういう色を出せばいいんだろ？」というのはありましたよ。ただ勝っちゃいいっていうだけだったら、プロになっていないだろうし。そこでどんな色を出せばいいのか、対戦相手が決まったときに、どういう色に染め上げたらいいのかって。みんな考えてるんでしょうけどね。

――いまは総合の選手にもそこが求められているし、実際、みんなそうしていると思うし。

藤田　もちろん勝つことが大前提であって、そこに自分の得意なものを織りまぜて考えていって。やっぱり人それぞれ得意な分野が違うから。そこでプラスアルファに何を出すかってところだと思うんです。何を期待してカードが組まれたか、お客さんは何を期待するのかっていう。たまにはハズレますけどね。それはお客さんとの意思の疎通が取れないときもあるけど、でも勝たないと、この世界は残れないんでね。

――それじゃあ、昨日のメインの吉田秀彦vs西島洋介戦はどうです？　あまりに一方的というか、一夜明け会見で髙田統括本部長も「大人気ないほど強い吉田選手」と評してましたけどね。

藤田　いや、だからアレもほかのどの試合

トンプソンはパンチ、ヒザ蹴り、パウンドの波状攻撃で見せ場を作ったが、逆に言えば、その猛攻を耐え凌ぐ藤田和之にとっても見せ場だった。強烈な打撃を急所のアゴに食らいながらも不倒の藤田!　何を食べればこんな生き物になるんだ!?

RETURN TO PRIDE
Kazuyuki FUJITA

まだ終わりたくないから、立ってるんですよ

にない色でしょ。あのメインイベントで原点に戻って、やっぱり勝ちにこだわるっていうことをね。ほかの試合にはないものを見せて、それがやっぱり『PRIDE』のリングだと。ボクは最後それで締まってよかったと思いますよ。

——それもまたリアルだと？

藤田　そういうリアルなドラマもある。

——そのリアルなリングに帰ってきて一番、実感したことはなんでしょう？

藤田　ドタキャンはできないな、ですかね。まあ、さっきの会見で「命がいくつあっても足りない」って言ったけど、命つながったかなって（笑）。でも、それだけやりがいがあるってことですよ。それだけ自分の犠牲を払ってもやりたいっていうことで。

——こんな痛そうなのにぃ？（笑）。

藤田　痛かろうがなんだろうが、だからいいんであって。厳しいから、やりがいがあるんですよ。だってリスクのないことには、あんまり興味湧かないじゃないですか？

——達成感や解放感もないし、こうしてうまいビールも飲めないわけだ（笑）。

藤田　そうですね。さすがに昨日は唇が痛くて飲む気になれなかったけど（笑）。俺の場合、なるべくしてなったんじゃないですか。やっぱり、こうなったかっていう感じかな。このオープンなルールで制限がなくて、言い訳を探しても言い訳ができないリングだから。そのぶん、自分にリスクを背負わせて、自分を追い込まなくちゃいけない。あそこでタックルが使えたらとか、あそこで打撃を出せたらとか、自分にそういう言い訳のできないリングですから。問答無用だから。

——いろいろな意味で、最終的に強いほうが勝つというね？

藤田　ええ。運もそうだけど、運を呼び込むのはやっぱり毎日の積み重ねだし、何もしてないのに運は回ってこないと思うんで。それはいつも肝に銘じているんで。

——だから、こんなにハラハラさせておいて最後は劇的に勝ってしまうんだから、やっぱり藤田和之は強運の持ち主なんだというマスコミの声もあったんですよ。

藤田　ああ、そうですか（笑）。強運なんですかね？　それも積み重ねだと思いますけど。

——昔からそうじゃないですか。原付バイクに乗っていて、ベンツにはね飛ばされたのに単なる打撲だけで済んだとか、環七を逆走して無事だったとかさあ（笑）。

藤田　アッハッハッ、そんなこともありましたねえ。

——今回も、そのテーマ通りに「怪獣大戦争」を展開して勝利を飾ったし。

藤田　こう最初はお互いの作戦で始まって、やっぱり最後はノーガードの殴り合うことになっちゃったんですもんね（笑）。顔は俺のほうがデカイから彼もパンチ当てやすかったんじゃないですか。

——あらためて、アナタのタフネスには恐れいりました。

藤田　だって倒れたら終わっちゃいますから。これしかないですから。まだ終わりたくないから、立ってるんですよ。まあ、練習でやったことはあまり出せなかったけど。でも試合ってそういうもんですよ。10やって、いいとこ2か3ぐらいだし。ただ少ない時間の中でも準備はちゃんとやってたんでね。一応、あの試合のシチュエーションは想定して練習してますからね。

——今回、師匠のマルコ・ファスはなんて予言していたんですか？

藤田　グランドで極めるか、あとはパンチだって。だって、それしかないでしょ？　そういうわかりやすい相手だからこそ、何を

見せられるかが課題だし。だから相手が豪腕を振り回してくるんであれば、それに逃げることなく真正面からぶつかるのがファースト・インパクトだと。試合前にはそう言ってたと思うんですけどね。そうしたら、向こうが止まっちゃったんで、「エーーッ!!」ってちょっとビックリしたんですけどね。

――ハッハッハッ、ようやく本音が出た!

藤田　ダーっと走ってきて、真ん中でパッと止まったから「アレ?」って。こっちもいくつもりでいたからね。ファンもそれを期待していると思ったし、それがインパクトだと思ったし。結局、終わってみたら、それが最後にまとめてきたみたいな。

――試合後、マルコ先生には何か言われました?

藤田　いやあ、下になったときにちゃんと冷静になっていたなと。相手がタックルの防御しか考えてないとわかったら、すぐ考え方をスイッチして殴り合いにいった。諦めなかったな。OKだよって。

――ケンドー・カシンは?

藤田　いや、とくに何も。よりによって『イノキボンバイエ』のTシャツを着て、黙ってフォローしてくれました。

――トンプソンの場合、セコンドの指示に忠実に動いていたけど、藤田選手ってセコンドの声を聞いているのかなって。

藤田　ハッハッハッ、ボクだって肝心なときはちゃんと人の話は聞きますよ。ええ、よく聞こえてましたね。途中、噛み合わないというか、へんな間合いが続いて会場がシーンとなったでしょ? そのときはマルコも「エッ!?」ってなったらしいですよ(笑)。彼(トンプソン)も攻めながら迷っていたんでしょうね。

――そのシーンとしたあとに「何やってんだよ!」って野次が飛んだのは聞こえた?

藤田　そうなんですか? シーンとなったのはわかったんですけどね。ここは東京ドームかと思いました(笑)。

――だけど、もしもですよ、あの展開であのまま敗れていたら、藤田和之は終わりだったと思いますよ。この6年間で積み上げてきたものがすべて消え去るというか……。

藤田　終わりですか、ダッハッハッハッハ。その紙一重だから、いいんですよ。6年間が終わるじゃなくて、6年間よく保ったなって思ってやってくださいよ(笑)。もう最後のラッシュかけたときは、ガンガンガ~ンっていって、本当に仕留めようと思ったから、左手で相手の右腕押さえましたから。

――そうそう、腕をロックしてブン殴っていた。逃がしてたまるか! みたいにね。

藤田　もう、逃がさねえぞって(笑)。まあ、これでもちゃんと相手のパンチを見てましたから。だから致命傷はなかったですね。

全試合終了後のリングにベスト8ファイターが集合。ヒョードルやミルコとの因縁、ノゲイラ、ハントらとの初顔合わせ。藤田が誰と闘っても興味深い組み合わせになる。

――ついさっきトンプソンとバッタリ会って、笑顔で抱き合っていたけど、闘った相手に対する気持ちって、プロレスの試合とは違う?

藤田　いや、それは一緒だと思いますよ。お互いを信用し合っているから殴り合えるし。本当にお互いに敬意を持っているから、本気で殴り合えるし。そこはどこかで軽蔑していたら絶対できないことだろうし。それが結果として正直にリングに出るんです。もし心の中で軽蔑し合っていたら、いいものは出ないです。ただ……ボクはこっちの水のほうが合ってます!

――二つに一つ、わかりやすいのがいい?

藤田　まあ、スッキリします。あとはお互い言いっこなしでね。陰で、あっち痛いこっち痛いとか、危ないだのなんだのとか言うやつもいないしね(苦笑)。そういうのに付き合ってると、オレがケガしちゃうから。なんせヘタクソで不器用ですから。

――ウ~ン、やっぱりプロレスのほうではストレスが多かった?

藤田　オレの場合はですよ。やっぱり向いてないんでしょうね、精神的にもよくないし。だけどね、ボクがプロレスで培ったものは昨日の試合でも活かせたし、これはかなり大きいんですよ。どんなことがあっても、開始のゴングが鳴ってから最後のゴングが鳴るまで相手から目を離すなって。これは本当に教わりましたからね。大力(オオリキ=長州力)さんに。猪木さんにもいろいろ教わりましたけど、現場に関するものを教わったのは大力さん。試合中は絶対に相手から目を離しちゃいけないと。どうあっても相手から目を離すなって。

――ああ、長州さんはそうですね。橋本真也も口にしていたでしょ? タッグマッチで若い選手なんかと組むと、「相手をよく見ろ!」「目を離すな!」ってよく檄を飛ばしていたから。

藤田　そうですよね。プロレスをやってきて、いまに一番活かされてるのがそこですよ。どんな攻撃を食っても、どんな受け身をとっても、どんな状態でも、相手から絶対に目を離しちゃいけないって。それは、ケガしたら終わりだよっていう意味ですよね。だってケガしたら、ご飯の食い上げじゃないですか。ケガしないためには相手から目を離しちゃいけない。その教えがもう身体に染みついているから、どんなにやられてもね。昨日もけっこういいの入ったんですよね、ガツーンと入って気持ちよくなっちゃって、このへんになんか星飛んだりもしたんだけど、相手だけは絶対見るようにって。確かにプロレスの試合でもこんなのあったなあ、とか思って。

――やっぱり、その意識を強く持っているだけで違うんでしょうね?

藤田　全然違いますよ。普通やられて食ら

大会一夜明け会見は、藤田和之、吉田秀彦の勝ち上がり日本人選手が出席。両雄、二回戦での激突が噂されているが、榊原代表は「二回戦で両者の対戦を見たいが、できればもう一つ、それぞれ勝ち上がったあとにやればインパクトがある」との言葉を残したが……。

相手から目を離さない。命を守る方法はプロレスも格闘技も一緒なんですよ

ふじた・かずゆき■1970年10月16日、千葉県出身。レスリング全日本学生選手権4連覇、全日本選手権を２度制覇し、新日本プロレスに入団。00年に同団体を離脱。『PRIDE GP』に参戦し、MMA二戦目にして当時最強の呼び声高いマーク・ケアーを撃破。ここ数年は『PRIDE』から遠ざかっていたが、06年2月、師・猪木の下を離れ、フリーとして復帰。183センチ、104キロ。

RETURN TO PRIDE
Kazuyuki FUJITA

ったら、どっかほかを見ちゃうじゃないですか。でも、やられたからこそ相手を見てなきゃダメだと。相手が次にどう動いてくるか、何をやってくるか、それをしっかり見てなきゃ、相手の攻撃に対して受け身とれないじゃないですか。ホントに自分の命懸かってるから。そういう意味では自分の命を守る方法はプロレスも格闘技も一緒なんですよ。だからプロレスラーが打たれ強いっていうのはどういうことかと言うと、打たれてもしっかり相手を見ているからなんです。打たれても、相手を見ていられるだけの余裕がないと、やっぱり試合が成立しないし。

――へぇー、これは新プロレス理論じゃないですか！　新日本プロレスの若手時代に学んだことが、格闘技の本質そのものであったと。

藤田　もう相手から目を離したら凄い怒られましたからね。こう大力さんと永田さんがいつも見ているわけですよ。だから、それが理論だとしたら、プロレスの理論は格闘技に通じてる。攻撃する側は相手にケガをさせちゃいけない、次の日も試合があるんだから。だからこそ相手をしっかり見て、急所じゃなく鍛えてるところにしっかり打ち込めと。で、やられてるほうはしっかり相手を見て技を食ったら受け身をとるわけでしょ？　そこで目を離したら事故につながるわけだから。それをいまのこのリングに上がるときは、攻撃のときはよく見て相手の弱点を狙うし、攻められてるときはよく見て致命傷をもらわないようにしてる。ホントにね、これがボクにとって一番役に立ってますよ。

――確かに藤田和之というファイターのベースは、アマレスとプロレスと空手なんですねえ。最後に、『PRIDE』を去った桜庭和志に贈る言葉をください。

藤田　前日会見で「全面戦争が始まります。ボクも頑張りますから、皆さんもいろいろ大変でしょうけど、頑張ってください」と言いましたよね。あれが桜庭さんへのメッセージですから。いろいろあったんだろうなって。たぶんこう言えばわかってくれるだろうと。ボクは桜庭さんのこと好きなんでね。格闘技を取り巻く状況もいろいろ大変じゃないですか。ボクなんか好き勝手やってきたし、桜庭さんの気持ちがわからなくもないしね。

【06年5月6日／のぞみ号の車中にて収録】

【ＧＫ金澤の取材後記】

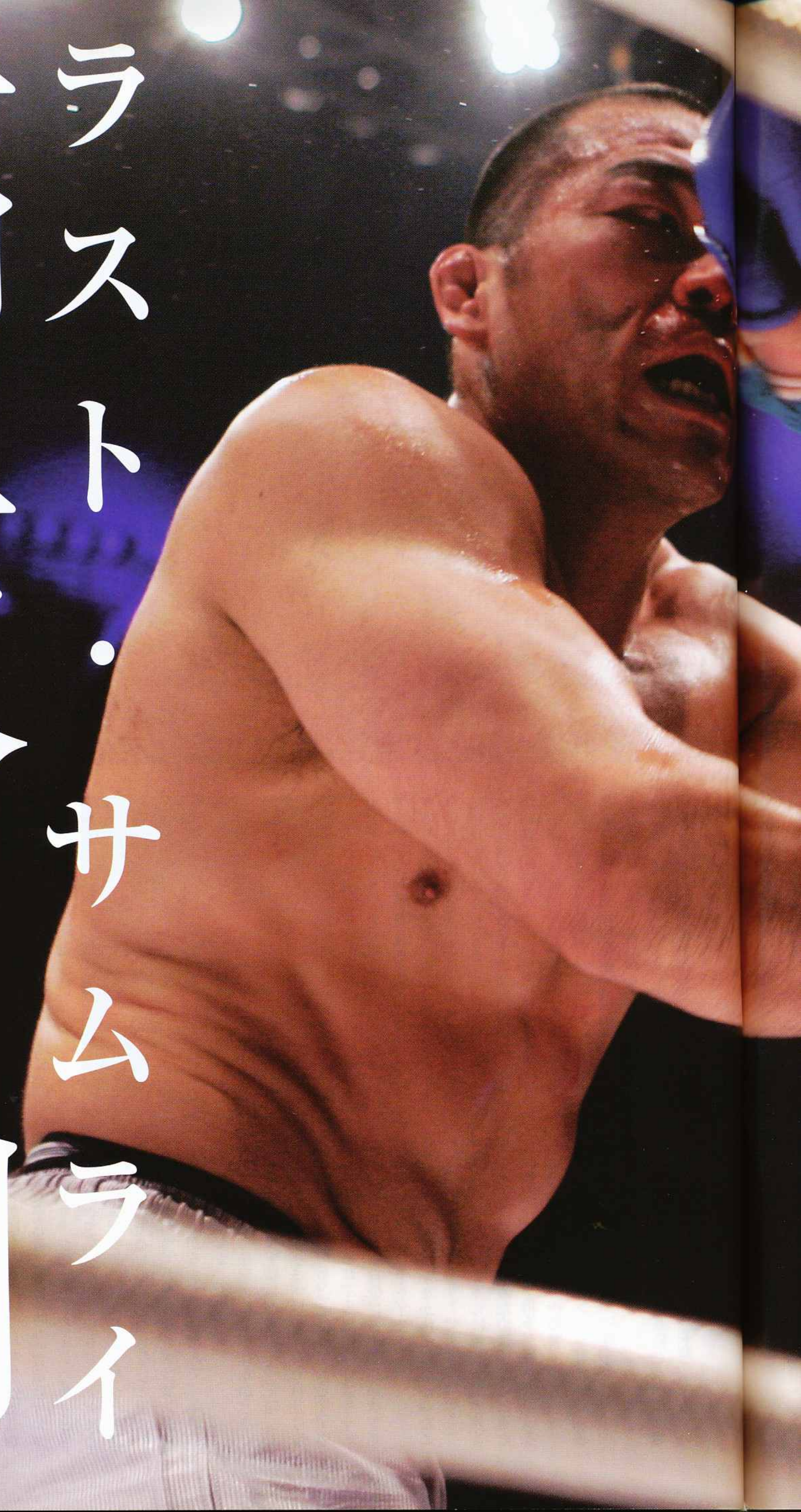
５・５決戦の二日前、インタビューの約束を取りつけた。試合当日の夜か、6日の一夜明け会見のあとか、いずれかでやろうという話になった。もちろん、そこには絶対的な注釈がついて回る。勝てば、である。さらに、話ができる状態であれば、である。想定外の大苦戦の末、藤田は怪獣大戦争を制した。その日はメールだけ送っておいた。返事は来なかった。翌朝、電話が掛かってきた。正午からの一夜明け会見のあと、取材を二つ受けてからすぐ帰京したいという。藤田はいつもそうだ。プロレスだろうと格闘技だろうと、地方での大一番の翌日はそれこそ朝イチの新幹線、飛行機で帰京してしまう。昔から団体行動は性に合わない男なのだ。

「新幹線で一緒に帰りましょう。そこでインタビューすればいいじゃないですか？」と言う。うん、ナイス・アイデアだ。一番効率的で、暇つぶしにもなるというわけだ。藤田夫人がチケットを交換してくれたので、私が藤田と並び、通路を挟んで代理人兼マネージャーのS氏が座る。車内販売が回ってくると、藤田は缶ビール3本と鯛メシ弁当を買い込んだ。「アンタは出張帰りのオッサンか？」と思っていたら、S氏と私にそれぞれ缶ビールを手渡す。「縁起ものですから。昨日はさすがに頭痛くて飲む気になれなくて。さあ、カンパイしましょう！」。新幹線の車中にて、ささやかな3人での祝勝会。藤田がポツリと言った。「しばらく禁煙してホントに良かったなあって。マルコに言われたんです。タバコやめないと最初の10分もたないぞ！って。勝因は禁煙ですよ。アッハッハッ！」。勝因は禁煙かい!?　感動が台なしである。

聞き手／堀江ガンツ
撮影／黒田史夫
試合写真／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

ラスト・サムライ

髙阪剛

Tsuyoshi KOSAKA The LAST SAMURAI

こんな引退試合がかつてあっただろうか。体重差30キロの元K―1王者マーク・ハントに対し、真っ向から殴り合いを挑み、倒れても倒れても前へ突き進み、KO負けを喫してなお、見る者の心を鷲づかみにしたTK。引退試合をベストバウトにしてしまった男に、壮絶な死闘から3日後、インタビューするべくジムを訪れると、そこにはこれまで通り、ごく普通に練習し、指導するTKの姿があった。

――ちょっと、あの……髙阪さん。もう練習再開してるんですか？

TK　そう（アッサリ）。

――あのマーク・ハントとの壮絶な激闘から、まだ3日しか経ってませんよね？

TK　うん。でもいつも通りでしょ。べつに休む理由もないし。

――しかも、あれだけ凄い打撃で顔がボコボコになっていたはずなのに、すっかり腫れも引いてるような……。

TK　あのね、自分の場合、ボコボコにされても一日寝てたら治りますから（笑）。

――ガハハハハ！　どんな復元力してるんですか！

TK　いや、これホントに。あのね、いままでだったら試合やった日って興奮して寝れないんですよ。だけど、興奮してること以上にたぶん身体が疲れてたんでしょうね。初めて試合終わった日に寝れたの。それで一日寝たらスッキリして、翌日も爆睡して起きたら、もう元通りになってました。

――寝てるうちにいつの間にか（笑）。でも、せっかく地元関西に帰ってきてたんですから、選手生活も終えたことだし、ゆっくり静養すればいいのに、試合翌日には東京帰ってきてたらしいですね。

TK　いや、ペットホテルに犬預けてたから。

――すぐ帰郷した理由が、犬を迎えにいくため（笑）。やっぱり寂しい思いをさせちゃいけない、と。

TK　っていうか、あんまり長く預けるとペットホテル代もかさむし。

――延泊料金の問題ですか！（笑）。いやぁ、もうそんな感じでリングを降りた瞬間から普通すぎるくらい普通に戻ってる髙阪選手ですけど、ハント戦にはホント感動させられましたよ！

TK　あ、そうですか。

――さっきも、髙阪さんの引退について和田（良覚）さんにインタビューしてきたんですけど、なぜか僕も和田さんも髙阪vsハントについて、泣きながら語り合ってましたからね（笑）。おっさん二人で涙ながらに。

TK　嫌な光景だな（笑）。

――で、その和田さんから伝言を預かってきましたので、読ませていただきます。

TK　はい。

――「TK、感動した。本当に感動したよ。俺がもし女だったら、どんないやらしいことでもさせてあ・げ・る♥」だそうです（笑）。

TK　ハハハハハ！　おのオッサン、あとでシバいときますよ（笑）。

ご覧のとおり、あれだけハントのメガトンパンチを食らいながら、試合3日後とは思えないほど腫れがひいたTKの顔。すさまじい回復力だ。

心境も何も、試合中のことはまったく覚えてないんですよ

――「四つん這いになって、好きにしていい」とも言ってました（笑）。

TK　想像しちゃったやないかい！（笑）。

――それぐらいホントに感動させてもらったんですけど。ご本人としては試合から3日経っていまの心境はいかがですか？

TK　心境っていうかね、（試合中のことは）まったく覚えてないんですよ。マジでホントに何も。

――どのへんからですか？

TK　寝技に持ち込んだのは覚えてるんですけど、その後どうなったのかとかは全然覚えてないですね。

――それはどっかで記憶が飛んじゃったんですか、それとも無我夢中だったんですか？

TK　どっちもでしょうね。でも自分はそういうつもりでリングに上がったから。逆にハッキリ覚えてるようだったら、ちょっとしょうもない試合だって納得いかなかったと思うんで。

――なるほど。では試合前、挑む気持ちっていうのはどうだったんですか？

TK　自分は去年の年末あたりから「GPが最後」って決めてたから、まずは最後に攻めていける場所ができてよかったな、と。その後は無我夢中でしたね。とにかく勝負するっていうことしか考えてなかったから。

――最後になるかもしれないという、感慨とかは？

TK　そのレベルのことは一切考える余裕もなかったですね。それぐらい毎日あっという間にすぎていったし。和田さんにたぶん聞いたと思うけど、ギリギリのところまで（トレーニングを）やれたんで。

――朝から晩まで、週6日間練習漬けだったらしいですね？

TK　そうですね。だからもうホント、最後のリングにたどり着けて良かったですよ。ぶっ壊れてもおかしくないと思ってたんで。でも、リングに上がる前に壊れるようだったら選手として話にならないと思ってやってたから。まずはリングに上がるまでいけたんで。単純に嬉しかったですよ。

――リングに上がれるかどうかがまず勝負だったんですね。

TK　まずはね。でも自分は今回だからってわけじゃなくて、いつもそれぐらいの練習はやってきてたし。だから自分にとってリングっていうのはそういうもんなんですよ。

――対戦相手がなかなか決まらなかったことで、焦りとかはありませんでしたか？

TK　いや全然。どっちにしろトーナメントだから、勝ち上がるためには全員と当たらなきゃいけないし。相手が誰かっていうのはまったく関係なかったですね。

――じゃあマーク・ハントって聞いたときも「あ、ハントか」っていうぐらいで。

TK　そうですね。

――ちなみに試合翌日、髙阪さんのご両親にインタビューさせてもらったんですけど、

見てみぃ、このツラ！　闘う男の決意と覚悟、そして気迫がにじみ出たじつにいい表情をしていたTK。これこそが真のイケメンだ！（違う？）

［PRIDE無差別級GP2006一回戦］
○マーク・ハント vs 髙阪剛×
（2R 4分15秒 KO）

今大会に引退を賭け、PRIDEナンバー1のハードパンチャーであるマーク・ハントに対し、30キロの体重差をものともせず真っ向勝負を挑み、壮絶に散ったTK。しかし、その倒れても倒れても前に出る生き様は多くの人々の感動を呼んだ。

LAST SAMURAI
Tsuyoshi KOSAKA

お母さんは「最後の相手はハント」って聞いて「ハンと？　ヴォルク・ハンとやるのか」って思ってたらしいよ（笑）。
TK　またそんなド典型的な勘違いをして（笑）。凄いですよ、おふくろは。
――天才的な聞き間違いですよね（笑）。
TK　あのね、ホントに凄いんですよ。あの凄さは触れた人しかわかんないんですけどね（笑）。
――お父さんも凄かったですね。髙阪さんとまったく同じ顔で（笑）。
TK　ウチはね、遺伝子が強すぎるんですよ（笑）。
――そのTKそっくりお父さんが、じつはカラオケチャンピオンだったことも今回初めて判明しましたからね（笑）。
TK　あ、ホントですか？　実家に上がったんですか？
――おじゃまさせていただきました。
TK　トロフィーとか見せられた？
――ええ、そうですね。インタビューが終わったあと、居間の隣の襖を開けてくれたら、おびただしい数のトロフィーで。てっきり髙阪さんの柔道時代のトロフィーかと思ったら違いましたね（笑）。
TK　もう息子の話や言うてるのに「ワシがワシが」ですから（笑）。
――ホントに素晴らしいご両親で（笑）。で、話を戻しますけど、試合前の緊張感というか、高まりは、過去最高とかそういう感じはありました？
TK　ありましたね。ただ、とにかく前を向こう、いまやれることをやらなきゃいけないって、それしかホントに頭になかったんで。
――凄まじい気迫は表情にも現われてて、入場時、人相変わってましたからね。
TK　子どもには見せられない顔ですよ（笑）。だから、今回はもう気持ちだけですよ。もちろん試合はそれだけじゃダメなんだけど、今回自分がやりたかったのはそこだけですね。
――じゃあ、作戦とかは？
TK　ノープランです。ただ練習で毎回毎回試合やってるぐらいの練習ができたんでね、今回。だから相手してくれた髙橋（義生）さんにはホント感謝してますね。やってくれないと思いますよ、普通。自分でもたぶん嫌だと思います、ホントに。
――対戦相手のマーク・ハントについてはどうですか？
TK　ハッキリ言って、覚えてないんであんまわからないんですよ（笑）。でも重かったし、圧力も感じましたね。だけど下がる気持ちにはならなかったですね。
――一度、バックマウント奪ったシーンがあったじゃないですか。あそこは惜しかったですね～。
TK　あのね、そのときだけしっかり覚えてるんですけど、ハントのデカい胴に足を絡めてなんとかフックしたら、足が極まっちゃったんですよ（苦笑）。
――自分の足が（笑）。
TK　そうそう。それでミシッと音がしたからヤバいって思ったんですけど、それで「俺の身体で極まりやがった」って思われるのが嫌だったんで、極まりながらも、なんとか我慢してチョークにいこうとしたら……ビックリしましたね。首がなかったんで（笑）。
――ダハハハ！　チョークにいこうにも首が見当たらない（笑）。
TK　どうしたもんかと思いましたよ。だから寝技やってるときだけ覚えてますね。
――それにしても試合中、足首まで壊してたんですね。
TK　一晩寝たら治りましたけどね。
――なんで治っちゃう（笑）。

TK　まあ、気合いの問題ですよ、ハッキリ言って。

――でも、ホント人間って気合でここまで高められるんだなっていう驚きはありましたね。それはこれまで練習でとことん追い込んだからこそ出る気合なんでしょうけど。

TK　ホントそうですよ。試合を10何年やってきたっていうのもそうだけど、毎日毎日、単純作業の繰り返しなんですよね、トレーニングっていうのは。たとえば腕立て伏せにしても、ただ腕立てをしてるっていうだけだったら3～4日で飽きるだろうし、「しんどいからや～めた」ってなると思うんですよ。でも「これをやったら強くなれる」って思いながらやってたら、絶対飽きないですよ。

――なるほど。強くなりたい気持ちが続いてたからこそ、ここまでやってこれたと。

TK　そうですね。だから「もっと強くなりたい」っていう思いは引退しても変わらないから。だからまた練習したくなるんですよね。

――引退試合の3日後に（笑）。

TK　でもそれが一番大事だと思うんですよ。なんでも気持ちの持ち方やし。

――では、5月5日っていうのは、髙阪さんにとっては、これからも続く長い格闘家人生の一区切りの日だっただけという。

TK　そうですね、ただその区切りは凄く大きかったし。これはいつか話す日が来るやろうけど、なんで自分が格闘技を始めようと思ったかっていうところまで遡ってしまうからね。まあ、この話はまた今度。

――最後、レフェリーストップになったときっていうのは覚えてますか？

TK　全然覚えてない。気がついたら「なんで？」って感じで。髙橋さんに「自分、倒れましたか？」って聞いたんですよ。それぐらいですね。

――そこでようやく我に返ったって感じでしたか。

TK　ちょっと時間かかりましたけどね。でも覚えてないけれども、たぶん恥ずかしい試合はしてないと思ったから、胸張って帰ろうと思ったのは覚えてます。

――試合後の気持ちっていうのは？

TK　やり切れたんじゃないかなっていう意味では本望でしたね。よくわかってなかったけど、たぶん自分が最初にやろうとした、素っ裸の状態で、さらけ出して闘うっていうことができたんじゃないかなって。

――控室にはいろんな選手が訪ねてきたらしいですね？

TK　（同じ控室の）秀彦が試合控えてたから、できるだけ迷惑かけたらあかんと思って、廊下に出てたんですよ。そしたらいろんな人が通るじゃないですか。ミルコとか、ジョシュもそうだけど……。

――ジョシュは号泣だったらしいですね。

TK　そうですね、泣かれちゃったから自分も泣いちゃいましたよ。ジョシュがあまりにも泣くもんだから。

――ジョシュは翌日インタビューしたら、また泣いてましたよ（笑）。

TK　やっぱり、ジョシュとは彼がまだ10代の頃からの付き合いですからね。その頃からあいつがUFCチャンピオンになるまで一緒に練習もしたし、セコンドもやったし。自分がリングスで試合あるっていうときは毎日練習付き合ってくれたし。なかなかね、アメリカ人ってね、毎日練習付き合うのって嫌がるんですよ。「やるやる」って言っといて、「疲れたからやめる」とか、ホントに勝手なんですけど、試合まで付き合ってくれたのはジョシュだけだったし。そうやってくれるから、ジョシュの試合のときとかは自分が協力して。だから、いまこうやってやってる状態がそのまんま向こうにありましたね。ジョシュとの関係ってホントそんな感じでしたね。

――あの日は髙阪さんの気迫がジョシュに乗り移ったような感じがありましたよ。

TK　でもね、試合はそんなに簡単なもんじゃないから。なんか感じてくれるものがあったかもしれないけど、でもやるのは本人だから。

――これからの若い選手に、自分の試合によって何か残せたなっていう気持ちはありますか？

TK　残そうと思ってやってるわけじゃないですからね。でも、（自分が闘う姿を）見て「じゃあ俺も」って思ってくれるのが一番幸せだし。意外とね、「下の子のためにやんなきゃ、やんなきゃ」ってやると、うまくいかないもんなんですよ。だから、それが結果としてうまく回ってくれれば、それでいいですよ。

――自分の背中を見てくれれば、と。

TK　そうですね。高校のときの柔道の監督に、それはもうホントにしつこく言われたんですよ。「上に立つ人間は背中をしっかり見せろ。ただし柔道家は背中を見せるな」って。どっちやねん（笑）。

――意味合いが違いますから（笑）。

TK　「絶対背中見せんなよ」って（笑）。5日の試合は高校のときの監督も見に来てくれたんですよ。いまだに怖いですね。

――それだけ厳しい指導だったんですか。

TK　そうですね、でもそのときの教えが自分の原点ですから。だから今回も監督の

90年代後半、世界を相手に闘うため盟友モーリス・スミスの住む米国シアトルに拠点を移し、日本人として初めてUFCのレギュラーとなったTK。キモ、バス・ルッテンらとの壮絶な闘いにより、"TK"の名を世界に轟かせた。

これからは総合格闘技をもっともっと知りたい そして自分が知ったことを伝えていきたいです

顔見ただけで、高校のときの教えを思い出しましたね。「そうだ、俺はあそこから始まってたな」って。

――プロになってからの師匠、前田（日明）さんとはお話になりましたか？

TK　試合後、電話しました。とにかくお礼が言いたかったんで、前田さんに。それで「お疲れさん」って言ってもらえましたね。

――いざ引退となって、実感は湧いてきたりします？

TK　実感は……まったくないですね。

――まったくない（笑）。

TK　逆にこれからやることがもの凄くいっぱいあるから、いままで以上に忙しくなるだろうし。ただ、前に出る気持ちを忘れずに持ち続けたまま終えることができたから、自分は幸せな選手だと思いますね。だって人知れず消えていかざるを得ない選手とか、いるわけじゃないですか。でも、自分は最後まで最初の志のまま試合ができたっていうのは、凄い幸せだと思いますね。

――しかも、その試合を地上波テレビを通じてたくさんの人に見てもらって。だから、いま髙阪さんの選手生活の中で、一番ファンが多いんじゃないかと思いますよ（笑）。

TK　ハハハハハ！　なんかね、試合が終わったあと「じつは隠れファンだったんです」っていう人が凄い多いんですよ。べつに隠れてなくてもええやんって（笑）。

――でも実際5月5日、髙阪選手の試合を初めて見てファンになったのに、じつはそれが最後の試合だったっていう人は凄く多いと思いますよ。

TK　ある意味ひどいヤツだ（笑）。でも「いまここでやらな」って、攻める気持ちを一瞬でも忘れずに臨んだからこそ、観てくれた人たちにも伝わったんやろうし。

――じゃあ悔いはないですか？

TK　ないですね。負けたことはもちろん悔しいし、「あのときああすりゃよかったな、こうすりゃよかったな」っていうのは試合終わったら絶対思うもんなんですよ、とくに負けた試合は。それが悔しくて寝れないんですよね。だけどさっきも言ったけど、それ以上に身体が限界に近かったんで、寝れちゃったんで。そういうことを考えることもなかったんで、よかったですよ。

――改めて「引退試合」をやろうとは思いませんか？

TK　やらないですよ、そんなん。

――じゃあ、引退式は？

TK　引退式ってなんですか？

――あるじゃないですか、10カウントゴング鳴らして。

TK　そんなのいいですよ（笑）。嫌ですよ。

――世界のTKが引退するっていったら、ケジメの10カウントくらいはやったほうがいいと思いますけどね。

TK　でもそれやると全部終わりそうな気がして嫌ですね。自分は選手としてもうリングに上がらないだけで、これからもずっと格闘家だから。そんなんやりたくないですよ。それより、この先のことを考えなきゃいけないし。

――この先っていうと？

TK　現実的に藤田と、秀彦が7月の二回戦に残ったわけだしね。

――早くもその二人のサポートに気持ちが切り替わってるんですか。

こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。柔道四段の実績を引っさげリングス入団。その後、日本人で初めてUFCのレギュラーとなり、"世界のTK"と呼ばれる。一昨年、パンクラス初代スーパーヘビー級王座を獲得。5・5PRIDE.GP、マーク・ハント戦で壮絶に引退。181cm、100.6kg。

TK　サポートっていうか、やっぱり仲間だし。逆に自分は助けてもらったから。当たり前の役割ですよね、これは。それが仲間だと思うし。返しても返しきれないものだと思ってますから。

――では、髙阪さんがこれから長いスパンでやっていきたいことってなんですか？

TK　やっぱり、この総合格闘技のことをもっと知りたいですよね。まだ総合って出始めて13年ですから。自分もやっと少しだけわかったような気がするんですよね。

――髙阪さんが「少しだけ」ですか。

TK　まだまだわからないことだらけですよ、ホントに。だってこの競技はボクシングもキックもレスリングもやらなきゃいけない。で、寝技もあるし。それを全部ひっくるめて自分の形っていうのを作るから、そんなのね、すぐにわかれって言ったってわからないですよ。

――まぁ、技術体系も確立されたわけじゃないですからね。

TK　ホントに。で、自分はいったい何ができるのかっていうところから入らなきゃいけないし。自分の得手不得手っていうところから考えて、やっと少しわかりかけてきたから、もっとそれをわかりたいですね。もっとやっていきたいんです。

――では、これまで以上に総合格闘技を追求していくと。

TK　そうですね。あとは自分がいま現在わかってることを、これからの選手に伝えていく。それが自分の役割だと思います。

――では、最後に。現役生活を振り返ってみて、いま一番心に残ってることってなんですか？

TK　思い出っていうか、日々ホントに必死でやってきただけなんでね。でも、こうやって必死になって行動してきたことが、全部自分に返ってくるんだってことがわかったんで。そのおかげでモーリス（・スミス）とも出会えたし、秀彦とも仲間になれたりとか、数え上げたらキリがないですよ。だから、自分にとっては格闘技という必死になれるものがあったこと自体が幸せですね。なかなかないんじゃないかな、ここまで必死になれるものに出会えるって。

――では、ひとまず選手生活お疲れさまでした！

【5月8日／赤坂・A－SQUAREにて収録】

娘を結婚させてもいいって思ったのは、〝髙阪剛〟って男だけです

"世界のTK" 髙阪剛の恩人（TKおかん談）がちっちゃい『紙プロ』以来、久々の登場!!

糸井重里

髙阪剛にエールを送るとするならば、この方の言葉を欠かすわけにはいかない！　TKおかんに "剛の恩人" とまで言わせた、ご存知、糸井重里氏。デビュー戦からTKの試合、そしてTKの生き様を間近で見ている糸井氏は、この度の引退をどう見ているのか。サクッと切れ味鋭いインタビューを読め!!

聞き手／松下ミワ　撮影／松本崇　写真協力／東京糸井重里事務所

designed by matsu (TwoThree)

"勝つまでやめなければ勝つ"という発想があの試合には詰まっていましたよ。

——今日は、『PRIDE無差別級GP』をもって引退された髙阪剛選手の特集ということで、髙阪選手と大変親交の深い糸井重里さんにお話をうかがいに参りました！

糸井　いやあ、僕はね、『kamipro』が髙阪選手の特集を組むって聞いて、とても嬉しくて。それで取材も即OKしたんですよ。

——うわ～、そう言っていただけると本当に嬉しいです！　本日はどうぞよろしくお願いします!!

糸井　よろしくお願いします。

——では、さっそくその髙阪選手についてですが、試合はご覧になりましたか？

糸井　会場には行けなかったんだけど、テレビで観ました。（ため息まじりに）痛かったよね。

——痛かったですか。

糸井　いろんな意味で痛みのある試合でしたよね。もちろん、髙阪選手自身も痛かっただろうし、観ている僕も痛かった。

——試合翌日の『今日のダーリン』（糸井氏が運営するサイト『ほぼ日刊イトイ新聞』内のコラム）では、14分弱のあの時間は『髙阪剛の自伝』だった、という表現をされていましたけれども。

糸井　言葉でどうこう言うことではないですもんね。本当にあんなに不器用な人はいないですよ。でも、不器用だからこそ、どうしたら勝てるかを一生懸命考えるんでしょうね。"勝つまでやめなければ勝つ"という発想があの試合には詰まっていましたよ。だって、マーク・ハントも呆れてたでしょう。

——なんでコイツは立ち上がってくるんだろう、って顔していましたもんね（笑）。

糸井　イヤだったと思うなあ。それと同時に尊敬の念も生まれたと思う。もっと言うと、その前の『PRIDE・31』マリオ・スペーヒー戦も凄かったですもんね。あれは会場で観ていたんですけど、ああいう試合を見せられると、闘っている人たちって痛みもなんにも感じない瞬間があるのかなって思っちゃいますよね。

——本当に不思議な時間ですよね。

糸井　あと、あの試合のときにおもしろかったのは、観終わって一緒に観ていた人と「凄かったね～！」って話をしていたんだけど、そのときに電話が鳴ったんですよ。「こんな感動的なシーンに誰だよ？」って思ったら、「どうもありがとうございました」って髙阪選手本人だったんですよ！

——あんな試合を見せられたあとで、ご本人から「どうも」なんて言われると調子狂いますね（笑）。

糸井　あれだけ凄い闘いをしたっていう自覚がないんですよ、おそらく。

——なるほど。そんな激闘のあと、髙阪選手はマイクを持って「次、負けたら最後です」っていう話をされたわけですけども、その言葉を聞いたときはどう思われましたか？

糸井　「次、負けたら最後です」なんて言い方をしなくてもよかったんじゃないかと思うんですけれどね。たぶん、「ここで終わりだよ」っていうのを自分に教えてあげないといけなかったんじゃないですか。それがなかったら、髙阪選手はいつまでも続けたと思いますよ。それに、やれることはやったって心から思ったんでしょうね。たとえば、やりたいことが10通りあるとすると、9通りはやり遂げたっていう思いがあったんじゃないかな。

——でも、それだとまだ一つやり遂げてないことがありますよね？

糸井　そうなんですよね。いままでやり遂げた9通りのほかにもっとやることがあるとするならば、それはやっぱり年齢的にできない部分だったっていうことですよね。もう36歳ではできないことだった。

——そもそも、糸井さんはデビュー戦（94・8・20『リングス』横浜文体）から髙阪選手のこと見続けていらっしゃるということですが、そんな糸井さんの目には髙阪選手はどんな選手に映ってますか？

糸井　やっぱり不器用っていうのは絶対あって、本当に自分の身体をいじめる人なんですよね。トレーニングとか見学させてもらっても、なんだか残酷なものを見てるような感じがするんですよ。本人はそれがおもしろいんだって言うんだけれど。

——残酷なのにおもしろい、ですか。

糸井　それに「練習したらこうなるんですよ、ああなるんですよ」って自分を他人のように見てるんですよ。自分の肉体を使って実験しているような感覚っていうのかな。昔、髙阪選手がアメリカで修行してるときに「まず、大きくなることだ！」って言いだして体重を増やしたことがあったんですよ。それはなぜかというと、向こうの選手と試合やっててさ、自分のパワーじゃデカさをはね飛ばせなかったんだって。トレーニングだけじゃ体重差をはね飛ばせないって知って「自分もアメリカ人にならないといけない」って悟ったらしいんですよね。

——「アメリカ人になる」って発想は凄いですね。

糸井　110キロ近くまでなったんじゃないかなあ。あれは意図的にそうしたらしいんですよ。でも、その実験は失敗だったみたいなんだけれど（笑）。デカくなってからも"TKO"で負けちゃうって本人が言っていましたね。

——"TKO"で、ですか？

糸井　髙阪選手の試合って、負けるときはTKOが多いんですよね。なんだか知らないけれど血が出ちゃうから。

——"世界のTK"なだけに（笑）。

糸井　だから、髙阪選手ってそういう実験の繰り返しなんですよ。絶えず自分という弟子と自分という師匠が話し合って練習してるっている感じ。その弟子が素直だからまた師匠の言うことをちゃんと聞くんですよね。それ、見ていて本当にイヤなんですよ。もう笑わないと見ていられないんですもん。

——そんな切ない気持ちになるぐらい残酷な練習をしているんですか。

糸井　でも、それはある意味で、髙阪選手が才能がないからできることだと思うんですよ。恵まれたものを山ほどもらった人じゃないからできる。もっと言うと、髙阪選手って普通の人につながる人生を見せてくれるんですよね。だからこそ、あの引退試合でもみんなの涙を誘ったんじゃないかな。だって、吉田秀彦さんだって最後泣きそうになってたでしょう？　吉田さんって、髙阪選手よりも運勢から何から全部ピカピカ光ってる人なんだけど、そういう人をあんだけ感激させちゃうっていうのは、本当に髙阪選手っていう人をよく表わしていますよね。

——たとえば自分とヒョードルとはつなげられないけど、自分と髙阪選手だと、共感したり、感動したりできる、と。

糸井　あとは、獣になっている感じっていうのが、それが一番少ない選手だと思うんですよね。意識が飛んでいる瞬間っていうのはあるかもしれないけれど、髙阪選手は獣に見えないんですよ。これは木村拓哉くんが言っていたことなんだけれど、知的だって言われてる中田英寿選手みたいなのが、逆に獣になれるって言うんです。彼がサッカーをやってるときは、ライオンと豹が闘うみたいな人間じゃない動きをするって。だけど、髙阪選手はそれは少ないよね。彼の場合は"読める物語"なんですよ。だから、もしかしたら髙阪選手自身、

糸井重里

お見舞いに行けない病気ってあるんですよね。「遊ぼうぜ」っていうメールならできたと思うんだけれど。

一番残念に思っているのはそこかもしれない。

——人間から抜け出せないもどかしさ、ですか。

糸井 それはあると思う。これも髙阪選手がよく言っていたんだけれど、プロの格闘家って一番強いと思われているけれど、そうじゃないんだと。

——それはどういうことですか?

糸井 本当に怖いのはアマチュアのオリンピックに出るような人だって言うんですよ。つまり、アマチュアで強いヤツっていうのは、その時点でもう選りすぐられたヤツなんですよね。だから、そこからちょっとこぼれた自分みたいなヤツがそのぶんプロとして練習して強くなろうとするんだそうです。でも、それを聞いて納得した。現に、吉田秀彦とか小川直也とかが『PRIDE』なんかに出てきてるわけじゃないですか。

——確かに、オリンピック経験者は最近よくプロのリングで闘ってますよね。

糸井 小川のこととかやっぱり人間じゃないって言っていますもんね。あの素質で髙阪選手と同じ練習をしてたら本当に凄いことになるらしいですよ。

——でも、逆に髙阪選手ぐらい努力する才能を持った人ってなかなかいないと思うんですけどね。

糸井 失礼な言い方を続けると、才能がない、っていう才能ですよね。あとは、髙阪選手というのは優れたものに対して無条件にリスペクトするんですよ。それが凄い。若いうちに強くなるヤツってリスペクトする対象がなくなるから、自分だけになっちゃうんですよ。その反面、髙阪選手は自分は下の人間だっていつも思っている人だから、その姿勢の低さが彼を強くしたんだろうなって思いますよね。これは駅伝の大後栄治監督という方がおっしゃっていたんですけれど、走りの世界ではもの凄く才能がある人よりも、それを見て努力した人がだいたい金メダルを獲るそうなんです。一番前を走ってるときに、後ろから抜かれるらしいんですよ。そういう話って、普通の人に対するとってもいい励ましになりますよね。

——本当、自分に希望が持てる感じがしますね。ところで、試合後って髙阪さんとは何かお話はされましたか?

糸井 それがまだ連絡していないんです。

——あっ、そうなんですか?

糸井 お見舞いに行けない病気ってあるんですよね。「遊ぼうぜ」っていうメールならできたと思うんだけれど。以前、あの山本宜久さんと試合(97・4・4『リングス』後楽園ホール)をやったあとなんかは、試合後で全身腫れているのに翌日釣りに行ったりしていたんですけどね。

——そんなことしてたんですか!

糸井 しかも、一睡もしないで。髙阪選手、足が腫れてるからそのときはサンダルで来てましたよ(笑)。だから、きっとあの試合のあとも「明日、釣りに行きましょう!」っていうメールだったら平気でできたんですよ。でも、やっぱりあれだけの試合のあとですから、余韻っていうのかな。そういうのっていままでの彼の人生でなかったですからね。一度ぐらい余韻を持たせてもいいんじゃないかな?

——でも、髙阪さん自身は余韻も何もなく、すでに練習を始めているみたいなんですけどね。

糸井 あ、そうですか(笑)。もう格闘技って髙阪選手にとってはたんに競技じゃなくて、英会話塾みたいなものなんでしょうね。もの凄い豊かな言葉を覚えるみたいに楽しくてしょうがないんでしょう。だから、言い方としては気持ちから身体から全部ぶつけて、激しいコミュニケーションをやってるんですよ。だから、髙阪選手がやっぱり一番髙阪選手らしい瞬間というのは、よく闘った相手とお互いを讃え合って抱き合ってるときなんじゃないですか。一試合の中で4回ぐらいって言ってたかなあ。髙阪選手曰く「ここだ!」って瞬間があるらしいんです。で、その「ここだ!」はお互いにわかってるって言ってたね。だからその瞬間って相手に「気づかれた」って思ったらそれに対応した動きをするし、反対に自分が気づいたときはまたそれ用の動きをするらしいのよ。そしてその4回の中でどっちかが計算違いな何かを導きだしたときに、勝敗が決まったりするらしいんだよね。

——技術とか経験を伴なった心理戦って感じですね。

糸井 だから、よく試合が終わったあとに選手同士が抱き合ったりするじゃん。あれは「おまえってヤツはなんて凄くて偉いんだ!」って感情なんだって。短いあいだにもの凄いコミュニケーションがあって、それを讃え合う感じ。だから、本当に強いヤツと試合をすると、本当におもしろかったって言うんだよね。僕は髙阪選手のその話が一番好きなんだけどさ。

——きっと「俺がそこ狙ってたのがわかってたわけ?」とか言いながら讃え合っているんでしょうね。

糸井 だからさ、時代時代で「コイツには勝てない」みたいな選手って必ず現われるじゃないですか。いまだとヒョードルみたいな。その〝どんでもないヤツ〟が出てくると、僕は髙阪選手に「やりたい?」って聞くんだけど、髙阪選手は決まって「やりたいっスね」って言うんだよね。それはある意味もの凄いスケベな心ですよ。

——ハハハ! なるほど(笑)。

糸井 そのスケベさが僕なんかはうらやましいんですよ。だって僕は言えないもん。

——格闘技をやってるときの髙阪選手って、そういうスケベ心というか、真面目さや一直線な感じが際立って見えますけど、プライベートではどうですか? 糸井さんからご覧になって、髙阪選手ってプライベートもやっぱり真面目なんですか?

糸井 基本的に正直で、何かしてあげるってことよりも、人にされてイヤなことを自分は絶対しないって感じだね。一歩引いた美意識っていうか。

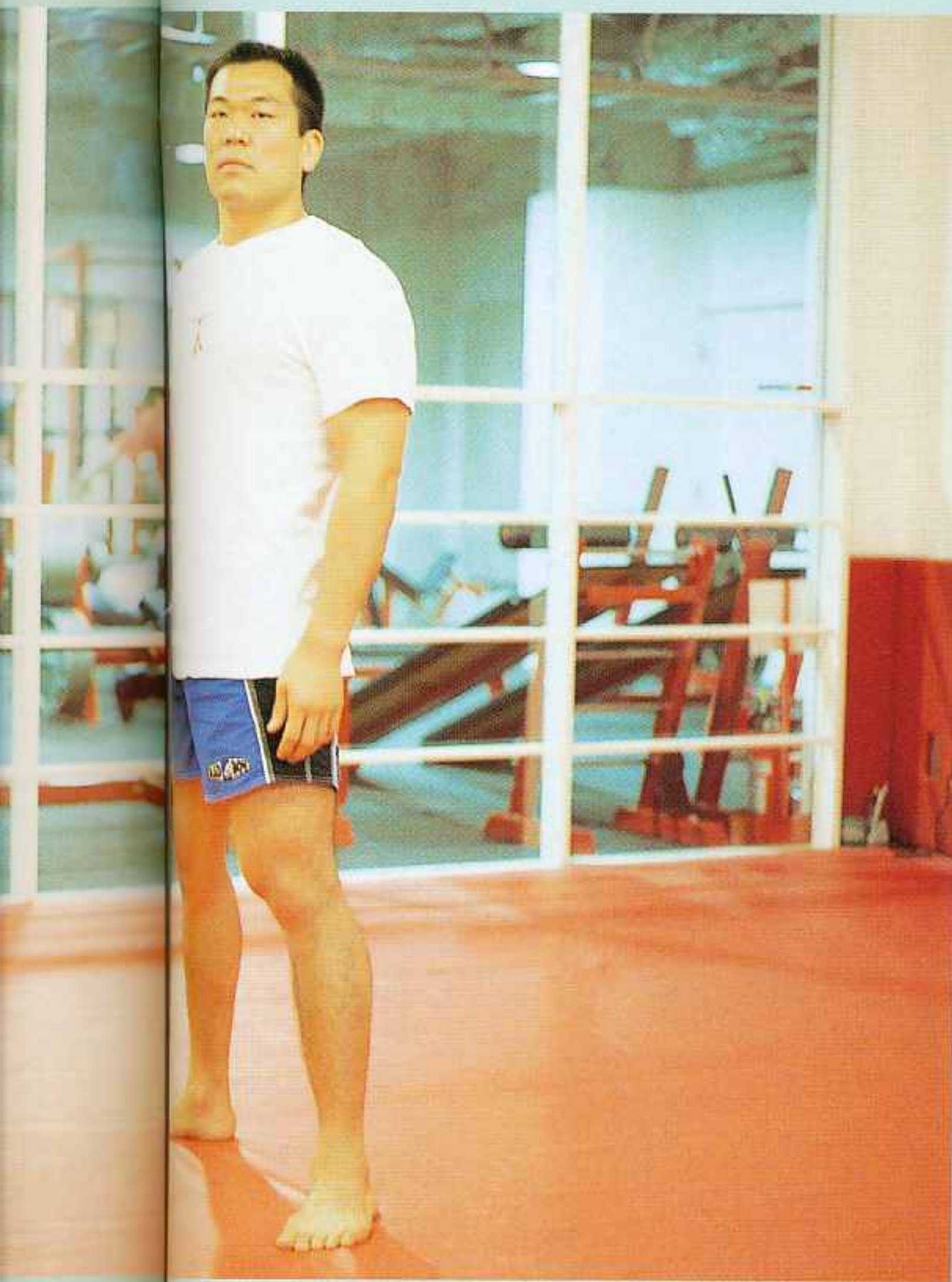
——見た目どおり、あんまりウッカリしたところってないんですね。

糸井 いつもしっかりしてるんだよな。やっぱりどこかに自分を遠くから

焼肉を食べる前に凄い礼儀があるんですよ。必ずどんぶりメシを先に二杯食うんです。

見てる師匠がいるんですよねえ。……あっ！　でも一つだけありました。

―おっ、なんですか、それは!?

糸井　あのね、焼肉なんですよ。

―焼肉、ですか？（笑）。

糸井　髙阪選手って、家族で焼肉を食べていたときに兄弟とかと肉を奪い合ってたらしいんですよ。そういう中で育ったからかわからないけど、一緒に焼肉食べに行くと、ちょっと生焼けぐらいのヤツをね、どんどん自分の目の前の皿に盛っちゃうの。食ったり置いたりしながら。もうね、エサを確保する野獣みたいな感じで。

―かなり動物的ですね（笑）。

糸井　でさ、その言い訳がまたおもしろいんですよ。「僕、猫舌なんで」だと（笑）。

―ワハハハ！　非常に子どもだましな言い訳。

糸井　絶対ウソですよ、きっと。

―やっぱりウソですか（笑）。本当はまったく猫舌じゃない、と。

糸井　初めて目の当たりにしたときは「コイツ！」って思ったんだけど（笑）、でも憎めないことに、髙阪選手の場合その前に凄い礼儀があるんですよ。それは何かというと、肉がくる前に必ずどんぶりメシを先に二杯食うんですね。つまり、肉を全部独り占めしようとする自分を戒めるために、先にご飯を食べて腹を落ち着かせようとするんですよ。そこで善意の部分と悪魔の自分がドラマチックに闘ってるんですよね。

―焼肉の陰にそんなドラマがありましたか（笑）。

糸井　まあ、せいぜいそのぐらいだね。もしかしたらいま聞いても「僕は猫舌だ」って言い張るかもしれないけれど。今度、取材するときに聞いてみては？　まず「嫌いな食べ物ありますか？」とか遠いところから入って（笑）。

―わかりました（笑）。その謎を突き詰めたときには、ぜひ糸井さんにご報告します！

糸井　いいですねえ。でも、そういう姿勢には感激しましたよね。獣である自分を「おまえはそういうヤツだから食っとけ」ってやっているわけだから。

―どこまでも人格者というか。

糸井　僕、一時は自分の娘を髙阪選手と結婚させたいって思ったことがありますからね。

―ええっ!!　それはもの凄い惚れ込みようですね！

糸井　そう思わせたのは僕の人生で髙阪選手一人ですよ、婿でOKっていうのは。家族としては「ちょっとなあ」って絶対いちゃもんつけたくなるじゃないですか、父親って。でも髙阪選手だったらいいなって思った。まあ、娘はキムタクのファンだったからダメだったみたいなんですけどね（笑）。

―でも、自分は女だからはっきりとはわからないですけど、髙阪選手みたいな方を〝男が惚れる男〟って言うのかなっていうのは感じますね。

糸井　逆にどうですか？　髙阪選手みたいな人は。

―自分ですか？　自分はやっぱり、どちらかというとキムタクが……。

糸井　ワハハハハ！　あ、やっぱりそうですか（笑）。

―いやいや、いまのは冗談ですけれど（笑）。

糸井　（考え込んで）う〜ん、いいヤツなんだけどなあ。っていうか結婚しているんだけれどね（笑）。おもしろいのがさ、その奥さんとの結婚が決まったときに「結婚します」って僕に連絡をくれたんです。聞いてもないのに「相手はちゃんと人間です！　もちろん女です!!」って。それまでほかの人に散々「人間か？」って同じ冗談言われたんでしょうね（笑）。

―ハハハハ！　もう、先手を打っておこう、と。

糸井　そういうところも律儀なんですよね。

―そんな髙阪選手は今回のハント戦で引退ということにはなりましたが、本人は「自分は一生格闘家でいたい」っておっしゃってるんですよね。そういう意味で、糸井さんとしてはこれからの髙阪選手に望むことって何かありますか？

糸井　いや、とくにこうしてほしいなんてないですよ。逆に、僕が思ってるようなところで収まっちゃうようならつまんないんですよね。だから一つ望むとすれば、退屈させないでほしいってことですよね。「今度はそれかよ！」って驚くようなことをしてほしいな。……あっ！（思い出したように）そういえば、髙阪選手がへんに可愛いプードル飼ってるの知ってます？

―い、いや、ちょっと知らなかったですね。

糸井　ふざけてますよ（笑）。妙に美形のプードルなんです。

―犬って、普通は飼い主に似るって言うんじゃなかったですっけ？

糸井　ぜんぜん！　もうね、お茶目でキュートな犬。

―人間って、たまに自分が持ってないものがほしくなるって言いますけど、そういうことなんですか？（笑）。

糸井　そうそう。だから、僕も同じなのかな。髙阪選手には僕のできないこと、僕が思いつかないことをやってほしいということですよね。

―おおっ、なるほど！

糸井　そういうことですよ（ニッコリ）。

―わかりました。今日は本当にお話をうかがえてよかったです。お忙しいところありがとうございました！

糸井　いえいえ。髙阪選手特集、楽しみにしています！

【06年5月8日／東京糸井重里事務所にて収録】

約3年間のアメリカ修業から帰国後、TKは糸井さんの協力のもと、前・東京糸井重里事務所があった「明るいビル」に「G-スクエア」をオープン。また、糸井さんとTKがかなり親密な釣り仲間であることは有名な話。

糸井重里さんのサイン色紙をプレゼント！

糸井さんに「髙阪選手にひと言、メッセージを！」とお願いして書いていただいたのがこの言葉。TKの生き様を見れば、この言葉にうなずかないヤツはいない!!（※糸井重里さん直筆のこの色紙を2名様にプレゼントします。応募方法は154ページをご参照あれ〜）。

高阪剛は
えらい。
糸井重里
2006.5.8

感動、絶叫、大号泣!!

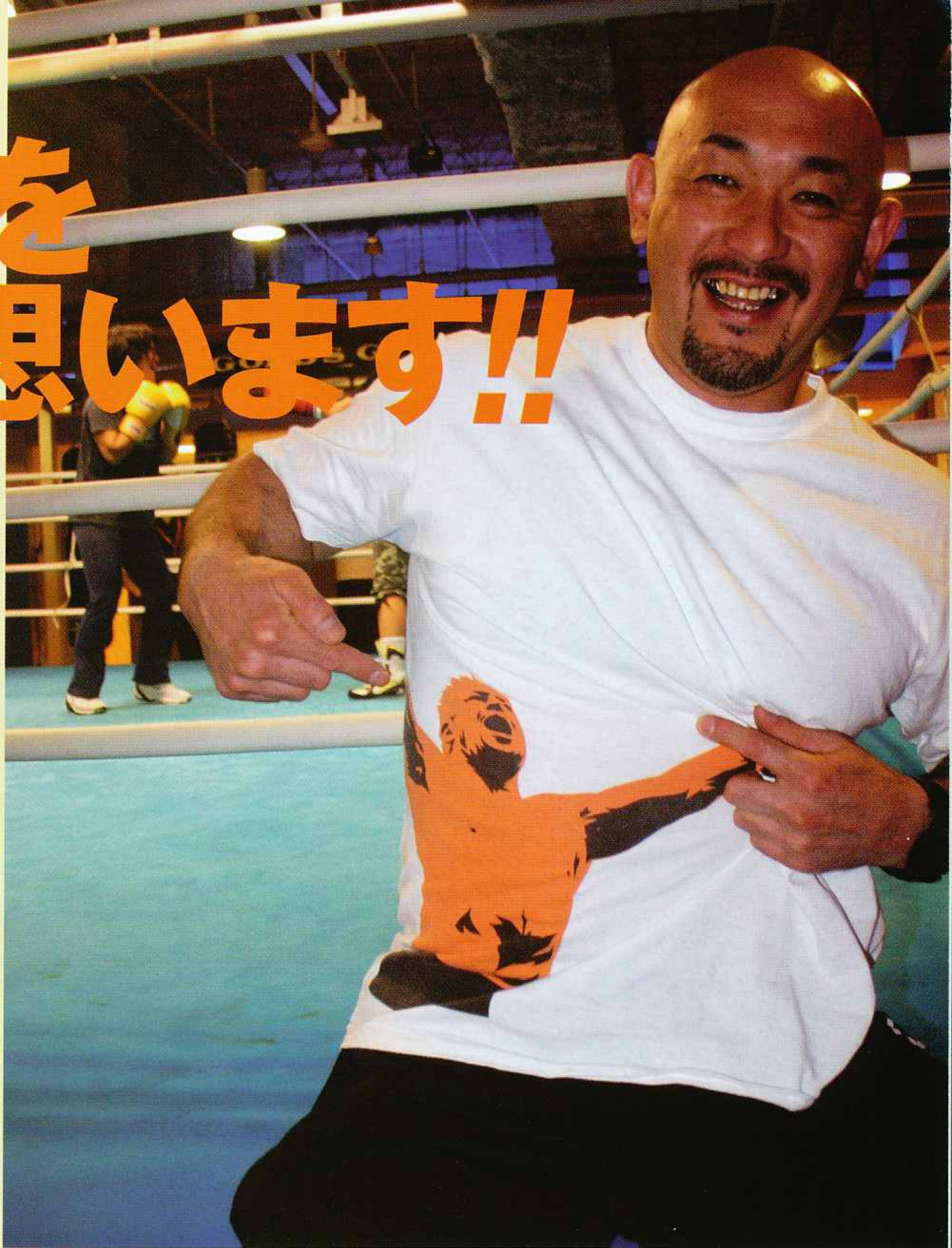
髙阪剛を誇りに思います!!

TK&藤田のパーソナルトレーナー
またの名をモンスター調教師

和田良覚

『PRIDE無差別級GP』で暴れまくった二匹の野獣、TK&藤田。彼らを存分に“調教”し、堂々とリングに送り込んだのが、“最強レフェリー”和田さんだ。TKの死闘に涙し、藤田のピンチに一喜一憂する熱血トレーナー・和田さんが、二人の死闘をおおいに語る!

聞き手／堀江ガンツ

designed by matsu（TwoThree）

――今日は髙阪さん、藤田さん、桜庭さんと関わりの深い〝重要参考人〟和田さんにいろいろお話をうかがいたいと思います（笑）。

和田　僕が重要参考人ですか!?（笑）。ただの一般ピープル、ハゲ親父ですよ～。

――桜庭選手の〝サプライズ〟を仕掛けた〝黒幕〟も和田さんだって聞いてますけど（笑）。

和田　ハハハハ！　な～に言ってんの！　僕、あのときレフェリーとしてリングサイドにいたら、サクが出てきてもうビックリ！　思考停止しちゃったんだから。勘弁してくださいよ！　あの晩、高山（善廣）君と「タイガーマスクにしてやられましたね」ってメールしたぐらいだからね（笑）。

――ダハハハ、冗談はともかく（笑）、今回は5・5マーク・ハント戦をもって引退された髙阪さんについてですが。

和田　僕、その日は会場に行けなくてPPVを観てたんですけど、もお～大泣きしましたね。鼻水どころか、画面に向かって号泣。

――いやぁ、ホントにあれはみんな泣きましたよね。

和田　だから、いま思い出しても……（涙目になって）ヤバイです。話していると、泣けてきますね（涙を拭って）。

――もう、今日は二人で泣きながらやりましょう（笑）。

和田　（泣きながら）うっぐ。……もうヤバイ。

――どうぞ、どうぞ（笑）。

和田　ゴメンなさい。あの……、あの僕は今回、TKのフィジカルトレーニングをずっと見てたんですよ。TKが引退を懸けてやるってことで、僕も彼も、もう限界ギリギリのところまでやったんです。TKってあんな性格ですからね。もう二言はないなってわかってましたから。

――ならばトレーナーとしてその心意気に応える、と。

和田　そうですね。当然、TKも僕のやり方ってわかってくれてるんですけど、僕のスタイルってやっぱりキツいんですよね。それを週3回はやってましたからね。はっきり言って、もの凄い練習量でしたから。僕以外の練習も合わせて週6日みっちり。

――6日ですか!?

和田　総合3回、ボクシング3回、スピードも3回、フィジカルトレーニング3回。とにかく、ビッチリ。

――36歳という年齢からいったら、本当に限界ですよね。

和田　いや、ホントに。だから僕も、一つ一つのやりとりに凄く緊張しましたもん。「いま腰の具合は？　ヒジの具合は？　肩はどうだ？」っていちいち聞きながら。さっき言ったみたいに年齢的なことがあるから、僕もケガは絶対させられないけども、でも限界ギリギリまでやらないと、間違いなくパフォーマンス上がらないなって思ったんですよ。それに、TKも人生懸けてるのわかってるからね。

――その緊張感は肌に突き刺さりそうな感じがしますね。

和田　だからね、僕の頭にもいろんな思いが頭を交錯しましたよ。

――まあ、それであの入場ですからねえ。「やれることはすべてやってきた」というのが、もう表情に……。

和田　（さえぎって）わかったでしょ!?　あのオーラっていうか、まあ～凄かった！　あの試合のあと、僕もいろんな人からメールだとか、電話だとかジャンジャン入ってきたんですけど、格闘技に興味あるとかないとか関係なくて、みんな泣いたらしいですから。「感動しました！」「髙阪さんによろしくお伝えください！」って、いろんなジャンルの人から連絡があって。（感慨深げに）本当にカッコよかった～、TK。ホントにカッ

コよかった！
——だから今回、僕なんかも一番嬉しかったのは、本当に多くの人が最後にTKという素晴らしい格闘家がいることを知ってくれたってことじゃないかと思うんですよね。
和田　僕もそれは誇りに思ってますよ。あれはもう格闘技のスキル云々よりも、魂ですもんね。格闘技の原点。もう、口で語ることはできないんだけどさ。セコンドやってたカズオさん（髙橋義生）にあとで聞いたら、試合中、最初のほうに記憶が飛んでたらしいんですよ。
——そうだったんですか!?
和田　だから記憶がない状態で闘ってたんです。それで何が凄いって、目が死んでないんだよね。最後だって、前のめりに倒れたじゃないですか。要するに、それって彼が昔から練習の虫だったからできたわけだし、ここ最近のもの凄い集中力がなかったら、あんな試合はできなかっただろうなって。本能で向かっていく姿勢というか、普通はいけないですから！　絶対いけない!!
——とことん自分に厳しく練習してきたからこそ、土壇場で気迫が出せたんでしょうね。
和田　そこまで作り上げた、要するにピークをもっていった過程も本当に素晴しかったんだろうなって。だから、僕もやり甲斐を持って「期待に応えなきゃ」って必死でしたね。でも、あんな試合を毎回やってたら死んでしまいますよ！
——ホントにそうですよね（笑）。あの試合だって、それこそ立ったまま死ぬんじゃないかって思いましたもんね。対戦したハント自身も、あんな男は初めてだったんじゃないですかね。
和田　あんだけ屈強なハントでも、退きましたからねぇ。もう、僕ね、なんてしゃべっていいかわかんないぐらい。でも、いまの若い選手たちがさ、あれを観てどう思ってくれたのかなってのが気になるよね。あのTKの命を懸けたメッセージを。
——これを観て何も感じないようなら、格闘家やめたほうがいいって感じですよね（笑）。
和田　そのぐらいのものはあった。そういう意味で、髙阪剛は達人の域に行くと思いますよ。
——まあ、本人は〝一生格闘家〟でいくって言ってるわけですから、もっと達人度は上がっていくでしょうけど。
和田　でも、あれで引退するのはもったいない。だからね、本人は嫌がるかもしれないけど、TKには『PRIDE男祭り』で、もう一度、引退試合をやってもらいたいな。「榊原社長、お願いします！」って感じで（笑）。
——いや、ホントに、せめて引退式ぐらいはやって、送り出したいですよね。
和田　今日の総合格闘技において、TKが果たしてきた役割って、本当に大きいんだから。それに今回の『PRIDE無差別級GP』だって、素晴らしい試合がたくさんあったけど、火をつけたのは間違いなく髙阪剛だよ。
——ホント、髙阪さんの気迫が、そのあとのジョシュ、藤田選手、吉田選手につながった感じがありましたよね。
和田　そう！　間違いなくそうなんですよ。でも藤田くんに関しては、もう、見てるほうが心臓に悪くて、カンベンしてください！　っていう感じでしたね（笑）。トンプソンが思ってたより藤田くんのことを研究してたってのもあるかもしれないけど。
——前半は本当に危なかったですもんね。
和田　僕が藤田くんに言ってたのは、「ファーストコンタクトと単調なタックルだけ気をつけよう」ってことだったんですよね。あんだけの圧力があるし、よーいドンで突っ込んでくるタイプだからさ。それだけ気をつければ、あとはスパッとタックルに入れるから、なんて言ってたら、「なんだよ、これ〜？」って（笑）。
——ダハハハ！　なんで止まっちゃうの!?　って（笑）。
和田　だから、あのときもTKの試合と一緒で、……っていうか違う意味で大絶叫してましたよ。だからね、本当にあの日は興奮しまくりで、疲れましたよ（笑）。正直、藤田くんは「これはもう打つ手ナシかな」って思ったし。「これはやられた」と思いましたよ。
——藤田選手、スタミナも切れかってましたしね。
和田　完全に切れてましたね。総合の試合から離れてたってのもかなり大きかっただろうし。だから、もう最後は魂しかなかったね。でも、追い込まれてあんだけ力が出るんだから、まさに野獣。やっぱり凄いっすよ。しかも、20キロ近い体重差があったんだから!!
——これで藤田選手はセカンドラウンド進出が決まりましたけど、試合まであと2カ月ないんですよね。
和田　そうなんですよ。来週ぐらいから早々に動き出しますよ。試合が終わって、もうボクシングの先生ともメールでやりとりしてますからね。次も魅せてくれると思いますよ。
——次はより厳しい試合になるでしょうからね。
和田　だから僕も一生懸命頑張りますよ。藤田くんもそうだけど、TKとかの生き様を見せられると、ボクももっともっと頑張らなくちゃと思いますからね。本当に感動させてもらいました。カッコよかったな〜。
——じつはこのあと、髙阪さんの取材なんですよ。
和田　そうなんですか？　じゃあ、伝言伝えてください。「TK、最高に感動した。俺がもし女だったら、どんないやらしいことでもさせてあげる」って（笑）。
——ダハハハ！　了解しました（笑）。
【06年5月8日／大森、ゴールドジムにて収録】

あの試合はいまの若い選手へのTKの命懸けのメッセージですよ！

リングス時代、流血によるドクターストップながら、皇帝ヒョードルに唯一勝利しているTK。そのときのレフェリーがご覧のとおり、和田さんだったのだ。

道なき道を開拓し続けた男 TK激闘史

94年にリングスデビュー以来、総合格闘技という道なき道を開拓し続けた男、TK。ここでは、そんなTKの激闘の歩みを写真で振り返ろうと思ったが、やっぱりTKの歴史を1Pで振り返るなんて無理だったよ! しかも、イーゲン井上戦、キモ戦、トム・エリクソン戦などの重要な試合は写真が手に入りませんでした。それでも、「裏切られた気分」なんて言わず、TKの偉業のほんの一片でも感じ取ってください!

01

[94.08.20/リングス]

○ vs 鶴巻伸洋

(5R 1分30秒 KO)

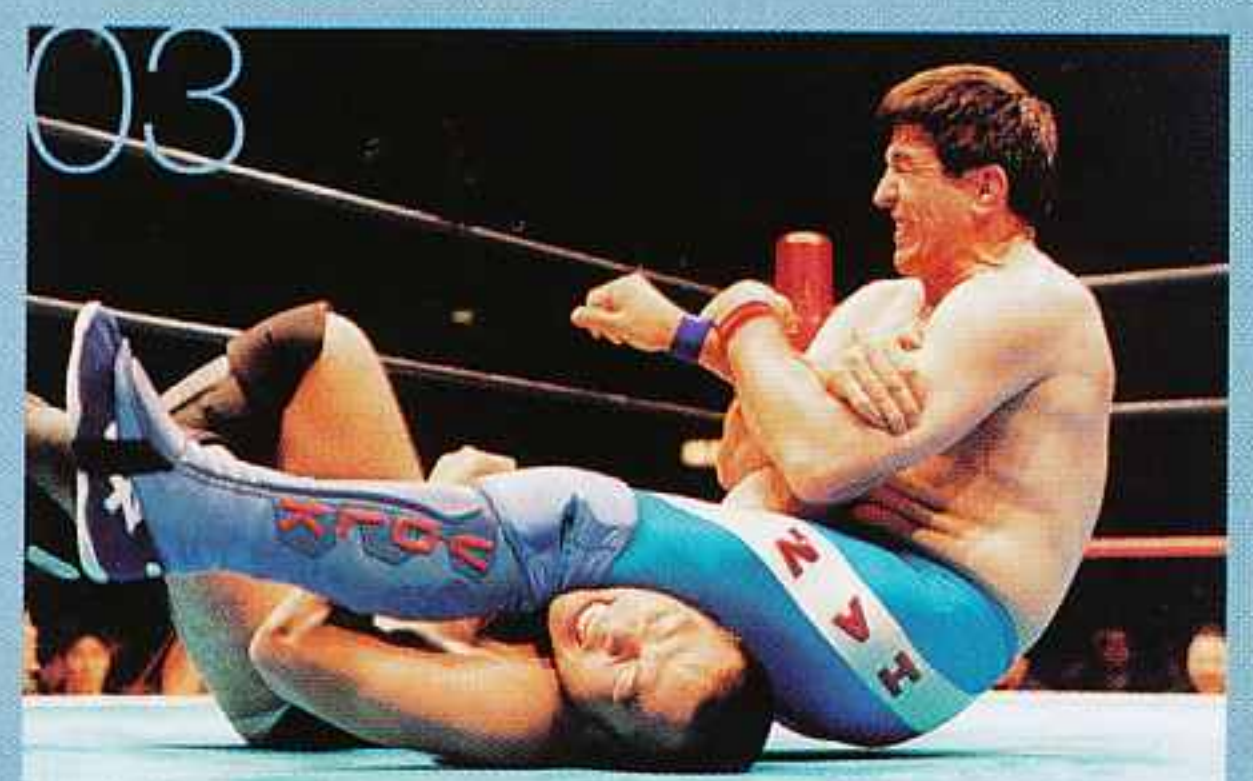
成瀬昌由、山本宜久に続く、リングス生え抜き第3号となったTKのデビュー戦は、いきなり他流試合。サブミッションアーツの鶴巻を相手に、掌底でガンガン攻めまくり、ひたすら前へ出てKO勝ち! TKの前に出るファイトの原点はこの試合にあったのだ。

02

[96.01.24/リングス]

○ vs モーリス・スミス

(2分28秒 ヒールホールド)

デビューわずか1年半で、K-1、パンクラスで活躍した超大物スミスに完勝! スミスはこの一戦でTKの実力を認め、自らの寝技コーチとしてTKを米国へ招聘。この闘いが“世界のTK”への第一歩だった(ちなみにスミスは“TK”の名付け親でもある)。

03

[96.08.24/リングス]

× vs ヴォルク・ハン

(13分52秒 腕ひしぎ十字固め)

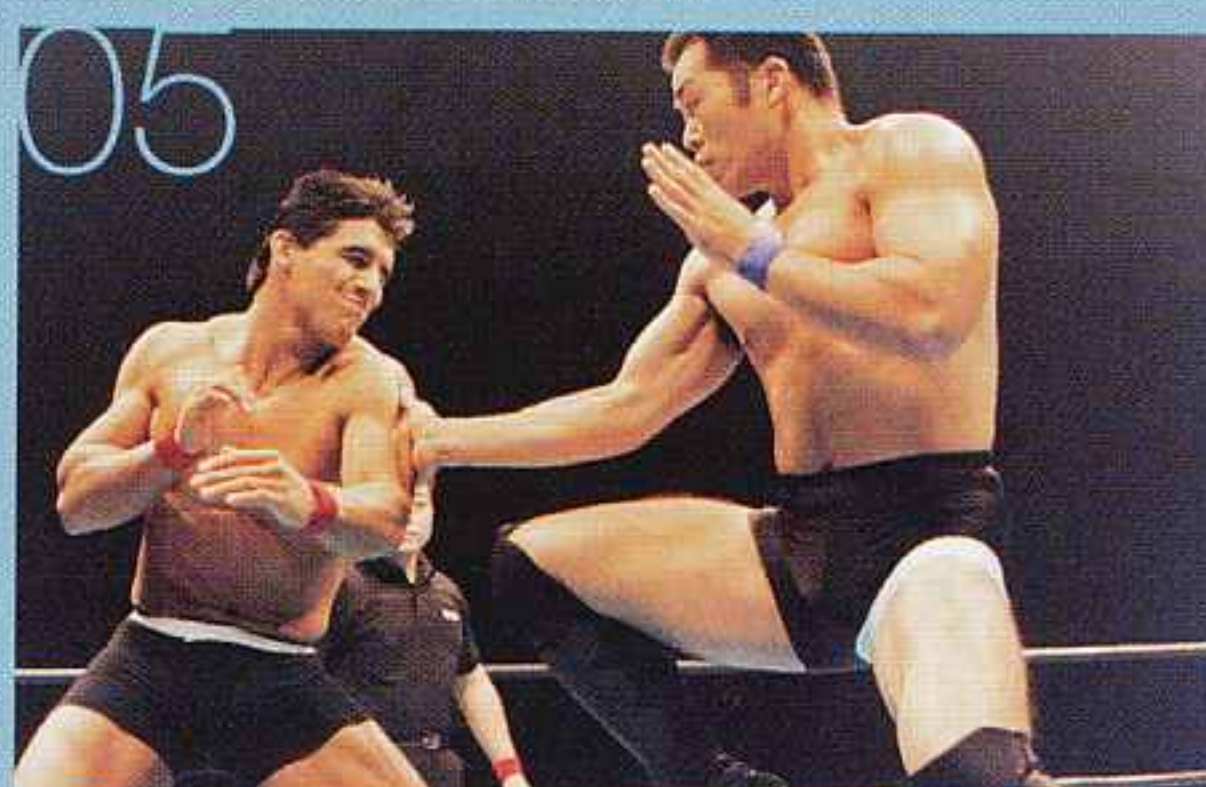
リングス時代のTKにとって、目標であり、大きな壁であったのが、あのヴォルク・ハン。変幻自在のハンのサブミッションに、TKが寝技で必死にくらいつき切り返していく攻防は、回を重ねる毎にレベルアップし、リングスの闘いを確実に進化させた。

04

[97.04.04/リングス]

○ vs 山本宜久

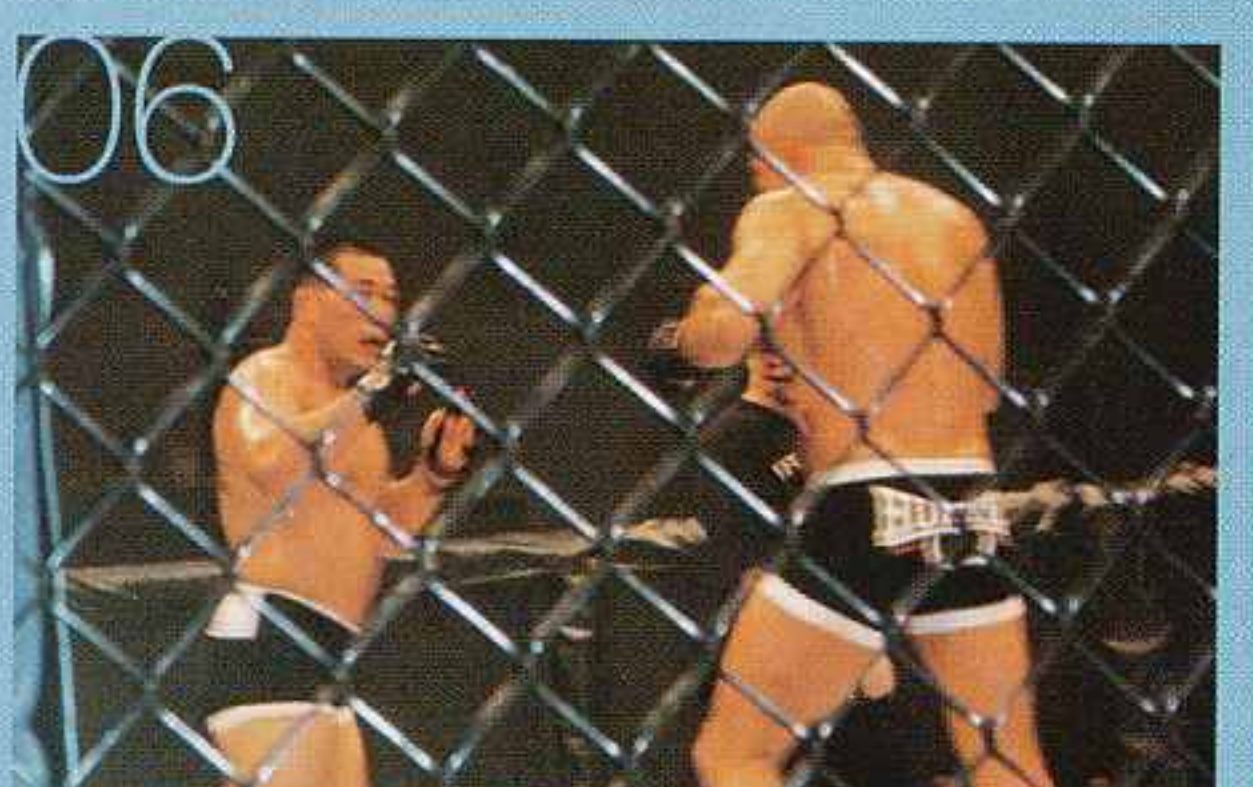
(20分 判定)

リングスでは、“先輩超え”は大きな意味を持ち、そして難しいものだったが、TKは当時、田村と二枚看板だったヤマヨシをなんと撃破! しかも、あの前田をして「UWFから数えて三本の指に入る」と絶賛するほどの名勝負をやってのけたのだった。

05

[97.09.26/リングス]

× vs フランク・シャムロック

(30分 判定)

リングス初登場の大物フランクをTKが迎撃。1エスケープ差でTK判定負けとなったが、当時としては最高レベルの激闘だった。この一戦から友情が芽生え米国で二人は盟友に。その後、フランクはUFCミドル級王者に、TKは“世界のTK”と呼ばれるようになった。

06

[99.01.09/UFC28]

× vs バス・ルッテン

(延長R 2分15秒 TKO)

キモ、P・ウィリアムズを破りUFC2連勝のTKが、次期UFC王座を賭け、元パンクラス王者ルッテンと激突。この試合でTKは最後の最後に逆転負けを喫したものの、終始ルッテンを攻めまくり、UFC史上に残る激闘を展開した。

07

[99.01.23/リングス]

○ vs 田村潔司

(9分42秒 逆十字固め)

ヴォルク・ハンと共に、TKがリングス時代、もっとも名勝負を繰り広げてきた相手が田村潔司。TKとKT、異なる技術を持つ相手の技を切り返していく、その至高の攻防は、まさにUスタイル、リングススタイルの一つの頂点だった。

08

[00.08.23/リングス]

△ vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

(2R ドロー)

99年KOKでリングスに初来日し、準決勝でダンヘンに僅差の判定で敗れたものの、優勝と同等の実力を見せつけた若き日のノゲイラとTKが対戦。試合はTKが試合中ヒザを痛めたこともあり、ノゲイラやや有利のドロー。『PRIDE』で決着戦が見たかった!

09

[01.02.24/リングスKOK2000]

× vs ランディ・クートゥアー

(2R 判定)

日米“格闘技界の賢者”同士の対戦がリングスKOK準々決勝で実現。TKはクートゥアーの片手で首を固定しながらのショートアッパーに苦戦するが、払い腰で豪快に投げ捨てるなど、UFC王者に対して堂々応戦。敗れてなおTK強しを印象づけた。

10

[01.04.12/ADCC2001]

× vs ホーレス・グレイシー

(10分 判定)

組技世界一決定トーナメント『アブダビ』にTKが初出場。一回戦でいきなり伝説の最強グレイシー、ホーウスの息子、ホーレスと対戦。TKはアブダビ独特のポイントで敗れたが、その目まぐるしい寝技の攻防は、大会ナンバーワンと言っていいものだった。

11

[02.09.07/DEEP]

× vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ

(3R 判定)

リングス活動停止後、TKがDEEPのリングに初登場。ノゲイラの弟ホジェリオと対戦。TKは序盤からアグレッシブに攻め、何度か一本を奪えそうなチャンスを作るも惜しくも逃げられ、終盤、打撃での反撃を許し、惜しい星を落とすこととなった。

12

[04.11.07/パンクラス]

○ vs ロン・ウォーターマン

(3R 判定)

一時、なぜか新日本プロレスが主戦場だったTKがパンクラスに初登場。いきなりスーパーヘビー級王座決定戦に出場。TKは圧倒的な対格差、パワー差をこれまで培ってきた技術と気迫で封じ込め、見事勝利! 格闘家として初の王座に輝いた。

〝男の中の男〟髙阪剛を
育てた両親が語る
笑いと涙の親子愛物語

TKとオカンと時々オトン

“世界のTK”髙阪剛引退記念企画
“オトン”髙阪一男さん&“オカン”髙阪フミさんinterview

リリー・フランキー著『東京タワー　オカンとボクと、時々、オトン』が巷では感動のベストセラーとなったが、わが格闘技界にも濃厚な親子愛が存在する。そう、我らがTKとそのオトン、オカンだ！　とくにオカンは会場での「ツヨシィ～～！」の絶叫で、TKファンにはおなじみ。というわけで、TKの壮絶な引退試合翌日、滋賀県のTK実家まで、オカン&オトンのお話をうかがってきました。

聞き手／原タコヤキ君　撮影／乾晋也　構成／堀江ガンツ　designed by shiraki (TwoThree)

道なき道を開拓し続けた男 TK激闘史

94年にリングスデビュー以来、総合格闘技という道なき道を開拓し続けた男、TK。ここでは、そんなTKの激闘の歩みを写真で振り返ろうと思ったが、やっぱりTKの歴史を1Pで振り返るなんて無理だったよ！ しかも、イーゲン井上戦、キモ戦、トム・エリクソン戦などの重要な試合は写真が手に入りませんでした。それでも、「裏切られた気分」なんて言わず、TKの偉業のほんの一片でも感じ取ってください！

——以前、この『紙のプロレス』で取材させていただいた、原と申します！ 改めまして！（と名刺を差し出す）。

お母さん（以下、オカン） 一博さん？ あら、うちの長男と同じ名前！

——以前もそうおっしゃってましたね。よろしくお願いします。

ガンツ 初めまして！（同じく名刺を差し出す）。

オカン ガンツさん？ 珍しいお名前ですわねえ！

ガンツ どう見ても本名じゃないと思うんですけど（笑）。

オカン あら、そう？ ホホホホ。

——今日は滋賀県の髙阪家にお邪魔しているんですけど、ここが髙阪さんが生まれ育ったお家ですか？

オカン 生まれたのはここじゃないんですよ。大津で生まれたんですわ、剛は。生まれたのが昭和45年の3月6日ですけどね。その年に主人が商売やって失敗しまして。ほんで9月にここに引っ越してきまして。

お父さん（以下、オトン） 剛の生まれた家はね、昔ながらの家でして、屋敷も広かったし、立派な庭もありまして。田んぼもあって小作もさしてたくらいで。で、私が商売してましてね、その当時で5000万近い不渡りをもらってね（以下、髙阪家の苦難の日々が延々と語られるが、泣く泣くカット）。

オカン お父さん、長いわ！

——ワハハハ！ そういえばお母さん、この家で髙阪さんはトイレの壁を壊したんでしたっけ？

オカン そうそう！（お兄さんの刺繍入りの学生服を勝手に持ち出したと誤解されたTKが、長男の一博さんと口論になり、お父さんに叱られた一件）。うちでは長男は絶対なんですわ。次男、三男は口答えするなっちゅうね。それで剛は三男であるがゆえに悔しい思いもあったんでしょうね。ほんでトイレに入ったまま なかなか出てけえへんから、「何してんねん！」言うて見にいったら、壁にボコッて！

——ワハハハハ！

オトン あの、うちの壁は泥壁やのうて、石膏ボードが表裏の両側に貼ってあったんですけど、普通、あんなん破れないんですよ（笑）。

——さすがやなあ（笑）。で、本題ですけども、昨日、髙阪選手が現役を引退しまして、そのへんのことをお父さんとお母さんにお聞きしたいんですが、まず、前回の『PRIDE・31』のvsマリオ・スペーヒー戦後にマイクで引退を発表しましたよね。それは事前にご存知やったんですか？

オカン いやもう、全然！ あの子は何事に関してもそう！ この世界に入るときもそうでしたわ。前田道場の試験も終わって、もう次の日からそこでご飯食べるんやという段階で、夜にお父さんにこうやって（土下座して）。

——東レにいてたときですね。

オカン それを私が後ろから聞いて「何事や！」言うて。もう、私、台所でワンワン泣いて！

——ワハハハハ！

オカン 「絶対にやらさん！」言うて。でもね、親に言う前に、あの子はいつも誰かにアクション起こしとるんですわ。だからそのときは長男、次男に自分の行きたい道を言うて、了解してもらってたみたいですわ。長男は冷静に「剛のしたいようにやらしたれ！」ってね。私を台所から出さんように押さえてましたわ。「いま剛がオトンに話してるから行くな！」言うて。だから今回の引退も、そうやと思いました。「ああ、これは嫁のミカにオッケーとってるな」って。私らも何も言うまいって。

——さいたまスーパーアリーナには行ってはったんですか？

オカン いえいえ、ほら、ミカが（出産）予定日やったから。

——ああ、そうかそうか。

オカン そやから私は「あ、これはお腹の子どもが後押ししたんや」という思いがあったんですわ。そしたら剛も同じようなこと思ってたみたいで、「後押しがあって前に出られた」っちゅうようなこと言うてましたね。

——引退と聞いてどう思われました？

オカン 剛は「育てたい弟子がおるんや」って言うてましたのでね。「ああ、もうこの子は次のやりたいことをやるんやなあ」と思いましたね。ただ、「ああ、もう一回、ベルト獲ってほしかったなあ」っちゅう気持ちも反面ありましたけどね。2月の26日終わってすぐ、明くる日にこっちに来ましてね、そのときに「オレ、引退するで」って言うて、「それはミカと相談の上やな？」って言うたら「うん」って。だから、「ああ、もうこれは何があっても、誰が言うても、（現役には）戻らんやろう」って思いました。次男のホームページと剛のホームページは一緒に開くようになってるんですけど、「まだ引退せんといてくれ」っていっぱい書き込みがあったらしいですけどね。

——なるほど。お父さんは髙阪さんにどんな

次の相手は「ハントや」って聞いてヴォルク・ハンとやるんやなあって

見てみぃ、このトロフィーの数！ 本邦初公開、TKのオトンは日本を代表するカラオケチャンピオンだったのだ！ 凄いぜ、髙阪家！

長いあいだお疲れさま！ 世界のTK 仲間たちからのメッセージ集

リングス時代の先輩 "自由人"成瀬昌由

ハント戦はテレビで観たんですけど、あの試合はホント凄かったね。ちょうど、その試合の日、ゴールドジムで練習してて、モニターで観てたらジム中のみんなが集まってきてね。たまたまだけど、そこにオーちゃん（小川直也）もいてさ、オーちゃんも釘付けになってたよ（笑）。あの試合から感じたのは、高阪の執念ですよね。

これまで闘った選手の中でもハントっていうのは一番最強の打撃の持ち主だったと思うんですよ。体重もあるし。そんな選手と、あそこまで打ち合って、最後まで諦めることなく立ち上がっていったのは、あの試合に懸ける執念だよね。選手って枠だけじゃなく、日本人の中でも、あそこまでの生き様を見せられる人間って少ないんじゃないですかね。

あの試合を見ると、周りは「もう一丁！」って思うかもしれないけど、高阪の性格的にそれはないだろうね。アイツの大学の先輩の某プロレスラーのように何回も引退して、また復帰するようなみっともない真似はしないだろうけど。

高阪はここ最近、『PRIDE』に何回か出てたけど、総合ブームって言われるようになってから『PRIDE』を観るようになったファンが多いと思うんだよね。そういう意味では、リングスの頃の高阪を知らない人もかなりいるだろうから、それは残念だなって思うよね。ホント、高阪っていうのは凄い選手だったっていうのを、もっとたくさんの人に知ってもらいたかったっていうのはあるね。

剛がどんな状態になっても最後まで見届けるのが私の役目やと思いました

ことを言われたんですか?

オトン　「自分で腹くくって決めたんなら、悔いのないようなかたちで男らしくスッと引け」と言いました。それしか言うてません。「うん、そのつもり」って本人も言いました。迷う心は全然なかったみたいですね。

――髙阪さんらしいですねえ。で、5月5日が近づくにつれて、お母さんはどういう心境やったんですか?

オカン　もう、とにかく家にチケットが届かないんですよ！　着いたの5月1日かなんかですよ。そこへもって対戦相手がなかなか出てこなかったでしょう?

――そうでしたよねえ。

オカン　「ひょっとしたら試合が流れるんとちゃうかなあ」いうて心配してました。剛にも地元の方がチケット頼んでましたしね。でも剛はガンガン試合に向かって練習してるから「流れるんちゃうか?」なんて言われへんしねえ。だから、「チケットはどうなったんや?」というメールは二回ほど入れたんですけどね（笑）。それで山科の親戚が私にメール送ってきてね、「剛の次の相手はハントや」って。ほんで私、それを見て、「ハンと?」って。

――ワハハハハ!!　なんで『PRIDE』でヴォルク・ハンなんですか！（笑）。

オカン　「ヴォルク・ハンとぉ?」って。ヴォルク・ハンも剛が超えよう、超えようと思って、何度も挑んだ相手ですからねえ。で、「あの人、ええトシやんなあ。『PRIDE』の人が剛に華持たせようとしてくれてんねやろうか?」って思って（笑）。

――いまTK vsヴォルク・ハンは夢のカードですけどね（笑）。

オカン　ほんで「あのヴォルク・ハンか?」ってメールで聞いたら「いや違う。ハントや」言うて。そんな名前の人、初めて聞くやないですか?

――いえ、相当有名です（笑）。ヴォルク・ハンに間違える人のほうが珍しいですよ（笑）。

オカン　ほんなら格闘技に詳しい人が「凄い相手や」って教えてくれはって。どう凄いか聞いたら「とにかく凄いんや！」って。

――K-1チャンピオンですからねえ。

オカン　それを聞いてから十日くらいかな?　それからは「どんな状態でも（試合を）キチッと見届けるっていうのが私の役目や」と思いましてね。勝つ姿であろうが、最後、血だらけになってマットに倒れようが、私は見届けると思いました。

――お母さんはたまに試合のアドバイスをするとおっしゃってましたが、今回はなかったんですか?（笑）。

オカン　今回もアドバイスのメール入れたんですわ！

――えーっ！（笑）。

オカン　いや、ホント。「（対戦相手が決まって）やっと的が絞れたね」ってメールしましてね。「何事も一番最初に戻って、もう怖がらんと前へ進め！」いうて。そういうてアドバイスしました！（キッパリ）。

――さすがですねえ！（笑）。ほんで、まさにその通りになったじゃないですか！

オカン　私の言う通りです！（キッパリ）。親子の気持ちがしっかりつながってるなって思いましたね。そやから私が試合中「タックルせえ！　タックルせえ！」って言うたんが聞こえたのか、3回くらいタックルしよりましたもんね！

――あれはお母さんの声を聞いてのタックルやったんですね（笑）。

オカン　ほんで私、試合終わってバックステージに行ってね、「おまえ、あれ、タックルした

あまりにも衝撃的なＴＫの少年時代の秘蔵写真。まず上が小学校の卒業写真だが、もうすでに貫禄が漂っているところが凄い。そして下は高阪３兄弟とオトンだが、オトンの顔が現在のＴＫに衝撃的にソックリなことにまたビックリだ。

TKとリングスほぼ同期入門
“巨乳殺し”坂田亘

引退ってことに対しては、ホント、お疲れさまって感じだね。このあいだのハント戦はテレビで観たんだけど、画面越しにも気持ちが伝わってきたしよかったと思うよ。“らしい”かったよな。俺は若い頃から一緒にいたから性格とかもわかるし、彼らしいと思った。

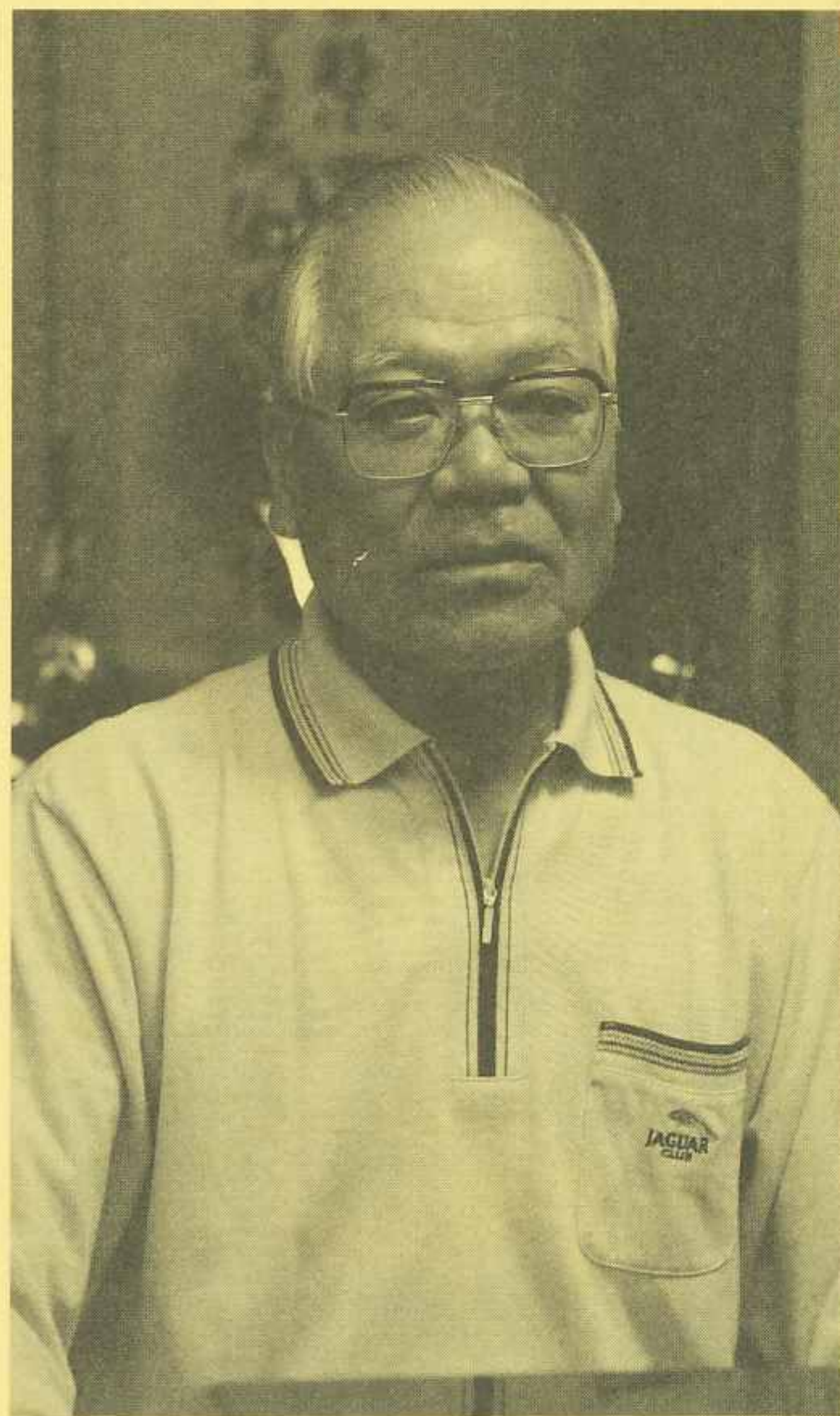
思い出というと、とにかくメシを食う量がハンパじゃない。あそこまでいくと、メシというよりエサって感じだもんな（笑）。あとは、肉体的な強さとか、精神的な強さもあると思うけど、髙阪のような人格者って、なかなかいないじゃん。こういう人間のことを人格者って言うんだろうなっていうのは凄い思ったね。具体的に何かって言われてもわかんないんだけど、ただ、すべてが自分とは違うよな。

ひと言で言えば、マジメっていうか、なんにしても妥協できない人間なんだろうな。試合を観てもわかるように、まだまだいけるわけよ。ただ、自分の気持ちを維持するっていうのは彼にしかわかんないわけで、ホントに格闘技に対して命を削るというか、そういう気持ちはなかなか維持できるもんじゃないし。そういうのもわかった上で自分で下した決断だったと思う。自分が最後と決めたとしても、あれだけの動きができるというのは、やっぱり長年、彼が培ってきたものを集大成として出せたっていうことだと思うし、それは素晴らしいことだよな。これからは指導者としてだけの顔を持ってやっていくのか、何か他の顔を持つのかわかんないけど、新たな道でも頑張ってほしいよ。

元リングス前田道場
“世界のBK”金原弘光

ＴＫって、結局12年やったんだっけ?　まあ、とりあえずお疲れさまでした。俺、いままでＴＫの試合って本当に何十試合も見てきたけど、引退試合が一番いい試合で、もう胸を打たれたね。でも、あんだけの闘志があるんだったら、やめるのもったいないなって思うけどね。俺、あの日はテレビで試合観てたんだけど、ＴＫの試合後、すぐ電話したのね。大丈夫かなって思って。そのときは電話に出なかったんだけど、次の日電話かかってきてさ。「いやあ、いい試合でしたね」なんて話をしてたんだけど、「本

道なき道を開拓し続けた男 TK激闘史

94年にリングスデビュー以来、総合格闘技という道なき道を開拓し続けた男、TK。ここでは、そんなTKの激闘の歩みを写真で振り返ろうと思ったが、やっぱりTKの歴史を1Pで振り返るなんて無理だったよ！ しかも、イーゲン井上戦、キモ戦、トム・エリクソン戦などの重要な試合は写真が手に入りませんでした。それでも、「裏切られた気分」なんて言わず、TKの偉業のほんの一片でも感じ取ってください！

習得した技を一つでも多く掛けてみんなに観てもらえって思いました

けど、アイツ違反やぞ！　あんだけ逃げたらアカンわ！　審判も逃げカード作らなアカンわ！」って言うたんですけどねえ。

──イエローカードならぬ「逃げカード」は画期的ですねえ（笑）。

オカン　ほんなら「アイツは逃げとるんやなく（タックルを）切ってんねん！」って言われてしもて（笑）。

オトン　あんなんね、何を取りにいってもね、腰から下があんだけ大きかったらね、そら手ェ回りませんわ（笑）。

オカン　ほんでウチが言うたんですわ。「なんやねん、あの腕！　なんであんな丸太ん棒みたいやねん！」って（笑）。

──あの腕は凄いですよねえ（笑）。

オカン　いままでの相手で一番体重差のあった人ですわ。剛が今回が90キロ台やったからねえ。１００キロ切ってたんですわ！　それは剛も認めてましたわ。

──それでお母さんのアドバイスもありながら、5月5日を迎えたんですけど、お母さんは朝からどんなご様子やったんですか？

オカン　朝からいうよりもね、5月1日からテンション上がってしもて！

──ワハハハハ！　ちょっと早いですよ！（笑）。

オカン　1日から一緒に会場に行くメンバーと居酒屋に行ってね（笑）。

──さらにテンション上げるわけですね（笑）。

オカン　ほんで店に来てたお客さんに「みんなで剛を応援してくれ」ってお願いしてね。お客さんの中には、いままで応援してくれた人もおったら、初めて会う人もおってね。「絶対テレビで応援する。いや、当日券ないか？」って言うてくれてねえ。私も当日券を買う術がわからんかったし、「チケット代がすんごい高いんや！」って教えてあげてねえ。

──まあ確かに高いですねえ（笑）。

オカン　そんなん気の毒ですやん！　行ってくれって言えないでしょう？　でも「かまへん、ナンボや!?」って言うてくれる人もおってねえ。そやから1日からテンション高かったですよ！

──よく当日までテンション保てましたねえ(笑)。

オカン　ほんで当日もね、朝10時くらいから出かけて行ってね。

──でも試合開始は17時でしたよね？　ちょっと早いんちゃいます？

オカン　早い早い！　そやけどテンション上がってるもんやから、とりあえず大阪のジャンジャン横丁いうところに行ってね！

──通天閣のあるところですね。

オカン　そう！　そこで必勝祈願してね！

──ジャンジャン横丁で必勝祈願っちゅうのもようわかりませんけど（笑）。

オカン　いや、そういうところあるんですわ！　通天閣のてっぺんに行ったら頭撫でる神様がおるんですわ。

──ああ、ビリケンさんですね。

オカン　そうそう！　でもそこは人がいっぱいでね、入れへんかった。ほんでしょうがないから、私らが入った喫茶店に招き猫が二つ置いてあったんで、そこで神頼みしましたわ！　賽銭箱もあったし。

──招き猫ってあんまり勝負事に関係なさそうな気もするんですけど（笑）。

オカン　（無視して）ほんで50円賽銭箱に入れてね！　まあちょっと高いような気もしましたんけどね（笑）。

──ワハハハハ！

オカン　ほんでそこで飲もうと思ったら、その店、ビールやら置いてませんねん。ほんで、「自動販売機で買うてきて飲んでもええか？」って聞いたら、隣が酒屋やからどうぞって（笑）。

──お酒の持ち込みまでしますか（笑）。

オカン　そうそう、喫茶店に持ち込んで(笑)。

──ケッサクやなあ（笑）。

オカン　ほんで3時半くらいにあそこ（大阪ドーム）に着いたんですけど、そこでまた高校のときの柔道の監督が来てはってねえ。タケガワ先生いうんですけど、そこでまた大騒ぎですわ！（笑）。

──いちいちテンション上がりますねえ！

オカン　ほんで着いたらパスもろて、すぐに剛のとこに行きましてね。ほんなら剛、寝てましたわ。耳になんか当てて。

──おそらくイヤホンでしょうねえ。

オカン　私はすぐにわかりました。「あれはイメージトレーニングをしてるんや」って。オリンピックに出る人らでもそんなんするやないですか！「勝つぞ！　勝つぞ！」いう言葉を聴

当にやめるの？」って聞いたら、何事もなかったかのように「引退します」だって。ちょっと拍子抜けしたよ（笑）。でもさ、一番カッコいい引退のしかただよね。最後に魅せてくれたよ。俺、その闘志をちょっとでも見習わないといけないって思った。あんだけ「わーっ！」って雄叫びあげて立ち向かっていく姿勢って凄い！　やっぱり格闘技は心が一番大事なんやなってことを教えてくれたよ。ＴＫありがとう!!

リングス時代の後輩 “新婚” 滑川康仁

「ハント戦を観て、ホント「凄いな」っていう言葉しか出てこなかったです。なんか観てて自分が恥ずかしくなるような試合でしたね。「なんでボクって甘いんだろう？」っていう。

ボクと髙阪さんっていうのは、いま髙阪さんの周りにいる格闘家の中で付き合いが長いほうかなって思うんですよ。たぶん吉田（秀彦）さん、山本（宜久）さんの次ぐらいかなって。一番印象に残ってるのは、入門初日にボクが道場の勝手口から挨拶したら、髙阪さんがちゃんこのお玉を片手に持って「お～、来たな」って感じでモノ凄くいい笑顔で迎えてくれたんですよ。でも、その笑顔を見て、逆に気を抜いちゃいけないって気持ちを引き締めたんですよね。絶対、厳しいはずだからって。実際、厳しい生活が始まったんですけど、ボクの記憶では、髙阪さんがあんな笑顔を見せてくれたのは、あれが最初で、それ以降は僕が一人前になるまであんまり見せなかったような気がします。

伊藤（博之）ちゃんは髙阪さんに一回も怒られたことがないって言ってたみたいですけど、ボクとは全然違いますね。たぶん、前田さんにとってのボクは髙阪さんとかをはさんで孫みたいなもんじゃないですか。同じように伊藤ちゃんはボクをはさんで孫みたいな関係だったんじゃないですかね。だからっていうのもあると思うんですけど、おそらくボクは髙阪さんに一番怒られた人間じゃないですかね。たくさん助けてくださったことのほうが多いですけど、「いまのは、ちょっと理不尽かな」と思ったこともありましたけどね（笑）。……まあ、毎日のようにそういうことを思わせる人もいましたけど（笑）。

そんなことを言いながらも髙阪さんには、それこそ洗濯物のたたみ方から言葉遣い、あとニンジンの皮の剥き方まで全部教わったんで、いくら感謝してもし足りないぐら

いてるんでしょうねえ。
──まあおおむねそんな感じでしょうねえ（笑）。
オカン　そやから「あんまり騒がしいにしたらアカン」って思って、周りの人に「よろしくお願いします」いうて挨拶して出て行こうと思ったら、やっぱり察したんかしらんけど、ガバッと起きてね。
──ちなみに試合前に会ったりするもんなんですか？
オカン　いや、初めてです。行ったのは私とタケガワ先生ですけど。
──最後の試合かもしれないですもんねえ。
オカン　ほんでガバッと起きて、その顔見たら、凄いええ顔してたんですわ。なんていうのかな、「なんでもやるぞ！」っちゅう顔してましたね。全然迷ってないっちゅうかね。
──なんて声を掛けはったんですか？
オカン　「みんな来てるからな」って。「何があっても最後まで観てるからな」って。ほんなら「ようわかった！」って言うてましたよ。
オトン　まあねえ、最後やからねえ、勝敗は別にして、ファンも大勢おるから、それなりに試合の運び方をしてくれたらええわと私は思ってました。自分の出せるだけの力を出してくれたらええと。きっとそういう気持ちでリングに上がったと思うんですよ。
──きっとそうでしょうね。
オトン　いつもリングに上がるとき、こう手ぇ合わせてなんか言うとるでしょ？　それは私も何を言うとるのか聞いたことないんですわ。阿弥陀様に拝んでんのか、何に拝んでんのか（笑）。そんなん聞く必要もないし、聞いても答えへんと思うし。ほんで昨日は手ェ合わしてる時間が普通より長かったんですわ。そやから今日はとくに自分の力を全部出して、みんなに観てもらおうという気持ちが働いてたと思うんですよ。
──はい。
オトン　いろんな資料を見たらね、難しい相手というのはわかっとったんですわ。だから習得した技を一つでも多くね、リングの上で掛けて、みんなに観てもらえって、それを試合前に言いたかったんですけどね。
──でも髙阪選手もそう思っていたと思いますよ。
オトン　相手がね、ボクサー並に打って出てきよったときでもね、いつ、剛は相手をマットに倒すんやろと思って観てたんですけどね、なかなか機会がなかったみたいですね。ほんで、倒しても、下になったら押し潰される感がありましたね。

必勝祈願やいうてジャンジャン横町行って招き猫に神頼みしましたわ！

──そうですよね。で、試合前の話に戻りますけど、どのへんのお席で観てはったんですか？
オカン　放送席の後ろあたりですね。
──ああ、いい席ですね。
オカン　ほんでそこにキン肉マンが来てましたよ！
──へ？　キン肉マン？
オカン　はい。ほんで私も知らんかったんですわ（笑）。ゆでたまごキン肉マンっていう人なんですよねえ、あの人。
──あ、漫画家のゆでたまご先生ですね（笑）。それは『キン肉マン』という漫画の作者で、ゆでたまごキン肉マンという名前ではないです（笑）。
オカン　まあ、私、知りませんでして（笑）。ほんでその方が「髙阪さんの道場に行ってます」って言うてはって。
──髙阪さんの主宰するA－SQAREに通ってるんですね、ゆでたまご先生は。
オカン　いやあ、でも私、キン肉マンって言われても、「中川キン肉マンさんでもなさそうやしなあ」って思ってねえ。
──お母さん、それはなかやまきんに君です（笑）。
オカン　あら、そう？　「あの人にしてはちょっと小さいなあ」って思って。
──ワハハハハ！　全然違うじゃないですか！（笑）
オカン　もうねえ、考えても考えてもわかりませんねん。ほんで帰ってみんなに言うて、名刺を見せたら、「えらいことやん、オカン！　凄い人に出会ってるやん！」って言われて。
──ホンマですよ（笑）。きっとゆでたまご先生はお母さんのこと知ってはったんでしょうねえ。
オカン　そうみたいですね。「リングスのとき、ボク、お母さんの隣で観たことあります」って。「お母さんが『ツヨシーッ！』って騒ぐから、ボク、押さえてたんですよ」って（笑）。
──ゆでたまご先生に押さえられていたとは（笑）。

いの先輩です。これからも変わらず、お世話になると思うので、よろしくお願いします！」

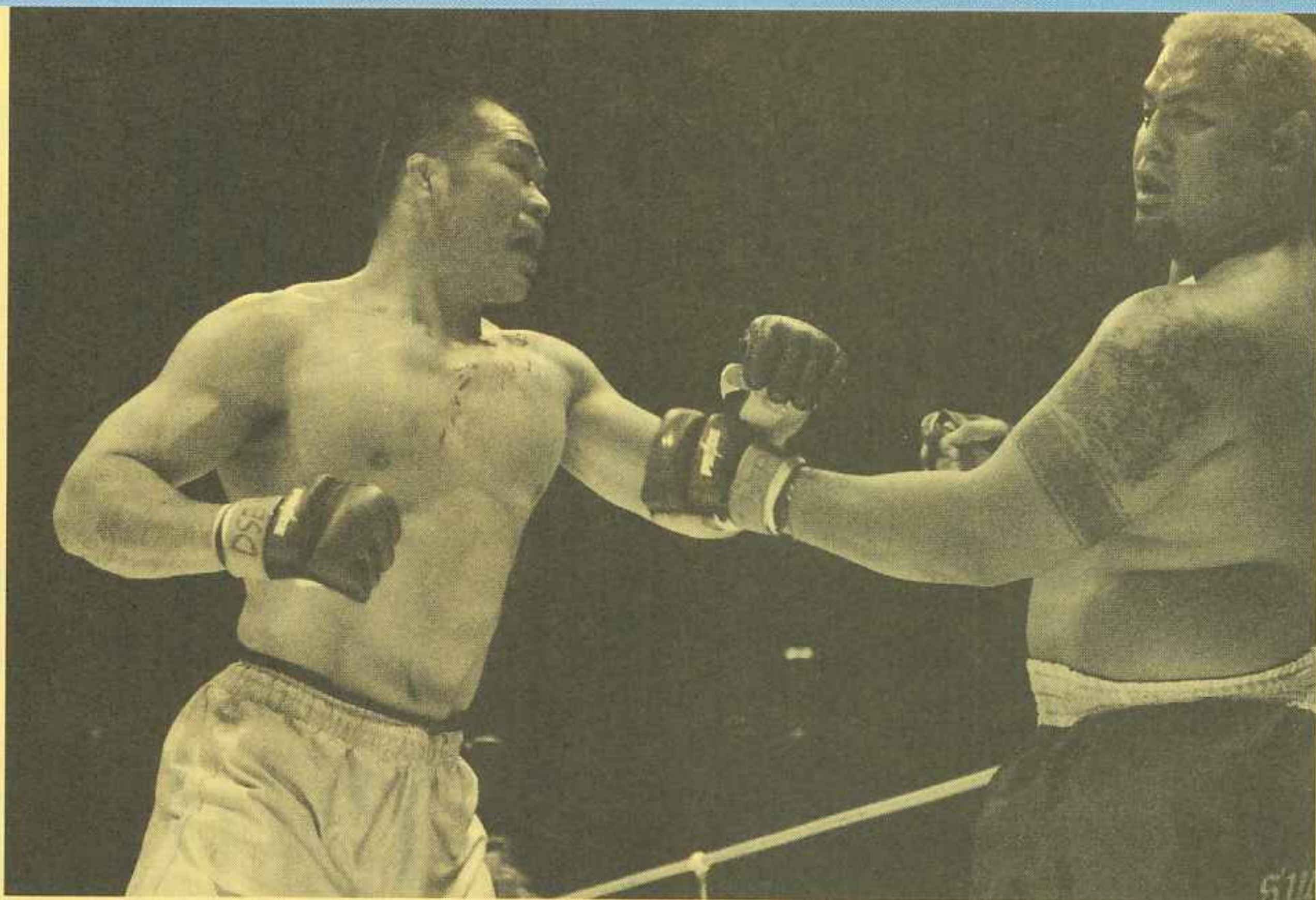
チーム・アライアンス
“イトウちゃん”伊藤博之

どっかのテレビ番組みたいに「彼には守らなければいけないものがある」とか、そういう煽りとかやっても、結局、試合はそんなでもないときが多いじゃないですか。格闘技もショーの部分があるんで、そういうのも必要だと思うんですけど、やっぱりプロっていうのはリングの上で見せてナンボだと思うんですよ。そういう意味では髙阪さんはホント凄いなって思いましたね。あの試合を観て何も感じなかったら格闘技やめたほうがいいなって。
髙阪さんと初めて会ったのはリングスの入門テストになるんですけど、そのときは「あ、髙阪剛だ！」とかファンみたいな感じで、でもやっぱ怖いんだろうなって思ってたんです。ただ、入ったときは髙阪さんはもうシアトルに住んでた頃だったんで、日本に戻ってくるまでは2～3回ぐらいしか会わなかったんです。でも、そういうときに、たとえば洗濯物とかがあったら新弟子は真っ先にやらなきゃいけないんですよ。そんなときも髙阪さんからは「やらなくていいよ。自分でやるから」って逆に言われるんですよね。自分でできることは自分でやるっていうのは、ボクも真似するようにしてますね。いま考えると、ボクは髙阪さんに一回も怒られたことないですね。ただ単に相手にされてないだけかもしれないですけど（笑）。
自分はこれまで、このあいだの髙阪さんのような全部出し切って納得できる試合っていうのは一個もないんで。プロとして気持ちを前面に出しつつ、技術も見せられる試合ができるように頑張ります。
引退っていっても、まだ全然実感はないんですけど、これからも、いろいろとご指導いただければと思ってます。

尊敬する格闘家は髙阪剛
“ピラニア”長南亮

髙阪さんの試合を初めて目にしたのは高校時代、WOWOWでのリングス中継。新人なのに身体ががっちりしてて粘り強く、観ていておもしろかったのが印象的でした。それから6年ぐらい経ち、大工をしながらU－

道なき道を開拓し続けた男 TK激闘史

94年にリングスデビュー以来、総合格闘技という道なき道を開拓し続けた男、TK。ここでは、そんなTKの激闘の歩みを写真で振り返ろうと思ったが、やっぱりTKの歴史を1Pで振り返るなんて無理だったよ！ しかも、イーゲン井上戦、キモ戦、トム・エリクソン戦などの重要な試合は写真が手に入りませんでした。それでも、「裏切られた気分」なんて言わず、TKの偉業のほんの一片でも感じ取ってください！

オカン　ぜんっ然知りませんでしてん（笑）。
――で、いよいよ試合が始まるわけですけど、どのようなお気持ちでしたか？
オカン　デビュー戦と同じ気持ちでした！　もうドキドキしましてね。落ち着かなアカン、落ち着かなアカンって言うてねえ。でも始まったらそれどころやないねえ！　絶対私の声で相手を負かさなアカン思って！
――ワハハハハ！　ほんなら今回はいつも以上に声を出して（笑）。
オトン「あんまり騒ぐな」いうてねえ（笑）。
――それはお父さんも大変でしたねえ（笑）。
オトン　もうそうなったら止まらへん（笑）。
オカン　終わったらもう、あとの試合はくたびれてしもて（笑）。
――試合は残念ながらレフェリーストップで負けてしまったんですけど、その瞬間はどう思われました？
オカン「ああ、まだやりたかったやろうなあ」って思いましたね。まあまあ、でも、仕方ないかと思って。殴り合いしてるときの顔はデビューのときと同じでしたわ。なりふりかまわず、「カッコつけてなんかおれるかい！」っちゅうなね。もうね、私はそれでいいと思ってました……（涙を拭きながら）。相手は剛の心で怯んでましたからね。「こいつ、何するんや！」ってね。剛の気持ちが相手に刺さったと思うんですよね。それで相手が下がる雰囲気が充分ありましたのでね。「こんなこと、いままでなかったわ！」と相手の人は思ったんちゃいますか？
――ボクもそう思いますわ。
オカン　でもええ相手に恵まれましたね、剛は。
――ホンマそうですよ！　これほど感動的な引退試合もちょっとないですよ！
オカン　髙田さんが苦労して探してくれたんかわかりませんけど、ああいう素晴らしい相手をよく探してくれたなと思いましたね。感謝してますわ、本っ当に！（涙を拭きながら）。
――お母さん、あの試合は本当に素晴らしかったですよ。
オカン　そうですよねえ！　いままで引退試合観てきたらね、体力がなくなって、デレデレーッとして終わるもんなんですよ、だいたい。でも剛はデビュー戦と同じ意気込みで相手に向かっていって。あれはね、「前に向かっていくのがおまえの姿勢やろ！」って私がメール送ったからですわ！（キッパリ）。
――ワハハハハ！　絶対お母さんのお手柄ですよ！　ほんで、最後にマイクを握りましたよね。しゃべるのはちょっと拒否してたみたいですけど。
オカン　私は席から「ツヨシーッ！　なんかしゃべったりぃ！」って言うてましたから！
――ワハハハハ！　なんやったらお母さんがマイク握ったらよかったのに（笑）。
オカン　ホンマですわ！（笑）。
――でも短い挨拶でしたけど、あれはシビれましたね！　ボク、グッと来ましたよ！
オカン　剛が「ありがとうございました！」って言うてたとき、私も一緒になってみんなにお辞儀してました！
――ワハハハハ！　お母さんも一緒にリングに上がってる気持ちなんですよねえ（笑）。
オカン　ホンマそうでした！
――サムライですよ、あの男は！　で、試合が終わってまたバックステージに行かれたんですよね。
オカン　シュウの試合を観てから行きましたわ。
――シュウ？
オカン　剛と仲良しのアメリカ人ですわ。
――あ、ジョシュですか。シュウって（笑）。
オカン　名前わからしませんねんけど、シュウちゃん。
――〝世界を駆けるベルトコレクター〟も近所の子どもみたいな扱いですね（笑）。
オカン　剛と仲良しですから応援してね。ほんで周りの人が呼びに来てくれたんですよ。
――でも引退試合のあとですから、控室も入りにくいですよねえ。
オカン　もうな～んのことはない！　試合が終わったらあの人、タダの人！
――ワハハハハ！
オカン　もうフツーの姿になってるからね。だから人が近づきやすいんですよ～！
――お父さんも行かれたんですか？
オトン　行きました。いままでも試合が終わって何回も控室に行きましたけどね、勝ったと

FILE CAMPに通ってたときに、髙阪さんが夜の寝技のクラスに現われました。
　最初はレベルの低い会員たちを田村さんが「相手してやってよ」という感じで髙阪さんが合わせてましたが 尊敬する髙阪さんと練習する機会を逃すわけにはいかないと自ら挨拶にいきスパーしてもらいました。
　当時の自分は80キロにも満たないくらいで体格差がかなりあるにも関わらず動きまくりで、クラスではヒールホールドとか禁止だったのですが（髙阪さんはそのルールを知らないだろうし、自分は陰で練習してた）、それでも足をガンガン取り合い凄く勉強になりました。クラスが終わったあとにも「まだできますか？」と自分みたいなペーペーに言ってくれて嬉しかったし、だからこそ髙阪さんのところに出稽古へ行きたいと思いました。
　それからは自分のメインの練習場所として長くA−SQUAREにお邪魔してますが、ここがなかったらいまの自分はないし、一番は集まって競い合うことを髙阪さんがみなに教えてくれたことが大きいと思います。髙阪さんが選手として引退してしまうのは寂しいですが、指導者として、武道家としてのますますの活躍を期待してます。
　そして現役選手の自分たちがこれからのマット界をもっと盛り上げれるように頑張らなければいけません。
　余談ですがウチの家族も髙阪さんのファンで妹はパンクラスでのタイトルマッチを観に来てたし、自分がニーノ戦後、リング上で不貞腐れてるのPPVで目撃した母が「セコンドに付いてくれた髙阪さんに謝りなさい！」と怒りのメールを送ってきました。……恥ずかしい話ですが。
　本当に長い現役生活お疲れさまでした！　そしてこれからもよろしくお願いします。

司令長官の友だち
安生洋二

「会場で髙阪くんの試合を観て号泣した」っていうのは……本当ですよ（照れくさそうに）。なんで知ってんの？　あの試合、髙阪くんはもう入場から尋常じゃない顔つきで挑んでたし、あの顔を見た時点で髙阪くんの覚悟は感じたよね。しかもその気持ちをリング上でこれ以上ないくらいブツけて表現できた。ありがちだけど「男の生き様」をヒシヒシ感じたよ。とくに印象に残った場面は、ハントのバックをとったあたりかな。「本当に勝てるかもしれない！」って瞬間が二回くらい確実にあったからね。あとタックルに何度もいったとことか……ま

試合後、剛が「今日使ったグローブや。これオカンにやるわ！」言うてね

きも負けたときも一緒。勝ったときは「よかったなあ！」って声かけたら「うん」、ほんで昨日みたいに負けても「ようやったなあ！」って言うたら「うん」でシマイですわ。

――へえ。ほんなら引退試合もいままでも変わらないですか？

オカン　もうまーったく同じですわ！

オトン　息子やからだいたい気持ちはわかりますねん。だから選手としての仕事は終わりますけどね、自分には指導者としての仕事がこれからありますやん。だからこれからはそれに懸けるんやという気持ちがあるから、引っ込む気持ちなんて全然ないんですわ。

――だから髙阪さんは終わってないんですよね。これからなんですよね。

オカン　そう！　終わってないんですよ！　ほんで剛は自分の経験というものが染み込んでるから、人に伝えることができると思うんですわ。だから現役というのは、あの子にしたら第一段階やったんですわ。ちゃんと生き方というものを自分の中で作り上げてるなと思いましたわ、ハイ。

オトン　結局、筋肉トレーニングとかのね、トレーナーになってね、人を育てるという夢があるから、負けても明るく、ニコニコしてるんですわ（笑）。

――選手としては終わっても、格闘家としては終わってないですからね。

オカン　そうそうそう。

オトン　ホンマそうなんですわ。

オカン　控室に剛のところの若い子がおってね、「アンタ、いつデビューするんや？」って聞いたら、「オカン、もうコイツ、デビューしてるんや！」って言われて（笑）。

――ほんならお母さんもバックステージでワンワン泣くこともなく？

オカン　もうないない！　他の外国の方とね、単語をつなぎ合わせて声をかけてね（笑）。

――誰としゃべってますのん（笑）。

オカン　そのシュウとかいう子とね（笑）。それからミルクですか？　ミロですか？

――それは混ぜるとおいしい飲み物です（笑）。ミルコ・クロコップですね。

オカン　その人が来ましたわ！　その人とゲンコツで挨拶して。

――拳を合わせて。へえ、いいですねえ。

オカン　ほんならね、そのミロが「グッファイ！」って言うてはりましたわ。「やっぱり〝世界のTK〟と言われただけはあるな」って思いましたわ。

――それはボクらも誇らしいことですよ！

オカン　あと、吉田選手にも会えてね！　もう肩触って腕組んでね！　私のハンカチで吉田選手の汗拭いてね！

――ワハハハハ！

オカン　剛に「やめろ！」「オカン、そのへんにしとけ！」言われてね（笑）。

――いいですねえ。湿っぽさなんてなかったわけですね。

オカン　もう、全然ない！　一緒に行った人もみんなで写真撮ってね。バックステージでは誰も泣いてない。試合観てるときはみんな泣いたみたいですけど、バックステージではみんな笑顔でしたわ。

――で、ここに昨日、髙阪さんが使われたグローブがあるんですけど、これはいつもらったんですか？

オカン　バックステージに行ったときにね、外人の方たちが剛と抱き合ったりしてね、ほんで出て行ったあとにね、「今日、使ったグローブや。これ、オカンにやるわ！」って言うてね。でも、こんなん、私になんの意味もないやん。べつにこれハメて生活するわけでもないし。

――ワハハハハ！　これハメて洗いモンしたらえらいことですよ（笑）。

オカン　なんの意味もないんやけどね、一応「へえ」いうてね。ほんで「サインしとく」っていうてサインしてもらってね。そのときは意味もわからんから、そのへんの袋に無造作に突っ込んでね。

――何やってんですか、お母さん！（笑）。

オカン　でも今朝、荷物整理しながらこれ見てたら、もうワンワン泣いてしもうて……（涙を拭きながら）。そやから私はこういう誇らしい息子を育てたんやなあと思ったらねえ……。

オトン　朝起きたらワンワン泣いてるから何があったんやと思いました（笑）。

――いやあ、ボクもこのグローブ見せてもらっただけで胸が熱くなりましたよ！（と、ここで長男の一博さん登場）。あ、どうも原と申します！　いまちょうどお父さんとお母さんに取材させてもらってるところですわ。

一博さん　あ、そうですか。どうもどうも（笑）。

――あの……、ビックリするくらい似てはりますね、髙阪選手と（笑）。

一博さん　いやいやもう、親父もソックリやから（笑）。

――3人は怖いくらい似てますよねえ（笑）。

ぁ、どの場面でもずっと泣いちゃってたんだけどさ。最後にフラフラになりながら、挨拶をしたところもグッと来たよね。

じつは髙阪くんより僕のほうが年上なんですよ。それもあってか、格闘技の試合であそこまで〝引退〟ってことをハッキリ意識させられた試合は最近なかったよね。彼は本当にやめちゃうの？　これは不思議なんだけど、あれだけのトップファイターとあれだけ凄い試合をやっちゃうと、次の日に「俺はまだできるんじゃねえか？」「もう一回、やったら勝てるんじゃねえか？」って思っちゃうんだよ。これは僕も経験があるんだけど（笑）。まぁ、そういう気持ちはなるべく押さえてもらって……。髙阪くんは本当に潔い人だから、心配はしてないけど。何度か一緒に練習をやったし、ご飯も食べたこともあるけど、凄い印象に残ってるのは、髙阪くんって常にどんな人と対しても接し方がまったく変わらないんだよ。本当に分け隔てなく「丸い」というか、誰に対しても全然トゲがない。格闘家とはとても思えないくらい、TKは本当の人格者だよね。

元・リングス社員
〝ブッカーK〟川崎浩市

TKのことは、リングスの実験リーグをやっていた後楽園ホールでいきなり「今度入門した髙阪です！」と前田さんに挨拶していたところからよく憶えています。とにかく新弟子の頃からどこへ行ってもよく食べてました。またこんなに落ち着いている新弟子は見たことがなかったです。やはり関西圏なのか受けを作れるトークで、若手時代からトークショーに出たり、アマチュア・リングスの指導を任せたり、本当に人がいいのでなんでも頼めましたし、試合も実力がありました。宇野君がUFCに出たときも、アメリカで一緒に寝泊まりましたが、ホント頼れるセコンドでした。ここ数試合はやはり、頭のどこかに引退の文字があったのか、魂の試合でした。技術だけで対格差のある相手に試合できない。まずは気持ちをぶつけていき、そこから活路を見いだしてネバー・ギブアップの精神。それらは現在TKを慕ってくる選手たちに生き様を見せたと思います。横井、長南など、これからそれを受け継いで彼らの中に後々TKが見えてくることを祈ります。お疲れさま、TK。これからも素晴らしい指導書として頑張ってください。また、現役を引退したんで、そろそろ異常な大食いは控えてそのぶんを自分の子どもに回してください!!

道なき道を開拓し続けた男　TK激闘史

94年にリングスデビュー以来、総合格闘技という道なき道を開拓し続けた男、TK。ここでは、そんなTKの激闘の歩みを写真で振り返ろうと思ったが、やっぱりTKの歴史を1Pで振り返るなんて無理だったよ！ しかも、イーゲン井上戦、キモ戦、トム・エリクソン戦などの重要な試合は写真が手に入りませんでした。それでも、「裏切られた気分」なんて言わず、TKの偉業のほんの一片でも感じ取ってください！

一博さん　ホンマに3人揃ったらえらいことになりますよ（笑）。

──ではついでにお父さんとお母さんと一緒に写真撮らせてください（ここで写真撮影）。

一博さん　ありがとうございました（笑）。

──こちらこそありがとうございました！　で、髙阪さんはこちらの実家に戻ってるのかなと思ったんですけど、もう帰っちゃったんですか？

オカン　それがゆっくりしたらええのに、「犬をペットホテルに入れてるから6時までに戻らなアカン」いうて帰りましたわ！（笑）。

──はあ。普段どおりですねえ（笑）。

オカン　いつもどおりですわ（笑）。

オトン　いつもの態度ですわ。だから親としては安心しました。これから第二段階ですからね。言葉にはしませんけど、本人も「ファイト、ファイト」と思ってるんちゃいますか。人を育てていくんですから。

両親と実家で同居している長男の一博さんを交えて髙阪家で記念撮影。それにしても父、兄のＴＫそっくりさんぶりは凄い。ちなみに音楽家の次男・照雄さんはあまり似てないとのこと

──夢もあるでしょうね。

オトン　あれの夢は大きいですよ。

──これで選手としての生活は終わったわけですけど、これまで振り返っていかがですか？

オカン　私はね、あの子がデビューしてからのことを本にしようと思ってたんですわ。物語として。あの子はね、デビューしてから四つの柱の上におったんですわ。それが前田（日明）さんであり、糸井（重里）さんであり、そしてモーリス（スミス）さんであり、ほんでそのときはヴォルク・ハンやったんですわ。で、あの子は歩き始めたんですわ。あの人は人のつながりが凄く幸いしましたわ。はじめ前田さんが引っ張ってくれて、いろんな人に会う機会ができましたからね。

──糸井さんなんかモロそうですよね。

オカン　はい、はいそうなんですよ。前田さんの付き人というかたちをさせてもらいましたからね。それをマジメにね、前田さんの痒いところに手が届くようなことをしてたらね、いろんな人に出会わせてもらってね。ほんで前田さんから離れても他の人がちゃんと剛を助けてくれてね。それがあの子が格闘技をやって、いっちばんよかったことですわ！

──あれだけ周りの人に愛され、尊敬された選手もなかなかおらんと思いますよ。業界で誰一人、髙阪さんのことを悪く言う人はいないでしょう。

オカン　そうですか、そうですか。ありがたいことですよねえ。

──ボクなんかからすると、もっと派手にアピールするような面があってもええのになあなんて思ってたんですけど、昨日の試合を観たら、あれが髙阪剛の生き様やったんですよねえ。

オカン　それは我が家の生き様ですわ。どうも私だけ派手に見られるんですけど（笑）。

──ワハハハハ！

オトン　前にヴォルク・ハンにサイン色紙をもらったときね、何が書いてあるかわからんかったんやけど、通訳の人が言うには、一番力を入れて書いたところが、「コーサカを尊敬する」という部分らしいんですよ。あいつはね、皆さんに尊敬されてたみたいでね……（お父さんも涙を拭きながら）。

──髙阪さんの世代は、総合格闘技の黎明期で、ルールはしっかりしてないし、体重差があるのは当たり前やしね。そういう意味ではいまの選手のほうが恵まれてますよ。地上波で中継もされますしね。髙阪さんらが手探りで開拓してきたからいまの格闘技ブームがあるんですよ。

オカン　ああ、そうですか。そうなんですか。

──だからそういう意味ではあまり報われなかったのかなとも思いますけどねえ。へんに目立とうという野望もなかったんでしょうけど。

オカン　あの子はそういうタイプなんですわ。そういう野望とかやなしにね、報われないけども、決して力を惜しまないんですわ。本当にね、あの子の青春時代はね、もっとハメ外して遊びまわったらええのにって言うてたもんですわ。だからあの子が唯一、遊びで自分のモノにしたのは釣りだけですわ（笑）。

──これから思う存分、釣りもできるんちゃいますか？（笑）。

オカン　でもホッとしましたわ。車椅子生活になったら、私、押して歩かなアカンと思ってましたもん。

オトン　実際、親はホッとしますよ。あれは試合でとことんいくタイプでしたからねえ。

引退後はしいて言うなら、髙田さんぐらいになってくれたらええなぁ

──ああ、でも選手の家族はホンマ、そう思うでしょうねえ。

オカン　これからはなんぼでも剛が住んでる茨城に遊びに行けますわ。選手時代は、行っても気ぃ遣うし、向こうも気ぃ遣うし。だからこれからは横浜の中華街でも連れて行ってもらわなあきませんわ（笑）。

──ホンマ連れて行ってもらったほうがいいですよ！　いままでこれだけお母さん応援してはったんやから。まあ最後に、お父さんとお母さんから髙阪選手へメッセージをお願いします。

オカン　もうこれからはね、自分の本心でね、やりたいことをやってほしいですね。周りのことを気にしないでね。

──なるほど。

オカン　でもね、あの子、自分の子どもを格闘技界に入れる夢を持ってるんですよ。

──ワハハハハ！　なんでや。

オカン　女の子やのにねえ（笑）。まあそれだけはやめてほしいなあいうて。

オトン　まあ自分の生き様を見てもらって、喜んでもらえるような生き方をしよると思うんですよ。あれの選手としての生き様はよかったですかいね。親やから褒めるようなこと言いますけどね。これからも生き様も見てもらって、人がついてくるような、前向きな生き方をしてほしいですね。それが親として、私が思うことですね。

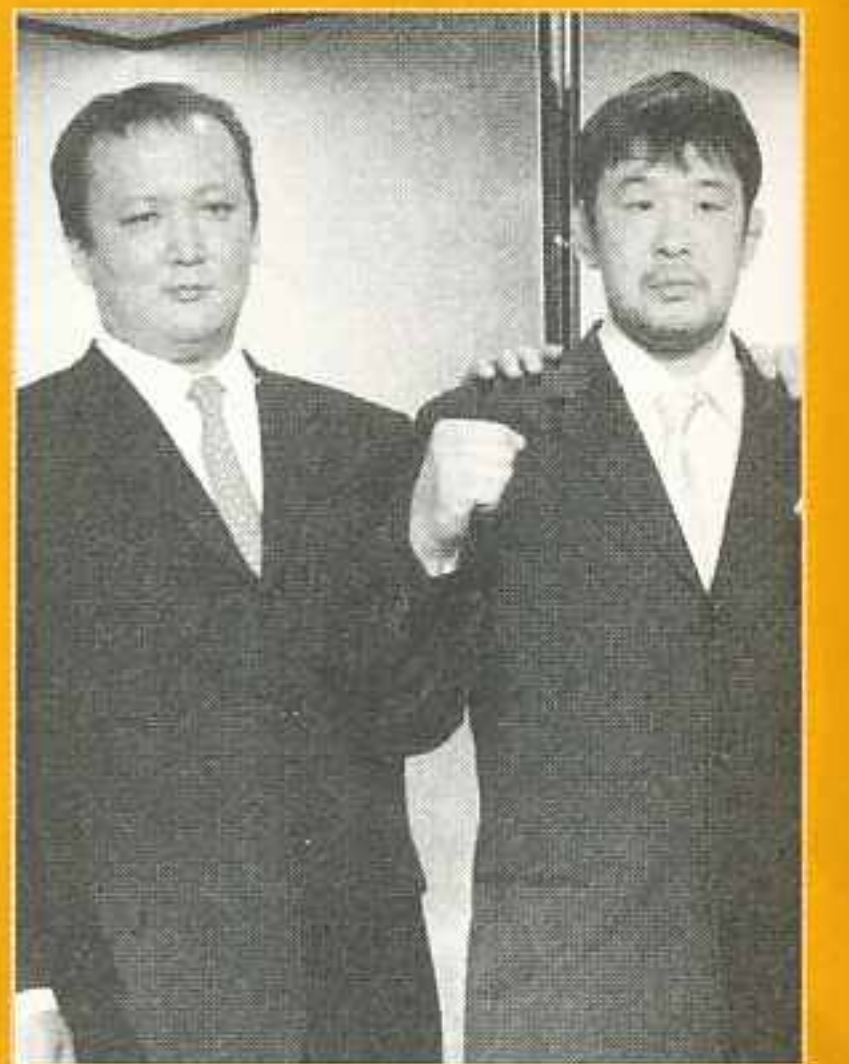
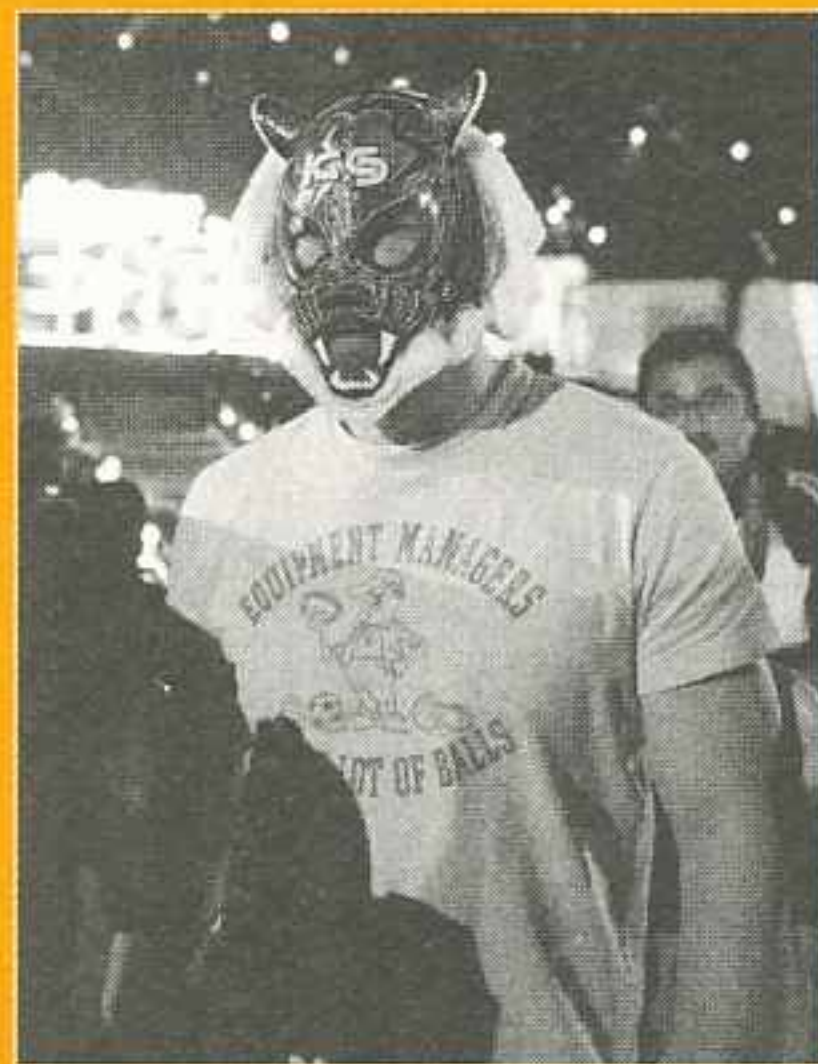
──きっとこれから指導者としても素晴らしい人材を育ててくれると思いますよ。本当に今日はありがとうございました！

オカン　（ボソッと）まあしいて言うなら、髙田さんくらいになってくれたらええなあ。

──ワハハハハ！　お母さん、意外と野望が大きいじゃないですか！（笑）。

【06年5月6日／滋賀県草津市の髙阪家にて収録】

桜庭和志ファイナルアンサー座談会

サクの禁断の選択は
みのもんたも喜ぶ〝正解！〟なのか!?

100年に一度の大事件!!
巨大なる問題提起の答えを出せ！

桜庭和志の『HERO'S』移籍劇から見えてくるマット界の現状とは――？ "100年に一度"の大事件をテーマに座談会をカンコーッ！ サクが苦しんで苦しんだ末に出した究極の答えを受け止めてみました！

構成／ジャン斉藤 designed by Tani-yan（Two Three）

桜庭和志 ファイナルアンサー座談会

ジャン 「♪裏切り者の名を受けて～え、すべてを捨てて闘う男～!!」え～、今回のテーマは『HERO'S』へ電撃移籍をはたした桜庭和志です！

橋本 いやあ、まさか『デビルマン』の主題歌がこういうかたちで胸にしみるとはねえ。

ガンツ ホントそうですよねえ。「♪悪魔の力～ぁ、身につけた～！」……のかどうかはわからないけど（笑）。

ジャン まあ、エンディングテーマ的にも「誰も知らない、知られちゃいけない」出来事だったんですよね（笑）。

ささきぃ そんな無駄口はいいから、早く始めましょうよ。

ガンツ ま、サクの『HERO'S』移籍はたしかに衝撃的だったけども、さすがに一週間も経つと、語るのがバカバカしくなりましたね（代表調）。この号が発売される頃には、〝ドラゴンやっぱり残留！〟の話題のほうが盛り上がってるんじゃないの？

ジャン その件こそ完全に風化してますよ（笑）。藤田和之ふうに言えば、これから全面戦争が始まるわけですから、みんな頑張ってもらわないと！

橋本 そうだよ。ガンツにそんなこと言われたら、個人的には裏切られた気分になるなあ。俺は〝家族〟だと思っていたのに（笑）。

ガンツ まあ、しょせん橋本さんと『kamipro』は契約を超えた間柄じゃなかったわけですねえ。もともとしてないし。

ささきぃ もうわかりましたから、早く始めましょうよ（笑）。

ジャン え～っとですね、本日の座談会は、桜庭和志という存在がきっかけでこの業界に入ったささきぃさんと、桜庭和志移籍のキーパーソンの谷川（貞治／FEG代表）さん、柳沢（忠之／ローデス社長）さんが『SRS・DX』をやっていた当時の部下だった橋本さん、そして、かつて前田日明の大ファンだったけどいまは……な、堀江さんにこの問題について語っていただきたいなと。

橋本 おい、ガンツの立ち位置は微妙に関係ないぞ（笑）。

ジャン （無視して）今回の騒動について、ほとんどのファン・関係者が「今後を見守るしかないというところはある」という気持ちだと思うんですが、逆に言うと、日本総合格闘技界の象徴・桜庭和志が下した決断だからこそ、無駄に深く考えないといけないんだとも思うんです。

ささきぃ あまりにも突然の出来事だったこともありますしね。

ジャン そもそも5・2『HERO'S』桜庭和志登場は、ほとんどのマスコミは当日まで完全にノーマークでした。

ささきぃ 3月末日付けで桜庭が髙田道場を退団したことは引っ掛かっていたけど、まさかねえと。

ジャン 松井大二郎や豊永稔もすでに退団していた。でも、二人は『PRIDE』との接点は続いていたから、〝どういうことなんだろう？〟とは思いつつも、桜庭も桜庭で『PRIDE』に継続参戦することを一部スポーツ紙で発言してて。

橋本 ところが、だよねえ。『HERO'S』前日になって「ビッグサプライズが起こるらしい」という情報が流れ出した。俺は前日の深夜、ガンツと一緒に高円寺で飲んでいて「シュートボクセじゃないか」とか「いや、桜庭らしい」とか、そんな噂話はしてたんだよね。

ガンツ で、俺は「『HERO'S』のオープニングマッチに出場する元・髙田道場の浜中和宏のセコンドに桜庭がつくんじゃないか？」と読んだんだよ。『PRIDE』の顔が『HERO'S』の会場に足を踏み入れる。それはそれでサプライズかなあと（笑）。

ジャン そういう酔っぱらいの妄想電話を深夜に自分が受けて、ちょっと探ってみたら〝当たり〟どころか〝大当たり〟を引いてしまった！

ガンツ そのままひと足早くやけ酒に突入だったよね（笑）。

ジャン こっちはシラフだったから、あまりの衝撃に一睡もできませんでしたよ!! こうなったら小川直也vs吉田秀彦戦決定を壊しかけた某スポーツ紙みたいに、「夢の移籍を後押し」するためどっかに書き殴ってやろうかと思いましたもん！

橋本 ククク。しかし、登場することが決定したのが前日とはいえ、よく広まらなかったよね。

ガンツ だって○○○○さんクラスですら桜庭のテーマが鳴るまで知らなかったみたいだから（笑）。

ジャン うわ～、それほどまでのトップシークレット（笑）。それだけに衝撃は大きかったと思うんですけど、観客のリアクションはイマイチだったじゃないですか。

ささきぃ ホント薄かったですねえ。

ガンツ 前田日明が「武士（もののふ）の中の武士」という「出て来いや～！」ばりの前口上から、そこにサクのテーマ曲が流れて。そこでドカーンと会場が爆発すると思ったんだけど……。

橋本 ずっと「あれ、誰？」という雰囲気で。

ジャン あの反応こそが一番のビッグサプライズでしたよ！ みんなの桜庭が……って二重の意味で。

ガンツ 『HERO'S』のファンと『PRIDE』のファンって、こんなにもかぶってないんだという驚きだよね。会場にいるのは、いわゆる〝格闘技ファン〟じゃなくて、『HERO'S』をテレビで観てファンになった人たちだから、テーマ曲はもちろん、桜庭和志自体をよく知らないんだよね。

橋本 まあ、今回の件を例えると、ORANGE RANGEのライブにガンツの好きな吉田拓郎がゲスト登場して、「朝までやるぞ～！」って叫んではみたけど……リアクションはいま一つという感じじゃない？

ガンツ 60歳の拓郎と一緒にしたら、さすがにかわいそうでしょ（笑）。でも、そういうことだよね。ただ、『HERO'S』のファンが〝いまの格闘技ファン〟かというと、ちょっと違うと思うんだよね。総合格闘技ファンとま

座談会出席者

堀江ガンツ
本誌編集若頭。9・23「吉田拓郎&かぐや姫 in つま恋」のプレミアチケットをゲット!! 気分はもう9月！

橋本宗洋
日本最重量のフリーライター。立ち技、総合、映画となんでもござれ。某・老舗格闘技雑誌出入り禁止（？）。

ささきぃ
電機部の女。携帯サイト『kamipro Hand』で日夜、会場や会見場を駆け回る。

ジャン斉藤
本誌編集部部員。永久電機調査室室長あらため「WAKASHOYOとロックを考える会」委員長に就任。

ファンのファイナルアンサー!!
携帯サイト『Kamipro Hand』緊急アンケート

Q 桜庭和志の『HERO'S』リング登場をどう思いますか？

●赤パンツとやってほしかった……がっかりだけど……日明兄さんが紹介してくれたから許す！
●会場の声援を聞いたか？ お前の事しらないやつらばっかりじゃないのか？ お前の居場所はそこなのか？ 答えろ。
●『PRIDE』にはもう桜庭を活かしきれるマッチメイクも無けりゃプロデュース力も無いと思う。谷川さんならやってくれそう。
●意外と勝負論にこだわる『PRIDE』より『HERO'S』のリングの方があっているのでは……。
●移籍は哀しいけれど正直『PRIDE』のトップ戦線では厳しいので『HERO'S』で格下の選手と試合してればいいかなと思う。
●いいんじゃないですか？ ここは笑顔で送り出したら。けど桜庭が『HERO'S』で活躍する確率は低いと思います。
●これは目をあけて見る夢だ。
●『HERO'S』のリングでは、「4点ポジションでの膝蹴りが禁止」されているわけですから、桜庭選手には非常に有利な事かと思われます。
●はっきり言って『PRIDE』を離れて欲しくない、出来れば行かないで欲しい。でも移籍するからには、『HERO'S』のタイトルを持って『PRIDE』に帰ってきて欲しい。
●逃げた。
●桜庭は頭がいいから『PRIDE』では自分が生き残れないのを知ってる。
●正直ショックです。ただこれまで通り桜庭さんらしく頑張って欲しいです！ 応援して行きたいです。
●すばらすぃそれにつきるサクが選んだ道に何人たりとも文句言う必要なし。
●現在の『PRIDE』で桜庭の存在が微妙だったのも事実で無差別級GPに名前が上がらなくても気に止めない自分がいたし最近の桜庭に強さを期待してない自分がいた。谷川Pなら桜庭を生かせるかも。ただこれで田村戦が。
●ありえない……けど……桜庭は、単純に桜庭和志になりたかったのかなぁ？ いちファイターとして……金とかそういうものすべて関係なく……。
●本人が選んだのだから、俺は応援するだけです。
●桜庭が『PRIDE』を離れるのは寂しいが、今後選手として活躍して行く為にはルール的に最良の選択だと思う。
●『PRIDE』のウェルター級で戦って欲しかった。
●なにやってもいいけどこれはショックだ。
●いいと思う。桜庭のよさは谷川氏のほうが生かせると思う。最近の『PRIDE』でのサクは悲愴感ばかりが伝わっていたから『HERO'S』で明るく楽しいサクに戻ってほしい。

ったく別のところに、『HERO'S』ファンというのが存在するということが、今回如実に実感できたというか。

橋本　そこは『PRIDE』とは好対照で、『PRIDE』はどれだけ格闘技ファンを集めたり増やせるかという勝負をしてるんだけど、『HERO'S』はその文脈とは関係ないところで興行を成立させちゃった。これは凄いことだよ！

ささきぃ　前に谷川さんが言ってたそうなんですけど、『HERO'S』はマスコミの報道よりも、渋谷とかに貼ってあるポスターのほうが断然、集客効果があるらしいんですよ。ポスターを見て「カッコいい人がいる！」という理由で会場に来てくれるお客さんのほうが多いみたいです。

橋本　これは俺のブログにも書いたんだけど、「馴染める、馴染めないはべつとして、その世界観は完成している」っていうことだよね。そこで俺ら日陰者――いま30代前半でUWFから格闘技に流れていった人たち――は野球やJリーグやバンドや、いろんなハマれるものがあったはずなのに、ある意味それに背を向けてきたわけじゃん（笑）。

ガンツ　だからね、いま『PRIDE』とか観て興奮している人間は、基本的に"変態"なんですよ！　そしてこれまでの格闘技って、『PRIDE』、K－1のようなメジャープロモーションであろうとも、"変態"を核にしていたというか、コアなファンが存在しえるものだったけど、『HERO'S』は初めて、"変態"を必要としないリングを創り出したと思ったね。

ジャン　ささきぃさんはどうですか？　桜庭和志直撃世代からすると、『HERO'S』の世界観というのはどう見えるんですかね。

ささきぃ　とりあえず、私は"変態"じゃないですよ（笑）。

ジャン　まずそこは主張したい（笑）。

ガンツ　い～や！　途中から『PRIDE』を見始めた人たちも半分、"変態"なんだよ！　昔は地上波でやってなかった『PRIDE』をさ、わざわざ見つけてどっぷりとハマったわけだからさ。

ささきぃ　え～、私は地上波で見ましたけど（笑）、そこから『紙プロ』を選んだ"半分・変態"だけに『HERO'S』は半分、心地いいですよね。

ジャン　半分心地よくて、あと半分は嫌だというのはどういうことなんですか？

ささきぃ　半分嫌なのはねえ、なんだろ。なんか半分はホントに親切にしてくださるんで、居心地いいんですよ。でももう半分は「いやいや、そんなに説明してくれなくてもわかるよ」というか、「その人、そんなんじゃないっていうことはホントにわかるから」というときがなくもないんですよね。

ジャン　桜庭和志はそんな世界に入っていくわけですよ。

橋本　その化学反応は楽しみだよねえ。あの世界に総合格闘技界のリビング・レジェンドが入るわけじゃん。だからORANGE RANGEの新メンバーがジミー・ペイジだったっていうようなさ（笑）。

ジャン　ま～たORANGE RANGE（笑）。

橋本　（無視して）谷川さんとか柳沢さんとかTBSがどう思ってるかわかんないけど、明らかに違う人種が混じるわけじゃん。だって、あの世界だったら秋山成勲とか宇野薫のほうがよっぽど人気があるわけだよ。

ジャン　秋山成勲は強いうえに、かなりおもしろいですよね。あれだけ殴って蹴って殴って蹴って、道着を脱ぎ捨てて最後にマイクで「柔道サイコー!!」って。どこが柔道なんだ（笑）。

橋本　でも、会場はそんなメッセージを真っ直ぐに受け止めて、ドッカンドッカン沸くわけだよ（笑）。まあ、桜庭が参戦する8月の大会は、『PRIDE』ファンも流れるだろうから、こないだとは違った反応は生まれるんだろうけどさ。

ガンツ　だからさ、今回サクが『HERO'S』に現われたのに会場の反応が薄かったのは、サクが『HERO'S』のファンに拒絶されてたり、人気がないわけじゃなく、ただ馴染みがない、知らないだけなんだよね。だから、これからサクは『PRIDE』の会場とはまったく別の人気がでると思うよ。KIDや元気ファンの女の子にとって、"かわいいオジサン"みたいな感じでさ。

橋本　"かわいいオジサン"？

ガンツ　どういうことかというと、さっきの拓郎のたとえで言うとさ、数年前「LOVE LOVEあいしてる」という番組があったのよ。

橋本　ああ、つまりKIDや元気がKinki Kidsで、桜庭は（吉田）拓郎になるのか！（笑）。

ガンツ　そう！　あの番組ではさ、キンキのファンにとって、拓郎は伝説のカリスマでもなんでもなくて、"かわいいオジサン"なわけじゃない。そして、昔ながらの拓郎ファンには理解不能なかたちで若い女の子に人気が出たりするんだよ（笑）。

橋本　キンキファンの女の子が拓郎のオールナイトライブを知らないように、桜庭vsホイスの90分の死闘を知らない女の子のファンが増えるわけだ。

『HERO'S』のリング上でも、のらりくらりのサク・ワールド全開！　8月の試合でも、その持ち味は発揮できるのか？　その一挙手一投足に俄然、注目だ！

●ゴールデンタイムで桜庭が放送されることは喜ばしい。『PRIDE』での役割は終えた感があったのでアチラで再利用は利口な選択だと思う。

●面白くなってきたー

●『PRIDE』にきな臭い噂がながれるなかマズイんじゃないかと思います。

●正直、シンジラレナイが仕方ない気がする。やはり、ウェルター級転向話が原因かな？

●ショックです。あちらはテレビの力が強くて人気が有る選手が判定などで勝つ世界なので……。それに『PRIDE』から行った選手はあまり活躍しないので。悲しいです。

●びっくりしてしまいました。

●お金ですか？　嫉妬ですか？　逃げですか？　井の中の蛙に自ら飛び込んで満足ですか？

●もし単発の参戦ならいいが、完璧に移籍なら最悪。何やってんだよミスター『PRIDE』が。やり残した事沢山あるぞ。ホジェリオとアローナとやんなくていいのか？　まだ間に合う、『PRIDE』に帰ってこい。

●ショックでしょ。それはないって思っていたからね。これで紙プロにサクちゃんでれないね。なんかわかっちゃいるけど世の中、金に利権だね。しょうがないし自分もそうだし。

●美濃輪、高阪、西島が出て、桜庭が出ない『PRIDE』……移籍もしょうがないですよね……。

●大晦日にタレント相手にハッスルしてろ。

●まさか『PRIDE』の象徴の移籍なんぞ誰も予想してなかったと思う。サクには『PRIDE』い続けてほしいのでショック。頼むから『PRIDE』に戻ってきてくれー！

●何処まで汚い手を使うんだ。谷川氏は凄くムカツク。

●その前に『PRIDE』のリングで挨拶すべきでした。どんな理由があろうと今まで応援してきたファンに対して無礼。

●会場で観戦してたけど……これは、びっくりした。試合以外のこんな驚き大好き！　得した気分！　賛成か反対よりも桜庭の本音が聞きたいです。でも『PRIDE』ほど対戦相手いるかなぁ？　前田さん、谷川P次第！

●他の選手ならともかく『PRIDE』の主役が突然移籍するのは非常に残念である。理由を聞きたい。後、グランプリの前に発表するのは失礼。

●大いに歓迎！　『PRIDE』にも継続参戦をし、まさに総合格闘技版『武藤敬司』……。でも武藤が異動した翌年からプロレス界のボーダーレス化や人気が低迷したので、ないとは思うけど、こっちも崩壊か！　予想外れろ。

●心底残念。さようなら。

●はっきり言って『HERO'S』の70キロ級以外は『PRIDE』の吹き溜まり！　サクも『PRIDE』で勝てなくなったから移籍したと勘繰られてもしょうがない。

●まあ、それだけのひとだったってだけですね。それにしてもK－1は『PRIDE』選手の定年後雇用延長制度だな。

●『PRIDE』側、高田と何があったのかはわからないけど、桜庭信者の自分にとっては大ショック。『HERO'S』でるくらいなら引退してほしい。それくらい受け入れたくない事実。

●ミスターが移籍はあんまりだと思う。社長が悪い。死ぬ気で取り返せ!!　なんとかしてくれ。サクには白のマットと青のグローブと赤のテープが似合います。

●いろんな意味で、サクはプロレスラーであることを再認識した。

●新しい挑戦だから応援したい。

●完璧にアリでしょ！　ある意味、紙プロの真価が問われるんじゃないかな。記事期待してま

ガンツ　ただ、拓郎のそういう姿ってさ、“変態”ファンからすると「裏切られた気分です！」って榊原代表ふうにショックを受けるわけじゃない。「テレビには出ません」とか言って、俺たちの生き方にまで影響を与えたあなたはどこへ行ってしまったのって（笑）。

ジャン　ささきぃさんはどうですか、“変態”たちが提唱するこの吉田拓郎論は（笑）。

ささきぃ　え～っと、たしかに「LOVELOVEあいしてる」的世界になっていくんだろうし（笑）、「おもしろそ～」という感じでも、広くいろんな人たちに桜庭の魅力が伝わっていくんだったらそれでもかまわないですけど。

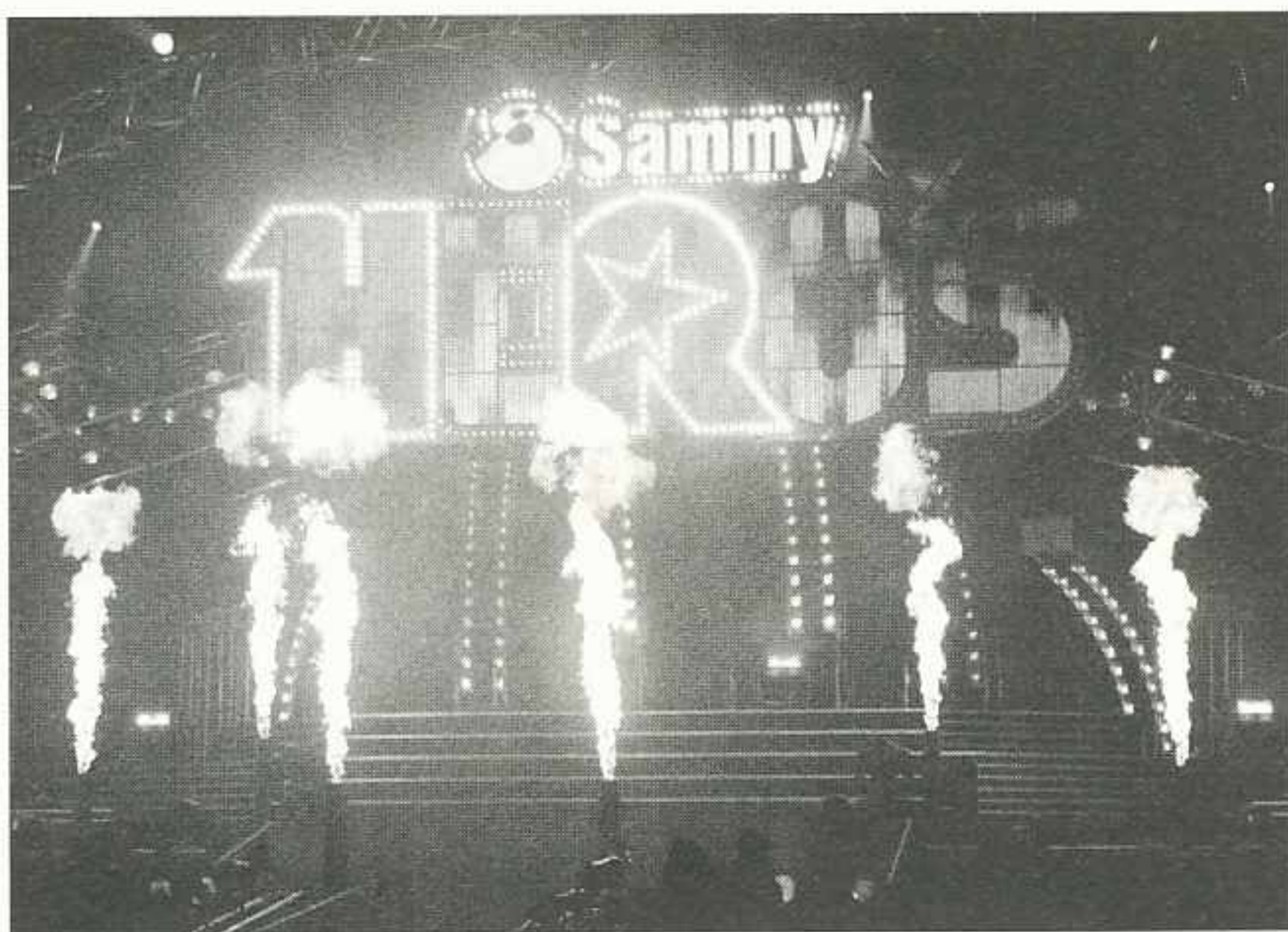
橋本　まあ、谷川さんも柳沢さんも基本的には“変態”なわけなんだから、そこは大丈夫だと思うよ。だってあの人たちは桜庭全盛期の『PRIDE』のブレーンだった人たちなんだから。桜庭に対する愛情だって人一倍あるはずだし。何かしら“変態”たちがピンとくる仕掛けをするんじゃないの。

ささきぃ　桜庭和志という選手は、ナイフの刃先を渡るようなギリギリの世界をずっとやってきた人で、その魅力をまだまだ見続けたいという気持ちはあるんですが……もう、『PRIDE』とは違う新しい闘いをやっていくんだろうなって気持ちにようやく落ち着いてはいるんですけどね。

ジャン　そこで根本的なことを聞きたいんですが、今回の桜庭の選択を皆さんはどう思ってるんですか？

橋本　俺は否定しないっていう感じかな。「『PRIDE』でさんざんしんどい凄い勝負をやってきて、今度は『HERO'S』かよ。がっかり！」とか「『PRIDE』で勝てないからヌルイ世界に行ったのか」とか、そういう意見には断固反対したいね。例えばいまの秋山と桜庭がやったら、それはかなり厳しいマッチメイクだと思うよ。『HERO'S』だってヌルいマッチメイクでワーキャーいわれる人気者になる路線が敷かれるとは限らないって。

ガンツ　それでも、『PRIDE』よりキツくなることは、まずないでしょ。

橋本　わかんないって。所英男だって楽勝だと思われてたブラックマンバに負けちゃうんだからさ。それに『PRIDE』の「レベルの高いホントの真剣勝負はウチだけですよ」という打ち出しにしても、あんまり言うとボロが出るっていうかさ。突っ込みどころはそれなりにあるわけだから。

山本KID、須藤元気ら70キロ級のファイターを中心として世界観が構築されてきた感があった『HERO'S』。桜庭の電撃移籍はどのような波紋を落とすのか──!?

ジャン　そこはどのイベントも一緒で、ハッタリを売るほうと買うほうの関係性なんだと思いますよ。たとえ現実と一致しなくても、っていうかそんなことは無理なんですけど、「そのハッタリ買った!!」と思わせる雰囲気や魅力を売り手は作らないといけない。『PRIDE』はなんだかんだ言いながら、そこはしっかり作りあげていると思いますよ。

ガンツ　これは田村潔司が言ってたんだけど、「『PRIDE』に出るっていうのはどういうことか。負けることへの恐怖と、生死に関わる恐怖の両方克服しなきゃいけないリングだ」って。『PRIDE無差別級GP』で藤田和之やTKがまさにそういう試合をやったじゃない。まさにこれが『PRIDE』だ！っていう。で、「まさにこれが『PRIDE』だ！」という試合をずっとやってきたのは桜庭和志だったんだよね。そういう試合が格闘技の醍醐味だと思うし、そういう試合があるから“変態”は格闘技を見続けているんだと思うけどね。

ささきぃ　その桜庭が『PRIDE』から離れると聞いたとき、私は本当にショックだったんですよ。

橋本　俺もヤだったけど、それ以上にささきぃは嫌な顔してたね。

ささきぃ　あれは泣きそうな顔だったんですよ。

ジャン　それは桜庭が『PRIDE』じゃなくて『HERO'S』を選んだからなんですか？

ささきぃ　う～ん……。

橋本　いや、どこに移ってもささきぃはそう思ったはずだよ。結局、『PRIDE』から離れたことがショックだったんだよ。

ガンツ　桜庭の決断は尊重したいんだけど、『HERO'S』に上がりたくて『PRIDE』を離れたんじゃないという雰囲気が漂ってるのが気になるんだよね。なんらかの理由で、『PRIDE』や、高田道場から離れたいと思った。だからこれは『HERO'S』移籍というより、『PRIDE』離脱だと思うんだよ。

ささきぃ　桜庭が『PRIDE』から離れたかったのか、何もかも新しくして一から始めるようなことがしたかったのか、そこはわかんないですけど……無差別級GPの二日前という一番やっちゃいけないタイミングで、やらかしちゃったじゃないですか。

橋本　このタイミングに関しては、たしかにちょっと引っかかるよなあ。

ガンツ　でも、離脱はしたけど桜庭は絶対に『PRIDE』を愛してたと思うんだよ。凄く苦渋の選択なんだろうなと思ったし、なんか松山千春の『恋』を思い出しちゃってねぇ。

橋本　今度は松山千春（笑）。あんた、ホントに32歳かよ！

ガンツ　「♪愛することに疲れたみたい～嫌いになったわけじゃない～」っていうかさあ。「♪それでもサクは、サク～」っていうか（笑）。

●イヤ過ぎる。ミスタータイガースが巨人に移籍するようなもの。完全実力主義の『PRIDE』で世界の強豪と闘え。シウバやアローナから逃げるな。
●うれしい。新しい戦場で蘇生してほしい。前田の居る場所で終わってほしい。
●事情は知らないが出ていきたい奴はとっとと出ていけばいい。引き留める必要はない。
●フリーになったと知った時も『PRIDE』から離れたら嫌だと思ってたのでショックです。『HERO'S』も凄い大会だけど、『PRIDE』のが思い入れがあるので
●すごい違和感だがまったりしはじめた格闘界にはよいサプライズかも。
●裏切り行為に高田がかわいそう！
●正直リングインしても信じられなかった。だが、これで面白くなったなと感じた。DSEとFEGの声明、今後の関係、ますます目が離せないですね。
●賛成！　今まで同様『HERO'S』での桜庭和志を応援していきます！　これからも『PRIDE』以上にファンをワクワクさせて下さい！
●『PRIDE』との架け橋を造る人物としては十分すぎるくらい適任だと思う！　両団体に世界一がいる現状は歯がゆいし、そんな壁取っ払って真の世界一を決めるにはいいタイミング。
●まぁ新境地を開くにはいいんじゃないかと思う。
●批判も出て来ると分かっているのに出てきた決断は評価したい。でも何の為に誰かと闘いたいのか明確な理由を明らかにして欲しい。
●個人的には出ないでほしい。意味がわからないし安売り感が否めない。
●正直言って驚きとショックです。何日か前に違うサイトに載ってたんですけどそれはありえない思ってました、よほど『PRIDE』側となにかあったのでしょう。
●今後残された選手生命の事を考えると、気持ちはわかる。
●ビックリしたが、これで『HERO'S』も面白くなるぞ――！
●いいんでないの？　団体替えて調子良くなる例もいっぱいあるし。だいたい『PRIDE』は大量引き抜きでリングス潰したくらいなんだから、何も文句言えんはずよ。
●要は、勝てそうな方へ逃げたって事。かっこ悪すぎる。
●本当にそうなってびっくりです。だけど新しい道を進むのもありだと思います。桜庭選手ならヒーローになれます。頑張ってほしいです。
●K－1と『PRIDE』がまた一緒に大会ができるいいきっかけになると思います。いきなりだったんですけど、桜庭選手はファンの事を考えてると思いました。今度からK－1と『PRIDE』二つを交互に出て欲しいです。
●ボビーや曙や引退した選手があがる総合格闘技をなめている視聴率優先団体をサクが選択したのは悲しい。
●四点膝、サッカーボールキック無しの『HERO'S』行きは、正直いい感じの選択だと思う。サクの持ち味も出せるし、適正体重の85には、秋山以外にテレビ的に主役の日本人がいないし。
●大歓迎！　桜庭は『PRIDE』ではもう過去の人になってしまっていたけど、『HERO'S』ならもう一花咲かせられるはず。
●この裏切り者！　サクが『PRIDE』のチャンピオンになるという夢を見続けた俺たちを、裏切るな！
●活性化という意味ではいいことだと思うが、

桜庭和志ファイナルアンサー座談会

ジャン （無視して）『PRIDE』側からすると本当に最悪のタイミングの移籍劇。でも『HERO.S』からすればこれぞ絶好のタイミング。仮に発表がもうちょっとあとにずれたりしたら、ここまでの衝撃性はなかったかもしれない。タイミングに賛否はありますけど、結果的に桜庭和志や『HERO.S』の存在感がグンと高まったことは事実ですよね。

橋本 桜庭自身が踏ん切りをつけるためにも、あれぐらいインパクトが強いタイミングじゃなきゃいけなかったのかもしれないね。

ささきぃ 実際、会見でもそんなようなことを言ってますよね。でも、マスク越しの表情がまたねえ。目が泳いじゃってて、「本当にあなたは来たくてここに来たの?」って問い詰めたくなるような動揺した表情で。そういう姿を見たのもまたショックでしたね。

ガンツ だから、あのマスクは自分の表情をファンに見せたくなかったんだと思うんだよね。

ジャン それは契約云々の問題ではなくて、心情的な問題で。いままでの桜庭のパフォーマンスは、やる気を素直に出すのが恥ずかしいから、照れ隠しの部分があったんでしょうけど、今回はただただ顔を見られたくないんじゃないかって。

ささきぃ 自分の顔を、たぶん見せられる状態じゃなかったんだと思いますよ。

橋本 これはいまの文脈とは関係ないけど、桜庭の「これを機に『PRIDE』とK−1が仲良くなってほしい」っていう会見での発言って、わりと悲痛な叫びなんじゃないかなっていうのはあるよね。「桜庭の移籍をきっかけに両団体の仲がよくなってくれないかな」という夢を託したくなるファンの気持ちは「それ本気にしてんの?」とは思うけど、でも笑えないよ。やっぱり変じゃん、いまの状況。二大団体の仲の悪さとかさ。一時は一緒にやってたんだから。

ジャン でも、その桜庭が全面戦争の火にガソリンを注いだわけですよ（笑）。

ささきぃ う〜ん。『PRIDE』側にしてみれば、「そんなこと言うんだったら……」って思っちゃうはずですよね。

ガンツ それにさ、この世界、〝交流戦〟ってありえないじゃない。二つ団体があったら、どちらかが主導権を握るしかないでしょ。

ジャン かつて可能だったのは、『PRIDE』がK−1の影響下にあったからであって。

ガンツ あれはK−1のほうが上だったんだよ。この二つが交流するときっていうのは、このK−1vs『PRIDE』が終わったとき。つまり、どっちかが軍門に下ったときじゃないかな。

ジャン 自分は『PRIDE』とK−1は仲が悪くてもかまわないし、こんな事件がないとマット界が場面転換することもそうそうないですから。これが〝引き抜き〟かどうかは別問題として、電撃移籍は全然ありです。

ガンツ いや、俺はいい引き抜きと悪い引き抜きがあるとは思うんだよね。俺がもう一つ、桜庭が『HERO.S』に参戦することに対して燃えるものがなかったのは、もともと『HERO.S』もホントに桜庭がほしかったのかなって気がするんだよ。

ジャン 『HERO.S』の世界観をより広げたり、強固にしたりするうえで、桜庭が必要なのかという。

ガンツ いったい桜庭を使って何をしたいんだろう? これが桜庭じゃなくて五味隆典だったら先の展望がわかりやすい。『HERO.S』に闘ってほしい相手がいっぱいいるじゃん。

橋本 移籍にも一流から五流まであるってことね。

ささきぃ さっきも言ったように、もう『HERO.S』の世界観はできあがってるから、どうしても桜庭が必要な局面ではないですよね。べつに85キロ級トーナメントも、桜庭が出てくるような期待はしてなかったですから。

橋本 でも、桜庭を獲ったことが、『HERO.S』は70キロ級以外にも、力も金も使っていきますよというメッセージとしてうまい具合に伝われば、出場選手も含めていろいろ動いてくる可能性があるじゃん。『HERO.S』に入ったことで桜庭がどう変わるかということと、桜庭が入ったことで『HERO.S』がどう変わるかという面白味はある。

ガンツ なんにしろうまくいってほしいよね。悪い引き抜きで選手を殺してしまうことだってあるわけだから。古いプロレスファンにわかりやすいたとえで言うと、新日本プロレスから全日本プロレスに移ったスタン・ハンセンは〝ミスター全日本プロレス〟になるぐらい成功したけど、新日本に移籍したブッチャーや、その報復として全日本に引き抜かれたジェット・シンは、まったく輝きが失なわれたんだよ。俺はK−1と『PRIDE』にそういうことが起きてほしくない。

ジャン 引き抜きでいえば、前田日明ファンからすると、リングスの件もあるから「『PRIDE』、ザマア見たことか!!」という声はあると思いますけどね。

ガンツ それはちょっと違うでしょ。だって『PRIDE』がリングスから外人選手を引き抜いてた頃って、そのブレーンはいま『HERO.S』を運営してる方々なわけじゃない（笑）。でも、あれは〝いい引き抜き〟だったと思うのよ。『PRIDE』はノゲイラやダンヘンがほしくて獲って、彼らを大きく花開かせたわけだから。

橋本 今回も結果的にはいい移籍だった!ということになってほしいんだよね。

ジャン そこで桜庭の選択についてもうちょっと考えたいんですね。これによって桜庭は解放されたという感覚はありますか?

携帯サイト『KamiproHand』アンケート

Q 桜庭和志が『HERO'S』で対戦してほしい選手は?

1. いない
2. 秋山成勲
3. BJ・ペン
4. ヒクソン・グレイシー
5. 田村潔司
6. 曙さん
7. 山本KID徳郁
8. 須藤元気
9. 船木誠勝
10. ヴァンダレイ・シウバ

【次点】所英男／ボブ・サップ／前田日明／角田信朗／中尾芳広／谷川貞治

【解説】現時点で『HERO'S』85キロ以下級トーナメントの出場は流動的なサク。スペシャルワンマッチならば、選択の幅はグンと拡がるが、対戦してほしい選手は「いない」というファンの現実を覆すサプライズをサダハルンバ谷川氏が仕掛けられるか?

その裏側を知りたい。高田との確執とかあったのか?

●なんか複雑な気分。しかし行くと決まった以上、これまで通り応援していきたい。そして『PRIDE』にまた帰ってこいや――!

●プロ選手が自分の意志で団体と交渉して、自分が上がるリングを選んだだけのこと。問題があるとすれば、高田に話を通していないことぐらい。ただ、そこが最大のポイントなんだろう。二人の今の関係には興味がある。

●完全支持。

●批判はできないが、支持もしません。シュートボクセ勢まで追随するようなことにならないことを祈ります。

●いんじゃないかと。

●同じ階級では相手がいないような気がするが……。谷川に誘われてっていう移籍は不幸な結末になりそう。

●黒い噂のたえないDSEは、桜庭選手のイメージに合わないと思います。『PRIDE』ファンの中には桜庭のことを口汚く罵る者もいて、『PRIDE』の関係者及びファンには選手に対するリスペクトが欠けています。

●哀しい……これからわざわざサクを観に行こうとは思わない。

●スタン・ハンセン全日移籍以来のビッグサプライズ! 『PRIDE』との間よっぽどのことがあったのだと思う。サクを支持します。

●残念。『PRIDE』のほうが高いレベルだと思うので。『HERO.S』は観ててもつまらないしドキドキしない。ガッカリする。

●大賛成!

●できれば両方のリングに上がって欲しい。vsダンヘンが見てみたい。

●本当に裏切られた気持ち。でも桜庭が好きで『PRIDE』を見てたと思ってたけど『PRIDE』が好きなんだと認識できた。

●ショックのひとこと。

●仕方ないかな。『PRIDE』にいても強豪にはもう太刀打ちできないし。堕ちた感はあるけどオーラはまだまだあるから頑張って欲しい。勝ち負けは興味ないけど試合は観たいと思う。

●ダメなものはダメ。以上、終わり。

●超・想定の範囲外『PRIDE』の桜庭が大好きだったので率直に寂しい感じがした。『HERO.S』で期待する事は特に無い 橋渡しの必要も無い。俺はかえって盛り下がったな。色々あってお辛いのだろうけど……。

●やむを得ず。これまでに桜庭に感動を与えてもらった格闘技ファンなら、これからの桜庭の姿を見届けてから、その時感じたものをそれぞれの答えにするべきだ。〝裏切り者〟など軽々しく言ってはいけない。

●まだ分かりません、ハッキリ言って今のところガッカリしてます、プロレスだったら楽しい出来事だったのに……。

●NOAHから逃げてカッコ悪い。

●複雑な気持ち、サクは『PRIDE』にいるより『HERO.S』に行った方が活躍はできると思う。しかし桜庭の『PRIDE』ラブは揺るぎないものと思ってた。

●あのリングに立つまでには相当な勇気・覚悟・葛藤があったに違いない。我々には裏でどんな出来事があるのか知らないが、桜庭が決めた事だから素直に応援しようと思う。

●なんなんあれは? どういう理由にしろ社長、部長に留守電一本だけって、どういう理由にしろ挨拶するのが筋じゃあないかな。幻滅しました。

●ただただ驚き。『PRIDE』のヒーローだったんだし。でも最近マンネリ化してたし、よかったかも。僕たちの夢を乗せて戦ってくれるな

桜庭和志 ファイナルアンサー座談会

橋本 そんな重圧あったの?

ガンツ それはあったでしょう。

ジャン 一番解放されたのはファンだと思うんですけどね。「桜庭が苦しむ姿をもう、見なくていいんだ……」という。そこはそこで魅力ではあったんですけど。

ささきぃ それは、それこそリングスがなくなったときの解放感に近いんじゃないんですか(笑)。「もう、選手たちのこんなしんどい姿を見なくて済むんだ」って。

ジャン いやいや(笑)。リングスの休止はWOWOW中継の打ち切りが決定的な原因で、WOWOWクラスのバックアップがないかぎり復活は絶望だったわけですけど、桜庭の場合は近い将来、新しく生まれ変わった姿が見られるわけじゃないですか。そこで魅力のあり方はともかく、ファンを惹きつける姿が見せられるかどうかが問われるだけであって。

ガンツ ただ、桜庭に対してファンが望んでたことは、『PRIDE』で苦しんでいた逆境から復活する姿だったんだけども、それが叶わないのであれば、これはファンの勝手な注文だけど、『PRIDE』で燃え尽きてほしいという願望があったと思うんだよ。

ささきぃ もの凄い散り方をしてほしかった気持ちはありましたね。

ガンツ それこそが桜庭和志だと思っていたわけじゃない。ウェルター級転向に寄せられる期待にしても、要は最後にギリギリの勝負をもう一度見せてほしいってことでしょ。

ささきぃ ファイターの一番いいときから散り際まで見届けられるってことは、凄い幸せなことではありますからね。

橋本 『HERO.S』で見届ければいいじゃん。

ガンツ いや、見届けるといってもさ、ファンの思い入れによっては全然、幸せじゃなかったりもする場合もあるわけじゃない。へんな話、俺は前田日明が引退後、公言してたとおり命懸けの太平洋横断ヨットレースに出て、そのまま行方知れずにでもなってたら、間違いなく一生前田信者だったと思うんだよ(笑)。

橋本 そんなこと言ってると、また正拳突きをお見舞いされるよ(笑)。

ガンツ へんな意味じゃなくて!(笑)。選手の引退ってそれと同じでしょ? 最高の場所でいいタイミングで引退してほしいという。ここ数年の桜庭ファンだってそういうもんじゃない?

ささきぃ ……あの、桜庭ファンって、前田ほどキツイ〝変態ファン〟ばかりじゃないですけど。

ジャン そういう〝変態〟を生み出した前田日明は偉大だなあ(笑)。

橋本 でもさ、『PRIDE』やファンの要求と、桜庭のモチベーションは合致してたんじゃないの?

ジャン どうでしょう? 3年前の大晦日にケガを抱えたままホジェリオと闘ったことがあったじゃないですか。あのとき桜庭はソラールを選べたんですけど、「ボクだって意地がありますよ!」って言ってて。『PRIDE』で闘う以上はホジェリオを選ばなきゃならないという意地は、そりゃあったんでしょう。

橋本 それは「本当は嫌だけど……」っていう感じだったのかなあ。俺が思うに、桜庭は「楽な相手とやりたい」とかじゃなくて、「まだまだ現役でやりたい」という思いだったはずなんだよね。そこで、できれば自分が願ったような、自分の生き方を認めてくれるような団体でやりたかったんだよ。本人からしたら〝終わり方〟なんて誰にも気にされたくないって。

ジャン つまり、『PRIDE』は桜庭和志という存在を認めてくれなかったと?

橋本 だって、無差別級GPにも出してくれなかったわけだしね。

ガンツ 俺は、無差別級GP云々じゃなくて、桜庭は、「『PRIDE』は自分の価値を認めてくれてない」と思ったんじゃないかと思うんだよ。仕事において自分がどのくらい評価されてるかっていうのはさ、当然、金銭面のことだって含まれるわけじゃない。

橋本 一つ断っておきたいのは、「俺をVIP扱いしないとダメですよぉぉぉ!!」って叫んでるお年寄りとは違うわけでしょ?(笑)。

ガンツ それはもちろん!(笑)。『PRIDE』もサクを凄く大事にして、最大級の評価をしていたんだろうけど、それ以外の、例えば、フリーの大物選手やトップガイジンに出てもらうためにさ、『PRIDE』はいろいろな手を尽くすわけじゃない。それこそ「好き好き好き好き、んあ~!!」という谷川さん状態で(笑)。

橋本 だから、いみじくも榊原代表が言ったように、桜庭和志は〝家族〟だったんだよ。

ガンツ 一緒に『PRIDE』を創りあげてきたという想いもあるわけですよね。だから一緒に苦しんでくれるもんだと思ってたわけでしょ。そういう意味では、ある種の悲劇ではあるよねえ……。

ささきぃ 『PRIDE』は「〝愛してる〟って言わなくても、君が大事だってことはわかるでしょ」っていうところはあったと思いますよ。

橋本 でも、桜庭からすると「〝愛してる〟って言ってくれないとわかんないわよ!」っていう(笑)。

ささきぃ それでサヨナラも言わずに出て行ったと(笑)。

ジャン 黙ってプレゼントを用意していたのに、クリスマスの前日に置き手紙もないまま出て行かれたみたいなもんですね(笑)。

橋本 まあ、彼女と別れた理由を一個に絞れますかという話でさ、何か決定的な原因というよりも、微妙な気持ちのすれ違いもあったのかなあ。マーク・ハントも「移籍なんて一つの理由でするもんじゃねえよ」って言ってたけど。

ささきぃ 髙田本部長もいまだに沈黙を守ったままですけど……。

ガンツ この号が発売する頃には終わっているからどうなるかはわからないけど、5・13『ハッスル』仙台大会の髙田総統はある意味で注目だよね。本部長とは別人だけど!

ジャン 『ハッスル』ってガス抜きの場としては打ってつけですからね。恐・イタコに桜庭和志が降臨してほしいなあ(笑)。

ささきぃ (無視して) 本部長の無言のリアクションからも、桜庭は礼を尽くして出ていってないんじゃないかという感じはありますよね。

ガンツ それは桜庭にもそうせざるを

●賢い決断だと思う。『PRIDE』ではもうらどこのリングでも付いて行くよ。
苦しい。
●基本的には反対だけど、これをきっかけに本当に両団体が仲良くなるのであれば最高!
●個人的に『PRIDE』のリングには居場所が無いように感じていたので良いと思います。しかし高田との関係を考えると驚きです。
●残念やけど ジャクソン、ヒーリング同様 落ちぶれていく過程のひとつやと思う。どうせならUFCに行って欲しかった。
●寂しい気もするけどシウバやアローナと今闘っても簡単に勝利には結びつかないので選択肢としてはいいと思う ただ再び中心になれるかは「?」がつくけれど。
●当然でしょう。DSEでの死場所を捜し損ねた老象みたいな扱われっぷりを思えば、良く今まで我慢を重ねてたなぁ。って感心しますよぉオ。
●有りか無しかでいったら、『有り』。ただ『HERO.S』は『PRIDE』に比べて、桜庭の対戦相手として魅力的な選手が少ないと思う。パッと思いつくのは秋山くらい。移籍による難があるとしたら、その点であろう。
●がっかりです。
●ベルトをとりたいだけ。
●プロとして自分が一番輝けるリングをめざすのは当然だし 何よりも大波を起こした行動と勇気にアッパレ 花の命は短いですから でも正直ビックリしました。
●ビビってたじろいだ。
●『HERO.S』いきなりサクのテーマが流れ、まさか……思わずテーブルひっくりかえそうになった。またいつのにかひとつになれる日も夢見て、盛り上げてほしい
●現時点での彼の実力を考えた場合、仕方ないと思う。今までありがとう。
●本人も悩んだ末に決断したことだから、ファンとしては頑張れ、と応援するしかないです。前向きに、桜庭選手の試合がゴールデンで観れる事を喜びます。
●度肝を抜かれた。サクには両舞台の架け橋になって欲しい。
●残りの選手生命を考えたら可だと思う。評価されるうちが華だし。
●最近のDSEの桜庭への扱いからみてこれでよかったと思う。前田、谷川両氏なら桜庭の要望を最大限に受け入れてくれるだろう。
●大賛成!! 格闘家の選手寿命は決して長くはありません。ファンとしては一試合でも多く夢のカードを見たいものです。どうぞ好きなようにやってください。
●桜庭の目指す闘いが見えて来ないのが不安です。
●とにかくショック。応援してあげたいが正直そんな気にはまだなれない。『HERO.S』が『PRIDE』より輝ける場所だとも思えない。今は両団体の架け橋になるというサクの言葉を信じたい。
●残念でならない。『HERO.S』の会場で桜庭のテーマが流れてもなお、わたしはそんなはずがないと思っていた。タイガーマスクの声を聞いたときの衝撃と落胆は言葉では表現できない。裏切りもの!と精一杯叫んでいた。
●いろいろ考えての事だからいいと思う。ただあの桜庭が去るだけの事があった訳だからDSE及び高田は真摯に受け止めてほしい。
●いいと思う『PRIDE』ではもう第一線ではないので最後のチャンスがんばれ。
●特に問題は無い。
●賛成。プロディ新日、長州全日移籍以来の衝

得ない理由が当然あったんだと思うのよ。だから双方に本音を言わせたら、絶対にネガティブな言葉しか出てこないから、本部長とサクは沈黙を守っていいと思う。

ジャン　いまだに第2次UWFが解散した理由をみんな言ってることが違いますし。決定的な真相は藪の中なのかなあ。

橋本　俺、UWFが解散したときも凄くショックだったけどさ、なんとなくリングスに感情移入したり、Uインターが好きだったり、藤原組に行ってみたりとか、いろんな楽しい思い出も生まれたわけだよ。だから今回の騒動がもとでそのうち何かが生まれたりして、結果的に良い思い出になってほしいなって。もう一つ、谷川・柳沢の両氏とともにTBSのプロデュース手腕には凄く注目するね。〝家族愛〟とかさ、そういうヘタな煽りはやってくれるなってことも言いたい。で、『PRIDE』は『PRIDE』で、これまでの歴史から桜庭和志の名前を抹殺するようなことはやってくれるなとも思うしさ。

ささきぃ　5月5日、無差別級GPのリング上から桜庭の件で何か意思表示があるかと思っていたら、そういうものは一切なかったですね。あの桜庭の映像も流れたオープニングの最後に「WE ARE PRIDE」って出て、これがメッセージなのかな、とは思いましたけど。

ジャン　大会終了後の榊原代表の談話だけですね。

ささきぃ　榊原さんの立場だったら「裏切られた」と言わなきゃいけないのはわかるんですけど、桜庭ファンとしてはやっぱり一言「いままでありがとう」と言ってほしかったですね。それは別れ際の演出みたいなものですけど。「最後は嫌な思いをしたけど、いままで付き合ってくれてありがとう！」というそのひと言が言えるかどうかでちょっと違うんですよ。それは言ってほしかったですね、やっぱり。

橋本　それはその通りだね。

ガンツ　あのさ、それは言えない理由があるんだよ！（I編集長ばりの大声で）。ファンの反発買うのわかってて言ってるんだろうから。というかね、田村潔司がリングスを抜けたとき、前田がなんて言ったか。「赤いパンツの銭ゲバ男」だよ（笑）。それがあれだけ身体を酷使してきたエースに言う言葉かって。でも、前田日明の立場からするとそういわざるを得ないんだよね。そういうもんだよ、離脱や移籍劇というのは。

ジャン　あの現場の空気感や興奮からすると、桜庭だろうが誰が辞めようが、TKや藤田があんな凄い試合をやったあとだったら、そんなネガティブな話題は馬鹿馬鹿しくて語れないって言うと思うんですよね。

橋本　俺も現場にいたけど、「そんなことよりTKのことを語りたい！」という空気はたしかにあったよね。「あの藤田のテンションがさ～」とか。個人的には美濃輪（育久）の敗戦と、おいしいホルモン焼屋が閉まっていたショックを語りたいけどねえ。大会後の楽しみにしていたのにさあ。

ささきぃ　（また無視して）私は東京に残ってたんで、榊原さんの言葉だけ見たら、「ちょっと冷たいな」って思っちゃいましたね。携帯サイトのユーザーの反応は、正直凄い評判悪いですよ。

ガンツ　だから、それを承知で言うわけなんですよ。だって、桜庭も「仲良くなりたい」「架け橋になりたい」「感謝しかない」とか、それは建前上、そう言わなきゃしょうがないでしょ。だったらああいうかたちで出て行く必要ないんだから。

橋本　もしかしたらあそこで、淡々と「桜庭選手を恨む気持ちはないですし、いままでありがとう」とか言ったら、「なんかしゃらくせえ公式コメントだなあ」とか思ってたかもしんないよね。

ジャン　まあ、代表の立場上、決別宣言はしないといけないところですよね。中途半端なコメント出せば、ファンや関係者に迷いや後悔が出るだろうし、現時点では絶望的な交流戦に淡い期待を寄せちゃうし、『PRIDE』だって前に進めないですから。今回の件はもうしょうがねえなってということで（笑）。

橋本　面倒だからってそんな簡単にまとめるな（笑）。

ジャン　いやいや、もう誰もが納得するようなかたちというのはありえないですよ。とりあえず、唯一意見が一致した桜庭和志＝吉田拓郎というのが結論で、よござんすか？

橋本　だから適当にまとめるな（笑）。

ガンツ　う～ん。拓郎というよりジャニーズの番組にゲスト出演するマッチ（近藤真彦）のほうが近いのかなあ。「マッチさん」とか言われて。

ジャン　だったらいつもニコニコしていてそのギターテクは誰からも尊敬＆一目置かれるヨッちゃん（野村義男）のイメージはありますけどね。

ささきぃ　また話がこんがらがってきた（笑）。

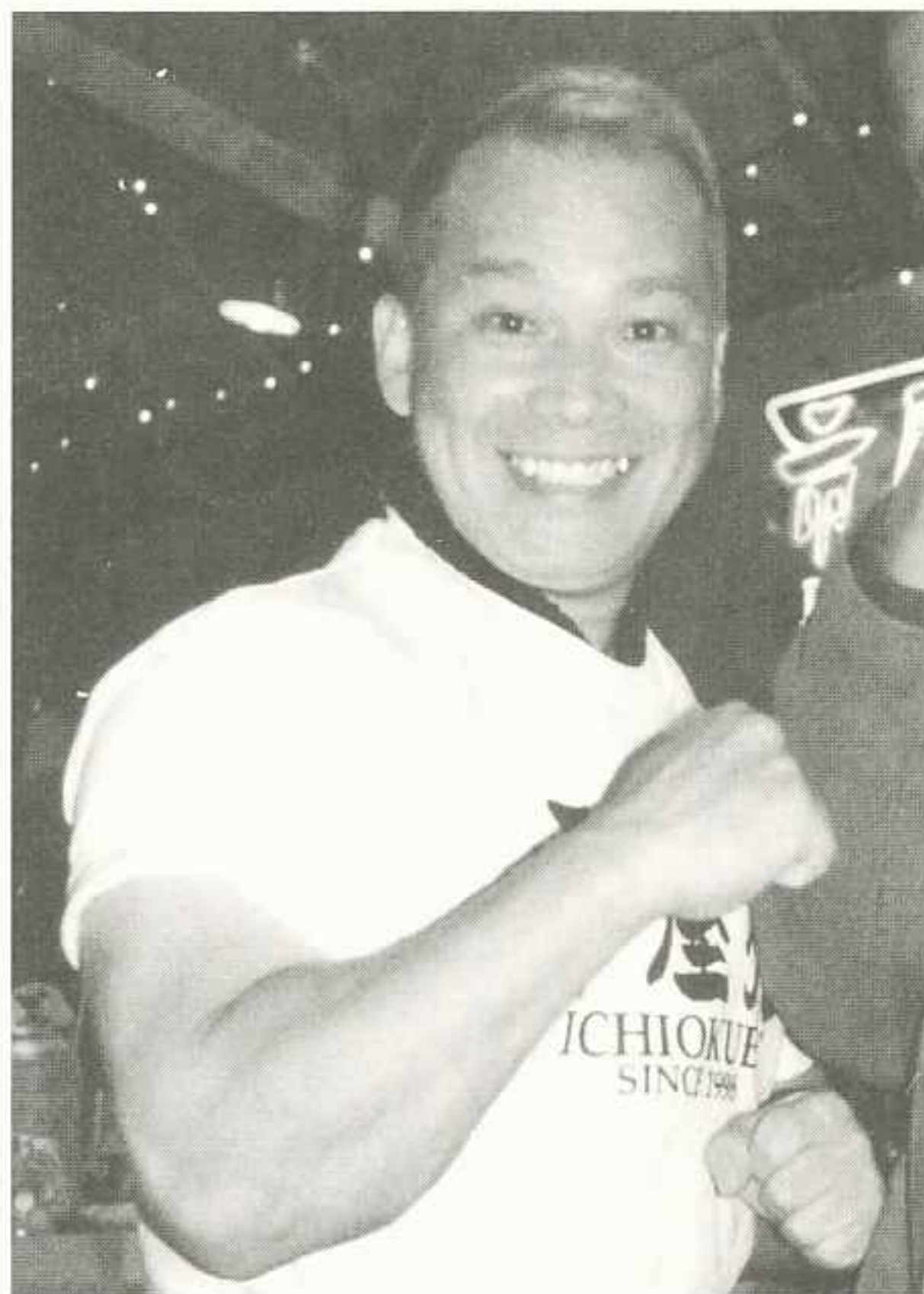
ガンツ　サクはマッチよりヨッちゃんかぁ。というわけで、今日はこれにてザ・グッバイ!!

【06年5月8日／都内某所のフォーク喫茶にて収録】

※本文中敬称略

サク電撃移籍後、沈黙を守ったままの髙田延彦の胸に去来するものは――!? ちなみに上の写真は、06年上半期ベストショット大賞に輝いた一枚！　髙田、ヒョードルの持ち味が奇跡的に融合しているよ！

●撃。実は田村も移籍で、スーパーUWF構想を見据えたものでは!!
●田村と戦ってくれるならどんな地方でも、どんなリングでも見に行く。っーか今の桜庭にはvs田村以外興味もてない……。負ける姿をこれ以上観たくないし、あきらかな格下相手に勝って喜んでる姿も観たくない。
●微妙！　さくは、好きだけどもうピークは過ぎてると思うので、『PRIDE』のリングで引退してほしかった。また、輝いてほしいけど……。
●昨日のコメントは、ファンをバカにしているように感じた。詭弁だよ、あんなもん。
●賛成。桜庭のえがく理想はよくわかる。『HERO'S』との交流が持てると五味対KIDとか野球のセパ交流戦みたいにお互いの面白いカードが見れる。
●ショックだけど桜庭選手が際立つルールであり階級だと思う。
●なんかやだ。『PRIDE』のが上と信じたい。K―1側は立ち技でやってほしい。いろんなものに手をださないで下さい。
●やっぱりショック！　正直、戦う相手も思い浮かばないまあ、誰と戦うにしろ判定とかだけは公平にしてほしいです。魔裟斗とか武蔵的な感じは引きます。
●桜庭にとっては良い選択だと思います。ファンとしては髙田と桜庭を応援していたので寂しい気がします。Uインターもこれでジ・エンドかな。
●いやぁ……まさにびびってたじろぎました！「逃げた」とかくだらん意見もあるだろうけど、個人的には凄い楽しみです！
●前田の逆転満塁ホームラン！『PRIDE』がリングスのトップ選手を根こそぎ持っていったがこれで一気に流れが変わる。
●マスコミに事前通知して参加すべき。今回のサプライズは程度が低い。確実にファンは減ったのでは？　興行屋に任せっきりではなく自己プロデュースはすべきだった。両方のリングにあがるならなおさら！
●両方のリングに上がってほしい。そしてこれを期に数年前のようにK―1と『PRIDE』が協力して交流戦なんかできたらすばらしいと思います。特に年末は合同でやってほしい。
●とてつもなくショックだった。他の選手ならともかく、サクが『HERO'S』に参戦するのは訳が違う。もう何が何だか分からない。残念だ。
●何かすごく寂しい気持ちになった。今まで本当にサクを応援してきたのにでもサクが『HERO'S』で闘うんだったらまた応援すると思います。年末には『PRIDE』に帰って来て欲しい。
●鳥肌が立ちました、裏切り行為です。
●単なる外人選手の移籍とは訳が違う、野球界や芸能界で同じようなことがあれば日本を揺るがす出来事。ちゃんとファンに納得いく説明をしてほしい。
●『PRIDE』の象徴・桜庭和志から日本格闘技の象徴・桜庭和志に昇格！
●すげーびっくりした。桜庭にとっては『HERO'S』にいったほうが、良いとは思う。しかし、昨日テレビで見てて、涙が出た。うまく言葉で表現できないけど、とっても寂しい気持ちになった。
●これからも応援します！　し続けます！　格闘技を見て感動の涙が出た唯一の選手ですから！
●桜庭には正直ガッカリです。桜庭と『PRIDE』側で何があったか知らないけど……あまりにもファンを裏切った移籍だと思う。『PRIDE』以外のリングには上がらないって言ってた事は嘘だったのか!!

鈴木 健

今回の"桜庭騒動"について語ってもらうには、この人が適任だろう。高田延彦ファンクラブ会長からUインターのフロントへ。現在は都内にて『市屋苑』の店主である鈴木健氏に話を聞いてみた。

元Uインター取締役にして現『市屋苑』マスターの
"桜庭騒動"、裏読み

聞き手／松澤チョロ

「桜庭はPRIDEから送り込まれた破壊工作員だと思ってるから」

―すでに何日か経ってしまいましたけど、元Uインター取締役として桜庭さんの『HERO'S』登場はどのように感じました？

鈴木　俺はね、桜庭が高田道場を辞めたって聞いた時点で、そうなるのかなっていうのは、なんとなく思ってたんだよね。

―じゃあ、ある程度、予想していたと？

鈴木　そうだね。もっと言っちゃえばね、桜庭は『PRIDE』から『HERO'S』へ送り込まれた破壊工作員だと思ってるから。

―また、それは凄い裏読みですね（笑）。

鈴木　裏読みっていうか、俺的には、それが事実だと思ってるから。でも、榊原さんは演技が下手だから、「やっぱり怒ってるよ」って思ってる人が多いでしょ（笑）。

―「裏切られた」とか言ってましたし、榊原代表はかなり怒ってるように見えましたが、あれは演技だったと（笑）。

鈴木　でも、今回改めて思ったんだけど、プロレス界っていうのは、移籍とか引き抜きって付きものじゃない？

―ブッチャーやシンの時代からありますからね。

鈴木　そうでしょ。俺もUインターやってて、山ちゃん（山崎一夫）が抜けたり、中野（巽耀）が抜けたり、タムちゃん（田村潔司）が抜けてったりとかね。

―いろいろありすぎましたよね（笑）。

鈴木　そうそう（笑）。でも、やっぱり格闘技界もそういうことが起こるんだなって思ったね。『PRIDE』も『HERO'S』もプロレスみたいな団体とは違うわけじゃない？　桜庭っていうのは『PRIDE』に出てる高田道場の一選手だったわけで。だから、噂にしろ、そういう話が表に出たら、絶対『HERO'S』のほうに当然行くんだろうなって思ったんだよね。じゃなかったら、高田道場を出る必要はないわけでしょ。

―まあ、そうなりますよね。

鈴木　桜庭としては、これを機に新しいチャレンジをしたかったんじゃないの。まあ、『PRIDE』サイドから見たら、桜庭をライバルの『HERO'S』に送り込むことによって、『PRIDE』の実力とか、レベルの高さが、どれぐらいだっていうのを見せられると。俺は、桜庭が『HERO'S』に出たら、連戦連勝できると思ってるしね。現状では、あっちこっちケガしてる状態だけど、そんな状況でも『PRIDE』のトップファイターは強いんだよってことを証明できればいいと思うんだよね。

―鈴木さんの読みでは、いずれ『PRIDE』のリングに戻ってくると？

鈴木　戻ってくるっていうか、向こうである程度、やり尽くしたら、『PRIDE』のリングで闘いたい相手とやるんじゃない？『PRIDE』でも『HERO'S』でもない他の大会に出るかもしれないし。

―そういう可能性もありますかね？

鈴木　全然あると思うよ。そういう意味では、垣根はなくなってもいいかもしれないなっていうのはあるよね。その懸け橋になるのが桜庭だったら、格闘技界にとって素晴らしいことだと思うしね。

―桜庭さんも、これを機会に『PRIDE』とK－1が仲良くなればいいと言ってましたからね。

鈴木　いや、決して仲良くなる必要はないと思うんだよね。対立関係があるから繁栄していくわけであって。それは間違いないでしょ。昔の新日本と全日本の関係を見ればわかるだろうし。その中で新日本から長州が全日本に行ったりとかもあったわけじゃない？　それによってプロレス界が盛り上がったように、今回の桜庭の『HERO'S』登場によって、両方の大会が盛り上がって発展していくのが一番いいと思うし、発展していくに決まってるんだから。

―発展していくのは間違いないと？

鈴木　そうでしょ。衰退につながるわけがない。桜庭がこれまでの『PRIDE』を盛り立てていったのは間違いないでしょ。ヒクソン以外のグレイシーはほとんどやっつけちゃったからね。で、向こうに行ったら、『PRIDE』の強さも桜庭の強さも発揮できるだろうし。向こうでやることを終わらしたら、また『PRIDE』に戻って闘うっていうのもいいんじゃないかな。『PRIDE』でリベンジしたいって桜庭自身思ってる選手も絶対いるはずだからね。

―シウバもそうですし、田村戦を期待してるファンも少なくないでしょうからね。

鈴木　そうだよね。桜庭はUインター時代から見てきてるけど、性格的にも自己主張ってあまりしないタイプなんだけど、そういう意味では今回、初めての自己主張だったのかなっていうのは思うよね。っていうか、はじめてのおつかいだよね（笑）。

―『HERO'S』登場は、はじめてのおつかいでしたか（笑）。

鈴木　そうそう（笑）。まあ、桜庭の件に関しては、ここでは言えない話も多いんだけど、ウチの店に来たら、もっと凄い裏話が聞けるかもしれないってことで『市屋苑』もよろしくお願いします！

【06年5月11日／電話にて収録】

【市屋苑インフォメーション】
鈴木健ちゃん自ら連日厨房で腕を奮っている『市屋苑』。焼き鳥をはじめ料理の味は絶品！　そしてお酒も種類抱負！　プロレスラー＆格闘家から芸能人まで常連客にはビッグネームも多い『市屋苑』。運が良ければ、あの人にも遭遇できるかも!?　店の一番目立つところには、いまでも高田延彦と桜庭和志のサインが並んであります。最強ッ！　（『市屋苑』東京都世田谷区用賀4-14-2-2F　TEL.03-3707-3223）

徹底再録

桜庭和志『HERO'S』参戦表明記者会見

10年に一度、いや、100年に一度の衝撃サプライズとなったサクの『HERO`S』電撃登場！『PRIDE』の顔役だった桜庭和志は、いかような覚悟でこの究極の決断を下したのだろうか？　サクが唯一、この決断について言葉を発した『HERO`S』参戦表明記者会見を徹底再録!!　FEG代表のサダハルンバ谷川、『HERO`S』スーパーバイザーの前田日明の言葉も併せて、桜庭和志の決断、今後の動向を感じ取ってほしい!!

構成／ジャン斉藤
designed by nogu（Two three）

5・2『HERO'S』のリング上にタイガーマスクの覆面を被って電撃登場した桜庭和志が翌4日、都内ホテルで『HERO'S』参戦表明記者会見を開催した。会見に出席したのはFEG代表・谷川貞治氏、『HERO'S』スーパーバイザー・前田日明の3人。会見に先だって谷川代表は今回の桜庭和志の移籍の経緯について説明した。

谷川　本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、昨日は『HERO'S』のほうの取材に駆けつけていただきまして誠にありがとうございました。本当におかげさまでKID選手とか、本当に神がかり的な闘いを見せつけてくれましたし、大会的にはおおいに盛り上がったんじゃないかなって思っております。

　で、今日はですね、昨日の、『HERO'S』にですね、急きょ、休憩明けにご紹介させていただきました**タイガーマスクさん**の件につきまして記者会見をさせていただきたいと思います。ちょっと話が長くなるかもしれませんが、わたくしのほうから、まず経緯をちょっと話させていただきますと、先月に入って、**3月に桜庭選手が髙田道場を無事に円満退社**されたという噂がですね、わたくしのところにも入ってきました。えー、3月の末時点でですね、髙田道場との契約が切れて、「桜庭選手がいまフリーでいますよ」という話を聞きましてですね、何人かの知り合いの方とですね、「あー、だったら一回メシでも食いたいな」と思ってですね、話をしてたんですが。まあちょっといてもたってもいられなくてですね、わたくしのほうから桜庭選手のほうに連絡をさせていただいた次第です。

　これはですね、わたくしの気持ちを言いますと、過去、K－1のほうからですね、まあ古くは**ブランコ・シカティック**選手とか**佐竹（雅昭）**選手とか、まあ**ミルコ（・クロコップ）**選手とか**（ステファン・）レコ**選手とか**（マーク・）ハント**選手とか、**モーリス・スミス**選手とかですね、歴代のK－1のベスト8ファイターがですね、『PRIDE』のほうにいっちゃったりなんかしてるっていういろんな経緯が（あって）。**K－1と『PRIDE』との状況**を皆さんもわかってると思うんですけど、そういう思いとはまったく本当に別の意味でですね、桜庭選手に関しましては、わたくしいま『PRIDE』さんとは交流がないんですけど、必ずいちファンとして試合をPPVのほうで観させていただいてました。その中でですね、**『PRIDE』さんのお手伝いをさせていただいてたときに**ですね、一番思い入れのある選手でしたし、そんな桜庭選手がですね、この3年間ぐらい試合を観てて、**これは批判でもなんでもなく**、プロデューサーとしてですね、**「自分だったらこうしたいな、ああしたいな」**という気持ちが本当に正直言ってわたくしの中にありまして。で、フリーになったときにそういう話もしたいなということで、桜庭選手に連絡をとったところ、まあ桜庭選手自身はですね、久しぶりにちょっと会って、ほとんどそういう話もしない中で、最後のほうに、ちょっとそういう話をしただけで。その時点では、まあ『HERO'S』でやるとか、我々と一緒にやるとかいう気持ちはほとんど、まあ**10パーセントもなかった**と思うんですが、そのあといろいろ「**いま悩んでいるので、知り合いの弁護士の先生と一ついろんなことを相談してください**」というかたちで別れまして。それから弁護士の先生といろいろお話をさせてもらう中で、まあ一ヵ月も話してないんですけど、二週間ぐらい話をして、最終的にですね、K－1ラスベガスから帰ってきた今週の月曜日（5月1日）ですね、**桜庭選手のほうから「自分は『HERO'S』に行きます」**と。**すでにかなり酔っぱわれてたんで、本当かどうかよくわからなかったんですけど**。で、まあ「**明日、榊原社長のところに行ってきます**」という話をしてですね、それが今週の火曜日だったと思うんですけど、桜庭選手とその弁護士の先生がですね、たぶん榊原社長のところに行かれたと思います。で、その夜、僕が感じた桜庭選手の表情は、かなりやっぱりなんて言うんですかね、酔っぱらってたんじゃないと思うんですけど、**目も心持ち真っ赤っかでしたし、かなり動揺している**ような感じだったんですけど、「いろんなことがあるんですが、とりあえず、自分は明日（リングに）上がります」と。で、「覆面をかぶって上がります」ということを急きょ、「**それが一番自分が吹っ切れることだと思います**」ということでですね、電光石火というか、急きょ上がるようになった次第です。というわけで、ウチのスタッフ、それから大会をやっていただく演出の方々、TBSの皆さんにも当日の朝、連絡するというかたちで、わたくし自身もフジテレビの方とか、ちょっと榊原社長には電話を入れたんですが、留守電だったんですが、そういうかたちでバタバタしてる中で決まったという状況です。

いつものように言葉少なで、やっと口を開けば所英男を破った「ブラックマンバ！」の名前を連発！前日のリング登場時には緊張や戸惑いの色がマスク越しに感じ取れたサクだったが、一夜明けたことで緊張も和らいだようだった。

　で、思うに、桜庭選手自体は決してわたくしの前でも『PRIDE』さんでどうだったかとか、髙田道場でどうだったかとか、不満とかですね、そういうことは一切何も聞いていない。それは関係ないと思うんですが、自分自身のこれからの格闘技人生の中で、どうしていこうかとちょうど迷われてた転機のときにお話をさせていただいたからこういうかたちになったんじゃないかなと思ってます。

　皆さん、桜庭選手のキャラクターわかってると思うんですけど、本当にあの**お金で動いたりということではないし**、心機一転ですね、何か新しい闘いの場を求めようというですね、そういう気持ちが大部分を占めてやられたんじゃないかなというふうに、決断していただいたんじゃないかなと。だから、わたくし自身ですね、昨日はいっぱいいっぱいで、桜庭選手が今後『HERO'S』に上がる、あるいは『Dynamite!!』に上がるということになると、自分として桜庭選手にですね、精一杯、桜庭選手が**今年37歳**、ですよね？

［谷川氏が桜庭に確認。しかし、桜庭が意味不明なことを谷川氏に告げる。谷川氏は困惑した表情で］

谷川　言ってる意味がよくわからないんですけど（苦笑）。

［会場・笑］

谷川　あの、あんまり残りの格闘技人生もね、あと数年、完全燃焼できるようなかたちでですね、できるかぎりのことをしてあげたいなと。また『HERO'S』に出てくるほかの選手にとっては、まあ、直前で選手の人たちに言ってて、みんな驚いて凄い刺激を感じてたんで、まあやっぱり**“天下の桜庭和志”**なんで、そういう選手が入ることによって、より活性化したリングになるんじゃないかなというふうに思ってます。あのー、**本人が本当に悩まれて悩まれて**、今日も顔が腫れぼったいのはたぶん朝まで飲んでたと思うんですが。

［桜庭、照れ笑い］

谷川　まあ、詳しくはわたくしなんかよりも、ドリームステージさんとのやりとりに関しましてはですね、桜庭選手は見てのとおり、あまりお口がうまくないですし、**意味不明なことが多い**と思うんで、弁護士の先生からのちほど聞いてもらったほうがいいと思うんですけど。わたくしなんかよりもきっとコミュニケーションはドリームステージさんとたくさん取られているような感じがしました。あのー、そのへんのやり取りは正直、私はわからないんですが、とりあえず僕は、**桜庭選手に対してはもうラブコールしか送ってこなかった**という。とにかく、**「大好きだ！」**ということばかりをですね。**「好き好き」**って言ってこういう状況になっ

徹底再録
桜庭和志記者会見

た次第です。ですから、これはこんなこと言っても誤解されるかもしれないんですけど、**決して感覚的に自分の中には引き抜きという気持ちもない**ですし、ドリームステージさんとのライバル関係の中でこういうことになったということでは自分は本当に思っていません。**それはたぶん向こうからしてみれば違うのかもしれません**けど、とにかく桜庭選手をですね、『HERO'S』、自分たちのプロデュースでですね、いまでももう凄いんですけど、**さらに輝く存在にしたいなという気持ちだけでこういう状況になった次第です。**まあ、本当に短期間で、自分自身でも驚くほど短期間で決まったことなんで、まだ今後のことっていうのは準備もしてないんですが、今日を境に一つ区切りをつけまして、桜庭選手と話をして、これから**桜庭選手自身道場を作っていく**と思いますし、8月（の『HERO'S』）、できれば上がっていただきたいと思っていますけど、まだ（ライトヘビー級）トーナメントの話もしてません。互いによくコミュニケーションをとって、最高のかたちで最高の舞台にしていこうということでしか合意をしていませんから、本当に一緒に頑張ってですね、盛り上げていきたいなというふうに思ってます。えー、長くなりましたが、わたくしからは以上です。ありがとうございました。

[会場・拍手]。

司会　えー、それでは桜庭選手にお話をうかがいたいと思います。

[谷川氏に「なんて言ったらいいですか」的なことを聞く]

谷川　気持ちを言ったらどうですか？

桜庭　えーっと、**新しいところ**で一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

[会場・拍手]

司会　ありがとうございました。それでは、前田日明スーパーバイザーからよろしくお願いします。

前田　昨日、試合後に言ったことなんですけど、彼のような選手はですね、いろんな意味で大事にしていかないといけないと思うんですよね。やっぱ、総合がやっと日本でメジャースポーツの一端に加われるかどうかという壁を破った一番、最初の選手と思うんでね。とくにいろいろ悪戦苦闘があったと思うんですけど、彼の出現でいろんな意味で**日本に総合というのが本当の意味で根付いた**と思います。やっぱり**自分らは総合のとっかかりのところから始めて**いってですね、まあ、関わってるうちはこれが永久に続いていくようなメジャースポーツとしてちゃんと確固たるもんにしていくために努力邁身するんですけど、まあ、**自分がいなくなったあとに、桜庭のような人が中心になってあとを引き継いでやってもらいたい。**まあそういった意味でなんて言うんですかね、やっぱり選手としているうちはですねやっぱり100パーセント、ポテンシャルを出せるような状況を作ってあげてやらせてあげたい。さっき谷川くんも言ってましたけど、自分もいろいろ見てましたけど、うーん、**こういう状況でこういう人たちと試合するのは大変だなって**というのを常々思ってました。**マッチメイクする側もどういう人がやってるのかわからないです**けど、**普通だったらこういうマッチメイクはどうなんかなって。相当彼に甘えてたというか、**まあその中でも結果出してやってたんで。まあ、使うほうもそういう**桜庭に甘えちゃった**というがあるんでしょうけど、本来、もっとのびのびとですね、もっと**まだまだ時代を築ける人**ですし、もっとポテンシャルを発揮できる人ですし、総合の奥深さを知らしめることができる人ですし、そういう意味でやっぱしあのー、使うほうもそういうのちょっと考えてやってあげたほうが、まあ**プロモーターというのは選手を100パーセントの状態で、いい試合ができる状態でマッチメイクをするのが基本**で、あんまりそれ以外のものに引きずられるというのはちょっと。まあ、いろいろ状況はあるんですけど、それにしても**そのへんは気をつけてやっていただきたい**など。まあ、自分たちの世代がいなくなったときに、ぜひ彼には彼のあとの時代へのバトンタッチをやってほしいですね。自分らが渡したバトンを、彼の目から見てコイツだと思う選手にですね、総合がずっと続いていくようにそういうものをそういう役割をやってもらいたいなと。ただもうリングでも、いろんなリングがあると思うんですけど、たまたま……、もう上がるのどこでもいいと思うんですよ、極端に言えば。まあ、そういった意味で一番彼のポテンシャルを発揮しやすい、実力を出しやすいというところが責任をもってやればいい。まあ、もうこのままK-1ずっとやるのか、『PRIDE』戻るのか、そうじゃなく桜庭くん自身が団体を起こしてやるのか。まあいろんなことがあると思うんですけど、いずれにしても彼にはですね、次の世代のバトンタッチする役目をですね、ぜひともお願いしたいです。そういった意味で、凄い期待しています。

記者会見であいからわずのアキラ節を響かせた『HERO'S』スーパーバイザーの前田日明。『PRIDE』の桜庭に対するマッチメイクに釘を刺す発言を繰り返したのだった。ところで"武士（もののふ）の中の武士"のフレーズは定着するのか。注目!?

「♪好き好き好き好き、好き好き！　愛してる!!」『一休さん』の主題歌ばりのメッセージを送り続けた甲斐もあって、サク『HERO'S』登場というサプライズをやってのけた谷川氏。その手腕でどのようにサクをプロデュースしていくのか非常に注目である。

[会場・拍手]

司会　前田日明スーパーバイザーでした。ありがとうございました。それではここで質疑応答に移らせていただきたいと思います。

——桜庭選手に質問なんですが、今後練習はどちらの道場でやられるんでしょうか？

[戸惑う桜庭を横目に、前田が突然マイクを奪う]

前田　（一際大きな声で）**それはK-1が責任を持って用意するんじゃないですか。**

[前田の突然の行動に会場爆笑]

谷川　（苦笑いしながら）どこですか、ということなんですけど、とりあえずK-1ジムも開けてますし、トータルワークさんとかゴールドジムさんとも提携してますし、それから和田（良覚）レフェリーが道場やってたり、桜庭さんと個人的な仲がある方ですし、まあいろんなところがあると思うんですけど。とりあえず本人はジムを作る予定なので、それに向けてそれまではこちらが提供したいと思っております。

——桜庭選手にお聞きしたいんですけど、新しいところで一生懸命頑張りたいという声をお聞きしたんですけど、次の試合はいつぐらいをメドに考えていらっしゃいますか？

[救いを求めるような目で谷川を見る桜庭]

——自分の希望でお願いします。

桜庭　そこまで詳しい話はしていないんですけども、いまのところ8月をどうやってかわそうかを考えてて、それでいっぱいいっぱいです。

——桜庭さんにお聞きしたいんですけど、今回の件で決心をするに至った一番の理由と、それから『HERO'S』についての印象を、どんなふうに見ていらっしゃるのかをおうかがいしたいんですが。

桜庭　えーっと、谷川さんに「好き、好き、好き、好き」言われたんで、ボクも人間なんで、好きになってしまいました。

[会場・笑い]

桜庭　いろんないい選手がいて、やってみたい選手も出てきたので、楽しそうだなって感じですね。

——いろいろやりたい選手が出てきたとおっしゃったんですけども、具体的に誰かやりたい選手とかいらっしゃれば、教えていただきたいんですけれども。

桜庭　**ブラックマンバ！**

[会場・爆笑]

——桜庭選手にうかがいたいんですけど、

いま『PRIDE』に対してどのようなお気持ちを持っていらっしゃいますか？

桜庭　『PRIDE』に対しては、本当にですね、いろんな意味で**感謝の気持ち**しかありません。『PRIDE』だけじゃなくて髙田道場に関しても**感謝の気持ち**だけです。

――先ほど前田さんのほうから、次の世代へのバトンタッチの役割も期待しているという言葉がありましたが、どのようなかたちで選手を集めて育てていきたいと考えていらっしゃいますか？　桜庭さんにお願いします。

桜庭　ブラックマンバ選手。

[会場・爆笑]

――谷川さんにお聞きしたいんですけど、一応、体重としては85キロのクラス？

谷川　（桜庭を見ながら）たぶん、その体重でやると思います。無理して重くする必要はないと思いますし、軽く減量する必要もないと思うんで、桜庭選手の適正の体重でやろうと思ってます。

――と、谷川さんはおっしゃってるんですけど、桜庭さんはどうですか？　できれば8月はなるべく回避したいということだったんですけど。

桜庭　ブラックマンバ選手だったら、もう即決断します。

[会場・爆笑]

――桜庭選手におうかがいしたいんですけど、いま年齢的なものを考えると、まあその、これからのキャリアというのはそんなには長くはないと思うんですが、どういったこれからの引退、まあ引退と言ってしまうとあれなんですけど、引退というのを見据えた上でどういったキャリアを積んで今後活動していきたいと考えていらっしゃいますか？

桜庭　基本的にはボクは**百田（光雄）**さんを目指してますんで、とくにはそういう目標というのはないですけども。言ってるように一つ一つい試合ができればいいかなと思っています。

――桜庭選手にお聞きしたいんですけど、『PRIDE』っていうイベントを本当に確立させて盛り上げた功労者は桜庭選手だと思うんですけど、桜庭選手がこれまで引っ張ってきた。で、ファンも今年の桜庭選手はどういう闘いをするんだろうと『PRIDE』に上がる桜庭選手への期待って凄くあったと思うんですけど、そのファンの思いに向けて桜庭選手、いまどういう気持ちというか持ってらっしゃいますか？　つまり、今年『PRIDE』での活躍を期待していたファンに対して。

桜庭　このあいだ新聞で見たんですけど、えーと、**無差別（級GP）は選考漏れ**になっちゃったんで、行き場がなかったっていうのもあるんで……。NOAHに行こうと思ったんですけど。

[会場・笑い]

桜庭　**それも難しいなという感じで……。**

[谷川氏と相談する]

桜庭　えーっと、ボクは昔、長州さんが新日（本プロレス）から全日（本プロレス）行って凄い活気づいたじゃないですか。そういうことをやってみたい。**それで仲良くなってもらえればいっかなと思って（谷川氏の顔を覗きこみながら）。**

[谷川氏の困惑した表情に会場・笑い]

――桜庭さんにおうかがいしたいんですけど、先ほどそれで仲良くなってもらえればという発言がありましたが、今後もう一度『PRIDE』のリングに上がる可能性もあるというふうに解釈してもよろしいんでしょうか。

桜庭　**ボクはだから両方上がりたいと思います**し、それはそのときのきっかけとかもあると思いますし、その前にやっぱり仲良くなってもらいたいなってのはあります。

――桜庭さんにおうかがいしたいんですけど、今回の決断をされてから、髙田さんと話はされてるんでしょうか。もしお話されてるようでしたら、どのようなお話をされたかうかがいたいんですが。

桜庭　**（親指を立てて）「男だ！」って言われました。**

[会場・爆笑]

谷川　**それ、今回じゃないですよね（笑）。**

[会場・爆笑]

桜庭　辞めた時点ではいろいろ話はしました。今回の件に関しては榊原さんと話をしてました。

[会見終了後、谷川氏、そして桜庭の弁護士・上杉氏らへの囲み取材が行なわれた。なお、上杉氏は桜庭の友人である阪神タイガース・下柳剛投手の代理人を務めている]

――一番最初にお話をされたのは日にち的には何日だったんですか？

谷川　4月の中旬ぐらいに急に電話したんですよ。で、サクちゃんのほうからきて。

上杉　あまりに悩んでて、いろんな意味で悩んでいたので、フリーになったってことでいろんな話が彼に入ってきたんで。最初、当然『PRIDE』しか考えになかったんですけど、まあ道場を辞めていろいろ谷川さんからも話があったし、ほかのほうからもいろいろお話を聞いてて、いろいろ相談、私のところで話をしてて。もちろんいろいろ話を聞いたら、巻き込まれて話を聞いてしまったという感じで、そのうち谷川さんとも。まあ本人ではいろいろわからないことが多いからっていって、いろいろ聞いてきたと。そういう感じなんで、僕だけじゃなくて周りのごく少数の人たちで話をして、悩みに悩みに悩みぬいて、**まだ悩んでるんですかね？（笑）。**

谷川　ハハハハ。

上杉　ある程度、友人を含めて話をして。とにかく格闘技界を盛り上げるために、彼のいろいろな意味で、さっき長州さんって言ってましたけど、今後、サクが入ってくることによって、**向こう（『PRIDE』）との交流的**なことも、格闘技界全体を盛り上げたいという気持ちがやっぱり、飲みながらも話して。**彼の『PRIDE』での一つの役割は終わったのかなと。**次はもっと大きな視点でいろんなことをやりたいんだと言ってます。まあちょっと型にはまらない人なんで。いろいろいい意味で昔みたいにやれるような、対抗戦でもいいですし、彼の気持ちですけどね。彼のいろいろな思いがあって、まあちょっとやってみようかと。やれることってなんだろうって。まあ、百田さんみたいになるって言ってましたけど、百田さんが70（歳）いってましたっけ？

谷川　60ぐらい？

上杉　そういういろいろ思いがあって、**本当に悩み死にしそうだったんですよ。**

谷川　だから、僕はほとんど桜庭選手とは接触してないんですよ。最初に本当に自分の思いだけぶつけて。で、あとは先生があいだに入っていただいて、僕は先生に対しては「もうよろしくお願いします！」というしかないんですけど。

上杉　もちろん榊原さんのほうからもいろいろお話ありまして、我々も榊原さんとお話しして、サクも本当にいろんな意味で悩んで、最後やれることを、自分の中で何ができるんだと思ったと思いますよ。だからいろんな意味で悩んで悩んで悩んでたんで、自分ができることってやっぱり格闘技界を変えたいって思ったんだと思いますよ。いろいろな意味でですね。榊原さんともお話しましたし、榊原さんも『PRIDE』に上がってくれっていうお話をされてますし、谷川さんからも**「好き、好き」**言われてますんで、まあ新しい中でサクがもう一度フレッシュ

サクと前田の驚ガクのツーショット!!　ほんの数年前ならとても信じられない刺激的な光景だ！　サクの電撃移籍はマット界に大地殻変動を起こしたと言えよう。

徹底再録
桜庭和志記者会見

な気持ちでいくということになって、さらに新しいサクを見せられるというのは何だろうということを含めて話をして、結局このままだと**3年間**ぐらい悩み死にしそうだったんで、我々で背中を押してあげたという感じです。

―いつぐらいから新たなステップを踏もうと考えてたんですか？

上杉　新たなステップっていうか、まあ、なんでしょうね。

―たとえば、谷川さんから電話があってそれがきっかけになったってこともあるんですか？

上杉　まあ、それもあると思うんですけど。

―その前から希望っていうのは？

上杉　まあ道場を作っていきたいっていうのはもちろんありまして、漠然とありまして、ただどうしようかなという段階のときにいろんなところから電話がかかってきちゃって、で、わけわかんなくなちゃったって感じでしょうね。最初は**本当にこんな展開はあり得ない**という感じだったんですけど、まあ……。

―最後、榊原社長は背中を押したって感じだったんですか？

上杉　榊原社長ですか？　まあできればそれはねもちろん、榊原さんが『PRIDE』のほうですから、できれば『PRIDE』に上がり続けてくれという話はしてましたよ。まあ、**両方から好かれて苦しんで死にそうで、**という感じでしたけど。なんとかそういう気持ちはわかっていただけて。本当に榊原さんもいい方で、誠心誠意、話をしていただいて、私もずっと連絡をとっていて。最後はどっちもあったんで。まあ、電撃的な部分では若干何かあったとは思うんですけど、最終的にサクがどこに行くというかはちゃんと話したつもりでいるんですけど、サクもね、『PRIDE』にも上がってみたいし、いろんな気持ちがあって、リングというのを狭く捉えてなくて、凄くいろんな意味でやりたいと思っていて、彼もこれがきっかけで変わればなって。たぶんそういうのがあると思うんですけどね。

―去年、ケガとかされてましたよね。体重のこととかも悩みがあったと思うんですけど、そのへんのことは？

上杉　体重のことはちょっとあんまり重きを置いてるということはないんでしょうけど、少なくとも私がやりとりしている範囲では。

谷川　僕が見ているかぎり、**どんな格闘家もそうなんですけど、気持ちは『HERO'S』に出たい。**ただ、やっぱり『PRIDE』**でお世話になった榊原社長をはじめ、人間関係に凄く悩んで悩んで、**それで急にリングに上がりますという話になったと。自分がやっぱり気持ちをふっ切るというか、フジテレビの方がどうのとか、そういうことをブツブツブツブツ言ってましたね。ええ。それはサクちゃんらしいなって思いますけどね。

上杉　**友だちとか、いろんな人から「どっちか決めないとどうにもならないよ」っていって、背中をボンと押してあげちゃった**というか、もう格闘技界を変える方向でガンと行こうと。頑張ろうよという話ですよね。

―3月の髙田道場を退会する時点では、選択肢の中には髙田道場と契約を更新するという選択肢もあったんですか？

上杉　それはね、わからないですけど、契約更新に関して僕はわからないですね。切れたあとですから。悩み始めたのは。**最初、僕も『PRIDE』でそのまま行くと思ってましたから。**でもその切れたあとにいろんなことが起こりすぎたというか、いろんなとこから話が入ってきちゃって。

―いろんなところからのお話というのは、K-1さん以外のほかのプロレス団体さんからも？

上杉　**みちのく（プロレス）**とかですか？（笑）。いや、ほかの話というのは、マネージメントとか、こうしいたらどうだとか、そういう話がいろいろあったんですね。で、彼もそういうのどうしたらいいのかわからなくて、こっちに。いろんな意味で悩んでたんですね。で、ドリームステージさんと話をして。

―『PRIDE』の出場契約は？

上杉　それはもうないですね。**『PRIDE』とは直接契約してない**ですからね。（髙田）道場と『PRIDE』が契約していて、道場との契約になってたんで。そういうかたちになってました。

―4月の状態で髙田道場と契約が切れたというニュースが出たときに、『PRIDE』には継続して参戦してもらいますというコメントが出てたんですが。

上杉　**そこは行き違いだったんですかね。**そのへんはお話をしてたんで、記者さんとの行き違いだったのかもしれませんけど。当然、流れでね、関係者もそう思われてたんじゃないかなと思ってたんですけど。我々もこういうことは絶対に水面下で話してましたから。

―桜庭さんとお話をされてる中で、桜庭さんが一番『HERO'S』に魅力を感じている部分っていうのは。

上杉　僕は新聞記者じゃないんで、『HERO'S』にどういう魅力をとかそんなことは聞いたりしないんですけど、さっき言ったように、いまいないろんな対戦相手とか、あとは自分がとにかくいろんな意味で**長州さんになっていきたい**という部分があるんじゃないですかね。

谷川　**あれは成功だったんですか？**

［記者・爆笑］

上杉　わかりませんけどね（笑）。成功かどうかはわかりませんけど。なんかね、リングは彼の中で一つというピュアな思いがあって、全部悩んだんですけど、最終的には仲良くなって頑張っていきましょうよということを言ってますね。

―今後、所属は？

谷川　フリーですね。自分でチームとか会社とか道場なんかを必ず近々作りますんで、ただ本当に今週のドタバタの中でやってしまったことですから、フリーにしていただいて、連絡先はウチにいただければ、セッティングしますんで、本人と確認してやっていきます。とりあえずこういう話なんですけど、桜庭選手、本当に格闘技界にとって大切な選手なんで、**わたくしが悪者になってもいいので、傷つけないように書いていただければと思います。悪いのは全部わたくしです**（笑）。

上杉　**じゃあ、私も悪友ということで。**

―**NOAHに行く話はどうだったんですか？**

上杉　それは……。

谷川　それ酔っぱらってただけじゃないですか？（笑）。

上杉　あの、これで三沢（光晴）さんに取材に行ったりしないでくださいね（笑）。

―いわゆるタンパリングというのはなかったんですか？

上杉　タンパリングはないですね。ないと思いますよ。僕が聞いたのはそういう話だったから。だから本当に彼も道場を終わったあとだったんで。交流戦みたいなことを望んでるんじゃないですか？　セ・リーグ、パ・リーグみたいな。

―どっちがセ・リーグなんですか？

上杉　（苦笑しながら）まあ、野球もそうじゃないですか。

谷川　それはね、本当に守ってます。桜庭選手と会ったのは『SRS（フジテレビ格闘技情報番組）』のパーティと、それは話してないのかな。あとは宇野選手の結婚式のときに会いましたけど、それは握手しただけで、それは目撃者もいると思うんですけど。

―谷川さんは桜庭選手への思いというのは、両団体が……。

谷川　僕は本当に素晴らしいと思いますし、そうなればいいなと。まあ、いろいろ難しい問題もあると思うんですけど、言ってることは**本当に正しいと思います。**

会見終了後、囲み取材を行なった谷川氏と、サクの弁護士の上杉氏。彼がサクの事実上の代理人として、『PRIDE』や『HERO'S』との交渉に当たっていた。

“ドライ”な価値観で生きるのか?
“ウェット”な世界を守るのか?

PRIDE、K-1よ はっきりさせろ!!

桜庭和志移籍問題を考える

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

桜庭、動く! ファンの誰もが『PRIDE』と一心同体だと信じていた桜庭和志が『HERO'S』へ電撃移籍! この信じられない現象について、論客であり“青春の大発見”でおなじみの堀辺正史先生が一刀両断する直撃インタビュー!

聞き手/堀江ガンツ　構成/真下義之　designed by bun-chan (Two Three)

—先生！　今回は20年に一度の超サプライズ、桜庭和志選手の『HERO'S』移籍について、お話をうかがいに来ました！
堀辺　はい。でも、こういったスキャンダルは（ターザン）山本！さんの出番じゃないんですか？（笑）。
—いや、山本さんは還暦パーティと今度創刊される『裏ゴング』、通称・シルバーゴングで忙しいみたいですんで、ぜひ先生に（笑）。
堀辺　そうですか（笑）。わかりました。この件は当日のテレビ放送で初めて知ったんですけど……ビックリしましたね。というのは桜庭選手って「問題を起こすタイプじゃない」イメージが強かったですから。他の選手なら、待遇面の不満とかで移籍ということはありうるけど、こと桜庭選手に限っては絶対ありえないハズだった。まさしくホリエモンじゃないけど"想定外"ですよね。本当に「これはなんなんだ？」という驚きがあったし。まだ、まとまらないですね。
—先生もそこまで動揺されましたか。
堀辺　これがたとえば田村（潔司）選手なら、驚くことは驚くだろうけど、強烈なショックはないでしょうね。この"驚き"と"ショック"は似て非なるものですから。
—やっぱりファンも『PRIDE』側もどこかで、桜庭和志がどこかへ行くはずがないと考えてた部分がありましたからね。
堀辺　そうですね。それに我々はどこかで髙田延彦と桜庭和志を"一対のもの"として見てたんですよ。人間って本来は個人個人、独立した存在なんだけど、髙田さんと桜庭選手は師弟関係という、揺るぎない運命共同体として捉えられていた。でも現実はそうではなかった。そういう意味では人間関係の奥深さを思い知らされましたね。
—桜庭選手の移籍はその髙田さんとの師弟関係も大きな理由の一つではないかと言われてますね。
堀辺　これは想像に過ぎないですけど、桜庭選手は複数の問題がいっぺんに重なってしまったことで、何かがハジケてしまったのではないか？　でなければああいう極端な行動には出なかったでしょうね。
—今回、僕が感じたのは、桜庭は『HERO'S』へ行きたかったんじゃなく、『PRIDE』や髙田道場から出たかったんじゃないかということなんですよ。
堀辺　理由を一つだけ上げるとすれば、きっとそういうことになるでしょうね。ただ今回の騒動に関して"移籍"なのか？"引き抜き"なのか？　というのは凄く重要なんですね。
—ほ～。その理由を教えていただけますか？
堀辺　これは今後の格闘技界の重要なテーマなんです。自分はプロ野球のことはそんなに詳しくは知りませんが、野球選手が球団を移籍する際って球界内でルールが完全にできてきていますよね。
—フリーエージェント制とか金銭トレードで解決するとかですね。
堀辺　そう。野球選手も「プロだから高く自分を評価してくれたところに移るのは当然」と心得ていて、移籍の際にはビジネスライクに内情をあきらかにする。それでもプロ野球はファンの夢が壊れないシステムになっているんです。世間も「夢が壊された」と言う人はいないですしね。
—たしかにそうですね。
堀辺　しかし今回の桜庭選手の移籍は、野球選手の移籍問題と同軸では論じられない。なぜなら格闘技界には移籍上のルールが定まっていないですからね。また髙田さんと桜庭選手の関係を見てきたファンにとっては「待遇や金銭を超えた、純粋な師弟関係が礎となって、現在の『PRIDE』を築いた」というストーリーが神話化されていた。桜庭人気や桜庭選手が活躍していた時期の『PRIDE』人気の秘密は、そこの神話がベースにあったと思うんです。

私たちは髙田延彦と桜庭和志をどこかで"一対のもの"として見ていたのかもしれない

—『PRIDE』って団体じゃなくイベント、つまり選手の寄せ集めなんですけど、こと桜庭選手に関しては、唯一の『PRIDE』所属を感じさせる選手でしたからね。
堀辺　彼は『PRIDE』という競技の最大の功労者ですから、他の選手とは違う運命を背負っている。だから桜庭選手の『HERO'S』参戦を聞いたとき、ショックで瞬間的にファンが沈黙してシーンとなってしまったんです。そのシーンの意味は「何か違うんじゃないの？」という違和感ですよね。
—ショックなんだけど「桜庭の決断も理解してあげたい」という非常にもやもやした感じもありましたよね。
堀辺　そこにはプロ野球的な「プロは待遇がいいほうに移籍して当然」というドライな価値観がある。そしてもう一方には信頼や友情や師弟関係という日本的でウェットな価値観がある。そのせめぎ合いにファンが迷い込んじゃったという状況なんですね。
—ただ、いま一般的には、ドライな価値観のほうが主流ですよね。
堀辺　そうなんです。とくに活躍できる期間が短いスポーツ選手にとって待遇の問題というのは非常に大きいんですね。オリンピックだって、はっきりした形の金銭報酬というものがある。だから格闘技選手の移籍は今後もあるでしょう。だからこそ移籍の際のルール作りが早急に必要なんです。いまやテレビのキラーコンテンツになった格闘技が、さらに発展する条件として、プロ野球のレベルまでに昇華した移籍のルール作りをやってもらいたいんです。
—そこは必然的に求められてくるかもしれませんね。
堀辺　その大きな理由は「ファンの気持ちを混乱におとしいれてしまう」ということ。もう一つはギャラがつり上がって「選手に法外なファイトマネーを払わなければならない」ことがありますね。
—桜庭の移籍ということに関してK-1や『PRIDE』にはどんな影響や後遺症があると思いますか？
堀辺　やっぱり一時的にファンは夢やロマンを喪失しますよね。ここでプロ野球みたいな世界と格闘技との違いを端的に言いましょうか？　たとえば、テレビで野球選手がバッターボックスに立ってアナウンサーが解説してるとします。でもそのときに「イチロー選手は妻のために愛する家族のためにバットを振りました」とかって絶対に言わないんですよ。
—ガハハハハ！　言いませんよね。「イチローには"打たねばならない理由"がある」とか（笑）。
堀辺　そういう試合以外の面から選手に光を与えるようなやり方は、野球のような完成された競技には必要ないわけです。いままで格闘技のテレビ放送って、たとえばミルコ・クロコップなら「クロアチアの社会環境が劣悪である」とか「その中で死線というものを見た」と。「だからミルコは強いのだ」とかやるわけです。
—K-1だったら「バンナは離婚した子どものために闘う」とかですもんね。
堀辺　それらはすべて"共同体の価値観"なんですよ。祖国のために死んだ神風特攻隊の話をしているのと変わらないんです。
—とくに格闘技のテレビ放送は、そういう価値観でファンを引っぱってきましたよね。

堀辺　だからこそ今回のような形で桜庭選手が移籍してしまうと、ファンの夢や幻想が壊れてしまう。これは格闘技全体で考えたら非常にマイナスですよ。もちろん主催者が「格闘技は野球やサッカーとは違う」と言い切れるならかまわないんです。でもあくまでテレビなんかで〝共同体の価値観〟を押し出すなら、そこの部分で選手をもっと教育しなくちゃいけない。もし師弟関係をブチ壊する選手が出てきたら、断固として批判するべきなんです。

——そこでロマンが破壊される、危険性がありますからね。

堀辺　じつは格闘技の世界って、この二つの価値観が昔から対立してたんですよ。総合格闘技が誕生した時点でも、日本もアメリカもブラジルも各道場がこの問題に見舞われていた。でも報道関係者がみんな避けてきたんです。

——たとえばブラジリアン・トップチームなんて「カーウソン・グレイシーを裏切って独立した」って言われましたからね。

堀辺　そういうことです。でも、これまでは関係者やマニアしか知らなかったけど、今回の桜庭さんの移籍で格闘界が抱えてる問題を一般レベルに知らしめてしまった。だからこの問題をあくまでウェットな〝共同体の価値観〟で処理するのか？　それとも西洋的な「仕事は仕事だ」というドライな割り切り方をするのか？

——日本のスポーツ界で唯一そういうことがあったのは、松井秀喜手が巨人軍を出るときくらいですかね。ミスタージャイアンツになる男だと思われていた松井がある日突然、メジャーリーグ行きを宣言した。巨人ファンは口には出さなかったけど「裏切られた」という思いが少なからずありましたよね。

堀辺　まさしくそういうことです。私なんかも髙田さんと桜庭選手の絆というものに非常に惹かれてきたわけです。髙田さんがヒクソン・グレイシー戦で敗れても、フォローする形で桜庭選手が出てきた。桜庭選手の勝利に酔いつつも、プラスアルファとして我々が失ないつつあった古き良き絆の部分に感動してきたんですよ。だから問題はそういう神話を信じていたファンに「実際はドライなものだったんだ」って思わせてしまったことですよ。

髙田さんと桜庭選手の美しい“神話”
これを信じていたファンが混乱してしまった

——でも、これを分岐点として考えると、これから格闘界はいったいどちらに進むんでしょうか。

堀辺　これで、まだご都合主義的に、あるときはウェットな日本的なものさし、あるときはドライな西洋的なメジャーで測っていたら、この繁栄は続かないですよ。繁栄させたいなら、その明確な価値基準をはっきりさせるべきですよ！

——当の桜庭選手も『PRIDE』ファンに「裏切られた」と言われる覚悟も持って、出た部分もあると思うんですよ。

堀辺　それは、もちろんあると思います。いまの時代って桜庭選手に限らず、すべての人間が「どういう価値観で生きるか？」と悩んでるんですね。サラリーマンが会社を移るときだってそうです。長らく御世話になった上司の顔が浮かんだり、自分が失敗したときかばってくれた人の顔が浮かんだり。待遇は悪くても、そういう人の思いに応えて会社にとどまるべきか？　それとも妻子の不満を解消するために会社を移って給料を増やすべきか？　こういう悩みってみんな抱えてることで、桜庭選手だけのことじゃないんですよ。

——榊原代表は「家族だと思っていたのに」と話されていましたけど。

堀辺　それも榊原社長の立場になってみればわかることですよ。というのは……じつは家族のことって二の次、三の次になるんですよね。たとえば女房を年に一回くらいは海外旅行に連れてってあげようと思う人がいるとする、あるいは結婚10年目には宝石の指輪でも買ってあげようと思ってたりする。でも目先のことであちこち支払いをしなきゃいけないとなると「女房はわかってくれる」と思って、外部の支払いを優先しちゃうでしょう。

——ああ、今回の件でもそういうことがあったかもしれませんね。

堀辺　でも「長いスパンで見たら、おまえを不遇には絶対しないよ」というメッセージもあったと思う。だから桜庭選手と榊原社長の関係もじつに日本的な関係だったと思うんです。「おまえ、わかってくれるよな？」「はい、わかります」というね。

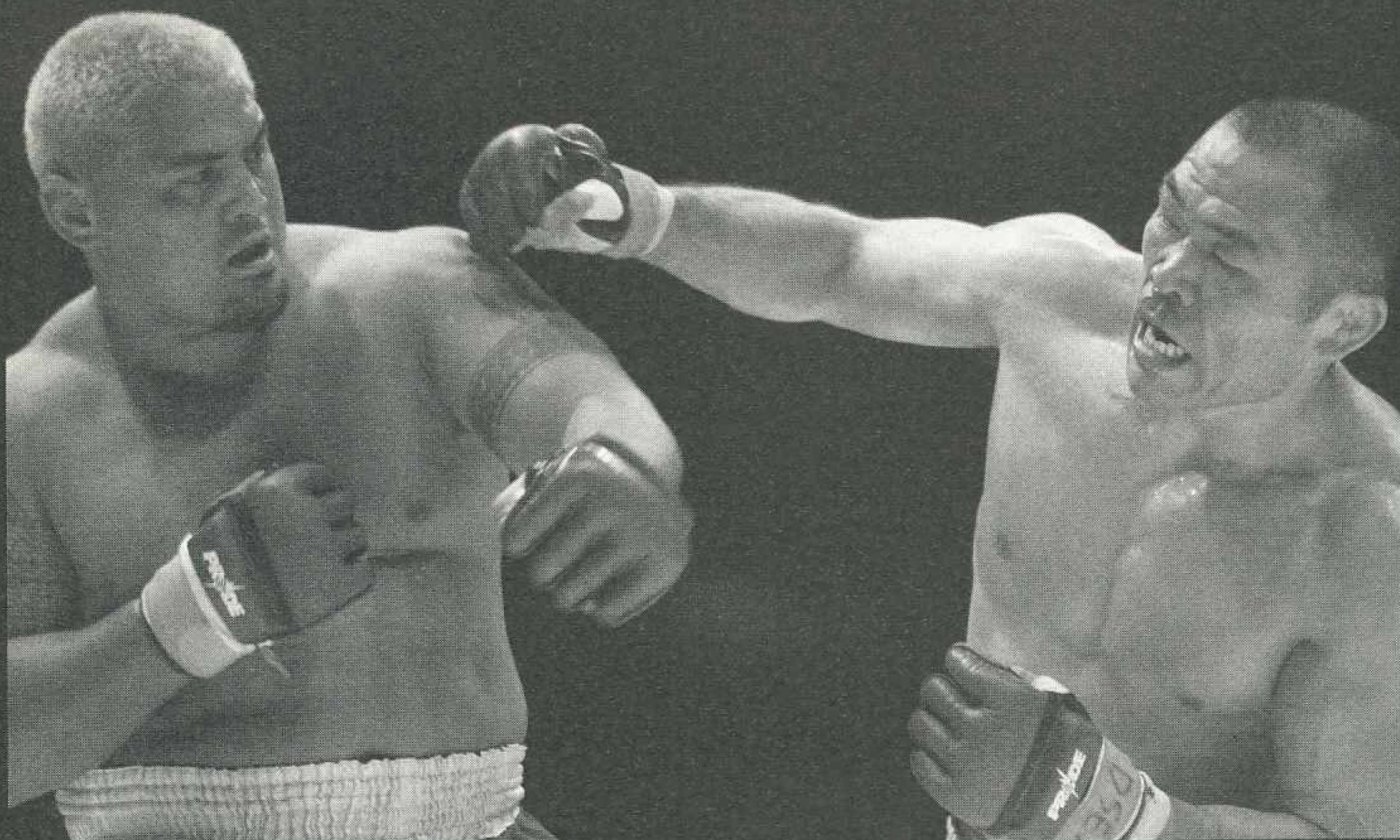
——『PRIDE』のスタートからずっと一緒にやってきた二人ですからね。だからこそ愛憎関係であり、嫉妬であり、これに金銭もからんでくる。たとえば○○○vs○○○戦を組もうとしたら、実現するために億単位のお金がかかる。たとえばその金額が桜庭の数年間くらいのギャラだったりしたら「俺がこんなに身体をボロボロにして頑張った何年間とあの一試合が一緒か!?」という気持ちにならないとも限らない。

堀辺　それは当然だよね。だけど榊原さんからすると「もっと長いスパンで見てくれ」と。「俺はおまえのことをきちんと考えてるから」って言うと思うんです。……だからこの問題は片方の理屈や言い分だけ聞いて片方を断罪することはしちゃいけないんですよ。

——おそらくどちらにも正義があり、どっちにもある程度の落ち度はあるんでしょうね。

堀辺　そういうことです。だから貴重な選手をK−1と『PRIDE』で奪い合うようなことは避けてほしいし、移るにしてももっと明瞭な形にしてもらいいですね。

——桜庭選手にも新天地でいい活躍をしてほしいですからね。

堀辺　ただし、今後の桜庭選手にとって『HERO'S』に行って試合の質が落ちたり、負け続けたりということが起きたらこ

02年11月24日『PRIDE.23』髙田延彦引退試合にて髙田が「男の中の男」と評した桜庭和志との場面（写真右）。その3年半後、『HERO'S』のリングで前田日明とツーショットに収まるとは……（写真左）。

高阪選手の人柄すべてが“侍”だった つまりあれこそが“武士道”なんです

れはまずい。やっぱり移籍したら移籍したなりの試合内容を見せることしか、彼に残された道はないですよね。逆に内容や結果を残せれば、批判している人も納得いくかもしれない。やはり選手は「リングでどんな闘いをするか」にかかってるわけですから。

——マーク・ハントなんかもあれだけいい試合すれば、移籍もよしとされますからね。

堀辺　そういう意味で言うと、私は今回の『PRIDE無差別級GP開幕戦』ではハントと闘った髙阪選手の試合が一番印象に残ったし、心に響きましたね。どうしても髙阪選手の試合と桜庭選手の移籍騒動が比較されてしまうんですが……。あの髙阪選手の試合こそ、さきほどの西洋的な価値観では理解できない、非常に日本的な価値観の試合だった。彼の人柄のすべてが“侍”なんですね。つまり、それこそが武士道なんです。あの日の彼こそもっとも侍的な資質を持ってましたよ。

——あの入場の顔を見ただけで、もうその覚悟だとか、やってきた練習が見えましたからね。

堀辺　それと、最後に髙阪選手がうずくまって悔しがっていたでしょ。で、マーク・ハントが声をかけようとして、近づこうとしてた。でもハントが彼の闘いの姿勢に心打たれて、尊敬しちゃって声をかけられなくなっちゃってるのがわかりましたね。

——映像の中から、マーク・ハントの心理を読んだわけですね。

堀辺　ハントの心がつかめましたよ（笑）。しかしUFCとの関係とか事情があったと思うんけど、いまにして思えばもっと早く『PRIDE』に上げて、もっとリングで彼の闘う姿を見せてほしかった。おそらく多くの観客がそう思ってるんじゃないですか。つまり彼は今回、「惜しまれた」試合をしたと思うんですよ。だから、あの負けは日本人として胸を張れる。負けた中にも“美”があったんですね。

——本当に素晴らしい感動的な試合だったと思います。

堀辺　あと、これは少し違う話になってしまうけど、細かい部分でちょっと気がついた部分があるんです。

——ぜひ、教えてください。

堀辺　みなさんあまり気にしていないけど、今回のGPは『無差別級』だったということです。たしかに世界最強を決めるというケースでは、試合は絶対に『無差別級』でなければならない。身体が小さいから弱いと限らないし、身体が大きいから強いとも限らない。それが今回は初めて行なわれたという意義があった。だけどもテレビの前で観てる人たちには、無差別という意義や意味があんまり理解されてなかった。せっかく無差別なんだから、身長や体重がどれだけ違うか？　をなんで表示しないのか、そこをもっと説明すべきですよね。

——無差別の試合における最大のポイントはたしかにそこですよね。

堀辺　そう、体重が15キロ違う、身長が17センチ違う、リーチがどのくらい違うとか。これがテレビ放映の中で説明されずに、いままでの階級別の試合と同じだった。これはハッキリ言って怠慢ですよ（キッパリ）。せっかく無差別級というものが開催されたにも関わらず、放送がそれに見合ったふさわしい放送内容になっていなかった。テレビ局や興行の主催側にもう一歩見せる工夫がほしかったですね。

——美濃輪なんかも、「弱かったな」だけで終わっちゃう可能性もありますからね。

堀辺　たとえば体重と身長をあわせて、これだけ数値がある、と一目でわかる体格の指標みたいなものを作ったりね。それで無差別級の真の恐ろしさがわかれば、そこで勝つことの意味や、体力的に劣ってる側が勝ったときの感動が伝わる。その部分の説明が「なんら、なされていない」というのは不満でしたね。

——そこがわかったら、髙阪剛vsマーク・ハントはさらに感動があったかもしれないですね。

堀辺　だから、テレビ局にはこのインタビュー記事を読んだら、緊急会議を開いてほしい。あの恐怖感にうち勝っていく選手たちの健闘を本当に称えるために「いかに困難なものであるか」と「どういう意味があるか」を視聴者に伝える義務があるよね。それに大衆が無差別級の意味を知ることによって視聴率はもっと上がりますよ。へんな煙を焚いたりとかじゃなくてね

——演出はこれ以上は進化しなくても充分ですよね。

堀辺　だから今後で重要なのは、見てる側の頭を開いてあげることが大切です。これは『PRIDE』の課題ですよ。

——選手は素晴らしい人ばかりですもんね。

堀辺　そう、彼らに言うことはないんですよ。彼らは言われなくても凄い試合をやるんです。だから問題は伝える側であり、運営する側です。今後のさらなる発展というところを考えたときには必要なことですよ。でも「もういまのままでいいんです」って言われたらべつに言うことないけどね。

——わかりました。どうもありがとうございました！

【5月8日　東中野骨法武術館にて収録】

桜庭ショック冷めやらぬ06年5月5日、『PRIDE無差別級GP』開幕戦で引退を懸け、マーク・ハントに真っ向勝負。見事に玉砕した“世界のTK”髙阪剛。ファイターの価値観を揺さぶる珠玉の名勝負を展開。

Back Number

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 '02.04 880 yen
和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田/アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?/破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 '02.05 880 yen
「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!/ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 '02.06 880 yen
両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談/新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 '02.07 880 yen
全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム/戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!
no.53 '02.08 880 yen
ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ/爆裂! 川村社長ガチンコ語録!/偽造王の知られざる半生!

『Dynamite!』を大総括!
no.54 '02.08 880 yen
"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット/純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!
no.56 '02.10 880 yen
田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 髙田延彦/蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山/『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号
no.57 '02.11 840 yen
サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ/北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!
no.58 '03.01 880 yen
夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪/Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健/カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸
no.59 '03.02 880 yen
いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス/爆発!! WJマグマ語録/吉田道場の秘密兵器 中村和裕/UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!
no.60 '03.03 880 yen
ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気/あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし/全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 '03.04 880 yen
裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン/プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

地殻変動の予兆アリ!!
no.62 '03.05 880 yen
ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介/現役復帰間近!? 船木誠勝/藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル/新日本バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 '03.06 880 yen
「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!/憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー/芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 '03.07 900 yen
"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー/ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!
no.65 '03.08 880 yen
"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル/"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ/吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司/闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!
no.66 '03.09 880 yen
緊急独占インタビュー! ミルコ/マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮/"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦/『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 '03.10 880 yen
ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー/アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 '03.11 880 yen
大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志/"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林聡

ハッスル1開催、ド直前!!
no.69 '03.12 900 yen
出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也/『泣き虫』著者登場! 金子達仁/大晦日直前インタビュー! 田村潔司/アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!
no.70 '04.01 880 yen
PRIDE征服宣言! ミルコ/シウバに宣戦布告! 近藤有己/ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶/発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!
no.71 '04.02 880 yen
『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/待望の『紙プロ』初登場! 川田利明/理想のプロレスを追い求める! AKIRA/ 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!
no.72 '04.03 840 yen
GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁/全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 '04.05 880 yen
PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー/掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 '04.06 880 yen
シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統/インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン/年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 '04.07 880 yen
小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志/新連載『月刊PG談(仮)』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!
no.77 '04.08 880 yen
「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ/サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号
no.78 '04.09 840 yen
衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/K-1のトップが小川を語る 谷川貞治/壮絶インディー人生! 田中将斗

髙田総統がビターンと降臨!
no.79 '04.09 840 yen
キャプテンに休息なし! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』/ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!
no.80 '04.10 880 yen
独占ロングインタビュー ミルコ/ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也/新連載! 佐山サトルの右流タン探訪紀/袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 '04.10 880 yen
ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/スーパーひとし君登場! 草野仁/佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!
no.82 '04.12 890 yen
"道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪/伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!
no.83 '05.01 880 yen
『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!/蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝/『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 '05.02 880 yen
"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司/"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!
no.85 '05.03 860 yen
PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、髙田延彦/パンクラス2大王者が揃い踏み! 髙阪剛×近藤有己/HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 '05.04 860 yen
大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!/PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 '05.05 860 yen
敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫/蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

もっともっと

所英男を知りたいアナタへ

“世界の所さん”、単独の本誌初インタビューは紙のプロレスRADICALで読める!!

本誌単独初登場!
2年前の所英男がここにいる!

no.73 '04.04

★2004年、『リトアニアBUSHIDO』で快勝し、注目を浴び始めたばかりの所英男を本誌がキャッチ!“リングスの遺伝子を継ぐ男”を直撃する初の単独インタビュー(聞き手/堀江ガンツ)

★その他、小川直也も参戦表明! 2年前の“格闘宇宙一決定戦”『PRIDE GP』の総力大特集号!

880yen

リングスの落とし子が日本軽量級の星へ——
音速の回転体を見よ!
“小さなヴォルク・ハン”というより“田村潔司二世”
所英男
HIDEO'A' TOKORO

まだまだあるゾ! 所英男『紙のプロレスRADICAL』登場リスト

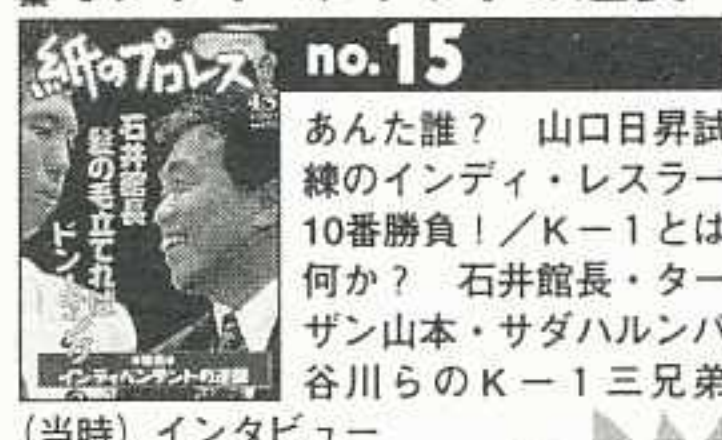
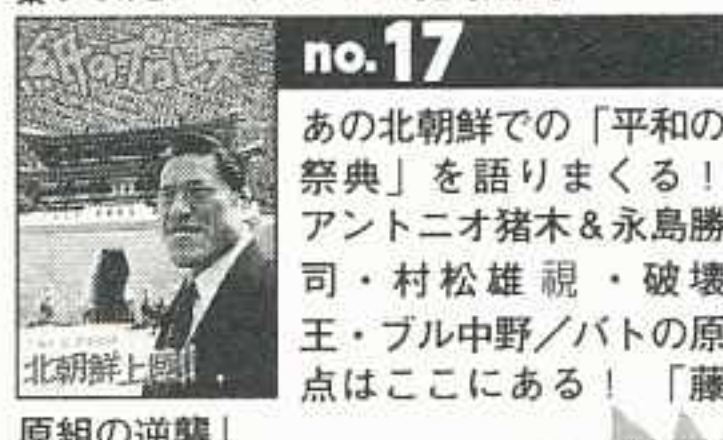
★ no.61 これが本誌の初登場! ZST四兄弟座談会
★ no.75 ツイスターゲーム敢行! ZSTガール尾藤ゆうと対談!
★ no.86 兄貴分、足関十段今成正和と対談!
★ no.88 『HERO'S』出陣記念! ZST2大エース、小谷直之と対談!
★ no.89 ついにブレイク! 参謀、矢野卓実と対談!
★ no.90 少年時代を振り返るロングインタビュー掲載!
★ no.91 『HERO'S』準決勝で宇野薫に惜敗 決意新たにインタビュー!
★ no.92 師弟タッグ結成? 船木誠勝と夢の対談!
★ no.93 ZSTの人気者がそろい踏み ZSTガール、小野寺愛と対談!

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797

平日
15:00～22:00
販売元
(株)ダブルクロス

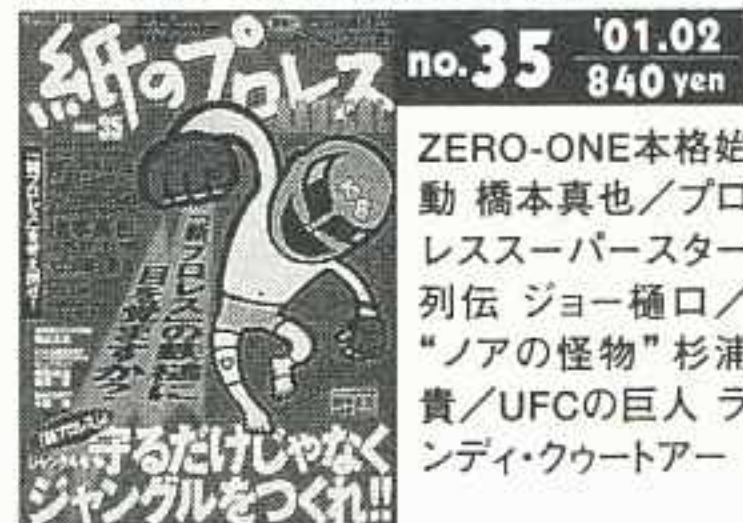
本誌 Back Number

特集 神秘とは何か?
no.14
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50% OFF

特集 インディペンデントの逆襲
no.15
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K−1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK−1三兄弟(当時)インタビュー
780yen⇒390yen 50% OFF

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野/バトの原点はここにある! 「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50% OFF

パンクラス公式読本
矛・盾
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!
各1260yen⇒630yen 50% OFF

格闘ノストラダムス!
no.16 '99.03 780yen
アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/相撲多重アリバイ 石川孝司/語ろうジャンボ鶴田

純プロ王国NOAHに迫る!!
no.29 '00.07 840yen
三沢、秋山『紙プロ』初登場!!/プロレススーパースター列伝 仲野信市/本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!/TKおかん

“新”プロレスとは何か?
no.32 '00.10 840yen
田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村/“和製カレリン”本田多聞

純プロレスを徹底検証!
no.35 '01.02 840yen
ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/“ノアの怪物”杉浦貴/UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 '01.02 840yen
ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言/W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く/吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

純プロレス戦国絵巻!
no.37 '01.04 840yen
安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!/アブダビコンバット01一大探検記!/シュート活字×ファンタジー活字/比類なきプロレスがWWFにはある!

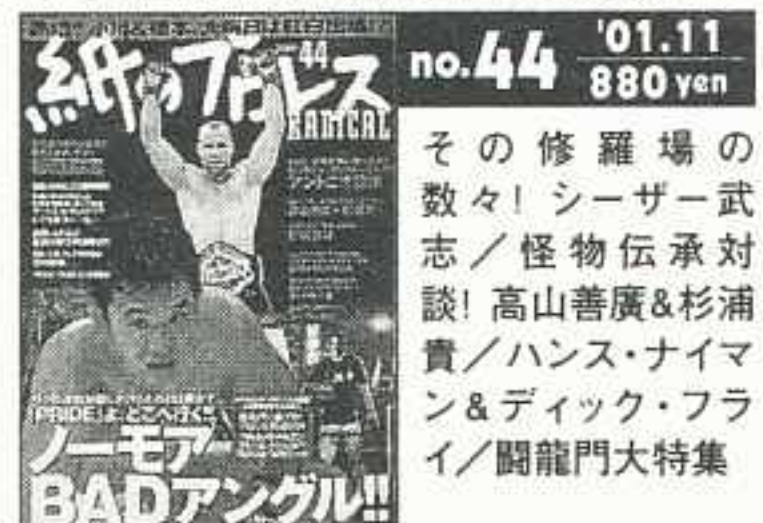
小川直也は是か非か?
no.38 '01.05 840yen
忘れ物の正体は——。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル/プロレススーパースター列伝 阿修羅原/死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

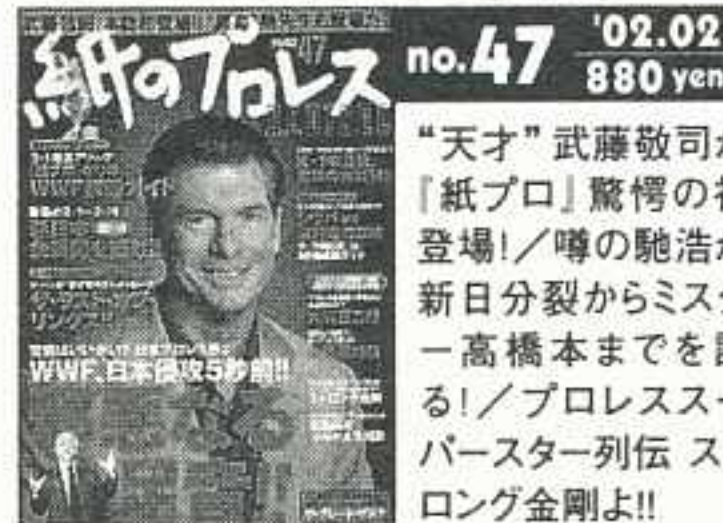
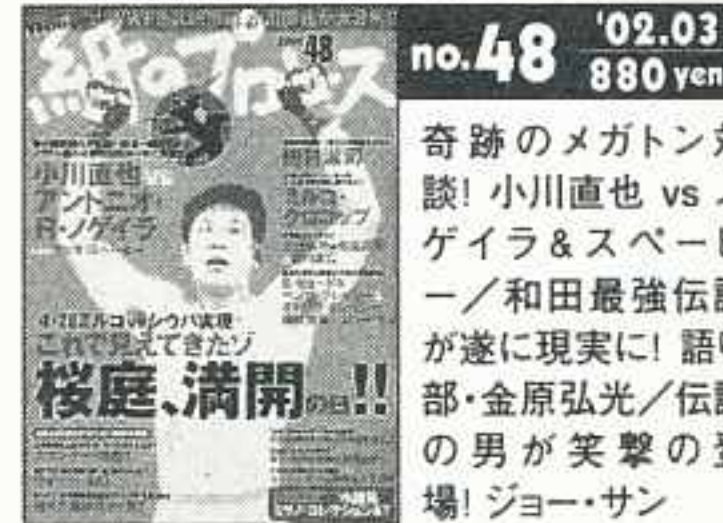
前田日明は是か非か?
no.39 '01.06 840yen
前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男/プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは?
no.40 '01.07 880yen
蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎/プロレススーパースター列伝 グラン浜田

“最後の黒船”WWF来襲!!
no.41 '01.08 880yen
リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!/W☆INGの真実・茨城清志/毒舌知能犯 秋山準語録

アントンパワー大爆発!!
no.42 '01.09 880yen
ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/“ヒャッホーの真実”辻よしなり/蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 '01.10 880yen
ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会/野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来
no.44 '01.11 880yen
その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴/ハンス・ナイマン&ディック・フライ/闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!
no.45 '01.12 880yen
悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談/プロレススーパースター列伝 グレート小鹿/語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 '02.02 880yen
“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!/プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 '02.03 880yen
奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光/伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン

イン サイド コリア

인 사이드 코리아

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第3回

韓国発・総合格闘技リアリティ・ショー

トンデモ逸話の大洪水!!『GO! スーパーコリアン』

文／大川“隊長”義之

韓国には、アメリカのThe Ultimate Fighter（以下TUF）を真似た『GO！スーパーコリアン』というテレビ番組がある。これはSpirit MC（以下SMC）がスター育成プログラムの一環として、ケーブルテレビXTMと組んで製作した**リアル・ドキュメンタリー番組**である。こうした番組は、韓国で初めての試みだったため、大きな注目を集めたが、そこは韓国。TUFとは違って資金的に乏しい『GO！～』は、**コリアン・テイストたっぷりの突拍子もないトンデモ企画が満載なのだ**。出演する4人の選手別におもしろいエピソードに絞って番組を紹介する。

■自己啓発セミナー戦士イム・ジェソク!!

個性派が多いこの番組の中では、かなり地味なタイプ。道ばたでアンケートを実施すると、ほとんどの人がイムの写真を指差して**「コイツが一番平凡」**と答えるほど。そうした内向的な性格を改善するために、イムはソウル市内にある**怪しげな自己啓発セミナーに参加**することに。イムは一般の会員に混じって、スピーチをしたり、コブシを振り上げながら大声で**「俺はできる！俺はできる！」**を音階別に連呼するのだが……これがいかにもバカっぽい。**講師のおばちゃんは「ずいぶんよくなりましたね！」**というのが、こんなんでホントに自信つくの～？

■催眠術戦士イ・ジェソン!!

イ・ジェソン関係でヒットした企画は、間違いなく**選手に催眠術をかけるという企画**だろう。かなり胡散臭い企画だが、講師には**韓国催眠科学研究所所長&韓国催眠教育院院長**という肩書きを持つ人物が登場。な、なんだか本物っぽいじゃん！講師は「自分の能力を充分に発揮できないときに睡眠療法を行なえば、かならず潜在能力をすべて発揮できるようになります。**若い人なら間違いなし！**」と強気に語る。そしておもむろにライターを取り出してさっそく催眠療法開始！　4人の中で最も感情量の多いイは、**早くも半分白目剥いた状態**で先生の質問に答え始める。「これはあなたの前世です。何が見えますか」**「一番悲しい場面です。妻が家を出て行きました」**「どうして出て行ったの？」「……わかりません」「あなたは奥さんをどれぐらい愛してますか？」「もの凄く……」…**そう答えるイの目からは涙が！　本気だ……**。本当に前世の旅に出てしまいましたよ！　続いて、先生はなんと**「次に前世であなたが死ぬ瞬間を思い浮かべてください」**という。イは答えられない。「ではそのとき、奥さんはどこにいましたか？」「……まだ家に帰ってきていません」「じゃあ、あなたは一人で死んだんですね。どうやって死にましたか。自殺ですか？」**「自殺じゃないです」**「病院で死にましたか」「……わかりません」と、イが答えたところで、今回はここで終了！催眠療法を終えたイは「身体に力が入りません」と言ったあと、**感極まったのか、大粒の涙を流す**。なんだかよくわからんが凄いぞ睡眠療法！　……でもこれ、格闘技に効果あるの～？

■崔リョウジの兄、チェ・ヨン!!

ZERO1・MAXの崔リョウジを弟に持つ在日韓国人のチェ・ヨンは、その独特のキャラクターでこの番組の視聴率を稼ぐキーマン。番組でもいじりやすい彼を中心に据えた企画が多い。ここでは『**ドッキリ**

イム・ジェソク
①79年11月9日（26歳）②180センチ、80キロ③浄心館④キックボクシング、柔術⑤3戦3勝⑥キック国内チャンピオンでありながら寝技も強い。実力、総合力は4人の中でトップ。ロベタでシャイなため、自己PRができず、スター性に欠ける。

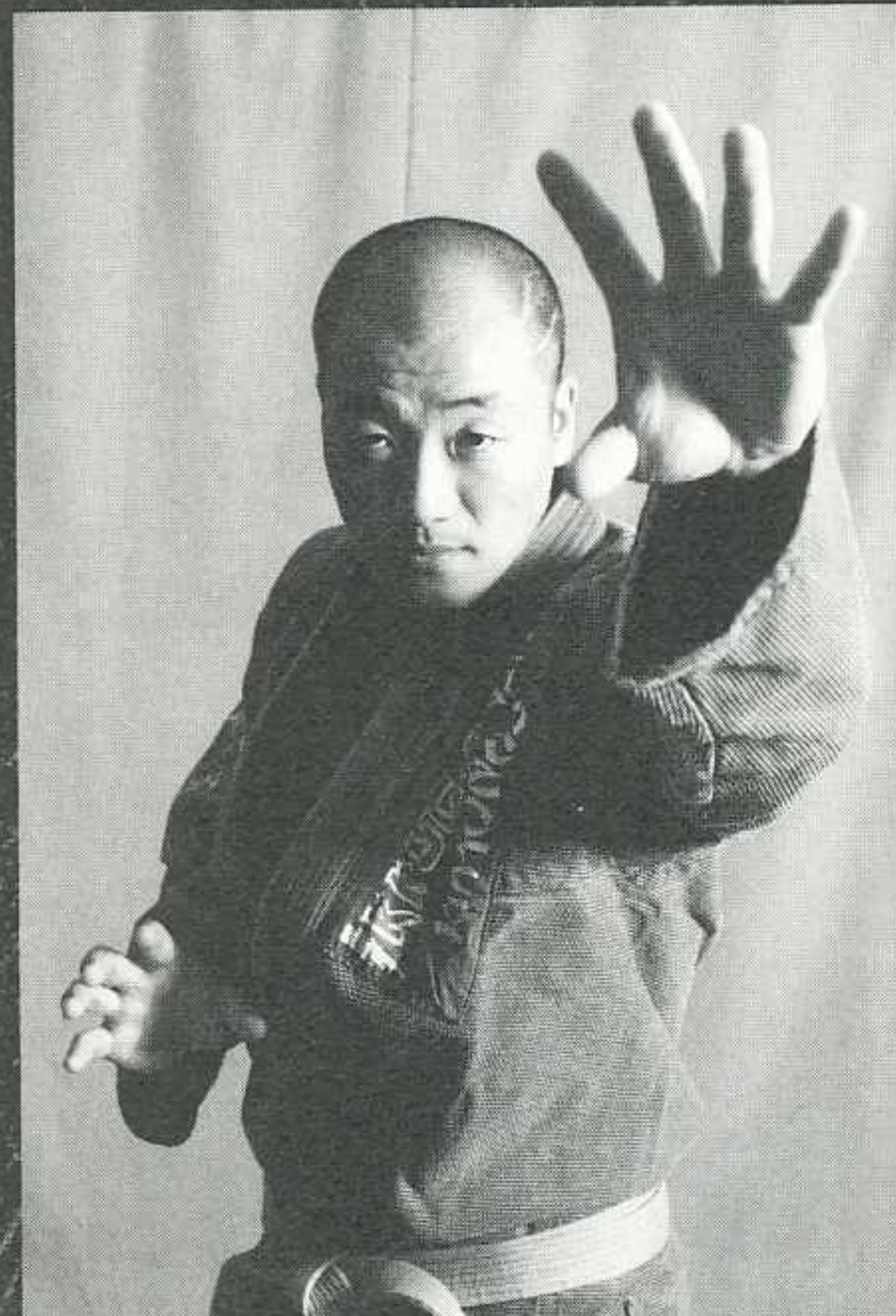
イ・ジェソン
①80年2月 17日（26歳）②179センチ、80キロ③チームフェニックス④柔術、ボクシング⑤8戦6勝2敗⑥当初は柔術ファイターだったが、現在ではボクシングに傾倒。イケメンで情に厚くスター性はあるが、「動く総合病院」の異名を持つほど怪我が多いのが難点。

カメラ』という、これまた古典的な企画を紹介。この日の企画はSMCのラウンドガール（スピリットエンジェル）とのインタビュー。しかしエンジェルは呑気にNGを連発。収録のうまくいかないプロデューサーは激怒し、緊迫した雰囲気に。それでもチェの身体をつついてきたりする無邪気なエンジェル。さらにエンジェルは反省するどころか、スタッフが休憩中にチェを誘惑。**「最近彼氏と別れたばかりなの。今度日本に行くから、案内してぇ♪」と言いつつ身体を寄せてくるエンジェル**に、チェは鼻の下伸びまくり。…チェ、アンタわかりやすすぎだよ！　収録再開後もNGを連発するエンジェルに詰め寄るプロデューサー。するとエンジェルは「だってぇ〜、収録中にチェ・ヨン選手が電話番号聞いてきたり、セクハラしてくるんで集中できなかったんです」と発言！　驚きを隠せないチェだが、下心があるからか**「そうです。僕がいろいろちょっかい出しました。すみません」**とフォローを入れる。スタッフは激怒するが、結局ドッキリカメラだということを知らされ、呆然とするチェ。残念ながらその後、チェがエンジェルとデートに成功したという話は聞こえてこない。**って、この企画も格闘技と関係ないじゃん！**

■全身哀愁格闘家ペク・ジョングォン!!

SMCの旗揚げ大会から出場しているペクは固定ファンの多い人気選手。このペクがらみの企画もかなりへんなものが多い。ペクが頭を剃っているからと言って、**禅宗寺に送り込んだり**、入場パフォーマンスでダンスを必ず披露するからと言って、**BoAのバックダンサーに入門してダンスを習わせたりする**のだが、ここまで来ると、あえて**格闘技と関係ない**ことをさせようとしている気がしてくるから不思議。生い立ち編でペクの両親の家を訪ねると、ゴミを集めて廃品処理の仕事をやっている。幼い頃、ペクは友だちといるところで、**リアカーでゴミを運ぶ父が通りかかるのを見て、「こんな仕事、やめたらいいのに」**と思ったという。**この哀愁の漂う様は、まるで梶原一騎の劇画漫画の世界。**

……以上のように、この番組では格闘技に関するトレーニング風景も放送されるが、ファイターに関心を持ってもらうために、**さまざまな娯楽的趣向を凝らしてある。紙面の都合上、今回はこれ以上紹介できないのが残念だが、番組の雰囲気を少し感じていただけたら幸いである。次回は、この4人によるミドル級GPの決勝大会を挟んで後半部分を紹介する予定。**

チェ・ヨン
①78年4月12日（28歳）②183センチ、80キロ③真武館韓国本部④グラップリング⑤8戦6勝2敗⑥アブダビ日本予選3位が実績ある在日韓国人。グラップリングと体力面に秀でているが、打撃がまるでダメ。過激な発言が多く、番組の中でも目が離せない存在。

ペク・ジョングォン
①79年1月7日（27歳）②180センチ、80キロ③POMA ④柔術⑤8戦5勝3敗⑥SMCには第1回大会から出場するベテラン。派手な入場パフォーマンスは会場で一番人気。あっけなくKO負けしたことがあり、顎が弱く、スタミナ面に不安がある。

まったく格闘技とは関係ない企画を次々に強いる、格闘リアリティ・ショー『GO！ スーパーコリアン』。"トンデモ番組"のレッテルを貼られがちな番組構成ではあるが（貼ってるのはこっちなんだけど）、テレビスタッフのチャレンジ精神は評価したい。自己催眠術に挑戦しながら次回の後編を待て!!

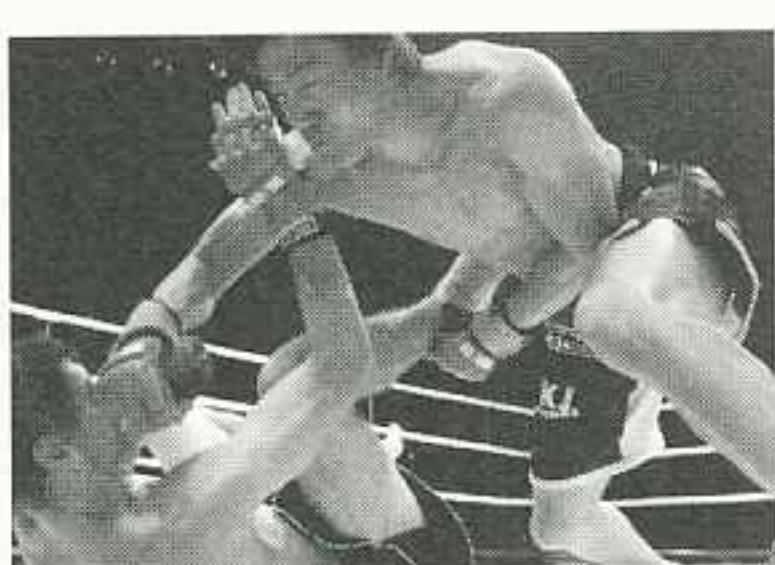
インサイドコリア 韓国格闘技情報

4・22 Spirit MC

韓国の老舗団体Spirit MCも今回でナンバーシリーズ8回目。今大会は、アメリカBJ・ペン道場から3名、日本の真武館から2名と、国際色の強い大会となった。しかし、大会前に『Go！ スーパーコリアン』で人気を得たミドル級4戦士が出場するとさんざん宣伝していたにもかかわらず、フタを開けてみると4人の中で大会に出場したのは、チェ・ヨンただ一人だった。「あ、それでサブタイトルがOnly Oneか」と一人納得。なかなかトンチの効いたキャッチコピーではないか。どんな大会にもこうした「ツッコミどころ」があるのが、韓国格闘技界の楽しいところである。インターリーグ（新人トーナメント）の80キロ級で真武館（日本）の長倉央登が相手に十字で腕を極められながらも根性で耐え、判定勝ちで優勝を収めた。米韓の対抗戦はデニス・カーンとチェ・ヨンが勝利し、2勝0敗1無効試合と韓国チームの勝利に終わった。

『PRIDE武士道ウェルター級GP』への出場が決定している"韓流サイボーグ"デニス・カーンもSMCに参戦!! 試合結果は1Rわずか12秒という秒殺劇！　見事な大勝利できたる決戦へ弾みをつけたのだった。

4・29 MARS KOREA

韓国ではなじみの薄い団体の大会であったため、開催前から興行的に苦戦が予想されたMARS KOREA。大会内容も、厳しいものになった。大会のメインテーマである韓国対世界の対抗戦で、韓国勢はソン・オンシクの1勝のみの1勝7敗で、韓国の専門誌に「韓国最弱！」と書かれそうな惨敗ぶりであった。いくら日本系団体の大会だとはいえ、この結果は厳しい。韓国側のスタッフが各選手の実力をしっかり把握できていなかったのではないか。心配された観客も2500人程度収容したが、彼らを再び会場に来させるためには、少なくとも拮抗した実力の選手を当てる工夫がほしかった。

韓国勢の中でただ一人勝利したソン・オンシクは『HERO'S』韓国大会でも一本勝ちした選手。今回もアグレッシブな打撃で相手を圧倒し、2Rには打撃勝負を避けてグラウンド勝負に来た相手を、一瞬にして下から三角で極めてしまった。彼の極めの強さと活きの良さは、「韓国の所英男」と言ってもいい輝きを放っている。ソン・オンシクは5月13日に日本で行なわれるMARSに出場し、ヤノタクと闘うことが決定している。

日本人ファイターが多数参戦したMARS KOREA。星野勇二、中村K太郎、小椋誠志らが勝利を飾った。なお、MARSは5・13幕張メッセでビッグイベントを開催。各自調査で大会詳細に痺れてくれ！

“ミスターPRIDE”桜庭和志HERO'S移籍！
今後のマット界はどうなるのか⁉

言うちゃ悪いけど今月の直言!!

PRIDEとHERO'Sはいがみ合って興行を盛り上げろ!!

プロレス・マスコミの“生きる伝説”

I編集長の喫茶店トークラウンド

5·3『HERO'S』に桜庭和志登場という、10年に一度の大サプライズが起こり、その二日後、5·5『PRIDE無差別級GP』が激闘続きで大爆発！またしても、巨大な地殻変動を起こし始めたマット界を今月もI編集長がブッタ斬ります！

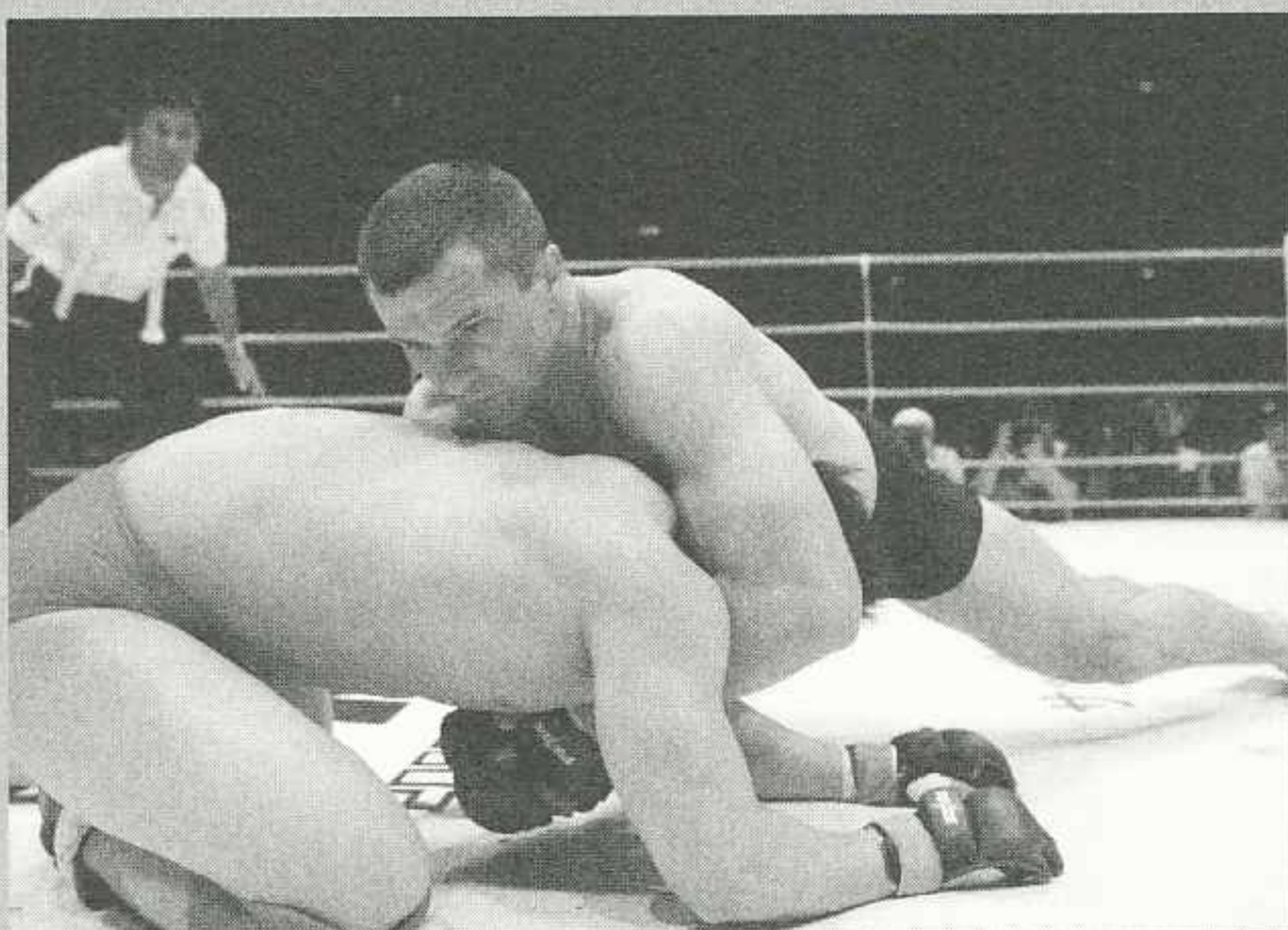
聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan（Two Three）

I編集長とは？

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳を越えたいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。

——さて、井上さん。今月のテーマは当然、5月5日に大阪ドームで行なわれた『PRIDE無差別級GP』になるわけですが、どんな印象を持たれましたか？
井上　総評だとかなんとかは聞くだけ野暮でね。個別にどのような突出したものを感じたかが問題ですよ。しまいの3試合（ミルコvs美濃輪、ノゲイラvsズール、吉田秀彦vs西島洋介）があまりにもあっけなかったので、ブックサ言う向きもあるが、とんでもない話ですよ！　観ていてとてもおもしろかったし、問題点も山積していた。
——井上流のセンサーは一般社会とは違うというわけですね（笑）。

ミルコvs美濃輪を〝宝物〟に変えたのは『kamipro』読者と俺だけですよ！

井上　そりゃそうですよ。そうでなかったら、『kamipro』が毎月、話を聞きに電話してきたりしない。ご苦労なことだ（笑）。
——井上さんのトークはじつに意外性があって、好評ですから（笑）。
井上　では、張り切って2時間半ぐらいしゃべるとするか（笑）。
——2時間半！　なんとか2時間以内にまとまりますよう、お願いします（笑）。
井上　キミねえ。俺とプロ格者の『喫茶店トーク』なんて、トータルで3、4時間はザラだからね。喫茶店をハシゴしてトークしとるからね。
——そのスタミナには感服します（笑）。では、最後の3試合の見解を。
井上　まずミルコvs美濃輪は、実力から推して、ああなるだろうとは思ってたから試合なんかにはべつに触れない。言いたいのはミルコが昨年大晦日のマーク・ハント戦で闘える状態ではなかったということですよ！　問題はなぜ、そんな状態で出てきたのか。体調はどうだったのかといった報道が何一つされていなかった。
——そうでしたよね。
井上　たしかに、ミルコがシューズを履いて出てきたので、オヤッと思ったが、強烈な蹴りを開発したなと勘違いしたんだ。
——新開発の強烈な蹴り用シューズだと思いましたか（笑）。実際は左足の甲を腫れ上がらせていて、満足な蹴りができなかったからだとあとで知りましたけど。
井上　キミとこのミルコに関する記事（98号）を読まなかったら、ミルコがクリスマスに高熱を出してベッドで寝たきりだったとか、日本には29日に来たものの、はたして出場できるものかどうか、DSE関係者が顔を見合わせたといったひどい状態が闇に葬られたままだったろう。このことを知ってゾーッとしたね。ミルコに関する重大情報がスポーンと抜け落ちたまま誰も知らないなんて、あってはならない話ですよ！
——正直言って、僕らも知りませんでしたからね。
井上　でないと、あんな頼りないミルコを見せつけられることなんかなかったはずだからね。おかげで、こちらは「ミルコは下り坂を転がっていくだけになった」などと、とんでもないトークと活字を残してしまった。
——思いきり断罪してましたよね（笑）。
井上　クソッ！　と思わず怒ったね。こんな大間違い、絶対に許されないことだ。情報、これがいかに大事であるか、改めて思い知らされた。だから、ミルコが美濃輪に楽勝したケースと過程がとても興味深く痛快だった。あの試合を宝物に変えたのは、キミとこ読者とこの俺ぐらいですよ！
——まったく違った角度で眺めると、あの試合は凡戦ではなく宝の山だったとのご高説、恐れ入りました（笑）。
井上　ノゲイラ兄vsズールにしても、あれだけ発表が遅れたのを見れば、ノゲイラの相手がいつまでたっても決まらなかったってことじゃないか。そうでなければ、仕方なくズールを持ってきたりはしない。ズールにとって、一番勝てない相手がノゲイラなのだから、ファンやマスコミがブツクサ言ったのもわかる話だ。しかし、「こんな簡単なカラクリが読めないようでは、世間の連中のアタマを疑うよ」と、プロ格者とあきれ返ってしまった。いまのノゲイラには誰も勝てないからねぇ！　ヒョードルが出てこないのを誰よりも残念がってるのはノゲイラだ。いまなら7月1日にだって勝てるからな。
——井上さんはヒョードルは7・1にも間に合わないと……。

本誌前号で、昨年の大晦日は体調最悪だったことと、今年に入り燃え尽き症候群に陥っていたことが判明したミルコ。ファンから「もはや復活は無理なのか？」と心配されたが、GP開幕戦では得意の蹴りを一発も放たずに完勝。復調をアピールした。

井上　また榊原社長にどやされるけど、俺はそう見ている。出場したとしても、勝ち残った7人の中で勝てそうなのはファブリシオ・ヴェウドゥムぐらいのものだろう。いまの状態ではアレキサンダーの仇討ちもできませんよ、アンタ！　殴りのヘタなジョシュ・バーネットなのでなんとかなりそうな気はするがね。
——そのアレキサンダーですが、どう思われました？
井上　『アレキサンダーは1ラウンドだけの男だ』。これが〝大阪のバカ〟が思わず口走ったアレキサンダーの新しいロゴだ。あんなにスタミナがない男だとは思わなかった。なんだ！　1R終了時のあの醜態は……。ロープにもたれかかってハーハー、ゼェーゼェーなんだからな。あれではもちませんよ！
——リング下でヒョードルは舌打ちしたでしょうね。
井上　まったくだ。これでバーネットの『おまえはもう死んでいる！』がホンマもんになってしまったからな。それほどセンセーショナルでなかったヒョードルvsバーネットがにわかにビッグマッチに昇格してしまった。いよいよ、ヒョードルの時代は終わるな。
——終わりますか（笑）。やっぱりケガは怖いですね。
井上　怖い！　アレクセイ・イグナショフみたいな、やる気なさ症候群も怖いがね（笑）。
——ところで、桜庭（和志）の『HERO'S』移籍です、どう結論されてますか？
井上　ポイントは、引き抜きではないってことだ。桜庭がカネ目的に動いたのでもない。根幹は、桜庭が『桜庭道場』を立ち上げて、『髙田道場』から独立することにあった。このままDSEに在籍して道場を作ったのでは、単なる『髙田道場』の一支店で終わってしまう。
——そうなりますかね。
井上　これでは、道場を立ち上げてもインパクトはない。「あ、そう」で

終わりにされてしまう。桜庭はそれを嫌った。やるからには『髙田道場』の桜庭でなく、一国一城の主になろうと。そこで髙田に相談し、了承を得た。二人がケンカ別れしたっていう印象を与える書き方をした記事が目についたが、とんでもない話だ。

——井上さんの見解では逆だと。

井上 そりゃそうですよ。あの二人がケンカ別れなんてするかね？

——……。

井上 だから、独立であって移籍ではない。谷川貞治先生も、そう強調してるしね。

——しかし、榊原代表は「裏切られた思いだ」とコメントしています。

井上 当然じゃないか。俺だってそう言いますよ！ DSEの長が「いいよ、いいよ」と言うわけがないんだよな！ 何もかもわかっていて、あのようなキツイ談話をマスコミに公表せざるを得なかった。第一、あの律儀な桜庭が何も言わずに、突然、出て行ったりするかね。

——……。

井上 そうに決まっている！ だけど榊原社長としては建前上、あのように言わざるを得なかった。仕方のない話だったんだ。谷川社長は、桜庭独立を知って自分のほうからコンタクトを取った。当然だ。誰だって桜庭が同じシマ（DSE）にいるまで道場を作るなんて考えもしない。別天地で自分の城を作るんだろうから、「ウチへ来ていただけませんか」ぐらいの話はしただろう。しかしだ。桜庭の心の中では、思い切ってDSEの拘束から抜け出そうという決断ができていたはずだ。そこへ谷川社長から連絡があった。それだけの話だよ。長州力だと、何も言わないで、いきなり新日プロを出て行ったりするが、桜庭は違いますよ！

——桜庭選手は『無差別級GP』出場の話も来なかったし、行き場がなかったとも言っているようですが。

井上 逆だ。桜庭が独立するとわかったからオファーを出さなかった。桜庭はそれらしいコメントを口にしているが、ホンネじゃない。言うちゃ悪いけど、桜庭はもうとっくの昔に下り坂ですよ！ そりゃ、まだまだ闘えはしますよ。しかし、かつてのような強さは望むべくもない。というより、周囲が強くなりすぎて、連戦戦勝など不可能になったんだよな。それが可能なら、髙田にしたって引退などしてませんよ！ このことは本人が一番よく知っていた。だから第二の人生として、道場を作ろうと決心した。桜庭を取り巻く情勢は誰の目にもハッキリしているよ。ズバリ言わせてもらうと、桜庭はもう38歳（本当は36歳）だぜ。みんな年齢には触れようとしないが、立派なロートルだ。『PRIDE』ではもう勝てるトップクラスはいない。そこへいくと、『HERO'S』はまだ発展途上国。『HERO'S』なら活躍できるし、強い勝ち方も可能だ。この計算も当然あっただろう。

——桜庭登場によって『HERO'S』も活気づくでしょうからね。

井上 当然だ。ビッグネームがいないのが『HERO'S』の一つの弱点でもある。山本〝KID〟徳郁、須藤元気、秋山成勲と一応揃ってはいるが、所英男にしたって、もう一つインパクトに欠ける。その点、桜庭はビッグネーム。出場するしないは別にして、桜庭がいることで、常にファンの目が『HERO'S』に注がれる。チェ・ホンマンとの対決にしたって、見たいカードだもんな。

——まず、見たいカードが桜庭vsチェ・ホンマンですか（笑）。

井上 当分、K－1サイドは桜庭の名前で活気づくだろう。榊原社長にすれば、この点だけが眉をしかめる材料じゃないのかな。桜庭vs秋山なんていうカードが8月5日（『HERO'S』有明コロシアム大会）でも実現しそうだしな。そして何よりFEGにとっては、桜庭の名前を得たのが大きい。なんせビッグネームだ。何かにつけて、すぐ記事に出てくる。FEGの広報担当者にすれば笑いが止まらないだろうよ。オリックス・バファローズがなぜ清原をほしがったか。そこに桜庭移籍の答えがある。

——今回の移籍劇をきっかけに、DSEとFEGのあいだで再び戦争が起こるという見方もありますが。

井上 考えられもしない話だ。それを言うならミルコ、ハントがDSEに移ったときに血の雨が降っている（笑）。こういうことだよ。実際に血の雨は降らないが、そうなるかもしれないぜと匂わす作業が必要ってことだ。DSEとFEGが対立ムードを強めることが活性化の大きな推進力となる。これなくして『男祭り』『Dynamite!!』が存在したかね。新日、全日のあいだの興行が必ず満員になったのがいい例だ。昔、大阪で行なわれた日プロ、国際プロレスの興行戦争にしたって、豊さん（豊登道春）が笑っていたけど、「ウチだけだったら、こんなに入らなかったよ」って。格闘技の世界において、対立ほどありがたい要因はない。ネタをばらしたんじゃ、しょうがないけど（笑）、それが本当のところだ。ただ、かけ声ばかりじゃしょうがないので、一部では実際にDSEとFEGの選手が闘う必要がある。

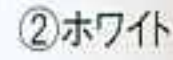
——ほう、『PRIDE』vs『HERO'S』の対抗戦ですか。

井上 やっぱり、せっかくのいがみ合いをリングに持ち込まない手はありませんよ。たとえば、吉田vs桜庭の特別ワンマッチを『PRIDE・GP』のスペシャルマッチとして組み入れるとか。両団体のウェルター級の優勝者が『HERO'S』のワンマッチで闘うとかといった交流だ。ただ、これはあくまで交流戦なんだ。

これでDSEとFEGが戦争になるのなら ミルコ、ハントが『PRIDE』に移ったとき、とっくに血の雨が降ってますよ！

——ケンカではなく交流戦ですね。

井上 両団体にヤクザまがいのケンカなど存在しない。あくまで正面切っての対抗戦だ。K－1のファンにすれば出て行ったミルコに恨みがあるだろうから、ホンマンと年末に特別マッチを行なうとでもなれば、『紅白』を打倒することはできなくても、格闘技村が沸きに沸くことは間違いない。ヒョードルvsセルゲイ・ハリトーノフの〝殺し合い〟ほどのインパクトはないがね（笑）。

——最後はやっぱりそこに行き着きますか（笑）。長い時間ありがとうございました！

新旧 赤いパンツのU魂対談

元・リングス無差別級王者

田村潔司 × 元リングスファン 所英男

いま明かされるUWF基礎体力練習の真実!

ひと足早く、kamipro誌上で"スーパーUWF"が実現!? 第二次UWF新人第一号にして元リングスのエース田村潔司と、現在、前田日明の秘蔵っ子である所英男。ルーツを同じくする二人の越境対談が、いまこの時期に実現！ ここから何かが動き出すのか!?

聞き手／堀江ガンツ 本文構成／松下ミワ 撮影／乾晋也 design by さおとめの事務所

——えー、今日はですね、元リングス無差別級王者・田村選手と、リングスに憧れて格闘技を始めた〝世界の所さん〟にお話をおうかがい……。

田村 （聞き手の進行をまったく無視して）所くんっていま何歳？

所 今年で29歳です。

田村 けっこういってるねえ（笑）。

所 若手に見られるんですけど、じつはそうでもないんです（笑）。

田村 格闘技始めて長いの？

所 21歳から始めたんで、7年目ですね。

田村 最初はヤマケンのジムに行ったんだよね？

——（強引に割り込んで）僕から説明しますと、所選手が初めてパワー・オブ・ドリームに行ったのは、リングスのチケットを買うのが目的だったんですよね。

田村 あ、そうなんだ。

——まあ、なぜU—FILE CAMPに入らなかったのかはボクにはわからないですけど（笑）。

田村 いや、本当だよね（真顔で所を見て）。

所 あっ、す、すみません！ あの当時、下丸子の近くに住んでたんで……U—FILEは遠くて……。

田村 ふーん。じゃあちょっと仕方ない気がするけど。でも所くん、これだけは正直に言ったほうがいいよ。ヤマケンのことが嫌いだって。

所 いやあ、そんな……。

——あれ？ あんまり否定しませんね（笑）。

所 （慌てて）いやいや！ いつまで経っても師匠だと思っております!!

——ダハハハ！ 田村さんと所さんって会場とかでお会いすることはあるんですか？

田村 原宿のゴールドジムで会ったよね。

所 はぁい。あとは先月『U—Zeal』の会場で田村さんにちょっと挨拶させてもらったんですけど、U—FILEの選手とは一緒に練習もしてるし、ご飯食べたりもしてるんですよ。

田村 そうなんだ。いつもはどんなところで練習しているの？

所 自分のジムは新しくできたリバーサルジムってところなんですけど、その他はゴールドジムと、U—FILEと、あとは前田さんとこにちょこちょこと。

田村 前田さんのとこって、自宅？

所 はぁい。

田村 前田さんの自宅でどんな練習してるの？

所 基礎体……とかですかね。ジャンピングスクワットとか。1セット50回で、その日によって、10セットのときもあれば30セットのときもあるし。様子を見ながらやっていただいてます。

——ちなみに田村さんは新生UWFの新弟子時代は何回ぐらいやったんですか？

田村 スクワットは回数というより、もうずっと3時間ぐらいやってたね。

所 はーっ!!（驚愕の表情で）。

田村 真夏でも、途中で水飲ませてもらえないからさ、舌がカラカラっていうか、ピリピリになるのよ、神経がなくなって。「あれ？ この感覚ってなんなんだろう」って思った記憶があるもん。

——もう、回数とか、そういう問題じゃないですね（笑）。

田村 スクワットとか腕立てとかって「限界までやれ」って言われるんだけど、その限界は俺らの限界じゃないのよ。前田さんの限界だからね。

——ダハハハ！ 練習を見てる前田さんの

前田日明にいま
シゴかれてる人

前田さんの自宅で週4、5回
基礎体力の練習をさせてもらってます

UWFの新弟子時代はスクワットを
3時間ぐらいずっとやらされたね（笑）

18年前、前田日明に
死ぬほどシゴかれた人

限界（笑）。

田村　腕立てもずーっとやらされて、最後なんかもう腕が上がんないからさ、5分に一回のペースになるのよ。でも、上がんなかったら棒でひっぱたかれるんだよね。

――棒ってどんな棒なんですか？

田村　プッシュアップ・バー。

――メチャクチャ硬い木じゃないですか！

田村　でさ、一度、スクワット3000回やり終えてたときに、前田さんが冗談で「田村、もう1000回ぐらいできるやろ」言われたことがあるんだけどさ、俺「できません」って言っちゃったのよ。そしたらもうボコボコに殴られて、さらに1000回やったことがある。

――いかにも前田さんらしいですね（笑）。

田村　基礎体力はやってたほうがいいと思うよ。基礎体の部分が全然なかったりするから、ヒジとかヒザとかすぐ靭帯痛めるからね。

所　最近、僕も前田さんと基礎体力をやるようになって、スパーリングで極めが強くなった気がするんですよ。だから、やっぱり基礎トレはやらないとダメだなって感じます。

田村　前田さんのところでは、あとはどんな練習しているの？

所　前田さんの家の前の公園で、息を上げるトレーニングですね。ヒザ蹴りしながら往復したり、ミットやったりとか。あと、〝ぺったん〟とかも。正直、僕〝ぺったん〟苦手なんですけど……。

田村　あ〜、あったね、ぺったん（笑）。スクワットして腕立てするヤツだよね？　あれは難しいよ。リズムにハマらないとへんなふうになるんだよね。俺、初めやり方がわからなかったから、テンポが遅れてた

僕がお風呂に入ってるあいだに前田さんが料理してくれるんです

前田さんちで風呂ぉ!?　俺が近い先輩だったらマジで殴ってるよ！

ら、いきなり前蹴りで吹っ飛ばされて、前田さんに「真面目にやれ！」ってすんごい怒られたからね。

――真面目にやってるのに（笑）。

所　田村さんの時代だったら、僕なんかホントに相手にされないですよね。

田村　前田さんとこにはどのくらいのペースで行ってるの？

所　週4、5回……。

田村　はっ!?（目を見開いて）。上原くん（ZST広報）ちょっと止めさせたほうがいいんじゃない？　まずいよ、それ。

上原　いやあ、他に予定が入れてたりすると前田さんから怒られますからね（苦笑）。

所　たしかに前田さんのところに行くと、他の練習ができなかったりするんですけど、いまは基礎が必要かなって思ってやってます。

田村　いや、確かに必要なんだけどさ、基礎体は新弟子がやるイメージしかないからさ。でも、頑張ってるね〜。

――そして、練習が終わったあとは前田さんの手料理を食べるんですよね。前田さんが所選手のちゃんこ番というか（笑）。

田村　はっ!?　前田さんが作ってんの？

所　僕がお風呂入ってるあいだに作っていただいて。

田村　前田さんの自宅で風呂ぉ!?　よく入れるねえ！　俺がちょっと身近な先輩だったらマジで殴ってるよ!!

所　す、すいません！

――やっぱり田村さんの時代だったら、考えられませんか（笑）。

田村　絶対に考えられない。

――だからもう、あれなんですよ。前田さんって、田村さん世代からすると怖い親父じゃないですか。でも、所選手って前田さ

5・3『HERO'S 2006　ミドル級最強王者決定トーナメント開幕戦』

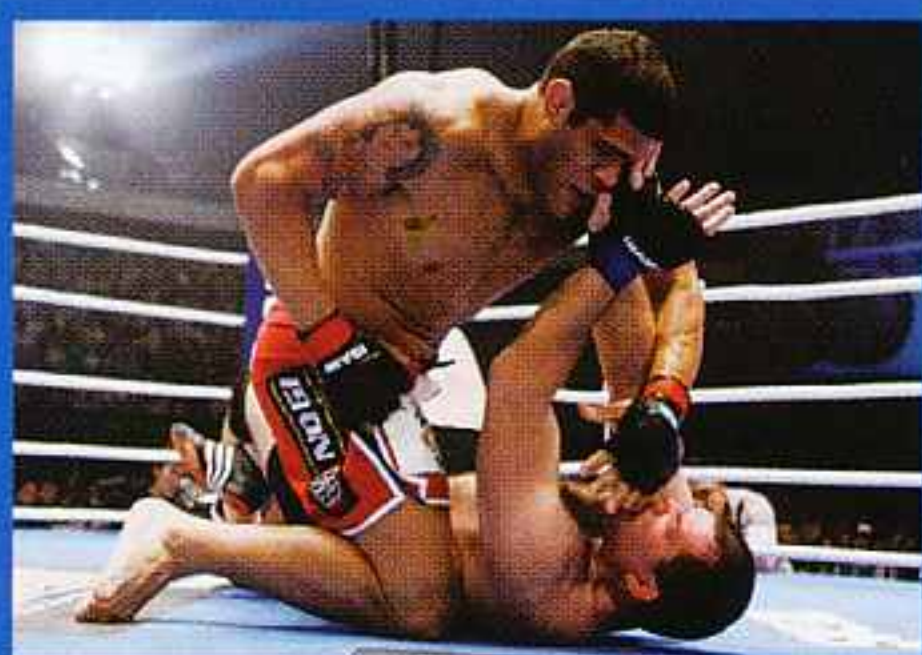
○ハニ・ヤヒーラvs上山龍紀×
[2R終了 判定 2-0]

U.W.F.のテーマ（冒頭のみ）を背負って入場した上山に対し、柔術の猛者・ヤヒーラが変形肩固め、フロントチョーク、腕ひしぎからヒザ十字と、流れるような寝技の展開を見せる。判定はヤヒーラへ。上山は納得いかない表情でリングを降りた。

○アイヴァン・メンジバーvs中原太陽×
[2R終了　判定　3ー0]

組み付いた中原を叩き落すメンジバー、スタンドでローキック。さらに中原のハイキックをつかんで後ろ回し蹴りと、変幻自在の攻撃を見せる。しかし互いに有効打のないままスタンドの攻防に終始し試合終了。判定はメンジバー勝利を告げた。

○ドン・フライvs曙×
[2R3分50秒、フロントチョーク]

曙が突進、フライのパンチを受けながらも前へ出て組み付く。曙がパンチして組み付く展開を続け、フライに有効打を出させないが、不意打ちで受けたローで倒れ、フライがのし掛かりフロントチョーク。一瞬の緩みで勝負が決まってしまった。

○アントニオ・シウバvsトム・エリクソン×
[1R2分49秒、TKO]

白鯨トム・エリクソンが豪快なタックルを仕掛けるが、ゴリラの異名を持つアントニオ・シウバはこれを切り、自分が上になってグラウンドへ引き込む。ハーフマウントでエリクソンの顔を殴りまくり、意外な実力者ぶりを見せたシウバが勝利した。

んから見たら孫みたいなもんなんでしょうね。孫が可愛くて仕方がないみたいな。

田村 そうなんだろうね。でも俺だったら、風呂なんて入ろうとも思わないよ。直立不動で待ってるだけだよね。

――しかし、そう考えると、前田さんが新弟子ばりにちゃんこの買い出しまでやってるってことですよね（笑）。

田村 そうだよね（笑）。メシはやっぱりノルマとかあるの？

所 自分で意識して食べるようにはしてるんですけど、よく言われる"ノルマ"とかはないですね。

田村 俺らのときなんて、ご飯どんぶりとちゃんこ5杯ずつだったんだけどなあ。

所 は～っ（感心したように）。お酒とかもやっぱり凄いんですよね？

田村 一升瓶イッキっていうのもあったし、日本酒をでっかい杯で飲んでたこともあったね。相撲取りがさ、優勝したときによくやってるじゃん。あんな感じで飲み干すのよ。

――優勝もしてないのに（笑）。

田村 垣原なんかは全然飲めないからゲロ吐いちゃって。そのあとに芸者にチューをしようとして「やめてー」って殴られたんだけど（笑）。でも楽しかったね、当時は。所くんはヤマケンとかと飲みにいったりしなかったの？

所 一緒に飲んだりはしてないですけど、ジムに行ったときに酔っぱらった山本さんがいて、いきなり殴られたことはありはしました。

――ダハハハハ！ ジム生に対して理由なき暴力（笑）。

田村 ヤマケンってジム生によく朝まで説教してるってウワサを聞いたことがあるんだけど、そんなことなかった？

所 朝までっていうのはさすがにないんですけど、終電がなくなった直後とか、そういう微妙な時間で終わるのはよくありました（笑）。……あのー（神妙な顔になって）、でも山本さんの話は本になったらヤバいですよね？

田村 いいって。喜ぶよ、ヤマケンも（笑）。

所 そういうもんですかねえ。

――ちなみに、田村さんは所選手の試合はご覧になったことはありますか？

田村 ノゲイラ（ペケーニョ）戦は見たけど、最近格闘技の試合自体を見てないんだよね。このあいだ試合やったんだよね？

所 ちょっとこの前はダメでした（しょんぼりして）。

――ブラックマンバ戦は、所選手がタックルに入ろうとしたときに、ちょうどヒザが入ってしまったんですよね。

田村 型にはまっちゃったんだね。ラッキーパンチみたいな、"ラッキーKO"なんでしょ？

所 ……自分ではなんとも。

田村 でも、所くんは『HERO'S』で最初がよかったから、それを維持するのは大変そうだよね。

所 僕のことを毎回ノゲイラ戦みたいなイメージで見られると凄く困るというか……。

田村 俺もね、昔は「毎試合、毎試合、いい試合しないといけない」って思ってて。まだ所くんはそう思ってたほうがいいと思うんだけど、イチローでも10打数3～4安打とかで6回は失敗するわけだからね。どっかでそういう気持ちに切り替えるのが必要だと思う。10回やって3試合心に残る試合をすればいいんだって。

所 田村さんにそういうアドバイスをしていただくと凄くラクになります。

田村 次の試合とかは決まってるの？

所 いや、まだなんですよ。

田村 次の『HERO'S』っていつなん

○ブラックマンバvs所英男×［1R0分43秒、TKO］

所の相手は、世界最速の毒蛇の名"ブラックマンバ"を名に持つインドの総合ファイター。前半で一番の盛り上がりを見せたゴング直後、所のタックルにマンバのヒザがジャストミート！ 続いてパンチが落とされ、所がまさかの秒殺負けとなった。

○山本"KID"徳郁vs宮田和幸×
［1R0分4秒、KO］

ゴングと同時にKIDが猛突進、そのまま宮田の顔面へ飛びヒザ!! この一撃で宮田は後ろに倒れて立ち上がれず。1R4秒という、総合格闘技史上最短KOを見せたKIDは「やばい、かっこよすぎる俺」という名言を残し、宮田側のセコンドに一礼した

○秋山成勲vs永田克彦×
［1R2分25秒、KO］

上山と同じくU.W.F.のテーマを背負って登場した永田に対し、秋山がパンチ連打からローリングソバット！ これで永田は身体をくの字にして倒れた。秋山は「レスリングは最高です。そして、皆さん最高です。最後に……柔道サイコー!!」とマイク！

○宇野薫vsオーレ・ローセン×
［2R4分36秒、チョークスリーパー］

宇野は入場と同時にいつも通りマットへ大の字に。リングを回ってチャンスをうかがい、スキをついてタックルを仕掛ける。2Rもグラウンドへ持ち込んで優位に試合をすすめ、チョークスリーパーで一本勝ち。日本人唯一の開幕戦勝利となった。

○J.Z.カルバンvs門馬秀貴×
［1R2分8秒、TKO］

15キロ以上の減量を行なってトーナメントに挑んだ門馬。しかしゴング直後、カルバンのストレートがヒット！ この一撃で倒れた門馬、一度は体勢を立て直すもふたたびカルバンからパンチの連打を浴び、無念のレフェリーストップ負けとなった。

だっけ？

所　『HERO'S』は8月で、ZSTが8月か9月にあるみたいで。

――『HERO'S』といえば、休憩明けにとんでもない大事件が起きましたね！

所　あれはビックリしました！　もう、自分が負けたショックも吹っ飛びました！

――それは吹っ飛ばないください（笑）。

所　もう全然知らなくって。控室にいたら突然、桜庭さんの入場曲が聞こえてきたんで「誰がふざけて使ってるんだろう」って思ってたんですけど。

――田村さんはもちろん知らなかったんですよね？

田村　俺？　知らないよ。本当は会場に行きたかったんだけど、ちょっと別の仕事があったんでね。そしたら、うちの親父から電話かかってきたんだよ。「あの覆面レスラーはおまえか!?」って。否定してるのに3回も同じこと聞かれたから！

――ダハハ！　田村さんがタイガーマスクの覆面被って、桜庭さんの入場曲で『HERO'S』に登場したら、こんなサプライズはないですよね（笑）。

田村　（強引に）で、所くんは、これからどんな感じでやっていきたいのかな？

所　あっ、僕ですか？　僕はとりあえず30歳まではとにかく試合をしようって感じなんですけど、30歳からは一試合一試合作って出るというか、そういうのが理想かなって思ってるんですけど。

田村　でも難しいよね。ZSTがあったり『HERO'S』があったりするから。ZSTから「この試合は出てほしい！」ってのもあるだろうし。

所　あんまりないみたいなんですけど（ポツリ）。

上原　いやいや、所さまさまですよ。まあ、所選手のお父さん、お母さんともいろいろ相談しながらやっていこうかなって思ってますんで。

田村　はっ？　両親も入ってるの？

所　家族ぐるみです（笑）。ファイトマネーのこととか、僕一人に任せるととんでもないことになるんで。親に管理してもらってるんですよ。

田村　ちょっと、もうすぐ30歳でしょ？　30の人間がそんなことしないでよ（笑）。俺も昔は給料3万だったからさ、多少お金持ちになっても底の生活を知ってるからしっかりするもんなんだけどね。

所　でも、僕はファイトマネーを親のところに振り込んでもらって、その一部を毎月仕送りしてもらってるんですよ。

田村　仕送りぃ!?

――闘うフリーターから仕送りファイターになったわけですね（笑）。

所　あるお金は使ってしまうんで。どんどんなくなってく感じですね！（得意げに）。

田村　どんどんって、何に使うの？

所　最近は人におごってる自分が好きだったりするんですよね（笑）。

――おごってる自分が好き（笑）。形に残るものは買ったりしないんですか？

所　高いもんじゃないけど、PSPとかですかね。

お金は親に管理してもらって、仕送りしてもらってるんですよ、僕は（所）

所くんってもうすぐ30歳でしょ？ 30の人間がすることじゃないよ！（田村）

田村　そんなん1万ちょっとやん！（笑）。

――バイト代で買うんじゃないんですから（笑）。田村さんはどうなんですか？

田村　俺、あんまり物欲がないからね。時計や服やブランド物なんかまったく興味ないし、Tシャツ短パンでよかったから。昔は彼女とかにブランド物を買ってあげたりとかあったけど、そんなことしてるとだんだんバカらしいなって思ってくるんだよね。

――「俺が頑張ってるんだから自分のものを買えばいいじゃないか」って。

所　僕も自分のものは買わなくても、女の子には買ってあげちゃったりしますね（笑）。

――それでローンだけ残ったり（笑）。

所　はぁい（笑）。

田村　でも、いまは女の子の人気とかが凄いんでしょ？

所　でも、直接なんかあるわけじゃないし……。

――女子中高生に人気なんですよね。

田村　女子中学生と直接あったらやばいでしょ！（笑）。でも、確かにファンの子とあんまり接触する機会がないから実感がないよね？　毎日チヤホヤしてくれたら実感湧くだろうけど。

――でも、ジムに女の子が見学しに来たりするんですよね？

上原　実際、入会した女の子も増えたみたいなんですよね。でも、所選手は一切女の子とはスパーリングしないんですよ。

田村　なんで？　向こうが意識するから自分も意識してイヤとかそういうのもあるの？

所　そういうのはないですけど、やっぱスパーリングは男の人とやったほうがよく動くんでおもしろいし。

田村　いやいや、指導中なんだからそこは見てあげないと！（笑）。

――所選手は将来ジムを開きたいとかいう野望はあるんですか？

所　自分が指導を始める前はそういう思いもあったんですけど、教え始めて自分の指導力のなさがわかったんで、いまは格闘技に携われればいいかなって思ってます。

――いまの発言はリバーサルジムの営業妨害じゃないですか（笑）。

所　（無視して）田村さんって現役なのに道場5つ出されてるじゃないですか。やっぱり自分が指導するようになって、凄いなって感じるんですけど。

田村　俺も最初は指導するたびに凄い緊張してたのよ。でも、やってるうちに気づくことたくさんあるし、やろうと思ったらやれるよ、所くんも。

所　はあ。

田村　なんだ、その頼りない返事は（笑）。

――格闘技に携わる仕事って、どんなことがしたいんですか？

所　もう僕はZSTのマッチメイクとかでいいなって思ってるんで。

――それは上原さんの座を奪おうとしてるわけですか？（笑）。

田村　絶対大変だよ！　いま、見た？　上原くんの顔。「やれるもんなら、やってみろ！」って思ってるよ（笑）。

上原　（チケット郵送の封筒にノリづけし

KIYOSHI TAMURA
1969年12月17日、岡山県出身。第２次ＵＷＦ、Ｕインター、リングスを渡り歩いた生粋のＵ戦士。今年２月には20キロの体重差があるノゲイラ兄に挑むも完敗。はたして頑固者が次に闘う相手、そして舞台は？ 180cm、86kg。

HIDEO TOKORO
1977年８月22日、岐阜県揖斐郡出身。昨年７月、『HERO`S』初参戦で修斗世界王者ペケーニョを破り一躍大ブレイク、大晦日にはホイス・グレイシーと好勝負を展開しさらに評価を挙げるも今年は１勝２敗と苦戦中。170cm、67kg。

ながら）こんなことからやらないといけないんだからな！（怒）。

所　いや、そういうのは上原さんにお任せします（笑）。

一同　ダハハハハ！

――じゃあ、前田さんばりにＺＳＴのスーパーバイザーになるとか（笑）。

所　あ、それいいですね。

――まあ、叶うかどうかわからない将来の話をしていてもしょうがないんで（笑）。所選手、改めて今年の目標を聞かせていただけますか？

所　今年は『ＨＥＲＯ.Ｓ』でチャンピオンになるのが目標だったんですけど、早くも終わってしまったんで、いまは一年間全体を通してプラスになるように頑張りたいです。

田村　所くんの場合は、同世代の日本人対決も見たいよね。

――先日、Ｕ―ＦＩＬＥの中村大介選手に取材したときに、所選手と試合をしたいと言ってましたけども。

田村　ああ、それはいいね。

所　前から僕も中村選手とは凄くやりたいって思ってました。

――それこそ、いい時期に二人が一騎打ちできたら、昔の田村潔司vs桜庭和志みたいになるんじゃないですか？　所選手は身体つきも田村さんに似てますし、中村選手もどことなく桜庭さんに似てますしね。

田村　あ、そう？　ただ、どこのリングでやるかが難しくなるかな、それだと。

――ちなみに、田村潔司vs所英男は実現しないですか？

田村　それは体重も歳も違うからねえ。

――でもホイス・グレイシーはやりましたよ。

田村　ホイスはやりやすいけど、所くんは俺とはやりにくいと思うよ。

――それは残念ですねえ。では今度は田村さんにお聞きしますが、今年のこれからの目標は？

田村　今年はどうしますかねえ～。まあ、変わらずかなあ。

――突然、覆面被って現われたりってのもありそうですか？

田村　マスクに〝ＫＴ〟って書いて？（笑）。う～ん、そのへんも含めて、どうしようかなあ。

――含むんですか（笑）。わかりました。では今後のお二人の活躍を祈りつつ、このへんでシメさせていただこうと思います。お二人とも、今日はありがとうございました！

［06年5月7日／U－FILE CAMP登戸にて収録］

CLOSE UP!!

ニューリン様

ビバ、生誕!! 大特集!!

4月20日、『ハッスル16』大阪大会にてイン卵様が孵化、ついに生誕したニューリン様。強烈なキックや関節技を披露し、ファンの度肝を抜いた。今回はこの美しき“戦闘マシーン”ニューリン様を徹底大特集!

構成/真下義之、坂井ノブ　試合写真/平工幸雄　写真提供/DSE

designed by matsu (TwoThree)

狂気と殺戮の「美しき戦闘マシーン」

ニューリン様徹底大解剖!

『ハッスル16』大阪大会でイン卵様が孵化した、インリン様の実娘、ニューリン様は血も涙もない猛々しく暴走する戦闘マシーンだった。一瞬でハッスル軍を壊滅させた髙田モンスター軍の最強戦士、ニューリン様の強さ、美しさ、凄さを徹底大解剖!

構成／真下義之　写真提供／DSE

ニューリン様
口
「コロス!　コロス!」と呪詛のようにつぶやき続け、敵に向かって無差別に罵詈雑言を放出するニューリン様の口元。舌を出すのは野生の蛇と同じく、威嚇行為の一種と考えられている。

ニューリン様
ハーフマスク
イン卵様の中にいるときの衝撃で、ニューリン様の顔にできてしまった傷を保護するプロテクター。額の赤い石は、胸元と連動した髙田総統のビターン洗脳を無限に高める増幅装置と噂される。

ニューリン様
脳
母親のインリン様と比べ、過剰な戦闘マシン化が進行したニューリン様をつかさどる。ターミネーターばりのスピードと緻密さで敵の行動を瞬時に察知、野獣をコントロールする制御塔。

ニューリン様
肩
戦闘マシン化を象徴する身体にフィットした肩アーマー。むき出しの装甲は触れるだけで相手にダメージを与え、戦闘時の負傷を極限までおさえることができる。

ニューリン様
触角
イン卵様から誕生したニューリン様に生えていた触角と思われる突起物。直径3km範囲の生体反応をキャッチする高感度アンテナであり、本能に忠実なモンスターたちとのダイレクトな意思疎通にも使用される。

ニューリン様
ムチ
母、インリン様のムチより極太に進化を遂げた特注ムチ。野獣の魅力に溢れたニューリン様にふさわしい破壊力と球体を生かしたフォルム。が特徴。インリン様同様に今後は“身体の一部”と認められる可能性が大。

ニューリン様
ヒップ
野蛮で獰猛なニューリン様だが、“官能の女王”であるインリン様の面影が残る極上のヒップ。残忍なファイトと反する魅惑的な曲線美で敵を幻惑し、判断停止状態に。

ニューリン様
胸
最新鋭のモンスターエナメル素材によるビターン波動エネルギーで完璧なバストを保護。象徴的に配置された赤い石は髙田総統ビターンを増幅させる装置と噂される。

ニューリン様
ブーツ
『ハッスル16』大阪大会でHGに放ったミドルキックで客の度肝を抜いたニューリン様の脅威の脚力を保護するブーツ。母・インリン様の美に重点を置いたハイヒール仕様に対し、より実戦的な役割も果たす。

ニューリン様相関図

髙田総統
忠誠
ビターン
忠誠
ビターン
保護
ニューリン様
誕生
イン卵様
産卵
インリン様
親子関係

これが、ニューリン様孵化時のコスチュームだ！

ニューリン様
孵化時
イン卵様が孵化したニューリン様が着用していた鳥類を思わせる保護服。孵化時の外気との温度差を考慮、また敵への威嚇行為のため、先天的に備え持った。

ここが知りたい！ ニューリン様のひみつ

衝撃の生誕を果たしたニューリン様、謎に包まれたその正体の一端を解き明かす。

1：イン卵様とは、何だったのか？

イン卵様から生誕したニューリン様。「卵が巨大化する」という地球上の生命体の歴史を塗り替えるこの卵の存在に関し、ニューリン様は「“イン卵様”は地球上にある普通の卵とはワケが違う。アタシのママであるインリン様のM字遺伝子の結晶なんだよ」と証言。すべての男性を幻惑した母・インリン様のM字遺伝子だけで構成された、純度100パーセントのM字娘・ニューリン様は存在するだけでM字ビターン級の破壊力で日本列島を洗脳していくのか？

2：ニューリン様が闘う理由とは？

ニューリン様によると、まだイン卵様の内部にいるとき「何かの拍子に“イン卵様”が激しく揺れ」て、そのショックで顔に傷ができてしまった。「そんな傷は髙田総統のビターンによって完治できるけど、アタシは髙田総統の優しい心遣いを敢えて拒んだ。その代わり、アタシはモンスター軍が勝利するたびに顔の傷が癒えていくという、スペシャルなビターンを受けた」と告白。手塚治虫の名作妖怪マンガ『どろろ』を彷彿とさせるこの設定だが、つまりモンスター軍が勝つことで徐々にニューリン様の素顔が明らかになっていくということなのか？　すべての傷が癒えたとき、いったいどんな効果が生まれるのか？　まだまだ謎の生命体、ニューリン様の謎は尽きない……。

証言

SM界の〝女王様〟が語るニューリン様の魅力
——月花（つきか）

奇抜なボンテージ・コスチュームにムチでの攻撃。ニューリン様のモチーフの一つとして、現代的なSM女王様像が取り入れられているのは間違いない。そこで、今回はプロのSM女王様として、イベントやテレビなどで活躍する月花さんにニューリン様のビデオをご覧いただいて、SM女王様の専門家から見たニューリン様を語ってもらった。

私の日から見てもニューリン様ってかわいいし、姿勢やバランスも素晴らしい、あの雰囲気ならSM界でも絶対に通用すると思いますね。

女王様って、大きな傾向で言うと〝ロック系〟か〝エレガント系〟の二方向のどちらかなんです。伝統的なSMの女王様って、長い黒髪でお嬢様で、眼鏡が似合う女家庭教師みたいな優雅なイメージですよね。

でもここ10年くらいの新しいスタイルとして、タトゥーやピアッシングを取り入れたハードロック要素の入った〝ロック系〟の女王様が登場してきた。私もロック系のはしりなんですけど、ニューリン様は明らかにこのスタイルですね。

ロック系ってガラの悪いイメージもあるから、古いSMマニアからは賛否両論なんです。「女王様は知的な才女がやるもので不良女がやるものではない」っていう偏見がある。そういう意味で、ニューリン様のママのインリン様はゴージャスで、おしとやかだから〝エレガント系〟でしょうね。しゃべり方も大人っぽいですし。その反対にロック系の女王様に「オラオラ言われる」のが好きな人もいる。インリン様とニューリン様の親子でSMの両ベクトルを押さえてます。

女王に大事なのは「相手に致命傷を与えないで、いかにじわじわと痛めつけるか？」なんです。「相手が自分の足で帰れる余力を残したまま、どれだけ苦しめることができるか」。相手をどれだけ上手に追い詰められるか？　そこはニューリン様の試合とも共通点がありそうですし、そこにはプロの技量が必要なんです。

ニューリン様の試合はすでに完成されてますけど、さらにSMの動きを入れるとしたら「顔面騎乗」ですかね（笑）。快楽と苦痛の二重の意味がある、女王様の定番ポーズです。あと「引っ掻く」のもアリですね。肉体をつかむときに爪を立てるんですけど、引っ掻きフェチってけっこう多いんですよ。

動きの面で言うと、女王様はムチの〝柄〟の部分を効果的に使うんです。相手に屈辱を与えるために柄で顔の向きを変えたり。そういう細かいムチさばきも加えるとおもしろいかもしれない。

一時期、SMクラブが増えたんで、最近はアマチュアの女王様が多くて。本当のプロが少なくなった。だから、SMクラブに勤めてる女の子たちもニューリン様を見習ってもっと練習したほうがいい。実戦では素人さんを相手にするし、SMも「素人同士」が一番危ないですから（談）。

つきか■福岡県博多出身。SMパフォーマー。いて座のO型。93年より某SMクラブに所属。SMショーに出演。過激なパフォーマンスで知られる。SMクラブ引退後はバー『ナノハナ』を経営。

ュー戦までをPLAY BACK!!

様誕生の神秘

2006.01.30　モンゴリアンチョップXaaH渋谷店*記者会見**

生物学の定説を覆して急成長!!

初めてイン卵様を公開した高田総統。約1ヵ月で倍以上の大きさに成長していた。卵が大きくなることはないはずだが……奇跡だ!!

するとM字台の上には卵が!?　クールな“モンスターK”川田利明もこれには驚きを隠せない。

インリン様はイン卵様を高田総統に手渡す。「モンスター軍に祝福をもたらした」と総統は喜んだ。

2005.11.03　横浜アリーナ*ハッスル・マニア2005**

インリン様、姿を消す!!

インリン様は、この日がデビュー戦となったHGに69ドライバーでフォール負けを喫し、意識を失なったまま姿を消した。

2006.02.08　後楽園ホール*ハッスル・ハウスvol.11**

M字遺伝子は生きていた!?

島田二等兵とアン・ジョー司令長官が「イン卵様〜!」と呼びかけると、M字開脚する胎児の姿が殻の中から浮かび上がった。

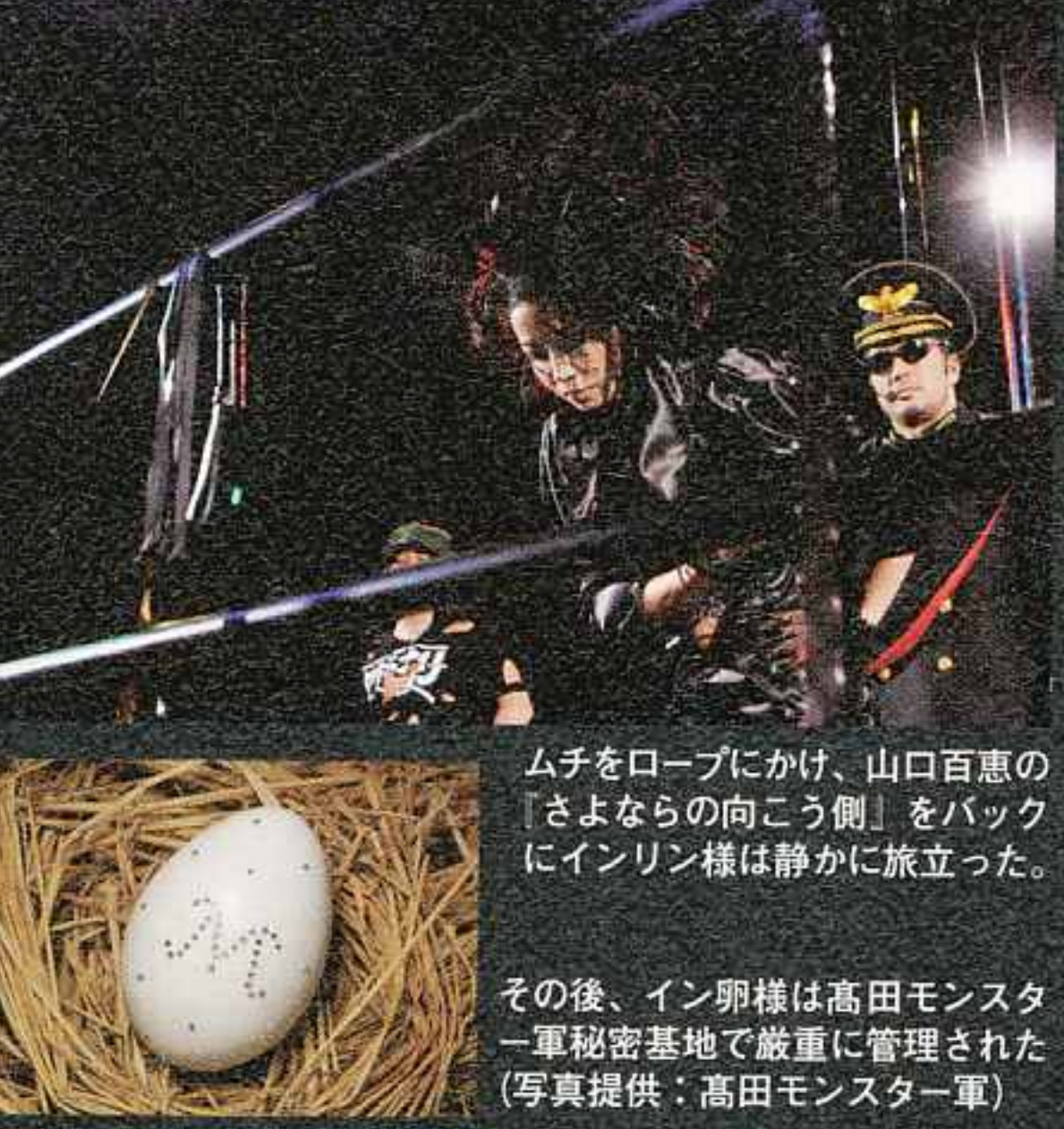
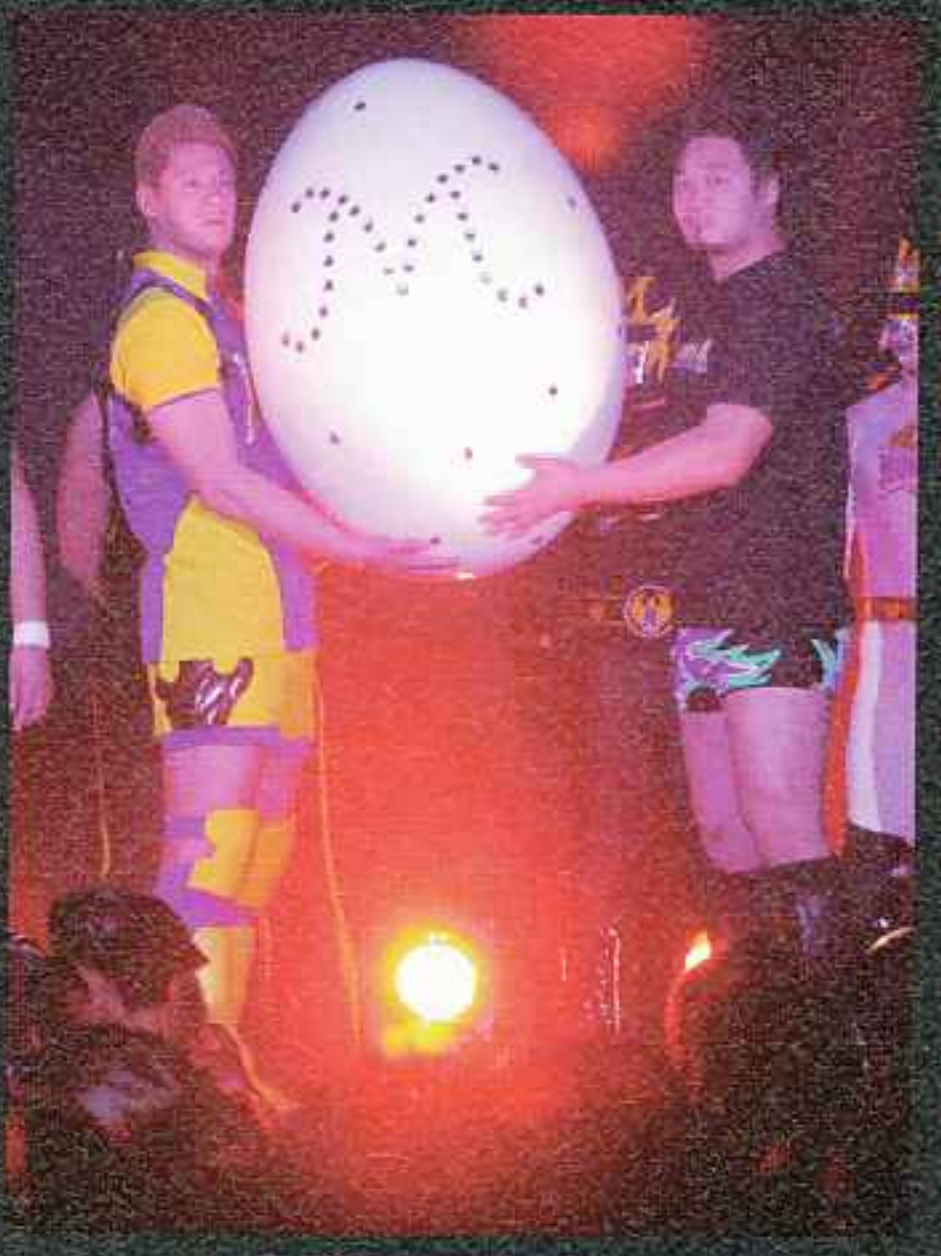
2005.12.25　後楽園ホール*ハッスル・ハウス クリスマススペシャル**

衝撃!!　イン卵様を産卵!!

「この世界で使えるM字パワーは底を尽きました」と喪服姿のインリン様は最後の力を振り絞ってM字ビターン!

2006.03.12　愛知県体育館*ハッスル15**

驚愕!!　2メートル以上に成長

高田総統は成長を続けるイン卵様を公開。4月20日『ハッスル16』でのイン卵様出撃を明言した。

ムチをロープにかけ、山口百恵の『さよならの向こう側』をバックにインリン様は静かに旅立った。

その後、イン卵様は高田モンスター軍秘密基地で厳重に管理された（写真提供：高田モンスター軍）

ニューリン様という奇跡の生命体を君はもう目撃したか？　デビュー戦でHGを破り衝撃を与えたニューリン様は、いままでのどんなタイプの女子プロレスラーとも芸能人レスラーとも違う。もはや女戦士とでも言うべき前代未聞の存在としてリングに降臨した。

そもそもイン卵様は、HGに敗れたインリン様が昨年12月25日の『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』で最後のM字パワーを振り絞って産み落としたものだ。

インリン様から忘れ形見を託された高田総統もイン卵様が徐々に成長を続ける過程を公開しながら、ハッスル軍にプレッシャーを与え続けた。イン卵様がM字遺伝子の結晶であると明かされたのは2月8日の『ハッスル・ハウス vol.11』のこと。なんと中の胎児がイン卵様の中でM字ビターンをするという驚異の映像が公開された。

その後もイン卵様は成長を続け、4月20日の『ハッスル16』（大阪府立体育会館）で行なわれる5vs5勝ち抜き戦の大将に任命されてしまう。最終的には約4ヵ月で20倍以上にもなるという奇跡的な急成長を遂げ、遂に運命の瞬間が訪れた。

『ハッスル16』のメインイベントの最中に高田総統のビターンを受け、轟音とともに炸裂したイン卵様の中から生まれてきたのがNEWインリン……略してニューリン様だった。黒い鳥の羽を身にまとい、翼のように両手を広げると勢いよく花道をダッシュしてリングイン!

イン卵様産卵から衝撃のデビュー戦

ニューリン様

2006.04.20 大阪府立体育会館***ハッスル16

イン卵を突き破り、ついにニューリン様、誕生!!

M十字固めは母親譲りのセクシーさ。股間のM字で鮮やかにヒジを極めて身動きを取れなくする。

登場したニューリン様が繰り出した鋭いミドルキック〜ハイキックに会場が大きくどよめいた。

ニューリン様の持っているムチは、インリン様のムチよりもパワーアップ!! 強烈だ。

さあイン卵よ目覚めるのだ

髙田総統がビジョンに登場するとイン卵様に語りかけてビターン! すると轟音が鳴り響く。

花道奥から登場したイン卵様に中から亀裂が入り、中からニューリン様が飛び出してくると場内はその瞬間、呆気にとられた。

HGがインリン様からフォールを奪った69ドライバーをニューリン様はカウント2でキックアウト!!

黒い羽根を身にまとったニューリン様はゆっくりと両手を広げ、ガウンを脱ぎ捨て猛ダッシュでリングイン!

勝利したニューリン様はロープに登ってアピール!! 凶暴な雄叫びを上げて勝利に酔いしれた。

ニューリン様はHGの腕を取ると脇固めへ。立ち上がったHGだったがニューリン様は卵マヒストラルで丸めて3カウント奪取。

ロープの反動で返ってきたHGを巻き投げ一閃!! そのまま腕を固める。プロレスの基本だが、まさかニューリン様がこれをやるとは……!!

そこでニューリン様の驚異的な能力が初公開されることになる。
切れ味鋭いミドルキック!
鮮やかな巻き投げ!
母親譲りのM十字固め!
凶暴なムチさばき!
生後5分にもかかわらず、プロレスの基本である「打・投・極」に加えラフ殺法までもマスターしていたのだ。HGからフォールを奪った見事な卵(ラン)マヒストラルは、ネグロ・カサスに勝るとも劣らない美しさ!! 母親のインリン様はムチを駆使してラフファイトを得意としていたが、ニューリン様はむしろプロレスの基本を披露しつつ、ラフもできるという柔軟性を兼ね備えているのだ。イン卵様の中がどんな空間だったのか我々には知ることはできないが、テキサス州アマリロや世田谷区野毛のような空間だったのではないかと推測される。

ニューリン様は発する言葉も進化を遂げていた。ひたすらギャル語か物騒な単語のみで会話するのだ。笑顔で、「コロス、コロス」とつぶやきながらHGを痛めつけていた姿は狂気としか言いようがない。この危なっかしさはモンスター軍随一だろう。

あらゆる面で凶暴化したニューリン様は、インリン様以上に厄介な相手としてハッスル軍の前に立ちはだかった。このまま無軌道な暴走を続けることになれば、ニューリン様一人にハッスル軍は壊滅させられてしまうかもしれない。M字遺伝子の進化は止まらない……。

男子&女子プロレスを知り尽くした職人が語る

ここが凄いよ！ニューリン様

from Yoji Anjo

観客との心理ゲームや絶妙な間、プロレスに必要な技術はすべて兼ね備えている、と言ってもいい男子&女子プロレスの職人（マスター）。それが安生洋二であり、アジャ・コングだ。この両雄のプロの視線から見た"脅威の新人"ニューリン様について「表現力の凄さ」や「魅力」を語り下ろす、直撃インタビュー2連発をお届け！

聞き手／真下義之
撮影／平工幸雄

ハッスルで絶賛活躍中のアン・ジョー司令長官と同一人物疑惑が囁かれてますけど、ミーは……いや、僕はあくまで別人のいちハッスルファン、安生洋二です。

ニューリン様の何が凄かったって、出だしのミドルキック！ あれで客の度肝を抜きましたよね。やっぱり、イリン様からニューリン様というキャラへスライドする一発目の技ですから、あのミドルは本当に重要だった。それが伸びのあるいいミドルで、お客さんも引き込まれてましたしね。そのあとのスムーズな腕取りやエルボーも凄かったし……。こんなの技を教えたからって、簡単にはできないですよ！

あとニューリン様がリングに上がると、華奢に見えないってのも凄い。肉体的にはスリムですけどリングでは女性的な弱さは感じないですから。普通に「技を食らったら倒れるんじゃないか」って説得力があったから。

練習量は想像するしかないけど、あの大舞台であそこまでできちゃう。それは彼女が持ってるポテンシャル自体が凄いんですよ。

だからいま「芸能人をリングに上げてどうのこうの」とか言われますけど、ただの芸能人をポッと連れてきてあそこまで光れるか？って言ったら絶対にできない。『ハッスル16』の大阪大会なんか、本当に立派なメインイベンターでしたよ。

僕もUWFインター時代に髙田延彦ってスターの神輿を担いだように、当時、僕の前にニューリン様がいたら「この人について行こう」と思ったと思いますよ。「ぜひピラミッドの頂点に立っていただきたい」と。で、俺はその下で支えようじゃないかって（笑）。もう、最初からスターとしての存在感ができ上がっちゃってる。それは普通のレスラーがやろうと思ったってできない。普通のレスラーは基礎体力や技の練習の積み重ねで「なんとか見れるようになる」もんですよ。でもニューリン様は、はじめから頂点にいる人が惜しみなく努力してる。そりゃ完成度が高いモノはできるよね。

ニューリン様の雰囲気作りとか表情ひとつとっても、プロレスの道場で一生懸命に新弟子育ててデビューさせて3年くらい経験積ませたって、同じことはできないですよ。でも、こればっかりはしょうがない。山本KID的に言えば「申～し訳ないけどモノが違う」って感じだよね（笑）。

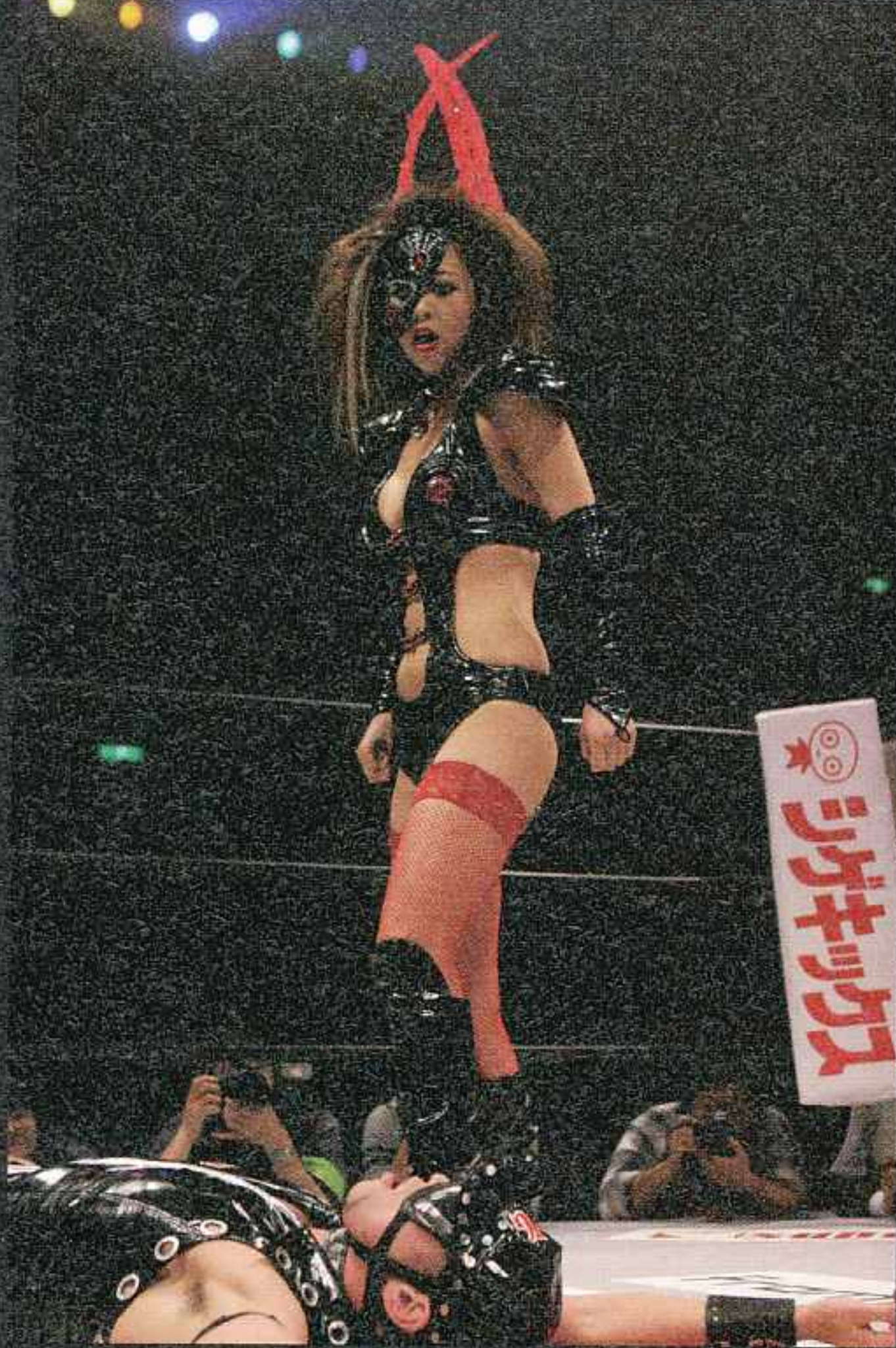
レスラーで一生懸命努力している人には申し訳ないんだけど、じゃあ「努力したからどうなるの？」ってことだよね。ニューリン様は、芸能人だから凄いんじゃないんですよ。もともとの人間力からして違うんですよ。そもそも"芸能人プロレス"って捉え方がおかしいよね。ニューリン様やHGはもう完全に"ハッスラー"ですから。芸能人との地点は超越してますよ。

ニューリン様は、申し訳ないけどモノが違う"芸能人プロレス"を超越した存在ですよ

大阪では吉本興業さんの試合もあったけど。あれは完全な吉本興業さんのプロデュースだし、あれこそ本当の意味の"芸能人プロレス"だよね。それをハッスラーと一緒にしないほうがいい。もちろん吉本さんの試合も大阪限定のスペシャルとしてはよかったと思うけど、メインの二人とどっちが印象に残ったかって言えば一目瞭然ですよね。

プロレスっていまは少し違うのかもしれないけど、10年、20年前のプロレスって過酷なトレーニングを課すから、才能はなくても根性さえあればデビューできる。でも根性だけでメインイベンターは作れないでしょ？

「ハッスルでは芸能人と試合を成立させてる職人レスラーの技量が凄い」って意見もあるけど、それは相手の輝きが凄いから反射的に成立できるんじゃないですかね。だって相手の輝きをより一層、輝かせるのがプロレスですから。よく「ホウキ相手でもプロレスができる」って言いますけど、そういう素人相手の"芸能人プロレス"と"ハッスラー"はもう分けてほしいですね。

ハッスル大阪大会の翌日に『東京スポーツ』の一面になったニューリン様の写真を見て「こりゃ、世間に届くな」って思いましたよ。だってニューリン様って「プロレス的に美しい」んじゃなくて、注釈がつかない美しさじゃないですか？ 一般の人、誰が見ても美しいし、もともとからして美しい人なわけだから（笑）。だからニューリン様には未知の可能性を感じますよね。

ただ僕も最初にインリン様がデビューするときにはレスラーとして「簡単なもんじゃねえよ」という気持ちもありましたね。HGでも和泉元彌さんでもデビューの話を聞くたびに「そりゃ難しいだろ」って思いましたよ。でもそれが短時間でできちゃう人間が世の中にはいるんだなって。試合を見てみて納得しましたからね。

プロレス業界も考えを変えざるを得ないターニングポイント。中でもハッスルはそろそろプロレスとは別ジャンルとして考えたほうがいいですよ。『PRIDE』もプロレスから派生した別ジャンルですし、ハッスルも別ジャンルになっていくんじゃないですかね。

今度はカイヤさんが上がりますけど、やるからには"芸能人プロレス"では終わってほしくないですね。ただ、いまのハッスルはハードル自体が上がってますから。ニューリン様なんか、半端じゃないですから（笑）。このあと、試合するのは大変かもしれないよね。

【5月3日、DSE事務所にて収録】

あんじょう・ようじ■1967年、東京生まれ。第一次UWFに入門した後は第二次UWF、UWFインターナショナル、キングダムと活動。ゴールデン・カップスを結成したあとは、エンタメ路線と格闘技の両輪で活躍。ハッスルで活躍中のアン・ジョー司令長官とはあくまで別人。

ハッスルで活躍中のEricaちゃんと同一人物疑惑が囁かれてますけどぉ〜、Ericaちゃんとはあくまで別人のハッスルファン、アジャ・コングです。

いや、ニューリン様の試合は私もかなり驚きましたね。でもなにより会場のお客さんが「これは凄い！」って興奮してたし、世間からも高い評価を得ている。そういうリアクションがすべてを表わしてると思いますよ。

ただ正直、イン卵様からニューリン様が出てきたとき、少しがっかりした人もいたと思うんです。「インリン様と全然、違う人が出てくるんじゃないか？」って想像してた人や「インリン様の焼き直しか？」って思った人もいたかもしれない。でも試合が終了した時点で、そんな空気はふっ飛んでたじゃないですか？　そういう状況を逆転させるのは一流のレスラーでもなかなかできることじゃない。そういう面でもニューリン様は凄かったと思いますね。

さかのぼるとハッスル以前にも、プロレスに芸能人は登場してますけど、タレントというワクを越境することはなかった。そのワクを踏み越えるのは、相当の努力と覚悟が必要ですからね。

ニューリン様のプロレスは基本に忠実、あれこそプロレスの原点かもしれない

ハッスルでは、まずインリン様が一番最初にそのボーダーを踏み越えたじゃないですか。今回のニューリン様もインリン様のDNAを継ぐ娘ですから、ことの重大さはわかってると思うし、一人の表現者として現時点で最高のパフォーマンスを見せてくれたと思います。

あるプロレス誌に「メインイベントにプロレスラーがいない驚き」なんて書いてましたけど、この人たちって、もうプロレスラーなんですよ。そりゃプロレス村から見たらプロレスラーとは言いづらいかもしれない。でも世間の人は「リングに上がってれば、プロレスラー」って感覚ですからね。

あとファンの中には今回のニューリン様の試合を「過去のプロレスの名勝負と置き換えたときにどうなんだ？」なんて言ってる人もいるみたいですけど、そういう試合と比べること自体が間違いでしょ？　あの場所、あの空間を支配しコントロールしたのは間違いなくニューリン様であり、HGだった。あの状況下でメインイベントとしての責任を果たして、お客を満足させたのは、まぎれもない事実ですからね。

プロレスって「喜怒哀楽を表現する」って部分で映画やドラマと共通項もあるけど、プロレスは四角いリングで闘いながら見せなきゃいけない。肉体で表現しなきゃいけない。いままでそれができるのはプロレスラー、つまり「選ばれた人間」だけだった。

でもニューリン様もHGも肉体だけで喜怒哀楽が表現できてますし、この前の試合ではとくに〝怒り〟が表現されてましたよね。まぁ、ニューリン様は「コロス！　コロス！」ってつぶやいてましたけど（笑）。言葉に頼ってるわけじゃないですからね。

ただプロレスを長年やってるレスラーでも、喜怒哀楽をちゃんと表現できない人はいるのに、ニューリン様たちにそういうことが可能なのは天性の才能はもちろん、やっぱり努力と集中力のたまものだと思いますし、もともとのポテンシャルが高いんでしょうね。

もちろんニューリン様の試合は、細かく見れば技術の荒さもあるかもしれない。でも技術なんていくらでも向上しますしね。それより大事なセンスを兼ね備えているし、これからもっと凄くなるじゃないですか。

それにニューリン様って身体は細いけど、試合では堂々としてるからあまり気にならないんです。昔で言うと、ジャガー横田選手なんかも細くて小さかったけど、何をされても壊れないような頑丈なイメージがあった。逆に言うと、ガタイばっかり良くてもしょぼくて弱そうに見えるレスラーもいますから。ニューリン様にも「小さく見せない」っていう強靭な意志を感じますし、そこは気迫でカバーできるんですよ。

それからニューリン様やHGの試合に関して〝間〟の凄みを感じるって人もいますけど、いまはハイスパートレスリング全盛時代だから逆に〝間〟を生かしたクラシカルな動きが新鮮に映るのかもしれない。でもじつはそれってプロレスの基本中の基本なんですよ。結局、ニューリン様もプロレスに関しては、新人さんなわけだし、危険な受け身を取るのは難しいから、試合ではレスリングの基本をやるしかないんですね。

だからニューリン様やHGのプロレスって、どの団体のレスラーより基本に忠実なのかもしれない。そういう意味ではじつはハッスルってプロレスの原点に立ち返ってるのかもしれない。

私から見て、いまのニューリン様に足りない部分ですか？　とくにはないんですけどインリン様と比べると非常に凶暴化してて、あそこまで口が悪いのはどうなの？　って。個人的にはあのシャベリ方はけっこうツボなんですけど（笑）。その一方で、私の好きなEricaちゃんは自分が世界で一番、かわいいと思ってるふてぶてしいキャラですから、暴走気味のニューリン様と絡んだらどんな展開になってしまうのか、対戦が楽しみですよ。

【5月6日、フジテレビにて収録】

from Aja Kong

■アジャ・コングはみだし情報

5月26日より、アジャ・コングがナビゲートする女子プロレス専門のインターネット番組『RADICAL BEAUTY』がスタート！　選手のデータベースはもちろん、業界初のマルチアングル中継も実現！

http://www.doing.tv/

アジャ・コング■1969年、東京生まれ。86年に全日本女子プロレスでデビュー。全女退団後は、フリーとして幅広く活躍中。得意技は、裏拳と垂直落下式ブレーンバスター。ハッスルで大活躍中のEricaさんとはあくまで別人。

なたのハッスル度別 観戦ガイド!!

ここから START!!

【右列】

どちらかというと高田統括本部長よりも高田総統のほうが好きだ
（YES↓ / NO←）

今年の大晦日には『PRIDE男祭り』よりむしろ『ハッスル・マニア』をやるべきだ
（YES↓ / NO←）

アン・ジョー司令長官と島田二等兵のマンザイはみんなが言うほど悪くない
（YES↓ / NO←）

これまで登場したご当地モンスターの名前を3人以上言える
（YES↓ / NO←）

『ハッスル8』でもらった観客ジャッジメントマッチのプレートがどうしても捨てられない
（YES↓ / NO←）

【中列】

正直、ニューリン様にだったらムチでしばかれてもいい
（YES↓ / NO←）

高田総統の店、『モンゴリアンチョップ』に一度は行ってみたい（もしくは行ったことがある）
（YES↓ / NO←）

川田は“デンジャラスK”だった頃より“モンスターK”のほうがいきいきしている
（YES↓ / NO←）

「わかるだろ?」「やりたまえ!」など高田総統口調をマネした経験がある
（YES↓ / NO←）

最近、『もののけ姫』のテーマを聞くとインリン様を思い出してしまう
（YES↓ / NO←）

【左列】

江頭2:50と大谷晋二郎はそれほど似ていないと思う
（YES↓ / NO↘）

昨年の『PRIDE男祭り』で吉田秀彦はハッスルポーズをしなくて正解だった
（YES↓ / NO↘）

空中元彌チョップには納得がいかない
（YES↓ / NO↘）

HGはプロレスよりバラエティ番組で観るほうが多い
（YES↓ / NO↘）

ジャイアント・シルバはPRIDEファイターだと思っていた
（YES↓ / NO↘）

HGやハッスルポーズはもちろん知っているけど君は未知のものへの「知的好奇心」が足りないようだ

ケツの青いビギナー

初級

［ハッスル度］0%～40%

『ハッスル・マニア』は観たけど、めちゃくちゃハッスルにハマってるわけではない。好きなものがいまいち見つけられない君は

単なるファン

中級

［ハッスル度］40%～70%

頭の中はいつもハッスル、ハッスル好きを通り越してハッスル中毒化している君こそ、どこに出しても恥ずかしくない

かなりのハッスル・マニア

上級

［ハッスル度］70%～200%

KYORAKU PRESENTS

6・17 ハッスル・エイド2006 ファイティング・オペラ 目前！ あなた

初級

まだハッスルを知らない
ケツの青いビギナー

ハッスル度 0%～40%

（恥ずかしがらずに）初めてのハッスルポーズ

君はケツの青すぎるハッスルビギナー。そんな若葉マークの君にもせめて会場で疎外感を感じないよう、大会を締めるハッスルポーズを伝授しておこう。いまの主流はHGバージョン。「3、2、1」の掛け声のあと「ハッスル、ハッスル」と恥ずかしがらずに腰を前後にシェイク！「フォー！」と両手を挙げ、足をクロスして絶叫すべし。さらに会場の一体感を感じたいなら、金村キンタロー入場時のブリブラダンスも参加可能。写真のように交互に手を組み替え、リズミカルにダンスしてみよう。

ここに注目!!

やっぱりカイヤ

ワイドショーで『ハッスル』を知った君には、やっぱりカイヤが最大の見どころだろう。必殺カイヤボンバーは空中元彌チョップを超えるのか？「セクシー系ダヨ」という当日のコスチュームの露出度は？ そして「大きい男とやりたい」というカイヤの相手はまさか……？

中級

ハッスルの流れは押さえている
単なるファン

ハッスル度 40%～70%

復習しよう！ストーリーの要注目ポイント

ハッスルの流れは追いつつも熱狂的信者とはいえない、いまいち煮え切らない淡白な君とポイントを復習しよう。まずは、試合には出てきてくれないものの、最近エスカレートする一方の高田総統劇場に注目したい。対するハッスル軍はHGはもちろん、小川が投入予告するニューリン様級のサプライズに期待大。またWWEで大舞台経験の豊富なTAJIRIの役所もキーポイントだろう。さらに坂田軍のマネージャー、青木裕子は水着待望論に答えを出すか？ 水着の季節はもうそこまで来ているぞ!!

ここに注目!!

HG×ニューリン様、ついに最終決着か？

メインストーリーを追うファンにとって、肝になるのはHGとニューリン様の決着戦。昨年の『ハッスル・マニア』でHGがママ、インリン様をフォールした経緯を考えると今回は娘、ニューリン様とHGの再激突は必至。この二人によってプロレスは新次元に突入する？

上級

ハッスルを知り尽くす
かなりのハッスル・マニア

ハッスル度 70%～200%

グッズ売り場にもサプライズ？会場すべてがエンタメ化

ハッスルを知り尽くすハッスル中毒者の君には何も言うことはない、ただ『ハッスル・エイド』までに体調を整え、睡眠をとり、当日に備えてほしい……。というのも昨年『ハッスル・マニア』では開場時のサプライズとして芸人の猫ひろしが登場！ 休憩時のグッズ売り場でRGと猫ひろしのステージが展開。今回は実施されるか不明だが、会場で何が起きても不思議はない。また昨年、異常人気となった和泉元彌Tシャツを超える？ カイヤTシャツも販売予定。マニアならぜひ押さえたい逸品だ。

ここに注目!!

大会の成否を握る？ RGMの前口上

大会欠席が問題中のRGMだが、マニアたちが気になるのはオープニングのマイク。『ハッスル16』大阪大会でも青息吐息状態。昨年の『ハッスル・マニア』では草間前GMがグダグダすぎてケチをつけただけに責任重大。ダメなら大ブーイングを浴びせよう!!

カイヤ、『ハッスル・エイド』参戦。

胸踊る、つーか胸が踊るようなニュースである。

1983年からファッションモデルとして世界中を魅了してきた173センチ、B96、W63、H88のダイナマイト・ボディがついにハッスルのリングに登場！　しかも噂じゃランジェリーマッチで拝めるかもしれないときたもんだコレ！　ハードゲイから怪人まで飛び出す無法の四角いリングで見せるのは、ダ、ダーン、ボヨヨン（←古い）と巨乳をたわわに揺らせる肉弾ファイトか？　はたまた昨年の雑誌『日経エンタテインメント！』の「嫌いな外国人タレントランキング」において、2位のデーブ・スペクターをダブルスコアで葬り去った天然ヒールなマイクパフォーマンスか？　北斗晶を凌駕する世界最恐の鬼嫁の登場は『ハッスル・エイド』にいかなるサプライズをもたらすのか。そこで今回はカイヤさんにまつわる様々な伝説を調査、検証してみることにした。

伝説1 驚愕！ 飛行機ストップ事件

トラックを持ち前の腕力で引っ張るレスラーは数多くあれど、カイヤさんは気合いで飛行機を止める。

夫である川崎麻世の著書『カイヤへ』（マガジンハウス）によると、それはモデル時代、香港への仕事で成田に行ったときのことだった。搭乗の最終アナウンスが流れるも豪快に無視するカイヤさん。心配する麻世。余裕の表情でサンドイッチを食べ続けるカイヤさん。おろおろする麻世。案の定、ゲートに着いたときにはすでに遅し。案内嬢、申し訳なさそうに「飛行機は行ってしまいました」とタイムアップを宣告。うなだれる麻世。しかし、もちろんこれで引き下がるカイヤさんではない。

「デモ、マダ飛ンデナイデショ！　ナントカナラナイノーッ!!」とテレビのときと同じ鬼の形相で抗議。涙目の案内嬢。逃げ出したい麻世。結局、クレームを通したカイヤさんは、すでに動き出した飛行機を追いかけるため、航空会社に車を出させ、離陸ポイントまで決死の追走。あまりにも強引に飛行機へと搭乗したのであった。

カイヤさん、まさにクレイジー・クレーマー。

嗚呼、人生波瀾万丈のインテリジェンスモンスター
検証 カイヤ最強伝説!!

文／佐藤譲

伝説2 麻世、大流血！ 戦慄の攻撃力とは？

同じく『カイヤへ』によれば、それは、一見、いつものように些細なことがきっかけで繰り広げられる川崎家名物の夫婦喧嘩、のはずであった。常に激しいバトルを繰り広げても、というかむしろ一方的にカイヤの攻撃をリック・フレアーばりの華麗なバンプで受け止め、顔に生傷を絶やさずとも、舞台稽古にはきっちり元気な姿を現わして練習に励む麻世だったが、この日はいつもとは違ったようである。

この日の麻世は疲労とストレスのため、両目の角膜が剥がれ、両目が動かない状態。このため鋭い動体視力で相手の攻撃を最小限にとどめる華麗なバンプは影を潜めていた。

そんな満身創痍の麻世に容赦なく襲いかかるカイヤさん。

"世界最恐の嫁"カイヤ、ハッスル参戦までの流れ

4月12日、6月17日の『ハッスル・エイド2006』でプロレスデビューが決定したカイヤが登場、「とにかく大きい男とやりたい!」と所信表明。試合では必殺技"カイヤボンバー"の爆発を予告した。

4月23日、『ハッスル・ハウスvol.14』後楽園大会でリング上から挨拶したカイヤ。リングで意気込みを語ってる最中に鈴木家が乱入！　キレたカイヤは見事な投げを浩子にお見舞いし、潜在能力の高さを披露。

『ハッスル・ハウスvol.14』大会後、取材を受けたカイヤは浩子のランジェリーマッチ要求を受けるも「あの女、ちっちゃいね!」と一蹴し、「大きな男と闘いたい」姿勢は崩さずに、ハッスル軍入りの可能性も示唆。

5月9日、神奈川・茅ヶ崎の小川道場で、カイヤが公開練習を行ない、正式にハッスル軍入りを表明。カイヤは大外刈りを改良した新技"STC"（スペース・トルネード・カイヤ）を披露！　デビュー戦へ自信を見せた。

そう、『カイヤの英会話 ハートでトーク』（KKベストセラーズ）によれば、彼女はゲルマン魂を燃やす誇り高きドイツ人の血と、アメリカ・インディアンであるスー族の血を引く気高き女性。つまりはアメリカ大陸を侵略した白人部隊、カスター将軍大隊をせん滅させ、白人を震え上がらせたシッティング＝ブルの意志をも継いでいるかもしれない、生まれもっての勇者なのだ。

そんなカイヤさんの猛攻に耐えていた麻世だが、彼女の繰り出した渾身の一撃に、麻世、ついに後頭部を強打し、破砕、顔中血だらけになりTKOの裁定。救急車で病院に運ばれながら薄れゆく意識の中で、麻世、「このまま、ぼくたちは一緒にいたら、どちらかが殺されてしまう」と思ったそうな。その攻撃が噂のカイヤボンバーだったのかは知る由もないが、カイヤの攻撃に相手レスラーは舌出して失神しないよう、細心の注意が必要だ。

伝説

3 24時間ドラマチック。不夜城エンターテイナー、カイヤ

〝ファイティング・オペラ〟を標榜するハッスルにはドラマチックなエンターテイナーが必要不可欠！

その点、24時間スーパーエンターテイナーであるカイヤさんは、まさにハッスルのために生まれてきた女神（ディーバ）といっても過言ではない。

そんなカイヤさんの人生はまさに波瀾万丈。

高校時代にスカウトされ、雑誌『ヴォーグ』や『コスモポリタン』などの表紙を飾る注目のモデルに。

モデル時代に麻世との子どもを妊娠。未婚のまま出産へ。

テレビに出演すれば、麻世の収入を追い越す活躍（一時期は一億円を稼いだとの噂も）。

麻世の浮気釈明会見に同伴。

インテリア・コーディネーター、衣装制作など、多彩な才能を活かしてショップ『caiya』を経営。

キレキャラと並行し、多彩な才能を見せつけるカイヤさん。しかし、極めつけのエピソードは、夫婦喧嘩に興奮し、家を出て車に乗り込んだ彼女を止めようと前に立ちはだかった麻世に、そのまま轢き逃げアタック！　命からがらボンネットに飛び乗ってかわした麻世に無常のハンドリング。麻世を地面に振り落とし右手に消えることのない傷を負わせたエピソードであろう。どんなハリウッド映画？

そんなブラウン管と日常をボーダレスにエンターテインするカイヤさん。果たしてハッスルは、彼女を飲み込むことができるのであろうか。

総括

カイヤさんは凄い！

さて、以上の伝説を元にカイヤさんを総括すると、彼女の鬼気迫る人物像が浮かび上がってくる。

どんなハプニングがあっても動じることのない強心臓。

日頃の稽古で体力には自信のあるはずの舞台俳優（しかも旦那）すらなぎ倒す野生動物のような冷酷かつワイルドなパワー。

トップモデルから恐妻、そしてプロレスへ挑戦する波瀾万丈な人生。

う〜む、まさに自らの運命に闘いを挑むインテリジェンス・モンスター、つまりは超獣じゃないですか！　そんなカイヤさんの傍若無人なパフォーマンスで『ハッスル・エイド』での爆発は必死。そして麻世の参戦はあるのか？　現在、女性芸能人の中ではブッチ切りのヒール街道を突っ走るカイヤさん、予測不可能な行動。豪快な愛のパワーが生み出す空前のカタストロフィー。美しき暴走機関車の一挙手一投足に刮目せよ！

（佐藤譲）

［カイヤのボクシングコーチ］

戸髙秀樹が語るカイヤの〝戦闘能力〟

カイヤさんが、ウチのジムには通い始めて、まだ実質5ヵ月くらいですけど凄い熱心ですよ。性格をひと言で言えば「負けず嫌い」。僕も優しい顔して練習では厳しいこと言いますけど。しっかり練習にくらいついてきますからね。

じつはカイヤさんの息子さんがウチの小中学生コースに通ってて。興味を持ったみたいですね。でも彼女は本当にモチベーションが高いですよ。だってほとんど毎日、練習に来てますからね。ロケとか仕事の都合で来れない場合以外はほとんど来てますね。その甲斐あって、ワンツーパンチも、ラッシュもできますしね。

練習後にストーブに向かって汗を出してましたけど、彼女は汗を全然かかないんです。モデルさんって常に「汗を出しちゃいけない」という意識が刷り込まれてるみたいで、だから、練習前に戸髙ジム特製の発汗クリーム『パスパ』を塗ってもらい、ストーブで無理矢理、汗を出してるんですよ。

彼女はミット打ちのときに、たまにミットなしで「殴ってみろ！」って言うと、本当に嬉しそうな顔をするんですよ（笑）。そこは本能なのかもしれないね。

今度、ハッスルのリングに上がりますけど、プロレスってそもそもパンチ出してもいいんでしたっけ。「反則は5秒以内」ならいいのか。じゃあ4秒以内の連続パンチを教えようかな？（笑）。とにかく彼女は気が強いし、タッパも普通の男性以上にあるから、ハッスルでも問題ないと思いますよ。（談）

戸髙秀樹ボクシングジム　STUDIO Bee
TEL:03-5731-9618
〒152-0035　東京都目黒区自由が丘1-17-17
FLEG自由が丘B1F
詳細はホームページ➡
http://www18.ocn.ne.jp/~studio8/　まで

速報

真昼の惨劇!! モンスター軍がカイヤの店と車を襲撃!!

締切間際にとんでもないニュースが飛び込んできた。なんと、あの髙田モンスター軍がハッスル軍入りを表明したカイヤの店を破壊、車を乗り逃げするという大事件が勃発!!

5月9日にハッスル軍入りを表明したカイヤは、髙田モンスター軍をことあるごとに罵倒。とくに〝全知全能〟髙田総統に対して一部スポーツ紙の取材に「あんなへんな格好でセンスないネ。それに何もしないヨ。本当は弱いんじゃない?」と挑発した。この挑発にモンスター軍は実力行使に出た。閑静な住宅街である自由が丘にあるカイヤの店にアン・ジョー司令長官とジャイアント・バボが侵入!! カイヤがいない隙に店長に暴行を働いてモンスター軍のステッカーを貼りまくり、ドアの前にモンスター軍旗を掲げて完全制圧。店の車も乗り逃げするという極悪非道な悪行三昧!!

もはやカイヤとモンスター軍の全面戦争は避けられない。この続報は携帯サイト『Kamipro Hand』で!

髙田モンスター軍がカイヤの店を乗っ取った!! ドアの前にでかでかと軍旗を掲げて満足げな司令長官とG・バボ!

白昼堂々、自由が丘の店を襲撃する実行部隊。不幸中の幸いか、カイヤは不在だった。

バボがショーウィンドウに立ち、自由が丘の道ゆく人にモンスター軍Tシャツをアピールした。

店長の腹にキックを一発!! うずくまったところにモンスター軍シールを貼りつけ、最後は首を絞めた。ひどすぎる!

最後はカイヤのロゴがびっしりと入った自動車を乗り逃げ、意気揚々と引き揚げていった。

【今後の大会スケジュール】

●KYORAKU PRESENTS『ハッスル・ハウス vol.15』
静岡県・アクトシティ浜松／6月10日(土) 開演19:00(開場18:00)
【チケット料金】ハッスルVIP【特典:ハッスルグッズ付】…12,000円／スタンドS…7,000円／スタンドA…5,000円／スタンドB…3,000円

●KYORAKU PRESENTS『ハッスル・ハウス vol.16』
東京・後楽園ホール／6月15日(木) 開演19:00(開場18:00)
【チケット料金】ハッスルVIP【特典:ハッスルグッズ付】…12,000円／スタンドS…7,000円／スタンドA…5,000円／スタンドB…3,000円

●KYORAKU PRESENTS『ハッスル・マニア2006』
さいたまスーパーアリーナ／6月17日(土) 開演18:00(開場16:30)
【チケット料金】ハッスルVIP【特典:ハッスルグッズ付】…20,000円／RRS…12,000円／スタンドS…8,000円／スタンドA…6,000円／スタンドB…4,000円

なんなら、俺がハッスルでプロレスを教えてやってもいいよ

武藤さん、HGやニューリン様ってどう思いますか？

“プロレスの達人の中の達人”

武藤敬司が語る

芸能人とプロレス

業界の中で誰よりも“プロレスLOVE”を持つ男であり、誰もが認める“プロレスの達人中の達人”である武藤敬司が現在、ハッスルをはじめとした“芸能人プロレス”の流行について、オレ流プロレス観を存分に語り、提言するインタビュー敢行！

聞き手／堀江ガンツ、坂井ノブ　構成／真下義之　写真／平工幸雄
designed by Tani-yan (Two Three)

プロレス界を代表するまごうことなき"プロレスの達人中の達人"武藤敬司。今年の『チャンピオン・カーニバル』でも自ら、30分ドローの試合を連発、全日本プロレスで特濃の王道プロレスを提供した。だが武藤は3月21日、全日本プロレス『ファン感謝デー』後楽園ホール大会において、神無月やイジリー岡田といったモノマネ芸人とリングで試合をする、という実験を行なっていた。"プロレスLOVE"を提唱する武藤にいま何が起こっているのか？ ハッスルをはじめ"芸能人プロレス"ばやりの昨今。武藤が改めてオレ流プロレス観を語る！

——武藤さん、お久しぶりです！ ウチが武藤さんを取材させていただくのはじつに10カ月ぶりなんですよ。

武藤 あ、そうなの？

——その間、誌名も『紙のプロレス』から『kamipro』に変わったりして。

武藤 へ〜、いつの間にか横文字になってたんだ。やっぱ、「プロレス」ってつくと、イメージ限定されるもんな。

——そうなんですよ。ひと言に「プロレス」と言っても、やたらと幅が広くなってるじゃないですか。たとえばハッスルのHGや和泉元彌さんを代表として「芸能人がプロレスのリングで試合をする」傾向が増えてますけど、そういった傾向を"プロレスの達人"武藤敬司はどう感じているのかっていうのが今日のテーマなんですよ。

神無月たちを上げることへの反対？ 社内は満場一致で賛成だったよ

武藤 ふ〜ん。まぁ……芸能人がプロレスするっていうのは、俺からしたら「いたしかたない」って感じかな。

——「いたしかたない」ってことは、つまり「本意ではない」って感じですか？

武藤 だって俺とかは、もうプロレス村に一生たずさわっていかなくちゃならないじゃない？ でも芸能の人って基本的に"通りすがり"だと思うからさ。彼らはパッと（プロレスに）来て、ダメならパッと引けるわけでしょ。

——「一時的な関わりなんじゃないか」という危惧はあるわけですね。

武藤 でも、いまプロレスって一般の目に触れる機会が少ないし、ある部分ではアングラな世界に入ってきちゃってるところもあるよな。だから集客を考えた場合の手段として「いたしかたない」って感じかな。

——長州小力によって、長州力を知る人がたくさんいたり、芸人のモノマネがプロレスに触れる窓口になるケースも出てきてますからね。全日本プロレスでも3月21日の『ファン感謝デー』後楽園ホール大会で、武藤さんのモノマネをするお笑い芸人の神奈月さんと武藤さんが組んで、三沢（光晴）さんのモノマネをするイジリー岡田さんと小島（聡）選手が組んで、試合をされましたけど、これはどういう狙いがあったんでしょう？

武藤 狙い？ いやいやそんなに構えて考えちゃいないよ。

——ちょっと「おもしろそうかな？」って興味ですか。

武藤 いやあの時期、全日本は東京で興行をやりすぎだな、って思ってたんだよ。3月10日に大田区体育館があって、その後の4月には『チャンピオン・カーニバル』が後楽園が2大会控えていた。その隙間の3月21日に後楽園がポッカリと両シリーズの隙間に入っちゃった。で、ストーリーラインから外れたこの大会を「どうしたらいいか？」って考えて出てきたアイデアだよな。

——でもお笑い芸人をリングに上げることに内部から反対はありませんでしたか？ 「プロレスを壊してしまう」可能性もあったと思うんですが。

武藤 ん〜〜〜〜。（とよく思い出そうとして）……ないねぇ。

——あ、なかったですか（笑）。

武藤 満場一致で賛成だったな。そこは、俺らの技量を信頼してもらってるからね。それに俺って"てめえのプロレス"にすげえ自信持ってるんですわ。だからバラエティ番組でイジられようが、ドラマで悪人役やろうが、最終的に"てめえのプロレス"を観てもらったら、すべて浄化させる自信はあるから。今回も神無月たちをリングに上げて、万一コケたとしても、自分のプロレスでもう一回ファンを取り戻す自信はあるからね。

——武藤さんは02年にゴールドバーグが全日本に登場する時期に「どうせなら、あゆ（浜崎あゆみ）をリングに上げたい」という発言もしていたと思うんですけど。

武藤 それも感覚は今回と一緒だよな。俺のことまったく知らない浜崎あゆみのファンが来ても、視線をこっちに向かせてやる、ってことだよ。まぁ今回は『ファン感謝デー』ということもあって、ファンに毛色の違った"応用編"を提供したかったんだよね。その"応用編"で自分も磨かれることもあるしさ。

——じゃあ武藤さん的には、曙さんと試合するのも、芸人と試合するのも並列のチャレンジなんですね。

これが全日本プロレスで行なわれた"芸人ミックスファイト"の一部始終だ！

全日本プロレス『ファン感謝デー』（後楽園ホール）

3・21

観衆1850人（満員）

武藤敬司&神無月 VS 小島聡&イジリー岡田

試合経過

イジリー岡田が三沢光晴のコスチュームで入場すると場内は大爆発。武藤敬司のテーマで（武藤の格好をした）神無月と本物の武藤が登場。WのプロレスLOVEポーズをキメる。

イジリーは三沢そっくりのステップから額をワイパー――。神無月もハゲ頭をなでる。神無月は小島にパンチを放つも微動だにせず。場外に逃走し、なぜかカツラとマフラーを装着し、俳優の萩原流行のモノマネ。さらにバットを持って新庄剛志選手（日本ハム）のモノマネのまま小島にバットでフルスイング――。

武藤はニセ三沢の前でエメラルド・フロウジョン敢行、イジリーもエルボー・スイシーダと見せかけ、ロープをまたいでエルボートロップ。小島と合体ブレーンバスターで武藤を投げたイジリーは腰を負傷。W武藤は、足4の字共演から神無月が和田レフェリーを踏み台にしてシャイニング・ウィザードで劇的勝利――

四者四様 試合後のコメント

●**イジリー岡田**「体育の成績はずっと1か2だったんですけど、憧れのプロレスのリングに立てて嬉しい。お客も入場から温かかったですし。いつドッキリって言われるか、ドキドキしてました（笑）」

●**神無月**「最初のイジリーさんとの絡みで頭が真っ白になっちゃった。一流のレスラーとタッグが組めて本当に夢の舞台。6年ぐらいモノマネやっていますけど、続けててよかった」

●**小島聡**「難しい課題の試合でした。試合前はナーバスになったけど、多くのファンに来ていただいて良かった。お祭り的にハジけたプロレスやりましたけど、たまにはこういうのもいいかな、って」

●**武藤敬司**「博打的な要素もあって、心配もあったけどファンに助けられたね。あと（イジリーと神無月が）モノマネというプロの技術を持ってて助けられた。次やったらもっと素晴らしいものができるんじゃない。地方で営業しようかな（笑）」

実験的な試合を終えてコメントを出した面々。左から小島聡、イジリー岡田、神無月、武藤敬司。

プロレスで「笑わせる」のは一番、楽な方法
泣かせたり、感動させるのは一段階上だよな

武藤　俺は「ホウキとだっていい試合ができる」ってずっと言ってるじゃん！　それを実証してるわけだよ。

――そんな武藤さんであれば、いま芸能人がたくさん上がってるハッスルでも揺るぎない武藤スタイルが出せる気がするんですけど。

武藤　う～ん。ちゃんと観たことねえけどさ、もしかするとハッスルの会場では俺らの技術や表現が伝わりにくいかもしれねえよな。だってさ、いくら俺のキャラが際立ってても、卵には勝てねぇよ！

――ガハハハハ！　さすがの武藤さんも卵と闘うのは難しいですか。

武藤　だって俺、普通の人間だもん。卵とレスラーはさすがに違うもんな（笑）。

――ま、卵は難しいとしても、ハッスルに上がってる芸能人たちとリングで相対する、ということに関してはいかがですか？

武藤　でもハッスルってプロレスとコンセプトは似てるかもしれないけど、ちょっと世界観が違う気もするんだよなぁ。

――いまのハッスルは「プロレスラーとタレントを表現者として同一線上で、区別しない」というスタイルで……。

武藤　（さえぎって）でも、それだとレスラーはかわいそうだよな。

――そこを同じレベルでとらえられるのは納得できないですか？

武藤　内部が実際どうなってるのか知らないから、あくまで想像なんだけどさ。組織がリング上を支配しすぎると、試合の自由度があまりに少なすぎて「レスラー冥利に尽きない」っていうか……。たとえば自分を売り込むときにさ、ハッスル側が「どこまで俺のことわかってくれるのかな？」って心配はあるよ。

――たとえばハッスルから「武藤さん、これとこれやってください」ってお願いされたものが、ピンと来なかったら「俺じゃなくてもいいんじゃねえか？」となる可能性はありますか。

武藤　まぁ、そういう危惧はあるよね。

――僕らが考える武藤敬司のプロレスって、何かお題があって、そこを武藤さんが「どう表現するんだろう？」っていう印象が強いんですよね。

武藤　俺の長所ってまさしくそこなんですよ。「東京ドームで5万人の客が観てる」とか「お客が100人しかいない」とか「お客との距離が全然ない」とかさ、ケースバイケースに臨機応変に対応できる、そういうアドリブだよな。まぁハッスルに関しては、あくまで印象論なんだけどさ。

――そのハッスルのエースである、HGの試合はご覧になったことはありますか？

武藤　トータルで観たことはないけど、ワイドショーではチラッと何度か観たよ。

――学生プロレスっていう下地はあるにせよ、ハッスルではHGが普通にメインイベントに登場してプロレスラーとして成立しちゃってるんですけども。

武藤　いや、でも噂に聞くとものすげー練習してるみたいじゃん？　プロレスラーでもほとんど練習しない奴もいるわけだからさ。彼は運動神経もいいみたいだし、なかなかいいんじゃないすか？

――そのHGだったり和泉元彌さんには、旧来のプロレスが持っていた〝呼吸〟や〝間合い〟が表現できてる、という評価もあるんですよ。いまのレスラーって技を連発する傾向が強いですし。

武藤　それはそうかもしれないよな。プロレスってけっしてハイスパートが一番偉いわけじゃないし。この世界に〝心に残らないハイスパート〟ほど、必要ないものはないしさ。

――ダハハハ！　心に残らないハイスパート！　たしかに激しいけどあまり印象に残らない試合ってありますね。

武藤　そういう意味では、いまのハッスルからはある種の〝熱〟は伝わってくるよな。卵とか、一見バカげたことやってるように見えても、それを大の大人が一生懸命やってれば観客にはいいものに映るハズだし。一生懸命やってるものって、簡単に茶化すことはできないもんな。

――たとえ卵がテーマでも、真摯にとりくんでる姿勢は観客に伝わりますからね。

武藤　そういう意味で言えばさぁ。俺も『WRESTLE-1』で関わっちまったけど……格闘家ってホンット、プロレスを一生懸命にやらねえんだよな！

――ガハハハハ！　やりませんか（笑）。

武藤　やらないね～。どっかで「こんなもんだろう」って小バカにしてる。ああいう態度はすげーよくねえよ！

――マーク・コールマンとか曙さんなんかはかなり真剣に取り組んでますけど、なかにはアルバイト感覚の方も多いですからね。

武藤　そういう格闘家こそ、〝通りすがり〟なんだよな！　長いスパンで「プロレスの住人になってやる」って人は本当に少ないもんな。

――話を戻すと、プロレスのリングに芸能人が上がる、ってことは、そこに関わる本物のプロレスラーの技量がなおさら必要になってきますよね。

武藤　そりゃそうだよ。素人だけだったら絶対に成立しないよ。

――ハッスルの試合も裏でキーになってるのは川田（利明）さんやアン・ジョー司令長官、TAJIRIさんやEricaさんといったベテランがいて、あの世界が成り立ってるという感じなんですね。その一方、先日の『ハッスル16』大阪大会では吉本興業のタレントさんだけで試合を組んだんですよ。まぁ試合というかネタの応酬なんですけど。でもそれをプロレスのリングでやると……。

武藤　あんまり、おもしろくないだろ？

――会場はそこそこ盛り上がったみたいですけど、やっぱりHGみたいにプロレスの試合として成立させているほうが、受けるんですよね。

武藤　これは現場レベルの話だけどさ。ぶっちゃけ〝笑い〟ってのは一番楽な方法だからな。レスラーがコケりゃあ、客は笑うわけだからさ。泣かせたり、感動させたりというのはもう一段階レベルが上だからな。

――それこそ一流のレスラーは肉体だけで喜怒哀楽を表現できるわけですからね。

武藤　うん、俺がレスラーを育てるなら、泣かせたり、感動させられる側で育てたいよな。だからいずれはハッスルも絶対、そっち側に行くと思うよ。まぁそういうときが来たら、俺が教えてやったっていいしさ（笑）。

――武藤敬司自ら〝プロレスLOVE〟の秘伝を教えていただけると。

武藤　そういうこと教えられる人って少ないからさ。いまのハッスルもたしかにプロはいるけど。俺だって教えられるよ！

――だから、ハッスルこそ、本当に〝できる〟プロレスラーが必要だったりするんですよね。

武藤　ただハッスルってさ、意外とアウトロー系のレスラーが多いじゃん？

（笑）

――ガハハハハ！　いまはまとまりがありますけれど、初期ハッスルは本当にフリー選手の寄せ集めって感じでし

ハッスルもいいけど、個人的にはセピア色のプロレスも好きなんだよな

たからね。

武藤　基本的にアウトロー系って自分のこと中心だからな。でも、最近のハッスルはチームワークよさそうに見えるよね。だからいいイベントに見えるんだと思うし、やっぱりプロレスで一番大事なのはチームワークだからさ。

——全日本プロレスもチームワークはよさそうですしね。やっぱり、そこが新日本プロレスには足りないんですかねぇ（笑）。

武藤　新日本は最近、観てねえから、わかんねえけどな。

——じつはその新日本プロレスもエンターテインメント系の『レッスルランド』という新ブランドを立ち上げるんですけど。

武藤　（真顔でボソッと）あんまりさ、安易に動かないほうがいいよ……。

——ガハハハハ！　選手が大量離脱して以降、路線が定まらずにバタバタしてる印象はありますよね。

武藤　プロレスって基本は〝なんでもあり〟だけどさ、全日本のファンは武藤敬司のバイブル（聖書）に共感して会場に来てくれてると思う。それはハッスルにもNOAHにもあるんだろうけど。バイブルはあまり歪ませないほうがいいよな。

——新日本のバイブルを読んでるファンが本当に『レッスルランド』を求めてるのか？ってことですよね。

武藤　俺も新日本に20年近くいたけど、最後までどういうバイブルかわかんなかったからな（笑）。

——ガハハハハ！　まぁそもそも神様が猪木さんですからね。そりゃバイブルもコロコロ変わるだろうって（笑）。

武藤　バイブルの書き換えが多すぎるんだよ！

——ダハハハ！　猪木さんといえば、00年に『第2回メモリアル力道山』で猪木さんとジャニーズのタッキー（滝沢秀明）がエキジビションで試合したんですけど。ここで猪木さんがタッキー相手に普段と変わりない試合をしちゃって、これを見た前田日明さんが「プロレスが誰でもできるものに見えてしまう」と言って、怒ったんですよ。

武藤　いまだったら、大丈夫なんだろけどな。

——当時は「選ばれしものしかできない」ものだったプロレスが、神様である、猪木さん自ら素人相手に成立させてしまった。ナックルパートに行こうとするとレフェリーの藤原（喜明）さんが止めたりとかエクスキューズはあったんですけど。本気でアリキックは行ってましたしね。あの試合も「プロレスの地盤を崩しちゃった」感じはありますよね。

武藤　まぁ……しょうがねえよな。それはもう過去のことだし、消すわけいかないわけだから。それより「ここからどうしていったらいいか？」を考えていったほうがいいよな。

——そういえば新日本を退社した田中（秀和）リングアナが、武藤さんが神無月さんたちをリングに上げたことに関して「ムトちゃん、本当にそれでいいのかな？」って発言されてるんですよ。

武藤　あ、ホント？　ケロちゃん、そんなこと言ってたの？

——田中さんとしたらさっきの猪木さんとタッキーの試合を見た前田さんみたいに「いままで積み上げたプロレスはどうなっちゃうの」という懸念があったんじゃないかと。

武藤　でもそういうイメージって、もう崩れてるしなあ……。だからウチはまたやる。また神奈月を上げるよ！　それがなぜできるかっていったら、ウチは本道の『チャンピオン・カーニバル』で濃厚なプロレスを観せたって自信があるからさ。

——そこを押さえているからこそ、できることですよね。『チャンピオン・カーニバル』決勝の代々木大会は本当に盛り上がってましたし。

武藤　うん、みんなクオリティ高い試合やってたよな。それに、ぶっちゃけ太陽ケアが優勝することで、あそこまで盛り上がるとは思わなかったよな。だからハッスルのストーリーラインをどのくらいの期間で作ってるのかわからないけど、何年もかけた自然なストーリーってのは強いなぁ、って改めて思ったよね。

——そこは全日本が信じたスタイルとストーリーで、ファンに信頼を得てきたからこそなんでしょうね。

武藤　だから、そのリングの真ん中にレスラーがいなかったらさびしいよな。レスラーもやっぱり〝生きてる証〟がほしいわけであって、そこの部分がハッスルには薄いような気もするんだよね。それにハッスルみたいな新興勢力の登場で、はたして「俺たちの感性でいいのか？」「もう古くてダメなのか？」って危機感もあるし、同時に「このスタイルのプロレスを伝えていかないと」って義務感もあるよな。

——そこは武藤さんが守っていきたい部分なんですね。

武藤　でもハッスルも、このままスンナリはいかないだろ。いずれ飽きられる可能性もあるし、やっぱりこの人たち（HGやニューリン様）がいくら努力しても、プロレスで表現できるワクは狭いと思うよ。俺たちは何があっても、いろんな状況に対応できるわけだから。まぁ、この人たちのプロレスは、その必要はないのかもしれねえけど。

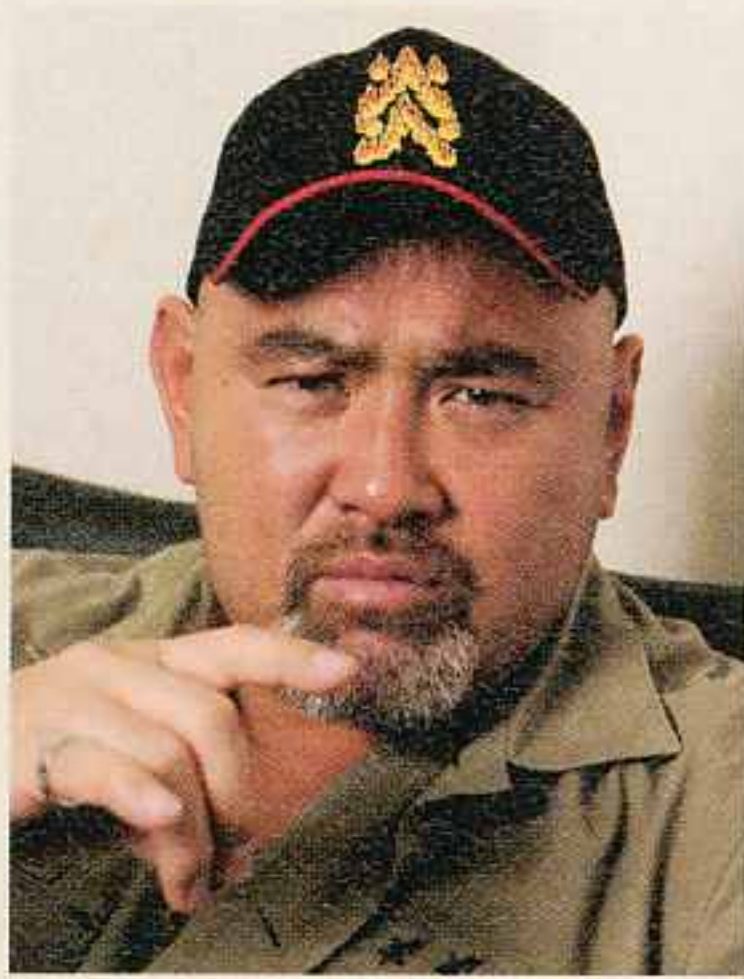
——たしかに、HGやニューリン様のプロレスは大会場が中心ですからね。

武藤　素晴らしい演出とともにイベント的にやってる、それはそれでいいんだけどさ。でも個人的にはもっとセピア色に映るようなプロレスも好きだったりするんだよな（笑）。実際、今回の『チャンピオン・カーニバル』で30分ドローの試合を3回もやったけどさ、そういう試合はハッスルではもたないだろうし。ハッスルの空間で「30分やれ」って言われたら、すげー苦しいと思うよ。

——でも、そういうことのできるプロレスラーを育てることは今後、大事になってくるかもしれないですね。

武藤　うん。ハッスルもいずれは30分ドローができるレスラーを育てなきゃいけないだろうしさ。そういうプロレス界の伝統的な文化がなくなるのは困るよね。俺らは20年以上、プロレスに関わってきてるし。この20年は誰にも消すこともできなけりゃあ、やっぱりこれが崩れるような人生は送りたくないよな。

——わかりました！　今後も武藤敬司のばく進に期待しています。今日は長いあいだ、ありがとうございました。

【5月1日、全日本プロレス事務所にて収録】

むとう・けいじ
1962年、山梨県出身。84年に新日本プロレス入門、同年10月、越谷市体育館の蝶野正洋戦でデビュー。02年に新日本プロレス離脱。全日本プロレス入団。02年に全日本プロレス社長に就任し、クオリティにこだわるパッケージプロレスを展開。〝プロレスLOVE〟を標榜するプロレスの達人。

バスローブにランジェリー姿
コイツはいったい何者なんだ!?

噂の変態レスラーに職務質問!!

ランジェリー武藤

武藤敬司とおぼしきポーズ、過剰にヒザを痛がるムーブ。
イヤでも観た者の記憶に残らざるを得ないブラジャー姿。
……だが、その素顔はバチバチファイター？
インディーマットを騒がせている噂の変態レスラーを捕獲！
いいかぁ、(ランジェリーを)よぉ～く見てろぉ、プロレスは死なない！

聞き手／ささきぃ＆堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　designed by Tani-yan（Two Three）

8冠王時代の武藤さんと街角の変質者が"ランジェリー"のモチーフです

君はランジェリー武藤を知っているか?

　名前とそのハゲヅラからして、どうも武藤敬司をオマージュしていることは感じられるものの、気になるのはその下着姿。試合スタイルも武藤敬司的でありつつ、過剰にヒザを痛がるそのファイト。

　いわゆる"どインディー"のリングで暗躍していた男が、なぜかZERO1・MAXに定期参戦し始め、地方大会を中心に会場を微妙な笑いで包み、後楽園進出、そしてなんと靖国神社で行なわれた"奉納プロレス"参戦! 日本国民は、靖国神社の歴史に「ランジェリー武藤」の文字が刻みつけられたことを受け入れるはめになってしまった。

　ランジェリー武藤とはいったい何者なのか?

　じつはこの男には、もう一つの顔がある。というか、こっちが素顔なのだが、格闘探偵団バトラーツ所属の澤宗紀(さわ・むねのり)がその正体なのだ。

　澤は、バチバチファイトを継承する男としてバトラーツ他、ビッグマウスラウド、ZERO1・MAXにも参戦。時にはブラジャーを着けて闘い、時にはバチバチファイトを展開。この男は、いったい何を考えているのか? そして、ランジェリー武藤とはいったいなんなのか?

―いや〜、見事な変態ぶりですねぇ!

L・武藤 ありがとうございます!

―いや、べつに褒めてないんですけど……(笑)。

L・武藤 自分にとって「変態」は褒め言葉ですから。

―そうですか(笑)。では、今日はその変態の素顔をうかがっていきたいんですけど、そもそもランジェリー武藤はどういうところから生まれたんですか?

L・武藤 これはですね、8冠王者時代の武藤さんの入場シーンからきてるんですよ。

―なぜ8冠王がランジェリーに(笑)。

L・武藤 あの頃、武藤さんは身体にベルトをいっぱい巻いて、その上からロングガウンを着て、入場の途中でガウンの前をバッと開いてベルトを見せつけてたじゃないですか。僕にはあれが街角で女の子に突然チ○ポを見せつける変質者に見えたんですよ。

―ガハハハ! 武藤敬司が変質者に見えた!

L・武藤 そこからインスパイアされて、最初はそれこそガウンを開いたら何も着てないという「ネイキッド武藤」でいこうと思ったんですけど、さすがにそれはヤバいかな、と。

―それは犯罪ですからね(笑)。

L・武藤 じゃあ、オムツを穿いて「パンパース武藤」にしようと思ったんですけど、ちょっと照れが入ってランジェリー武藤になりましたね。

―照れる方向が明らかに間違っていると思いますけど(笑)。ランジェリー武藤の初登場はいつだったんですか?

L・武藤 3年くらい前、柏の農協で成田りえっていう演歌歌手のコンサートをやって、その前座で登場したのが初めてですね。べつに試合したわけじゃなくて、ただ暴れるだけのパフォーマンスだったんですけど。

―当時は何をされていたころですか?

L・武藤 まだ学生で、ちょこちょこっとインディー団体には上がり始めてました。ランジェリー武藤として試合をやり始めたのは、もうつぶれちゃったんですけど、新狭山にあるプロレスパブで、毎週金曜になると、マットの上で1、2試合やってるんですよ。リングもない小さい店で。1試合2000円でやってたんで交通費で全部消えてましたね。

―ランジェリー武藤はショーパブ出身レスラーでしたか。そこに出てた人でいまプロレスやってる人はいるんですか?

L・武藤 バンジー高田という人がいて、彼がメインエベンターでした。

―名前はおうかがいしたことありますね(笑)。先ほど変質者に見えたという話がありましたけど、もともと武藤敬司さんのことはお好きだったんですか?

L・武藤 そうですね。髪の毛がなくなってから、より好きになりました。

―プロレス自体はいつごろから好きだったんですか?

L・武藤 そんなに昔じゃないんですけど、中学校3年生くらいですね。もともと僕、ジャッキー・チェンが大好きで、小学校の頃からずっと教科書代わりにジャッキー・チェンの映画を観てたんですよ。

―教科書代わりに(笑)。

L・武藤 で、中学校3年生のとき、深夜にたまたまテレビを観ていたらプロレスやってて、サブゥーが出てたんですよ。そしたら、サブゥーが机の上にダイブとかするんですけど、どう見ても自分のほうが痛そうなんですよ(笑)。なんかこれは、ジャッキー・チェンに通じるものがあるな、と。

―ジャッキーのNG集とかは、確かに少し通じるものを感じますね(笑)。

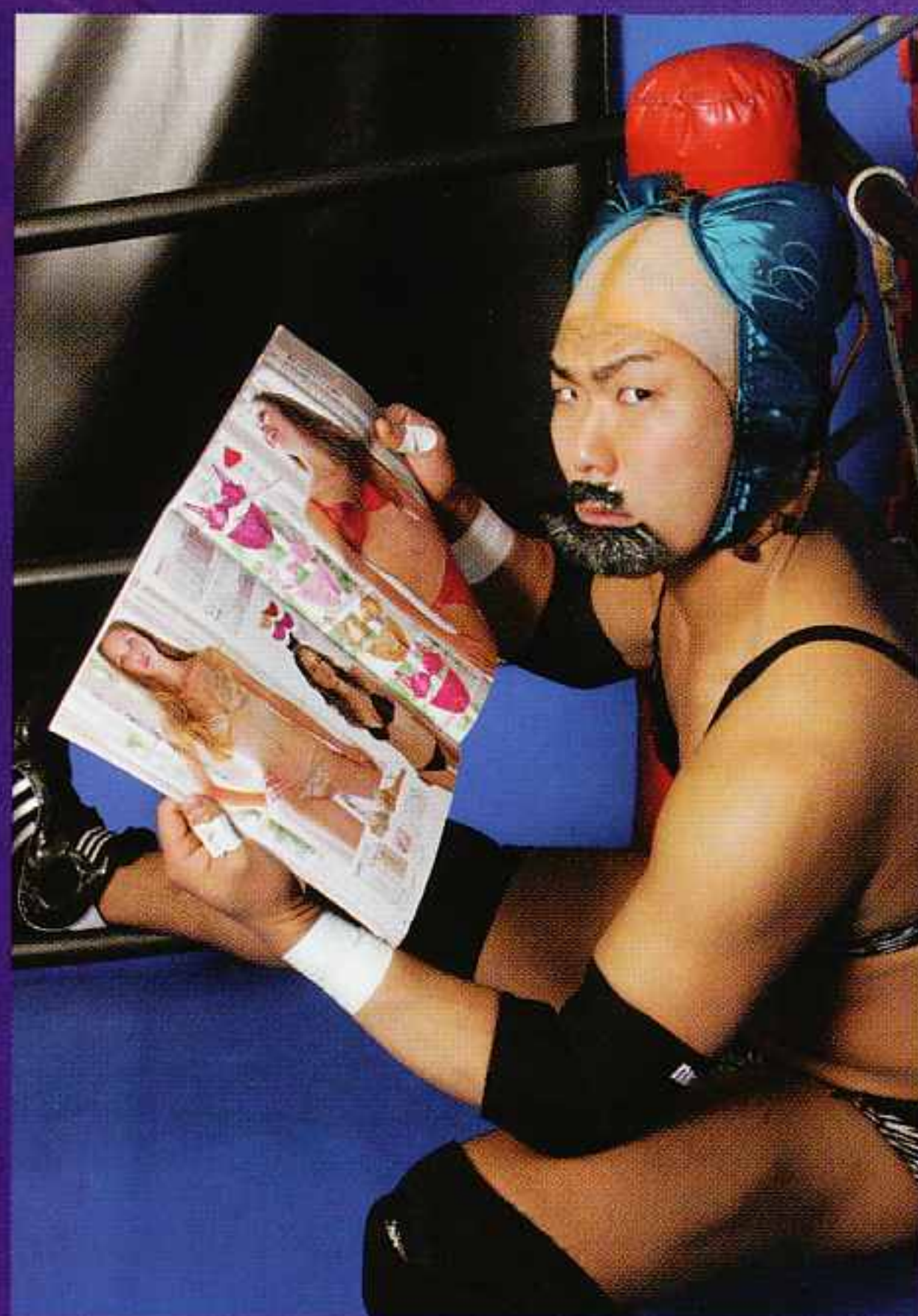
L・武藤 で、高校に入ってプロレス好きな友だちといっしょにレスリング部に入って。一番最初に観に行ったのが、(96年)10・9ドームの新日本vsUインターですね。そこでは武藤さんというより、UWFが好きになったんですけど。

―選手としてこの世界に入るきっかけはバトラーツですか?

L・武藤 高校を卒業して、アマチュアバトラーツのグラップリング大会に出たんです。そこでベストファイター賞っていうのをいただいて、調子に乗っちゃいましたね。

―アマチュアバトラーツはけっこう、いろんな人材が出ているみたいですね。

L・武藤 そうですね。所英男さんがいたりしたみたいですね。社長と岡本魂さんという方がいたんですけど、あのお二人に教えていただきました。岡本さんが怪我をされて、フェードアウトしたあとは、スネークピット・ジャパンに行ったんです。

―バトラーツからスネークピットというのも素晴らしいですね(笑)。

この男たちがいる限り
プロレスは死なない!?

kamipro 秘宝館

インディー界の夢対決が実現!?　（もちろん合成）ランジェリー武藤と、素顔の澤宗紀がバトラーツジムで対峙！　澤宗紀の脳内では、常にこの二人による出場オファー回数の争いが行なわれている。

スネークピットといえば宮戸（優光）さんですけど。

L・武藤　宮戸さんはおもしろかったですねぇ。僕がジムのトイレでウンコしてて、紙がなくなったんですよ。そんで「宮戸さん、紙がなくなりました！」って言ったら「他人んちでウンコすんじゃねぇ！」って怒られて。他人んちって、ここ、ジムじゃねぇのかよって（笑）。

――ダハハハ！　宮戸さんらしいですね。スネークピットといえば、ジム生が「プロになりたい」って口にした瞬間から、Uインター新弟子並みの厳しすぎる練習を強いられるって聞きましたけど。

L・武藤　そうなんですよ！「プロになりたい」って言ったその日から、凄い練習やらされて、一般ジム生なのに夜逃げした人を見てますからね（笑）。だから自分は決して口には出さなかったです！

――あくまで単なる趣味のふりをしてましたか（笑）。

L・武藤　だって一回、シュートボクシングの試合で負けた人がいて、帰ってきたらスクワット3000回やらされてましたからね。

――試合後にスクワット3000回！

L・武藤　僕もコンバット・レスリングに出たりしてたんで、試合に出る人用のメニューはやってましたけど、他の人には「おい、スクワット〇百回やれ！」って言うんですけど、僕には「澤、おまえ10回でいいからちゃんとやれ」って。

――ダメな子扱いですね（笑）。ちなみに、宮戸さんはランジェリー武藤のことは……。

L・武藤　知ったら激怒するんじゃないですかね。考えただけで恐ろしいです。たぶん一番嫌うはずですから。スネークピット辞めたあと、宮戸さんに道でばったり会ったときにも「おまえ、いま何やってるんだ？」って聞かれて「え〜っと、プロレス……みたいなことです」って言ったら「そんなのプロレスじゃねぇよ！」って怒鳴られて。

――さすが宮戸さん、路上で会ったりしたときにも容赦なく怒鳴るんですね（笑）。

L・武藤　前にDEEPのフューチャーファイトに出るとき、練習させてもらおうと思って道場に行ったら「勝手に入ってくるんじゃねぇ！」って怒られて。

――プロレスの道場の敷居は高いですからね（笑）。

L・武藤　で、その日は見学だけして「失礼します！」って言ったら「おう、いつでも遊びに来いよ！」って。だからいま来てたのに！　って（笑）。

――ちなみに、その後素顔でどんなリングに上がったんでしょうか？

L・武藤　総合の試合としてキングダムに出たり、J－DOに出たりしてました。プロレスでは「r」に出て、アジアンスポーツに出て。

――しかし見事な〝どインディー〟っぷりですよね。

L・武藤　その通りですね（笑）。

――そこからバトラーツに戻ってきたのはどんなきっかけなんですか？

L・武藤　「r」とか、アジアンスポーツとか、ほかのインディーとかでプロレスをやっていくうちに、一番最初に（石川雄規）社長から教わったレスリングとは、まったく違う競技をやっている感じがしてきたんですよ。

――そりゃそうでしょうね（笑）。

L・武藤　でも、僕の基本は最初に社長から教えてもらった、そっち（レスリング）なんで。悩んでた時期があったんですよ。

――気づくのが少し遅かった気もしますけど（笑）。

L・武藤　そう、遅いんですけどね（笑）。で、行き詰まってたんで、思いきって社長の携帯に電話してみたんですよ。そしたら4、5年経ってたのに僕のことを覚えてくれてて。「もう一回、教わりたいんです」ってお願いしたんです。

――社長はどんな反応だったんですか？

L・武藤　最初に電話したとき、宮戸さんに言ったように「プロレスみたいなことをしてます」って言ったら「あぁ、そうなの」って知らないふりをしてたんですけど、社長は全部知ってたみたいなんですよ。一対一でスパーリングをしてくださって、そのあと「おまえ、ちゃんとウチに来てやり直さないか」って言われて、「お願いします」って言いました。

――なるほど！　……と、ここまでの「澤宗紀」物語は非常に納得い

ランジェリーは武藤さんが好きそうなものを勝手に妄想して選んでます!

くんですけど、なぜもう一度ランジェリーになったんですか?

L・武藤 それも社長の教えで（笑）。「どんどんやってこい」って言うんですよ。

―一時はランジェリー武藤を封印したがっていたように見えたんですけど、そのあたりはどうなんですか?

L・武藤 いまも、回数は増やしたくないんですよね。素顔の合間合間に入れるのはいいんですけど、本業は「澤宗紀」なんで。両方の欲求をうまく満たしたいんですよね。ただ、なぜかランジェリーのほうがオファーが多くて（苦笑）。

―まぁ、この取材もランジェリーなんですけどね（笑）。

L・武藤 そうなんですけどね（笑）。まぁ、素顔の澤宗紀のほうもシリアスなことばっかりやってるのかと言ったら違うんですけどね。なんと言っても澤宗紀としての初勝利の相手が、スーパーうんこマンですから（笑）。

―スーパーうんこマン！　そんな小学生が付けたような名前のレスラーがいるんですか?

L・武藤 いるんですよ。FWFっていう団体なんですけど、手強かったですね。なんとか4分で「トイレに流して」勝ちました。

―それ決まり手が「トイレに流して」なんですか?

L・武藤 そうです。強敵でした。

―そうですか（笑）。ランジェリー武藤さんとしては、着用してる下着とかもこだわりがあるんですか?

L・武藤 もちろんですね。「たぶん、武藤さんはこういうランジェリーが好きだろうな」って俺の妄想で選んでます。

―なんか通販で有名な「PJ」のランジェリーしか着けないって聞きましたけど、これは通販で購入してるんですか?

L・武藤 いや、通販だとわからないですから、自分で店に行きます。やっぱり伸縮性が大事なんですよ。サイズが小さくても伸縮性があれば入るんで。実際に手にとって「あぁ、これなら入るな」って買ってます。

―周りの店員さんはどんな目で見てるんですか?

L・武藤 白い目で見てますね。

―そうでしょうね（笑）。ちなみに、親御さんは現在のお姿はご存じなんでしょうか?

L・武藤 まぁ、うちの親父も変態なんで。

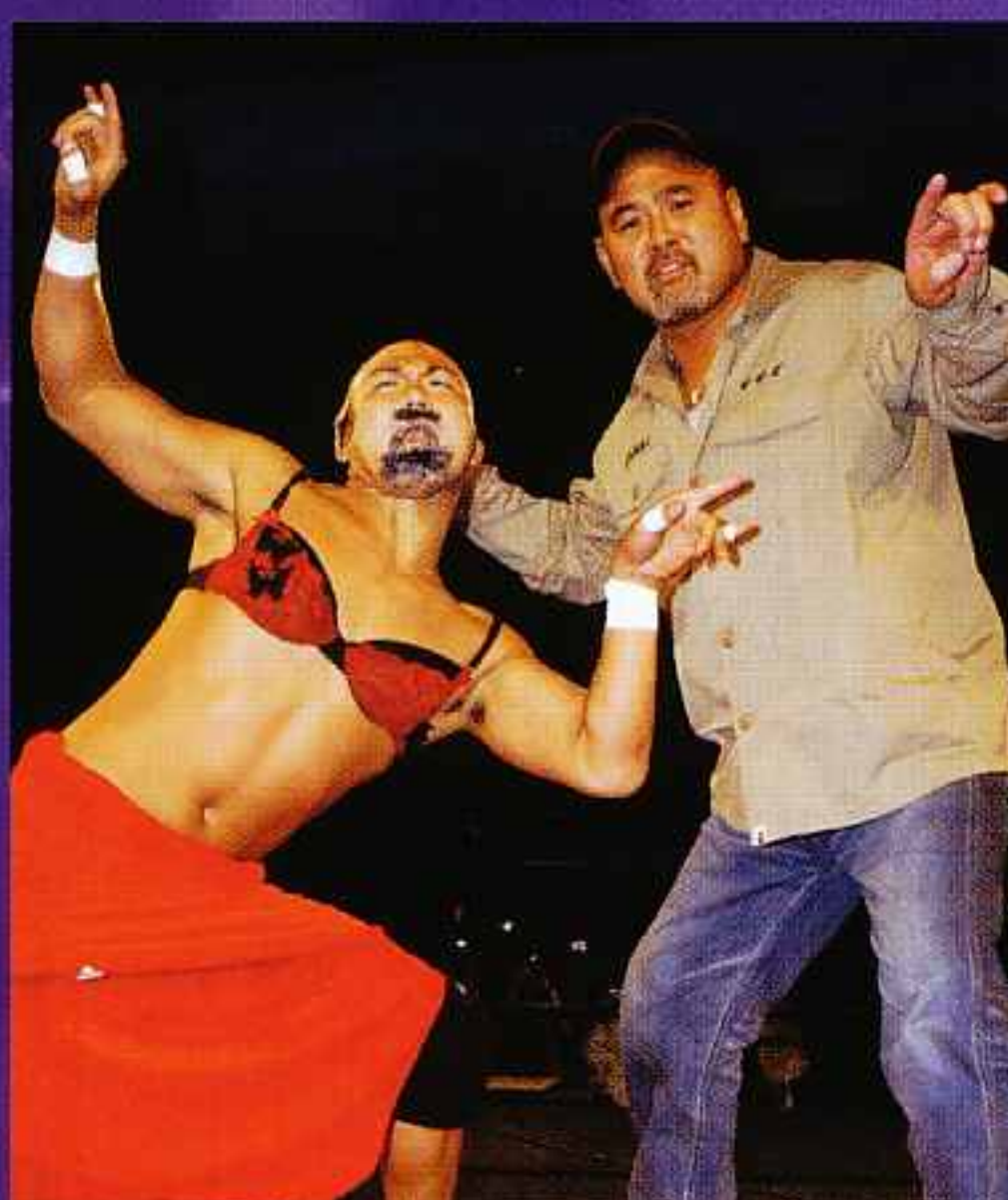
―その遺伝子ですか（笑）。

L・武藤 このあいだの靖国大会で、大仁田（厚）さんと場外乱闘やってたとき、うちの親父は携帯で写真撮ってましたからね。「バカじゃないの」って。息子、ブラジャー着けてるのに（笑）。

―靖国大会参戦は驚きましたよね。

L・武藤 いや～「さすがにまずいんじゃないの」って思いましたよね。日高（郁人）さんに相談したら「大丈夫だよ、だって酔拳とかも出るんだよ」って言われて、じゃあ大丈夫かなぁと。

―靖国神社も懐が深いですよね。

L・武藤 ホントそうですね。靖国側がオッケーって聞いて、僕も調子に乗っちゃいましたね。もう、英霊の方々も全部お客さんだと思って。楽しませればいいや、と。

4・28「新宿カス野郎プロレス」でマスクド・ポコチン相手に勝利をあげたランジェリー武藤。勝利し浮かれるランジェリーのもとに"ご本人・武藤敬司"登場!!　夢のツーショットが実現した。ブラジャーを着けたほうの武藤は「とりあえず土下座しときました！」と恐縮コメント。夢の狂宴！

―素顔の澤さんとしては、コンバット・レスリングにも出てますけど、総合格闘技っていうのも視界に入ってるわけですか?

L・武藤 そうですね。なんだかんだ言って、避けて通れないですからね。この前もコンバット・レスリングの大会で、竹内出選手とやったんですけど、「なんでこんなに強いの!?」っていうくらい強くて。夜はK-DOJOで、小幡選手のドロップキックで戦闘不能になっちゃって、最悪でした。

―コンバットレスリングやって、その夜にK-DOJOでプロレスやってましたか（笑）。

L・武藤 僕、これまで闘った相手を全部リストにしてるんですけど、この半年くらいメチャクチャですよ。こないだ初代ミニスカポリスとキャットファイトで闘ったんですけど、そのちょっと前にやったのが木戸修さんですからね（笑）。あとIWAで浅野社長、臼田さん、木村響子選手。めちゃくちゃですよ。

―そして次は大森さんですね。そのリストにAWA王者が加わりますが。

L・武藤 ええ。僕もベルトの代わりにいつも肩からブラジャーを掛けてるんで、これを賭けて勝負します。

―これからも素顔の澤宗紀とランジェリー武藤を平行して、格闘探偵を続けていく感じですか?

L・武藤 まぁ、ランジェリーはヒザの具合が悪いんで、休業しつつですね。澤宗紀として、もっと活気のある頃のバトラーツを取り戻して、社長に恩返しをしたいですね。ジム生の頃「おまえ、プロレスラーになれよ。何年かしたら、おまえとタッグ組んでるような気がするよ」って言ってくれたのが社長なんで。あの言葉がなかったら、いまの自分はないですからね。

―なるほど。もう一人の恩人の宮戸さんにご挨拶というのは?（笑）。

L・武藤 いやぁ……おっかないですよねぇ（苦笑）。絶対怒られるだろうなぁ。そういえば僕、スネークピットで練習してたとき大江（慎）さんに「おまえ、何年かしたらインディー団体でプロレスやってそうだなぁ」って言われたんですよ（笑）。

―さっきの社長の言葉といい、言われたことが全部実現しちゃってますね（笑）。

L・武藤 そうなんですよね……。でも、宮戸さんには怒られたいです。また怒鳴られたいって書いておいてください（笑）。

―わかりました！　ランジェリー武藤さんと澤さんのさらなる活躍に期待してます！

【4月26日・越谷「B-CLUB」にて収録】

●澤宗紀（ランジェリー武藤）
さわ・むねのり。1979年4月20日生まれ。東京都出身、O型。2003年8月、長瀬館長戦でデビュー。浪人して幼稚園教諭第一免許を取得しながら、現在は時々ブラジャーを着けて闘っている。

どインディー界の壊滅をもくろむ、
このメカの真意は!?

この男たちがいる限り
プロレスは死なない!?
kamipro
秘宝館

怪奇派レスラーの定番“マミー”がついにメカ化!

メカマミー

ランジェリー武藤に続き登場するのはユニオンプロレスで
絶賛大暴れ中のメカマミー！　マミーといえば古くは力道山の時代から
プロレス界で活躍する歴史のある怪奇派レスラーだが、2005年11月、
ついにメカ化に成功。知られざるメカマミーの全貌に迫ってみた！

構成／松澤チョロ　撮影／吉場正和　designed by Tani-yan (Two Three)

マミーに何が起こったか!?
マミーがメカマミーになるまで

文／田中ダイス

エジプトといえば誰もが思い浮かべるピラミッド。その壁画にはブレーンバスターに酷似した技をしかける姿が描かれているという。すなわちプロレスは4500年以上も前から存在し、その本家はイギリスでもアメリカでもなく、エジプトにあったのだ。

対米感情を利用してのし上がっていった力道山時代のプロレスで『ワールドリーグ』と名付けた大会にアメリカやヨーロッパだけでなく、エジプトからの選手を招聘したのは素晴らしい歴史観と呼ぶしかない。

顔も含めた全身が包帯に包まれ、目と鼻と口だけが露出した安上が……あ、いや哀愁と畏怖の漂う恐ろしい姿。彼のたどって来た長い歴史を物語るかのように、衝撃を受けるたびにベビーパウ……じゃなくて古代の香りを残す秘薬を撒き散らす姿は、まだ〝戦後〟だった日本に大きなインパクトを残した……んじゃないでしょうか。生で見てるほどの歳じゃないんで詳細は知りません。

時は流れて1995年。いろいろあって雨後の竹の子のように群小のインディー団体がニョキニョキと生えてきた時代、ユニオンプロレスが旗揚げされた。世間一般に伝わる知名度のある選手は皆無だった団体に現れた救世主は、やはりザ・マミーだった。それが『ワールドリーグ』に現れたものと同じ個体なのか、それは誰にもわからない。しかしホーデス・ミンと伝説のマムシデスマッチを闘い、地方巡業では〝喧嘩番長〟松崎和彦（現・駿馬）と試合前に地元のスーパーで大乱闘を繰り広げ、わかりやすく集客に貢献したりしていた。

そして力道山ゆかりの存在だけに96年に横浜アリーナで行われた『力道山メモリアル』にもぬけぬけ……じゃなくて堂々と登場。世紀をまたいで血で血を洗う抗争を続けることになる鶴見五郎と激突。リングを粉……じゃねえや、秘薬まみれにする激闘を繰り広げ、挙げ句、コーナーから足を踏み外して失神……。長州力ら当時のメジャートップ選手にいろんな意味で印象づけた。

鶴見とマミーの抗争は、同じ神奈川県内の鶴見青果市場に舞台を移すことになる。ここではマミー史上に残る一大異変が起きた。増えたのだ。名古屋名物のういろうならば白、黒、抹茶、あずき、コーヒー、ゆず、桜となるわけだが、青果市場の水がよほどマミーたちの体組織に合ったのか、あるいは合わなかったのか白、黒、赤、青、スーパー、クローン、ピンク（これのみ女子）と出るわ出るわ。あまりに数が増えたこともあり、ついにはマミー同士の抗争まで始まってしまう。

だが同属同士での闘いに嫌気が差したか、マミーたちは次第に青果市場から姿を消し、デモニオ・ウノ&ドスとかスカルパー&ギザーとかゾンビアのようにエジプトどころか、地獄の底から現れた怪生命体の前に姿を消していってしまった。

観戦後のポケットに入っていた包帯の切れ端、これの持ち主と再び出会うことはないのだろうか。

いや奇跡は21世紀に起こった。ホーデス・ミンとしてマミーたちと死闘を繰り広げた後、DDTで蛇界を立ち上げたポイズン澤田JULIEが、試合中のアクシデントで記憶喪失になってしまったのだ。

どさくさに紛れて新人レスラーということにされてしまい、縦社会ならではの陰湿なイジメをマッスル坂井や男色ディーノから受けることになるポイズン。だが闘いの日々は彼の記憶を過去から穿り返し、「ユニオン」とか「JETS」とか「流山」とか言ったりしながら教祖・ポイズン澤田JULIEではなく、デスマッチファイター・ポイズン澤田をよみがえらせたのだ。

すべての記憶を取り戻しても、ポイズンは教祖ではなくデスマッチファイターとしての道を選び、伝説のユニオンプロレスを再旗揚げすることを決意する。

そしてユニオンあるところにマミーあり。2005年11月の旗揚げを前に、ポイズンたちの前に古代からの使者マミーに現代科学の枠を結集し、最強のマミーを作り上げたという博士からのメッセージが届いた。残念ながらポイズンは小笠原和彦率いる空手軍団との激突を控えており、またメッセージそのものも悪質な冗談と判断されたため、ポイズンではなく佐野直にメカマミー迎撃が任されることになった。

そしてメカマミーは本当にやってきた。試合開始ギリギリまで会場で着替えてない……あ、いや現われないというトラブルはあったものの、インディー界のカリスマとして名高い佐野を圧倒。結果こそレフェリー暴行による反則負けとなったが、佐野は手も足も出なかった。

なぜメカマミーは歴代マミーの中で最強なのか。もちろん初代からの歴史と伝統にのっとった秘薬は胸のハッチ内に備蓄。歴代マミーの中でも最大級の噴霧量を誇るだけでなく、新たな武器であるドリルを装着したことが大きい（動力は手動ですが）。

古代の神秘と現代科学の枠を巨体の中に融合させたメカマミーに対抗するべく、佐野は旗揚げ第2戦でピンクタイガーを助っ人に2対1で対戦するというなりふりかまわない作戦に出た。ピンクタイガーの身体を踏み台に、俺ごとシャイニング・ウィザードなどの荒技で攻め込む佐野。しかしメカマミーは逆に佐野にシャイニング・ウィザードwithドリルを発射。自ら外したドリルの上にピンクタイガーをパワーボムで叩きつけ、とどめを刺した。ただただ蹂躙された佐野は、リベンジのため自らの身体をメカに改造するという最終手段に打って出ることになる。

これまでのマミーも秘薬という武

マミーのこれまでの主な活動の場は鶴見五郎率いる国際プロレスプロモーション。中でもインディーの聖地と言われた鶴見青果市場（現在は使用できず）はマミーにとってホームグラウンドとも言える会場だった。

闘いを通じわかりあったかに思われたメカマミーとメカスタンリーだったが、初タッグ結成となった5・7ユニオンプロレス横浜大会では試合途中にメカスタンリーにロケットパンチを発射し仲間割れ！

この男たちがいる限りプロレスは死なない!?

kamipro秘宝館

メカマミー徹底解剖

器があった。目潰し等、意外に使い勝手のよい秘薬だけでも単なる人間でしかないレスラーにとっては大きなハンディとなっていたが、そこにドリルがつけば鬼に金棒。小学生男子の思い描く最強ロボみたいなもので、そりゃもう改造といえばドリルがつくのは当然のこと。

そして民衆は強さに憧れる。なんとユニオンプロレスの2月大会ではメカマミーグッズとしてプチドリルが販売されたのだ。6000円で売り出したものを4000円までダンピングしたとはいえ、見事に完売（まあ元から5個ぐらいしか用意していなかったようだが）。

とにかくメカマミーの強さは観客のあいだに浸透し、エジプトからの刺客が日本のインディー界を根こそぎ壊滅するかに見えた。だが盟友・ピンクタイガー博士にロボコップというか宇宙刑事というか、ロボコップのデザインは宇宙刑事のいただきなので同じことなんだけど、とにかくメタリックに改造された佐野ことメカスタンリー。これまで猛威を振るったドリルもロボットでマシンだからガッチリと受け止めてみせ、ついにメカ超えに王手をかけた。

ところが博士がメカマミーに新たな武器となる巨大な拳をさずけたから、さあ大変。メカスタンリーのメカならではの強靭な足腰が途方もない速度を生み出すスタンリーバイクというか自転車でのアタックを耐えたメカマミーは、巨大な拳を恐るべき速度で発射。まさかのロケットパンチで佐野の闘志を打ち砕いた。

古代の神秘と現代の英知が交差した最強の存在たるメカマミー、彼の野望とは？　そしていかにして博士の手に落ち、改造をされるに至ったのか？　謎は尽きない。そしてその尽きない謎を解き明かす作業こそがプロレスの真髄だ。

メカマミーを見よ。吹けよ粉、回れよドリル。その回転の中心に世界の謎を解く鍵があるのだ。

必殺ロケットパンチ

これが脱着可能のメカマミーのロケットパンチ（右手専用）。性質上、連続発射はできないものの、一撃必殺の威力を持ち備えており、ここぞというときにしか使用されない必殺アイテムだ。

これまでのマミーと同じようにベビーパウ……いや、秘薬攻撃もメカマミーの大きな武器の一つ。しっかりと胸のハッチ内に備蓄されているのだ。

Profile

◎めかまみー　正式名称＝メカマミー・MA-1。2005年10月、奥多摩の某研究所にて誕生。身長・180cm〜50m、体重・100kg〜２万トン。デビュー戦＝2005年11月３日、東京・新木場１st RING、vs佐野直（※本当は森谷俊之＆佐野組とのハンディキャップマッチだったが、森谷がガチでドタキャン）。得意技＝メカドリルミサイル、メカロケットパンチ、ウィニーへのウイルス散布。好きな有名人＝鈴木えみ、あいか（我闘姑娘）。携帯の着メロ＝威風堂々（32和音）。グッとくる異性のしぐさ＝オイルを挿されるとき。スイッチを押してもらうとき。

メカマミーのライバル メカスタンリーを直撃！

◎めかすたんりー　メカ化する前のリングネームはスタンリーｏｒ佐野直。国際プロレス・プロモーション所属ながら、静岡プロレスをはじめ様々なインディー団体で活躍中。

――そもそも、メカスタンリーっていうのは、どういういきさつで誕生したんでしょうか？

メカスタンリー（以下・メカスタ）　今年の１・４にメカマミーに敗れたあと、リング上で「メカマミーに対抗するにはメカスタンリーだ！」って言ってしまったがためにできてしまったという偶然の産物ですね（笑）。

――偶然の産物でしたか（笑）。メカというだけあって、素顔のスタンリーよりも強いと思っていいんですかね？

メカスタ　強いですね。走ってる車を止めたりとか、ドリルが効かなかったりとか。あと単純にチョップが痛くなっていうのもありますけど（笑）。

――そういう意味では、よくできたコスチュー……というかメカですよね（笑）。

メカスタ　かなり製作費もかかってますからね。それで、メカ化にあたって生まれて初めて全身を採寸したんですよ。そういう面でも思い入れのあるコスチュー……というかメカ化ですね（笑）。

――スタンリーさんは過去に様々なマミーと闘ってると思うんですけど、メカマミーはどうですか？

メカスタ　通常のマミーよりも動きも凝ってるし、何よりもメカマミーの正体は怪奇派を愛してるっていうのが伝わってきますね。ぶっちゃけ、最後の方の国際プロレスに出てたマミーとかは凄いやっつけだったんですよ。昨日今日デビューした人とかに「今日はブラックマミーね」みたいな感じで（笑）。

――ガハハハハ！

メカスタ　そう考えたらメカマミーっていうのはホントに怪奇派を愛してる人たちが作って、愛してる人が中に入ってる……ような気がするし（笑）、自分もやるからには、飽きられずに毎回新しいものを見せていきたいなと思ってるんで、応援よろしくお願いします！

本誌独占！

メカマミーがしゃべった!!

この男たちがいる限りプロレスは死なない!?

kamipro秘宝館

これまで沈黙を守ってきたメカマミーにダメもとで取材を申し込むと、なんと快く受諾。知られざる、その素顔（？）や、意外な野望も飛び出した本邦初公開、メカマミーインタビューをどうぞ！　この機械包帯男、マジでヤバイです!!

——（恐る恐る）あの〜、お話を聞かせてもらって大丈夫でしょうか？

メカマミー　ああ、全然問題ない。

——日本語も大丈夫なんですね？

メカマミー　人工知能が内蔵されているんで何語でも大丈夫だ。

——それは安心しました。まずはメカマミー誕生の経緯を教えていただきたいのですが？

メカマミー　わかった。そもそもオレは〝メカ〟だけに、血も涙もないサイボーグだと思われているんじゃないか？

——まあ、そういう見方が多いと思います。違うんですか？

メカマミー　確かに、改造されてしまってからはオレの身体の中には血も涙もない。しかしだ！　改造される前のオレはインディープロレスの大ファンだった。

——それは初耳です（笑）。

メカマミー　ある日の国際プロレスの昼興行だった。言っておくが、ラッシャー木村さんの時代の国際プロレスではないぞ。

——鶴見さんのほうですね（笑）。

メカマミー　そうだ。オレは一眼レフのカメラで怪奇派レスラーをバシバシ撮っていたんだ。

——もしかしてカメラ小僧だったんですか？（笑）。

メカマミー　もう30近かったし、小僧ではなかったな（苦笑）。まあいい！　その日のメインでマミーと鶴見五郎が場外乱闘になったんだ。会場は鶴見青果市場だったよ。

——インディーの聖地ですね。

メカマミー　そうだ。鶴見とマミーの乱闘は会場の外まで雪崩れ込んでいったんだ。当然、オレたちもそれを追って、知る人ぞ知る「ジャスコ」コールを巻き起こした。

——そうでしたか（笑）。知らない人のために説明すると、青果市場を出ると、道路の対面に「ジャスコ」というスーパーがあるんですよね。

メカマミー　そういうことだ。そのときマミーに押されて道路に飛び出しオレは車にはねられてしまったんだ。幸い、命に別状はなかったが、オレは日常生活も困難になるほどのケガを負ってしまったってわけさ。

——そ、そんな過去が!?

メカマミー　それからはマミーはもちろん、鶴見五郎や、マミーを生み出した武井匡（初代ユニオン代表）、インディー団体が大嫌いになった。そんなオレを博士が改造してメカマミーに仕立て上げたんだ。

——だから、鶴見さんや、その弟子にあたる佐野直さんを目のカタキにしてるわけですね。

メカマミー　そう。オレの目的はインディー団体の壊滅だからな。

——そうですか。ちなみにメジャー団体には興味はないんですか？

メカマミー　まったくない（キッパリ）。まあ、WWEとかアメプロは嫌いじゃないけどな。

——メジャーは観ないけど、アメプロは好きっていうインディーファンは多いですからね。

メカマミー　インディーを壊滅させたあとは世界中の有名レスラーを倒してメカ化していこうと思っている。メカHHH、メカストーンコールドっていうふうにな（ニヤリ）。

——それは観てみたいです（笑）。ここ最近は『PRIDE』やK−1の人気が高いですけど、それについては何かありますか？

メカマミー　（なぜか小声で）K−1MAXには興味がある。

——そうなんですか!?

メカマミー　中でも興味があるのは須藤元気と、あとは魔裟斗だ。

——メカマミーの口から二人の名前が出るとは思いませんでした（笑）。

メカマミー　須藤元気の闘いには何かプロレス心を感じられるし、魔裟斗とは、ぶっちゃけ闘ってみたいという気持ちもある。

——ま、魔裟斗に対戦要求!?

メカマミー　もちろん、ロケットパンチの使用を認める度量がK−1サイドにあればの話だけどな。

——う〜ん、さすがにそれは難しいかもしれませんね。

メカマミー　こちらはいつでも闘う準備ができてると谷川さんに伝えておいてくれ。おっと、そろそろオイル注入の時間だ。さらばだ！

——わかりました（笑）。今後の活躍を期待しております！

マミーを平成のマット界に生み出したのは鶴見五郎と思われがちだが、じつの張本人は、いまはなきレスリングユニオン武井匡代表。再旗揚げしたユニオン乗っ取りを企てる武井代表もメカマミーのターゲットの一人なのだ。

メカマミー、ビッグマッチ2連発！　メカゴロー、そして大物Xと対戦!!

ユニオンプロレス
『激辛スパイシーシリーズ』
東京・新木場1st RING
6月18日（日）18:00試合開始

［予定対戦カード］
メカマミー＆マミー vs メカゴロー（サイボーグ化した鶴見五郎）＆メカスタンリー
ミスター雁之助＆X vs ポイズン澤田＆ISAMI

［問い合わせ］
ユニオンプロレス TEL.042-724-9242

ULTIMO DRAGON SPECIAL NIGHT『UD:FIESTA2006』
東京・後楽園ホール　6月23日（金）18:00開始

［対戦カード］
【スペシャルマッチ】大物X vs メカマミー
【メインイベント】ミル・マスカラス＆ウルティモ・ドラゴン＆noki-A vs グラン浜田＆TAJIRI＆浜田文子
【ドラゴンミクスチャー・スクランブルタッグトーナメント】

［出場チーム］
【DDT】諸橋晴也、柿本大地、飯伏幸太、風香【ユニオン】ポイズン澤田、石川修司、isami、チェリー【イタリア軍】フランチェスコ・トーゴー、モリ・ベルナルド、アントーニオ本多、フランチェスコ・アップルーニャ【みちのく】新崎人生、野橋真実、義経、遮那【FMW】怨霊、GOEMON、リッキー・フジ、木村響子【STONED】佐藤恵、佐藤修、大間まぐ狼、竹迫望美【K-DOJO】TAKAみちのく、K-DOJO選抜選手【闘龍門MEXICO】堀口ひろみ、アミーゴ鈴木、ギジェルモ“チャンゴ”秋葉、女子選手

［問い合わせ］UD:FIESTA実行委員会 TEL.03-3537-2356

鶴見が吠える！

俺は怪我してるし、スナックも忙しいんで、もうマミーと闘うことはないと思ってた。でもメカマミーだとかわけわからんマミーは許せねえから、俺も“メカゴロー”に改造してもらってブッ潰すよ！

マッスル特集第2弾

あんなことからこんなことまで全部見せます！マッスルの舞台裏!!

ワイヤー付きバルコニーダイブ!?

だ、台本熟読!?

『kamipro』93号での特集も好評だったマッスルが５月４日に二度目となる後楽園大会を開催した。北側はスクリーンとスキット用の舞台を設置したため観客は入れなかったものの、それ以外は文句なしの満員となり、内容的にも大成功と言っていい盛り上がりを見せた。今回の特集は前回より一歩踏み込み、これまでのプロレス界では公開されることはなかった大会前のリハーサル風景（？）、さらには台本問題まで突っ込んでお届けします！

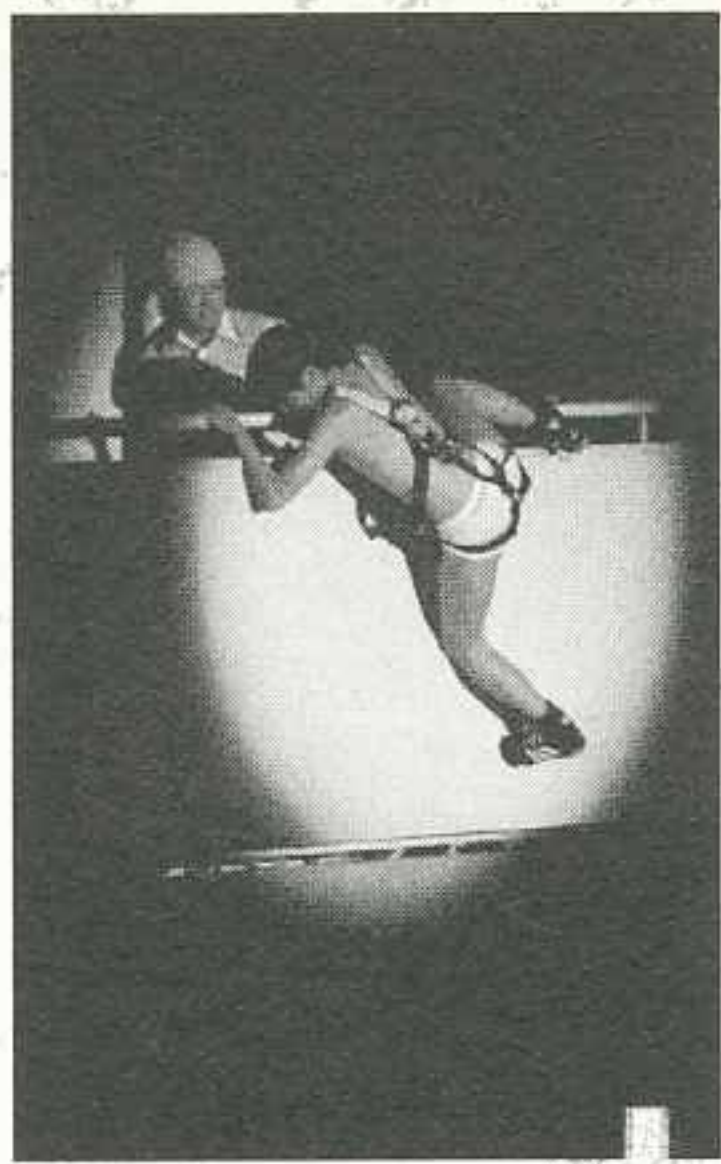
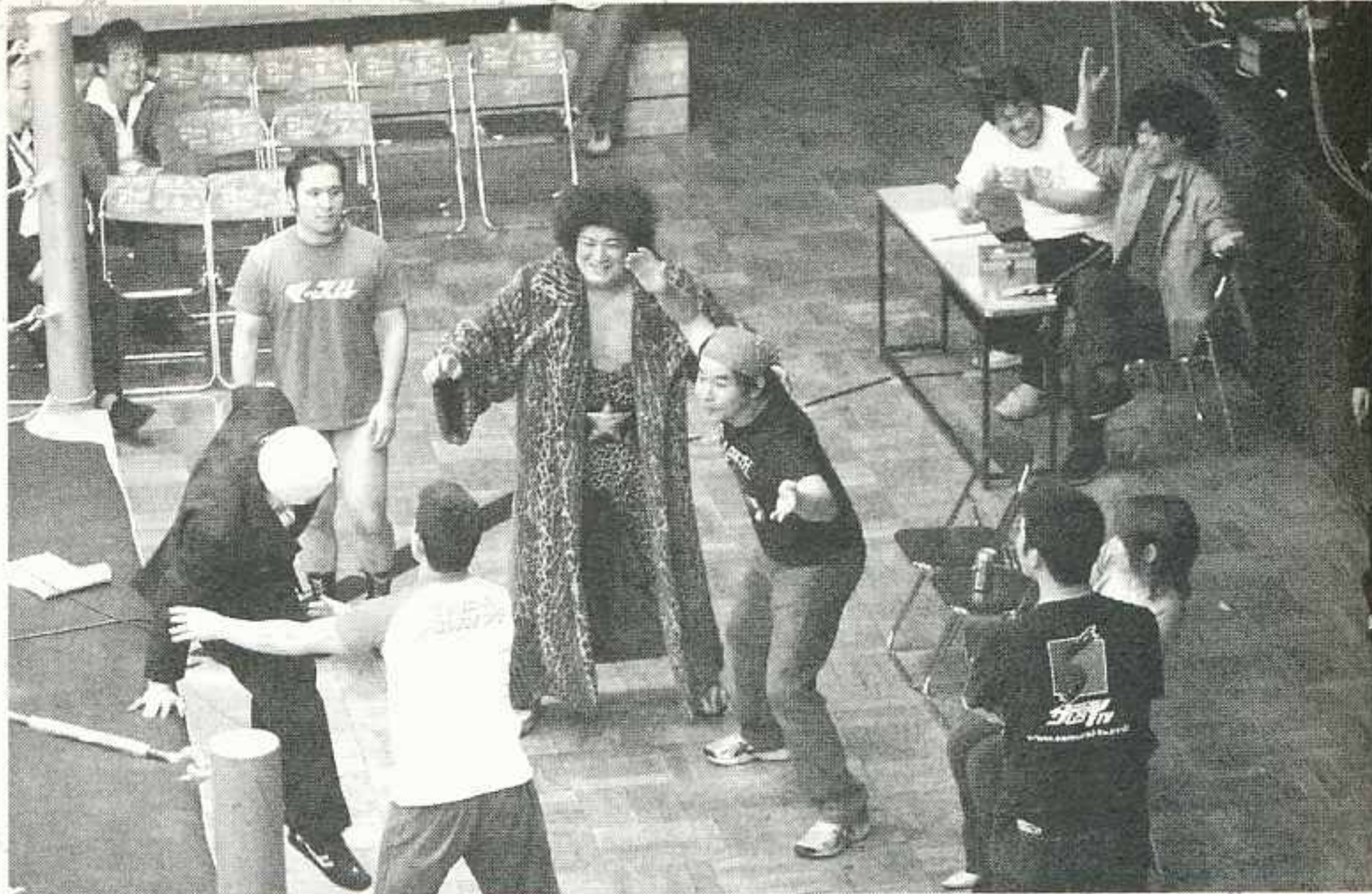
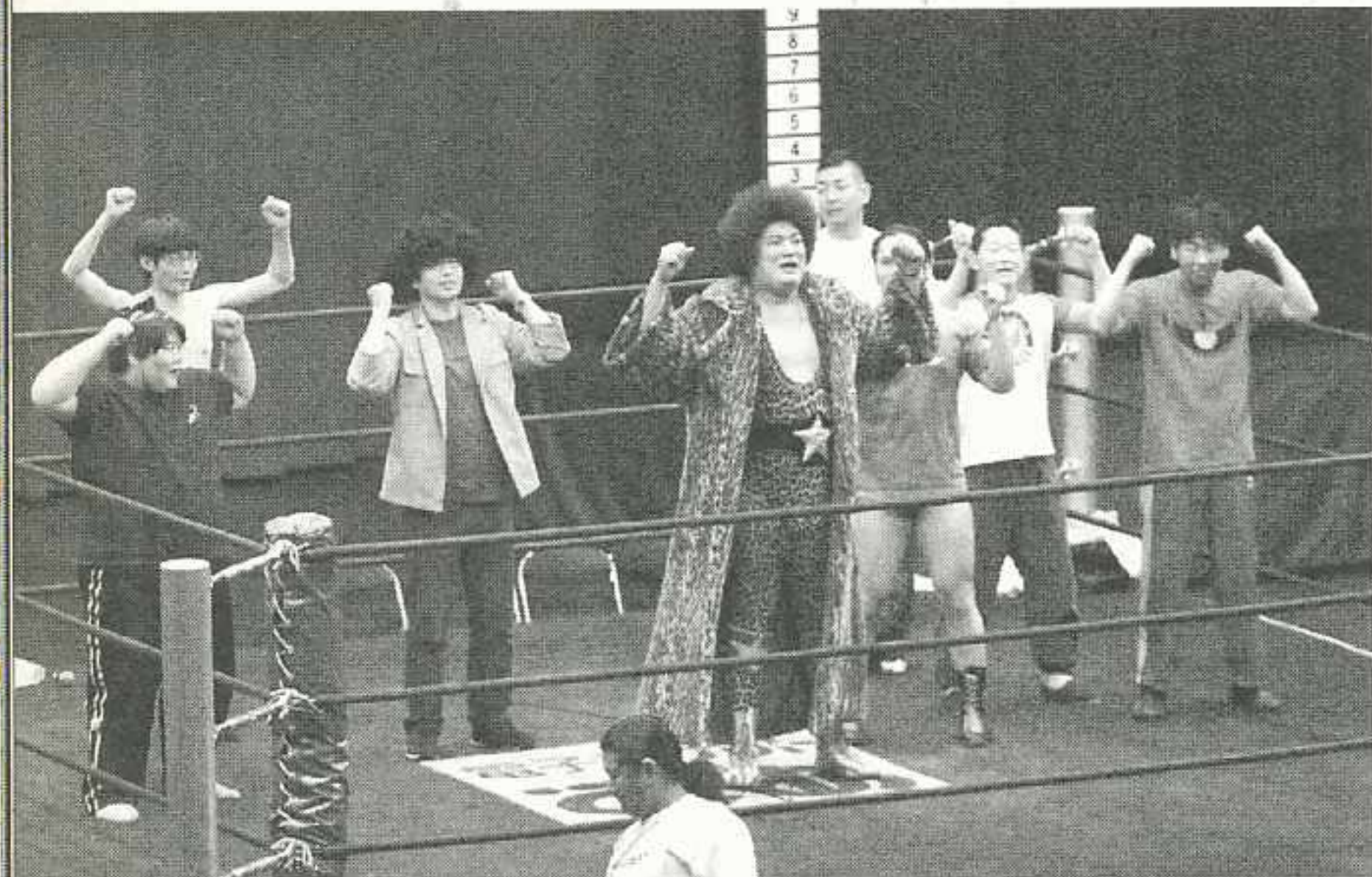
構成／松澤チョロ　撮影／平工幸雄（5/4マッスルハウス後楽園）

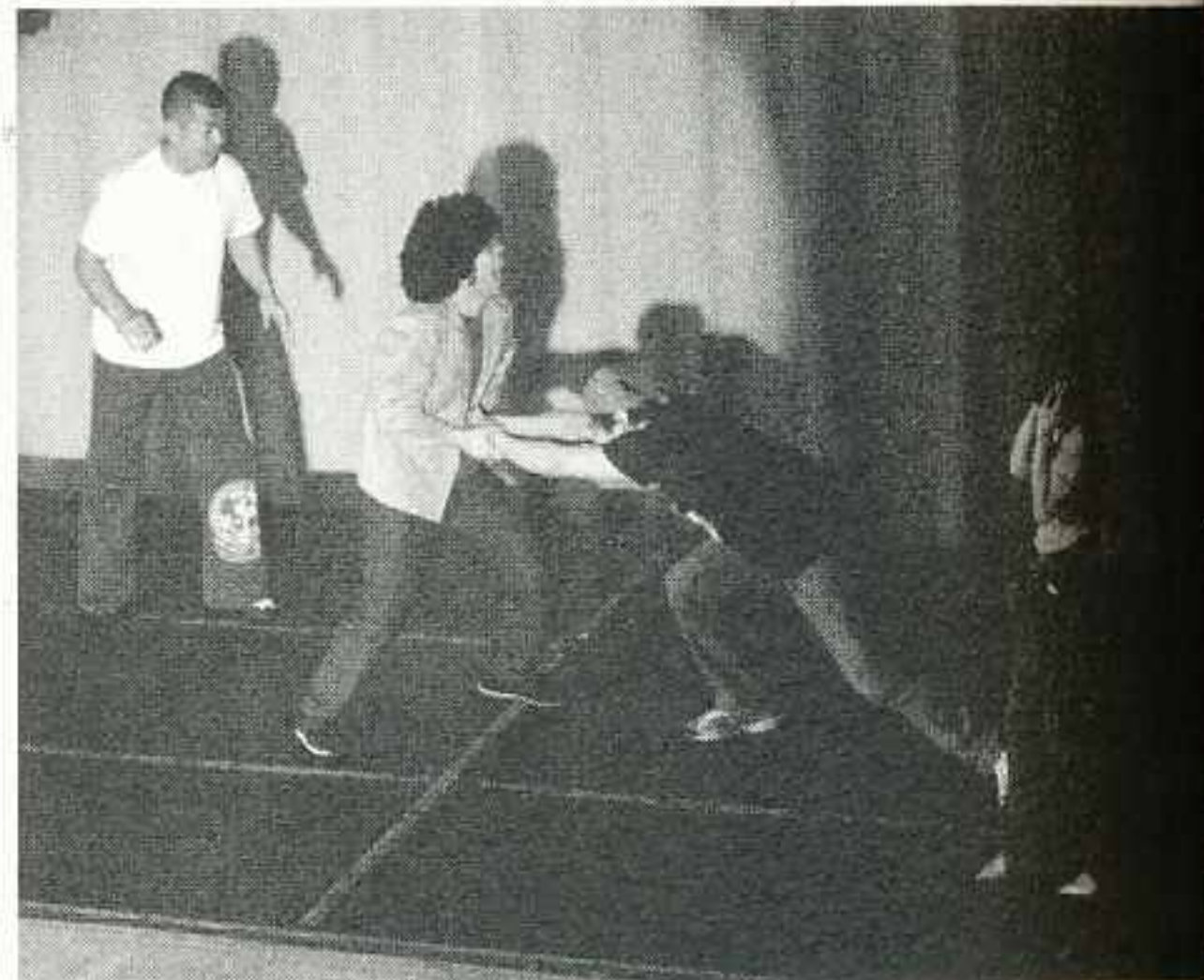
design by さおとめの事務所

全部見せます！マッスルの舞台裏

5·4 マッスルハウス、後楽園のリハーサル風景を盗み撮り！

し、しかもプロレスに台本が……!?

5·4『マッスルハウス』が行なわれた後楽園では、昼にDDTが大会を開催。そのまま後楽園に居残り用事を済ませていたボクは、見てはいけないものを見てしまった。（一応）プロレスの大会ということになっているマッスルにリハーサル、そして台本があったのだ！

上の２枚は、この日のメインのフィニッシュシーンとなる（予定の）メガネこと藤岡典一のバルコニーダイブの練習風景。このときメガネはロッククライミング用の安全ベルトを着けていたが、いざ本番になると……やっぱりそのままの姿でダイブを敢行！　安全第一!!

バルコニーから、こっそり様子をうかがうと、目に飛び込んできたのがマッスルの作・演出を務めるマッスル坂井の演技指導（？）風景であった。即興で、よりいいセリフを編み出し出演者に投げかける坂井。開場まであと１時間。酔っぱらいの演技にも力が入る！

開場時間まであと５分となり、一通りリハーサルが終わったと思われるマッスルの主要メンバーがリングに集結。大会の成功を祈って、坂井の音頭でマッスルポーズ！

リング下の坂井とDJニラが何かを熱心に読み込んでいる。気になって目を凝らして見ると「㊙マッスル台本」と書かれていた！

これはマンモスのどっきり企画のクライマックス、酔っぱらいに人質に取られた女を救出しようとするシーン。止めに入った亜門が刺される場面もしっかり稽古済み（当たり前）。

というわけで、大会直前の マッスル坂井を直撃！

―坂井さん、ちょっと見てはいけないようなものを見てしまったんですが。

坂井　エッ、何を見ちゃったんですか？

―なんかリハーサルのようなものと、それと、いま坂井さんが手にしてるものです。

坂井　あ～っ、オレ、台本持ってる！（わざとらしくうしろに隠す）。

―まあ、マッスルでは、これまでにも台本は頻繁に出てきてるんで、それほど驚きはないんですけど、先ほどやっていたのは通し稽古みたいなもんですか？

坂井　そうです。通し稽古って言葉が問題あるんだったら、進行のリハーサルですね。タイミングのきっかけの確認をしてました。

―それは毎回やってることなんですか？

坂井　やってますね。とくに凝った演出部分とかは何度かやりますし。でも、さっき藤岡（典一）がやってたバルコニーダイブは、あれは単純に技の練習です。

―ずいぶん大がかりな練習でしたね（笑）。

坂井　そう言われるとそうなんですけど、あの場に対戦相手はいなかったですし、たまたまバルコニーの下でボクが寝てたら藤岡が降りてきただけですから。練習したら、うまくいったみたいなんで、試合でも使うんじゃないですかね。もちろん、リハーサルとかは今日出る（フランチェスコ・）トーゴーさんや大鷲（透）さんはやらないですよ。

―一流レスラーにはリハーサルも台本も必要ないと？

坂井　そうですね。ボクらみたいなレスラーは、まだまだ仕掛けに頼らないとできない部分が多いので、何度も何度も入念にリハーサルをやりますけど。

―たとえば、マッスル名物のスローモーションにしても、ぶっつけ本番では、なかなかうまく表現できないんじゃないですか？

坂井　スローモーションは役者さんとかのほうが全然うまくやれるでしょうね。今日は亜門さんつながりでＡＫＩＲＡさんが来てくれるみたいですけど、ＡＫＩＲＡさんがスローモーションをやったら絶対に凄いと思いますよ。

―ＡＫＩＲＡさんはプロレスもお芝居も経験してるわけですから、凄いスローモーションを見せてくれるでしょうね。

坂井　これからは大会の１週間とか２週間前から準備するっていう、興行のための練習じゃなくて、マッスル用にマイクとか演劇の基礎練習みたいなことをしっかりしていかないといけないんだなって。もちろん、プロレスの練習もちゃんとやらなきゃダメですけどね。あと、一つの案としては、台本を大会の何日か前に売るとか、前売りチケットを買うと付いてくるっていうのもアリかもしれないですね。

―それは面白いですね。たとえ台本を手にしたとしても、大会当日まで見たいような見たくないような不思議な感じで。

坂井　あとは、最初からスカすためにある小道具としての台本で、実際は、まったく違う内容をやるっていうのもアリでしょうし。

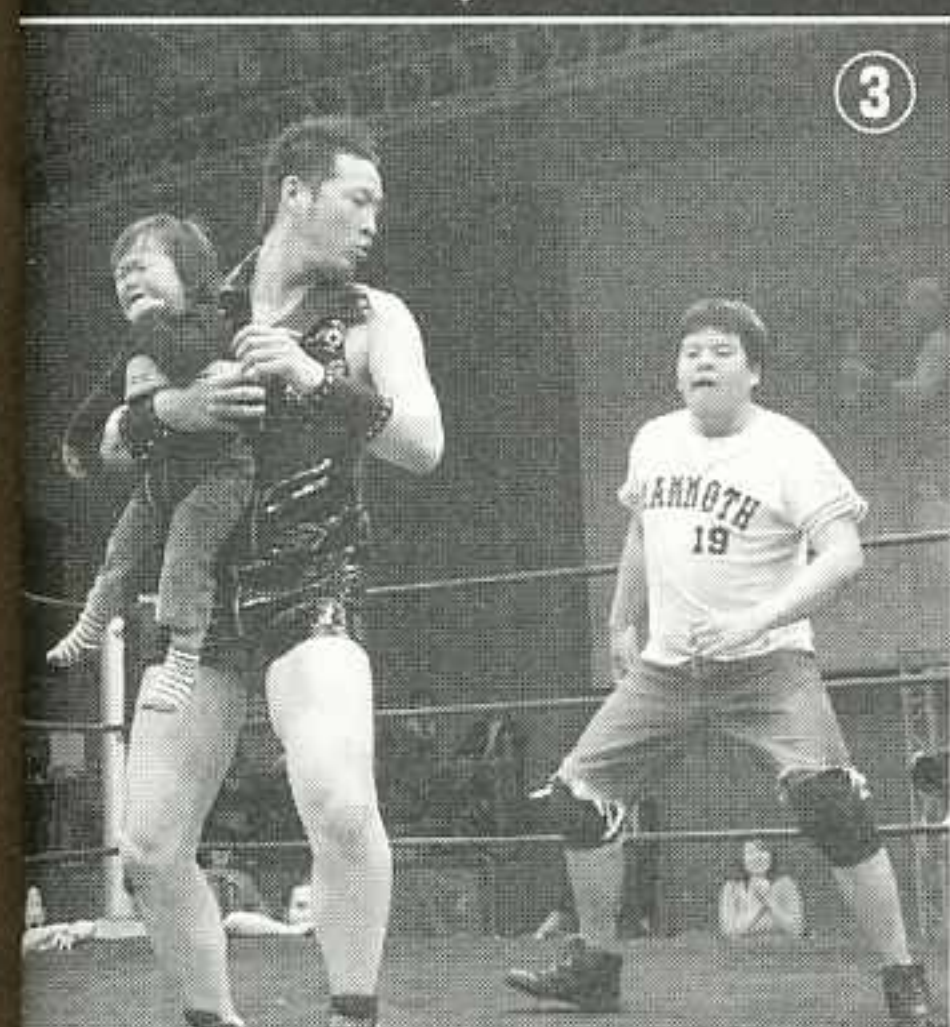
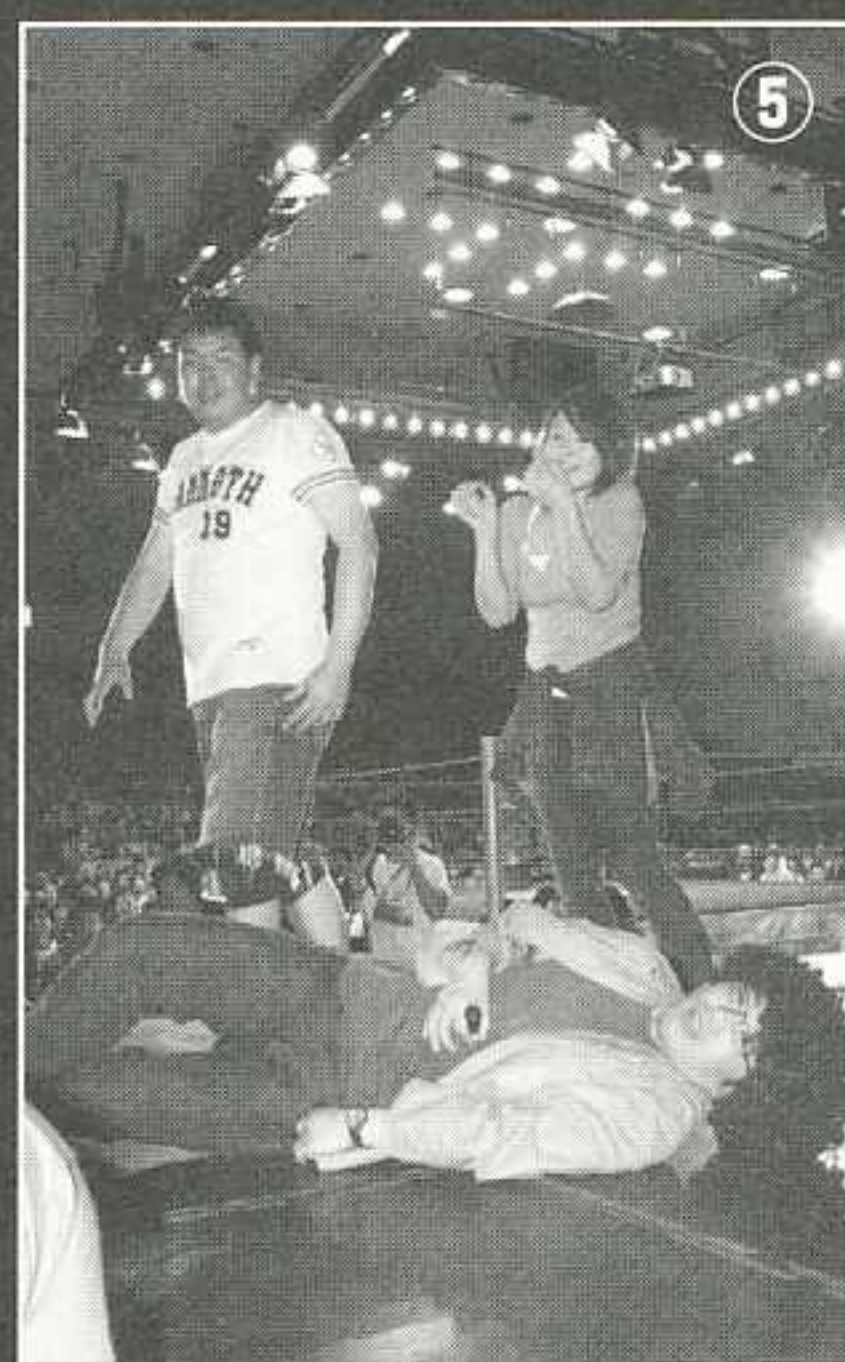
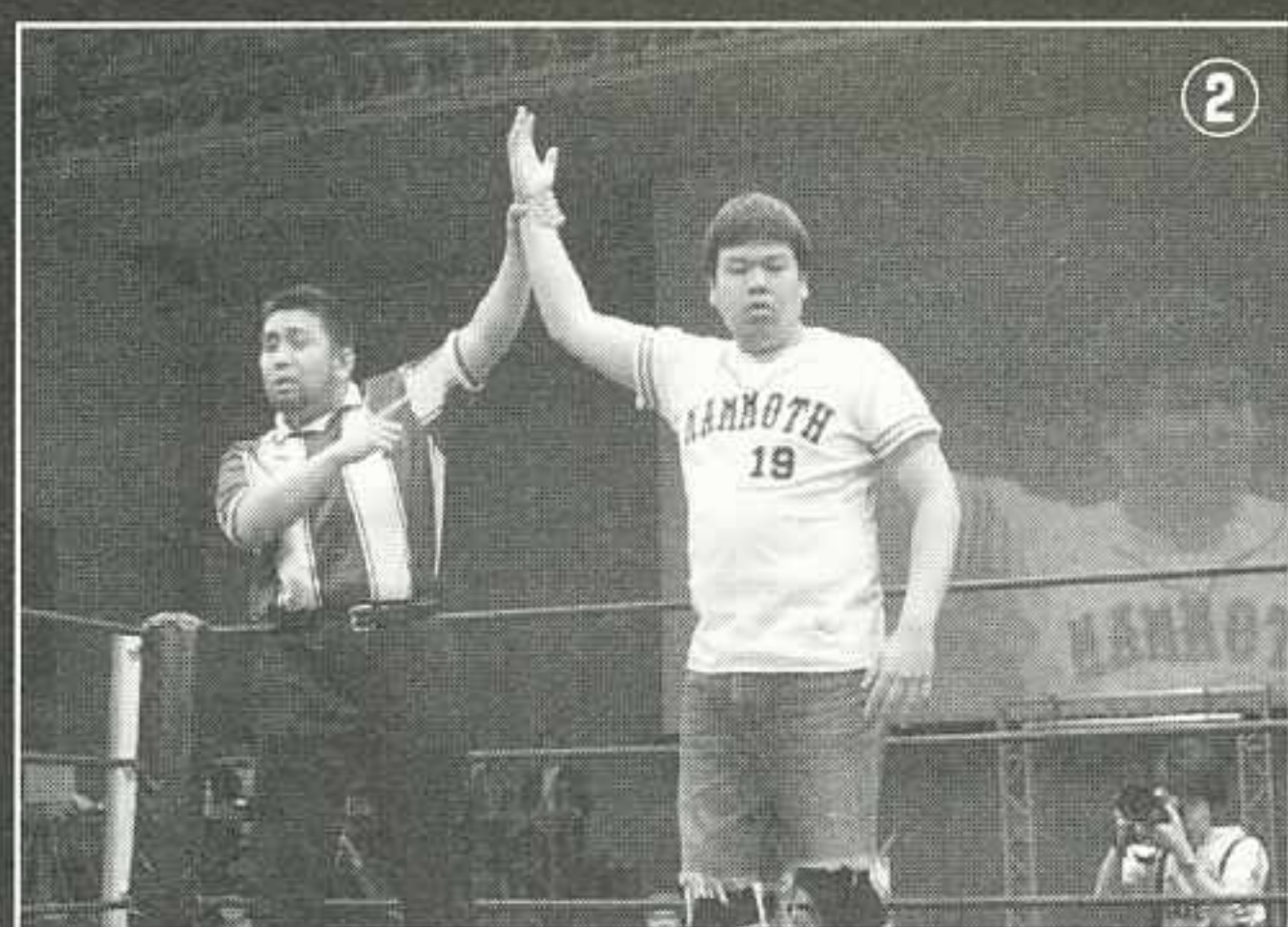
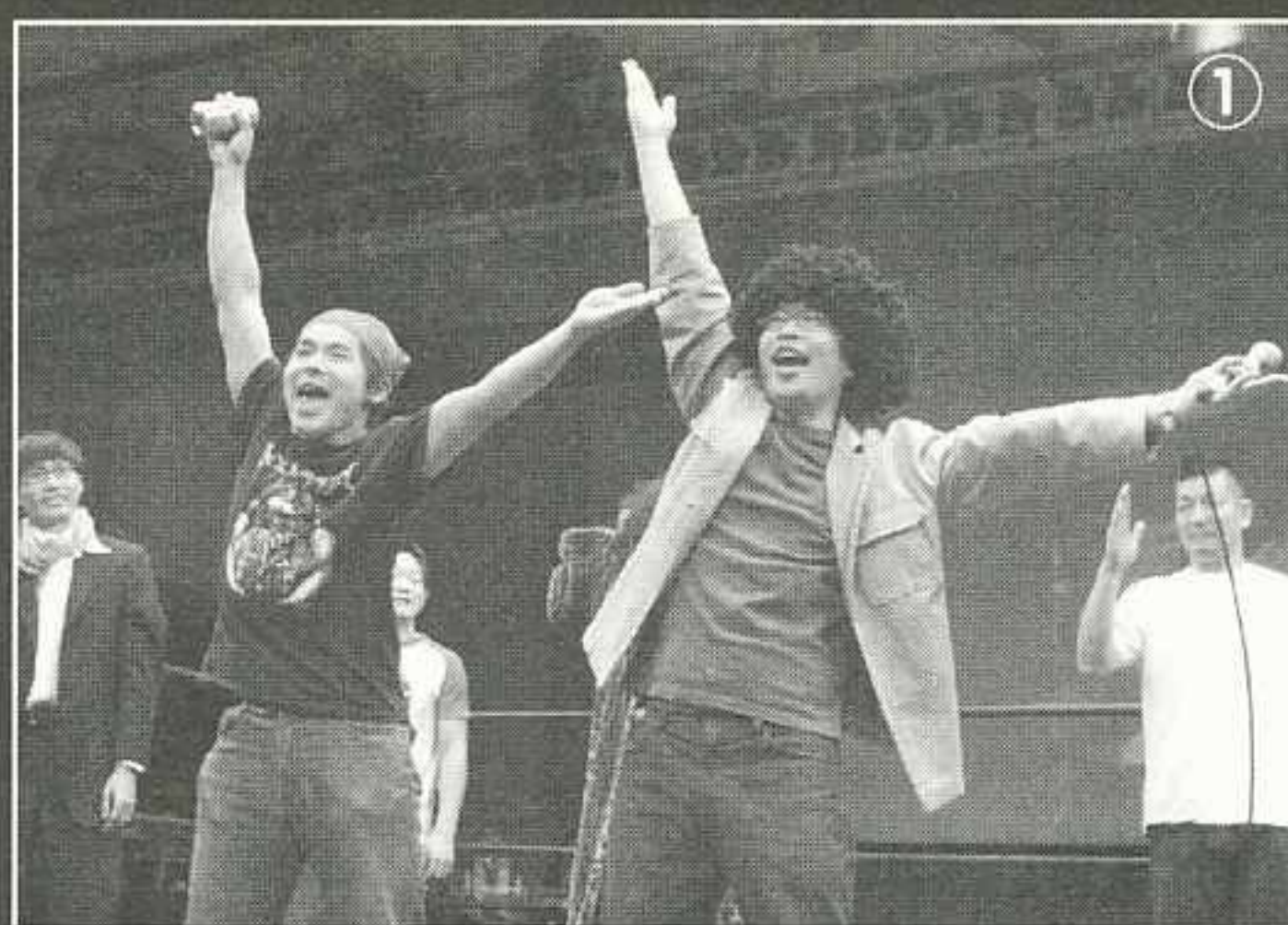
―でも〝台本流出〟どころか販売なんてしたら画期的ですよね。

坂井　外から見たらパンフレットと変わらないんだけど、中を開くと試合の展開とか攻防が全部書いてあって、お客さんは、それを読んでドキドキしながら「これホントなの？書いてある通りにやるの？」って。これ楽しいと思いますよ。ホントにやれるかどうかはわかんないですけど（笑）。

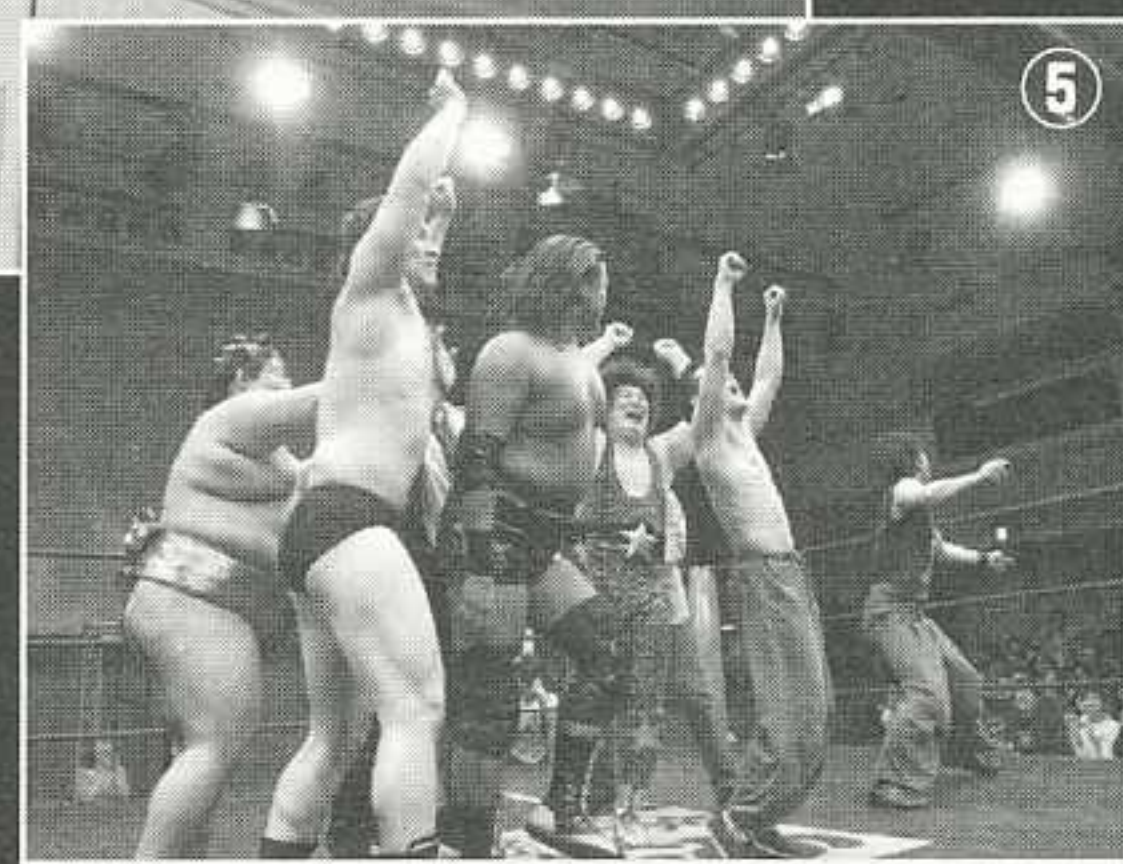
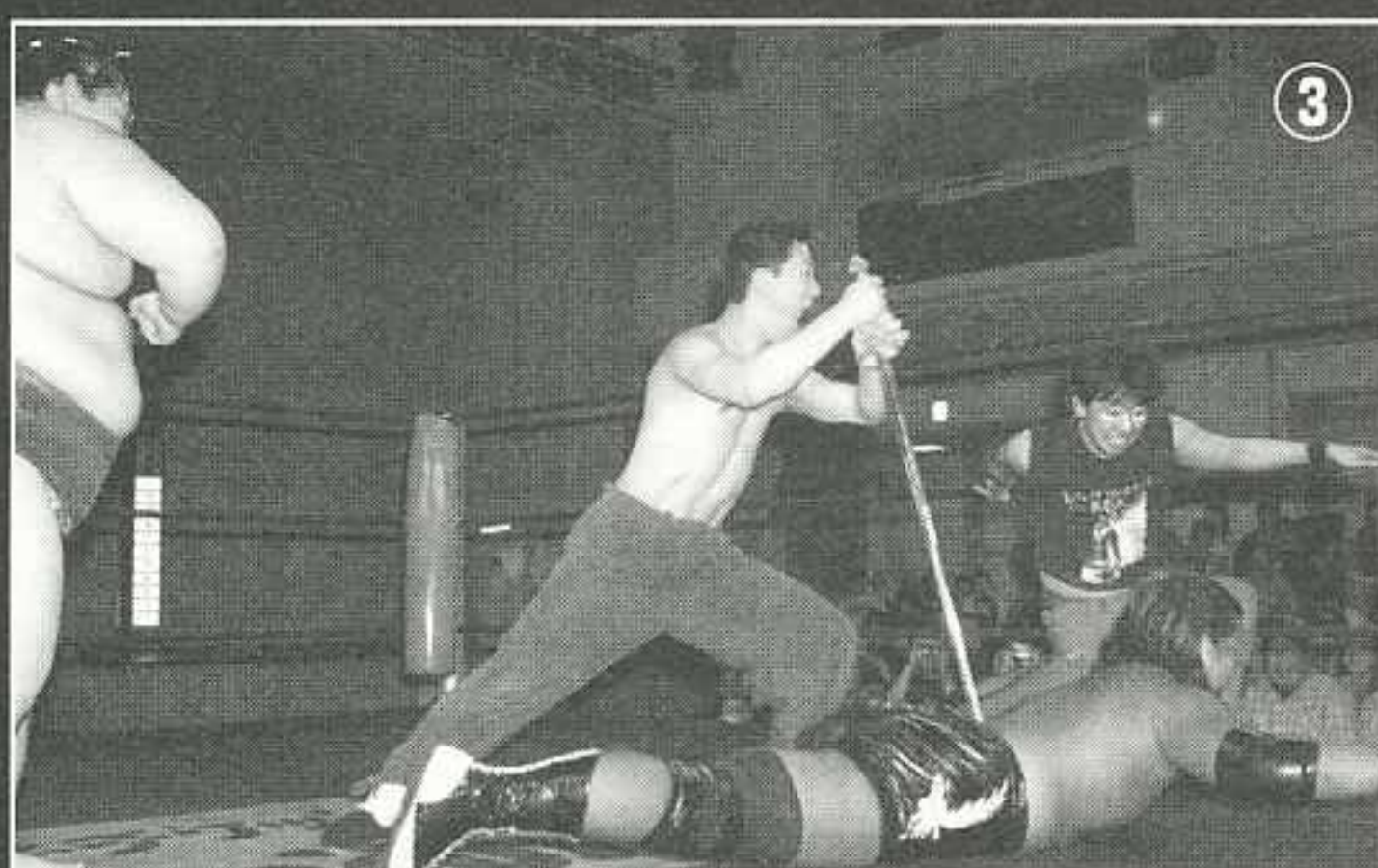
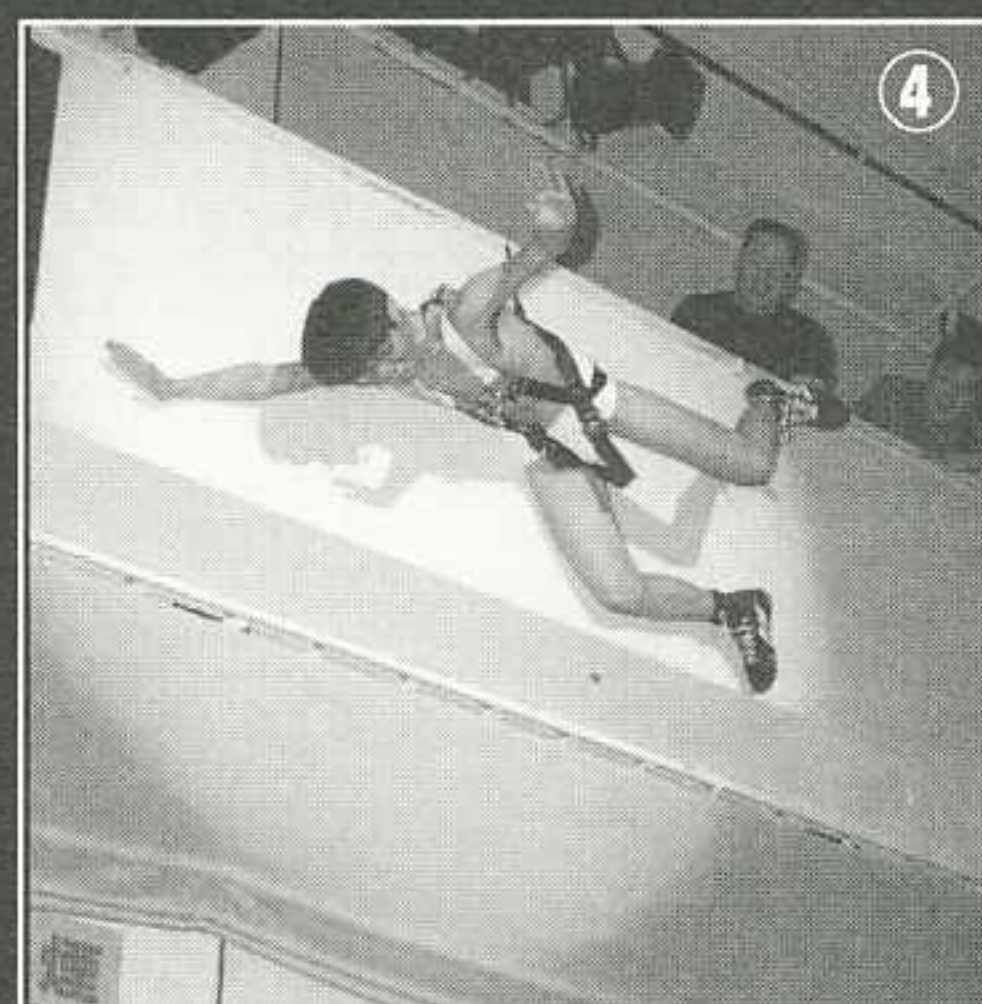
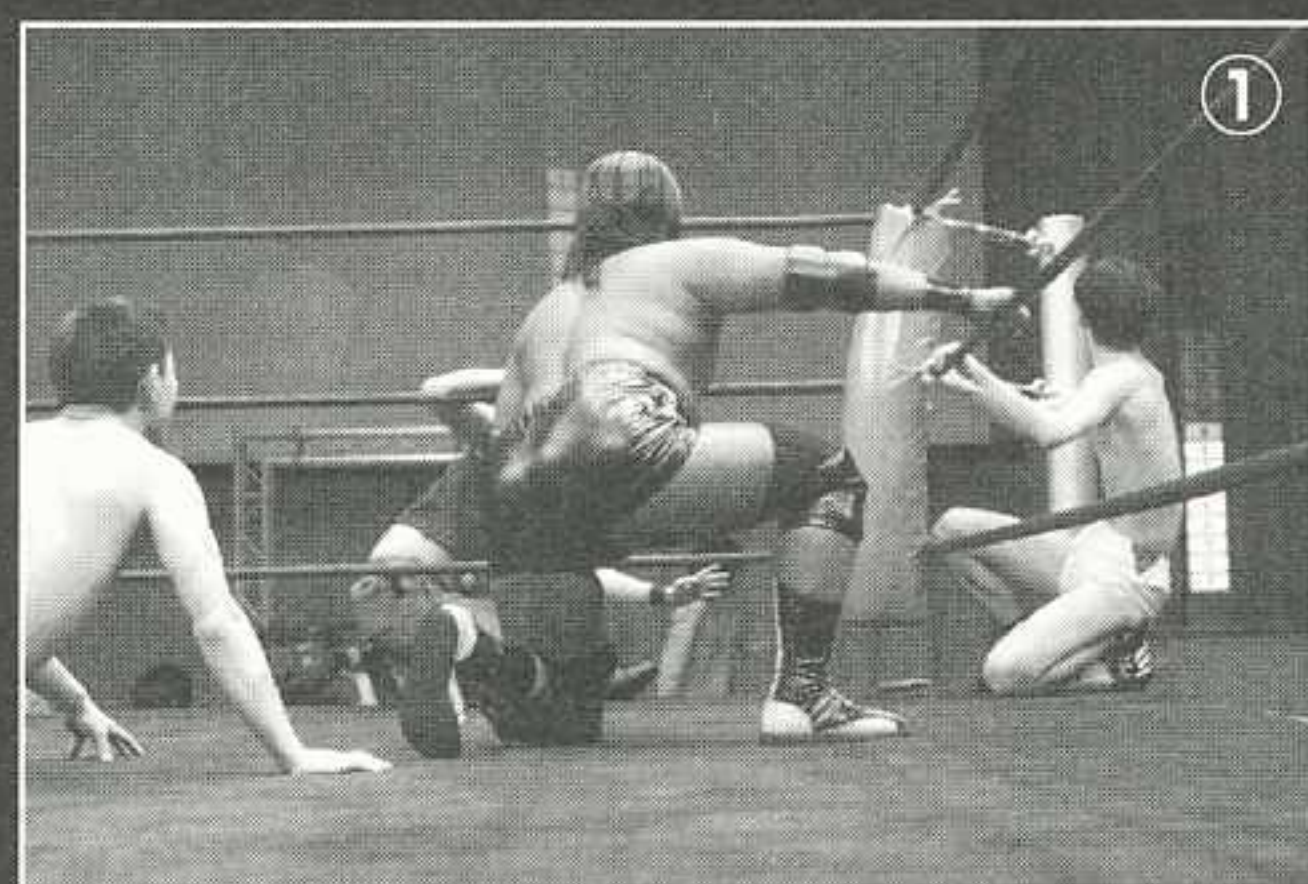
―そのへんも含め、いろんな意味で、今後のマッスルには期待してます！

そして迎えたマッスルハウス……凄すぎマッスル！

“マッスルの新エース”マンモス半田へ公開どっきり!!

①　②　③　④　⑤

この日のマッスルの前半戦は新エース候補・マンモス半田へのどっきり企画。内容的には「勝つなと言われていた相手があっさりタップしたら」「もし対戦相手が子どもを抱いていたら」「もし酔っぱらいが会場に放火したら」「その酔っぱらいがマンモスのお気に入りの女性を人質に取ったら」といったもの。さすがに偏差値U-30王者のマンモスでも見抜いてしまうのではと心配されたが、事前に行なった知力検査で驚愕の答えを連発。映像を見た観客も「これなら大丈夫」と確信したのだったが……。①「エル、エルッ、ピー、ダブリュ!!」との振り付けを引っさげ登場した女子プロファンの酔っぱらい役、最高！②相手が即座にタップし、戸惑いの表情を浮かべるマンモス。③④⑤どっきりにもめげず試合をこなしていったマンモスだったが肝心の種明かしの瞬間「知ってましたよ」とポツリ。その後、酔っぱらいのナイフが本物だったことが発覚。刺された亜門は絶命（休憩後、あっさり復活）。

メインは大鷲祭り！　そしてメガネが決死のバルコニーダイブ!!

①　②　③　④　⑤

①メインには昼のDDTにも出場した大鷲透がまさかの再登場。試合が始まろうとすると亜門がマイクで割って入り、明日、同所で『欽ちゃんの仮装大賞』の収録があるため、いまのうちに大道具を運び込みたいとのアピールが。いざゴングが鳴り大道具さんが北側ステージに設置したのは仮装大賞でお馴染みの得点ゲージ。長年の活躍で意志を持ってしまったという得点ゲージはリング上の闘いに次々と点数を付けていく。しかし、なかなか合格点は出ず試合は進む。②③マッスル名物ともいえるスローモーションに最初は対応せず普通にチョップを放っていく大鷲だったが、3度目のチャレンジでスロー対応を披露すると場内は大歓声。満足げな笑みを浮かべた大鷲だったが、その後、あえなく斬殺される。④⑤最後はメガネが（登山用の安全ベルトを着け）バルコニーダイブを敢行。スローに舞い降り見事、坂井をフォール。得点ゲージは満点の20点を叩き出し、リング上は大騒ぎ！

ファイティングプロデューサー
マッスル坂井の大会総括

どっきり失敗っていうのは、結果的に言うと最初からああなるべくしてなったと思いますね。マンモス半田っていう騙された男の最高の負け惜しみというか、彼の素直な気持ちが出てたと思います。

ただ一つ言っておきたいのは、今回のマッスルはバラエティのパロディとして“どっきり”をやったわけじゃないですから。そのシチュエーションを借りてるだけで。僕はどっきりとか昔から好きでよく見てるんですけど、見終わったあとで「どっからどこまでがどっきりなのかな？」ってずっと思ってて。本当にうまく作ってるときもあるし、いまのはどうなんだろうっていうときもあって。それって僕がファン時代にプロレスを観てて思ってた感情と一緒なんですよ。それをプロレスのリングを使って表現したかっただけで。

まあでも、実感したのは、どっきりがバレたとしても「うわ〜っ、やられた！」みたいな感じの顔ができるのは芸人さんだからってことですね。プロレスラーってああいう場面ではおどけられないんだなって。“どっきり”としてだけ見ると最後は失敗だったかもしれないですけど、お客さんの「エッ!?」ていう気持ちとボクらの「エッ!?」っていう気持ちは完全に一緒だったと思うし、そういうことってなかなか体験できないじゃないですか。その部分では多少満足できたかなっていうのと、あとは後楽園の後ろのお客さんまで届いてたっていう実感もあったんで、そこは素直に嬉しかったです。

マッスル史上初!? 試合内容だけで魅せたジョルノ!!

休憩明けに行なわれたのはフランチェスコ・トーゴーとアントーニオ本多の師弟対決。試合前、亜門から「これどおりにやればバッチリー」と台本を本多に手渡すと、何者かの手が映し出され、その台本を破り捨てる。その男とは本多が尊敬してやまないトーゴーであった。普段とは明らかに違う思いつめた表情でリングに上がった本多はトーゴー相手に純度100パーセント混じりっ気なしのプロレスで勝負。試合内容だけで観客を沸かせたこの試合、最後はトーゴーが弓を引くナックルで勝利。試合後、本多はトーゴーの遠い親戚にあたる東郷への思いを綴った感動的な内容の手紙を読み上げた。その後はリング上の二人だけでなく、セコンドの坂井をはじめ、多くの人がもらい泣き。

全部見せます！マッスルの舞台裏

マッスルの魅力と罠

〝プロレス〟のまったく新しい表現として、混迷するマット界に忽然と登場したマッスル。DDTプロレスのレスラーであるマッスル坂井氏がプロデューサーを務める、いわゆる若手興行の一つではあるが、あまりにオリジナリティ高いその興行をひと目観て腰を抜かし、魅入られてしまった熱狂的ファンがいま激増中である。最近、二度目の後楽園ホール大会を成功させたが、まだまだプロレスファンに認知されているとは言い難く、ここで改めてマッスルの魅力を掘り下げて解説していきたい。

斬新なエンタメプロレスとして独自の道を歩むマッスルだが、観たことのない人へどんな興行なのか、かいつまんで説明するのはとても難しい。マッスル坂井氏自身は「プロレスの向こう側」という絶妙なキャッチコピーを付けているが、筆者は乱暴に「プロレスのリングを使った演劇」と言うことが多い。しかしそう言い切るのもなんだか違う気がする。毎回斬新なアイデアを導入し、常に変化を遂げる実験性の強い興行なので、マッスルがなんなのかは簡単に説明しにくいのだ。ここでマッスルの魅力に直結する、これまでの特徴を具体的に検証してみよう。

まず大きいのが、演劇的手法の大胆な導入である。これまでWWEやDDT等でもストーリーを展開させるために演劇的な表現が使われてきたが、それらよりもマッスルはトークやストーリー部分の比重が圧倒的に高い（それだけに試合内容がお粗末だという批判も多いのだが）。さらに次回興行へストーリーをつなげるのではなく、興行単位で完結した感動的なストーリー作りも印象的である。

また、いままでプロレス興行ではあり得なかった、実験的アイデアを多数投入しているのも大きな魅力。例えば試合中に〝スローモーション〟を使用、メインイベントを行なわない、リングと楽屋をひっくり返す等の様々なアイデアが試みられている。そして〝総合演出家〟鶴見亜門というキャラクターが初参加した『マッスル4』以降、プロレスそのもののタブー領域に揺さぶりをかける過激なネタも導入。『マッスルハウス』では強烈なマスコミ批判ネタが話題を呼んだ。これらはプロレスマニアであればある程「やられた」感が強く、狂喜してしまうわけであるが、逆にプロレスファンでないとわかりにくい部分かもしれない。

さらに、多数のパロディギャグによって観客を笑わせることに腐心しているようにも見受けられる。プロレスネタに限らず、時事ネタや漫画、映画などの数々のパロディを多用。「笑い」という要素を重要視しているのもマッスルの大きな特徴と言える。

また、別撮りしてあるVTR映像を表現に融合させていることも見逃せない。一般的なプロレス興行では、VTRは試合の背景説明で使用する場合がほとんどだが、マッスルにおいては、VTRが不可欠となっている。例えばストーリーを語るためにVTRが不可欠となっている。例えば試合中に回想シーンとしてVTRが挿入される場合もあるのだ。

以上細かくマッスルの特徴を見てきたが、そもそも高木三四郎率いるDDTの別ブランドとして、新たなスター発掘の場という位置付けで始まったものだった。当初からストーリー性は高かったが、回を重ねる毎に表現方法が先鋭的になり、DDTとはまったく別モノへと変貌。どんどん演劇的なスタイルが確立していった感があった。

そこへ来て、5月4日に行なわれた『マッスルハウス2』。これまでとは方向性の違った表現にトライし、新たな地殻変動が起こっている。演劇的表現が薄く、ゲストのリアクションのおもしろさを狙った、まるでTVバラエティショーのパロディと言うべきものになったのだ。今後ずっとこの方向性で行くのか、また演劇色の強いものに戻るのかはわからない。ただ演劇的な方向性では、ややネタのマンネリ化が感じられただけに、そこに留まらずまだ斬新なプロレス表現があるということを証明した興行と言えた。次回以降の〝伸びしろ〟を感じさせただけに、今後もどんなアイデアを投入してくれるのか期待は高まる。すでにマッスルの虜になった人もいまだ観たことのない人も、今後の成長を楽しみに見守ろうではないか。スリー、ツー、ワン、マッスル、マッスル!!

（原口一也）

全部見せます！ マッスルの舞台裏

“プロレスの向こう側”

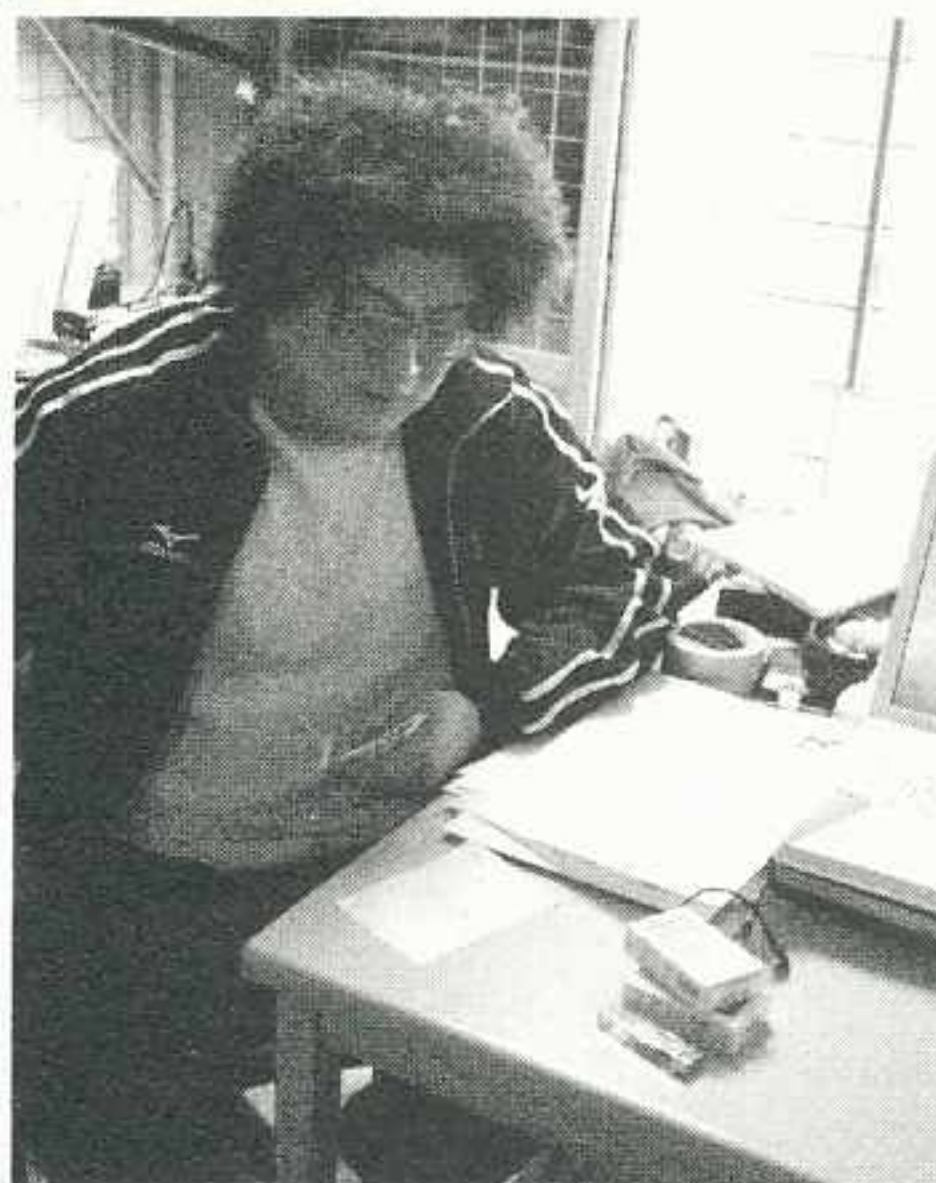
マッスルができるまで

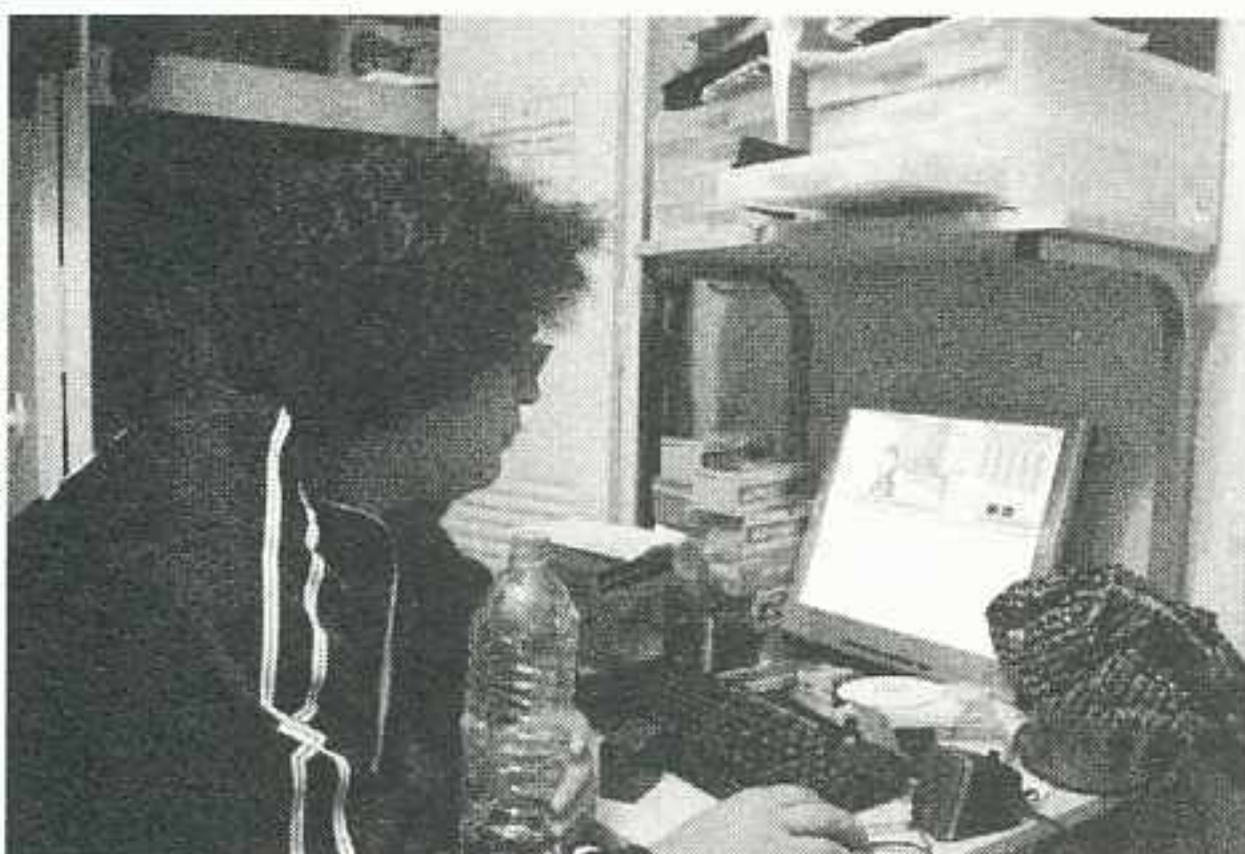
マッスル坂井完全密着

“マッスルの頭脳”といえばマッスル坂井。今回は5・4『マッスル』後楽園大会へ向け絶賛製作中の4月某日、朝から晩まで坂井に完全密着。“プロレスの向こう側”と称されるマッスルは、どのようにして作られているのか？ 迷惑もかえりみず、しつこいぐらいに坂井を追い回し「マッスルができるまで」を追ってみた。こんな生活をしていたら10年もつ選手生命が一年で終わってしまうかもしれない？ 坂井の一日はこんな感じです！

取材／松澤チョロ

スタート

11:00 ギャラ確認

最初に今回の取材の謝礼を手渡すと坂井は「最初に渡してやる気を出させる作戦ですね」とニヤリ。「その通りです。今日はよろしくお願いします！」と挨拶し、密着スタート！

11:15 編集作業

まずはインターネットでチケット申込み状況をチェック。それが終わると5・4マッスル後楽園の主役・マンモス半田の映像を編集。

12:00 小道具買い出し

大会用の小道具を買いに新宿のスポーツショップに向かった坂井と“メガネ”こと藤岡典一だったが残念ながら目的の品は見つからず。

12:12 占い師につかまる!?

マッスルのためならなんでもできるとばかりに坂井は「手相を見させてください」という申し出にも快く右手を差し出す。診断の結果、「運命線はハッキリ出ていいですけど、気苦労が多いですね。2ちゃんねるとかもタメになる情報とそうでないものを使い分けてください」。

12:18 宗教勧誘……!?

占い師から解放された次の瞬間、またしても怪しげな人物から声を掛けられる坂井とメガネの二人。某宗教関係の人物から説明を受け世界平和祈念のため「マッスル」「メガネ」「チョロ」と署名をしておきました。

12:25 メンズエステ勧誘……!?

坂井のヒョウ柄ガウンを無理矢理着させられたメガネに「美顔と脱毛に興味ないですか？」と熱心にメンズエステの営業に励む若者。ズバリ言って声を掛ける人を間違ってます。

12:37 目的地到着

迷いながらも、なんとかたどり着いた先はアウトドアショップだった。坂井曰く「バルコニーダイブをするための小道具を買いに来た」とのこと。いったい何を買おうとしているの？

12:42 目的はロープワーク!?

店内で坂井とメガネが真っ先に手にしたのは『ロープワーク・ハンドブック』（アウトドア用）。このあたりはプロレスラーの血か？

12:57 コスチューム装着!?

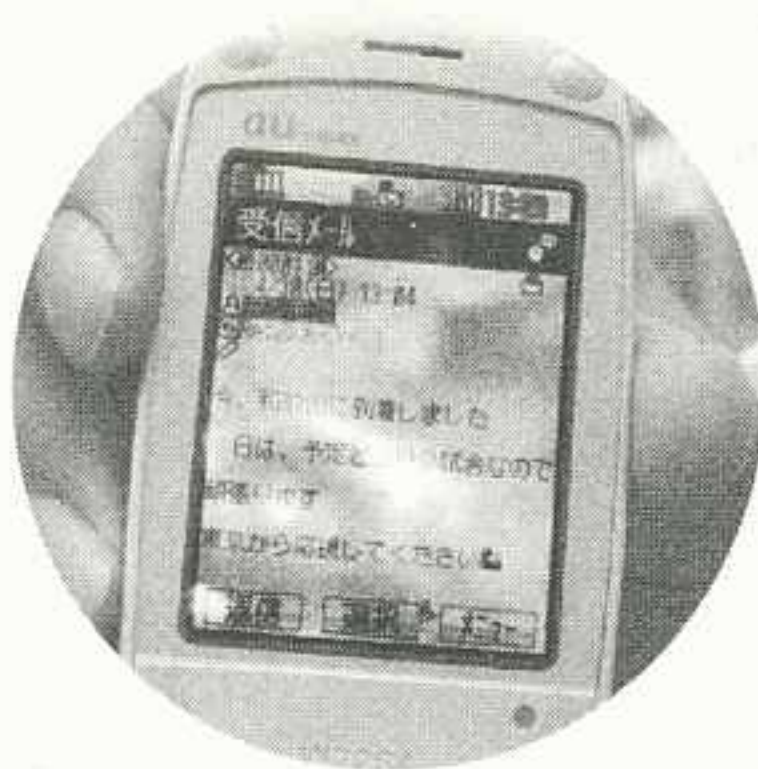
ロッククライミングなどで使用するハーネス（安全ベルト）を装着するメガネ。たまたま店員が用意してくれたハーネスがコスチュームと同じ黄色だったため、ちょっと満足げ。

13:05 空中遊泳開始!?

さすがに「プロレスの大会で使うため」とは言えず、使用目的もわからぬまま丁寧に使い方を説明してくれた優しき男性店員。さすがに、購入目的が後楽園ホールのバルコニーからダイブするためなんて聞いたら売ってくれなかっただろう。う〜ん、マッスル！

13:27 メガネがメガネを拾う

買い物を終えフラフラと新宿を歩いていると落とし物のメガネを発見したメガネ。すぐさま装着したメガネだったが度が合わず廃棄。

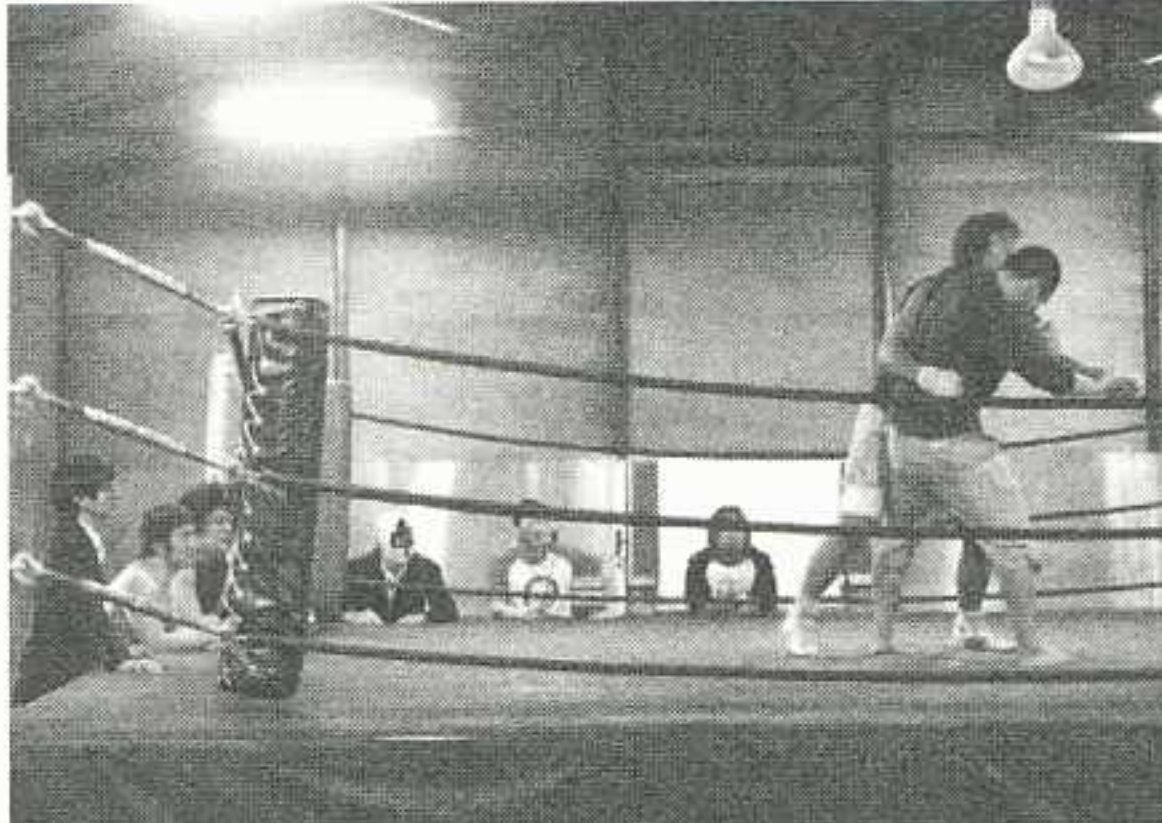
13:32 マンモス半田からラブラブメール到着

前のページでも説明しているとおり、5・4後楽園大会でどっきりを仕掛けられたマンモス半田。マンモスに好意を寄せているという設定の関さんになりすましたメガネの携帯にはラブラブメールが続々と到着。唖然！

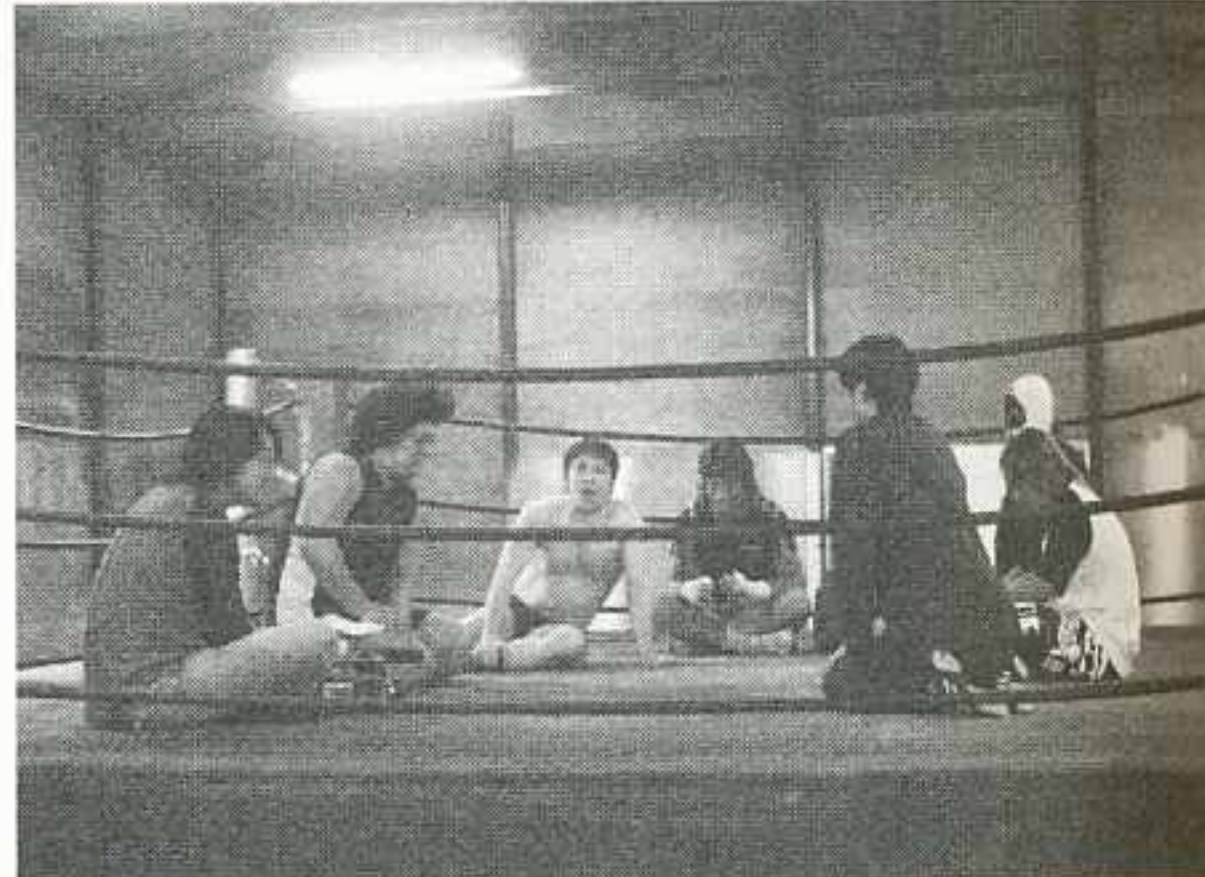
13:47 昼食

ちょっと遅めの昼食は新宿3丁目の中華料理屋へ。メガネと二人っきりで食事をすることはめったにないという坂井。注文したのは大好物の担々麺。身体はデカイが食べる量は普通でした。

16:02 オシャレ雑誌取材

マッスル主要メンバーに続きリッキー・フジがDDT道場に到着。その直後、坂井と面識のあるというオシャレ雑誌『TOKYO graffiti』の編集者が登場。カバンの中身をチェックするという企画の依頼だったが、見事出演を決めたのがリッキー。ご機嫌にバックの中身を公開し、熱弁を奮ったリッキーの様子は近日発売の同誌をチェック！

16:21 スキット撮り

この日は5・4『マッスル』ニアライブ中継の余った時間に放映されるマッスルの二大新ブランド『マッスルランド』と『ファックアップ』のスキット撮りが行なわれた。何げにスキット撮りの様子がプロレス雑誌に掲載されるのは初めてかも。

17:02 打ち合わせ

坂井が中心となり、より良い映像が撮れるよう、みんなで入念な打ち合わせ。そのチームワークの良さはプロレス界随一と言えるかもしれない。違ってたら、ごめんなさい。

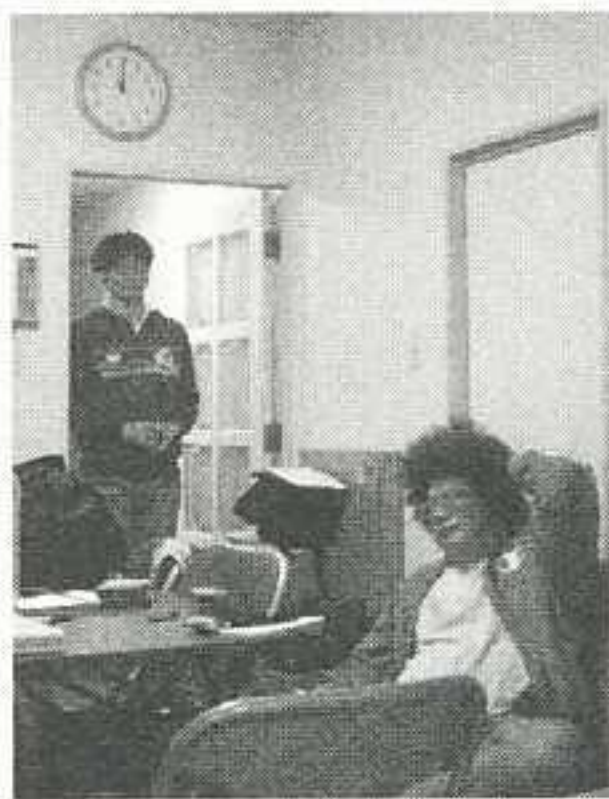
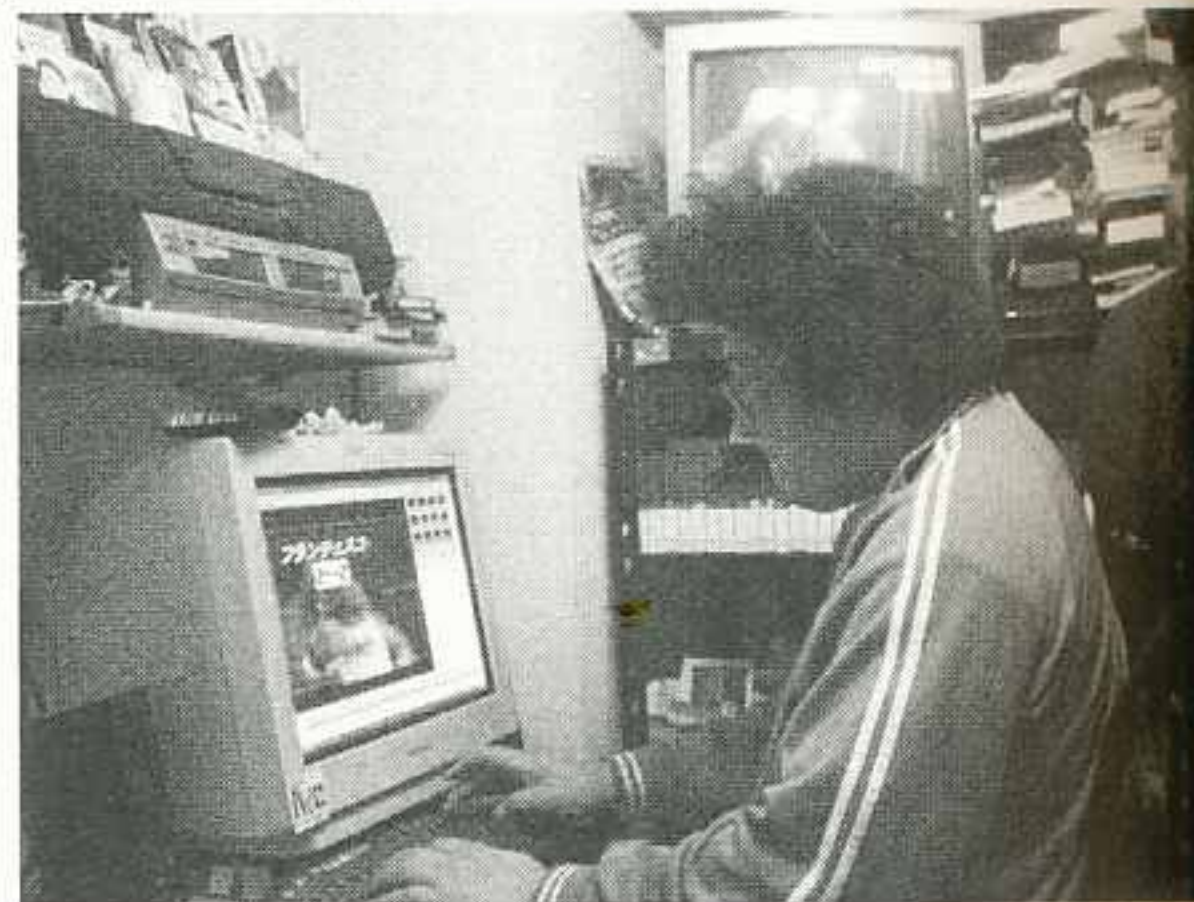
18:11 映像チェック

スキット撮りが一段落すると全員で映像チェック。この日は撮り直しもほとんどなく撮影は5時間ほどで無事終了。ちなみに、この時の映像はサムライTVの『マッスルハウス』中継ニアライブで確認できます。必見です！

21:11 晩ごはん

この日の夕食は坂井の他にスキッド撮りに参加したカメラマンとミスター・マジック、メガネこと藤岡典一の4人で新宿のこじゃれた中華屋へ。またもや担々麺を注文する坂井の横でメガネは熟睡。食欲よりも睡眠欲のほうが上のようです。

23:00 ホッと一息

事務所に戻りソファに横たわる坂井。すでにお疲れモードだが、まだまだ坂井は眠れない。やることは山ほどあるんです。

02:02 DDTの編集作業

坂井の仕事はマッスルだけではありません。この日はサムライTV用のDDT中継の映像受け渡し日前日ということで、眠い目をこすりながらパソコンに向かい編集作業に没頭。

03:12 バタンキュー

しばらく編集ルームでDDTの編集作業を続けていた坂井だったが、深夜3時過ぎ部屋から出てきたかと思ったら「バタン！」と大きな音が。廊下で眠りについてしまいました。

「今回のマッスルの製作日数は実質2週間です」 byマッスル坂井

今回の『マッスルハウス2』に関しては、1月の北沢大会が終わった時点で、3月の新宿FACE大会をすっ飛ばしてネタを考えてたんですよ。3月大会も大事なんですけど、どっちかっていうと前回の後楽園が失敗したんで、そのリベンジがしたいっていう気持ちが強くて。それに「これをやるんだったら後楽園しかない」っていうネタが思いついて。まあ、実際はやってないんですけど、後楽園大会が『笑点』の収録とのダブルブッキングだったっていうネタをやろうと思ってたんですよ（そのネタについて詳しく説明してくれたが、いつか披露する機会があるかもしれないので省略）。いろいろあって、そのネタはできないって判断して、じゃあ何をやろうと思って、『仮装大賞』も後楽園で収録してるから、「大会中に『仮装大賞』の仕込みが始まったらどうなるんだ？」と思って、やったのが今回のマッスルです。構想は早くから固まってたんですけど、実際に動き出したのは4月21日のDDTの興行が終わってからです。スキットの台本を書いたり、みんなで練習したりっていうのはそこからなんで、実質2週間ですね。プロレスの興行としては手間をかけすぎてるけど、演劇としては手間をかけなさすぎですね（笑）。

語ろう、マッスル！

5・4『マッスル』後楽園大会終了後、その盛り上がりのまま近くの居酒屋で座談会を敢行。マッスルフリークの4人で、マッスルの魅力、そして今後の展望など好き勝手に語ってみました。3、2、1、マッスル、マッスル!!

――マッスル特集第二弾の最後は、マッスルフリークの皆さんに、その魅力を語ってもらえればと思っています。

大坪　まあ、マッスルの魅力といえば、やっぱり〝何が起こるかわからない感〟じゃないですかね。いまのプロレス界では一番かもしれない。

――それは言えるでしょうね。

大坪　だって、当日までカード発表がないどころか、始まるまで、まったくストーリーが読めないじゃないですか。

原口　っていうか、予想しようもない。

大坪　しかも、そこまでの流れがわからなくても観れるっていうのがマッスルのいいところじゃないですか。いままでのプロレスって、まずシリーズがあって、ある程度ストーリーが頭に入ってないと楽しめないっていうのがあるけど、本当に一話完結だからね、マッスルって。

原口　マッスルならプロレスの知識がなくても楽しめると思うんですよ。もちろん、知ってたらより楽しめるっていう部分はありますけど。

ダイス　ただ、マッスルをプロレスと思うかどうかってのはありますよね。

大坪　『マッスルハウス2』を観て思ったんだけど、今回はホントにプロレスっていうより、スポーツバラエティって感じだったからね（笑）。

原口　僕はマッスルを知らない人に説明するときに「これはスポーツだ」とか「プロレスだ」とは言えないですね。前から、「これはリングを使った芝居だからおもしろいよ」って友だちとかには説明してますけど。

大坪　今回の後楽園大会はちょっと違うかもしれないけど、いままでの流れから言えば「演劇に近いプロレス」って言ったほうがわかりやすいでしょうね。自分は最近、プロレスって観に行ってなくて、『ゴング』とか『週プロ』を読む程度なんですけど、でもやっぱりマッスルを観だしたら従来のプロレスよりもマッスルのほうがおもしろいんですよ。もちろん、演劇的な部分も含めてなんですけど。

原口　そうなったのはやっぱり『マッスル4』から鶴見亜門っていう、もともと芝居をやっている人がキャラクターとして出てきて、滑舌のいいセリフでキッチリと盛り上げるみたいなことをやり始めてからだと思うんですよ。芝居として、期待感あるマッスルというのが完成したなっていうのは。そこで、新しいプロレスの鉱脈を発掘したみたいな。

大坪　やっぱり、格闘技にもプロレスにも演劇性っていうのがあると思うんですよ。格闘技だって、マイクパフォーマンスなんかどうしても演劇的な部分なんで、そこを極北まで行ったたっていうね。

原口　WWEも演劇的だって言われるけど、そこをさらに突き進んだっていうか。

大坪　だって、「作&演出・マッスル坂井」ってエンドロールに書かれてましたけど、いままでのプロレス界で「作・演出」ってありえないでしょ。

原口　そういうカミングアウトした部分をまたギャグとして昇華させて見せてますからね。そういう意味では、DDTもそうだけど、新しいことをやってるから、これまでプロレスには興味がなかった新しいファン層を掘り起こせているというのもあるんでしょうね。

――名前も近いハッスルもそういう部分はありますよね。

原口　でも、どうなんだろう。ハッスルって、WWEを観てたらわりと地続きというか、演出の仕方としては「WWEみたいなもの」っていう言い方ができるけど、マッスルって凄いオリジナリティが高いじゃないですか。

大坪　これまでになかった見せ方をしてるから、それを受け入れられるかそうでないかというのは、相当、踏み絵みたいになると思いますよ。

――マッスルに限らず、DDTなんかもそうだと思うんですけど、新日本とか従来のプロレスのパクりとかをネタでやってる団体って認識しているファンも、いまだに多いと思うんですよ。

大坪　それはあるだろうね。でも実際問題、一見さんが見れるもんだし、なんかやっぱりマッスルは文系大学生のプロレスって感じがするんだよね。

――なんとなくわかりますね。

大坪　大卒のプロレスラーって、いま増えてるわけじゃないですか。体育会系のレスリング部とか、そういうのが昔に比べて増えてきてると思う。実際、インタビューしたこともあるけど、横井（宏考）とか佐藤耕平とか、やっぱ体育会系といえば体育界系なんだよね。

――どちらもバリバリの柔道部出身ですからね。

大坪　大学出てて、どっかトンパチ的な部分もあるんだけど、そうじゃなくて、早稲田中退の坂井とか文科系の大学生がプロレスを作るとマッスルみたいになるのかなっていう気は凄いするんだよね。

原口　頭でっかちなプロレスというか（笑）。

大坪　でも、根っからのファンじゃないからプロレス研究会のノリでもないんだよね。新日のパロディとかそういうの見てても。パクるところが違うし、プロレス自体はパクってないというか。

原口　なんかサブカル的なものが好きな人がやってるっぽいイメージはありますよ。そういうものが好きな人がプロレスのリングがある設定で、どういう演劇ができるんだろうっていう実験をやっている場というか。

大坪　それをやるにしても、思いっきりがないとなかなかできないことだと思うんだけど、それをやってるってとこが凄いよね。

原口　それをやらせている高木三四郎っていう人の懐の深さというのもあると思います。で、今回の後楽園大会はスポー

座談会出演者プロフィール

原口一也
編プロ（有）STF Projectのボンクラ社長。某格闘技系携帯サイトの編集他、映画ライター、映画雑誌の広告営業等も。笑えるモノは何でも好きでプロレスにも笑いを求めてしまうエンタメ派プヲタ。マッスルでは華麗な飛び技の使い手・Mr.マジックを秘かに応援中。

大坪ケムタ
久しぶりにkamipro登場の本業AVライター。マッスルに飛びつくところに本質のサブカル臭さは脱臭できないと涙。気になる選手はやっぱりマッスル坂井。これからはリアルに「プロレスの向こう側」にいる非プロレスファンにマッスルを届けられるか、彼の脳に期待！

田中ダイス
某携帯サイト記者としてIWAから新日本キックまで幅広く取材をしていたが、現在求職中。『マッスル2』のダイジェストを見て、スポーツ紙記者に魅力を伝達しまくったものの、まったく相手にされなかった。好きなマッスル戦士は華麗なステップが魅力的な虎龍鬼。

松澤チョロ
全然関係ないけど、このプロフィール欄で原口さん以外は、みんな名前がカタカナでビックリ。気になるマッスル戦士は普段とのギャップが激しいアントーニオ本多。あとは先日の後楽園大会に登場した元サムライTVの関さんも気になる（マッスル戦士じゃないか）。

ツバラエティという形でしたけど、個人的には次回からは、また芝居の方向に戻ってくれればって思いますけどね。

大坪　自分もやっぱりそうだなぁ。まあ、3月の『マッスル10』とか、総集編と題して、これまでのオチ自体を使い回すっていうのもそうだし、本当に〝プロレスの向こう側〟に行ってる感はするよね。

原口　あとは、お客さんのスキルが異様に高いっていうのも感じますね。

ダイス　まあ、よく言えばですけど（笑）。

――今回の『マッスルハウス』でも、観客は最初からできあがってましたからね。

原口　明らかにマッスルは客を笑わせようとしてるから、もうお客さんも、ちゃんと笑うために来てるというのはあるし。目的がこれまでのプロレスとは違っちゃってますよね（笑）。

大坪　間違いなく笑いに来てるよね。試合見ようとか絶対思ってないもん。だから、作り手側としては、ある意味プロレス以上に大変だとは思うけど。

原口　完全に笑いがメインになってきてるのって、いまの演劇シーンの小劇場的な部分とわりと似ているような感じがする。小劇場的な匂いがするというか。

大坪　僕も芝居とか好きで良く観に行くんだけど、やっぱり一番近いのは『シベリア少女鉄道』だと思う。

原口　僕もそれは感じますね。

――すいません、ボクはシベリアというと『シベリア超特急』しかわからないので、簡単に説明してもらえますか？

大坪　いま一番話題の演劇で、最初の一時間は普通の芝居なんだけど、最後の30分で凄いどんでん返しがあるというか。ひと言で言うと、芝居と称して芝居じゃないことをやってる劇団かな。

原口　マッスルと近い感じはありますね。仕掛けとか、トリックとかを凄く入れてる部分とか。

大坪　坂井さんと話したときに聞いたら、芝居とか凄い好きでよく観に行ってるって言ってましたし、芝居とか映画からアイデアをインスパイアされているところはあるんだなって納得しましたね。

――普通のプロレス団体だったら他団体がライバルなんでしょうけど、坂井さんの場合は芝居とか、他のジャンルへのライバル心もあるでしょうね。

大坪　プロレスだけじゃなく、ホントすべてのエンターテインメントに対してライバル視してると思うな。

――最後に、今後のマッスルには、どういったことを期待しますか？

大坪　だから、一つの可能性としては、同じ内容を二日、3日とやるってとこですよね。それこそ下北の駅前劇場とか本多劇場にリングを一個置いてやるとか。普通のプロレス興行で考えたら大会場とか地方興行進出ってとこなんだろうけど、あえて、同じ場所で同じ内容のことをやってみるっていうね。

原口　マッスルはそれも可能でしょうね。

大坪　でも、いまこれだけ順調にいってる団体って他にないと思うんですよ。

――サムライTVでも最初は数十秒のニュース映像だけだったのが、このあいだはニアライブで3時間中継でしたからね。

原口　ただ、このまま順調に大きくなっていくと小劇場っぽい、アングラ感あるおもしろさというのが損なわれないかなってのが心配なんですけどね。

大坪　それはねえ。でも、なんか全体的に貧乏臭いから、それはないと思うな（笑）。ゴージャス感はないからね、どんな会場でやろうと。

ダイス　メインアクターがショボイというか、知名度が微妙な人ばっかりなんで。まあでも、松野さんの試合をプロの模範試合と評してやる根性、そしてそれを受け入れる客。これは凄いとしか言いようがないでしょう（笑）。

大坪　ただ、そこがちょっと難しいとこだと思うんですよ。いわゆるインディーファンのノリを重要視するのは、ちょっとどうだろうって。そこを抜けたらプロレスも演劇も超えられると思うんだよね。一見さんでも充分に楽しめるっていう。

ダイス　ボクが思うマッスルというか、坂井さんの魅力って、冷蔵庫の余り物で豪華な料理を作るって、そういう才能だと思うんですよね。そういう意味では、小林カツ代みたいに余り物をうまいこと使っていってほしいですよ。へんにシェフになってほしくないというか。

大坪　後楽園でのマンモス半田みたいにね（笑）。

ダイス　そうです。それがマッスルの生きる道というか、そういうふうに生きていってほしいですね。どうにもなんねぇなと思ったら、ニンニクおろしとか、味の素とか山ほど用意して、それをぶっかけてごまかすっていう仕事を坂井さんとか亜門さんがやればいいと思いますね。

原口　マッスルはホント、坂井さん次第の部分が大きいですからね。

――坂井さんの考える〝プロレスの向こう側〟にこれからも期待しましょう！

5月4日、水道橋『949』にて収録

これぞ“プロレスの向こう側”!! マッスルおさらい

これまでのプロレスイベントにはない数々の画期的な手法を取り入れてきたマッスル。ここでは『マッスル1』から『10』まで何が起こっていたのかを簡単に紹介しよう！

文／原口一也

マッスル1　04.10.13、北沢タウンホール

すべてのマッスルはここから始まった。“ファイティングオーディション”との副題通り、公開オーディションで集められた新人選手による、DDTへの登龍門的位置付けの興行として開催される。この時すでに現在のレギュラーメンバーであるペドロ高石、趙雲子龍、726、虎龍鬼らを発掘。726対isamiの渋谷頂上決戦、そして坂井率いるマッスル新人戦士対、フリーランスのケン片谷、梅沢菊次郎との抗争が展開される。

マッスル2　05.1.4、新木場1st RING

“ファイティング公開入学式”と称し、未熟なマッスル戦士たちが立派なプロレスラーになるため、ツルティモ・ドラゴン校長が経営するツルティモ・ドラゴンジムへ入学するという青春ストーリー。ジムにおける先輩・後輩の上下関係の厳しさを皮肉った抗争を展開する。イタリア人留学生としてアントーニオ本多が初登場。のちの定番ネタである「登場人物をリング上で殺す」という仰天の展開が早くも使用される。

マッスル3　05.3.20、千葉BlueField

副題は“ファイティング公開道場破り”。TAKAみちのく、DJニラが登場し、因縁が勃発した『マッスル2』からの流れでK-DOJO勢との全面対抗戦を開催。K-DOJOから稲松五郎、上越たく、中川ともかが参戦し、マッスル側としてゴージャス松野も初参加。メイン戦で初めてお馴染みの「スローモーション」表現が使用される。またメガネこと藤岡典一が“地底王国の王子”として登場し、観客の度肝を抜いた。

マッスル4　05.5.5、北沢タウンホール

某立ち技格闘イベントをパロった“K-Iグランプリ2005 MAX”を開催し、マッスル戦士たちによるトーナメントが展開される。今大会で名物キャラである鶴見亜門が“総合演出家”として初参加。堂々と「プロレスに演出家を導入する」という設定を持ち出し、業界を震撼させる。試合中に映像を挿入するという表現方法にも挑戦。また、トーナメント決勝戦の試合をやらずに終わるという仰天オチも話題を呼んだ。

マッスル5～8　05.8.14、北沢タウンホール

某メジャー団体の社長をパロったサイモン鶴見という新キャラクターが登場し、真夏の祭一日で開催するという暴挙に。リングを4分割するなど、時間短縮のための様々な試みに挑戦。なんと一日に4大会を連続開催してしまう。『マッスル7』に至っては、「真剣27歳しゃべり場」という某国営放送のパロディで展開。『マッスル8』では藤岡メガネ君が登場し、トリッキーなどんでん返しも試みられた。

マッスルハウス　05.10.2、後楽園ホール

プロレスの聖地・後楽園で開催された記念興行。『週刊リング』編集長・ターザン鶴見が「おもしろくもない試合をおもしろかったと書けるくらいなら、マッチメークから何からマスコミがやりゃいいじゃないか!!」などのプロレスマスコミを挑発する数々の名言を吐く。メインイベントと前座試合をひっくり返したり、出場者が次々と死ぬなど、アイデア盛り沢山。グレート・サスケ、酒井一圭HGが初参戦し、登場人物も豪華だった。

マッスル9　06.1.17、北沢タウンホール

ネットワークビジネスを皮肉った「Amonway（アモンウェイ）」という設定を導入し、社会ネタに挑戦。続いてリングと控室を逆転させ、試合はVTRで見せるだけという試みも。他にもリング上での出産、新北京プロレスとの対抗戦とハチャメチャな展開に。フィナーレは感動的なミュージカルふうの演出。長渕剛の名曲「CLOSE YOUR EYES」が終盤に延々と流れ、耳にこびりついて困ったという観客が続出した。

マッスル10　06.3.5、新宿FACE

初めての総集編大会。過去の物語を巧みに再使用しながら、新しいストーリーを組み上げた。新宿FACEのあるヒューマックスパビリオンビルを利用し、ボウリング、ゲームセンター、カラオケ等、各フロアに選手や観客たちが散り散りに分かれて闘いを同時展開させるという試みに挑戦している。また出場予定だったゴージャス松野が欠場するアクシデントのため、代わりに虎龍鬼が大フィーチャーされるという意外な展開に。

“エル・ポポラッチ”を見たか？

史上初？　あのNHKによるプロレスドラマ番組、それが『エル・ポポラッチがゆく!!』だ。この番組、一話の総放送時間が1分のみ！　さらに放送時間は事前告知なしの深夜帯（第一期の放送予定は終了）。何から何まで前代未聞の「エル・ポポ」を君は目撃できたのか？

構成／真下義之、上杉弁護士　design by さおとめの事務所

「プロレスとNHK」。いままで絶対に結びつかないほど、かけ離れたイメージの両者が、この春、まさかの融合を果たしていた！

fromメキシコチックな正体不明の覆面プロレスラー〝エル・ポポラッチ〟（主演俳優は未公表）。それは彼を中心に〝プロレスLOVE〟な周囲の人々が展開する、かなりシュールな空気感の溢れるドラマ番組。しかも放送時間は……たったの〝1分〟だけ！

それが、この『エル・ポポラッチがゆく!!』（NHK）なのだ。この番組、さらに驚くことに放送時間がきちんと告知されなかった。3月末から開始された時点では、午前2時ごろの深夜帯で突発的に放送されるゲリラ的放送スタイルでスタート。しかも1分という短さのため、番組表に載ることも当然なく、なかなか人々の目に触れなかった。

だが不思議なことに、一部のドラマ好きのあいだでネット上で徐々に話題になり、やがて「見れたらラッキー」なプレミア番組としてその存在を知られていくことになる。

さらにこの番組、驚かされるのは1分ドラマとは思えぬ、豪華絢爛すぎる出演陣だ。エル・ポポラッチが恋するヒロイン・礼子には鈴木京香、プロレスジムのオーナーには鹿賀丈史、道で出会って難癖をつける元レスラーには的場浩司が、そして小料理屋の女将（じつは女子レスラー）には南海キャンディーズのしずちゃんまでが参戦！　これで1分とは本当にもったいない。

しかし、なぜいまNHKが、メインキャラクターにあえてプロレスラーを選んだのか？　何から何まで型破りなこの番組。残念ながら、第一期の放送予定分は終了してしまっているのだが、さらなる盛り上がりや展開が予想される『エル・ポポラッチがゆく!!』

そこで、あまりに謎ばかりのこの番組について、『kamipro』がNHK放送センターにうかがって、番組の制作スタッフを直撃した！

謎の覆面レスラー
エル・ポポラッチ

経歴、実力など一切不明。友人が少なく、テレビのヒーローに憧れる孤独な少年だったらしい。「強くなりたい」という思いが高じプロレスラーに。優しく気弱な心を封じるために、真紅の小粋なマスクをかぶる。兵頭プロ所属。

これが豪華出演陣だ！

礼子（鈴木京香）
プロレス好きが集まる街に引っ越してきた礼子。お米を買った道すがら、エル・ポポラッチと出会い、この日からポポラッチの永遠のヒロインとなる。

兵頭大（鹿賀丈史）
エル・ポポラッチの名づけ親。兵頭プロというプロレスジムのオーナー。ポーカーフェイスでいったいどういう人物なのか、つかめない。

KEN隼（的場浩司）
兵頭プロに所属。様々な伝説を持つカリスマレスラー。その存在は神格化されている。街の小料理屋の女将に憧れている。

美咲（しずちゃん・南海キャンディーズ）
街の小料理屋で、普段は女将として腕をふるっている。だが彼女にはもう一つの顔があった。

米屋のミッキー（温水洋一）
米とプロレスをこよなく愛する。妻と共に独自の精米法で米を最高の状態に仕上げる地下室は、まだ誰も覗いたことがなかったのだが。

米屋のよしこ（町田マリー）
下町の倖田來未と呼ばれる、ちょっと色っぽい奥さん。だが、米に対するこだわり、職人気質は夫以上。

電気屋さん（小栗旬）
電気屋さんでバイトする青年で、その人物像は不明だが、エル・ポポラッチが頼ったという唯一の友人とは、彼のことか。

バーガー屋さん（中越典子）
バーガー屋さんでバイトする。その人物像は不明だが、兵頭大は彼女の笑顔に「癒し」を感じている模様。

NHK史上初のプロレス番組？
突然放送される1分ドラマ？

君は、“エル・ポ

NHKのイメージアップに「プロレス」が選ばれた理由とは？

エル・ポポラッチを創った男たち

当日、案内された部屋には、なんと5名もの番組関係者が勢揃い。いずれも企画時点から関わったメンバーの皆さん。その中でも今回はチーフ・プロデューサーの吉田雅夫氏（写真、左端）、衛星放送局（編成企画）の石倉清史氏（写真、中央）、番組ディレクターの大友啓史氏（写真、右端）を中心に話をうかがった。

さてこの『エル・ポポラッチがゆく!!』、どんなきっかけで制作がスタートしたのか？「じつは一連のNHK不祥事が相次いだことでNHKのイメージを一新できないかと若手が立ち上げたプロジェクトなんです。放送業界で言う1分間のスポット枠を使ってとくに若い世代へ向けて「新しいNHK」をPRできないか？ というのが出発点ですね」と吉田氏は語る。

だが実際には会議を重ねても、断片的なアイデアが出るばかり。そんなとき誰かの「覆面レスラーを主人公にしてみたら？」という案に、皆が一致団結、一気に企画がまとまってしまったという。

大友氏は「1分なんで、とにかくキャラ立ちするものが必要だった。大晦日を見ればわかるけど“NHKと格闘技”とか“NHKとプロレス”って一番距離がありますから（笑）。でもそのギャップが魅力的でしたね」と語る。そう、NHKがプロレスを取り上げることで「これ、NHKなの？」と関心をもってもらい、しかも「口コミで広げる」というのが狙いだった。

また石倉氏は「プロレスっていわば社会の縮図ですよね。とくに覆面レスラーは“ホントの自分”と“偽りの自分”という、普遍的な部分もある。へんな話、私たちだって様々な仮面を持っているし、素顔をさらけ出したい気持ちもあるけど出せない。そんな葛藤も含めて、根底のところでプロレスというジャンルがピッタリきた」と語る。

だが実際にこの破天荒な企画を通すのは大変だったようで、吉田氏は「プロレスって題材はもちろん、放送スタイルを含めてとにかく前例がない（笑）。NHKは全国放送だから各方面に話を持すんだけど、一から説明すると凄くわかりにくい。だから、最初に番組を作ってしまった」と笑う。

写真左上：リング上での撮影にはK−DOJOが全面協力。しずちゃんの未公開プロレス技映像もあるらしい！　写真左下：エル・ポポラッチのマスクデザイン用には膨大な数のラフスケッチが描かれた。

ただ1分ということ、シュールな面もあるので内部の人間も「やっぱりわからなかった（笑）。だから『放送して反応を見てください』って。なだめつつ放送に持ち込みました」と大友氏は振り返る。

異常に豪華なキャストに関しては「最初に鹿賀丈史さんに、覆面とかポスターを見せて説明したら、鹿賀さんは『こういうの、やったほうがいいんだよな？』ってOKしてくれた。基本的に皆さんノリノリでやってくれましたね」（大友氏）と出演者もこの意欲的作品に興味津々だった模様。ちなみにエル・ポポ役の某俳優はかなりのプロレス通として知られている。今回、撮影に全面協力したTAKAみちのく率いるK−DOJOの撮影では一人大興奮していた、とのこと。しずちゃんもプロレスの技を数パターン熱心に研究していたらしい。凄いぞ、しずちゃん！

反響は次第に大きくなり、いまやグーグルで“エル・ポポラッチ”を検索すると15万件以上のヒット、HPのサイトアクセスは約5週間で36万件。感想のメールは600件以上。番組表に載らない番組にしては、驚異的な数字。支持者もほとんどが30代以下と、当初の狙いは結果的にクリアした格好だ。

今後の展開に関して石倉氏は「当然、まだまだ次も考えています。この反響を持って、立ち上げたときと同じような局内営業活動をします。これからが勝負ですね（笑）」と語る。いずれは長尺のドラマ番組、はたまたNHK内でのプロレスイベントも実現したい！ という夢は無限大に広がるばかり。これからも神出鬼没のイメージを大事にして、じわじわとやっていくという。『エル・ポポラッチがゆく!!』の動向に今後も目を離すな！

全5話ストーリー

『エル・ポポラッチがゆく!!』は全5話が制作された。放送予定が明らかにされず「何話がいつ見れるかわからない」システムが逆に話題に。視聴者からのリクエストに応え、5本まとめた「お徳用サイズ」も放送された。

第1話「ある橋の上にて」
キャッチコピー『きっと見たくなる』

橋の上でのんきに歩くポポラッチ。だが通りすがりのレスラー、KEN隼（的場浩司）に因縁を着けられ、マスクを脱ぐとその下にもアンダーマスクが。気に入らないKENにボコボコにされる。

第2話「リングにて命名」
キャッチコピー『愛着わきました』

道場のリングで、レスラーが練習を繰り広げる中「“エル・ポポラッチ”ってどういう意味？」とジムのオーナー（鹿賀丈史）に尋ねるポポラッチ。名前の由来を知ったポポラッチは……。

第3話「お米屋さんにて」
キャッチコピー『思わず見てしまう』

礼子（鈴木京香）がお米を買いに行くと、ラリアット米、反則米、秋田エルボーなどの銘柄が。店の店主を追うと奥の部屋ではリング上でプロレスが……。礼子はその景色見入ってしまう。

第4話「街角にて」
キャッチコピー『待ってちゃだめだよ』

米屋を出た礼子に街角ですれ違ったポポラッチ。米袋が破れていることに気づく。「農家の人に怒られます。あなたが、私も」とポポラッチ。道端で二人は米を拾い集める。

第5話「小料理屋にて」
キャッチコピー『裏も表もありません』

小料理屋の女将美咲（しずちゃん・南海キャンディーズ）がカウンターでKEN隼につぶやく。「人間はな、ウラと表があるんや」。突如シーンが変わり、派手なカウンを纏った美咲ちゃんがリングイン！

読者がやみつきになってもしらないインフォメーションコーナー

kamipro Addict!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
マット界中毒警報発令!

初代王者・所英男に続け! 第二回グラップリングトーナメント開催!!

04年3月にフェザー級（65キロ以下）のファイター8名によって行なわれ、好評を博した賞金争奪グラップリングトーナメント『GT-F』が第二回大会を開催! 第一回大会では、その後『HERO'S』で大ブレイクすることになる所英男が優勝しており、今回のトーナメントも"第二の所"の出現に注目が集まる。現在出場が決定しているのは、アブダビ・コンバット準優勝という輝かしい経歴を持つバレット・ヨシダら7人。その中には総合を引退した柔術家、TAISHOら寝技の強豪がズラリ。残り一枠、ディフェンディング・チャンピオン、所の参戦はあるのか!?

ZST『GT-F2』

★日時　5月27日（土）17:00開始（※ジェネシスバウトは16:40開始）
★会場　東京・ディファ有明
★トーナメント出場予定選手　勝村周一朗、大石真丈、奥出雅之、TAISHO、今泉堅太郎、バレット・ヨシダ（米国）、ジェイソン・ラインハート（米国）ほか1名
★問　ZST　03-5388-0808

ヘビー級トーナメントもいよいよ大詰め! フェザー級トーナメントもスタート!!

パンクラス『PANCRASE 2006 BLOW TOUR』

★日時　6月6日（火）19:00開始　★会場　東京・後楽園ホール
★主要対戦カード
【第2代ヘビー級王者決定トーナメントBブロック 準決勝／5分2R】
アルボーシャス・タイガー（ラトビア）vs 野地竜太
【初代フェザー級王者決定トーナメント一回戦／5分3R】
前田吉朗 vs 山本篤　志田幹 vs DJ.taiki
【スーパーヘビー級戦／5分2R】小椋誠志 vs アンソニー"辰治"ネツラー
【ライト級戦／5分2R】山田崇太郎 vs 関直喜
★問　パンクラス　03-5792-0815

必死のプロレスをやっていく!!

ビッグマウス・ラウド『BIG MOUTH ILLUSION 5』

★日時　6月18日（日）12:00開始
★会場　東京・後楽園ホール　★出場予定選手　柴田勝頼
★問　ビッグマウス・ラウド　03-3888-3375

ついに王道脱却! 新宿へ転戦!!

キングスロード『バトルリーグ』

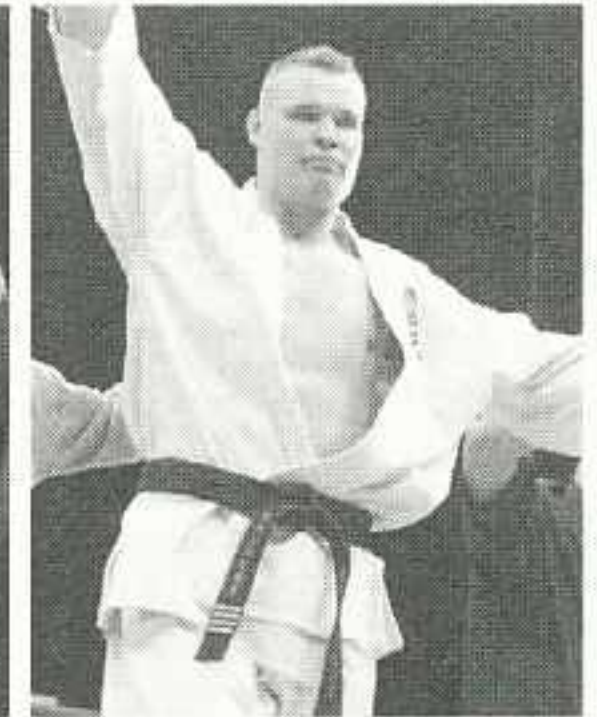
★日時　5月28日（日）12:30開始　★会場　東京・新宿FACE
★出場予定選手　宮本和志、石狩太一、相島勇人、長井満也、橋本友彦、池田大輔、高西翔太ほか
★問　キングスロード　03-3403-7344

バト師弟タッグがBML軍を迎撃するか!?

バトラーツ

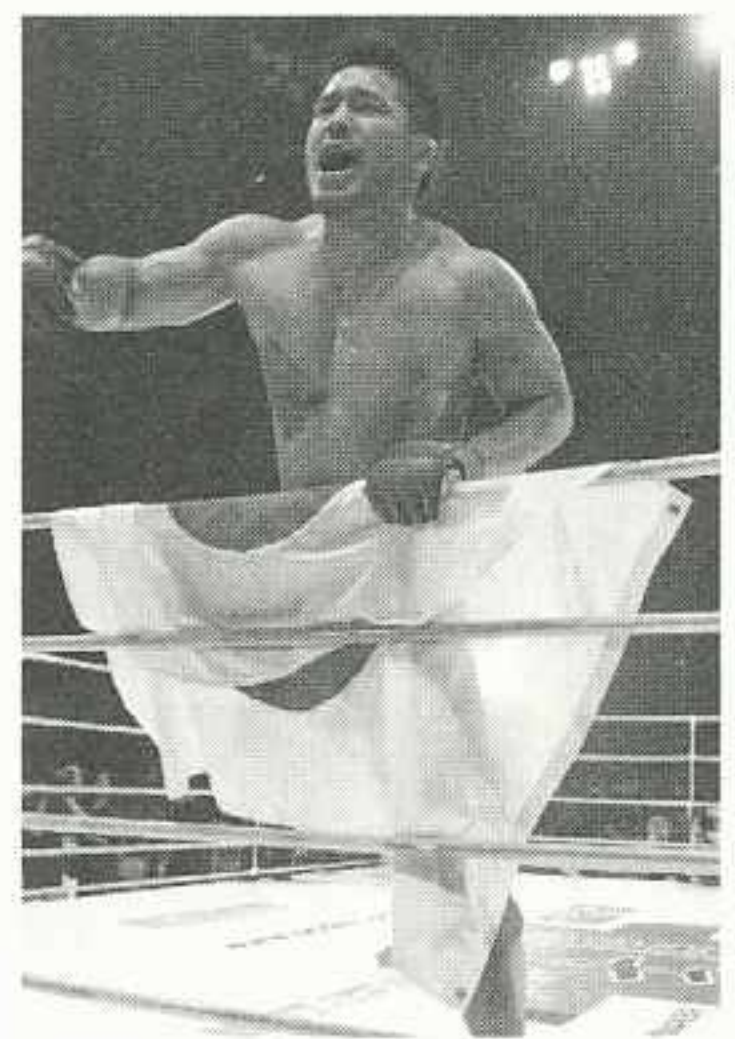
★日時　5月28日（日）17:00開始　★会場　埼玉・桂スタジオ
★全対戦カード
石川雄規 & 澤宗紀 vs 村上和成 & 原学
池田大輔 vs 竜司ウォルターズ　伊藤博之 vs イナズマジュンジ
佐々木恭介 vs 越後隆　臼田和美 vs 吉川祐太
★問　バトラーツ　0489-63-0005

アジアの強豪がワンナイト・トーナメントに集結! "踊る大巨人"ホンマンが王者シュルトと激突!

身長212cmを誇る昨年度GP覇者シュルトとそれを上回る身長218cmの韓国の英雄ホンマンが激突! セフォー 対ルスランなど豪華なおまけカードが揃った今大会、モンスターファイトを肌で感じたい人は、TV観戦ではなく週末利用しての韓国密航も悪くないかも。ガオグライらが争うアジアGPには、韓国内で高まるK-1人気を受け、ホンマンに続けとばかりに韓国相撲シルムの横綱、キム・ドンウックと関脇クラスのキム・ギンソックが参戦。はたしてシルム旋風は巻き起こるのか!?

K-1『WORLD GP 2006 IN SEOUL』

★日時　6月3日（土）　開始15:30　★会場　韓国ソウル・オリンピック第一体育館
★スーパファイト対戦カード
セーム・シュルト（オランダ）vs チェ・ホンマン（韓国）
レイ・セフォー（ニュージーランド）vs ルスラン・カラエフ（ロシア）
ピーター・アーツ（オランダ）vs X
★アジアGP出場予定選手
キム・ミンス、キム・ドンウック、キム・ギンソック（以上、韓国）、中迫強（日本）、王飛龍（中国）、ガオグライ・ゲーンノラシン（タイ）、メハディ・ミルダブディ（イラン）、ほか1名
★問　FEG　03-3796-5060

ミルコ戦で散った美濃輪が強行出場!? 藪下は病院送りにした相手とキックルールで再戦!!

中京地区の格闘技界に多大な貢献を果たしてきたCMAの設立10周年を祝って、DEEPが"CMA祭り"日韓全面対抗戦を開催。日本チームの大将・美濃輪は『PRIDE無差別級GP』から19日という短い期間での再出陣となる。美濃輪はGP前の会見で「昔、『いつ、なんじ（発言ママ）、誰の挑戦でも受ける!』っと言ったプロレスラーがいた。時間とか日数は関係ない。それに試合間隔が短かければ、時間をスローモーションにすればいい」といつもの美濃輪節を炸裂させて、出場に問題がないことを強調。しかしGPでミルコの打撃を浴びたばかりではさすがのリアルプロレスラーも出場が危ぶまれる。はたして美濃輪は、常々公言している"火事場のクソ力"を発揮させて、後楽園ホールに、その勇姿を見せてくれるのだろうか?

DEEP『CMAフェスティバル』

★日時　5月24日（水）18:30開始　★会場　東京・後楽園ホール
★主要対戦カード
【日本対韓国全面対抗戦】美濃輪育久 vs バク・ヒョンガップ
恩田剛徳 vs キム・ジョンチョル　高橋洋子 vs イ・ヨンジュ
藪下めぐみ vs キム・ヒョンソン　せり vs ジョン・ヨンシル　鬼木貴典 vs ジョン・ムンソク
★問　DEEP事務局　052-339-0303

ヤマケンが米国修行中!

格闘家としてデビュー12周年を迎えたヤマケンこと山本喧一が、再スタートを決意し、日本での恵まれた環境を捨てアメリカに武者修行中! そのヤマケンが、エメリヤーエンコ・ヒョードルが来場するMFC17に参戦! 「もう一度、PRIDEでリベンジして、髙田さんに恩返しする」と誓うヤマケンの姿は王者の目に留まるのか!?

『MFC17』

★日時　6月3日（土）　★場所　米国・アトランティックシティ
★主要対戦カード　山本喧一 vs カリーム・エリントン

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5385-8285
〒164-0001 東京都中野区中野3-17-1 コーポフロンティア301
http://www.cbox100.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘 03-3524-1071
〒104-0061
東京都中央区銀座4-14-17 渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区東六本木7-5-11-605
http://www.kings-road.jp

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seikenshinkageryu.com

■仙台ガールズ・プロレスリング
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F
http://alljapan.keyblog.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場 03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.net

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp

■GIRLS DOOR
03 - 3907 - 2909
東京都新宿区西新宿7-2-6 西新宿K－1ビル6F
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO
044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R
044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193－11
http://www.hiromitsu-kanehara.com

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS
0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Girl

TK引退の陰で、PRIDEガールも交代!!

5月5日、『PRIDE無差別級GP開幕戦』。高阪剛がマーク・ハント相手に引退を懸けた試合で壮絶な“男の散り際”を見せたとき、『PRIDE』のリングに華を添えてきたPRIDEガールも卒業した。これまで21回ものイベントで活躍してきた彼女たちは「卒業するのは本当に寂しい」と声を揃えながらも、「これからは一ファンとして、ずっと『PRIDE』を応援し続けます!」と笑顔。今後の彼女らの活動を見守っていきたいところだ。同大会では、新PRIDEガールも登場。やや緊張した表情でリングに上がった新ガールの活躍にも期待!!

©DSE

上：卒業した旧メンバー　下：新PRIDEガール

Girl

コスプレ女子レスラー広田さくらがリング復帰!?

GAEA JAPANを卒業したコスプレ女子プロレスラーの広田さくらがリングに復帰!? と思いきや、そこはあくまでも、リングのある舞台。設定は「とある女子プロレス団体の某地方大会、女子プロレスラー達の控室。中堅レスラー・広田さくらは、準備・試合・先輩のお世話と、今日もせっせと仕事に勤しむ日々。独特の伝統・格式が支配する、非日常の世界・女子プロレスの、その、ツラくも楽しい理不尽な日々の中で、さくらはある決意をする……」というもの。マッスルが演劇の手法を取り込むなど、演劇とプロレスの距離が近く感じられるようになったこの頃、広田ファンならずとも必見の作品だ。

『生（ナマ）全部広田。（仮）』
★公演日程　6月2日（金）19:00開演、3日（土）14:00&19:00開演、6月4日（日）15:00開演
★会場　東京・新宿シアターブラッツ
★構成・演出　勝栄（WAHAHA本舗）、広田さくら　★脚本　勝栄
★出演：広田さくら、安東和一郎、ヴァチスト太田
★チケット　前売¥3,500／当日¥4,000　★問　ガイア　03-5701-7601

Girl

キックも総合も! ジョシカクオープントーナメント開催!!

須藤元気が所属するアスリートマネージメント会社・スーパーエージェントと大誠塾が女子格闘技の発展と格闘家の発掘を目的に、キックボクシング&総合のオープントーナメントを開催!! 優勝賞金は10万円! ジョシカクを盛り上げたい人、お金がほしい人はドシドシ応募すべし。優勝選手には芸能&スポーツのマネージメントが行なわれます。

トライアルリーグ実行委員会『ATHENS』
★日時　6月25日（日）　13:00開始
★開場　東京・ゴールドジム大森
-50キロ級と-55キロ級の二階級で各8名の選手によるキックボクシングと総合のオープントーナメントを開催（※申し込み多数の場合、書類選考の上、都内にて予選を行う）
★参加資格　健康な女子であれば誰でも（但しマネージメントフリーな方に限る）
★問　大誠塾　047-336-9177

DVD

空中元彌チョップ炸裂!! HGも衝撃のデビュー!!

見よ！ これが伝説の“空中元彌チョップ”だ! ハッスル史上最大のイベント『ハッスルマニア2005』を収録したDVDがついにリリース!! ワイドショーやスポーツ紙を賑わした元彌のリングでの立ち振る舞いの全貌がこのDVDで明らかになる。またこの大会で、デビュー戦にしてメインイベントを務め、一気にハッスル軍の救世主になったHGの闘いぶりをデビュー発表記者会見の映像も含めて完全収録。さらに『ハッスル・ハウスX'masスペシャル “HARDGAY'S NIGHT フォー!!” & “涙のラストM字ビターン!”』の両大会も網羅。ハッキリ言って、一家に１枚の永久保存品。キミも買いたまえ! ビターン!!

『ハッスルマニア2005』
★収録　本編約220分+特典映像
★価格　5,040円（税込）　★発売日　5月26日
★問　メディアファクトリー　カスタマーセンター　03-5469-4880

DVD

西島洋介、入魂のデビュー戦! PRIDE史上最大の乱闘も勃発!!

現在、開幕中の、世界最強の座を夢見て闘う男たちに用意された『PRIDE無差別級GP』。この夢舞台へ出場するための16枚の切符を巡って、今年2月、究極のサバイバル合戦が行なわれた。その『PRIDE.31』がDVD化。大会のテーマは「Dreamers（ドリーマーズ）」。圧倒的にキャリア・体格で優るハントを相手にひたむきに闘う西島の感動的なPRIDEデビュー戦や、アリスターのビッグ・アップセット、コールマンらハンマーハウス勢とシウバ率いるシュートボクセ勢の大乱闘など見どころは満載！ 7月に行なわれる『無差別級GP二回戦』前にもう一度、それぞれファイターの軌跡を観て、気持ちを盛り上げろ!!

『PRIDE.31 in SAITAMA SUPER ARENA』
★収録　本編約120分十特典映像（バックステージ）
★価格　¥5,040（税込）　★発売中
★問　メディアファクトリー　カスタマーセンター　03-5469-4880

Hand

携帯サイト『Kamipro Hand』が、他のプロレス&格闘技サイトに先駆けてPHSキャリア・ウィルコム参入決定!! 6月上旬より配信開始！ 詳細およびスタート日時は、ウィルコム端末からhttp://kamipro.dsn.ne.jp/hand/へアクセス！ ウィルコム参入を記念して、6月は「30の質問」スペシャルを実施！ なんと某団体のあのフロントも登場予定です！ 写真は5月カレンダーのRGM。このほかいよいよ着ボイスも配信開始！ 第1弾はケロちゃん!! ケロちゃんボイスがメール受信を教えてくれます！ 橋本宗洋氏のコラム「格闘まいう～通信」も5月1日から絶賛配信中です！

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

紙プロHand

新 卓球少女(似) 松下ミワの
ハガキ愛ランド

花粉症が終わったと思ったら、今度はジメジメかよ!!（三村）とご立腹の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。そんなさなか、格闘技界はまさにショック死寸前の出来事が勃発しましたが、『kamipro』読者の皆さんはハガキページをショック！　じゃなくてチェック！　でお願いします。それではいきますよ。位置について、よーい、ショック!!

kamipro98号へのお便り紹介

ミルコ・クロコップの記事を興味深く読みました。大晦日以降の動きが気になっていましたが、記事の内容からもモチベーションがなく感じられ、今後が気になります。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・26歳】

↓5・5プロレスラーハンター完全復活！　最強メンバーが揃った『PRIDE無差別級GP二回戦』での活躍が見逃せません!!

私は美濃輪選手が大好きです。こんな人が生きていてくれるだけで救われます。「プロレスバカ」「キ○○イ」「チクワ」……。いじめられているっていうか、バカにされていたというのは笑ってしまったのですが、そんなふうに彼をいじめていた人たちよりもバカにされていた美濃輪選手のほうが大物&本物ですよね！

【東京都・西田美智香さん・OL・27歳】

↓目をキラキラさせながらミルコ戦を楽しみにしていた美濃輪選手ですが、う〜ん残念！　牛丼うんとおかわりして、また復活してください!!

所さんの「パワー・オブ・ドリームTシャツ」を当ててくださって本当にありがとうございました。高校の部活から帰ってきたら家に『kamipro』から郵便物が届いていたので、キャーって思いました!!　袋をあけたら所選手の生々しいサイン入りのTシャツが入っていたので、本当の本当にものすごく嬉しかったです!!

【大阪府・岸田さん】

↓5・5『HERO'S』で、インドの英雄・ブラックマンバは岸田さんのような多くの女性ファンを敵に回したことでしょう。所選手の復活を祈るのみ!!

「芸人から見たハッスル」が面白かった。私が好きな芸人さんばかりで驚きました。やはり、お笑いとプロレスは共通点が多いですね。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・39歳】

↓キャプテン☆ボンバーが友だちのなかやまきんに君の話ばかりするところに、私はもうゾクゾク来ました。オイ！　俺の上腕二頭筋、オイ!!

先月号に続いて、田中ケロ氏のインタビューが面白かったです。ケロちゃんという名前の可愛らしさとは裏腹に毒舌満開!!

【千葉県・匿名希望・会社員・43歳】

↓ケロちゃんはI編集長お墨付きの賢さを誇る人物。新日本から離れ、早くもDDTのリングで活躍中です!!

後藤達俊は面白い!!　やっぱり昭和の新日レスラーは最高だ！　あとはキムケン、グラン浜田、久々に谷津のインタビューをやってもらいたい。ケロのインタビューができたんだから、できるはずだ!!

【三重県・マンモスさん・小売業・32歳】

↓スキンヘッド時代のあの風貌で結婚のお申し込みをされた奥様は、ある意味、幸せ者すぎる!!

ジョシュのインタビューを読んで、ますます応援したくなりました。プロレスラーが『PRIDE無差別級GP』を制覇すべきだ!!

【東京都・野村直人さん・宣伝マン・37歳】

↓『PRIDE無差別級GP』アレキサンダー戦は本当に素晴らしすぎる闘いっぷりでした!!　このまま一気に優勝なるか!?　邪魔するヤツは指先ひとつでダウンさ〜♪

「金ちゃんのどこまでやるの?」がよかった。ボヤキング節は健在。また応援に行きます！

【石川県・浅井清治さん・会社員・33歳】

↓盟友・世界のTKの闘いっぷりに負けじと、金ちゃんにもどこまでも突き進んでほしいものです！

「I編集長の喫茶店トーク・ラウド」は良い。毎回、独特の口調、自信たっぷりに語っているところが良い。

【東京都・大里加哉子さん・歯科関係・45歳】

↓突拍子もないと思いきや、I予言のほとんどがことごとく当たっているのには本当に頭が下がります。五味選手もI編集長の原稿は必ず読んでください。

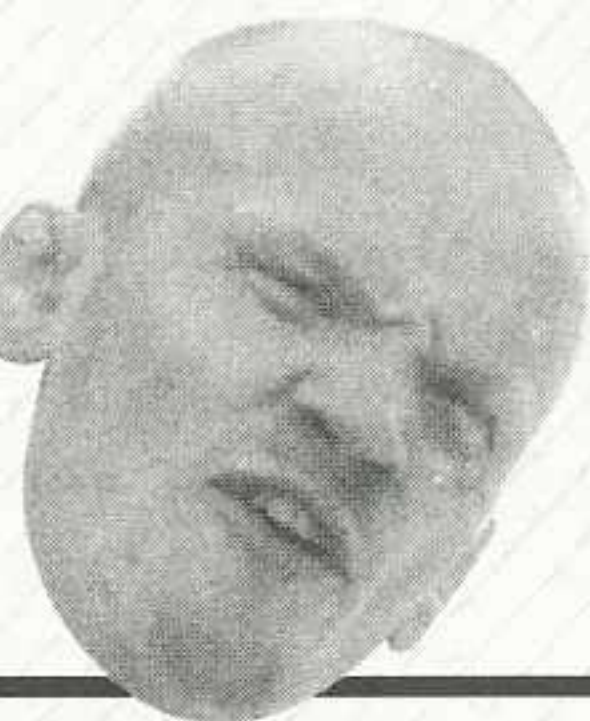
ヨアキム・ハンセンのインタビューが良かった。ハンセン選手のファンなので。得意なイラストを描いてもらうあたりは、『kamipro』だからなせる業だなと感じました。

【滋賀県・多久健一さん・大学院生・25歳】

↓最高にナイスなイラストを描いてくれたハンセン選手。ヒョードル選手、武蔵選手らと、マンガ60億分の1をぜひ決してほしいなあ。

インリン様のページは凄く良かったけど、このページを嫁に見られて超ケンカ。『kamipro』株が下がる事件でした。

【大阪府・山内義久さん・自遊業・37歳】

↓先日、『ハッスル17』仙台大会の会見で、産卵後、初めて姿を現わしたインリン様。今後、親子が対面することが果たしてあるのでしょうか?

98号・面白かった記事ランキング

順位	記事
1位	美濃輪育久大特集
2位	後藤達俊インタビュー
3位	ミルコ・クロコップインタビュー
3位	田中秀和インタビュー
5位	ヨアキム・ハンセンインタビュー

98号のランキング1位は、全力投球で特集した美濃輪育久大特集に決定!!　読者の皆さまからは「あれは牛丼じゃない!」などのありがたいご指導もいただきつつトップに輝きました〜。さらに、艶男（アデオス）ならぬ危男（アブオス）の後藤達俊インタビューが続いてランクイン。危ないといえば、危険な新日本ネタで再び登場してくれたケロちゃんも3位です。ヨアキム・ハンセンインタビューには、熱烈なメタル野郎が続々投票!!

バンザイ!! 素敵GW

興行ラッシュのマット界を尻目に、今年のGWは最大9連休!!　もう、ウハウハで南の島気分の読者もいたんじゃないでしょうか。そこで、今回は皆さまから過去に経験した思い出深いGWの過ごし方を募りました。どうぞ!!

朝から晩までひたすらジャンプコミックの『花の慶次』18巻、『影武者徳川家康』6巻、『SAKON』6巻読んで過ごしたこと。

【三重県・マンモスさん・小売業・32歳】

▽これぞ、まさにサムライ三昧。椎名さん、せきしろさん、バンザーイ!!

伊豆にある加山雄三ミュージアムに一人で行きました。

【東京都・山崎和也さん・自営業・35歳】

▽次はぜひ田中邦衛ミュージアムに行きたいですね！

小学生のときに「一人旅をしておいで」と親に言われ、韓国に一人でいったことがある。でも、言葉が通じないのでずっとホテルの部屋で『キャプテン翼』を読んでいた。いま思えばかなりもったいない過ごしたかたをしたなと思うけど、なんの目的で親が韓国にまで飛ばしたのかなあと不思議に思う。

【東京都・柴さん・ホテルマン・32歳】

▽かわいい子には旅をさせろと言いますが、それはちょっと度を超えてますね。新種の幼児虐待か。

誰ともひと言も口を利かないと心に決め、電話も一切出なかったことがある。……孤独だった。

【北海道・大川清人さん・会社員・31歳】

▽それは多くの人がなし得ない大快挙ですが、今後はやめましょう！

府中競馬と船橋競馬に毎日参戦。海外にでも行ってたほうが安く上がりました。

【千葉県・柿田剛史さん・会社員・37歳】

▽ある意味、夢の世界までの交通費ですね。途中下車、御免。

友だちとふざけてプロレスごっこをしていたときに複雑骨折してしまって、GWは全日病院で過ごすことになったことがある。でも、そこで知り合った看護婦さんといつの間にか付き合うようになり、いま結婚して一緒に住んでいる。ある意味、人生を変えたGWだった！

【東京都・パイルドライバーさん・35歳】

▽これは今回の劇的大賞ですね！　複雑骨折サンキュー!!

去年のGW、旦那と旦那の両親の4人で南の島に行ったときのこと。はりきって海に入ったお義父さん（当時64歳）が、どんどん遠くに泳いでいってしまって、いなくなったことがあります。3人とも大騒ぎして、その後、現地の監視員みたいな人たちと船に乗って5時間も探しまくりました。そし

スクープ！ ザ・目撃!!

●4月22日ハッスルハウスvol.13の会場にて、声を張り上げ頑張って仕事をしている石井千恵さん（レスリング）に声をかけ、サインをしてもらいました。「まだ参戦が決まっていないので署名になってしまうのですが、良いですか？」ととても低姿勢で礼儀正しく、次の試合は応援したくなりました。また、同会場にてマーガレット（アメージングコング）、横井宏孝選手にもサインをいただき、すっかりハッスルにズブズブハマっている自分を再認識しました。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

●5月5日、子どもの日に歌舞伎町で2日前に『HERO'S』で闘ったばかりの上山龍紀選手がかなり背の高い女性と歩いているところに遭遇しました。女の直感ですが、見たところ「彼女なのかな」という感じがしました。そして、もっと驚いたのが、その25メートルあとぐらいから3日前に『パンクラス』で闘ったばかりの河野真幸選手を発見しました。闘ったばかりのファイターというのは歌舞伎町が好きなのでしょうか？
【東京都・株キングさん】

●5月5日、IBFプロレスリングの会場で斉藤清六さんを見かけました。どの会場にいっても、必ず見かける斉藤清六さんは本当に凄いと思います。
【匿名希望】

●『HERO'S』の会場で、五味隆典選手がいるのを発見しました。『PRIDE武士道』とはかなりのライバル関係だと聞いていますが、そのエースである五味選手もやっぱり会場にくるんだなと思って感心しました。
【埼玉県・川越さん・22歳】

大阪府・えりかなおずみさん
➡アレキサンダーを倒して「お兄さん！　次は僕と闘ってください!!」状態のジョシュ・バーネット。二回戦、お兄さんは仇を討ってくれるんでしょうか!?

埼玉県・大崎洋二さん
➡『オーラの泉』や『はなまるカフェ』などで、続々と目撃されている須藤選手。次に目指すリングはいったい!?

神奈川県・ようちゃんさん
➡とっても危男・後藤達俊さんが倍賞美津子さんから"おだんごちゃん"と呼ばれていた事実は、後藤選手のバックドロップ以上に衝撃です。

衝撃ショット!!

今月は東京都世田谷区の桑本薫平くん（中学生・13歳）から、こんな素敵なお便りをもらいました♪　薫平くん、5・3『HERO'S』はやっぱり曙さんを応援したのかな？　VIVA！アケボ～ノ～!!

ささきぃが目撃した衝撃の一枚!!　大胆にもロゴデザインまで"ハッスル"してます!!　ちなみに、この看板を発見したささきぃは『ハッスル』ロゴキャップをかぶって歩行中だったとか。店の女と間違われそうで内心ドキドキしていたそうです。要注意!!

kamipro 事件簿

ミスター三節棍・王拳聖あらわる!!

校了明けの某日、『kamipro』編集部に一本の電話が。プルルル、プルルル、ガチャ「いまから行きま～す」。ツー、ツー、ツー……。っというわけで現われたのが、ZERO1・MAX靖国大会で三節棍を自由自在に操っていた王拳聖さん。「カンフーポーズを教えてください！」とお願いすると、「これが一番カンタ～ン」と言って写真のポーズを伝授してもらいました。王さん、感謝アルね

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

- ●ザ・目撃!!
- ●おもしろ写真投稿
- ●選手に対するご意見、試合の感想
- ●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　kamipro編集部「ショック死寸前」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

たら、なんと！　近くの無人島で、ひとり寒さに震えているお義父さんの姿を発見！　今年は町のプールで大人しく泳いでてもらおうと思います。
【神奈川県・パラダイスさん】

▽お義父さんの素晴らしい生命力に乾杯！　町のプールと言わず、太平洋ど真ん中に放流してあげてください。

数年前に、夫と当時4歳の息子とで潮干狩りに行きました。その日は本当に気候がよかったらしく、バケツいっぱいでもおさまりきれないぐらい大漁に！　3人とも最高の気分でその日は帰ったのですが、それからというのも、砂地を掘ればアサリが出てくるとインプットされた息子は、砂場から何から、どこでも穴を掘るようになってしまいました。いまだにどう教育しなおしたらいいのかわかりません。
【佐賀県・有明海さん・28歳・主婦】

▽穴掘りのことなら名人・中尾さんに相談するのが一番！　中尾さんのように、掘るだけじゃなくて思い出の品を埋めるのもいいですね。

パチンコに負けて帰ってきたら家族全員だまって旅行に出かけられてた。内緒で。残金は520円だった。
【大阪府・山内義久さん・自遊業・37歳】

▽悲しさ満点ですね！　内緒というのは一番悲しい。

連休より仕事仕事の毎日でした。そのとき、子どもから「パパのおかげで美味しいのが毎日食べられて感謝しています」と言われたとき凄く嬉しくて泣いてしまったのが、僕の中での最高の連休。
【長崎県・前多料臣さん・通信自営業・33歳】

▽なんてできたお子さんなんでしょう！　休日も休まず働く日本全国のパパに聞かせてあげたいですね。たまのお休みには、ぜひ長崎バイオパークに連れて行ってあげてください。

kamipro calendar

5 May

20 SAT.
NOAH■新潟・新潟市体育館(18:00)
大日本■神奈川・六角橋商店街特設リング(17:00)
DRAGON GATE■沖縄・那覇簡易保険センター(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
NWS■東京・新宿FACE(19:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)

21 SUN.
NOAH■埼玉・本川越ペペホール(16:00)
LOCK UP■東京・新木場1stRING(18:30)
全日本■東京・後楽園ホール(12:00)
ZERO1・MAX■長崎・長崎NCCスタジオ(18:30)
DRAGON GATE■沖縄・那覇簡易保険センター(13:00)
大阪プロ■大阪・IMPホール(15:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
グレートプロ■埼玉・バトルスフィア(18:30)
東海プロ■愛知・名古屋総合体育館(13:00)
M's Style■東京・新宿FACE(12:30)
GIRLS DOOR■長野・上田市創造館(18:30)
DEEP■愛知・Zepp Nagoya(16:00)
新日本キック■東京・後楽園ホール(17:00)

23 TUE.
NOAH■宮城・Zepp Sendai(18:30)
全日本■宮崎・都城市民体育館(18:30)
ZERO1・MAX■鹿児島・大口市体育センター(18:30)

24 WED.
全日本■大分・大分イベントホール(18:30)
ZERO1・MAX■山口・やまぐちリフレッシュパーク(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:30)
CMA■東京・後楽園ホール(18:30)

25 THU.
NOAH■青森・青森産業会館(18:30)

26 FRI.
NOAH■北海道・北斗市総合体育館(18:30)
全日本■熊本・山鹿市民スポーツセンター(18:30)
ZERO1・MAX■岡山・新見市民体育館(18:30)
大日本■神奈川・川崎市体育館(19:00)
DRAGON GATE■愛媛・テクスポート今治(18:30)
シュートボクシング■東京・後楽園ホール(18:00)

27 SAT.
新日本■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念館(18:30)
全日本■熊本・流通情報会館(17:30)
ZERO1・MAX■和歌山・和歌山県立体育館(18:00)
DRAGON GATE■大阪・府立体育館第二競技場(18:00)
666■東京・新木場1stRING(18:30)
ZST■東京・ディファ有明(17:00)
キングダム・エルガイツ■東京・ファーストスピリット(19:00)
DEEP■広島・佐伯区スポーツセンター(16:00)
UFC■米国/ロサンゼルス・ステイプルズセンター

28 SUN.
NOAH■北海道・北見市立体育館(18:30)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■兵庫・神戸サンボーホール(17:00)
ZERO1・MAX■静岡・ツインメッセ静岡(16:00)
キングスロード■東京・新宿FACE(12:30)
リアルジャパン■福岡・久留米リサーチパーク(18:30)
DRAGON GATE■石川・石川県産業展示館(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00&16:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
JWP■東京・後楽園ホール(12:00)
JD■東京・新木場1stRING(18:00)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)
天空■東京・新宿FACE(18:00)
R.I.S.E.■東京・ゴールドジム大森(17:00)

29 MON.
新日本■千葉・幕張メッセ(19:00)
GIRLS DOOR■北海道・旭川大成市民センター(18:30)

30 TUE.
NOAH■北海道・帯広市総合体育館(18:30)
全日本■高知・ウェルサンピア高知(18:30)
リアルジャパン■長崎・シーハットおおむら(19:00)
GIRLS DOOR■北海道・北見市立センター(18:30)

31 WED.
NOAH■北海道・釧路コミュニティ体育館(18:30)
全日本■愛媛・アイテム愛媛(18:30)
ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール(19:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
グレートプロ■東京・新木場1stRING(19:00)

6 June

1 THU.
新日本■福井・福井市体育館(18:30)
NOAH■北海道・旭川地場産業振興センター(18:30)
GIRLS DOOR■北海道・根室市青少年センター(18:30)

2 FRI.
新日本■石川・石川県産業展示館(18:30)
全日本■香川・高松市総合体育館(18:30)
GIRLS DOOR■北海道・釧路市国際観光センター(18:30)
MAキック■東京・後楽園ホール(17:10)

3 SAT.
K-1■韓国/ソウル・オリンピック第一体育館
NOAH■北海道・札幌スピカ(17:00)
全日本■岡山・岡山オレンジホール(18:00)
DRAGON GATE■静岡・アクトシティ浜松(18:30)
みちのく■東京・新宿FACE(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
キングダムエルガイツ■東京・ファーストスピリット(19:00)

4 SUN.
PRIDE武士道■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00)
NOAH■北海道・札幌スピカ(16:00)
新日本■千葉・松戸市運動公園(16:00)
全日本■和歌山・田辺ハナヨアリーナ(17:00)
ZERO1・MAX■栃木・栃木総合文化センター(14:00)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)
大日本■埼玉・桂スタジオ(14:00)
DRAGON GATE■三重・四日市オーストラリア記念館(16:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■東京・後楽園ホール(18:30)
GIRLS DOOR■北海道・伊達市体育館(15:00)
我闘姑娘■東京・新木場1stRING(12:30)
ANGEL'S■東京・伊原道場(14:00)

6 TUE.
全日本■福岡・小倉北体育館(18:30)
パンクラス■東京・後楽園ホール(19:00)
GIRLS DOOR■北海道・江差町生涯学習センター(15:00)

7 WED.
新日本■大阪・府立体育館第二競技場(18:30)
リアルジャパン■東京・後楽園ホール(18:30)

8 THU.
新日本■愛知・豊橋市総合体育館(18:30)
ビッグマウス・ラウド■東京・後楽園ホール(12:00)
GIRLS DOOR■北海道・帯広市総合体育館(18:30)

9 FRI.
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
新日本■三重・ゆめドーム上野(18:30)
全日本■長崎・佐世保市体育文科館(18:30)

10 SAT.
ハッスル■静岡・アクトシティ浜松(18:00)
新日本■三重・四日市市体育館(18:00)
全日本■熊本・三井グリーンランド(15:00)
DRAGON GATE■兵庫・SITE KOBE(18:30)
みちのく■岩手・矢巾町民総合体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
GIRLS DOOR■北海道・共和町町民センター(18:30)

11 SUN.
全日本■鹿児島・サンアリーナ川内(15:00)
DDT■新潟・新潟フェイズ(13:00)
みちのく■秋田・サンパティオ大町(13:00)
DRAGON GATE■福岡・博多スターレーン(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
WMF■東京・新木場1stRING(18:30)
GIRLS DOOR■北海道・利尻町総合体育館(18:30)
D.O.G■東京・ディファ有明(17:00)
W-カプセル■東京・新宿FACE(16:30)
全日本キック■東京・後楽園ホール(18:30)
G-SHOOTO■東京・北沢タウンホール(17:00)

13 TUE.
GIRLS DOOR■北海道・稚内市体育館(18:30)

14 WED.
新日本■長野・佐久市総合体育館(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:30)

15 THU.
ハッスル■東京・後楽園ホール(19:00)
JWP■東京・板橋グリーンホール(19:00)

16 FRI.
新日本■千葉・アクアマリンスタジオ(18:30)
全日本■東京・新木場1stRING(19:00)
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール(18:30)

17 SAT.
ハッスル■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(18:00)
新日本■神奈川・大和スポーツセンター(18:30)
DRAGON GATE■埼玉・深谷市民体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
IWAジャパン■東京・新宿FACE(18:30)

18 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
ビッグマウス・ラウド■東京・後楽園ホール(12:00)
DRAGON GATE■新潟・長岡市厚生会館(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00&16:30)
JD■東京・新木場1stRING(13:00)
DEEP■富山・イベントプラザ富山(15:00)
新日本キック■東京・ディファ有明(16:00)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。 また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

梅雨空って……なんかムカツク!!（ニューリン様調）

イラスト◎師岡とおる

kamipro column

落ちた〜〜〜っ!?

ピクッ

ピクッ

RGMのレイザーラモン英知自慰

第8回 棚橋選手、ハッスルに上がってくださいヨウ!

イラスト◎出渕誠

3月にハッスルGMとなってから『ハッスル・エイド2006』の開催発表、カイヤの参戦、そしてRGMも『週刊ゴング』のインタビューや「新庄、引退したらハッスルに来い」発言などハッスルは話題を（会見は勝手にやられることが多いが……）振りまいた。だが「大仕事したなぁ」と思うのは『東京スポーツ』紙上の「HG、棚橋（弘至）座談会」だね。

これは「U－30王者よ、HGと闘え！」と数日前の『東スポ』のRGMインタビューのフライング発言に端を発するが、棚橋の〝学生プロレス出身〟を新日本プロレス側がカミングアウトOK！　した歴史的な日として語り継がれるであろう。

思えばこのコラム第一回目に「学プロ出身者よ、誇りを持て！」と自分を棚に上げて叫んだのを皮切りに『kamipro』でも学プロ特集が組まれた。そして新日本のエースとハッスルのエース、元ターナー・ザ・インサートと元ギブアップ住谷が再会！　同席した僕と学プロ時代の先輩、ユリオカ超特Qさんも興奮を隠せなかった。

棚橋には『ハッスル・ハウス』のチケットと招待状も渡したのだが、RGMとしてはぜひハッスルのリングに上がってほしい！もー、おもしろいVTRもたくさん作りますよぉー！　待ってるヨーヨーヨー！　「またぐなよ！」とか「よし押さえろ！（下北沢タウンホールを）」とか、「ヨーヨー問答」とかやりたいこといっぱいあるよ！

そんなRGMの次の大仕事は『ハッスル16』大阪大会のオープニング。WWEのジョン・シナばりにご当地の阪神タイガースのユニフォーム（というかハッピ）を着てRGウォーク、RGダンス、RGティモテ（昔の『ティモテ』というシャンプーのCMで髪を両手でサラサラ触るムーブが特徴）を華麗に決めるも会場は過去最大級のブーイングの嵐！　「カエレ」コールも自然発生！　リングに注がれる憎悪。これはどこかで感じたことが……。そうだ、87年『イヤーエンドin国技館』でのTG（たけしプロレス軍団）乱入、ビッグバン・ベイダー初登場のときだ！

さらに阪神ハッピを脱ぎ捨てると、下には巨人軍のユニフォーム。ここで阪神のハッピでお尻を拭く、という〝大阪でやっちゃいけないことベスト3〟（他は串カツソース二度漬け禁止とかライトなもの）の暴挙に出ると観客は大ヒート！　「辞めろ！」「殺すぞ！」など心の奥底から湧き出るソウルシャウトを聞くにつけ、「あぁ大阪って日本のニューオーリンズだなぁ」と実感……するヒマもなく強制退場。

あのまま放っておくとモノが乱れ飛び、座席は壊されリングアナのケイ・グラントさんと太田真一郎さんがケロちゃんばりに「このままでは大阪府立体育会館が使えなくなります！」と土下座トゥゲザーしなきゃなくなるところだった。まぁ「観客を一体化させる仕事はしたな」とは思ってるけどね。

こないだまで〝ただの芸人〟というか〝ただのプロレスヲタ〟だった僕がハッスルのGMになって発言がバンバン新聞に載る、ワイドショーに出る、専門誌すらRGMを無視できなくなってきている。ほんといまね、毎日が楽しいよ！

でも先日、ある先輩に言われたよ。「HGに、毎日100回ありがとうって言えー！」

いつかはRG軍

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）

吉本興業のお笑いコンビ、『レイザーラモン』HGの相方。「ヨーヨーヨー！」などをキメ言葉に仕事も順調に増え、棚ボタでハッスルの第4代RGMにも就任。だが、笹原初代GM、草間元GMの両氏からGM不信任案とGM総選挙を要求されるなど、今後は予断を許さない状況。

第8回

やっぱりドラゴンは……

東京ゾンビDVD、7月28日発売!!

花くまゆうさく

リングの汁

いまごろだが、こないだサムライTVでハニー・ヤヒーラvsヤノタク（矢野卓見）戦をはじめてじっくり見たけど、凄えおもしろいわ。ひさびさに総合でいい寝技の攻防見た。負けたけど、ヤヒーラと真っ向勝負するヤノさん凄いわ。

4月28日からロシアへ、行ってる間の日本は気になることでいっぱいだ。山本〝KID〟徳郁vs宮田（和幸）戦なんか、あちこちで宮田選手のグラップリングの極めが凄く上達してると評判が聞こえるので、だったら勝っちゃうんじゃないかと幻想膨らむ。パンクラスには、もうひとりの足関十段・花井（岳文）選手出場。PRIDEもある、そして新日辞めるとか言ってるドラゴンは、やはりまた口だけで終わるのか……。さまざまな思いを胸に新潟からロシアへ行きました。

ロシアのハバロフスクでサンボの指導受けた先生は、80年代後半ベースボールマガジン社主催で代々木体育館でやったサンボフォーラムにも来ていた先生でした。車に、サンボフォーラムのパンフやレポートが載ってる週プロが置いてあったので見ましたが、なつかしくてグッと来た。前田日明がいろいろ質問して、安生（洋二）にやらせてたあの光景……なつかしい。あの頃は、Uにいろいろと期待していたなぁ（しみじみ）。

5月5日に日本に戻って来たら、桜庭（和志）移籍にびっくり。ひさびさにそんなことしていいの？　ってオドロク移籍。でも向こうに桜庭の階級でいい相手いるんかしら？　ヒクソン？　んなことないか。大晦日はもう亀田家で視聴率取れるし。

そんなTBSの『HERO'S』だが、一番印象深いのは所（英男）KO直後の、みのもんたの顔であった。試合前の笑顔との落差が凄すぎ。しかしこないだたしか腰痛だったのに、秋山にあんなにブッ込抜かれてのリングイン、大丈夫なのだろうか？　もしかして、所TKO直後のあの顔は腰に異変を感じた顔だったのかもしれない。

そして東スポ読んだけど、どうやらドラゴンは、やっぱり残留のようですね。

バックステージ

リング上

ピョン

ピョン

ん？

みのさん？

TK

Hanakuma Yusaku
◎短い映画作ってます。詳細は後ほど。

イナズマKの

ハードコアドージョー

第8回

さよならビクター・キニョネス！

Inazuma K
◎働けど働けど金は無し。誰か私に休息をください!でも仕事もください!

あぁなんということだ。かつて日本インディーマットで狂喜乱舞していたプエルトリコの悪徳マネージャー、ビクター・キニョネスが、4月2日、プエルトリコ、サンファンの自宅で心臓マヒで亡くなった(享年46)。

FMW、W☆INGでプエルトリコ軍団を率い、竹刀を振り回し（観客も被害者多数）、イスを持てば豪快なスウィングで松永光弘の脳天をブッ叩き、極悪を貫いた男。売店では自分の葉巻を一本1000円で売る商売人でもあった。また90年代以降、日本マット界にもっとも貢献した外国人ブッカーでTAKAみちのくや海援隊、TAJIRIがWWEに、田中将斗がECWに上がれたのも、ルートを持つ彼がいたからこそ。

個人的には、生で見ていたW☆ING時代が印象深い。W☆INGのおもしろさはビクターが派遣する外人レスラーが魅力的だったというのも大きい。

ムーンサルトもこなす褐色の双子の巨漢、ヘッドハンターズ(写真)、腹に有刺鉄線を巻いたパイオニアのスーパー・インベーダー、凄い体毛で軽快なレスリングを見せたミゲル・ペレス・ジュニア、やっつけマスクながら正規軍で活躍したアイスマン、ヘビー級のクラッシュ・ザ・ターミネーター(のちのヒュー・モアーズ)ら良い選手から、とにかく頑丈なララパゴ・ジュニア、やたらデカいだけで技はコーナーに押しつけるだけというゴリアス・エル・ヒガンテなどインチキくさい選手、フレディ・クルーガー、レザーフェイス、クリプトキーパーなどの怪奇派も彼なくして存在し得なかった。いまの日本マットもビクターくらいの極悪マネージャーがいたらもっと盛り上がるんじゃないかと思ってしまうくらいだ。

「最初、ビクターを見たとき、プエルトリコのヤクザかと思いました（笑）」と語るのは、W☆INGからの付き合いの金村キンタロー選手にビクターとの思い出を語ってもらった。

「僕も若手だったんで『付き人になれ』って連れ回されて。一回、600万円の入ったバックをどこかに忘れてボコボコにどつかれたこともあります（笑）。でも人間的には豪快で、僕が海外行ったときはファーストクラスで移動させてもらったし。ドミニカではホテルがストリップ小屋の上で、僕の部屋の鍵で全部の部屋が開くんですよ。『こんなとこいれない』ってペレスがビクターに電話したら、シェラトンホテルのめちゃデカい部屋とってくれた。飯代もホテル代も全部出してくれましたし。僕が行ったのは13、14年前、TAKAもTAJIRIも世話になってますね。リング上では悪を貫き、売店では商売人。リングを降りたらみんなの面倒を見て。良い印象が強いです、けっこうどつかれたけど（笑）」

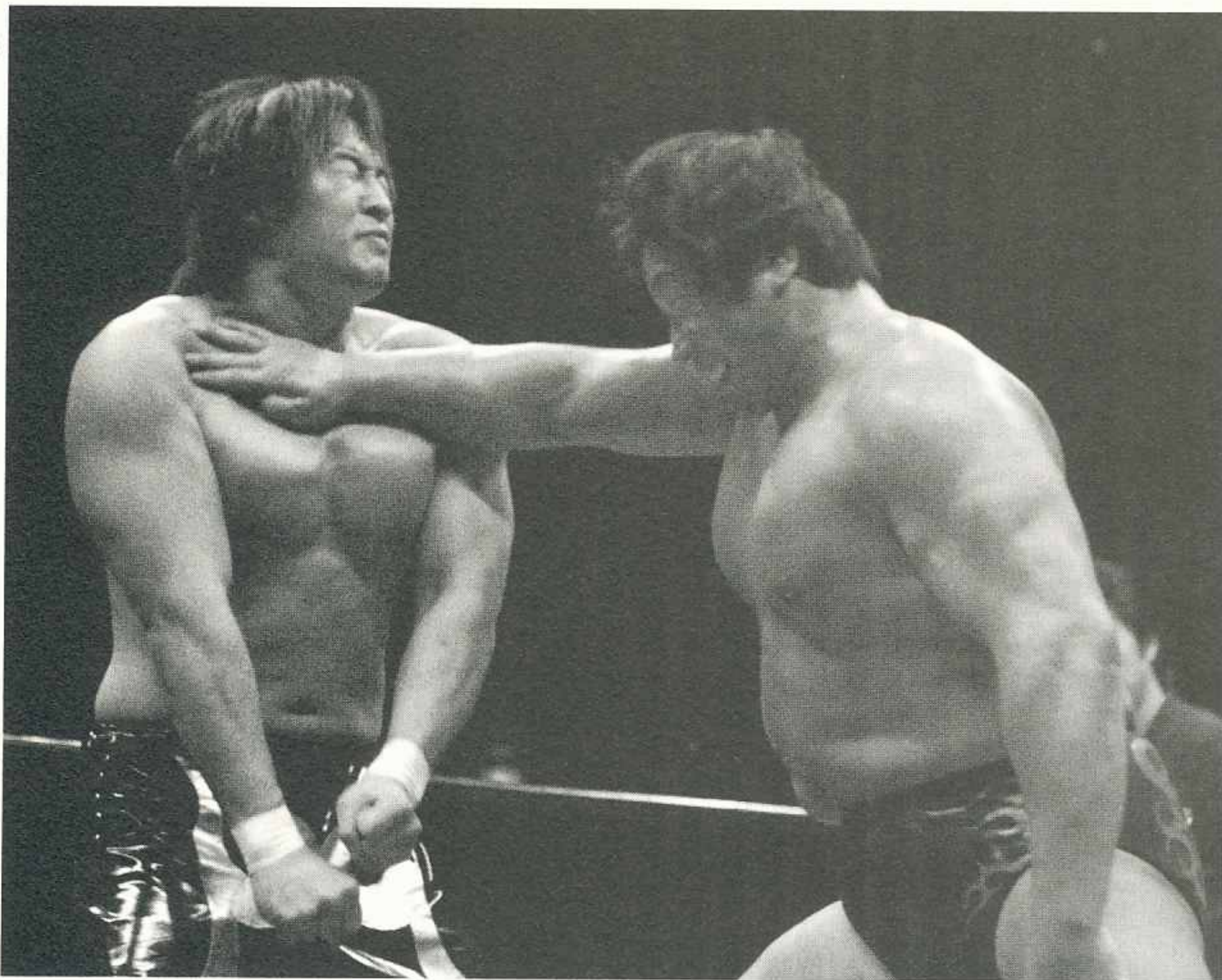
最近も連絡を取っていたという金村は、今夏にビクターのIWA（プエルトリコ）にブッキング予定もあった。彼が4月のアパッチ後楽園大会の試合後に、ビクターの遺影を掲げた姿も印象的だった。「彼を忘れないように、って思いと感謝を込めてですね。いろんな師匠がいますけど、彼がいなかったらいまの僕は存在してないですから」

最後はこう締めてくれた。「いつもビジネスで動き回ってた人だったんで、天国で休んでもらいたいです。最後に一回会いたかったですけどね。そうだ、ビクターにあだ名をつけられました。〝キミトリンド〟、黄色いチャイニーズって意味なんですけど、たまに昔の仲間に会うと言われますよ（笑）」

自らブッキングした双子の巨漢ヘッドハンターズ（ヘッドハンターA&ヘッドハンターB）とポーズをとる、ありし日のビクターキニョネス氏（中央）。

せき詩郎のサムライ三昧（シロー）

第5回

小橋チョップをかわすには……!?

4・23 NOAH武道館大会で激突した小橋と丸藤。前回の武道館大会では田上を下し大歓声を浴びた丸藤だっただけに、今回も観客は小橋越えを期待していたのだったが、結局、小橋チョップの乱れ打ちからリアルブレーンバスターで丸藤は撃沈。しかし、3週連続で『週プロ』の表紙をゲッツ！ ある意味、凄ェ!!

4月23日、武道館。小橋が丸藤をコーナーへと追い詰めた！ この瞬間、観客のボルテージは一気に上がる。小橋が次にとる行動を予測したためである。

その期待を小橋は決して裏切らない。手のひらを大きく開き、指の間隔をしっかりと詰め、腕を振り上げる。重力さえも味方につけたその手刀は容赦なく丸藤めがけて振り落とされる。

誰もが顔をしかめる鈍い音と共に丸藤の胸元でバウンドした小橋の手は、丸藤の身体と垂直の角度で小橋のもとへと戻り、今度は大地と水平に丸藤へと飛ぶ。再び弾力で戻り、その反動を殺すことなく利用し、またしてもチョップが飛ぶ。そしてお馴染みの連打が始まるのだ。

下剋上宣言した丸藤に何かを言い聞かせるかのようにチョップが放たれる。「小橋建太に世代交代はない」とチョップが1発。「世代交代があるはずない」とまた1発。「たぶん世代交代しないと思う」と3発目。「世代交代しないんじゃないかな」と4発目。「まあ、ちょっと覚悟はしておけ」と5発目……。さだまさしの『関白宣言』のようにかなり厳しい話がチョップを通じて語られていく。

チョップにあわせて観客は掛け声をかける。馳のジャイアントスイングのようにその回数を数えたいのだが、あまりの速さに追いつけない。やがて掛け声さえもずれ始める。観客は必死に小橋の手を追うのだが、もはや時は遅し。目に見えるチョップの数と実際に胸元に打たれているチョップの数はもう同じではない。どんどん速度を増したチョップは人間の目では見えないほどになっているのだ。空中でホバリングすることができるハチドリ。その羽根は一見スローモーション、あるいは止まっているかのように見えるが、じつは1秒間に80回以上も羽ばたいているのだ。

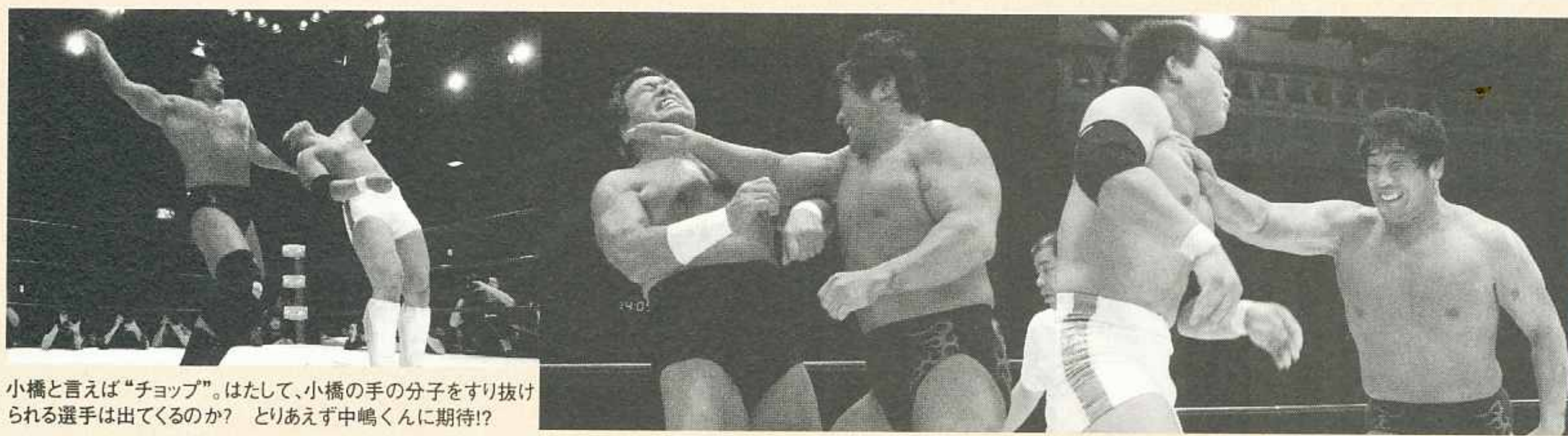
小橋のチョップはそれと同じ。凄まじく加速していく小橋のチョップはやがて肉眼にはスローに映ることだろう。

もしもこのまま小橋がチョップをし続け、その速度が増していった場合どうなるであろうか。加速に加速を重ね、やがて光の速度に近づいたとしよう。すると、たぶん光速で動く小橋と小橋以外の者の時間にずれが生じるはずだ。藤子F不二雄の短編集にそんなことが書いてあったはずなので間違いない。いわゆる『うらしま効果』という現象が起こり、チョップをやめたときに小橋は39歳のままなのであるが、周りはもうみんな年寄りになってしまっているはずだ。若手といわれてた丸藤も80歳くらいになっているだろう。いつの間にか年齢だけ小橋を追い越してしまった丸藤。肉体は衰え、自分より若い小橋にもはや勝てるわけがない。「小橋建太に世代交代はない」この言葉が現実となる。

ゴールデンウィーク。全国的に晴天に恵まれ、注目スポットへ出かけたり、湾岸をドライブしたり、スポーツで汗を流したり、ホームシアターで名作シネマを楽しんだりと、皆思い思いの休日をエンジョイしてた頃、私は「光速で動く小橋」というわけのわからないことを考えていた。

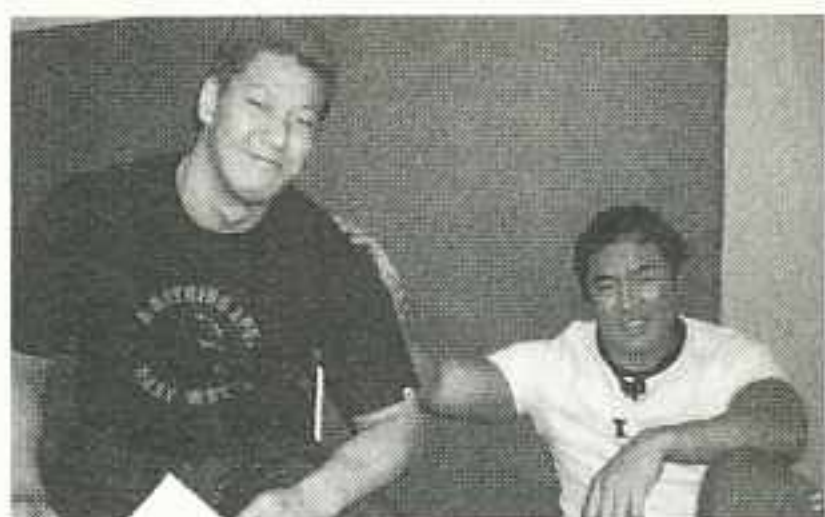
話は小橋対丸藤に戻るが、丸藤は要所要所でチョップをもらいすぎたかもしれない。もう少し小橋のチョップをかわせていたなら……。いや、まてよ、かわせないとしても小橋の手を構成している分子を自らの身体を構成している分子の間を通らせるようにすれば、小橋の手はすり抜けて、ダメージもなく……!? たしかこんなことが『キテレツ大百科』に書いてあったから間違いないだろう。

ゴールデンウィーク。全国的に晴天に恵まれ、家族で行楽に、カップルでお薦めデートスポットに、また親孝行を兼ねて帰省と、皆思い思いの休日をエンジョイしてた頃、私は「小橋の手の分子がすり抜けて……」というわけのわからないことを考えていた。

Motoki Shiina
◎特にありません。強いて言うならば桜庭の『HERO'S』登場は普通に驚きました。

小橋と言えば"チョップ"。はたして、小橋の手の分子をすり抜けられる選手は出てくるのか？ とりあえず中嶋くんに期待!?

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来

KENZO HIROKO

ザ・新日本!の巻

Suzuki Kenzo&Hiroko
◎WWE時代から世界を股にかけて活躍するプロレスラー鈴木健想とマネージャー浩子の夫婦タッグ。

浩子 ハッスルでのこの半年いろいろあったね。

健想 楽しかった!

浩子 2年のブランクのあとで、帰ってすぐに和泉元彌戦で……。

健想 その後はハッスル軍かモンスター軍かと思ったら、鈴木家で孤軍奮闘(笑)。RGにもフラれて(笑)。逆にいろいろ噛みついたけど、どれもちゃんと″対戦″することはなく……。

浩子 それ、そこそこ! グズグズ感が残るよね。ファンのためにも、できることならそこはバシッと決めたかった(笑)。ま、なかなかじっくり考える時間が持てないまま、あれよあれよと進んじゃったんだ。

健想 けど、年が明けてからは「お~懐かしい!」っていう顔にもずいぶん会えてさ。ドクターやスタッフ、それからお世話になってた雑誌の記者さんとかに始まって、徐々にあちらこちらで昔の仲間に会えて。

健想 ハッスルでも、元・新日本の長尾選手が来てからは楽しそうだったもんね~。

健想 あれ……ね(笑)。俺の最後の後輩。

浩子 控室でいっつも長尾選手を追いかけまわして(笑)。彼の商売道具のバレーボールを隠して吊したり(笑)。

健想 そしたら俺の背中に本気でスマッシュ打ちやがった(笑)。

浩子 後楽園ホールでも、控室前の選手の名前が書かれてる黒板にいたずら書きしたでしょ? 女子選手の名前が消されて大きく「A・猪木様 by長尾」って。アジャさんがそれを見つけて「これやったの……間違いなく、絶対、健想選手」って。いたずらばっかりしてるんだもん。

健想 俺、アジャさん好き!

浩子 ほんと、すぐアジャさんとこに行って話してるもんね(笑)。けどアジャさんもあきれてたよ(笑)。女子トイレのドアに「長尾控室 絶対入るな」って書いてあるし、トップの選手の控室前にも大御所選手に並んで「AND長尾」とか足しちゃって(笑)。小学生だよ!

健想 当時はなんとも思わなかったけど、いまとなっては、新弟子で合同練習してた時代が懐かしいよ。離れてみると同じ釜の飯を食った仲間って感じ。いい時代だった。

浩子 新日本がきっかけでこの世界に入ったわけだし、結局健想にとっては″ふるさと″みたいなもんなのかもね。そういや、最近、タナ(棚橋弘至選手)にも会ったしね。

健想 懐かしかったよ~!! あいつさ、相変わらずスゲ~飲むんだよ、しかも長尾もマジで。口をパカっと開けて、勢い良くジュース飲むみたいに強い酒をグビグビ流し込んでく。あれ、西村さんもそうだけど、″新日飲み″かもな。

浩子 というか、その3人の中で新日本なのはタナ一人だけど(笑)。

健想 とにかくさ、これまで自分がいた世界も見えてきて、やっと落ち着いて周りが見えるようになってきたって感じで。

浩子 そもそも半年前に決めた目標もあるし、一方で新しくやりかけたこともある。

健想 今年はとにかくドサ回りをしてできる限りプロレスの場数を踏むっていう約束もあるし、逆にファンの期待にも応えたいし。っていうか、俺はまだキャリア6年しかないんだよ。まだ沢山試合して、なんでもやらなきゃいけない年代なんだよな。

浩子 いまやらなきゃいけないことをやらないと、40歳になってから「練習しなきゃ」って言ったって取り返せないこともある。″中堅″になって吸収しようと思っても、周りも注意しづらくなるし。

健想 タナ、一生懸命″ふるさと″を守ってた。俺も頑張んなきゃいけないと思った。

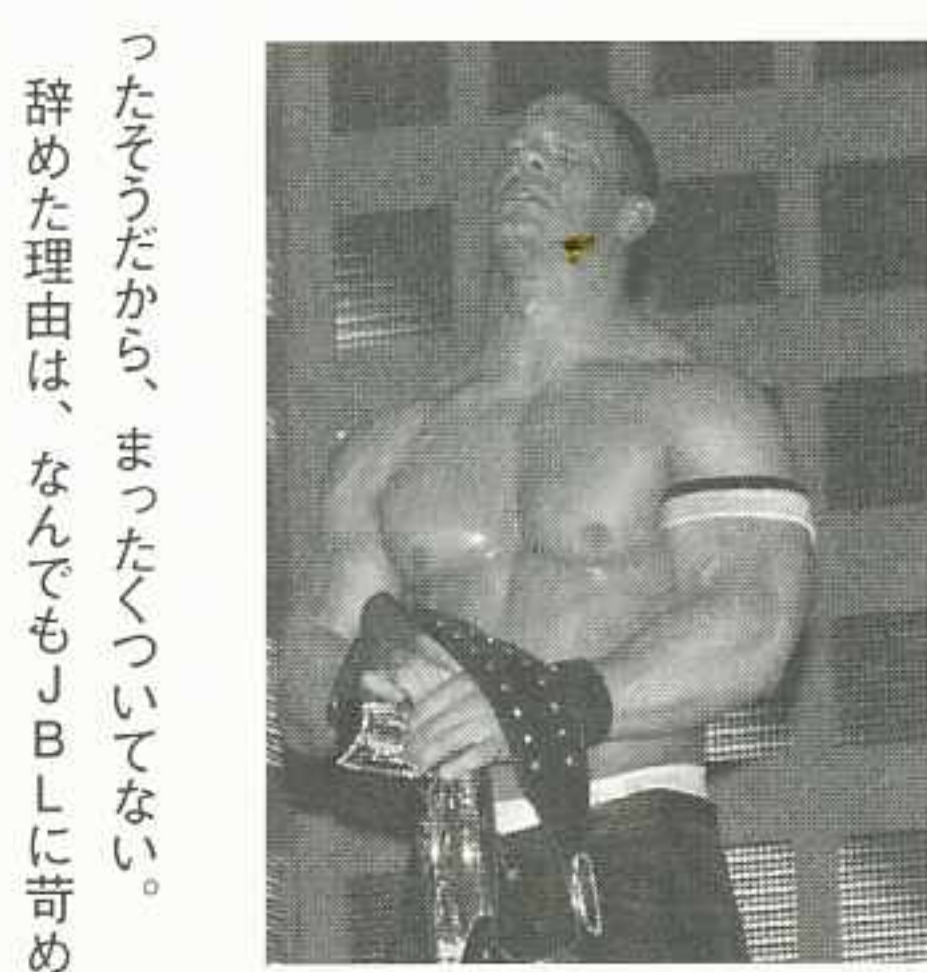
浩子 今年は修行!! 長尾選手をからかうのもほどほどに……。

ホセPresents

アメプロウワサルーン

イラスト◎エロコエロオ/Photo◎George Napolitano

No.1 素行不良のオートンに注意したのは!?

″『Kami-pro』のクリック″と言われていたミゲル。パンチョ、そして私ホセのズッコケメキシカン3人組だが、政治的な圧力により解散を余儀なくされた。しかし、『Kami-pro』は水面下で俺だけに連載継続を伝えてきた。ミゲル、パンチョ……、ロシエント(ごめん)。ムイ・ビエン・グラシアス(お元気で!ありがとう!)。

今回からは私ホセがアメプロ界で起こった事件、事故、ゴシップ、バカ話などを徹底的に紹介していくのでよろしく。

さて、さっそくだがWWEの会場ではいまでも「シーナッ、サックス! シーナッ、サックス!」の大合唱が鳴り止まない。シナのシャツを着ている子どもにもブーイング。スピンベルトを持ち歩こうものなら、「ファックユー! シーナ!」なんてどやされる。シナファンは胸を張って歩けやしない。

なんでシナにブーイングが飛んでいるのかって? 知らねぇよ! ブーイングを飛ばしている奴らもなんでしているのか、たぶんよくわかってないと思うぜ。周りがやるからつられてブーイングをするって感じになってきてるな。まぁ冷やかしだ。シナもホント気の毒だぜ。

まぁ、当のシナは「シカゴ・サン」のインタビューで「何も聞こえないよりマシだぜ!」ってノー天気に開き直ってるくらいだし。あんまり深く考えてないようだぜ。

続いては「SMACK DOWN」に登場していたUPNのお偉いさん役、パーマー・キャノンが解雇された話題。彼はお偉いさん役から、レスラーになることが決まっていたそうだ。実際UKツアーではあのフナキとデビュー戦をしている。だが、そのデビュー戦が最後になってしまったそうだから、まったくついてない。

辞めた理由は、なんでもJBLに苛められただのと報道されてるが、実際のところは″方向性の違い″だそうだ。上から″ああしろこうしろ″と言われたことに嫌気がさしたって噂。俺のルートで調べたんだが、クリス・ベノワがパーマーと上層部のやり取りを目撃し「あんまりたいしたこと言われてなかった気がする」とポツリともらしていたという。″至高の天才″ベノワさんからすれば、たいしたことじゃなかったようだが、当のパーマーにとってはかなり難しいことだったんじゃないかね?

素行不良で謹慎を食らったランディ・オートン。彼の悪行は想像を超えるもので、周囲もドン引きしてたって噂。

そんなランディの素行を見かねたのがブルース・プリチャードで、彼が注意してもランディはロクに話を聞かず、プリチャードがビンスに報告したそうだ。プリチャードの勇気ある行動は、バックステージのディーバも大喜び。みんな幸せなサーキットを過ごしているそうだぜ。ビバ! ブラザー!

最後にブロック・レスナー。ミネアポリスのラジオ番組に出演し、「これからはMMAにも進出したい」と告白。いよいよレスナーがバード参戦!?

って俺はべつにレスナーがバードをしようがまったく興味なし! 気になるのはセイブルとの仲。そこについては「5月に結婚するよ。ウヒヒヒ」とデレデレだったぜ。He's so Happy! と、いうことでまた来月だ!

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

萌え視点のみで不躾に女子プロレスラーの話を聞く21世紀のデラプロこと『萌え萌え女々苑』。今回のゲストはシングルマザーレスラー・木村響子選手……ではなく、娘の花ちゃん(9歳)！ 一度リングに上がったところ、うっかりベルトを奪取してしまったスーパー素人小学生の全貌に迫る！

掟 好きな食べ物はなんですか？

花 くだものでもいいの？

掟 果物でもいいですよ。

花 あのね……おさしみ！

掟 お、お刺身!? 笑いの才能あるねぇ。

花 くだもので、すきなのはめろんとさくらんぼ。

掟 あ、二回目はまともにいくんだ。まあ、二回目かぶせないのはボケの基本ですからね……。あの～、花ちゃんは試合に出たことあるんですよね？

花 うん。いっかいでた。

掟 それどころかアイアンマン王座のチャンピオンになったみたいですけど。世界最年少王者じゃないですか？

木村響子（以下・響子） バトルロイヤルに出たんですけど、一回終わったあとに連れてきて、花を選手の上に乗せて、みんなで押さえてフォールを奪ったんですよ。

掟 タニーマウス選手に勝ってチャンピオンになったんだよね？ でもその後、お母さんに丸め込まれて、王座1分で陥落して。

花 えっとね、かえそっかな、かえしちゃいけないのかな？ でも、かえそっかなぁってかんがえてた。

響子 嘘だぁ～。

掟 まじで。いまでもおもってる。

響子 でも、すっごい怒ってたじゃん！

花 おこってないよ、ぜんぜん！

響子 「ごめん、ごめん」って謝ったら睨んできたでしょ？

花 そんなことないから。はい、つぎは？

掟 あ、流した！（笑）。花ちゃん、得意技はなんですか？

花 なまえはわすれちゃったけど、こういうやつ（お母さんをチョークスリーパーで絞めあげる）

響子 ぐぇっ、タップタップ！ 子どものスリーパーってけっこう入るんですよね。家でみんなに使ってます。

掟 家人全員が絞め落とされてるわけですね（笑）。危険だなぁ。家庭内に〝殺し〟があるね、木村家は。

花 ころしはしない。

掟 まあ、そうでしょうけど……。今後も花ちゃんは試合をしてみたいですか？

花 （無視して寄り目のおもしろい顔をする）

掟 うぉ、スカされた！（笑）。またリングに上がりたい？

花 はい。

掟 お母さんの試合ぶりはどうですか？

花 まあまあ。

響子 まあまあ!?

花 ままのしあいはまあまあ。うへへへへ！

掟 もしかして……ママだから「まあまあ」とかけてる？

花 うん。うへへへへ！（自分の言ったネタで自分で爆笑）。

響子 誰の試合が一番凄い？

花 うんとねぇ……あれ！ らんじぇりーむとう。

響子 エ～～ッ!?

花 らんじぇりーむとうはおもしろいし、つよいよ～。じょしではねぇ……あきのさん！

掟 ママが3だとするとAKINOさんは5ですか？

花 5じゃない、100！

掟 エライ差がつきましたねぇ（笑）。

響子 97も差があるんだぁ。ショック。

花 あとね、はまだあやこさん。

響子 なんでAKINOさんと浜田文子さんは〝さん〟付けなの？（笑）。

掟 なんか、かなり花ちゃんはアルシオンづいてますね。

花 あるしおんってなに？

掟 ロッシー小川っていう人が昔やってた団体ですよ。

花 ろっしーってひと、しってる！

掟 ロッシーさんはどうでした？

花 ……おじさんだった。

掟 見たまんまのお答え、ありがとうございます。

花 あとね、ばかしゃちょう！（クレイジーSKB）。

掟 エッ、バカ社長!? 自分もバンドやってますけど、バカ社長はバンドが本業ですよね。

花 あとは、おんりょうさん。

掟 インディーどっぷりですねぇ。

響子 666とか大好きで、よく家族みんなで観に行ってますからね。

花 ばかしゃちょうはほんとのばかだから。ひをつかうからこわいの。

掟 小3にホントのバカ呼ばわりされるのはバカ冥利につきますね！ 昔っからバカ社長は自分の着てる革ジャンにオイルをたらして全身火だるまになりながらライブとかやってましたよ。

響子 へぇ～。凄いねぇ。

花 やっぱり、ばかしゃちょうはばかだった。

掟 バカじゃないとできないよねぇ。好きな男性のタイプを聞かせてもらえませんか？

花 やさしくてきくばりじょうず。

掟 気くばりのススメ？ 鈴木健二みたいですねぇ。

花 あとは、めがねかけてるひと。

掟 それはモロ鈴木健二じゃないですか！

花 そのひとはしらないけど、めがねがいいの。あたまよさそうなひとがすきだから。

掟 実際、メガネかけててバカな人もいっぱいいるよ。

花 そのひととはりこんする。

響子 結婚する前に離婚しないで！

掟 早まらないで！

花 いちねんかんつきあうの。

響子 3年は付き合ったほうがいいよ。

花 ううん、いちねんつきあって、わたしのたいぷじゃなかったらわかれる！

響子 タイプじゃなかったら付き合うなよ！

掟 付き合ってみないとわかんないからね。

花 そうそう。

掟 いままで付き合ったことありますか？

花 しょうへいくんとあそんだことはある。つきあってはいないけど。

掟 遊びの男がいるんですか……手玉に取ってますねぇ。

響子 バレンタインデーに時間差で男の子を呼び出してチョコあげてましたからね。あげない子にはわからないように。

掟 それこそ気配りですよ。ズルいってわけじゃなくて。

花 かんちがいされたらこまるし。あっ、あんけーとする！（取材を行なった『肉の万世』の「お客様の声」に興味を示して突然回答し始める）。おりょうりのあじは3てん！

掟 自由だなぁ……。

第7回 木村 花（木村響子の一人娘）の巻

■きむら・はな。1997年9月3日生まれ。05・8・21NEOキネマ倶楽部大会にてタニーマウスを下し、第201代アイアンマン王者に。その1分後、喜んでいる隙に母親・響子に押さえ込まれ王座転落。 ■きむら・きょうこ。1977年3月19日、神奈川県出身。H5年にFMWに入門するもデビューを前に退団。その後、海外放浪を経て花ちゃんを出産。03年にJWPに入団&デビュー。H17年12月からフリーとして様々な団体で活躍中のシングルマザー。

アフロとバナナと「ウッホウッホ」の雄叫びがトレードマークの木村響子。現在は花ちゃんの他に、お姉さんと、その娘まりんちゃん&息子かいや君と同居中。ブログアドレスは
【http://blog.livedoor.jp/kimurarock/】

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）ロマンポルシェ。38歳にしてフジテレビ系列土曜夜11時～放送中の『くるくるドカン』で、水温2℃の川を泳いだり、10mの断崖絶壁からダイブしてサザエを密漁料理する毎日。三回に一回程度リアクション芸人化して出演中。その他諸々の出演情報などは掟ポルシェBLOGをご参照ください！
【http://blog.excite.co.jp/porsche】

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA Cool! 宅急便

Vol.4

PROFILE
Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「デンワが止められました」。

米国興行戦国時代の幕開け!!

聞き手／デューク東郷　助手／上杉弁護士

榊原DSE代表が今年10月のラスベガス大会開催を明言!　ときを前後して、カリフォルニア州では、MMAでオクタゴンだけでなくリングの使用も認可されたというニュースが。これにより『PRIDE』のカリフォルニア進出も見えてきた。また、新興勢力のIFLや『Strike Force』、WFAなど、UFCを追随する動きも全米各地で一気に活性化。UFCの支配体制から群雄割拠の時代に移り変わりつつあるアメリカに注目!

——今月は縮小版だから無駄口叩かないで駆け足で!

スコット　それはこっちの台詞だけどね。まずはスーパービッグニュースから。カリフォルニア州のアスレチック・コミッションがMMAでリングの使用を認める修正案について投票を実施し、満場一致で可決した。これはケージ(金網)ではなくリング使用にこだわっていた『PRIDE』にとって米国進出への大きな前進になる。

——え〜!?　それは至極残念なニュースじゃん!

スコット　なんで?　喜び勇んで庭を駆け回る話だよ。

——だって、『PRIDE』の米国進出はサク(桜庭和志)vs田村(潔司)戦とかタイソン祭りとか永久電機とか、「さてさて、今年は実現するのでしょうか?」って感じで楽しむ風物詩だからねえ。本気で「やらないじゃないか!!」とか怒ってる奴は肩の力を抜いたほうがいいよ。

スコット　あんたは力を抜きすぎだけどな。まあ、この修正案の最終決定までには45〜120日ほど掛かる見込みだけどね。これに付随するニュースとしては、UFCのカリフォリニア進出に多大な貢献をしたマーク・ラットナー(元ネバダ州アスレチック・コミッションのエグゼクティブ・ディレクター)がUFCの副社長に就任。この人事を受けてまだMMAイベントに反対している州での大会開催が容易になることは間違いないよ。

——天下りもいいことがあるもんだな。アスレチック・コミッションから人間をどんどん担ぎ出して、愛知万博ばりの副社長18人体制にすれば全米統一も夢じゃないぞ!

スコット　(無視して)UFC以外でもMMAの活動は活発だよ。つい先日、北米の観客動員レコード(18200人)を更新した『Strike Force』は6月9日に再び開催。メインイベントがビクトー・ベウフォートvsケビン・ランデルマンに決定した(後に中止が決定)。ビクトーの相手としてクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンの名前が挙がっていたけど、ジャクソンはIFLの解説役に就任することが発表されている。

——IFLといえば、国際大使に就任して、ついに、いよいよ、やっと、とうとう世界戦略の実現が帯びてきたような気がする、アントンから目が離せないなあ。

スコット　たしかに4月29日のアトランティックシティで行なわれたIFLの旗揚げ戦で、IFL共同創設者のカート・オットーが、アントニオ猪木をIFL国際大使として紹介した。これによりIFLは世界の市場にも乗り込んでいくつもりらしい。

——ついにアメリカでも「俺は触ってねえです!」のアントン節が炸裂するかと思うと胸がドキドキしてしょうがないよ!

スコット　真面目な話、IFLの存在はちょっと侮れないぞ。旗揚げ戦前にテレビ局と契約を締結したことで資金力も潤沢みたい。

——断られたらしいけど、ヴァンダレイ・シウバに複数契約とはいえ、50万ドルのオファーをしたそうだしね。ずいぶんと景気がいい話だよ。UFCもうかうかしてられないんじゃないの?

スコット　UFCも次々に仕掛けの矢を放っているけど、ドタバタもけっこう起きている。例えばティト・オーティズは前回の試合(UFC59、vsフォレスト・グリフィン)で負傷したため、UFC61(6月8日・ラスベガス)でのケン・シャムロック戦の延期を希望した。現在両者はTUF(リアリティ・ショーTV番組『ジ・アルティメット・ファイター』)サードシーズンのコーチ同士で放映終了後に試合が組まれるビッグマッチだったから、代表のダナ・ホワイトはおかんむり。「ティトはいつもこうなんだ!」ってケガ以外になんらかの確執を漂わせるような発言をしてるんだ。結局、直接ダナ・ホワイトに電話をかけ、シャムロック戦を志願したフォレスト・グリフィンがピンチヒッターとして登場することになったわけ。

——グリフィンはティトに判定で負けたけど、逆に株を上げた一戦だったね。それ以上にティトの衰えが目についたわけだけども。

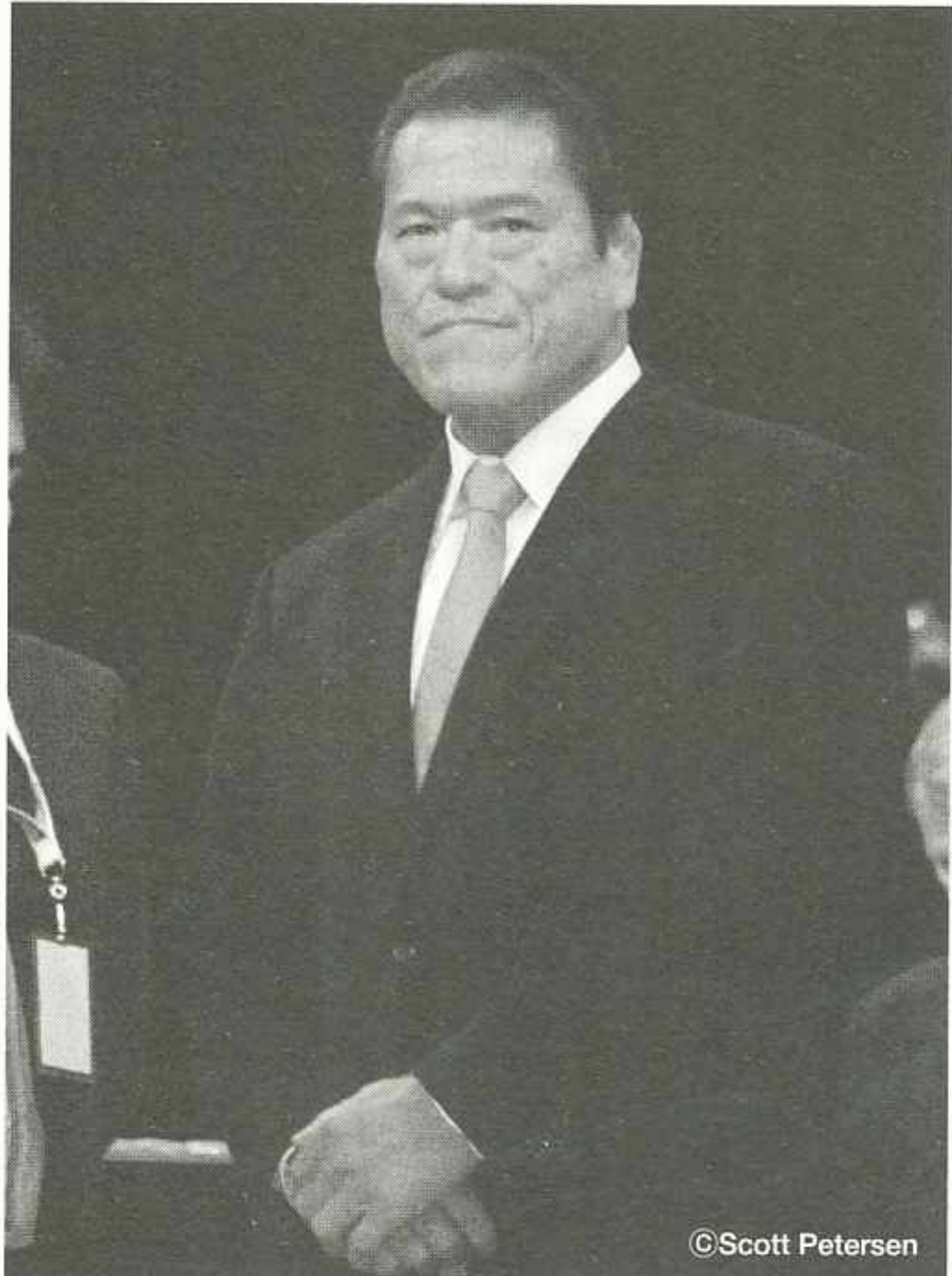
スコット　あの試合の判定については一部で議論になってるんだよ。ダナなんか「個人的にはグリフィンが勝ったと思っている。ティトに30─27のジャッジを入れた審判は二度と試合を裁くことはないだろう!」とまで発言している。

——ああ、それで我らが角(田信朗)ちゃんの審判報酬25パーセントがカットされたのか。

スコット　それは魔裟斗vsブアカーオ・ポー・プラムック戦のジャッジ問題だろ!　いちいち古い話を持ち出すなよ。

——しかし、それって公正公平さを打ち出しているように見えるけど、たとえダナがイベント運営の代表者とはいえジャッジの方向性に口を出している時点で競技から逸脱しているよな。まあ、人間の暴走を見ることほどおもしろいものはないから、第三者からすれば大歓迎だけど。

スコット　ちなみにダナは、フランク・シャムロックがMMAに復帰したことにも触れていて、「彼がUFCのために働いてくれるかどうかはわからない。ティト・オーティズ同様に話が噛み合わない相手なんだ」とも噛みついている。べつにティトの名前を出す必要もないのに(笑)。

——ダナこそアントンをパートナーにすべき人間性を持ってるなあ。ぜひアントン&ダナのコンビで全米版『猪木祭り』開催を希望!　ってことで今月はサヨウナラ!!

©Scott Petersen

"IFL国際大使" アントンはサイモン猪木氏とともにリングへ。しかしアントンを知らないアメリカの観衆は盛り上がらず。帰国後、猪木は成田会見で「正直に言えば、格闘技に関わりたくない」と素晴らしいコメント。ダー!!

UFCヘビー級王座の変遷
USA Cool宅急便

アルロフスキー王座陥落
"緊急寄稿"

UFCヘビー級王座の行く末とありかた

〜運命的に巡り会うのではなく、無軌道に転がる石を拾うように〜

文／デーモン・マーティン

アンドレ・アルロフスキーがマットに沈んだそのとき、観客は、王者といえどもKOされるという、ごくありふれた現実を目の前に突きつけられた。そしてUFCヘビー級王座を包む神秘のベールは、その輝きを失なった。

UFCはいま、貧相になってしまったヘビー級の次の展開を模索している。いや、いまだ探せないでいると言ったほうがいいのか――。

『PRIDE』が確固たる信念のもとに世界最強ヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルを飾り立てているとき、UFCは最後の長期政権保持者であったランディ・クートゥアーに代わる人材を見つけられないでいた。UFCヘビー級王者の寿命は、ここ最近、かなり短い。ジョシュ・バーネットはステロイド使用の嫌疑をかけられ、一度も防衛することなく王座から滑り落ち、リコ・ロドリゲスはランディ・クートゥアー戦でドラマチックな勝利を勝ち取った後、己への過信からティム・シルビアにKOされ、同じく初防衛に失敗した。

ガン・マッギーを破りタイトルを防衛したシルビアは、タイトルホルダーとして最適な存在にも思われたが、フランク・ミアの強力なアームバーに敗れてしまう。フランク・ミアにいたっては、その威厳に満ちあふれた佇まいといい、まさにUFCが待ち望んでいたタイプの王者だった。その証拠に、不幸にもバイク事故に遭遇し、一旦キャリアに終止符を打ったミアのために、UFCは1年以上もチャンピオンベルトを寝かせ続けていた。結局、別の王者を誕生させざるを得なかったが――。

そのミアに代わって登場したファイターが、アンドレ・アルロフスキーである。ベラルーシ人の拳は、多くのファンやマスコミが多大な期待を寄せるにふさわしかった。

WWEと同じくアメリカのMMA界において、トラッシュ・トーク（対戦相手に対する挑発的なマイクパフォーマンスなど）が重要視されるのは議論の余地がないことだ。そんななかUFCは、ほとんど英語を話さないベラルーシ人に、どういうキャラをつけるべきか頭を痛めていた。しかし、アルロフスキーのジェスチャーは実際の口以上にモノを言ったのだった。ミアに代わったチャンピオンは、挑戦者の実力不足に不満を抱いているかのように振舞ったのだ。ジャスティン・エイラーズがその王座に挑んだときも、アルロフスキーにいたっては、ただ漠然と機械のようにエイラーズを抹殺するだけだった。あの、重いパンチと破格の頑丈さで評価を集めたポール・ブエンテロですら、アルロフスキーのスピードとパワーの前には、ただの木偶な標的にすぎなかったのだ。

誰がアルロフスキーを止めるのか？ 絶対王者の存在感とヘビー級の神話が、ファンのあいだで徐々に浸透していく最中だった。まさかの陥落と崩壊――。

UFC59。アルロフスキーとティム・シルビアの再戦。圧倒的多数の観客がアルロフスキーの勝利を確信していた。シルビアが1R保つ、と予想した人が何人いただろうか。

試合でも両者のレベルの差は明らかだった。明らかだったのに、一瞬の油断の直後、アルロフスキーはマットに身体を委ねていた。そして前王者は、何が起こったのか把握できないでいるかのような、ぼんやりとした表情で、呆然とバッグステージへ去っていった。UFC史上、もっともふさわしくない王者をオクタゴンに残して――。

現在、7月にアルロフスキーのリターンマッチが発表されている。次の挑戦者として期待されていたジェフ・モンソンは、マーシオ・"ペジパーノ"・クルーズとの、どんよりとした光るところのない試合で、ファイターとしての評価を落とし、タイトル挑戦を後回しにされた。ミアにしても、ペジパーノとの復帰戦が不完全燃焼だったことから、まだ完全に復活したとは言えない（そして、完全に復活するかどうかもわからない）。シルビアへの正当な挑戦権を持つ人間は、アルロフスキーしかいないという現状なのだ。

アルロフスキーの登場により輝きを取り戻しつつあったヘビー級戦線だが、力による恐怖支配を実行できないシルビアがトップに立ったことで、再び物語の焦点を失なった。「誰がこの男を倒すのか？」。そういった幻想を抱かせる雰囲気が漂ってないのだ。悔やまれることに、アルロフスキーはUFCにおけるヒョードルのごとき存在にはなれなかったのである。

ヘビー級の輝きは一瞬にして光を失ない、ほんの1ヵ月前の状態に近づけることさえ、いまとなっては難しい。アルロフスキーの敗戦は好調UFCに、一点の曇り、しかし確固とした暗雲を呼び込んだのだった。

©Dave Mandel

一発のパンチで逆転KO勝ちしたシルビアはリングの中で咆哮し、全身で歓喜を表現。その横には王座を失ない、うなだれるアルロフスキーの姿が……

4/15 UFC.59 『Reality Check』

in 米国カリフォルニア、アローヘッド・ポンド

[UFCヘビー級選手権]
○ティム・シルビア（挑戦者）vs アンドレ・アルロフスキー（王者）×
（1R 2:43 TKO）
※右フックで倒れたところにパウンド

[ウェルター級]
○ショーン・シャークvsニック・ディアス×
（3R判定）

[ライトヘビー級]
○ティト・オーティズvsフォレスト・グリフィン×
（3R 判定）

[ミドル級]
○エヴァン・タナーvsジャスティン・レーベンス×
（1R 3:14 三角絞め）

[ヘビー級]
○ジェフ・モンソンvs マーシオ・"ペジパーノ"・クルーズ×
（3R 判定）

ホイスが"自分の家"に帰ってくる!! UFC.60 『Hughes vs Gracie』

マット・ヒューズvs ホイス・グレイシー

"リビング・レジェンド" ホイスがまさかのUFC復帰! しかも相手は、日本では地味なイメージが強いものの、"アメリカNO.1パウンド・フォー・パウンド・ファイター" の呼び声が高いヒューズ!! はたして現代のバケモノ相手に伝説の技が通用するのか!?

etc
ブランドン・ベラ vs アスエリオ・シウバ
ディエゴ・サンチェス vs ジョン・アレッシオ

金ちゃんのどこまでやるの?

イラスト◎中川画伯

第5回 垣原さん引退によせて

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

先月の試合（4・9パンクラス、アルボーシャス・タイガー戦）後、落ち込んでたんだけど、ファンの人が応援のメールをくれたり、いろんな人が心配して連絡してくれたりして、本当にありがたいと思ったよ。これだけ応援してくれる人がいるんだから、身体はなんともないんで、メンタルトレーニングで心を鍛えて、復活しなきゃいけないよね。

試合の数日後には宮戸（優光）さんからも電話もらってさ、どっかで俺の試合後のコメントを読んだらしくて「なんだよ、おまえ元気ねぇのかよ。辞めるのは簡単だけど、おまえはまだやれるんだから、頑張れよ」って励ましてくれたんだよ。まぁ、べつに俺も「引退する」とまでは言ってないんだけどさ（笑）、気にかけてくれてるんだから、ありがたいよね。

で、宮戸さんと電話で話した二日後に、今度は垣原（賢人）さんから電話がかかってきてさ、「じつは明日、記者会見して引退発表することになりました」って言うからびっくりしたよ！　垣原さん、相当首が悪かったらしいんだよね。だいたい選手って長いことやってたら、みんなアチコチどこかしら痛めている個所を抱えてて、それをなんとか筋肉をつけてごまかしてやってる場合が多いんだけど、垣原さんの場合、神経がやられてて、もうその筋肉をつけることすら難しい状態らしいんだよね。垣原さんは俺の先輩だけど、歳は俺のほうが二つ上だから、まだ33歳でしょ？　早いよね。

なんか垣原さんが引退するって聞いたらさ、俺もUインターの新弟子時代の思い出が急によみがえってきたよ。垣原さんは俺のすぐ上の先輩で、Uインターに入門したときから一緒の寮で3年間ぐらい生活を共にしてきたからね。当時は二階に田村さんと垣原さん、一階に練習生が住んでてね。田村さんが寮を出られてからは垣原さんが寮長になって、俺や高山君、サクなんかがいて、凄く思い出深いよね。

田村さんが寮長だった時代は、風呂なんかも先輩が先に入らないと後輩は絶対に入れなかったり、厳しい掟が多かったんだけど、垣原さんが寮長になってからは「お先に失礼します」って言えば風呂入れるし、みんなの誕生日にはケーキを買って寮で誕生会やったりして（笑）、凄く雰囲気がいい寮だったのを覚えてるよ。

あと、垣原さんで思い出すのはさ、俺が初めて〝酒乱〟になった人を見たのが垣原さんなんだよ（笑）。いや、べつに垣原さんが特別酒癖悪いわけじゃないんだけど、俺が新弟子の頃、垣原さんは腓骨骨折してて、試合ができなかったんだよね。それで当時、大会後の打ち上げで叙々苑に行って、みんなでガンガン酒飲んでたら試合ができないストレスが爆発しちゃったみたいでさ、奇声出して絶叫したり、暴れたりで大変だったんだよ。俺、酒に酔ってそんなふうに人が変わるの初めて見たからびっくりしてさ、まぁ、その一年後くらいには俺も同じことやってたんだけど（笑）。

それで垣原さんが酔いつぶれて歩けなくなったから、次の店行くとき俺がおんぶして運んだのよ。そしたら歩いてる途中で、おぶさった垣原さんが急にもの凄い力でチョークスリーパー掛けてきてさ、俺そのまま落とされて六本木の交差点で倒れちゃったんだよ。それで高田さんに背中をバチーンと叩かれて意識が戻ったんだけど、それが俺が初めて落ちた経験だからね。道場より先に六本木で落とされたっていうのがUインターならではでしょ（笑）。忘れられない思い出が多いよね。

あれからもう16年も経つんだなぁ。時の流れは速いね。とりあえず、垣原さん、16年間お疲れさまでした！

ささきぃの STAND BY ME second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

第1回 『kamipro』立ち技増刊を勝手に作っちゃいました!?

極私的立ち技格闘技通信「STAND BY ME」が取材日記になって再登場。担当はささきぃです。『kamipro』携帯サイトを担当し、毎日会見や試合会場に出かけ、K－1やキックボクシング、シュートボクシングを追いかけてます。このコラムでは、他の媒体では読めない立ち技格闘技のどうでもいい周辺や個人的におもしろかった話などをお伝えします。真面目なレポートは携帯サイト「kamiproHand」で読めます。そっちもよろしくです。

4月21日　全日本キック後楽園大会の後、全日本キック、パンクラスでリングアナを務める宮田充さんの15周年パーティが行なわれた。お祝いとして「kamipro」から何か贈れないか考える。試合写真はないから、リングアナしてる写真？　記念品？　食べ物？　……考えた結果、宮田さんはキックの人ながら『kamipro』をずっと読んでくれている人だしと思って、写真を利用して表紙を制作。写真を探し、コピーを考え、この表紙にふさわしい記事を考え、デザイナーに頼む。なぜこういうことをしていると楽しいのだろう。……あ、そのぶん仕事してないからか。祝い事は大切にすべきという信条ゆえの行動ではあったが、いま思えば仕事からの逃避だったと思う。宮田さんは「いやぁ、DSEの選手でもないのに『kamipro』表紙になれるなんて！」と、ひねくれた37歳らしい言葉で喜びを語ってくれた。

4月25日　試合を観に行けなかったので、昨日の「かつらボクサー」試合について新聞各紙に目を通す。どの新聞も大きく扱っている。試合も気になるが、それよりも報道の「すべり具合」が気になって仕方ない。「つらは投げても勝負は投げず」とか、「ハゲしく攻撃」とか、「毛がなく判定勝ち」とか、「夢は増毛と日本タイトル奪取」とか、やりたい放題である。事件としては笑うしかない話なのだけど、新聞なんだし、言って良いことと悪いことがあるんじゃないかと少し思う。

4月28日　『TITANS』代々木大会取材。ヘビー級王者・内田ノボルとリュウの試合は、今年1月に行なわれた試合の再戦。試合はリュウがリードするも、最終ラウンドで突如リュウが反則のバックドロップを披露！　これで後頭部を強打した内田は試合続行不可能となり、リュウの反則負けとなった。

サムライのニアライブ中継では〝Mr.バックドロップ〟後藤達俊がこの試合にコメント。リュウのバックドロップを見て「最後までクラッチを外さずに投げているのが素晴らしい」と絶賛。「次もバックドロップで決めてください。反則だろうと、倒せば勝ちなんで」と、極悪オヤジらしく言い切った。ちなみに肝心の結果はドロー。3度目の対決は実現するのだろうか。もう、投げありでやったらどうかと投げやりに思うが、いやいや、試合は試合と思い直す。

5月は亀田兄弟、全日本キック後楽園、シュートボクシング後楽園もある。立ち技への旅はまだまだ終わらない。

これが実際に作ったプレゼント用のニセ表紙。特集やインタビューもそれらしく入っています

U-Zeal ユージール

ファイトマネーは観客投票で決定！ 実験的格闘イベント『U-Zeal』特集

試合の価値は観客が決める！

本誌前号で紹介したU-STYLEの新コンセプトイベント『U-Zeal』を今月はたっぷり大特集！　シュートの総合格闘技でありながら、観客論をもっとも重要視し、選手のファイトマネーは、大会後、観客の投票によって決まるというこの実験的イベントから、はたして何が生まれるのか？

聞き手／堀江ガンツ　designed by shiraki (TwoThree)

U-Zeal

元リングスファンの格闘家といえば〝世界の所さん〟こと所英男だが、元Uインターファンの格闘家といえば、この中村大介だ。

所同様、現在の総合格闘技においても、常に動き続ける〝回転体〟を理想とし、それを試合で実践する次代のU戦士、中村。いまは、まだまだ無名だが、そのアグレッシブな闘いぶりは、近い将来、必ずや〝世界の中村さん〟としてブレイクすること間違いなし!?

現在、『U－Zeal』のエースとして、勝負論と観客論の融合実験に毎月挑んでいる中村大介とはどんな男なのか。いまのうちから、知っておいたほうがいい。

――今日は『U－Zeal』のエース、中村大介とは何者かということでお話をうかがっていこうと思います！

中村　あ、よろしくお願いします。でも僕、まだエースじゃないかもしれないんですけど（ポツリ）。

――いやいや、小さなイベントながら立派なエースだと思いますよ。

中村　でも、『U－Zeal』はいまリーグ戦をやってるんで、エースが決まるのは優勝が決まったあとかなって。

――あ、なるほど。それでは、〝暫定エース〟ということで大丈夫でしょうか（笑）。

中村　あっ、それでお願いします。

大城　（『U－Zeal』プロデューサー）中村選手はあんまりしゃべるのが得意じゃないんで、僕も同席させてもらいます。まぁ、所英男選手にとっての上原さん（ZST広報）という感じで（笑）。

――わかりました（笑）。では本題に入りまして。そもそも中村選手はこの『U－Zeal』という大会のコンセプトを初めて聞いたとき、率直にどう思いましたか？

中村　もう、素直に「やりたい！」って思いましたね。自分はやっぱり試合内容を第一に考えてるというか、そういう部分を大事に思ってるんで。

――『U－Zeal』の一番の特徴というのは、やはり観客ジャッジシステムだと思うんですけど、観客の投票で思いっきりファイトマネーが決まるというのは選手にとってはかなり酷じゃないですか？

中村　でも、わかりやすくていいというか、そういうのがあれば選手も俄然やる気が出ると思うんで、自分は好きです。

――観客から評価されなかった選手は、本当に一銭もギャラが発生しなかったりもするんですか？

大城　現状はそうですね。今後はそのあたりをもう少し考えないといけないとは思ってるんですけど。でも、逆にプロレス、格闘技の試合って「金返せ！」って思う試合もあるじゃないですか。それを考えるとギャラがないっていうのもアリなのかなとは思ってるんですけどね。

――ただ、アマチュアの選手がノーギャラになるかもしれないっていうのはわかるんですけど、中村選手なんかは『PRIDE武士道』で、マーカス・アウレリオと闘ってる選手ですからね（笑）。その選手がノーギャラで試合するかもしれないって凄いですよ。

中村　でも、試合するときはいつもそのぐらいの気持ちでやってるんで、僕自身はあんまり気にしてないですけどね。

大城　そもそも『U－Zeal』って昨年11月に行なわれた『U－STYLE　Axis』の反省点から生まれたんですけど、じつはその企画段階で中村選手にも加わってもらったんですね。それはやっぱり田村さんの中でも評価は高い選手ですし、Uっていうのを一番体現できる選手ですから。

――まあ、田村さんの評価が高いというのは、『U－STYLE　Axis』でフランク・シャムロック戦に抜擢されたあたりからもうかがえますよね。

中村　あれは本当に凄いチャンスをいただいたなって思いましたね。試合自体は納得できる内容じゃないというか、ちょっと反省点が残った試合だったんですけど、そのあとにこの『U－Zeal』の話をいただいたんで、次こそはと思って、本当に一生懸命にやりました。

――その中村選手から見て『U－STYLE　Axis』で最も変えないといけないところってどこだったと思いますか？

中村　やっぱり会場の〝熱〟ですね。『U－Zeal』って「熱意」って意味が込められてるんですけど、『U－STYLE　Axis』にはそういう熱というか、……会場がちょっと広くて寒かったからかもしれないですけど（苦笑）、やっぱり熱がなかったんじゃないかと思います。僕は試合をやった選手なんであんまり問題点を言える立場じゃないんですけど、やっぱり一番は試合をやってる選手自身が熱くなかったってのは悪かったと思うし、選手が熱くないとお客さんも思い入れを持って観られないですからね。

――そういう意味で『U－STYLE　Axis』と『U－Zeal』っていろんな部分で改善された点があるというか、違いがありますよね。

中村　だいぶ違いますね。

――その〝違い〟という意味で言えば、カテゴリー的に『Axis』は「プロレスリング」であり、『U－Zeal』は「総合格闘技」であることが大きな違いだと思いますけど、そのあたり選手としてはどういう意識で試合をしたんですか？

中村　いや、自分はプロレスでも総合格闘技でも、正直、あんまりそういう区別とか考えたことがないんですよね。僕、デビューが総合格闘技というかたちでグローブ着けて試合をやったんですけど、U－STYLEでやるからと言って、そこに差をつけることはあんまり考えてなかったですし。

――でも、U－STYLEの若い選手の試合を観ていると、あまりに「プロレスをやろう」としすぎているというか、「総合格闘技じゃなくてプロレス」という部分ばかりが見えてたんですよ。田村選手の試合にはそれが見えないんですけどね。

中村　そうなんですよね。だから、僕らがその域まで行くために『U－Zeal』をやる必要があると思うんですよ。

――田村さんがUWFで闘ってた頃って、総合格闘技自体がまだ存在してなかっただけに、それがプロレスであっても総合格闘技のつもりで闘ってたと思うんですよ。でも、いまのアマチュアにガチンコの総合格闘技が当たり前に存在する時代だったら、『U－Zeal』のように〝ガチンコのU〟にするしか、選手と観客の両方が緊張感を持つことって難しいんだろうなと思います。

中村　う～ん。試合の緊張感って、やっぱり総合格闘技が一番あるし、それから……（おおいに悩む）。

大城　（遮るように）僕なんかはこの時代にUがどうのこうのって考える必要はないと思うんですよ。総合格闘技っていうのが一つの大きな括り

『U-Zeal』とは?

勝負論と観客論を合わせ持った“真のプロフェッショナル”を育成することを目的とした、U-STYLEの新コンセプトイベント。ルールは顔面パンチなし、ロープエスケープ有りのUWFルールを採用しているが、これまで“プロレスリング”として行なわれてきたU-STYLEと違い、“シュートファイティング”として、行なわれていることが特徴。また大会後、観客の一人一人が「おもしろかった試合」、「つまらなかった試合」を投票。その投票結果が、そのままファイトマネーに直結するという、画期的なシステムを採用し、勝利よりも観客の満足度を上位に置いているところがユニークだ。
大会は西調布格闘技アリーナで、毎月、第2土曜日に開催。収容人数200人の小規模な会場なので、どこでも特別リングサイドの興奮が味わえる。
詳しくは公式ホームページまで。

HPアドレスは
http://blog.livedoor.jp/u_zeal/

“世界の所さん”も認める次代のU戦士
新たなる“U”を創り出すのはこの男だ!

中村大介

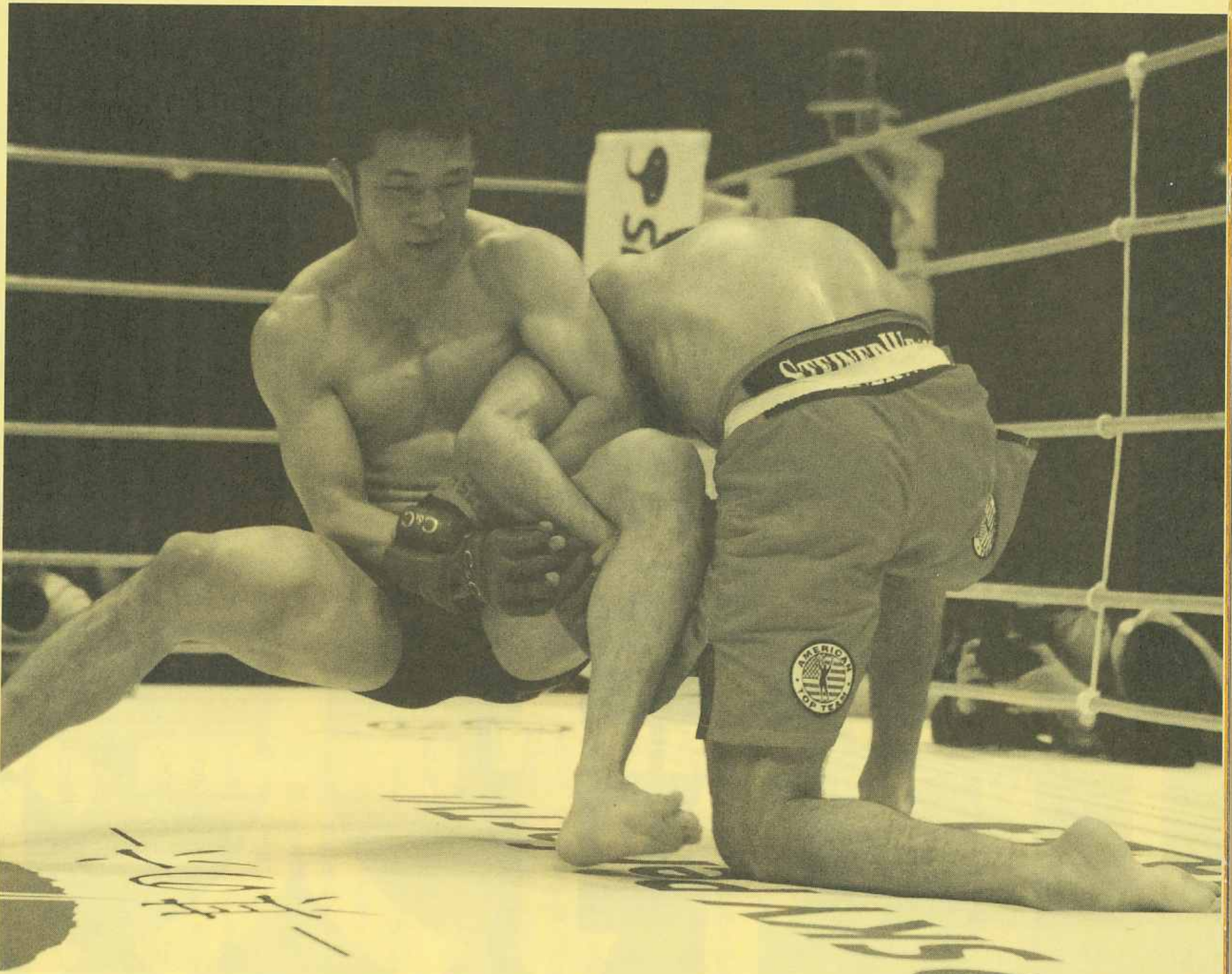
DAISUKE NAKAMURA
from
U-FILE CAMP.com

になってるとしたら、その中にバーリ・トゥード、グラップリングルール、ZSTルールなどがある。Uもその中の単なるジャンルの一つでいいんじゃないかなって思うんです。それにUで輝く選手ってのも絶対にいると思うんですよね。プロレスの才能はない人、総合の才能もない選手、でもUだと光れるという選手。だから、ガチンコだどうだということよりも、お客さんは試合の内容に注目して見てるのかなって思うし、選手もそういうことを考える必要ってないんじゃないかと思いますね。

——たしかに。でも、U—STYLEのファンが極端に増えた中で「Uってどうせプロレスなんでしょ」っていうひと言だけで済まされてることだったりしないですか?

大城 そうそう。それで本当に冷や飯食ってた部分もありますよ。逆に選手も競技を舐めちゃう部分があった。そういう興行がどうなるかって言うと、お客さんが競技を舐めてくる、業界人だってみんな選手を舐めちゃう。さらに業界の人からそういう評価が下ると、トップで頑張ってる選手はやっぱりイヤな思いをして大会が盛り下がる。この悪循環なんですよ。だから、僕はもう一回下から作り直していこうと思って『U—Zeal』を企画したんです。

中村 僕も本当にそういう舐められ方をするのはイヤだし、本当に自分はこのスタイルに一番影響受けた世代なので、甘く見られたくないというのは感じてます。自分が一番好きだったのはUインターだったんですけど、自分は(Uインターは)『U—Zeal』みたいなものだと思って観ていたんですよ。だから、これこそが自分がやりたいことなんですよね。

UWFインターは『U—Zeal』みたいなものだと思って観ていた。だから、このスタイルが僕の理想です。

06年4月3日、『武士道』初登場で中村は、この1年後、五味隆典を倒すマーカス・アウレリオと対戦。アウレリオのねちっこい柔術テクに、持ち前の動き回る回転体は封じられたが、寝技地獄をしのぎにしのいだ。

——宮戸優光さんなんかの話を聞くと、Uインターっておそらく中村選手が言うようなものと同じものを目指していたと思うんですよ。それが当時は偶然プロレスだったってだけで、とにかくお客さんにみっともないところを見せちゃダメだというのをひたすら叩き込まれてたじゃないですか。その部分って、じつはいまの総合格闘技が一番欠けてる部分でもあるんですよね。

大城 やっぱりお客さんはある意味プロだし一番怖い存在なので、その人たちにどうやって乗ってもらうかっていうのは外しちゃダメですよね。興行を打つ側としては会場を大きくしたいという思いは念頭にあるんですけど、まずこの段階のことを忘れちゃいけないなって。

——そういう意味で、中村選手が一番理想としている試合ってどんな試合ですか?

中村 理想はやっぱりゴングが鳴るまで一回も止まらない試合ですね。回転、回転って感じで。最近は、さらに感情がぶつかり合いなんかが見えるのがいいなって思います。だから、たとえばUインターの田村潔司vs山崎一夫という試合は一つの理想型だと思いますね。

——田村vs山崎ってシブいとこ突いてきますね。あの髙田vs北尾のセミでやった試合ですよね。

中村 そうです(笑)。あれが一番いいなって。いまでもよく思い出しますよ(ニコニコ)。意地の張り合いから、田村さんも山崎さんもお互い蹴りなしで闘って、最後に腕十字で一本取るっていう、本当に感情の見える試合で、そこがいいって言うか。

——そういえば、第2回『U—Ze

U-Zeal

a l」の中村さんの試合は、ちょうど髙田vs北尾みたいな感じでしたよね。緊張感があって、裏投げでぶん投げられながらもハイキック一発で逆転KOで。

中村　自分としてはもうちょっと長く闘いたかったなっていうのもあったんですけど、まあ短い時間の中であれだけ見てもらえたんで、そこそこ満足かなというのはありますね。ああいう緊張感のある試合をどんどんやっていきたいです。

大城　でも、やっぱりあの試合が良かったのは何より中村選手と対戦した小田貴久選手も試合を理解していたというのが大きいと思うんですよね。あの試合は本当に『U－Zeal』の求めているものだなって思います。

中村　逆に『武士道・其の八』のマーカス・アウレリオ戦はヒドすぎて、もの凄く自分の中で反省しています。本当に膠着、膠着だったんで、僕の中で一番最悪な試合です。それが一番悔しかった。だから、ああいう選手との試合でも動いて動いて魅せられる試合をやれるようじゃないといけないなって思ってます。

――今後、中村選手自身、『U－Zeal』はこういう試合をしたいという願望みたいなのってありますか？

中村　まだ2大会しかやってないんですけど、毎回「もっとこうすればよかった」っていう課題が残るんですよ。だから、試合をする選手も、もっと強くて魅せられる選手が出てくるような大会にしていきたいですし。

――『U－Zeal』以外にも、『PRIDE』や『DEEP』にも上がりたい希望はあるですか？

中村　『U－Zeal』をホームリングにして、やっぱり外に出て試合をしたいというのはありますね。先日もイギリスの『ケージ・レイジ』で海外初の試合をしてきましたし。そういう外にどんどんアピールする動きをしていきたいなって。

――そういえば、世界の所選手がいま一番闘いたい相手として、中村選手の名前を挙げてましたよ。

中村　本当ですか!?（嬉しそうに）。所さんとは一緒に練習したこともあるんですけど、自分もいつか所さんとやりたいって思ってます。所さんは、試合を観てても凄く影響受けますし、自分も所さんと一緒で試合中は凄く動き回るスタイルなんで、所さんとだったらUがおもしろいというのをいうのを証明できると思いますし。

大城　二人はいいライバル関係というか、相乗効果でお互いに上がっていけると思いますね。いまだとちょっと所選手が先にいっちゃってるんで、中村選手にも上がっていってほしいという部分はありますけど。

――そもそも、中村選手って所選手とはいつからの付き合いなんですか？

中村　きっかけは2年前ぐらいだと思うんですけど、U－FILEのジムって週に一回外からの選手も交えて練習するんですよね。そのときに所さんが来てたんです。いまでもけっこう来てくれますし、試合なんかも見に来てくれたりしてるんで。

――このあいだも『U－Zeal』の会場に来てましたね。

中村　本当に嬉しいですよねぇ。できれば『U－Zeal』でやりたいんですけど。それで、お客さんを呼んで、ファイトマネーを増やすという（笑）。

――では、おおいに期待してますので、頑張ってください！

【06年4月28日／U－FILE CAMP登戸にて収録】

なかむら・だいすけ■1980年6月10日、東京都出身。UWFインターファンが高じて田村潔司主宰のU-FILE CAMPに入門。デモリッション、DEEPで実績を積み、昨年は『PRIDE武士道』に初出場。あのマーカス・アウレリオ相手に粘り強く食らいつき善戦した。その朴訥とした風貌と、動き回るファイトは新人時代の桜庭和志を彷彿させ、新たなUを築くことが期待される。176cm、72kg。

『U-zeal』プロデューサーが語る
いまこそ“U”が必要な理由

大城盛隆

「僕はUインターが好きだっただけに選手が堂々と“U”を名乗れるものにしたい」

ファイトマネーは観客の投票で決定するなど“感極論”に思いっきり針を振った格闘イベント『U-Zeal』。それをプロデュースするのは、『PRIDE』のレフェリーとしてもおなじみ大城氏だ。なぜいま、この実験的な“U”が必要なのか、解説してもらおう。

——そもそも、この『U-Zeal』という大会は、どういう経緯でスタートしたんでしょうか？

大城 もともとは、去年11月に有明コロシアムで開催された『U-STYLE Axis』がきっかけだったんです。あの大会の反省点を洗い出して生まれた興行というか。

——反省点というのは具体的にいうと？

大城 要は、あれだけの大箱で興行を打って、残念ながら惨敗をしたわけじゃないですか。なので「何が悪かったんだろうか」という話を田村（潔司）さんや関係者のあいだでいろいろ話をしたんですよ。その中で結論として出たのは「やっぱり試合内容が悪かったね」ってことだったんです。その原因を掘り下げるならば、選手があのレベルまで育ってきてなかったという問題点もあったし、もっと悪かったのは、結果的に関係者がお客さんを舐めてたということもあると思うんですよ。「このぐらい見せてあげればお客さんは満足するだろう」って勝手に高をくくっちゃった部分があったんですよね。

——なるほど。そういう問題点を全部ひっくるめて、『U-Zeal』は観客論に立ち返ろうというか、興行として原点に立ち戻ろうということになったんですね。

大城 その通りですね。『Axis』のあと、田村さんに「調布の大会から再スタートするから、案出ししてくれ」って話を振っていただいたんですよ。そのときに、やっぱり僕としては、観客が選手を育てて、育った選手が結果としてお客さんを引っ張っていくっていう相乗効果が生まれる大会にしたかった。それで思いついたのがあの〝観客ジャッジシステム〟だったわけです。

——いや、あれって本当に斬新というか、実現できそうでできなかったシステムですよね。でも不思議に思ったのは、あくまで〝プロレスリングU-STYLE〟をやろうとしていた田村潔司が、なぜあっさり『U-Zeal』の企画をOKしたのかという点なんですよ。田村さんの中で何か思うところがあったんでしょうか？

大城 僕も何かしらダメ出しはあるだろうなって覚悟してたんですけど（笑）、そのままOKが出たんでちょっとビックリしたんですよね。ただ、田村さんがU-STYLEの旗揚げで「プロレスをやる」って言ったのは、ここまでプロレスに悪いイメージがつくと思ってなかったからじゃないですかね。

——あと僕が思うのは、田村さんってかつて自分が新人時代に取り組んだときと同じように、若い選手もUスタイルの必死な闘いをやってくれると思ってたんでしょうね。でも、現実はそうじゃなかった。

大城 UWFの頃って選手はみんな団体に所属してるし、出られる試合も少なかったんで、数少ないリングでしか自己表現できなかったわけですけど、いまは逃げ道なんていくらでもありますからね。だから田村さんみたいに真剣にUスタルを極めようという選手が少なくなってきたんじゃないですかね。そんな中でも中村大介選手は、〝現代のU〟を体現してくれる選手だと思ったんで、田村さんにも「中村選手にだけはどうしても出てもらいたい」という話をしたんですよ。

——「Uを舐めない」選手が必要だったわけですね。

大城 そしてプロ意識を持った選手をこの大会を通じて育てていきたいんですよ。田村さんを始め、Uインター出身の選手ってプロ意識が高い選手が多いじゃないですか。そういう選手を育てるためには、お客さんいもシビアな目で見てもらいたい、そういう思いから『U-Zeal』のシステムは生まれたんですよね。

——ここ最近は〝プロ意識〟というのを履き違えているような選手もたくさんいますからね。観客を意識しているのは試合後のマイクとか入場のときばっかりとか（苦笑）。

大城 だから、『U-Zeal』では、あえて入場式をやってないんですよ。選手たちにお願いしてるのは、開場してから入場まで絶対にお客さんの前に顔を出さないでほしいということなんです。普段ジムで一緒に練習しているにしても、やっぱりもうワンランク上の舞台に立ってる人っていう演出を自らしてほしくて。ましてや、大会が終わったあとにファンと飲みにいくなんて、いい加減にしろ！　って感じですよ。精神性の低い人間は育てたくないんで、もっともっとプロ意識を持った選手になってほしいですよね。

——要は、イベントとしても選手としても、宮戸イズムがもう少し必要だなってことですよね（笑）。メイン

U-STYLEの大きな反省点は〝量産型・田村潔司〟が多かったこと

以外の選手がリング上でマイクしたりガッツポーズすると、コーナーで腕を組んで睨みを利かせているような宮戸イズムが（笑）。

大城　ハハハハ！　宮戸イズムですか（笑）。たしかに、このあいだの『U-Zeal』の中でも〝勘違い〟という言い方はしたくないんですけど、やっぱり僕なんかと向いてる方向が違うのかなっていう選手もいますよね。痛みをあえてオーバーアクションで伝える選手もいたり、勝ちたいっていう気持ちよりも負けたくない気持ちのほうが先走ったりしてる選手なんかもいたり。それがお客さんに受け入れられてることだったらいいんですけど、あの大会ではお客さん確実にダレてたと思うんですよね。そういう選手が増えると、大会自体が台なしになっちゃうんで、いま選手にはしばらく厳しくこういう方向でやっていきたいなって思ってますね。

――小さな大会って、どうしても選手の自己満足に終わってしまいがちですけど、そうさせないということですね。

大城　はい。それから、これは以前からの反省なんですけど、いままでのU-STYLEに出る選手って、どうしても〝量産型・田村潔司〟が多かったと思うんですよ。でも、量産だから、やっぱり質が落ちるんですよ。選手はそれぞれ「田村さんのこういうところが好きなんだ」っていう部分を持ってて、自分の好きなことだけ真似しちゃう傾向があるんですよね。まあ、仕方がないことではあるんですけど。でもそれって本家本元が出てきちゃうと当然霞んでしまう。

――U-STYLEだからって、みんなが「田村潔司」になる必要はないんですよね。中野龍雄さんみたいな選手がいてもいいし、アイアン・シークがいてもいい（笑）。

大城　シークまではどうかとも思いますけど（笑）、野球で言えば自分が何番バッターなのかを把握する感覚ですよね。だからいろんなタイプの選手に出てほしいし、最終的にはU-FILEの選手が頑張らないと出られないぐらいの興行にしたいですよね。いまはU-FILEにお願いしないと大会が成り立たないという部分もあるんですけど。

――外から挑戦してくる選手が増えるともっとおもしろいですよね。ちょっと有名な選手が「ファイトマネー全部もっていってやる」って挑んでくるのもいいだろうし、それこそ、田村さんが『U-Zeal』で試合したらおもしろいんじゃないですか。田村さんにも何票かワーストの票が入ったらもっとおもしろい（笑）。

大城　そういう遊び心じゃないですけど、アンチテーゼがつくのも一つのファンである証なんで、それはそれでおもしろいと思うんですよ。そのへんは逆にトップクラスの選手でも、お客さんの査定がそのまま投影されるからいいですよね。

――「しょっぱいからダメだよ」って関係者に言われるショックよりも、お客さんに言われるショックのほうが選手は本気でヘコむでしょうしね。

大城　だから、ちょっと勘違いしているような選手は『U-Zeal』行ってこい」って言われるぐらいになるといいですね。「お客さん、どう思ってるかちゃんと見てこいよっ」て。

――中村大介選手とか、美濃輪選手なんかでも、試合を見てなぜワクワクするのかというと、試合時間が残り1分になっても、ひょっとしたら何か起こるんじゃないかっていう期待感があるかですよね。逆に、1ラウンド3分ぐらいで「もうこれはフルタイムだ」って思う選手の試合もありますけど（苦笑）。

大城　そうなっちゃうと、お客さんがついてこない。客がついてこないと大会がしぼむ。大会がしぼむと選手のファイトマネーがなくなる。それは悪循環ですよ。

――『U-Zeal』はそういう図式が手に取るようにわかるし、もっと言うと原因までわかっちゃう。

大城　だから僕は『U-Zeal』がそんなに大きくならなくてもいいと思ってるんですよ。そうじゃなくて、『U-Zeal』で育った選手をメジャーがスカウトしていくというのが理想ですね。だから、選手にはいい意味で次にステップアップしてもらって、たまにメジャーから逆輸入させてくれればなって思いますね。それこそ『U-Zeal』は毎月試合をしていくんで、選手には早く成長してどんどんイチ抜けしてほしいなと。

――まさに〝格闘技スター誕生〟ですね（笑）。

大城　そうなってくるといいですよねえ。あと、これはひとこと言っておきたいんですけど、正直「いまどき〝U〟なんて」って思う人も多い思うんですよね。でも、僕としてはUインターが好きだった人間というのもあって、そこは軽く見られたくないんですよ。それに、いまこそチャンスというか、来てるんじゃないかと思うんですよね。

――それこそU-STYLEの選手も引け目を感じている部分もありそうですよね。

大城　そうそう。「U-STYLE」って書いてある名刺は座布団の下に隠してて、予備で持ってる「総合格闘家」っていう名刺を出そうとしてる気持ちってあると思うんですよ。だから僕は選手がUの名刺を堂々と出せるような環境を作っていきたい。そうすればUの大会に出たいっていう選手も自然と出てくると思いますし。でも、それもまた時間がかかる話ですけどね（苦笑）。

――しかし、そのためにも『U-Zeal』の発展というか、そこをとっかかりにして新しいU革命を起こしていきたいということですよね。

大城　そうですね。

――わかりました。では、今後の『U-Zeal』に期待していますので！

大会コンセプトは斬新ながら、試合自体はいまのところ、中村大介の飛び抜けている印象がある『U-zeal』。彼に続く生きのいい選手や、ライバルとなりうる存在がどれだけ出てくるかが今後の課題だろう。

マーク・ハント

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
BEST8 FIGHTER
INTERVIEW

MARK HUNT

快楽主義的 名勝負製造機

引退を懸けて挑んでくるTKの気迫を真っ向から受け止め、壮絶かつ感動の引退試合を演出した立役者ハント。いまやすっかり名勝負製造機として、『PRIDE』マットになくてはならない存在になっているが、なぜハントは危険を顧みず、真っ向勝負にこだわるのか？　サモアの怪人の行動原理を探ってみた。

取材・文／橋本宗洋　撮影／乾晋也
designed by hisa（TwoThree）

パンチで失神させるしか、この勝負を終わらせる手はないって思ったんだ

「なんてクレイジーなヤツなんだ！　こりゃとんでもなくハードな試合になるぞ」

入場ゲートに姿を現わした髙阪剛を見て、マーク・ハントはそう思ったという。その気持ちはゴングが鳴り、試合が進むにつれてより強いものになっていった。

「試合が始まるとき、それに試合中も、コウサカは何度も叫んでた。〝絶対に勝つんだ〟〝これを最後の試合にはしない〟って、そういう気持ちが伝わってきたね。こういう相手との試合は、簡単にはいかないもんだよ。闘ってる最中は、ずっと〝どうやったらコイツを倒せるんだ!?〟って、そればっかり考えてたな」

序盤に髙阪がグラウンドで攻め込む場面があったものの、ハントはそれを見事にクリアする。一年前の彼なら、ここでタップアウトしていたかもしれない。だがいまのハントはまぎれもないPRIDEファイター。ただのストライカーではなかった。

そしてこの後、試合は壮絶な打撃戦の様相を呈することになる。K―1をも制したハントのパンチを何度となく被弾しながら、髙阪は真っ向勝負を厭わない。1ラウンドの終盤にはハントがマウントパンチを連打したが、髙阪は耐え抜いてみせた。

髙阪の常識を超えた粘り、驚異的な精神力に、ハントは2ラウンドから作戦を変更した。髙阪のタックルを切っても、深追いはしない。グラウンドでパウンドを叩き込むのではなく、徹底したスタンド勝負。それが結果的に、ハントの強さとそれに食らいつく髙阪というコントラストを際立たせ、試合の熱を高めた。

ハントは言う。

「作戦を変えたのは、グラウンドで攻めてもコウサカがギブアップしないってことがわかったからだよ。何せコウサカはこの試合に選手生命を懸けてる。そういう試合では、ファイターってのは絶対にあきらめようとしないもんなんだ。パウンドでコウサカの心を折るのは無理だと思ったから、徹底的にスタンドで勝負しよう、パンチで失神させるしか、この勝負を終わらせる手はないなって思ったんだ」

2ラウンドのハントは、粘る髙阪に対してジャブを多用した。一発のビッグ・ヒットで試合を終わらせようとするのではなく、着実にダメージを与えて髙阪を〝削って〟いく戦法だ。このときのハントは〝打撃勝負ならオレが勝つ〟という自信をもって闘っていたのではなく〝こうでもしなければ髙阪は倒せない〟と考えていたのではないだろうか。丁寧なジャブから相手を崩していくのは、ボクシングでもキックボクシングでも定石の中の定石。ストライカーとしての最大限の集中力と技術を使って、ハントは髙阪を仕留めにかかっていたはずだ。その闘いぶりに、雑なところはまるでなかった。

「ニシジマとの試合もそうだったけど、コウサカの頑張りを感じて、オレもそれに応えなきゃいけないと思った部分はあるね」

ハントはそう語っている。最後は完全

〝負ければ引退〟という崖っぷち状態のTKは、ハントの強打を顔面に受けながらも幾度となく立ち上がる。それに驚きを隠せないハントだったが、終止TKと真っ向勝負を展開。名勝負製造機の名を決定づけた一戦となった！

KOではなくレフェリーストップとなったが、ハントは全力で倒しにいくというかたちで、高阪の最後の試合に〝礼〟を尽くしたのだ。

またしても、である。またしても、ハントは格闘技史上に残る名勝負をやってのけた。2月の西島洋介戦、一昨年大晦日のヴァンダレイ・シウバ戦、さらに遡ればK−1におけるレイ・セフォー戦などなど……。ハントの〝名勝負製造機〟っぷりはただごとではないレベルに達している。

〝因縁の対決〟や〝待ちに待った大一番〟が観客の印象に残るのは当然のことだが、ハントはとくに期待値が大きいわけではなかった試合でさえ、凄まじいインパクトを残してしまうのだ。

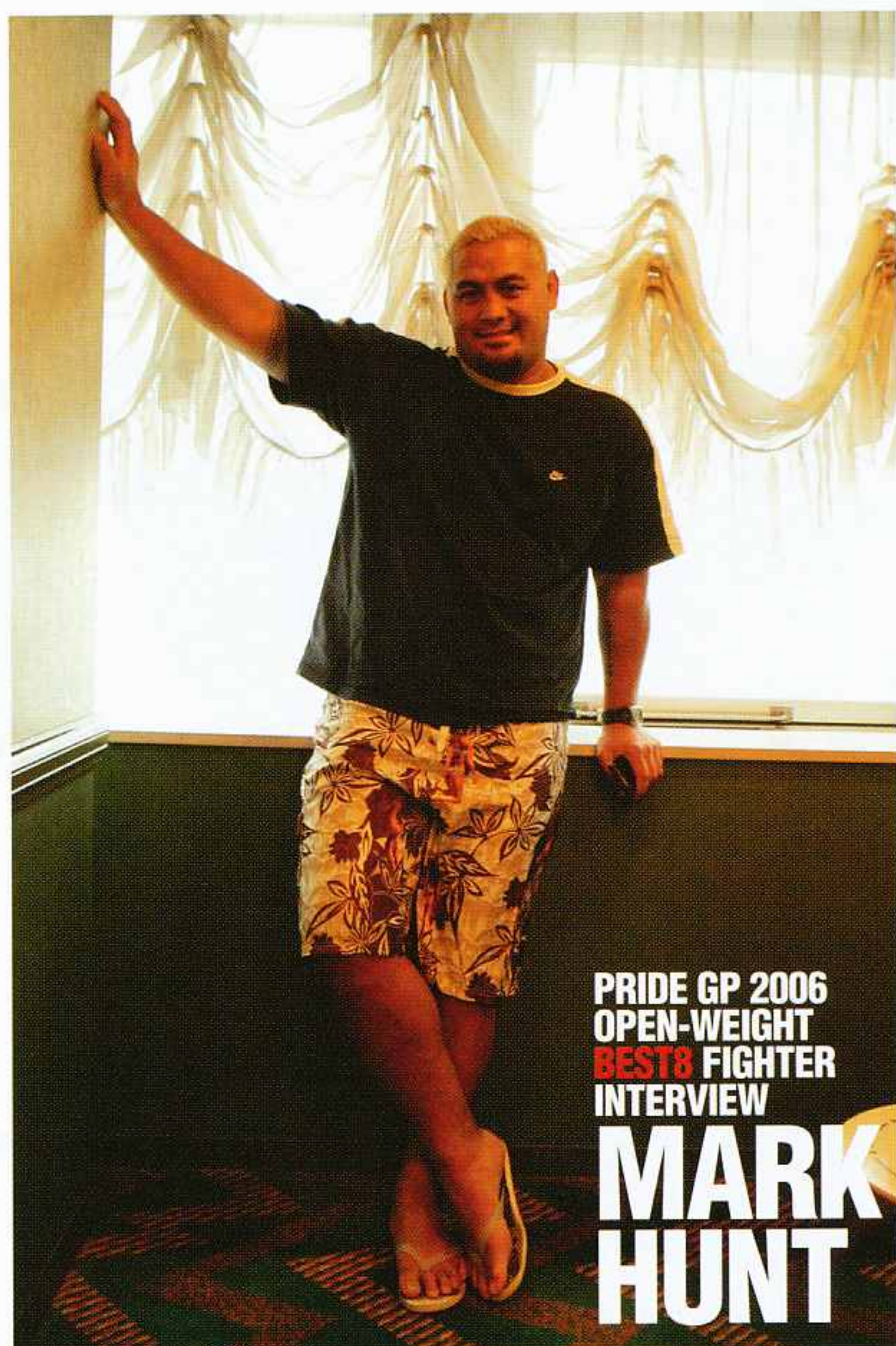
シウバ戦は桜庭欠場を受けての代打出場だった。西島戦にしても「デビュー戦でメイン？　しかも相手はハント？！」と疑問を感じたファンは多かったはずだ。今回も、高阪とハントの対戦は必然性がまるで感じられないもの。「TKの最後の試合になるかもしれないのに、相手がハントってどういうことよ？！」という感覚は、正直に言えば筆者にもあった。しかしハントはそういう試合を、ことごとく名勝負にしてしまったのである。

『PRIDE』にはそういう底力がある、という見方もできるだろう。いまや伝説となったドン・フライvs高山善廣戦もそうだが、『PRIDE』では戦前の盛り上がりが薄いときほど、とんでもない激闘が生まれる傾向がある。それはファイターが『PRIDE』という〝場〟に捧げる覚悟、〝『PRIDE』の試合はかくあるべし〟という過剰なプロ意識の産物のはずだ。

ただ、ハントに関していえば、そんな力のこもった〝決意〟や〝覚悟〟とは違った感覚で闘っているような気がする。もちろん、彼にプロ意識がないというわけではない。

「コウサカと闘っていて2ラウンドに寝技を避けたのは、それじゃあつまんないなって思ったからでもあるね。寝技の攻防って、柔術マニアとか限られたファンにしかわかりにくいだろ。だけど殴り合いは誰にでも迫力が伝わるからな。プロの試合はエンターテインメントなんだから、見ていておもしろい試合をしなきゃ」

そうハントは語るのだが、それでいてプロ意識という〝美学〟に浸りきっている様子がまるで感じられないのだ。「ハートの強さがテクニックや身体能力を超えるときもある」と〝いいセリフ〟を語った後に、ハントはこう付け加えるのも忘れない。

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
BEST8 FIGHTER
INTERVIEW
MARK
HUNT

MARK HUNT■1974年3月23日、ニュージーランド出身。K-1 WORLD GP 2001王者。『PRIDE男祭り2004』ヴァンダレイ戦や、記憶に新しい『PRIDE.31』西島戦など、闘う試合すべてが名勝負となる、まさに名勝負製造ファイター。今回のGP台風の目でもある。178センチ、130.4キロ。

「そういうときもあるってことさ。お互いのレベルが競っているときは、ハートが勝負を決める大きなファクターになる。でもレベルが違いすぎたら、いくら気合いが入っていてもいい試合にはならないよ」

高阪の実力を認め、この一戦に懸ける思いを充分に認めているのだから、そんなことはべつに言う必要はないのである。それこそ〝プロ意識〟のある選手なら、インタビューでこういう発言はしないだろう。ただただエモーショナルな方向に話を持っていけばいいだけだ。だがハントは、思ったことを思ったように言う。それだけ。ハントは高阪の思いに呼応しつつも、それをことさらに強調してみせはしない。

そんなハントにインタビューしていて思い浮かぶのは〝天然〟とか〝無意識〟といった言葉だ。あるいは〝快楽主義者〟。

おそらくハントには〝プロはこうあらねばならない〟といったような自意識は薄いはずだ。ハントの行動原理は、きっと〝何をやったら楽しいか〟なのである。桜庭和志の移籍劇について、ハントは同じ移籍経験者としてこんな言葉を残している。

「桜庭がどんな理由で移籍したかはわからない。だいたい、こういう決断をするのに理由が一つってこともないだろうしな。オレに関していえば、移籍の理由の一つは新しい目標がほしかったっていうことさ。いくらいい車に乗っていたって、ずっと乗り続けてたら新しい車がほしくなるもんなんだよ」

自分は何をしたら楽しいのか、どうすればもっと楽しくなれるのか。そのことに対する無意識の嗅覚が、ハントは並外れて発達しているのだろう。K−1よりも楽しそうだから『PRIDE』に行く。グラウンドでゴロゴロやってるよりも、殴ったほうが楽しい。相手が殴り返してきたら、もっと楽しい。西島戦後のインタビューで語ったこんな言葉も、ハントの快楽主義者ぶりをよく表わしている。

「（小細工抜きの試合は）疲れるんだけど、やってて楽しいんだよ。相手の弱点を突いて1ラウンドで圧勝しても、なんか試合をしたって感じがしないんだよな」

ハントは、名勝負を生み出そうとして闘っているわけではないのだと思う。観客を喜ばせることは考えているだろうが、それが闘いの第一目標にはなりえない。最大の基準は楽しいかどうか。そのためだったら〝しんどい〟こともやってのける。ハントは無意識に格闘技の〝おいしいところ〟にむしゃぶりつくのだ。そういう姿勢が、ハントを名勝負製造機たらしめているのだろう。

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
BEST8 FIGHTER
INTERVIEW

JOSH BARNETT

ジョシュ・バーネット

言い伝えは本当だった!!
PRIDE乱れしとき、北斗現われる!

"陰の優勝候補"と囁かれていたアレキサンダーを撃破!
レッドデビルの『PRIDE』完全制覇の野望を木っ端微塵に打ち砕いた"青い目のケンシロウ"!
『PRIDE』の暗雲を吹き飛ばす快心の勝利——北斗・救世主伝説、降臨!!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/乾晋也　designed by hisa (TwoThree)

[PRIDE無差別級GP1回戦]
○ジョシュ・バーネットvsエメリヤーエンコ・アレキサンダー×
(2R1分57秒 V1アームロック)

見るからに完璧な仕上がりで決戦に臨んだ両雄だけに、とてもスーパーヘビー級とは思えないハイスパートな攻防を展開! 打撃戦ではアレキに押され気味だったジョシュだが、スタミナを切らしたところを寝技で捕獲!!

アレキの打撃はヒョードルより上だが、決定的なダメージはなに一つ受けなかった

——ジョシュさん! もうかりまっか!?

ジョシュ　ボクハ、サッパリデンナ!! (日本語で)。

——ワハハハ! いやあ、昨日のアレキサンダー戦は見事な勝利でした! まさに"PRIDE乱れしとき、北斗現われる!"という救世主な活躍ぶりで。

ジョシュ　ドウモアリガトウ! (日本語で)。

——「モウカリマッカ?」から口火を切った試合後のマイクアピールもおもしろかったですが、試合のほうもじつにエキサイティングでしたね。

ジョシュ　ファンに喜んでもらえればそれだけで嬉しいな。ボクは闘いを通じて何かしらメッセージを感じてもらうためにハードなトレーニングを積んでいるわけだからね。そう、ボクがケンシロウからエナジーをもらっているように!!

——しかし、アレキサンダーのポテンシャルは脅威に感じなかったですか? 顔や身体つきがいつも以上に引き締まっていたばかりか、軽快なステップワークから繰り出される打撃は、いやはやスーパーヘビー級には思えないスピードだったじゃないですか。

ジョシュ　たしかに彼は厄介で手強いファイターだったよ。ヤバイファイター!! (日本語で)。まあ一番、ヤバかったのは世にも恐ろしい、あの顔つきなんだけどね (笑)。

出入りが激しいアレキの鋭い打撃の前に、序盤こそは防戦を強いられていたが、徐々に間合いをつかみ反攻に転じる！　これが「スタミナを奪う」秘孔を突いた決定的瞬間だ！　ホワタッァ!!

——幽鬼じみてましたよ、あの雰囲気は（笑）。それで序盤はアレキサンダーの打撃にやや手こずっているようにも見えたんですけど。

ジョシュ　パンチ、モンダイナイ!!（日本語で）。

——ああ、ケンシロウふうに言えば「スローすぎてあくびが出るぜ！」って感じなんですかね（笑）。でも、観てるほうはヒヤヒヤしましたよ！

ジョシュ　いや、アレキサンダーを見くびっているわけじゃない。彼の打撃スキルは兄のヒョードル以上に鋭いものがあると思うけど、ボクは絶対にかわしきれるテクニックと、なにより揺るぎない自信があった。実際、決定的なダメージは何一つ受けなかったしね。

——ジョシュさんのテクニックが勝るか、アレキサンダーのスタミナが切れるかという勝負になったわけですね。

ジョシュ　それと、アレキサンダーがスタミナを切らしたのは、ボクがボディブローを打つと見せかけて秘孔を突いてやったからさ！（自信たっぷりに）。

——ワハハハ！　あのボディブローは秘孔狙いのものでしたか！（笑）。

ジョシュ　モチロン！（日本語で）。そしてスタミナが切れたところを北斗百裂拳できっちり仕留めたってわけだよ！

——〝V1アームロック〟という名の北斗百裂拳（笑）。あと驚いたのは、ジョシュさんの身体が相当絞れていたってことなんです。

ジョシュ　ああ、それはよく一緒にトレーニングをする藤井恵の影響かな。彼女の腹筋はいつも見事に割れているから、彼女を見習っただけだよ（笑）。

——だからデプっとしたお腹は見る影もなくて（笑）。

ジョシュ　前回のナカムラ（中村和裕）戦のときもベストだったけど、試合をこなすたびにどんどん良くなっていくと思う。次回ももっとチェーンアップした姿を見せられるんじゃないかな。

——そういえば、前回の試合で胸に〝七つの星〟をペイントして闘おうとしていたそうですね。胸に北斗七星の傷が刻まれているケンシロウのように（笑）。

ジョシュ　そうそう。マジックで書いてもらおうとしたんだけどね～（心から悔しそうに）。

——ワハハハハハハハハハ！　マジックで（笑）。

ジョシュ　でも、ルール上、身体にペイントするのは禁止だから、泣く泣く断念したんだけど。本当に描きたかったなあ……ホクトシチセイ（日本語）。

——それはジョシュさんのアイデアだったんですか？

ジョシュ　モチロン！（元気よく日本語で）。ファンも絶対に喜ぶと思ったんだけどね。だってさ、ノゲイラやミルコが入場するときのファンの歓声は尋常じゃないものがあるけど、多くのファンは彼ら個人に

もうTKが試合できないという事実が受け入れられないよ……（涙声で）

声援を送ってるわけだろ？　でも！　ボクに対しては、入場曲で使用している『北斗の拳』の主題歌「愛をとりもどせ！」への歓声も含まれている。これって凄くない？

——たしかに（笑）。それだけジョシュさんにケンシロウのイメージがあるという証ですね。

ジョシュ　ウレシイ!!（日本語で）。昨年のミルコ戦で初めて「愛をとりもどせ！」で入場したときは、本当に興奮したもんだよ。「♪バララ～!!」ってイントロがかかったら大歓声！　もう鳥肌が立った！

——髙田本部長ばりに全部、立ちましたか（笑）。

ジョシュ　『北斗の拳』はあらゆるイベントで通用するソングということ。そしてやっぱりケンシロウが偉大な存在だということを格闘技のファンがわかっていること。それを知っただけでも感無量だったよ……（しみじみと）。この曲が会場に流れると、ファンの感情を激しく揺さぶって、涙を流させるパワーがあるよね。そうしてボクは神経が研ぎ澄まされて、ケンシロウのような心境になるんだよ。

——あいかわらずの〝北斗LOVE〟ですねえ（笑）。ところで、親友である髙阪（剛）さんの試合はご覧になりましたか？

ジョシュ　（一転して元気なく）……観たよ。

——感動的な試合でしたよね。

ジョシュ　……う～ん。TKについて語るのは、難しいなあ……難しいよ（すすり泣くような声で）。

——髙阪さんがシアトル在住だった頃から親交があって、他人には計り知れない思いがあるんでしょうね。

ジョシュ　……昨日の試合自体は、本当に、本当に、素晴らしかった。ただ、これで引退するってことはさ……う～ん、もうTKが試合できないという事実が受け入れられないよ。絶望的に、さびしいよ……。

——大会終了後、髙阪さんとお話はされたんですか？

ジョシュ　（声を詰まらせながら）……したよ。新日本プロレス、『PRIDE』、K—1とかいろんなリングで、自分のことをずっとサポートしてくれたことに対して「ありがとう！」という言葉を伝えた。本当に感謝の気持ちしかない！　と。それだけじゃない。TKはボクのアイドルだったんだ。リングス時代のウックシイ、ファイト（日本語で）。「TK！　TK！　TK！　TK！　TK！　TK！　TK！」。……そうやって声を枯らして声援を送りたくなる、偉大なるファイターだったんだ。ボクも試合をするときは、彼に認めてもらうように闘うよ!!

——桜庭さんも『PRIDE』から離れてしまって混乱しているいまだからこそ、ジョシュさんには頑張ってほしいですよ！

ジョシュ　サクラバ、ホントニ、ビックリ!!（日本語で）。なぜ彼が『HERO'S』に行ったのかはよくわからないけど、それが良い決断になることを強く願う。プライベートでサクラバと接点はないが、彼はUWFインターナショナル出身で、ビル・ロビンソンの指導を受けたと耳にしている。ボクもロビンソンを師事しているから、同志として活躍を期待しているよ。

——しかし、この事件の談話でビル・ロビンソンの話題が出るとは（笑）。では、最後になりますが、きたる無差別級GP二回戦は誰と闘いたいですか？

ジョシュ　（即座に）もう、カイオウしかいない。そんなこと、言うまでもないよ！

——言うまでもないも、前号のインタビューを読んだ人しかわからないですよ！　カイオウ＝ヒョードルのことですね。

ジョシュ　やっぱりボクは頂点に立つ男と闘いたいんだ。昨日の試合で奴の弟は倒した。ボクとの対戦を拒むものは何もないはずだ……。ヒョードルに告ぐ！　俺との宿命が、『PRIDE』のリングで待っている!!

【06年5月6日／大阪府内の某ホテルにて収録】

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
BEST8 FIGHTER
INTERVIEW

JOSH BARNETT

JOSH BARNETT■1977年11月10日、アメリカ・シアトル出身。日本文化をこよなく愛するプロレスラー。UFCではランディ・クゥートアーを破り、ヘビー級チャンピオンに。パンクラスでは近藤有己との王座決定戦を制して、パンクラス無差別級王者に就く。MMA戦績20戦17勝3敗。191センチ、115キロ。

名曲「愛をとりもどせ！」の素晴らしさを熱く説くジョシュだったが、髙阪剛の話題になると一転、表情は曇りだし落涙……。日本を主戦場するとジョシュにとってTKはなくてはならない存在だった。

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
BEST8 FIGHTER
INTERVIEW

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

アントニオ・R・

最後は寝技が制するんだ

ヒョードル不在の無差別級GPで、優勝候補の本命といえばもちろんこの男、ノゲイラ。開幕前は負傷による調整不足が心配されたが、ふたを開けてみれば、ズール相手に完勝の一回戦突破。ノゲイラにGP、TK引退、そして桜庭問題を聞いてみた。

取材・文／橋本宗洋　撮影／乾晋也
designed by hisa(TwoThree)

ノゲイラ

――ズール戦は見事ノーダメージで一本勝ちということで、試合後は大阪の夜を満喫されたんじゃないですか（笑）。

ノゲイラ　いや、それほどでもなかったよ（笑）。チームメイトやガールフレンドと食事には行ったけど。試合のあとは相当疲れてたからね。ゆっくり休みたかったんだよ。今回の試合は肉体的にも精神的にも、かなりキツかったんだ。

――肉体面でいえば、試合前にケガをされていたそうですね。試合前の取材では、もちろん場所までは教えてもらえませんでしたけど……。

ノゲイラ　ここ（右肩を指して）だよ。ちゃんと練習できるようになったのは、試合の10日前くらいかな。

――精神的にキツかった、というのもケガが影響してるんですか？

ノゲイラ　それはあったね。思うような練習がなかなかできないから、ストレスもたまったし。それと〝絶対に負けられない〟っていうプレッシャーも大きかった。

――確かにキャリア、実力的なことを考えたら、勝って当然といわれる試合ですからね。

ノゲイラ　そういう試合ほど、逆に緊張感があるんだよ。負けちゃいけないだけじゃなくて、絶対に一本で勝たなきゃいけないという責任感も出てくるしね。

――よく言われるような〝楽な相手〟であっても、試合そのものはキツいんだと。

ノゲイラ　『PRIDE』に楽な相手とか、楽な試合なんてありえないんだよ。ズールだってあの巨体だよ？　もしグラウンドで上になられたら、何が起こるかわからない。ああいう相手とやるときは絶対に下にならないように闘わないといけないし、一瞬も隙を見せずに主導権を握ったまま、早めにフィニッシュしないといけない。それができたのはよかったけど、簡単なことじゃなかったよ。勝てたのは「優勝するんだ！」っていう自分の強い気持ちが、他のあらゆるファクターよりも大きかったからだと思う。

――ヘビー級のベルトは巻いたことがあるノゲイラ選手ですが、GP優勝は未経験。やはりGPに対する特別な思いもあるわけですよね。

ノゲイラ　GPというものに対しては、普段の試合とは違う思い入れがあるね。しかも今回は無差別だから。世界各国から様々なスキルを持った、それぞれ体格も違う強い選手がいっぱい集まってきてる。その中で自分が一番になりたいっていう気持ちは強いよ。『PRIDE』全体の本当のチャンピオンを決める大会だからね。

――今回、体重を7キロ増量してきましたよね。でも試合後には「スピードも上がった気がする」とおっしゃってました。

ノゲイラ　体重を増やすだけじゃなくて、スピードをつける練習もかなりやってきたからね。ビーチや坂道を全力でダッシュしたり、スピードはかなり重視したよ。

――開幕戦で勝ち抜いたメンバーを見渡して、どんな印象がありますか？

ノゲイラ　間違いなく、世界最強を決めるにふさわしいメンバーだね。どう考えても、今年の格闘技界で最高の大会だと思う。みんなレベルが高いし、開幕戦でもいいパフォーマンスを見せていた。次はセカンドラウンドだけど、決勝戦のつもりで臨まないといけないね。それくらい厳しいトーナメントだよ、今回は。

――そういうハイレベルなトーナメントで、優勝するために必要なのはなんだと思いますか？

ノゲイラ　何が必要というより、あらゆる面で秀でている必要があるんじゃないかな。フィジカルはもちろん重要だし、集中力も欠かしちゃいけない。もちろん技術がなかったら勝てないし。フィジカル、メンタル、テクニックのバランスが最もよく取れた選手が優勝することになると思うよ。どれか一つでも、わずかでも欠けてしまったら、このGPでは勝てないだろうね。

――優勝するには、完璧な選手である必要があると。

ノゲイラ　それに技術的な部分でもバランスが必要だね。打撃、レスリング、グラウンド、すべて身につけておかなきゃいけない。ただ、その中でもこのGPは寝技で決着がつく試合が多くなるんじゃないかと思うよ。

――いま、総合格闘技は打撃全盛といわれてますけど、今回は違う、と。

ノゲイラ　ジョシュとアレキサンダーの試合がそうだったよね。打撃ではアレキサンダーが攻め込んでいたけど、最後はジョシュが寝技で一本勝ち。ああいう試合は、セカンドラウンド以降も多くなると思う。

――すべてにおいてハイレベルな選手が集まったとき、最後にモノをいうのは寝技である、と。

ノゲイラ　その通り。ボクはそう信じて闘ってるよ。

――それと開幕戦のことで聞いておきた

［PRIDE無差別級GP1回戦］
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsズール×
（1R 2分17秒 腕ひしぎ十字固め）
優勝候補筆頭のノゲイラが一回戦から本領発揮！　70キロ以上重いズールを相手に、いとも簡単に腕十字。この柔術男に“無差別”の三文字は、もう、ないに等しい。

感動的な負けよりTKには勝って ボクと闘ってほしかったんだ

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
BEST8 FIGHTER
INTERVIEW
ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

いのは、高阪選手の試合なんですけども。あの試合は……。

ノゲイラ （遮って）あれはコウサカの作戦ミスだよ！　ボクが一番言いたいのはそのことだね。どうしてコウサカは、ハントを相手に打撃で打ち合うなんてマネをしたんだ!?　まったく理解に苦しむね。打撃戦でダメージをもらってしまったから、いざ寝技になっても力が発揮できなかったじゃないか。

――かなり手厳しいですね……。

ノゲイラ コウサカはタフだしスタミナもあって、ハートも強い。しかも抜群のグラウンド・テクニックを持ってる選手じゃないか。ボクはコウサカならハントに一本勝ちできると信じてたからね。確かにあの試合は感動的だったよ。コウサカはスピリットを見せたと思う。でも……。

――でも？

ノゲイラ 感動的な負けより、ボクはコウサカに勝ってほしかったんだよ……。

――リングスで闘っていたということもあって、高阪選手には他の選手に対してとは違う感情があったというか。

ノゲイラ そうだね。彼のことはリングス時代から知っているし、実際に闘ったこともある。弟のホジェリオやマリオ（スペーヒー）も彼と試合をしてるしね。ボクはコウサカのアグレッシブな闘い方が大好きなんだよ。このGPで彼と闘うのを楽しみにしてたんだ。彼とだったら、最高の試合ができると思ってたからね。だからハントに負けたのが悔しくってしょうがないんだ。これで引退してしまうなんて、本当に残念だよ。ただ、これまで彼が見せてくれた闘いには心からに敬意を表するよ。日本を代表する、世界に通用するファイターとして、コウサカのことは世界中の選手やファンが讃えていると思う。

――それから、最後に桜庭選手についてもお聞きしたいと思います。桜庭選手の移籍について、どう思われますか？

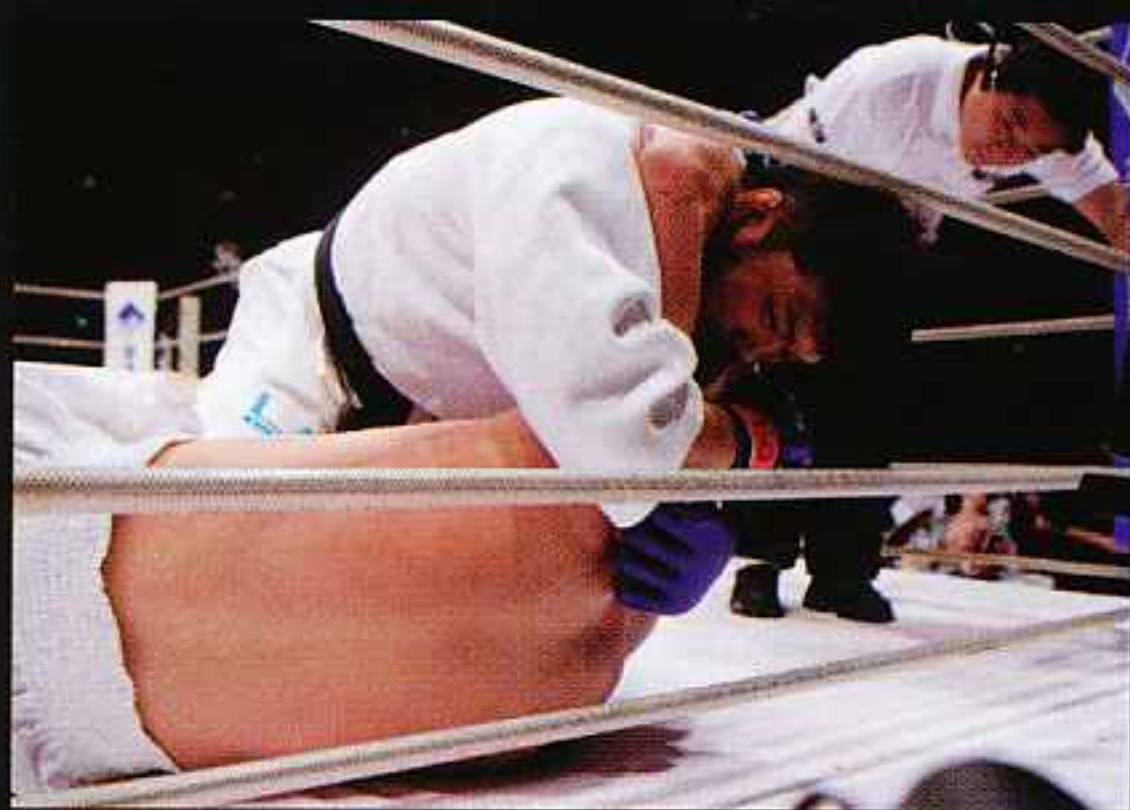
ノゲイラ ボクは、『PRIDE』に上がる前からサクラバのファンだったんだよ。そして『PRIDE』に出るようになってからは、彼とはいい友人になれた。そこでわかったのは、彼が選手としてだけじゃなく、人間としても本当に素晴らしいっていうこと。そのことはみんなに伝えておきたいね。サクラバは『PRIDE』のリングで育った選手だと思うし、『PRIDE』もサクラバによって大きくなったんだと思う。『PRIDE』とサクラバは、お互いを支えあう特別な関係だったんだ。

――そういう桜庭選手が、『PRIDE』を去ってしまったことにショックを受けているファンも多いと思います。

ノゲイラ そうだね。ただ、人生というのはあくまで自分のものだから。いつか歩む道が分かれるってこともあるんだよ。それがサクラバの人生、サクラバの歩む道だったんだ。それを責めても仕方がないよ。『PRIDE』を去ってしまったけど、サクラバが素晴らしい人間で、素晴らしい選手だというボクの気持ちに変わりはないね。以前、ホジェリオとサクラバが闘うとき、彼の闘いをかなり研究したんだけど、研究すればするほど凄いファイターだってことがわかったんだよ。彼はリングで何をすべきか、何をしちゃいけないかを完璧にわかっているんだ。リング上で、まるで役者みたいに振る舞うことができるんだよ。そういう素晴らしさは失なわないでほしいし、どこのリングであろうと、ボクはサクラバに活躍してほしいと願ってる。そして、もし今後『PRIDE』に戻ってくることがあるのなら、ボクはいままでと変わらない気持ちで歓迎したいね。

【06年5月6日／大阪府内の某ホテルにて収録】

99年8月、リングスマットでTKと闘っているノゲイラ。このときは、ノゲイラがやや押し気味に試合を進めたが2ラウンド判定ドロー。PRIDEマットでの決着戦が見たかった！

5・5 PRIDE無差別級GP一回戦DIGEST

［『PRIDE無差別級GP』一回戦 第8試合］
○吉田秀彦vs西島洋介×
（1R 2分33秒 三角絞め）

GP唯一の日本人対決であり、柔道vsボクシングの異種格闘技戦となったこの闘い。ハント戦での激闘を再び！　といきたい西島だったが、吉田は容赦なくあっという間に三角絞め。

［『PRIDE無差別級GP』一回戦 第6試合］
○ミルコ・クロコップvs美濃輪育久×
（1R 1分10秒 KO）

本大会で最も無差別色の強かったこの一戦。“リアル肉のカーテン”でミルコの強打を退けようとした美濃輪だが、ミルコが寝た状態の美濃輪に連打を叩き込み、汗もかかぬ間にKO！

［『PRIDE無差別級GP』一回戦 第2試合］
○ファブリシオ・ヴェウドゥム vs アリスター・オーフレイム×
（1R 2分33秒 三角絞め）

無差別級GP前哨戦でハリトーノフを苦しめたアリスター。本番でどこまで進めるかが注目されていたが、アリスターの集中力が切れた隙に、寝業師ファブリシオが逆転の一本！

私だけが知っている
ヴァンダレイ移籍報道騒動の真実

ブッカーKコラム拡大版

文／川崎浩市

『PRIDE』の顔であった桜庭和志選手が『HERO'S』へ移籍したことが大きな話題を呼んでおりますが、一部スポーツ紙の報道で皆さんもご存じのとおり、私がエージェントを務めるシュートボクセのヴァンダレイ・シウバのスキャンダラスな話題も業界をにぎわせておりました（一部スポーツ紙に載った話題は何本も連絡が入って知った次第で、いちいちその対応するだけでも煩わしかったし、時間を取られるし……まったく頭にきました）。

今回のコラムでは、〝出場予定選手〟としてその名を連ねていた無差別級GP不出場の件も含めて、ヴァンダレイの現状や真実を記せる範囲内でお伝えします。

まずハッキリ断言しておきたいのは、一部スポーツ紙が「シウバも『HERO'S』移籍」という見出しで「シウバを『HERO'S』の会場内で見かけたという目撃情報もある」と報じた記事は、まったくの事実無根ということです！

そのスポーツ紙がそう報じる前日に（ちょうど39がサプライズを起こした日）、そういった噂がまるで公然の秘密として一部マスコミのあいだで囁かれていることが、私の耳にも入ってきました。なにしろ『HERO'S』大会当日、私は同大会へブッキングしたメンバーと急きょ参戦させたヤヒーラ選手のケアを務めていました（とくにヤヒーラはまったくの顔見せ程度呼んだためセコンドなし、試合道具の用意なしで彼の先生に対して責任を感じていたのでホント注意していたんです）が、そこである記者が「ヴァンダレイがいるんでしょ？」などと、試合開始前の大事なタイミングなのに無礼な質問をしてくるほど（シウバ移籍を報じたスポーツ紙とは異なる紙媒体の記者です）。

その記者はスクープ狙いというよりも、団体や選手の関係をいかにして破壊しようとする魂胆しか見えず、私は思わず「大事な試合前にふざけるな！」と怒鳴り散らしてしまいました。

たしかに何が起こるのかはわからないのが人生でもあり、ヴァンダレイが新たな戦場を求めて『HERO'S』に参戦するということは、100パーセントないとは言いきれませんし、海外の大会からのオファーがきている事実はあります。しかし、繰り返しますが、今回の報道は、まったくの事実無根なのです。

〝出場予定選手〟とされていた『PRIDE無差別級GP』に出なかったことや、いろんな憶測が囁かれていた『HERO'S』のビッグサプライズ。その二つの要素も重なって、そんな根も葉もない噂が一人歩きしたのでしょう。

『PRIDE無差別級GP』について申せば、結局は一部格闘技専門誌でヴァンダレイが発言しているように、もともとシュートボクセとしてはショーグンを出すつもりでいたし、シウバは休息を取っていたので、『PRIDE』サイドとの話し合いが進行せず、諸条件の折り合いが付かない末の不出場でした。

ヴァンダレイは昨年、実父が心筋梗塞で倒れてしまったので家族とのバケーションを取ったりする機会も必要でしたし、そういったことも不出場の一つのポイントだったのかもしれません。

しかし、いまではヴァンダレイのもとに世界の主要団体からオファーが殺到していることで闘志に火がついたのか、ブラジルでハードトレーニングをスタートしているそうです。フジマール会長が「ヴァンダレイは完璧に仕上がっている」と驚きの声を上げているほどの燃え上がりぶり。GPの優勝者と年末にやってもいいとシウバが言っていると……。

近いうちにハングリーさを剥き出しにしたヴァンダレイの闘いぶりが観られることでしょう！

余談ですが、桜庭選手の『HERO'S』移籍のことをシュートボクセの代表のフジマールに伝えたところ、あまりに突然の出来事に、皆一様に驚きを隠せませんでした。

桜庭選手とは激闘を続けてきたライバル関係でもあり、最近では一緒にトレーニングをする間柄。大きな衝撃は日本の裏側ブラジルまでにも及んでいたのでした。しかし、フジマールは「日本のことはわからないがサクラバは俺の息子だ！」とあいかわらず言ってました。

「どんなもんじゃい！」

5月5日、リング上でそう吠えたのは亀田興毅である。が、我々からすれば本当の意味でその言葉が似合うのは、もちろん大阪ドームで闘ったPRIDEファイターたちにほかならない。マッチメイクが遅れに遅れ、最終的に決定した対戦カードにも〝？〟なものが多かった今大会。しかしいざフタを開けてみれば、凄まじい爆発ぶりであった。戦前の期待感と大会後の満足感の〝振り幅〟は『PRIDE』史上最高といってもいいんじゃないだろうか。

髙阪剛の感動的なラストマッチ、その覚悟の深さと〝何があっても決して悔いだけは残したくない〟という姿勢を貫く闘いぶりは見事というほかなかった。「いや、負けたから」と一度はマイクを拒否した姿、「試合より勝負がしたかった」という試合後のコメントは、書いているだけでも鼻の奥が痛くなってくる。

藤田和之の大逆転劇にも感服した。この男の凄さは、なんというかもう生き物としてのレベルの問題だろう。進化しているのかケダモノに逆行しているのかは分からないが、とにかくタダの人間じゃないことは確かだ。

さらにエメリヤーエンコ・アレキサンダーにメッタ打ちに遭いながらワンチャンスを見逃さず一本勝ちを収めたジョシュ・バーネット。粘りに粘ってアリスター・オーフレイムをアームロックで仕留めたファブリシオ・ヴェウドゥム。いわゆるアンダーカードですら観客の心に深く刻み込まれたのだから素晴らしい。あまり評判がよろしくない休憩明けの3試合にしても、勝つべき人間がしっかりと実力を見せつけたということであって、それが開幕戦だという見方もできる。要は前半戦が凄すぎたのだ。

大会全体を通して印象に残ったのは、選手たちのテンションの高さとコンディションのよさ。マスコミを含め無責任な見る側から何を言われようと、やはりGPは最高峰の舞台。そこに懸ける選手の気合いには圧倒されるしかなかった。そして勝負の厳しさも、いつものGPと同様、あるいはそれ以上だったと言っていい。結果論にしかすぎないのかもしれないが、あれだ

2006 OPEN-WEIGHT

最高峰の潰し合いだ!!

とてつもなく豪華なベスト8!!
あ〜、もったいない、もったいない!!

観

け強かったアレキサンダーやアリスターですら、もう脱落してしまったのだ。
　生き残ったのは吉田、ノゲイラ、ミルコ、藤田、ジョシュ、ハント、ヴェウドゥム。とてつもなく豪華な、そして強力なメンバーである。そして当たり前のことだが、7月のセカンドラウンドではこのメンバーが潰し合いを演じる。もう一度、あらためて確認しておきたい。このツワモノたちの内、半分は次で姿を消してしまうのだ。過去のGPと比べても、その過酷さや内容的充実度は群を抜いていると言ってもいいんじゃないか。
　しつこいようだが、もう一度確認しておきたいのである。セカンドラウンドでは、彼らが生き残りを懸けて闘うのだ。たとえば吉田は、次の試合でミルコかノゲイラか藤田か、あるいはハントかジョシュ、ヴェウドゥムと対戦することになるのである、ほぼ間違いなく。ちょっと凄すぎだろう、そのマッチメイク。
　〝ほぼ間違いなく〟と書いたのは、現在のところシード選手の行方が流動的だからだ。右拳手術からの回復を待っているエメリヤーエンコ・ヒョードルの出場が〝予定〟されてはいるが、まだ出場は確定しきってはいない。しかし、仮にヒョードルが出場できなかったとしても、GPが失速することはないだろう。次回大会の出場メンバーとして、ヴァンダレイ・シウバも充分に考えられるからだ。現段階ではワンマッチ参戦かGPにエントリーするのかは分からないが、シウバ自身は一部報道で「GPに参加するなら二回戦から」と語っており、無差別での闘いにためらいはない。
　もしシウバがGP出場を果たせば、GPはより過酷なものとなり、その求心力は〝掛け算〟になることだろう。〝結局、残ったメンバーはヘビー級〟なんて意見もどこかへ吹き飛ぶ。
　普通、こういう記事のシメは〝見逃せない!〟とか〝見逃すな!〟という言葉になりがちである。だが無差別級GPセカンドラウンドに関しては、そんな言葉は不要だろう。格闘技ファンなら、何がどうあってもこの大会を見逃すはずはないのだ。

（文／橋本宗洋）

7.1PRIDE GRAND PRIX

2nd ROUNDは史上最

壮

日米・男の友情対談

〜ダンヘンに敗れた長南は、迷わずチーム・クエストへと旅立った〜

自分もたまに
そう思うんですよねえ（長南）

もうアメリカに住んだほうが
手っ取り早いんじゃないか？（ダン）

Ryo Chonan × Dan Henderson

——試合直後のお疲れのところ申し訳ありません！
ダン　大丈夫だよ。ちょっと右足が痛いけど。
長南　ホントに大丈夫？
ダン　チョーナンとの対談だから我慢するよ（笑）。それに勝利の夜はまだまだ長いから。
——これから祝勝会でもやるんですか？
長南　そうっスね。このあとチーム（チーム・クエスト）のみんなでダンの祝勝会をやるんですよ。
ダン　ロッポンギ？
長南　いやいや、今日は恵比寿。
ダン　エビス？　まあ、どこでもいいよ（笑）。
——祝勝会の場所を気にするより、長南さんの酒癖の悪さに気をつけるべきですね（笑）。
長南　あ、なんてことを!!
ダン　え、そうなのか？　チョーナンは酒を飲むと暴れるのか？
長南　（猛然と）んなことない！　酒癖は全然悪くないよ！
ダン　（眉間にしわを寄せて）ん〜、いずれにせよ今晩は気をつけないといけないなあ。
長南　ノーノー！　ダン、イッツ・ジャパニーズ・ジョーク！
ダン　ジャパニーズ・ジョーク？
長南　イエスイエス！　アイアム・エンターティナー！
——ダハハハ！　エンターティナーって（笑）。
ダン　ハン？　エンターティナー？　何を言ってるかさっぱりわからないが、彼（聞き手）が言ってることは間違いってことか、チョーナン。
長南　イエス！（聞き手を指差して）ヒー・イズ・クレイジー！　クレイジー・マガジン!!
ダン　オ〜、クレイジー!?
——ダハハハ！　何を言い出してるんですか！
長南　いやいや、それはこっちのセリフ。間違ったことを教えないでくださいよ、まったく。
——それは失礼しました（笑）。それにしても、そんなカタコトの英語だけでダンとのコミュニケーションは成立してるんですか？
長南　一切問題ないです。アイ・アム・グッド・イングリッシュ!!　ですよ。

自分は強くなる最短の道を行きたいんですよ（長南）

——いやあ、たしかに素晴らしい発音ですけども、文法はメチャクチャです（笑）。
長南　いいんですよ、そんな細かいことは！
ダン　チョーナンの言うとおりさ。彼はなかなか英会話がうまいよ。ただ、"ボディ・ランゲージ"という言葉も使わないと話が通じないんだけどね（笑）。
——ワハハハハ！　やっぱり（笑）。
長南　（猛然と）いや、そんなことないスよ！　中学までに習った英語を使えば、こっちが言いたいことはだいたい伝えられますから。
——でも、一緒に生活するとなると、意思疎通の面ではかなり苦労しそうですよね。
長南　まあ、ダンがしゃべれる日本語も「アリガトウゴザイマシタ」ぐらいですからね（笑）。
ダン　アリガトウゴザイマシタ！（日本語で）。あとは覚えられないなあ。というか学習する気がないんだよ、俺は（笑）。
——それなら長南さんが歩み寄るしかない（笑）。もし長南さんのお腹が空いたときはどう伝えるんですか？
長南　そんときは「アイム・ハングリー！」ですよ（得意げに）。
——すいません。例題が簡単すぎました（笑）。
ダン　簡単って、チョーナンはいつもそれしか言わないんだけどな（笑）。
——「アイム・ハングリー！」と「アリガトウ、ゴザイマシタ」の応酬。コントですよ、それじゃ（笑）。
長南　いやいや、逆にダンがいっつも聞いてくるんですよ。「チョーナン、腹へってないか？」って。
ダン　チョーナンが言いにくいんじゃないかって思って俺は聞いてるんだよ（笑）。
——気を遣ってるわけですね（笑）。
長南　まあ、正直、一緒に練習しているぶんにはあんまり言葉を交わさなくていいんで、そこは助かってますけどね。
ダン　練習は実践しながら技術を見せ合うっていう感じだからね。たとえ言葉が通じなくても、身体を使って表現すれば成り立つ世界さ。
——それで長南さんはもう二度もダンのところへ行ってるわけですよね？
長南　昨年9月の『PRIDEウェルター級GP』が終わったあとに約一ヵ月間、

昨年、9月からスタートした『PRIDEウェルター級GP』一回戦で長南とダンヘンが激突!!「ダンヘンを潰す」勢いで臨んだ長南だったが、電光石火の22秒KOで衝撃の敗北。その後、長南は意を決してダンヘンのいるチーム・クエストへと修業の旅に出たのであった。

"レスリング"出身の英雄と聞いて本誌読者がパッと頭に思い浮かぶのは、ブルーカラー魂爆発のマーク・コールマンのオヤジになるだろうが、レスリング、そして総合格闘技で"エリート街道"を歩んでいるダンヘンだって、じつにナイスで渋いオヤジなのだ。そのダンヘンと『武士道・其の九』ウェルター級GP一回戦で対戦したのが長南亮。その闘いで黒星をつけられた長南はダンヘンの強さにさらなる成長の光を見いだしたのか、その後、ダンヘンのもとへ武者修行の旅に出た。ときには一週間しか滞在できないのに渡米するほどの強さへの探求心！　そして、その獰猛ピラニアを迎え入れるダンヘンのビッグハートぶりを、友情あふれる二人の対談で感じろ!!
（この対談は、3月26日『武士道・其の拾』ダンヘンvs三崎和雄戦後に収録したものです）

聞き手／ジャン斉藤　構成／松下ミワ　撮影／乾晋也　designed by hisa (TwoThree)

それから『DEEP』の桜井（隆多）選手とのミドル級タイトルマッチで勝ったあとに一週間ぐらい居候しましたね。

――初遠征のときは何かカルチャーショックを受けたりしなかったんですか？

長南 カルチャーショックではないですけど、ダンの犬が自分の部屋にウンコしまくったことがありましたね。練習から帰ったら部屋中ウンコだらけだったってい う（笑）。

――そりゃ大変でした（笑）。

ダン 俺が思うに、おそらく犬が「ここは俺の縄張りだ！」ってアピールしたんだろう（笑）。

――そもそも、お二人は『PRIDEウェルター級GP』一回戦で闘った間柄。長南さんは、つい先日闘ったダンのところへ出稽古に行くのに抵抗はなかったんですか？

長南 まったくないですね。正直、もっと競（せ）った試合だったらいまの環境で満足したと思うんですけど。1ラウンド、わずか22秒のKO負けですから。あれじゃ再戦もできる立場じゃないし、自分自身これからどういう練習をすればいいのかわからなくなったんですよ。それだったら、もういっそのこと負けた相手でも頭を下げて、いろいろ教わりたいなって思ったんです。

――そういう意味で、長南さんって凄く潔いですよね。星を取られた相手に素直に教えを乞えるというのは。

長南 だって、しょうがないじゃないですか！ そんなの。

――しょうがない（笑）。とはいえ、負けた相手の懐に飛び込むのって、大きな勇気と決断が必要ですよね。なかなかできることじゃない。

アイ・アム・グッド・イングリッシュ!! ですよ（長南）

長南 自分はやっぱり強くなる最短の道を行きたいんですよ。だから、星を取られた云々というこだわりはないんですよね。逆にそんなこだわりを持っていると、自分が強くなる機会を逃してしまうこともあるじゃないですか。

ダン 俺は、チョーナンがこっちに来ると聞いたときは素直に嬉しかったよ。それに俺はレスリングを長いことやってきたから、競い合う選手同士が一緒に練習するという状況に慣れているんだ。

――アマチュアの世界ではよくあることなんですね。

Ryo Chonan

ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。昨年『PRIDEウェルター級GP』後、アメリカ修業を敢行。帰国後、『DEEP』桜井隆多戦を制し、第三代DEEPミドル級王者に輝く。参戦が決定している6月の『PRIDEウェルター級GP』は、1年間の修業の成果が試される舞台となる。175cm、82.9kg。

ダン だからチョーナンが来ることは、問題があるどころか自分のメリットになると思った。トレーニングのプラスになるだろう、と。実際、チョーナンにはずいぶんいろんなことを教わったんだよ。

――具体的にそれはどういう点で？

ダン 主にグラウンドのテクニックだね。チョーナンは俺たちが持っていないテクニックをじつに多く持っている。彼とトレーニングすることで、もの凄く勉強になってるんだ。

長南 アメリカに行ってあらためて気づいたんですけど、サブミッションに関しては正直言って、日本の中・軽量級選手の技術のほうがはるかに細かいんですよ。アメリカの選手はグラウンドになったら相手の首を起点に抑え込んだりとか、パワーで封じ込めようとする傾向が強いんで。

ダン どうしてもテクニックの面が疎かになりがちだから、チョーナンは俺たちとってありがたい存在だよ。それに今回の来日でも、かなりお世話になってるんだ。いつもだったら練習するにしてもドタバタしがちなんだけど、チョーナンが前もって準備してくれたことでスムーズにできた。今日の試合でミサキ（三崎和雄）に勝てたのも、チョーナンの力によるところが大きいよ。

長南 いやいや。こっちこそダンにはお世話になりっぱなしだから。毎回、ダンの家に居候させてもらってるわけだし。それに自分だけじゃなくて、遠くから練習に来た選手はみんなダンの家でお世話になってるんですよね。しかも無償で。

――タダで！

長南 そうです。自分もお金を払おうとしたんですよ。でも、ダンに「いらない!!」って断られちゃって。本当にありがたいし、この姿勢は見習いたいですね。

――カッコいいですね、ダンは。

ダン そんな立派なもんじゃないよ。チョーナンは宿泊費の代わりにベビーシッターをやってくれたから。それで居候代を充分に稼いだから、お金なんかいらないんだ（笑）。

――ホラー映画の『ゆりかごを揺らす手』並に怖いベビーシッターというか（笑）。

長南 ベビーシッターというか、パンチングボールみたいになってましたけどね（笑）。ダンの子どもはヒマさえあればいっつも殴りかかってきて。とくに下の男の子が「チョーニャン！」って叫びながら。

ダン　いやあ〜、本当に申し訳ない！
長南　全然気にしてないけど、殴るだけじゃなくて、プラスチックの剣とかで攻撃してくるときもあるんですよ（笑）。たぶん、ダンにそんなことをやったら怒られるから、自分を狙ってきたんでしょうけど。
ダン　でも、殴るぐらいだったらまだマシだよ。
――もっとやんちゃなことをしたりするんですか？
ダン　子どもって、よく風邪を引くだろ？　試合前によくうつされるんだよ。
――ダンが風邪を引きやすいってことは耳にしたことがありますが、原因はお子さんでしたか。
ダン　スクールで風邪の菌をもらって帰ってきて、それを俺がもらうという悪循環。ミサキ戦は久々に万全の体調で試合に臨むことができたけど、コンドウ（近藤有己）戦やブスタマンチ戦にしてもずっと体調が良くなかったからな。いまだから言えるけど。
――でも、ヘンダーソン家がある場所は凄く環境がいいというか、自然に囲まれていて、快適そうですよね。
長南　それは間違いないですね。家の中も周りもとにかく広い。ダンがどうしてこんな温厚な性格なのか納得できるって感じです。
――それじゃ日本に来ると、窮屈さを感じたりするんじゃないですか？
ダン　う〜ん。来日したときは外に出てトレーニングしたり、映画を観たりしてるから、あんまり窮屈って感じもしないけど。
長南　ホテルの部屋が狭いのは気に入らないって言ってましたけどね（笑）。
ダン　そんなこと言ったかなあ〜（ぶつぶつ）。
長南　まあ、ダンの家に比べればどこも狭いんでしょうけど。
――で、その広い広いアメリカに、長南さんは4月中にまた渡るんですよね。
長南　今度は長期滞在しようと思ってます。ダンのところだけじゃなく、オレゴンのマット・リンドランドのジムとか、あとロスにもいろいろ練習相手がいるんで、そっちのほうでも練習してこようかなって。
ダン　もうアメリカに住んだほうが手っ取り早いんじゃないか（笑）。
長南　自分もたまに思うんですよね（笑）。

オレは「アリガトウゴザイマシタ!!」しか覚えられないな（ダン）

Dan Henderson X P

だん・へんだーそん■1970年8月24日、アメリカ・カリフォルニア州出身。『PRIDE』ミドル級で数々の名勝負を繰り広げてきたが、昨年9月にスタートした『PRIDEウェルタ級GP』を機に階級を落とす。同大会では見事優勝し、初代ウェルター級王座に君臨。一気に首を狙われる立場となった!!　180cm、82.9kg。

いまはアメリカで集中して練習していろいろ教えてもらって、それを自分のチーム（チームM.A.D）で活かせたらいいなって、ぼんやり考えてるんですよ。それでまだ具体性はないですけど、今年は稼いだお金でジム設立に出資できたらなと。
――長南さんは彷徨える格闘家で不安定なところもありますけど、根を張る作業に取り掛かるわけですね。
長南　そうですね。アメリカで培った経験をもとにして日本を変えていきたい気持ちもあるんで。
ダン　俺もできる限り協力するよ。チョーナンはいずれベルトを獲るファイターになると俺は予言したけど、実際にそうなった。ただ、これからはベルトを狙われる立場になるが、チョーナンがずっと勝ち続けることを祈っている。もちろん俺も力になる。
長南　俺もだよ、ダン。ずっとチャンピオンで勝ち続けることを祈ってるよ（がっちり握手）。
――いずれまたお互い拳を交える日がいつか来るかもしれませんね。
ダン　う〜ん、どうなんだろう。
長南　そういう話は人にもよく聞かれるんですよね。でも、ダンには凄くお世話になってるし、へんな伝わり方をして誤解されたらイヤなんで、あんまり答えないようにしてるんですよ。まあ、あえて言うなら、さっきのレスリングのナショナルチームの話と一緒です。
ダン　そうだな。いまは競い合う同士が強くなるために一緒にトレーニングしているってことで。お互いに頑張ろう！
――お二人の『PRIDEウェルター級GP』の活躍にも期待してます。今日はありがとうございました！
ダン　……ところで、そこの彼女。
松下（本誌ダンヘン大好き編集部員）は、はい！　な、なんでしょうか!?（ゴクリ）。
ダン　ちょっと話があるんだけど、こっちに来てくれないか……？
松下　は、はい！　どうぞ、なんでも言ってください!!（ダンヘンのアッパーカット狙いばりに詰め寄って）。
ダン（謎のプレッシャーに慌てて）い、いや。俺はただこの本の発売日を知りたいだけなんだが……。

【06年3月26日／有明コロシアムにて収録】

嗚呼、涙が勝手に出ちまうんだ!!

そしてコールマンのしゃっくりも止まらない！

ニューヨークの夕焼け番長

Phil Baroni

Hunmer House

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也　designed by hisa (TwoThree)

無駄、無駄、とにかく無駄に心底熱いハンマーハウス勢!! 肉体言語が信条だけど、情にもろくて涙がホロリ。コールマン親父がリーダーを務めるそんな男泣き夕焼け番長連合の一角を占めるのが、今回ご紹介するフィル・バローニだ。単なる筋肉野郎じゃないこの男。ご存じのとおり『PRIDE』ウェルター級において、美濃輪育久、長南亮、そして近藤有己をも撃破！ 開催迫るウェルター級GPでも、とびっきり熱く吠えてくれるにちげえねえ！

──バローニさん！『武士道・其の拾』の近藤有己戦では見事なKO勝利をかっ飛ばしましたね！

バローニ（いきなり元気なく）おう。それはそれはありがとさん……。

──あれ？ いったいどうしたんですか？ いつものハイテンションぶりが欠片もないですけど。

バローニ ……いやあ、試合のあとに風邪を引いちまってなあ。

──あらあら。それは勝利に水を差す出来事ですねえ。

バローニ だから昨晩はロッポンギのネオンに溶けこむこともなく、大都会のホテルの一室に一人ぼっちで佇んでいた。ボウッと明かりを灯すスタンドライトに身体と心を癒されて、ベッドとトイレを行ったりきたり……そう、俺様はいつ降りかかるかもしれない痛みと不安に揺れていたんだなぁ。

──やけにハードボイルドな語り口ですけど、要はお腹を壊したってことですね。それにしても、いつものバローニさんらしくないですよ！

コールマン へんな心配いらんよ！ フィルは大丈夫ったら大丈夫だ!!

──あ、コールマンさん。あいかわらず元気ハッラツですね！

コールマン なにしろ私は初代『PRIDE・GP』チャンピオンだからな！ 今日だって朝もはよからホテルの周囲をランニングしまくって、格別の汗を流せた。無差別級GPに向けて準備万端だよ。ウオ～ッ!!（最終的に不出場となることも知らずに吠えまくって）。

バローニ しばらく療養したら、俺様も『PRIDEウェルター級GP』に備えてマーク以上にトレーニングをするつもりだよ。いままで以上の筋肉を作りあげてファンに見せることを誓うぜ。

──バローニさんは、オープニングの入場式でニューヨーク・ヤンキースのユニホームをバッとはだけて筋肉を見せつけるのが十八番のパフォーマンスになっていますしね。

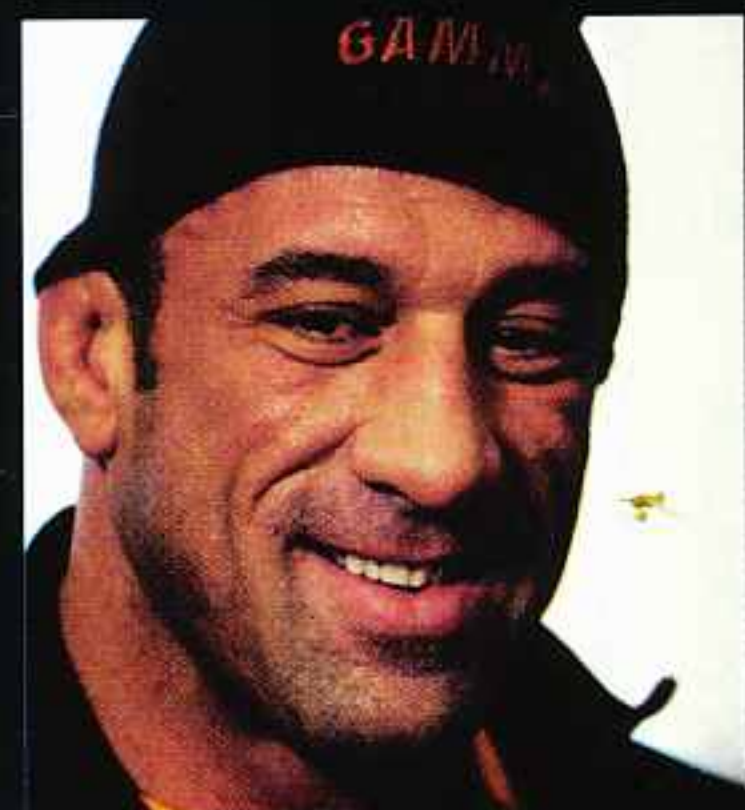
バローニ 俺のニックネームは〝ニューヨーク・バッドアス〟だからな。そんな理由でニューヨーク・ヤンキ

これぞ男泣き夕焼け番長!! 4・2「PRIDE武士道・其の拾」で、満を持してウェルター級に参戦した近藤有己を番長フックで秒殺！ ファンはまさかの近藤敗北にドン引きしたが、そんなこたぁおかまいなしに男泣きするバローニのマイウェイぶりに、ハートをガッチリ鷲づかみにされたのだ！

ースのユニホームを着てるんだな、これが。
――もちろんヤンキースの大ファンなんですよね。
バローニ 当たり前だっつーの。マツイ（松井秀喜）のことも大好きだ！
彼がWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）に出場しなかったことで批判を受けているのも知っているが、この件に関してはマツイに一切の同情をするぜ。
――ほう。といいますと？
バローニ マツイは契約更新したばかりだろう？ 俺様が思うに、おそらくオーナーのスタインブレナーが何かしらマツイにプレッシャーをかけたんじゃねえかと思ってる。いや、そうに違いねえ!!（ドンとテーブルを叩いて）。
――お、エンジンがかかってきましたな（笑）。バローニさんは本当に感情豊かなファイターですよね。涙を流しながらマイクアピールをしたり。
バローニ ハッキリ言うとだな、ファイターはあまり感情を表に出しちゃダメだと思ってる（キッパリ）。イメージの問題もあるから、感情なんかを表に出しちゃいかん！
――それなのにバローニさんは男泣きしている、と（笑）。
バローニ そうなんだよなあ。心の中では「いかん!!」と思いながら自制しているんだが、いままでの苦労がオーバーラップして、勝手に涙がこぼれてきちまうんだ。

パワー＆プレッシャーだけで押し切る印象があるバローニだが、じつに絶妙なコンビネーションを持ち合わせているから厄介だ。ウィークポイントはスタミナや精神力になるけど、これまたハンマーハウスらしいから問題なしですよ!!

コールマン フィルは本当に情にもろいんだよ。みんな気づいてないかもしれないが、私とそっくりなんだ!!
――いやあ〜、それはまったく気づきませんでした（笑）。脳みそのシワが増えましたよ！
バローニ しかし、マークにそう言われるなんて光栄だな!! なんたってマークは人生の大恩人だから。俺様はつい最近まで普通に仕事をしながらファイトをしていた。そんな苦しい生活を見かねたマークがポンと大金を貸してくれた。だから俺様はファイトに専念できるようになったんだ。
――UFCに参戦していた当時と比べると、いまはファイトに集中できる環境にあるわけですね。
バローニ すべてマーク・コールマンのおかげだよ。マークが凄いと思うのは、彼は自分のファイトにだけ集中しているわけじゃない。コーチとしても、プロモーターとしても、ファミリーのケアも同時にこなしているからなんだ。ほかにそんなファイターはいねえよ！ 口でそんなことを言う奴はたいそういるが、実際にこなしているのはマークだけだ。彼は偉大な戦士であり人格者ってわけだ。
――バローニさんはそう褒めちぎってますけど。どうですか、コールマンさん？
コールマン ……ヒック！ ……ヒック!!
――は？ ど、どうしたんですか、いったい（笑）
コールマン い、いや、どうにもしゃっくりが止まらないんだよ!! ……ヒック!! ヒック!!
――ガハハハハハハ！ 何をやってもいちいち劇的ですね、ハンマーハウスは（笑）。今後の熱き動向も遠くから観察してます！
コールマン ……ヒック!!
【06年4月3日／夕焼け番長連合の基地にて収録】

ショック!! ボクらのコールマン無差別級GP選考漏れ!

ショーグンを破ったことですっかり無差別級GPに出場できるもんだと思っていたコールマンでしたが、どういうわけだか選考漏れだよ!! 榊原代表はGP開催中のワンマッチ登場を示唆しているが……この事態におそらく落胆しているコールマンに、みんなからの励ましの手紙を大募集！ 宛先は住所を各自調査でkamipro編集部の「俺があいつで、あいつが俺で、あいつが出れて、俺が出れなくて」係まで!! 初代GPチャンピオンへの熱い手紙、待ってるぜ！

PHIL BARONI■1978年4月16日、アメリカ・ニューヨーク出身。レスリング、ボディビルがバックボーン。UFCではその剛腕を活かしたファイトスタイルと、ゴージャスなロングガウンで入場するパフォーマンスで一躍人気者に。現在は『PRIDE』でマーク、ランデルマンとの〝筋肉三兄弟〟として絶賛売り出し中。180センチ、82・6キロ。

ダン・ヘンダーソンを倒して、俺はPRIDEの歴史に名を残す!

ウェルター級GPのダークホース

Denis Kang

American Top Team

聞き手/堀江ガンツ　撮影/菊池茂夫　designed by hisa (TwoThree)

世界の地味な実力者、全員集合! そんな声がどこからともなく聞こえてきそうな、シブいメンバーがわざわざ世界中から集結するPRIDEウェルター級GP。
別名「木戸修杯争奪いぶし銀世界一決定トーナメント」とまで言われるシブい大会で、ダークホースという、これまたじつにシブいポジションに位置する男、それがデニス・カーンだ。〝韓流柔術家〟の異名を持ちながらじつはカナダ人。イケメンなのに、なぜか地味キャラ。所属チームも地味に強いアメリカン・トップチームという、どこをとっても売り出しにくいにもほどがある、実力者デニス。そんなウェルター級GPをある意味象徴するような男の、シブいインタビューをここではまったりと堪能してほしい!

——今日はPRIDEウェルター級GPのダークホース、デニス・カーンとは何者なのかということでお話をうかがっていこうと思います!

カーン OK。よろしく頼むよ。

——昨日の煽りVTRでは〝韓流柔術家〟と紹介されたんですけど、韓国生まれのカナダ人ということでよろしいんでしょうか?

カーン いや、俺が生まれたのは韓国ではなくてフランスだよ。

——フランスなんですか!?

カーン 父が韓国人、母がフランス人なんだけど、二人がフランスで出会って俺が生まれたんだ。そして11歳のときにカナダに移住した。だから俺のナショナリティはフランス生まれのカナダ人ということになるね。

——じゃあ、韓国に住んでいたことはないんですか?

カーン ここ最近、格闘家として韓国に行くことは多いけど、生活していたのはフランスとカナダだよ。

——じゃあ、韓流柔術家というより、フレンチ&カナディアン柔術家のほうが正しいわけですか(笑)。

カーン ま、そういうことだね(笑)。でも、俺に韓国人の血が流れていることは確かだから、コリアン柔術ファイターと呼んでもらっても、べつにいいけどね。

——柔術はカーウソン・グレイシー柔術を取得したとのことですけど、これはどこの道場でいつ頃習っていたんですか?

カーン 1997年5月、カナダのバンクーバーでマーカス・ソアレス(カーウソン系の柔術家)に習ったのが最初だよ。

——カーウソン・グレイシー柔術ってカナダにもあったんですか?

カーン ちょうど97年に師匠のマーカス・ソアレスがカナダに移住してアカデミーを開いたんだよ。だから正確に言うと、カーウソン系のマーカス・ソアレス柔術アカデミー、その一期生が俺だね。

——そして総合格闘技のデビューは、その翌年、98年のようですけど、MMAをやろうと思ったきっかけはなんだったんですか?

カーン 俺はもともと子どもの頃から格闘技が好きで、9歳からテコンドーであったり、レスリングであったり、いろんな格闘技をやってきたんだ。スポーツ以外の趣味でもビデオゲームの『ストリートファイター』は大好きだったし、映画も格闘技の映

画ばっかり観ていたんだけど、高校のとき初めてビデオでUFCを観たんだよ。そのとき「これは凄い！」「これこそ俺が求めていた格闘技だ！」と思ったんだ。

——では、UFCを観たのがきっかけですか。

カーン　いや、その時点では、いち視聴者としておもしろいと思っていただけで、プロになろうなんて考えてなかった。「こんな怖い格闘技は俺にはできないな」と思ってたんだ（笑）。それで、その代わりというわけではないんだけど、比較的MMAに近いハプキドーをやっていた。その後、97年にマーカス・ソアレス先生との出会いがあって柔術を始めたんだけど、そのときもMMAをやるつもりはなくて、柔術だけをやっていこうと思っていたんだ。

——柔術を始めても、まだ踏み出せませんでしたか。

カーン　だって、その頃のUFCはタンク・アボットだとか化け物みたいな奴らばっかりだったんだぜ（笑）。自分がやる競技だとはとても思えなかったよ。ただ、青帯を取ったときに「MMAで自分の実力を確かめてみたいな」と思い始めてきて、結局「一回だけやってみよう」という感じで『アルティメット・ウォリアー・チャレンジ』という小さな大会に出てみたんだ。そしたら、チョークで一本勝ちできて、そこから「プロ格闘家を目指してみようかな」という気持ちになった。まぁ、要は調子に乗っちゃったんだよな（笑）。

——一回だけのつもりが、どんどん増えてきちゃったと（笑）。

カーン　そうなんだよ。いつの間にか総合のキャリアが8年にもなるし、こんなにたくさん闘うとは自分自身驚きだね（笑）。だってデビュー戦こそ勝つことができたけど、最初の頃は負けることのほうが多くて、ひどいときは3連敗とか平気でしていたから、正直言ってその頃は「このまま辞めちゃおうかな」と思ったことは何度もあったからね。ただ、理由ははっきりわからないんだけど、心の奥底から「続けろ」という声が聞こえたような気がして、ずっと続けていたら、だんだん結果が出てくるようになったんだ。

——それでいまや、引き分けを一つ挟んで15連勝ですからね。まさに継続は力なり、と。

カーン　やっぱり、負けたことによって自分がどんなミスを犯したかがわかったし、試合のたびにそれを修正していくうちに、気がついたら『PRIDE』という世界最高の舞台までたどり着いたという感じかな。

——最近、アメリカン・トップチーム（以下・ATT）に移籍したというのも、これから大きく飛躍するきっかけになるかと思いますが、ATTに移籍しようと思ったのはどういった理由からだったんですか？

カーン　ATTに移籍することが、俺にとって公私ともにベストな選択だと思ったからだよ。どういうことかと言うと、俺がいま付き合ってるガールフレンドがフロリダに住んでるんだけど、俺はバンクーバーに住んでいたから、長距離恋愛でいろいろ大変だったんだよ。それに俺自身バンクーバーにいるとスパーリングパートナーを探すのも一苦労なんで、アメリカに引っ越そうと考えていたんだ。そしたらちょうどフロリダにATTという素晴らしいチームがあるって聞いたんだ。ATTに入れば彼女と一緒に暮らすこともできるし、しかも練習環境も飛躍的に良くなる。公私ともに最高の環境になるということで、俺のほうから入りたいとリクエストした。そしたら「ぜひ来てください」という返事が来たんで、今年1月から入ることになったんだよ。

——実際に移籍してみて、ATTの環境はいかがでしたか？

カーン　想像以上だね。ハイレベルな練習相手はたくさんいるし、設備も総合格闘技のジムとしては世界最高レベルのものだからね。この移籍によって、自分はさらに強くなれると確信しているよ。

——昨日（4・2『武士道』）のマーク・ウィアー戦も圧勝でした。

カーン　まぁ、昨日は勝つには勝ったけど、熱くなりすぎてしまったことを反省してるんだけどね。

——少し冷静さを欠いてましたか。

カーン　マーク・ウィアーは素晴らしいストライカーだから、彼の打撃をどうかいくぐって寝技で一本奪うかを考えていたんだけど、向こうがいきなりテイクダウンを取りにきたんで、ちょっとキレそうになったね。「この野郎、俺にグラウンドで勝負を挑むとはいい度胸してるじゃねぇか！」ってね（笑）。

——ストライカーに寝技で挑まれて、怒りに火がつきましたか（笑）。

カーン　だから、俺は逆にスタンドに戻って、彼に対するパニシュメント（罰）として、まずパンチとヒザでボコボコにして、グラウンドでもあらゆる角度から殴ってやった。そして、「ここまでやったら、彼はもう耐えることはできないな」と思ったときにギブアップしたね。

——唐突に感じられたフィニッシュは、そうやって相手の戦意を失なわせた結果だったわけですね。

カーン　まぁ、彼が俺を本気にさせてくれたおかげで、6月から始まるウェルター級GPへのいいデモンストレーションにはなったよ。

——ウェルター級GPで優勝するために、最大のライバルというのは誰になりそうですか？

カーン　やっぱり現王者であるダン・ヘンダーソンだろうね。彼はファイターとしての素晴らしさはもちろん、アスリートとしてとても優れていると思うんだ。このアスリートとしての素晴らしさが、"ここ一番"というところで自分の気持ちと肉体を高めることができる。やっぱりそれが本当の強さだと思うし、自分自身も彼と闘うためには、これからどんどん気持ちの部分でも高めていかないといけないと思っているよ。

【06年4月3日／都内・某ホテルにて収録】

4・3『PRIDE武士道-其の拾-』でケージレージで活躍するマーク・ウィアーと対戦したカーンは、最初こそ戸惑ったものの、終わってみれば完勝と言える内容。GP優勝候補の声もあがる強さだった。

初来日は2000年9月のパンクラス。当時はまだ総合をやっていた鈴木みのるに3分タップアウト勝ち。このとき、無名の柔術家に負けた鈴木に対し、船木誠勝が引退勧告をつきつけた。

DENIS KANG■1977年9月17日、フランス生まれ。フランス生まれの韓国系カナダ人。韓国を中心に、ロシアのM—1などでも活躍。04年11月のSpirit MC—GPでは見事優勝を遂げている。また、柔術家ながら04年にK—1韓国大会に出場するなど、立ち技にも長けている。現在、引き分けを挟んで15連勝中。180センチ、83キロ。

6・4 PRIDE武士道・其の十一

-83

日本人再び全滅危機!?
激シブ！ 完全実力主義のサバイバルトーナメント!!

シブッ!! 渋くてヤバすぎるよ、佐伯さん！

6月4日『PRIDE武士道・其の十一』から開幕する16人参加のウエルター級GPが、あの〝いぶし銀〟木戸修もビックリしかねないほど渋すぎる布陣になっている。

同大会への参戦を熱望されていた桜庭和志が『HERO'S』に移籍し、近藤有己もフィル・バローニ戦のダメージが抜けないため、無念のドクターストップ欠場。本命不在の感を拭えないのはたしかだが、「よりによって一番マニアックな奴らを集めやがって!!」とアントンふうに叫びたくなるマニア好みの実力者たちが大、集、合！ 腕一本で地位や名声を勝ち取ろうとするギラついた選手たちの、完全実力主義度が高いトーナメント・バトルが展開されそうだ。

とくにガイジン勢は、ダントツの優勝候補パウロ・フィリオ、職人ムリーロ・ニンジャら常連組の層が厚いばかりか、初参戦組にも〝キューバの柔道王〟ヘクター・ロンバード、佐伯代表が優勝候補に推す〝オランダの超新星〟ゲガール・ムサシなど、〝未知の強豪〟としての期待感が高い逸材も名乗り挙げている。

対する日本人陣営。一回戦で日本人対決がマッチメイクされないことから、昨年のウェルター級GPと同じく開幕戦で〝全滅〟という悪夢が繰り返される恐れも充分ありえる。いや、それぐらいガイジン勢の壁は高くて厚い。しかし、想像を絶する試練を課せされるのが『PRIDE』の本領。そこを乗り越えてこそ、日本人ウェルター戦士に〝地熱〟が付くに違いない。とにかく6月4日は超一流の〝渋さ〟を味わえ！

（オサム・キド）

『武士道』ウェルター級初参戦！ 新人さん、いらっしゃ〜い!!

ユン・ドンシク	ご存じ韓国・悲運の柔道王。前戦はランペイジに判定負けだが、株を上げる健闘ぶり。適性体重で対応力をさらに発揮する？　ひさしぶりにビッグマウスも聞きたいぜ！
ヘクター・ロンバード	シドニー五輪・柔道73キロ級キューバ代表。柔道家のウイークポイントになりがちな打撃面は、ボクシングの習得と実戦経験で克服。いまだ総合無敗。今年の2月、高瀬大樹を1R KOで破った。吉田道場所属。
ジョーイ・ヴィラセニョール	バッグボーンはボクシング。アメリカ『キング・オブ・ザ・ケージ』で無傷の15連勝中。同プロモーションの現ミドル級チャンピオン。愛称はセニョール（ウソ）。
ゲガール・ムサシ	ボクシング・オランダJr.王者。格闘技王国オランダの超新星。欧州ではその地位を盤石のものに。日本ではDEEPで栗原強、入江大和から勝利している。レッドデビル所属。
瀧本誠	シドニー五輪・柔道81キロ級金メダリスト。今回から適性体重への転向になるが、微妙なマイクアピールでおなじみの郷野聡寛から微妙な理由でいいがかりをつけられている。

PRIDEウェルター級GP2006開幕戦
6月4日さいたまスーパーアリーナ　開場15:00　開始16:00

［発表カード（11日時点）］
長南亮vsジョーイ・ヴィラセニョール
瀧本誠vsゲガール・ムサシ

［ウェルター級GP出場決定選手］
パウロ・フィリオ／ムリーロ・ブスタマンチ／フィル・バローニ
デニス・カーン／ムリーロ・ニンジャ／アマール・スロエフ
ユン・ドンシク／ヘクター・ロンバード
ジョーイ・ヴィラセニョール／ゲガール・ムサシ
郷野聡寛／三崎和雄／長南亮／瀧本誠

［ワンマッチ出場選手］
桜井“マッハ”速人／川尻達也／石田光洋／マーカス・アウレリオ

［チケット］
VIP席¥50000（専用ゲート、グッズ付き）／RRS席¥25000
スタンドS席¥14000／スタンドA¥7000

［大会に関する問い合わせ］
ドリームステージエンターテインメント　TEL.03-5464-1531

向かって左がウワサのヘクター・ロンバート。総合への対応力が増しているユン・ドンシク、ウェルター級王者ダンヘンを追いつめた三崎和雄も参戦。

長南亮、郷野聡寛は昨年に続いてのウェルター級GP参戦。瀧本誠はウェルター級が適性体重。柔道金メダリストの本領発揮となるか。

気持ちだけでも“無差別級”参戦!
死神再降臨まで、しばし待て!

死神シャツで初夏を満喫!

ロシアの残虐超人セルゲイ・ハリトーノフ

ハリトーノフFACE Tシャツ
レッド／ホワイト／カーキ ￥3,990（税込）
S·M·L·XL

ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト／レッド ￥3,990（税込）
S·M·L·XL

ハリトーノフSKULL Tシャツ
レッド／ホワイト ￥3,990（税込）
S·M·L·XL

コピィロフTシャツ
ホワイト ￥3,990（税込）
S·M·L·XL

ヴォルク・ハンTシャツ
ホワイト ￥3,990（税込）
S·M·L·XL

ミーシャTシャツ
ホワイト ￥3,990（税込）
S·M·L·XL

ハリトーノフTシャツ
ホワイト ￥3,990（税込）
S·M·L·XL

ロシア「RTT」パーカー
グレー ￥6,300（税込）
M·L·XL

ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド￥7,350（税込）
M·L·XL

ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー／ネイビー ￥6,300（税込）
M·L·XL

ロシアン・トップチームグッズは『kamipro』通販でご購入できます。電話、メール注文もできますよ!!
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797（平日15:00〜22:00まで）

【メール注文方法】郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまでお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。販売元:（株）ダブルクロス

NEW APPAREL SERIES

PRIDE

デザイン一新! 世界最高峰の商品たちを手に入れろ!!

※表示価格は全て税込み価格です

BRAZILIAN TOP TEAM

BTT TEE
WHITE/GREEN/BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

BRAZILIAN TOP TEAM TEE
WHITE/GREEN/BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

BRAZILIAN TOP TEAM SPORT TOWEL
GN/YELLOW/GN/WHITE ¥3,465

BRAZILIAN TOP TEAM MESH CAP
BLACK/OLIVE ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM WRISTBAND SET
¥2,310

WANDERLEI SILVA

WANDERLEI TEE
IVORY/BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

WANDERLEI WORK SHIRT
IVORY/ BLACK ¥9,345
S/M/L/XL

WANDERLEI SPORT TOWEL
IVORY/BLACK ¥3,465

WANDERLEI MESH CAP
IVORY /BLACK ¥4,725

WANDERLEI WRISTBAND SET
¥2,310

CHUTE BOXE ACADEMY

CHUTE BOXE TEE
WHITE/ BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

CB TEE
WHITE/BLACK A ¥4,725
S/M/L/XL

CHUTE BOXE SPORT TOWEL
WHITE/ BLACK ¥3,465

CHUTE BOXE MESH CAP
WHITE/BLACK ¥4,725

CHUTE BOXE WRISTBAND SET
¥2,310

MIRKO CRO COP

MIRKO V NECK TEE
WHITE/BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

MIRKO CHECK V NECK TEE
WHITE ¥4,725
S/M/L/XL

MIRKO SPORT TOWEL
WHITE/BLACK ¥3,465

MIRKO CAP
WHITE /BLACK ¥4,725

MIRKO WRISTBAND SET
¥2,310

EMELIANENKO FEDOR

FEDOR TEE
RED /BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

FEDOR CROWN TEE
RED/ BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

FEDOR SPORT TOWEL
RED/ BLACK ¥3,465

FEDOR CAP RED
¥4,725

FEDOR WRISTBAND SET
¥2,310

MARK HUNT

HUNT HIBISCUS TEE
BLACK ¥4,725 S/M/L/XL

HUNT SPORT TOWEL
BLACK ¥3,465

HUNT MESH CAP
BLACK ¥4,725

HUNT WRISTBAND SET
¥2,310

[PRIDE GOODS]
通販専用NAVIダイヤル

(株)ジャンボ
TEL.0570-00-7100
[月曜日～土曜日、AM10:00～PM6:00]

PRIDE オフィシャルサイト

http://www.pridefc.com/

[商品お渡し方法] 代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料約630円(クロネコ宅急便)、代引手数料約350円(いずれも地域によって異なります)がかかります。お届けはご注文を頂いてから、一週間前後で郵送いたします。オフィシャル携帯サイトからもオーダーできます。

このページの商品はkamipro Handでも購入可能!! 詳細は右ページ下段を参照ください➡

読プレで

ジメジメパワーをブッ飛ばせ!!

6月は祝日ないね、悲しいね

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は7月16日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦PRIDE無差別級GP、HERO'Sミドル級GP優勝予想⑧『kamipro』を読み始めたきっかけ

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「世界前哨戦・最終章」係まで

※締切は2006年6月15日(木)当日消印有効

kamipro 099 応募券 ff (フォルテシモ)

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

MUMMY

ドドドドリルだぴょ〜ん。

メカマミーのドリル（小型版） 1名様

メカマミーが装着している破壊力満点のドリルを1名様にプレゼント。実物大! ……とはいきませんが、3分の1縮小版ドリルを差し上げます。さあ、これでキミも今日からメカマミーだ!!

SAKURABA

さくぽん 5名様

キングダム時代から『PRIDE.13』ヴァンダレイ・シウバ戦までの試合とその期間の『紙のプロレスRADICAL』掲載インタビューを収録した『さくぽん』(平成13年発行)。当たらなかった人は、ダブルクロス通販でご購入を!!
【ダブルクロス提供】

OH

王拳聖サイン色紙 1名様

4月某日、『kamipro』編集部に突然現われた王拳聖さん（ハガキ愛ランド参照）。せっかくなので、色紙にお気に入りの言葉を書いていただきました。「いっぱい」の後ろの「い」の字が付け足しっぽいのはご愛嬌。

PRIDE

1名様

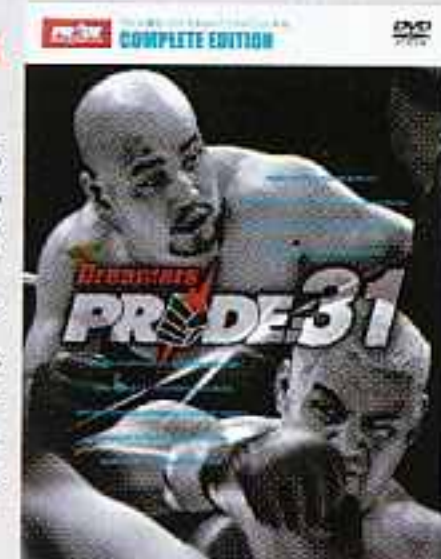
■メディアファクトリー
***http://www.mediafactory.co.jp/

『PRIDE.31』DVD
約120分／￥5040(税込)

『PRIDE無差別級GP』の前哨戦ともなった田村潔司vsノゲイラ、ハリトーノフvsアリスター、コールマンvsショーグン、西島洋介vsマーク・ハント戦など、数々の衝撃映像を収録した『PRIDE.31』を1名様にプレゼント!
【メディアファクトリー提供】

LINGERIE

ランジェリー武藤サイン色紙 3名様

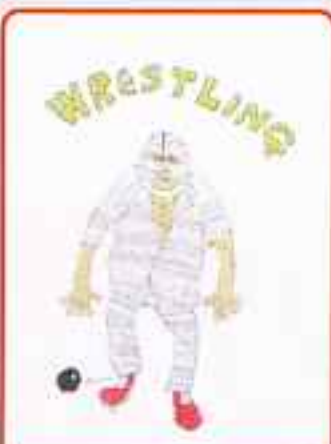
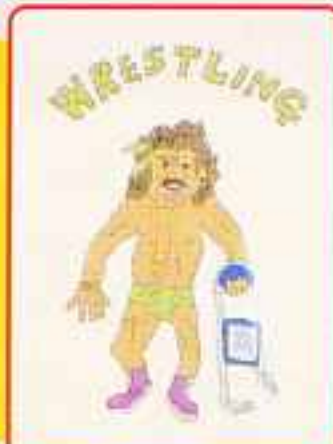
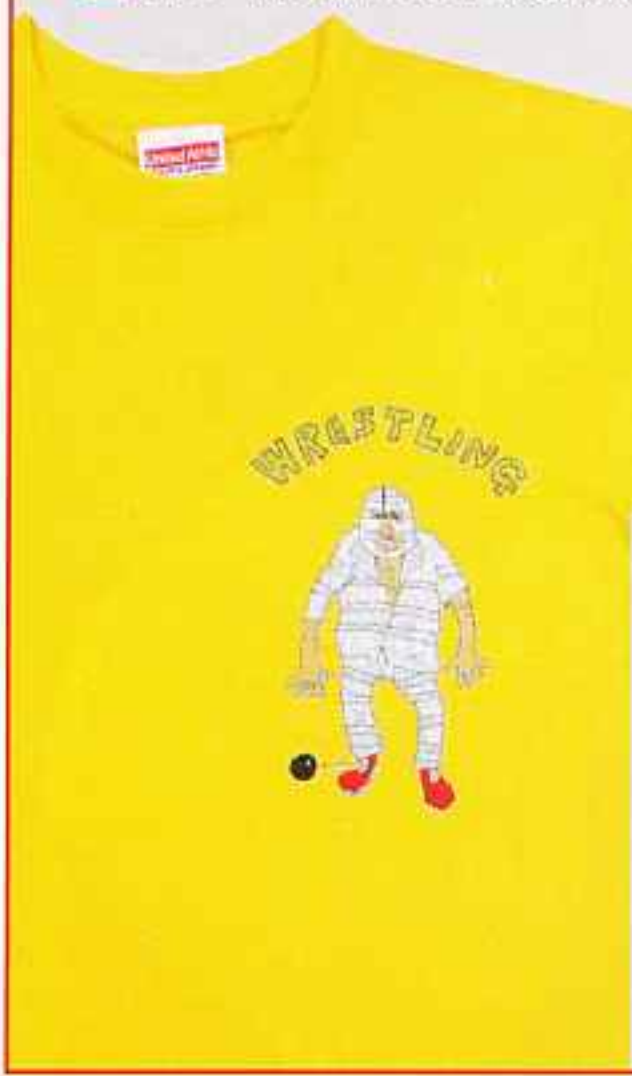
『ZERO1・MAX靖国大会』等で大活躍のランジェリー武藤選手のサイン色紙をプレゼント! よいこのみなさんは、写真のように変態的な格好で外を歩かないように気をつけましょうね!!

TAMURA&TOKORO

田村潔司&所英男サイン色紙 2名様

話に花が咲いて、対談時間がなんと! 1時間半にも及んだ田村選手と所選手。この、リングス魂のたっぷり詰まった二人のサイン色紙を2名様にプレゼントします。

ANYTHING

各1名様

■URL***http://www.originaltshirts.jp/index.html

プロレス・フィギュアTシャツ ¥3360

多彩なアーティストがTシャツづくりを手がけるオリジナルTシャツ専門店のエニシングからUssy★ウシオさんがデザインを手がけたTシャツをプレゼント。Tシャツの作り方、売り方などが書かれた著書『Tシャツバイブル』も1名様に差し上げます。【エニシング提供】

HUSTLE

■メディアファクトリー***http://www.mediafactory.co.jp/

1名様

『ハッスルマニア』DVD

約240分／¥5040（税込）

和泉元彌がプロレスデビューを果たした伝説の『ハッスルマニア』がついにDVD化！ HGvsインリン様など、貴重な映像満載。オープニングは「エンヤーコーラヤっと♪」と熱唱するオーちゃんの長さんっぷりが見られます。【メディアファクトリー提供】

MUSCLE

『マッスルvol.1〜3』DVD

『マッスル』DVDを3本セットで1名様にプレゼント。この3本で『マッスル1』から『マッスル10』まで完全網羅しています（特典映像付）。『マッスル』の会場やHP上など、限られた場所でしか販売していない貴重品です。

■マッスル***http://www.ddttec.com/muscle/

セットで1名様

ART JUNKIE

1名様

■URL***http://www.artjunkie.jp

■E-mail***infor@artjunkie.jp

「マサ・グレコ」ラグランTシャツ ¥4410（Mサイズ）

5月20日（土）、21日（日）11:00〜19:00東京ビッグサイト（国際展示場）「デザインフェスタVol.23」に出展!! ART JUNKIEのTシャツやポストカード、ステッカーなどのグッズが会場特別価格で購入できます。

一般入場料：前売り券¥800（1日）、¥1,500（両日）／当日券¥1,000（1日）、¥1,800（両日）問い合わせ：03-3479-1433（デザイン・フェスタ・オフィス）

GOTCH

■URL***http://sky.ap.teacup.com/tokon/

居酒屋「ごっち」15周年記念Tシャツ

開店より15周年を迎える居酒屋「ごっち」さんが、記念Tシャツを作成！ 「キン肉マン」や各団体、ジムなど、バックプリントは有名どころのロゴがお祭り状態。非売品なので、なかなか手に入りません！ ※デザインは多少変わる可能性がありますのでご了承ください。【居酒屋「ごっち」提供】

住所：〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-29-8 シャルマンハイム
電話番号：03-3314-3416 定休日：水曜日
営業時間：18:30〜翌2:00（日曜16:00〜24:00）
※ご応募の際は、S、M、L、XLのうち希望サイズを明記の上、おハガキをお送りください。

3名様

DDT

1名様

男色ディーノの応援用パンツ

男色ディーノのコスチュームに似た応援用パンツを1名様に差し上げます。自分ならファッショナブルに穿きこなせるという自信のある方が積極的に応募してくれると嬉しいです。

WWE

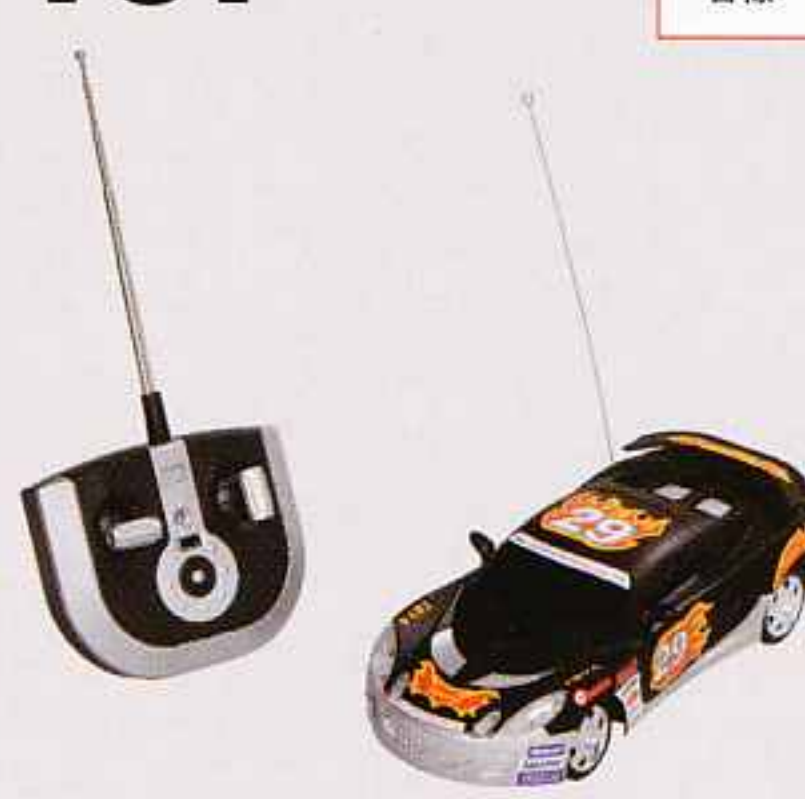
セットで1名様

レッスルマニア22観戦グッズ

4月2日、イリノイ州シカゴで行なわれた世界最大級のプロレスイベント『レッスルマニア22』の観戦グッズを二つセットで1名様にプレゼント！

TOY

1名様

松澤チョロ提供ラジコン

松澤チョロが東京・青山付近で、キャッチセールスに捕まって購入した哀しいラジコンを1名様にプレゼント。電池も入っていなかったので、編集部が単3電池を追加してお送りいたします。

BOOK

■東邦出版***http://www.toho-pub.com/

『達人』 ¥2415（税込）

1名様

極真空手や中国拳法、総合格闘技、ムエタイなど、世界のあらゆる武術・格闘技における達人へのヒントを記した極意書がついに誕生！ 達人たちが披露する妙技を収録したDVD付録（収録時間30分）もついてます。【東邦出版提供】

修斗 2006 BEST vol.1

240分／¥5880（税込）

2月17日に行なわれた『修斗・代々木大会』の川尻達也vsヨアキム・ハンセン、菊地昭vs青木真也など、伝説の一戦が収録された一枚。久々に修斗のリングに上がった佐藤ルミナの死闘もお見逃しなく!!

QUEST

各1名様

■QUEST***http://www.queststation.com/

01★武神館DVDシリーズvol.27 大光明祭'91 受身体変術
117分／¥5880（税込）

02★國際松濤館空手完全教則 中級篇
85分／¥5880（税込）

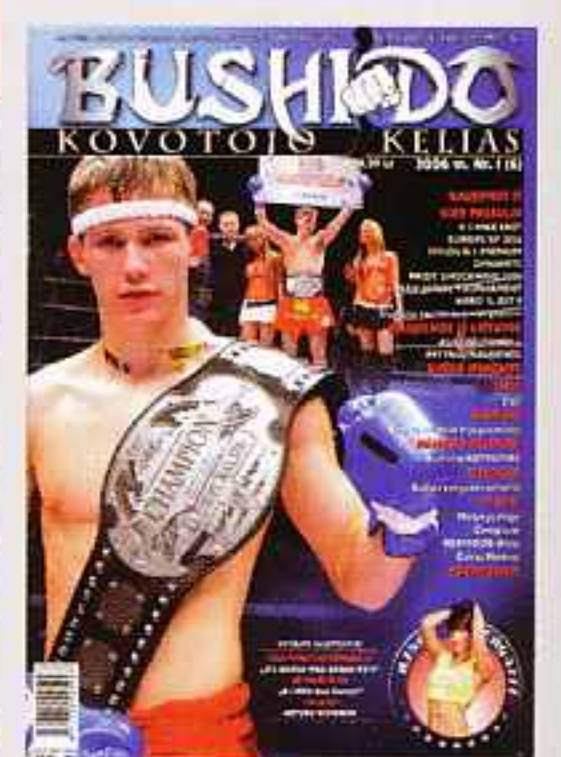
03★小野寺力　キックボクシング入門 part.1
75分／¥5880（税込）

自らのジムで『PRIDE』参戦中の吉田秀彦、長南亮、修斗の佐藤ルミナらトップファイターを育成している小野寺力。基本から実践まで丁寧に教える教則作品が『小野寺力キックボクシング入門 part.1』。実践的武術や空手を教える、ほか二作も要注目。

LITHUANIA

セットで1名様

『HERO'S in リトアニア』のDVD

昨年11月26日に行なわれた『HERO'S』リトアニア大会のDVDを1名様にプレゼント。レミギウス・モリカビュチスやダリウス・スクリアウディスなど、『ZST』や『K−1 MAX』で活躍する選手も多数出場!!

『BUSHIDO』

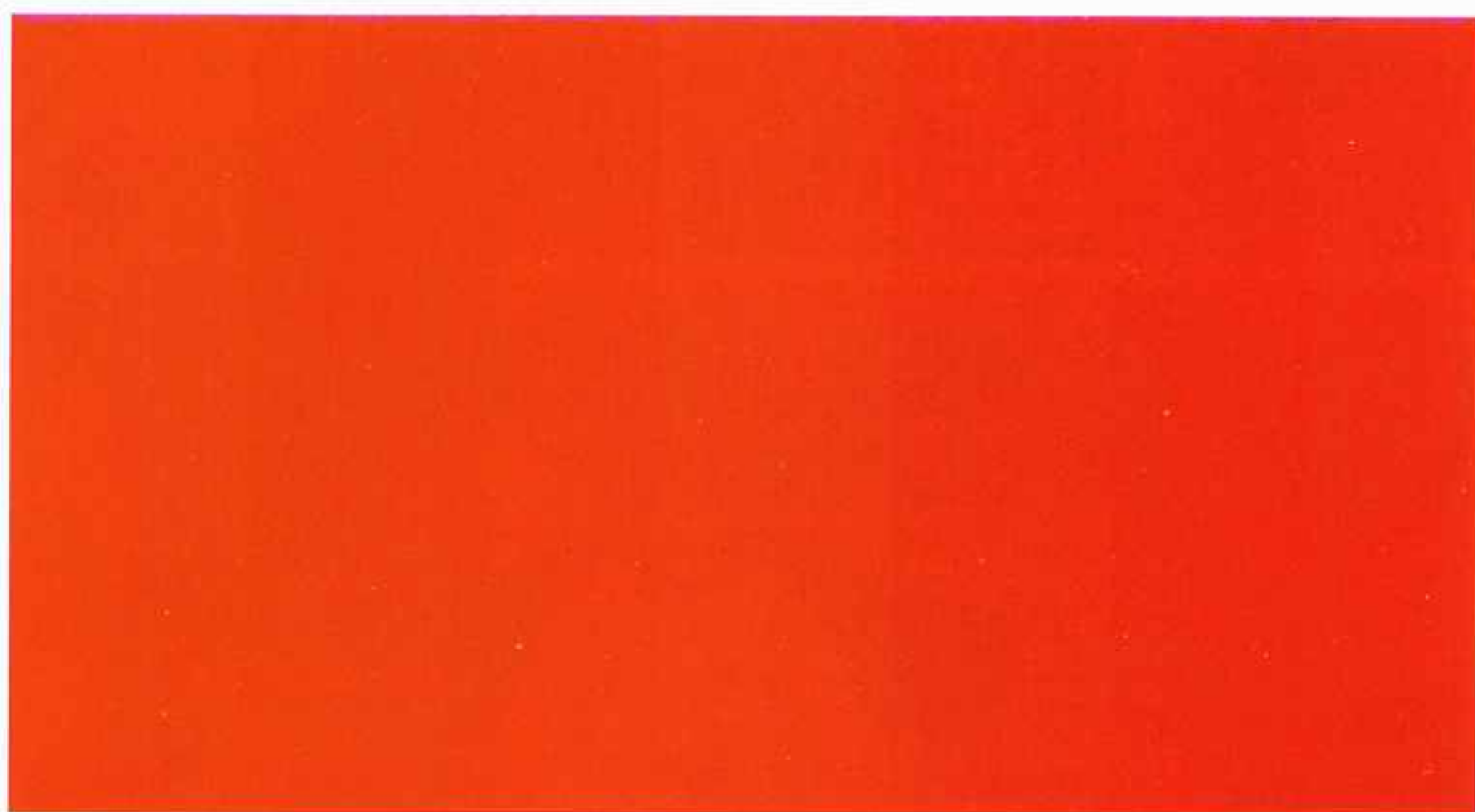
リトアニアの格闘技専門誌『BUSHIDO』。リトアニアの英雄レミギウスのプライベート写真はもちろん、なぜかリトアニア美女の写真まで満載。『HERO'S in リトアニア』DVDとセットで差し上げます。

サ〜ン、シ〜……（大幅にはしょって）

号

ウガ〜ッ!!

何かが起こる!
絶対に!!

いくぞーッ!! イ〜チ、ニ〜、サ〜

10

次号でついに

次回の『kamipro』は“家族”の読者の期待を裏切らない100号記念スペシャル!!

★爆走スクープ!(予定)

★スーパー豪華対談!!(あくまで予定)

★ウルトラ豪華付録つき!!!(やっぱり予定)

6月21日(金)発売予定　特別予価 ¥920(本体876円+税)

※ 買わないとシルバ28号の悪夢に襲われます!!

肉体改造!

1日15分のトレーニング。

日々の練習で強さを勝ち取れ!!

魔裟斗<マサト>
K-1 WORLD MAX 2003 世界王者
シルバーウルフ所属

正しい練習が強さの近道!

P 入り商品お買い上げの方には、
トレーニング解説DVD「ファイティングII」をプレゼント!!

内容
第1部:魔裟斗選手の本格練習を収録!魔裟斗選手の本格練習を見て正しい打撃・蹴りを学ぼう!テクニック集付!!
第2部:あの東京大学ウエイトリフティングチームによる「より良い筋肉の作り方」を収録。正しいトレーニング方法が学べます。

Wプレゼント!
バーベル、ダンベルお買上げの方に、**ウェイトグローブをプレゼント!**
発汗によるスベリを無くし、安全にトレーニングしていただけます。
さらに、**トレーニング解説DVD「ファイティングII」もプレゼント!**

P 魔裟斗「ファイティングII」DVD

ブラックタイプ

バーベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	12,000円→6,980円
50kgセット	17,000円→9,980円
70kgセット	22,000円→13,980円
100kgセット	29,500円→17,980円
140kgセット	39,000円→23,980円

シャフト付き

ダンベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	7,000円→4,980円
30kgセット	9,500円→6,980円
40kgセット	12,000円→7,980円
50kgセット	14,000円→8,980円
60kgセット	16,500円→10,980円

シャフト付き

プレート ブラックタイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	300円
2.5kg	600円
5.0kg	1,200円
7.5kg	1,800円
10.0kg	2,400円
15.0kg	3,600円
20.0kg	4,800円

ラバータイプ

バーベルラバータイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	16,000円→9,980円
50kgセット	24,000円→13,980円
70kgセット	32,000円→19,980円
100kgセット	44,000円→26,980円
140kgセット	60,000円→34,980円

シャフト付き

ダンベル ラバータイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	9,500円→6,980円
30kgセット	13,500円→8,980円
40kgセット	17,500円→10,980円
50kgセット	21,500円→12,980円
60kgセット	25,000円→14,980円

シャフト付き

プレート ラバータイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	400円
2.5kg	800円
5.0kg	1,600円
7.5kg	2,400円
10.0kg	3,200円
15.0kg	4,800円
20.0kg	6,400円

背もたれ角度4段階に調節可能!
W130×D137×H205
キングスセット(プレートセット別売) 40,000円→**19,980円**(消費税込)
ラット運動によるショルダー部の集中強化により
パンチ力強化、持久力が備わります!

W130×D137×H100~130
背もたれ角度4段階に調節可能!
キングofベンチ(プレートセット別売) 35,000円→**12,980円**(消費税込)

W100×D115×H140~220
コンパクト収納
マルチジム 高さ調整可能 24,800円→**9,980円**(消費税込)

プレートシャフトラック
(プレートセット別売)
36,000円→**12,800円**(消費税込)
W60×D64×H114

W62×D126×H85~105
ハードベンチ(プレートセット別売) 20,000円→**9,980円**(消費税込)
ワンタッチでシットアップベンチ。折りたたみが可能!

抵抗値設定
運動時間累計
速度の計測
走行距離の累計
消費カロリーを累計表示

1日10分!!
有酸素運動で脂肪を燃やせ!
持久力をつけろ!
サドル高さ調節可能
W51×D80×H111cm
フィットネスバイクfr 39,800円→**7,980円**(消費税込)

W52×D126×H100
トレーニングベンチ 12,000円→**5,980円**(消費税込)
安定感抜群のベンチプレス台
(プレートセット別売)

5段階の角度調節が可能!
W56×D127×H123
シットアップベンチ 10,000円→**4,980円**(消費税込)
手軽に腹筋・背筋のトレーニングが出来ます。

レッグストレッチャーDX
全てのスポーツにおいて股関節の柔軟性は欠かせません。
無理なくストレッチ運動がおこなえます。
背もたれ角度3段階に調節可能。
29,000円→**12,800円**(消費税込)
W39~200×D124×H53

W55×D130×H45
フラットベンチPRO 10,000円→**5,980円**(消費税込)
極太パイプを使用抜群の安定感!

サイズ:110cm×200cm×厚5mm
ベンチマット 10,000円→**5,980円**(消費税込)
床の保護、スベリ等を防ぎます。

kamipro 紙のプロレス
No.99
2006年6月2日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（フリテンのため非番）

電気部
ささきぃ
松澤メカチョロー

企画制作部
坂井ノブ
上杉弁護士

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RGM

編集次長リローデッドPart.8
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木“中盛少なめ”しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
森モーリー鷹博
平工幸雄
戸成嘉則
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和

お勘定&衣料部
林 一枝

10周年記念
入江・伊勢丹メンズ館（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“ホッピーの中おかわり!”芳司

“サクっていう選手が何かしたんでしょ?”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

NEXT ISSUE

いったい何が飛び出すのか!?

次号
No.100
特大号は
6月21日（水）発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

kamipro 2006 99
桜庭、衝撃の『HERO'S』移籍!!
2006年6月2日
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社　©2006 ENTERBRAIN,INC.　©2006 DOUBLECROSS
enterbrain

定価：本体838円＋税
雑誌61954-13　Ⓗ2006.9
Printed in Japan 図書印刷
9784757727823
ISBN4-7577-2782-8
C9476 ¥838E
1929476008381